博　多134

－博多遺跡群第175次調査の報告－

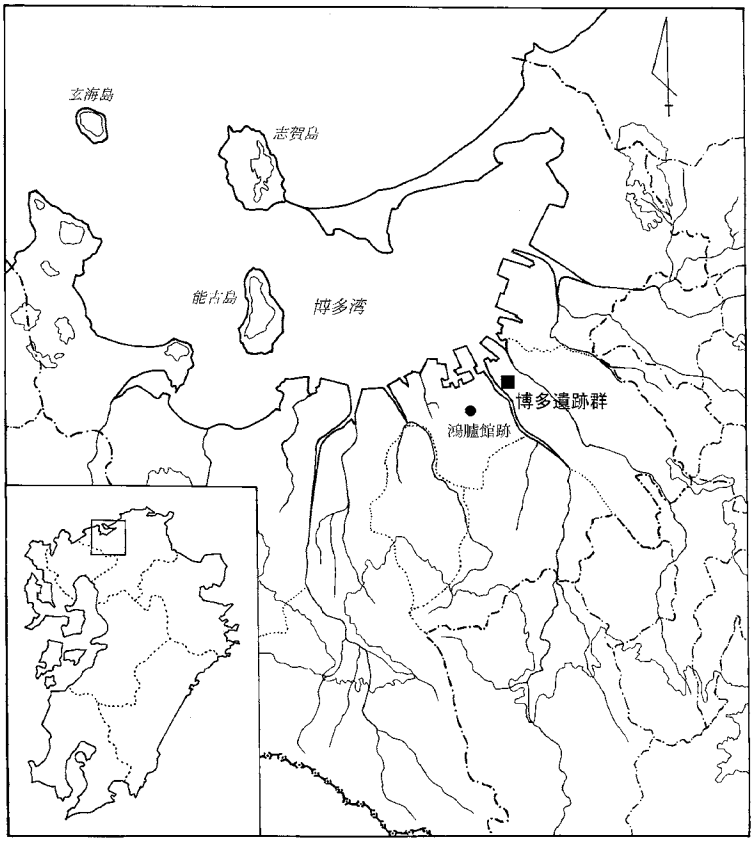
福岡市埋蔵文化財調査報告書第1065集

2009

福岡市教育委員会

博　多134

－博多遺跡群第175次調査の報告－
福岡市埋蔵文化財調査報告書第1065集



遺跡略号　HKT175
調査番号　0714

2009

福岡市教育委員会

博多遺跡群遠景(南上空から)

175次調査区調査前現況(南から)

1区3面完掘状況(北から)

2区 SX1574遺物出土
状況及び白磁椀

2区 SX1613遺物出土
状況及び青磁椀

序

福岡市はその地理的な特性から、大陸からの文化流入の門戸として役割を担い発展してきました。特に奈良時代から平安時代には、古代の迎賓館である「鴻臚館」が置かれ、中国や朝鮮半島の各王朝との対外交渉や、文化的交流、さらには貿易の舞台となり、後の博多繁栄の基礎がつくられます。

福岡市には、こうしたわが国の歴史の歩みや文化的な発展を跡づけることができる重要な歴史的遺産が数多く残っています。しかしながら、博多を中心とした近年の都市再開発により、その一部が失われつつあるのも事実です。福岡市教育委員会では、各種の開発事業に伴いやむを得ず失われていく埋蔵文化財について事前に発掘調査を行い、記録保存に努めています。

本書は、平成19年度から20年度にかけて実施した、ホテル建設に伴う博多遺跡群175次調査の成果を報告するものです。調査では古墳時代の集落跡や平安時代から鎌倉時代初め頃の建物跡や井戸跡等の他、江戸時代における博多の町並みのようすを知ることができ、博多が都市として発展していく過程を考える上で貴重な成果を得ることができました。

本書が文化財保護への理解と認識を深める一助となり、また、研究資料として活用いただければ幸いです。

なお、発掘調査から本書の刊行にいたるまで、九州総合建設株式会社をはじめとする関係者の皆様には、深いご理解と厚いご協力を賜りました。記して感謝の意を表します。

平成21年8月31日

福岡市教育委員会
教育長　山田裕嗣

例　言

1．本書は、平成19･20年度に実施した博多遺跡群第175次調査発掘調査報告書である。

2．本書で用いた地図は、図1が国土地理院発行の2万5千分の1地形図「福岡」、図2が福岡市都市計画図 NO60･61・71・72である。

3．本書での方位は平面直角座標系第Ⅱ座標系（日本測地系）によっており、磁北は真北方位から6°40′西に偏する。なお、座標値は平成4年度当時の値でありその後の補正は行っていない。

4，遺構番号は確認順に0001～1789までの通し番号を付し、遺構の性格毎に以下の遺構略号を用いた。

ＳＡ；柵列　ＳＢ；建物・基礎地業　ＳＣ；竪穴住居跡

ＳＤ；溝又は堀状遺構　ＳＥ；井戸　ＳＧ；下水槽・便槽遺構(桝と表記している)

ＳＫ；土壙又は木棺墓　ＳＰ；小竪穴又は柱穴

ＳＸ；竪穴(廃棄用又は性格不明)

5．本書の掲載図は写真・実測図にかかわりなく、また、遺物についてもすべて通し番号を付した。

遺物実測図は基本的には縮尺1/3としたが、瓦や大甕などについては1/4としている。銅銭やガラス製品等の小遺物については縮尺1/2とした。

6．遺構実測図は基本的には縮尺1/40とし、遺物出土状況図は1/30、竪穴住居跡・建物関係遺構・井戸は縮尺1/50とした。

7．陶磁器・土師器の分類および時期比定には以下の文献を参照した。

山本信夫2000『大宰府条坊跡XV－陶磁器分類編－』（太宰府市教育委員会）

九州近世陶磁学会編2000『九州陶磁の編年一九州近世陶磁学会10周年記念－』（九州近世陶磁学会）

横田賀次郎・森田勉1978「大宰府出土の輸入中国陶磁器について『九州歴史資料館研究論集』4(九州歴史資料館）

8．本書は、田中壽夫が執筆・編集した。

9．本書の作成にあたって遺物実測作業については田中克子、林田憲三、板倉佳代子、常松幹雄、中村啓太郎、トレース作業については以上の各氏の他、米倉秀紀、小林義彦、今井隆博、板倉有大各氏の協力を得た。

10．発掘調査に係る遺物･記録類のすべては、福岡市埋蔵文化財センターに収蔵されている。

遺跡名	次数	調査番号	遺跡略号	調査地	調査面積	調査期間
博多遺跡群	175	0714	HKT-175	福岡市博多区祇園76-4	941㎡	2007.6.1～2008.4.18

本　文　目　次

第１章　序説 …… 1
１．調査に至る経緯 …… 1
２．調査の組織 …… 1
３．遺跡の位置と環境 …… 2
（1）立地 …… 2
（2）歴史的環境 …… 3
（3）175 次調査地点周辺の調査 …… 4
第２章　調査の記録 …… 6
１．調査概要 …… 6
（1）調査の方法と経過 …… 6
（2）各区の概要 …… 7
（3）遺構・遺物の概要 …… 9
２．近世の遺構と遺物 …… 10
３．中世～古代の遺構と遺物 …… 48
４．古代の遺構と遺物 …… 132
５．古墳時代の遺構と遺物 …… 139
第３章　結語 …… 165

挿　図　目　次

図１ 博多遺跡群と周辺の遺跡（1/30000）…… 2
図２ 175次調査地点とその周辺（1/4000）…… 4
図３ 調査前現況（南から）…… 6
図４ 175次調査区配置図（1/600）…… 6
図５ １区１面完掘状況（西から）…… 7
図６ １区２面完掘状況（北から）…… 7
図７ １区３・４面完掘状況（西から）…… 7
図８ ２区１面完掘状況（西から）…… 7
図９ ２区２面完掘状況（西から）…… 7
図10 ２区３面完掘状況（南から）…… 8
図11 ３区１面完掘状況（北から）…… 8
図12 ３区2面完掘状況（南から）…… 8
図13 ３区３面完掘状況（南から）…… 8
図14 ３区４面完掘状況（南から）…… 8
図15 ４区２～４相当面完掘状況（東から）…… 9
図16 １区と第27次調査区の位置関係（北から）…… 9
図17 第27次３～４相当面全景（北から）…… 9
図18 １区２面北東側井戸群検出状況（南から）…… 10
図19 ２区 SD0387（南から）…… 10
図20 ２区南側遺構分布部分拡大（南から）…… 10
図21 近世遺構分布状況略図（1/250）…… 11
図22 SE0002・0054掘下げ状況（南から）…… 12
図23 SE0002・0006・0054・0327平面及び断面図（1/50）…… 12
図24 SE0054出土遺物実測図（1/3）…… 13
図25 SE0054完掘状況（南から）…… 13
図26 SE0058・0122井筒完掘状況（北西から）…… 13
図27 SE0370完掘状況（西から）…… 13
図28 SE0002出土遺物実測図（1/3・1/4）…… 14
図29 SE0058・0122・0363・0370平面及び断面図（1/50）…… 15
図30 SE0058出土遺物実測図（1/3）…… 16
図31 SE0064・0122・0363出土遺物実測図（1/3・1/4）…… 17
図32 SE0091・0186・0227・0367・1506平面及び断面図（1/50） 18
図33 SE0186完掘状況（北西から）…… 19
図34 SE0186出土遺物実測図（1/3・1/4）…… 19
図35 SE0091井筒・遺物出土状況（北東から）…… 20
図36 SE0367（東から）…… 20
図37 SE0227（西から）…… 20
図38 SE0227・SE0367出土遺物実測図（1/3）…… 20
図39 SE0252平面及び断面図（1/50）…… 21
図40 SE0252出土遺物実測図（1/3）…… 21
図41 SE0368・0611平面及び断面図（1/50）…… 22
図42 SE0368出土遺物実測図（1/3）…… 23
図43 SE0368井筒（北から）…… 23
図44 SE0611（西から）…… 23
図45 SE0187（西から）…… 24
図46 １面 SE0373（北から）…… 24
図47 SE0373・0575・1457・1541平面及び断面図（1/50）…… 25
図48 SE0575・0611・1455・1457出土遺物実測図（1/3・1/4）… 26
図49 SE1543完掘状況（南東から）…… 27
図50 SE1543・1590平面及び断面図（1/50）…… 27
図51 SE1458出土遺物実測図（1/3・1/4）…… 28
図52 SE1458井筒（南西から）…… 28
図53 SE1458・1503・1623, SX1670平面及び断面図（1/50）…… 29
図54 SE1543出土遺物実測図（1/3）…… 30
図55 SE1623（1475）井筒検出（南から）…… 30
図56 SE1503・1538・1590・1623出土遺物実測図（1/3）…… 30
図57 SG0023, SX0029・0038・0059・0107平面及び断面図（1/40） 31
図58 SX0039・0104平面及び断面図（1/40）…… 32
図59 SX0029・0038・0039・0059・0104出土遺物実測図（1/3）… 33
図60 SX0123完掘状況（北から）…… 34
図61 SX0123・0243・0372・0374・0518平面及び断面図（1/40）…… 34
図62 SX0811・1209・1477・1479・1489・1507平面及び断面図（1/40）…… 35

図 63 SX0123・0243・0518・1479出土遺物実測図(1/3・1/4) … 36
図 64 SX1477完掘状況(南から) … 37
図 65 SX1507完掘状況(東から) … 37
図 66 SG0361完掘状況(南から) … 37
図 67 SG0375完掘状況(西南から) … 37
図 68 SG0239・0361・0366・0375・0792・1463・1492平面及び断面図(1/40) … 38
図 69 SX0394・0396・SP0397平面及び断面図(1/40) … 39
図 70 SG0239出土遺物実測図(1/3) … 39
図 71 SG0365・1451・1509, SX0821・0824平面及び断面図(1/40) … 40
図 72 SG0365完掘状況・遺物出土状況(南から) … 41
図 73 SX0821・0824完掘状況(北西から) … 41
図 74 SG1509完掘状況(東から) … 41
図 75 SG1510完掘状況(西から) … 41
図 76 SG1510平面及び断面図(1/40) … 41
図 77 SX0361・0365・0366・0792・0824・1451出土遺物実測図(1/3) … 42
図 78 その他の遺物(SE0001・SX0027・0031・0065・0106・0128出土)実測図(1/3・1/4) … 43
図 79 中世～古代遺構分布状況略図(1/250) … 49
図 80 SB0388完掘状況(南から) … 50
図 81 SB0388平面及び断面図(1/50) … 50
図 82 SD0037掘り下げ状況(北東から) … 51
図 83 SD0037西壁土層断面 … 51
図 84 SD0037土層断面(東から) … 51
図 85 SD0037土層断面(東から) … 51
図 86 SD0037平面及び断面図(1/80) … 51
図 87 SD0037・SE0299出土遺物実測図(1/3) … 52
図 88 SD0042完掘状況(東から) … 52
図 89 SD0042平面及び断面図(1/40) … 52
図 90 SD0042出土遺物実測図(1/3) … 52
図 91 SD1563出土遺物実測図(1/3・1/4) … 53
図 92 SE0100井筒出土状況(南西から) … 53
図 93 SE0110井筒検出状況(西から) … 53
図 94 SE0116井筒検出状況(西から) … 53
図 95 SE0299完掘状況(北東から) … 53
図 96 SE0100・0102・0110・0116・0299平面及び断面図(1/50) 54
図 97 SE1210完掘状況(北から) … 55
図 98 SE1212完掘状況(東から) … 55
図 99 SE1215井筒検出状況(北東から) … 55
図100 SE1215井筒掘り下げ状況(西から) … 55
図101 SE1210・1212・1215平面及び断面図(1/50) … 56
図102 SD0042, SE0100・0102・0902・0957・1028・1215出土遺物実測図(1/3・1/4) … 57
図103 SX0902遺物出土状況(南から) … 58
図104 SE1540完掘状況(西から) … 58
図105 SE1540出土遺物実測図(1/3) … 58
図106 SX0162・0073完掘状況(西から) … 59
図107 SX0043-2・0060・0073・0095・0118・0323平面及び断面図(1/40) … 59
図108 SX0390・0391・0505・0559・0920・1027・1207・1239・1240平面及び断面図(1/40) … 60
図109 SX0390・0391・0505出土遺物実測図(1/3・1/4) … 61
図110 SX0904・0912・0920出土遺物実測図(1/3・1/4) … 62
図111 SX0920出土遺物実測図(1/3) … 63
図112 SX1027・1218出土遺物実測図(1/3) … 63
図113 SD1482出土遺物実測図(1/3・1/4) … 64
図114 SE0064・0126・0270完掘状況(西から) … 65
図115 SE0064・SX0099・SE0126平面及び断面図(1/50) … 65
図116 SE0126出土遺物実測図(1/3・1/4) … 66
図117 SE0244井筒検出状況(南から) … 67
図118 SE0244井筒完掘状況(西から) … 67
図119 SE0186・0244・0301・0256・0058・0061・0227分布状況(西から) … 67
図120 SE0244・0256・0270・0301平面及び断面図(1/50) … 68
図121 SE0244出土遺物実測図(1/3・1/4) … 69
図122 SE0256・0270・0301出土遺物実測図(1/3) … 70
図123 SE0370出土遺物実測図(1/3) … 71
図124 SE0911・0919, SX0389・0913平面及び断面図(1/50) … 72
図125 SE0911・0919土層断面(西から) … 73
図126 SE0911・0919中層炭化藁灰層出土状況(東から) … 73
図127 SX0913完掘状況(東から) … 73
図128 SE0911出土遺物実測図(1/3) … 74
図129 SX0913出土遺物実測図(1/3) … 75
図130 SE0919出土遺物実測図(1/3) … 75
図131 SE1224完掘状況(南から) … 76
図132 SE0378・1224・1694・1695平面及び断面図(1/50) … 76
図133 SE0378・0910出土遺物実測図(1/3) … 77
図134 SX1221出土遺物実測図(1/3・1/4) … 78
図135 SE1224・1694出土遺物実測図(1/3) … 79
図136 SX0136・0145・0162・0171・0218・0257・0264・0266・0307平面及び断面図(1/40) … 80
図137 SX0136完掘状況(北西から) … 80
図138 SX0264完掘状況(南西から) … 80
図139 SX0309・0369・0398・0462・0464・0489・0742平面及び断面図(1/40) … 81
図140 SX0028・0101・0124・0154・0187・0257・0266出土遺物実測図(1/3) … 82
図141 SX0369・0389出土遺物実測図(1/3) … 83
図142 SX0574・0576・0596・0690・0799・0800・0807・0828・0891平面及び断面図(1/40) … 84
図143 SX0574・0689・0690・0702・0706出土遺物実測図(1/3・1/4) … 85
図144 SX0742・0799・0800出土遺物実測図(1/3) … 86
図145 SX0932平面及び断面図(1/30) … 87
図146 SX0932(焼土壙)土層断面(東から) … 87
図147 SX0932完掘状況(西から) … 87
図148 SX0932完掘状況(北から) … 87
図149 SX0932遺物出土状況(北から) … 87
図150 SX0932出土遺物実測図(1/3) … 88
図151 SX1008・1060・1067・1074・1075・1078・1100・1136・1145平面及び断面図(1/40) … 89
図152 SX1008・1060・1067・1074・1075・1078出土遺物実測図(1/3) … 90
図153 SX1100・1136・1145出土遺物実測図(1/3) … 91
図154 SX1228完掘状況(南西から) … 91
図155 SX1229完掘状況(北西から) … 91
図156 SX1232完掘状況(西から) … 92
図157 SX1157・1226-1229・1231・1232・1242・1303-1305・1314・1394平面及び断面図(1/40) … 92
図158 SX1422・1424・1513・1652・1704・1705平面及び断面図(1/40) … 93
図159 SX1720・1721(北東から) … 94
図160 SX1720・1721平面及び断面図(1/40) … 94
図161 SX1730・1770平面及び断面図(1/40) … 94
図162 SX1228・1231・1424・1516・1704・1705・1720・1721出土遺物実測図(1/3) … 95
図163 SE1483完掘状況(南から) … 96
図164 SE1494井筒検出状況(南東から) … 96
図165 SE1483・1494平面及び断面図(1/50) … 96
図166 SE1621平面及び断面図(1/50) … 97
図167 SE1621井側・井筒検出状況(南から) … 97
図168 SE1621方形井側完掘状況(北東から) … 97
図169 SE1494・1621出土遺物実測図(1/3) … 97
図170 SE1653方形井側(南西から) … 98
図171 SE1669方形井側完掘状況(南から) … 98
図172 SE1669完掘状況(南から) … 98
図173 SX0125・0638・0711平面及び断面図(1/40) … 98
図174 SX0125・0638・0711出土遺物実測図(1/3) … 99

図175 SX0599・0600・1187・1216・1222・1223・1234・1245・1389平面及び断面図(1/40) …… 100
図176 SX0599・0600・1187・1222・1223・1227出土遺物実測図(1/3) …… 102
図177 SB1241床面掘り下げ状況(南から) …… 103
図178 SB1241検出状況(北から) …… 103
図179 SB1241平面及び断面図(1/50) …… 103
図180 SB1241出土遺物実測図(1/3) …… 104
図181 SE0306完掘状況(北から) …… 105
図182 SE0306・1219平面及び断面図(1/50) …… 105
図183 SE0306・1219出土遺物実測図(1/3) …… 106
図184 SE1297・1456平面及び断面図(1/50) …… 107
図185 SE1456完掘状況(南から) …… 107
図186 SE1297出土遺物実測図(1/3) …… 108
図187 SE0370・1297完掘状況(西から) …… 108
図188 SE1456出土遺物実測図(1/3) …… 108
図189 SE1622・1669出土遺物実測図(1/3) …… 109
図190 SE1541出土遺物実測図(1/3) …… 109
図191 SE1776・1777出土遺物実測図(1/3) …… 110
図192 SE1776・1777・1789平面及び断面図(1/50) …… 110
図193 SX0310・0311・0507・1005・1026・1301・1320・1410・1413・1438・1439・1450平面及び断面図(1/40) …… 111
図194 SX1026完掘状況 …… 112
図195 SX0782完掘状況(東から) …… 113
図196 0782遺物出土状況 …… 113
図197 SX0782平面及び断面図(1/30) …… 113
図198 SX0782出土遺物実測図(1/3) …… 114
図199 SX1544遺物出土状況(北北西から) …… 115
図200 SX1544遺物出土状況(西南西から) …… 115
図201 SX1544平面及び土層断面図(1/30) …… 115
図202 SX1544出土遺物実測図(1/3) …… 116
図203 SX1005出土遺物実測図(1/3・1/4) …… 117
図204 SX1232・1301・1320出土遺物実測図(1/3) …… 118
図205 SX1393・1413出土遺物実測図(1/3) …… 119
図206 SX1778完掘(南西から) …… 119
図207 SX1550・1642・1703・1709・1760・1762・1778平面及び断面図(1/40) …… 120
図208 SX1550・1584・1642出土遺物実測図(1/3・1/4) …… 121
図209 SX1584遺物出土状況(北西から) …… 122
図210 SX1584遺物出土状況平面及び断面図(1/30) …… 122
図211 SX1584出土遺物実測図(1/10) …… 122
図212 その他の遺物(SX0254・1002・1010・1061)出土遺物実測図(1/3) …… 123
図213 出土銅銭拓影図(2/3) …… 124
図214 0043完掘状況(南東から) …… 132
図215 SX1398完掘状況(西から) …… 132
図216 SX1401遺物出土状況(南から) …… 132
図217 古代遺構分布状況略図(1/250) …… 133
図218 SX0043・1401出土遺物実測図(1/3) …… 134
図219 SX0043・0043-2・1392・1396・1398・1693平面及び断面図(1/40) …… 134
図220 SX0289・0326・0603・1392出土遺物実測図(1/3) …… 135
図221 SP1401・SX1403・1763・1767・1768平面及び断面図(1/30・1/40) …… 136
図222 SX0794・1402出土遺物実測図(1/3・1/4) …… 137
図223 SX1414出土遺物実測図(1/5) …… 138
図224 北側竪穴住居群(南から) …… 139
図225 SD1213完掘状況(南東から) …… 139
図226 SC0305完掘状況(西南から) …… 139
図227 SC0335・0352完掘状況(北から) …… 139
図228 古墳時代遺構分布状況略図(1/250) …… 140
図229 SC0305・0335・0352平面及び断面図(1/50) …… 141
図230 SC0354平面及び断面図(1/50) …… 142
図231 SC0354完掘状況(西から) …… 142
図232 SC0305出土遺物実測図(1/3) …… 142
図233 SC1400土層断面・遺物出土状況(西から) …… 143
図234 SC1400平面及び土層断面図(1/50) …… 143
図235 SC1400出土遺物実測図1(1/3) …… 144
図236 SC1400出土遺物実測図2(1/3) …… 145
図237 SC1400出土遺物実測図3(1/3) …… 146
図238 SC1416土層断面(南東から) …… 146
図239 SC1416・1432完掘状況(西から) …… 146
図240 SC1416完掘状況(南から) …… 146
図241 SC1416平面及び断面図(1/50) …… 147
図242 SC1416出土遺物実測図1(1/3) …… 148
図243 SC1416出土遺物実測図2(1/3) …… 149
図244 SC1416出土遺物実測図3(1/3) …… 150
図245 SC1425完掘状況(南西から) …… 151
図246 SC1425・1432・1761・1773・1774・SX1770平面及び断面図(1/50) …… 151
図247 SX1428・SC1425・1430・1432出土遺物実測図(1/3) …… 152
図248 SC1761(南西から) …… 153
図249 SC1773(北西から) …… 153
図250 SC1761・SX1770出土遺物実測図(1/3) …… 153
図251 SC1773出土遺物実測図(1/3) …… 154
図252 SC1774出土遺物実測図(1/3) …… 155
図253 SC1781・1782・1786完掘状況(西から) …… 156
図254 SC1781完掘状況(南から) …… 156
図255 SC1781・1782・1786平面及び断面図(1/50) …… 156
図256 SC1781出土遺物実測図(1/3) …… 157
図257 SC1782・1783・1786出土遺物実測図(1/3) …… 158
図258 SD1779完掘状況(南から) …… 158
図259 SD1779出土遺物実測図(1/3) …… 159
図260 SC1790完掘状況(南から) …… 160
図261 SC1790・SD1779平面及び断面図(1/50) …… 160
図262 SC1790出土遺物実測図(1/3) …… 161
図263 高麗青磁梅瓶復元図(1/4) …… 166
図264 第1面遺構分布図(1/150) …… 折り込み1
図265 第2面遺構分布図(1/150) …… 折り込み2
図266 第3面遺構分布図(1/150) …… 折り込み3
図267 第4面遺構分布図(1/150) …… 折り込み4
図268 東西壁土層断面図(1/100) …… 折り込み5
図269 SD0037・SD1462平面及び断面図 …… 折り込み6

表目次

表1 175次周辺調査一覧 …… 5
表2 時期別遺構数 …… 9
表3 近世出土遺物観察表 …… 44
表4 出土銅銭一覧 …… 124
表5 中世出土遺物観察表 …… 125
表6 古墳時代出土遺物観察表 …… 162

第１章　序説

１．調査に至る経緯

九州総合建設株式会社によって、博多区祇園76番4地内（敷地面積1688.62㎡）においてビジネスホテル建設が計画され、平成19年２月２日付けで本市教育委員会埋蔵文化財第１課に対して埋蔵文化財の有無に係る照会がなされた（審査受付番号18-2-934）。埋蔵文化財第１課では、申請地は博多遺跡群として周知されている地域に含まれており、周辺の調査や平成11年度に実施した当該地における試掘調査（11-2-731）の結果から見て、古墳～室町時代までの遺構が計画地全体に存在する可能性が高いために、建設工事により影響が及ぶ範囲については何らかの保存措置が必要であると判断した。九州総合建設株式会社との間で当該地の埋蔵文化財に係る保存協議を行った結果、現状保存が困難なホテル本体（工事に伴う掘削面積983.6㎡）および立体駐車場（同じく82.2㎡）建設の範囲については、やむなく記録保存のための発掘調査を行うこととした。なお、立体駐車場建設地点については昭和62年度に調査を一部実施していることから（第27次調査）、終了範囲については調査対象外とした。調査にあたっては九州総合建設株式会社が調査委託者、教育委員会が受託者となり、委託者による表土鋤取り工事等の条件整備を行った後に、平成19年6月1日から調査に着手する運びとなった。

２．調査の組織

発掘調査および整理・報告書作成は以下の体制で実施した。

調査委託者	九州総合建設株式会社	
調査主体	福岡市教育委員会	
調査総括	埋蔵文化財第１課長	山口譲治（19･20年度）
		濱石哲也（21年度）
	調査係長	米倉秀紀（19～21年度）
事前審査	事前審査係長	吉留英敏（19～20年度）
	文化財主事	上角智希・本田浩二郎（18･19年度）
	文化財主事	蔵富士寛（20･21年度）
調査担当	埋蔵文化財第２課	田中壽夫
庶務	文化財管理課管理係	鈴木由喜（19年度）
		古賀とも子（20年度）
		山本朋子（21年度）
調査・整理補助	藤野雅基　坂口剛毅　大塚俊二郎　篠原明美　伊藤晴美　手嶋純子　宮本典子	
調査作業	野田順二　竹原吉秋　西川吾郎　波賀久雄　井上澄敏　安藤建典　西拓巳 中嶋規玖生　中山洋治朗　徳永洋二郎　土橋一則　古閑逸郎　福永修次　杉村文子 谷　吉美 吉岡員代　高手興志子　兼田ミヤ子　中野容子　伊藤美知子 保坂由美子　花田昌代 井上ヨシ子　古城恭子　松村和枝　坂口寿美子　山下直美 山下美枝子　渡辺律子	

なお、調査の実施から整理、報告書刊行まで、九州総合建設株式会社を始めとして関係者の皆様には多大の理解と協力を頂きました。記して感謝の意を表します。

3．遺跡の位置と環境

(1) 立地

博多遺跡群は、博多湾沿岸のほぼ中央に流入する那珂川と御笠川の河口部に形成された古砂丘上に立地する。遺跡群の範囲は南北に約1.5km、東西に約1.0kmの範囲が想定されており。弥生時代から近現代まで続く複合遺跡である（図１）。

遺跡群が立地する古砂丘は、大きく三列から成る。砂丘列は、内陸側から砂丘列Ⅰ（砂丘1）、砂丘列Ⅱ（砂丘2）、砂丘列Ⅲ（砂丘3）と仮称され、内陸側の砂丘1･2は現在の祇園町と呉服町交差点にかかる位置で海側の砂丘3は奈良屋町一帯に相当し、中世においては内陸部を「博多濱」、「息ノ濱（沖ノ濱）」と呼んでいた。ちなみに現状における標高ピークは砂丘１相当地点が6.3m、砂丘２が5.1m、砂丘３が3.2mである。現在は一見平坦であるが、本来は起伏ある砂丘列やその間に形成された小規模な谷間や緩やかな斜面などの微地形を織り込んだ地形であったと考えられる。遺構分布の傾向をみると弥生時代から古代の遺構は博多濱域にほぼ限られる。息浜域は古代の遺構がわずかにみられるものの、中世以降になって土地利用は本格化する。これは砂丘形成あるいは陸化の時期差、都市域拡大の歴史的背景など、いくつかの要因によるものである。

175次調査区の北側に接して、東西に延びる国体道路の中央ラインが概ね砂丘１の尾根筋の方向と考えられることから、本調査区は博多浜南西側の砂丘ピークから南側へ展開する緩斜面上の一角に位置する地点であるといえる。現況地表は標高6.0～6.2mを測る。

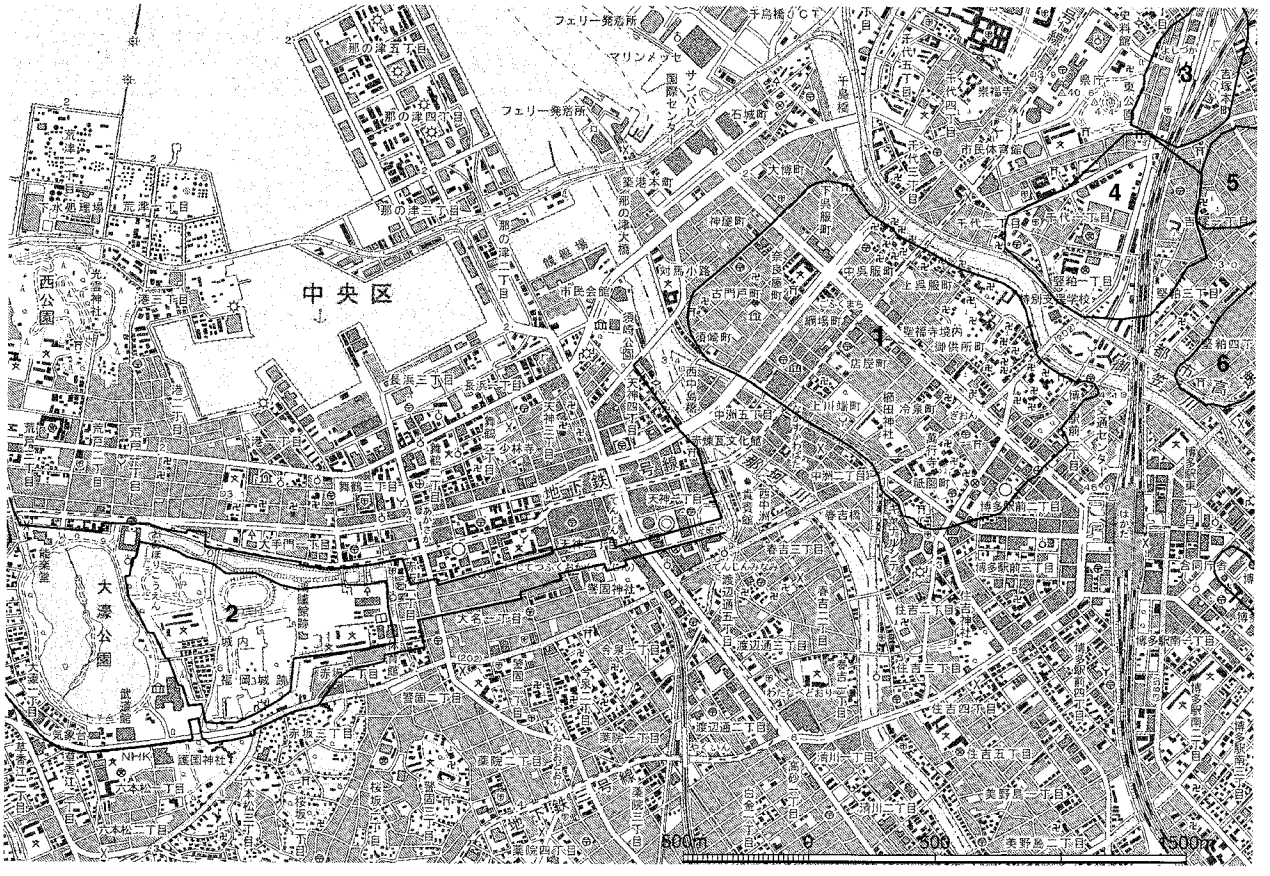


図1 博多遺跡群と周辺の遺跡(1/30000)
1:博多遺跡群 2:福岡城跡･鴻臚館跡 3:吉塚本町遺跡 4:堅粕遺跡 5:吉塚祝町遺跡 6:吉塚遺跡

(2) 歴史的環境

博多遺跡群は、砂丘１のピーク周辺における弥生時代前期の墓地や集落の形成から始まる。弥生時代中期には、砂丘１の各所に集落や墓地が広がるようになり、列埋葬が想定される甕棺墓地が形成されるなど定着化が進み、一定規模の集落の存在が考えられる。中期末頃には朝鮮半島南部沿岸の勒島式土器も出土しており、対外的交易の拠点としての萌芽を看取することができる。博多遺跡群の第１の画期と考えられる弥生時代後期後半になると瀬戸内系、山陰系、東海系などの土器が出土するようになり、終末期以降にその傾向は継続する。また、山陰系の玉作関係遺物が出土しているなど、広範な地域からの搬入遺物の存在は、博多遺跡群の特性を象徴するものである。弥生時代終末期から古墳時代になると砂丘１と砂丘２南側に遺構が広がり、遺構密度も高くなる。この傾向は特に古墳時代初頭～前期前半がピークになる。この時期には、朝鮮半島をはじめ、山陰、西部瀬戸内、吉備、讃岐、播磨、畿内、東海など各地の土器が出土する。また、砂丘1南半には、古墳時代初頭～前期中頃の鍛冶関係遺物が多く出土していることから鍛冶工房が存在したとみられる。なお、砂丘１・２には前期前半を主とする方形周溝墓も確認されているが、墓域としてその範囲を確定するまでには至っていない。

古墳時代になると前期後半から中期における遺構・遺物は少ない傾向がある。中期前半に比定されている博多1号墳（前方後円墳）は全長56m 以上の規模である。この他、中期後半の博多２号墳（前方後円墳　墳長推定約30m）がある。33次出土の円筒埴輪や171次出土の人物埴輪などからみて、博多１号墳が占地する砂丘１の西側へ延びる尾根上に前方後円墳を主とする古墳群の存在が考えられる。

博多遺跡群の質的な第２の画期は、古墳時代終末期以降である。国内唯一の高句麗土器や、この時期に遡る飛鳥・難波系の土師器も出土しており注目され、当時の対外的な政治的背景を考慮すると質的な転換期にあたっている。

奈良時代以降には、現在の祇園町交差点を中心とする砂丘1の中央から西部に、一町四方規模の官衙施設が造営されたと考えられている。施設の内部には大型柱穴を有する掘立柱建物や、越州窯系青磁や緑釉陶器、長沙窯水注、イスラム陶器、袴帯などの遺物も出土している。その他「長官」「佐」といった官職を示す墨書土器も周辺から出土しており、祇園町から冷泉町一帯に官衙関連施設が存在していた可能性は高く、7世紀後半～末に成立した筑紫館（後の鴻臚館）との関連性が高い。

博多遺跡群の第３の画期は鴻臚館が放棄される11世紀半ば以降である。対外貿易の拠点としての博多の発展は、博多濱部における11世紀後半以降に比定される中国産白磁の大量出土や各種遺構の増加によって窺われる。12世紀前半には「博多津唐房」とも呼ばれたように唐商人も居住するようになる。また、禅宗を中心とした新たな仏教文化流入の門戸ともなり、博多遺跡群は中世的社会・経済成立をいわゆる「中世の博多」という都市化で具現することとなる。一方息ノ濱部での都市化はやや遅れ鎌倉時代以降である。13世絶後半には元寇により博多は大きな打撃を被り、息ノ浜の北縁にあたる海浜上に石築地（元冠防塁）が築造され、その一部と見なされる石塁が発掘によって確認されている。後に鎌倉幕府によって鎮西探題が置かれると、博多は大宰府に代わって西国の政治の中心地ともなった。鎮西探題の滅亡以降には、博多濱のうち特に祇園町周辺では当該期の遺構遺物の出土が少なくなる傾向があり都市の発展の中心は息ノ濱に移ったことが考えられる。

室町時代になると1293年（永仁元年）に九州探題が置かれ李氏朝鮮との外交や幕府の日明貿易（勘合貿易）開始などにも関係するが、室町幕府の政治的権力の衰退化とともに博多の権益をめぐって、小弐氏、大友氏、大内氏らによって争われ、そのたびに博多は戦火を被る。特に戦国時代末期の天正14（1586）島津氏の焼き討ちによって博多は灰燼に帰してしまう。博多はその後豊臣秀吉によって現在の町並みの基礎となる「太閤町割り」が施工され箱崎とともに朝鮮出兵の兵站基地として復興されるが、

江戸時代初期の鎖国令によって、対外交渉の窓口として長い歴史を誇っていた博多はその役割を長崎の出島にとって代わられることになる。

(3)175次調査地点周辺の調査

博多遺跡群の発掘調査は昭和52(1977) 年12月の地下鉄建設に伴う調査を始まりとして、平成20(2008) 年３月までに197地点の調査が行われている。今回調査した175次調査地点の周辺 (祇園町・冷泉町・博多駅前１丁目等の概ね博多浜と呼ばれていた地域) については76地点の調査が実施されている (表1)。

175次調査調査地点の北東側に位置する36次調査では、弥生時代中期甕棺墓、奈良時代の地鎮遺構や溝、中世鎌倉時代～室町時代の井戸や土壙等の調査が行われ、特に甕棺墓群については、北側に位置する４次・24次調査の成果も併せて考えると列埋葬の可能性が指摘されている。祇園交差点を中心とした築港線拡張に係る調査では、磁北軸を基軸とする一町四方の古代官衙域を想定する溝等の遺構が確認されている。南側に隣接する27次調査では、主として中世の井戸や土壙が調査されているが、かろうじて残った古墳時代の土壙中に多量の朱を入れた古式土師器が出土し、方形周溝墓等の存在が考えられている。南西部の170次調査では、中世の遺構の他、古墳時代前期の竪穴住居を一部確認し、集落の存在が予想されるとともに、住居跡を大きく削平する室町時代後期～戦国期の大溝を確認し、北東側へ約100m離れた33次調査検出の大溝 SD004との関連が注意されることとなった。175次調査とほぼ同時期に開始された172次調査では、鎮西探題に関わる遺物の出土を始めとして、中世後期における区画溝が確認されている。このように当該地点周辺においては、博多遺跡群南西部における弥生時代から近世までの土地利用のあり方を知る上で重要な成果を上げているところである。

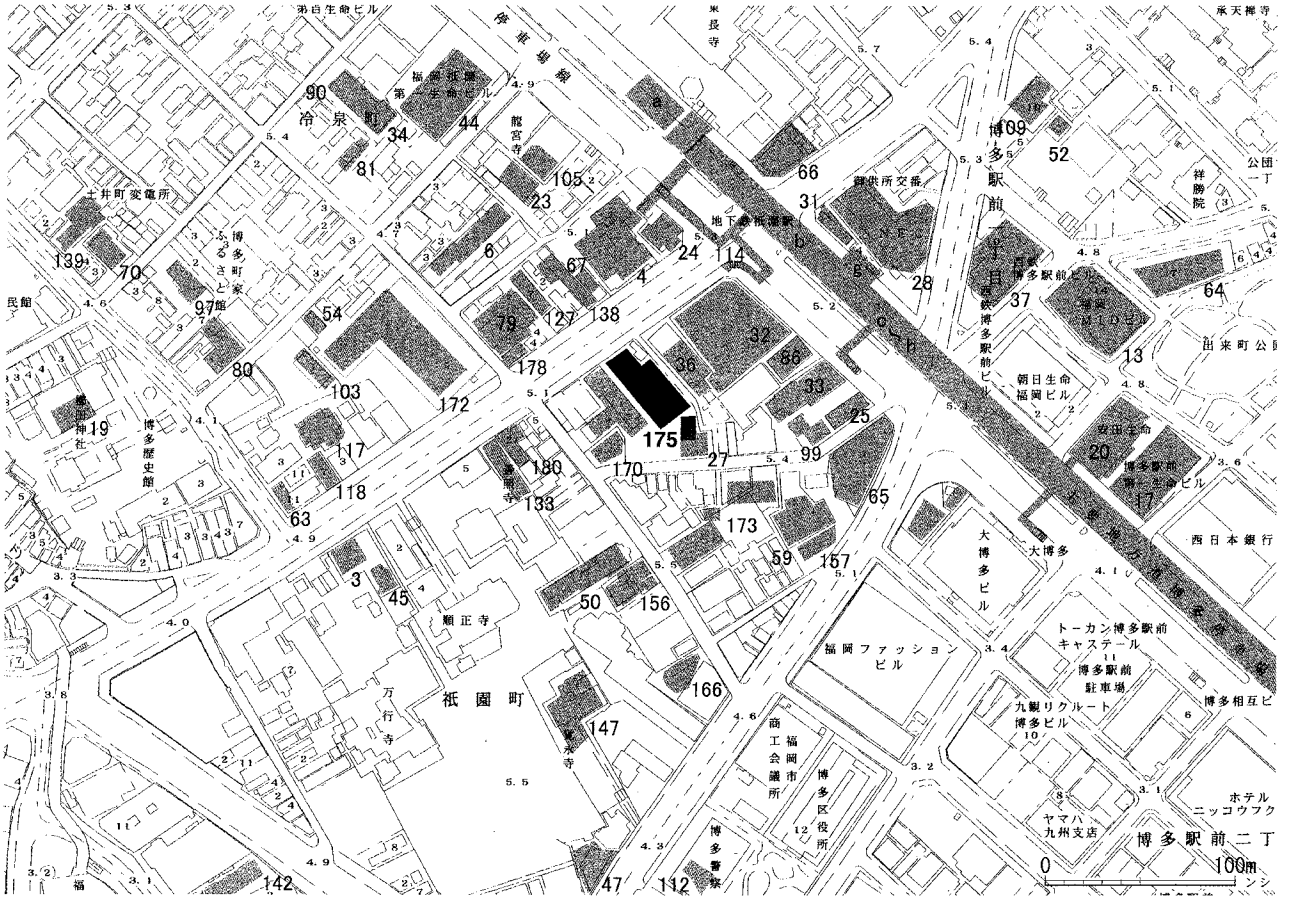


図2 175次調査地点とその周辺(1:4000)

(図中の番号は表1の調査次数と同一である)

表1　第175次周辺調査一覧

調査番号	略号	次数	地点	所在地	調査面積(㎡)	調査期間		報告書		備考
7725	HKT	a	店屋町工区	博多区　御供所町	1,412.0	昭和52年12月7日	昭和53年11月2日	105.126	集	
7833	HKT	b	祇園町工区	博多区　御供所町ほか	4,500.0	昭和54年3月	昭和54年12月20日	156.193	集	
7835	HKT	c	呉服町工区	博多区　店屋町ほか	200.0	昭和53年11月27日	昭和54年5月23日	193	集	
7949	HKT	d	駅前工区	博多区　博多駅前1丁目，2丁目	4,500.0	昭和54年12月	昭和55年8月	193	集	
7949	HKT	d	駅前工区	博多区　博多駅前1丁目，2丁目	4,500.0	昭和54年12月	昭和55年8月	193	集	
8038	HKT	f	祇園駅2･3号出入口	博多区　御供所町，冷泉町	435.0	昭和56年10月12日	昭和56年12月25日	105	集	
8148	HKT	g	祇園町工区4号出入口	博多区　御供所町	70.0	昭和56年9月1日	昭和56年9月18日	193	集	
8149	HKT	h	祇園町工区5号出入口	博多区　御供所町，祇園町	184.0	昭和56年10月12日	昭和56年12月6日	193	集	
8435	HKT	m	祇園町工区P2出入口	博多区　博多駅前1丁目他	215.0	昭和59年4月2日	昭和59年4月24日	193	集	
8435	HKT	m	祇園町工区P2出入口	博多区　博多駅前1丁目他	215.0	昭和59年4月2日	昭和59年4月24日	193	集	
7929	HKT	3		博多区　祇園町	240.0	昭和54年11月12日	昭和54年12月17日	515	集	
7930	HKT	4		博多区　冷泉町7-1	1,100.0	昭和54年12月	昭和55年8月	66.86	集	
7932	HKT	6		博多区　冷泉町155他	800.0	昭和55年3月	昭和55年4月	126	集	
8128	HKT	13		博多区　博多駅前1丁目121他	30.0	昭和56年7月17日	昭和56年7月18日	－	集	
8132	HKT	17		博多区　博多駅前1丁目98	910.0	昭和56年11月6日	昭和57年2月2日	118	集	
8323	HKT	19		博多区　冷泉町	200.0	昭和58年4月14日	昭和58年5月6日	－	集	
8324	HKT	20		博多区　博多駅前1丁目97	980.0	昭和58年3月19日	昭和58年7月16日	118	集	
8325	HKT	21		博多区　博多駅前2丁目181他	150.0	昭和58年5月7日	昭和58年6月20日	118	集	
8334	HKT	23		博多区　冷泉町178他	1,000.0	昭和59年2月1日	昭和59年2月28日	491	集	
8433	HKT	24		博多区　冷泉町1-1	250.0	昭和59年4月20日	昭和59年5月23日	119	集	
8434	HKT	25		博多区　祇園町1-1	100.0	昭和59年5月23日	昭和59年6月15日	120	集	
8507	HKT	27		博多区　祇園町1-11	350.0	昭和60年5月20日	昭和60年6月18日	146	集	
8508	HKT	28		博多区　御供所町70-2	1,800.0	昭和60年5月20日	昭和60年8月31日	147	集	
8606	HKT	31		博多区　御供所町65外	190.0	昭和61年5月26日	昭和61年7月10日	150	集	
8608	HKT	32		博多区　祇園町21-1	2,000.0	昭和61年5月15日	昭和61年7月11日	－	集	
8618	HKT	33		博多区　祇園町8外	776.0	昭和61年7月25日	昭和61年11月15日	176	集	
8645	HKT	34		博多区　冷泉町238-2外	150.0	昭和61年10月28日	昭和61年11月15日	－	集	
8725	HKT	36		博多区　祇園町42外	332.0	昭和62年8月5日	昭和62年10月15日	228･244	集	
8740	HKT	37		博多区　博多駅前1丁目129外	1,112.0	昭和62年12月4日	昭和63年3月31日	244	集	
8834	HKT	41		博多区　祇園町	60.0	昭和63年9月22日	昭和63年9月23日	－	集	
8857	HKT	44		博多区　冷泉町201-3	178.0	平成1年2月1日	平成1年3月31日	247	集	
8862	HKT	45		博多区　祇園町4-50	248.0	平成1年3月7日	平成1年6月22日	248	集	
8911	HKT	47		博多区　祇園町390-2･393	工事立会	平成1年4月25日	平成1年4月25日	－	集	
8918	HKT	50		博多区　祇園町317他	730.0	平成1年6月2日	平成1年10月14日	249	集	
8925	HKT	51		博多区　祇園町154-1-2	200.0	平成1年6月19日	平成1年7月15日	283	集	
8941	HKT	54		博多区　冷泉2丁目128-2	工事立会	平成1年7月10日	平成1年7月11日	－	集	
8943	HKT	56		博多区　店屋町4-1外	476.0	平成1年9月5日	平成2年2月3日	326	集	
8947	HKT	57		博多区　祇園町557	184.0	平成1年10月3日	平成1年10月5日	250	集	
8957	HKT	59		博多区　祇園町187-226	276.0	平成1年11月7日	平成2年2月24日	328	集	
8974	HKT	63		博多区　冷泉町90-3外	275.0	平成2年2月13日	平成2年4月20日	286	集	
8976	HKT	64		博多区　博多駅前1丁目101	620.0	平成2年2月26日	平成2年7月31日	396	集	
9017	HKT	65		博多区　祇園町161-1	1,100.0	平成2年7月3日	平成2年12月11日	329	集	
9022	HKT	66		博多区　御供所町129-1他	444.0	平成2年7月9日	平成2年9月29日	330	集	
9028	HKT	67		博多区　冷泉町1-6	210.0	平成2年8月7日	平成2年9月2日	284	集	
9062	HKT	70		博多区　冷泉町338･339･342	350.0	平成3年3月11日	平成3年5月31日	370	集	
9309	HKT	80		博多区　冷泉町304-1	854.0	平成5年5月20日	平成6年3月31日	448	集	
9436	HKT	86		博多区　祇園町13-16-17	479.0	平成6年8月24日	平成6年11月25日	526	集	
9519	HKT	90		博多区　冷泉216	476.0	平成7年6月15日	平成7年10月31日	557	集	
9603	HKT	97		博多区　冷泉町300-1･2	300.0	平成8年4月3日	平成8年7月25日	558	集	
9633	HKT	99		博多区　祇園町2番1	160.0	平成8年8月19日	平成8年10月21日	560	集	
9754	HKT	103		博多区　冷泉町2番	72.0	平成9年11月3日	平成9年2月28日	627	集	
9767	HKT	105		博多区　冷泉町4-20	221.0	平成10年1月23日	平成10年5月1日	628	集	
9845	HKT	112		博多区　博多駅前2丁目	50.0	平成10年11月11日	平成10年12月13日	632	集	
9911	HKT	114		博多区　祇園町1	50.0	平成11年4月26日	平成11年4月26日	－	集	
9919	HKT	117		博多区　冷泉町83他	365.0	平成11年6月7日	平成11年9月27日	667	集	
9927	HKT	118		博多区　冷泉町88-1	200.0	平成11年7月13日	平成11年9月30日	666	集	
0053	HKT	127		博多区　冷泉町41-1ほか	185.0	平成12年12月1日	平成13年2月9日	709	集	
0128	HKT	133		博多区　祇園町355・357	285.0	平成13年10月10日	平成13年12月26日	764	集	
0149	HKT	136		博多区　博多駅前2丁目184	52.0	平成14年1月17日	平成14年2月15日	765	集	
0220	HKT	138		博多区　冷泉町35･36･37	271.9	平成14年6月3日	平成14年8月23日	806	集	
0221	HKT	139		博多区　冷泉町527-1	410.0	平成14年6月7日	平成14年8月23日	807	集	
0332	HKT	142		博多区　祇園町583-4	163.4	平成15年7月28日	平成15年10月24日	848	集	
0426	HKT	147		博多区　祇園町4-9	588.6	平成16年6月4日	平成16年12月16日	892	集	
0551	HKT	156		博多区　祇園町313～316	296.0	平成17年11月22日	平成18年2月28日	945	集	
0560	HKT	157		博多区　祇園町183、184、185、227	230.0	平成18年1月10日	平成18年4月12日	－	集	
0646	HKT	166		博多区　祇園町279	237.9	平成18年9月26日	平成18年12月18日	－	集	
0657	HKT	169		博多区　祇園町313～316	36.3	平成18年12月4日	平成18年12月8日	年報21	集	
0669	HKT	170		博多区　祇園町76-2	185.0	平成19年2月13日	平成19年4月24日		集	
0670	HKT	171		博多区　祇園町566、585-1	511.0	平成19年2月19日	平成19年6月15日		集	
0705	HKT	172		博多区　冷泉町63番		平成19年4月20日	平成20年7月31日		集	
0708	HKT	173		博多区　祇園町2-21	645.0	平成19年5月11日	平成19年9月18日		集	
0714	**HKT**	**175**		**博多区　祇園町76番4**	**941.0**	**平成19年6月1日**	**平成20年4月18日**	**1065**	**集**	**今回報告**
0748	HKT	178		博多区　冷泉町46番地	65.0	平成19年10月15日	平成19年10月31日		集	
0754	HKT	180		博多区　祇園町343,346,348,349,350,351,354	134.8	平成19年12月10日	平成20年2月19日		集	

※この表は、博多175次周辺のみを抽出した。

第２章　調査の記録

１．調査概要

(1) 調査の方法と経過

調査期間

発掘調査は、平成19年６月１日から平成20年４月18日までの延べ213日にわたって実施した。

調査区の設定

ホテル建設はホテル本体部分が983.6㎡、立体駐車場部分が約82㎡について掘削する予定であったが、立体駐車場部分の内、第27次調査終了範囲56㎡については調査対象外とした。したがって調査対象面積は1010.0㎡となった。

調査にあたっては、36次調査や平成11年度の試掘調査結果をみて、標高4.6m～５mの面以下に遺構遺物が包含されていることが予想されたことと、調査に伴い大量の排出土が出ることが考えられたため、対象区を便宜上第１～４区に分け、第１区409㎡から着手することとした。以下、第２区は269㎡、第３区は238㎡、第４区は25㎡で、調査実施面積は941㎡である。

着手にあたっては、担当者立会の下で、九州総合建設株式会社による表土剥ぎとアスファルト除去や土砂搬出作業をまず行い、調査対象区全体を現地表面（標高６～6.4m）から－1.4mほどを掘り下げ標高4.6～4.8mの面を第１面とした。

調査基準杭の設定と座標

発掘調査区の基準軸は、調査区の主軸線に合わせ、10m方眼を設定した後、博多遺跡群のほぼ全域に平成４年度に設定した日本測地系座標に基づき座標測定を行った。調査区基点１・２の座標値はX1＝65,572.344、Y1＝-54,178.082、X2＝65,607.781、Y2＝-54,206.872である。

図3　調査前現況（南から）

図4 175次調査区配置図（1:600）

(2) 各区の概要

土層堆積の状況

本調査地点は、博多浜南西側の砂丘稜線中央から南側へ展開する緩斜面上の一角に位置する地点である。現況地表標高は概ね6.0～6.5m前後である。本地点の基本的な層序を単純化して述べると以下のとおりとなる。

基盤となるのは砂丘を形成する明黄白～黄褐色粗砂～細砂層である。その上部に褐色～暗褐色混砂弱粘質土が所々遺存している。後世の遺構によって消滅していない箇所では、層厚は20～30cmほどである。下層の基盤層との区分は明瞭でなく漸移的であり、また縞状の堆積状況を観察することができる。この層を切って古墳時代前期の竪穴住居等の遺構がみられる。古墳時代の遺構群の埋土は暗褐色～暗灰褐色混細砂弱粘質土である。奈良時代以降平安時代の遺構は、概ね暗灰色～黒灰褐色混砂弱粘質土である。調査区の北側（第２・３区北側）では、平安時代末以前のこれらの遺構を覆う状況で黄白色の粘質土を比較的多く含む暗灰～灰褐色の整地層が10～15cmの層厚で分布している。概ね遡って14世紀又は15世紀以降のものと思われる。この層を切って中世及び近世の遺構が遺構平面形の確認が困難なほど切り合って分布している。調査区南側では、整地層とほぼ同レベルから南側に向かって層厚を増しながら暗灰色～暗灰褐色混砂粘質土が堆積している。後述する大溝SD0037を完全に覆う形で分布しており、この層を切る形で中世の一部遺構及び近世の遺構が分布している。概ね標高約4.6mの面から上層は近代から現代にかけての盛り土である。

第１区

409㎡について調査を実施した。調査面は、第１面から第３面を設定し、明らかに遺構が無いと判断された部分を除いて、第４面を設定し掘り下げた。第１面は標高4.4～4.6m、第２面は4.2m、第３面は3.8～4.0m、第４面は概ね3.5m

図5　1区1面完掘状況(西から)

図6　1区2面完掘状況(北から)

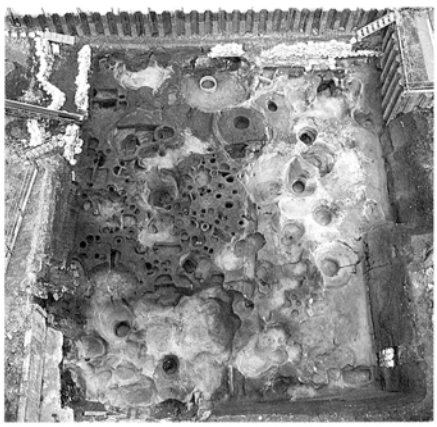


図7　1区3・4面完掘状況(西から)

図8　2区1面完掘状況(西から)

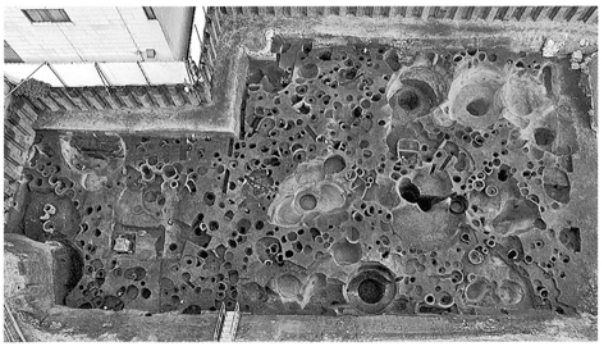


図9　2区2面完掘状況(西から)

である。遺構の遺存状況はあまり良くない。調査区ほぼ全面にわたって近代から現代までの廃棄用土壙によって掘削、削平を受けている。特に調査区中央から南壁までは、一面に渡って石炭ガラや焼けた木材を含んだ攪乱土壙があり、大部分の遺構はその上部が削平を受けている。

1区での遺構番号は0001～0360で、遺構の内訳は、古墳時代の竪穴・竪穴住居4、中世の溝3、中世～近世・近代の井戸25・排水又はトイレ等の枡3、廃棄用土壙61（内現代攪乱15）その他柱穴等264である。

第2区

第2区は269㎡について調査を実施した。調査面は、第1面から第4面を設定した。第1面は標高4.5m、第2面は4.3m、第3面は3.8～4.0m、第4面は3.5～3.6mである。地形のあり方からみて1区よりもやや高く設定した。

2区においては南側部分が1区と同様に近代～現代の攪乱を受け、遺構の遺存状況はあまり良くないが、中央から北側にかけては比較的良好である。ただし中世以前の遺構は近世の井戸によってかなり削平、掘削を受けている。

2区での遺構番号は0361～1446である。遺構の内訳は、古墳時代の竪穴・竪穴住居5、中世の建物2、溝2、中世～近世・近代の井戸22・排水又はトイレ等の枡4、廃棄用の土壙155（内現代攪乱16）その他柱穴等896である。

第3区

第3区は238㎡について調査を実施した。調査面は、第2区の第1面から第4面のレベルに合わせて設定したが、調査の必要に合わせて掘り下げ面を若干下げた場合もある。

3区での遺構番号は1447～1789である。遺構の内訳は、古墳時代の竪穴・竪穴住居8、中世の建物2、溝2、中世～近世・近代の井戸26・排水又はトイレ等の枡5、廃棄用の土壙50（内現代攪乱8）その他柱穴等248である。

図10　2区3面完掘状況（西から）

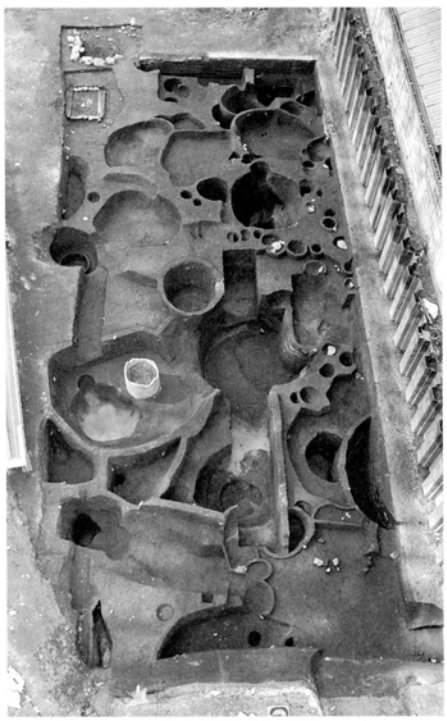


図11　3区1面完掘状況（北から）

図12 3区2面完掘状況（南から）

図13 3区3面完掘状況（南から）

図14 3区4面完掘状況（南から）

第４区

本調査区は、昭和60年度に実施した第27次調査に一部重複している箇所があるため、工事予定面積84㎡の内、調査がすでに終了している部分を除いた25㎡について調査を実施した。

第27次調査では、約350㎡を対象として実施しているため、調査区の確認のため南側に５ｍほど広げ確認したところ、終了後の工事のためすでに遺構は消滅し、また、調査壁も残っていない状況であった。また、新たに対象とした部分においても現地表から２ｍほどの深さまで掘削が及んでおり、第１区の２から３面相当面（標高3.8～４ｍ）で調査を行った。

４区での遺構番号は1202～1214である。古墳時代の溝１、中世の溝１、中世～近世の井戸２、廃棄用の土壙３（内現代攪乱２）その他柱穴等６である。このうち中世の溝は第１区で検出された大溝の一部である。

(3) 遺構・遺物の概要

各区の概要でも述べたように、検出した遺構と遺物は質・量ともにきわめて多いものであった。遺構数は1789であり、出土遺物は約1000箱近くの遺物が出土している。これらは古墳時代前期のもの、奈良時代中期から後期にかかるもの、平安時代後期、概ね10世紀代後半以降のものと11世紀後半代以降のもの、中世後期～江戸時代のもの、江戸時代後期～近代のものに大きく分けることができる。最も量的に多い時期は、古代～中世にかかるもので、一方、中世前期、鎌倉時代の遺構と遺物がほとんど無いことは非常に特徴的である。

また、古墳時代前期の住居跡群は遺物のあり方からみて短期的な様相がある。当該地点周辺での分布のあり方はこれまでのところ明確にはなっていないが、当該期の博多遺跡群における集落構成や性格付けを行う上で、参考となる調査事例かと思われる。

表２　時期別遺構数

時期	建物	竪穴住居	溝	井戸	枡	土壙	小計
近世～近代	0			10	2	7	19
近世			1	22	10	40	73
中世	2		4	29		96	131
古代～中世			1	14		85	100
古代			1			14	15
古墳		17	2			9	28
不明						15	15
合計	2	17	9	75	12	266	381

※下水槽又は便槽と考えられる竪穴遺構を「桝」と総称した。

図15 4区2～4相当面完掘状況(東から)

図16 1区と第27次調査区の位置関係(北から)

図17 第27次3～4相当面全景(南から)

2．近世の遺構と遺物

近世の遺構は調査区南側（第１区・２区南側）では近代以降の攪乱による削平が顕著であり遺存状況は良くない。遺構には、井戸、枡（木組・石組遺構を総称する）、溝、土壙、多数の柱穴等がある。特に井戸がきわめて多く、しかも一定箇所で切り合いながら分布しているものが多い。江戸期の屋敷地のあり方を示していると思われるが、建物との関係等については明らかにするまでに至っていない。遺物は古代から中世にわたる各種の遺物を多く含んでいるため、重要と思われるものついては図示している。個別遺物の説明については表３を参照されたい。図示した遺物すべてを網羅はしていないが、特徴的なものを取り上げて観察所見を述べている。

図18 1区2面北東側井戸群検出状況（南から）

溝状遺構　SD0387（図19・21）２区１面で検出。南北にほぼ直線的に延びる近世の溝状遺構である。長さ約11mについて確認。断形は浅い「U」字形である。埋土は青みある暗灰色砂質土～黄灰混砂粘質土。幅は0.4～0.6m、深さは検出面から20～30cmで、底面は北から南へ向かって緩やかに低くなっている。底面の標高は3.90～3.78m。南北の主軸方位はN-38°-W。SD0387は２区北側で検出された14～15世紀代と考えられる整地層（明黄灰色混砂粘質土主体とする）を切っている。遺構の先後関係はSD0387→SX0470→0471→0473である。

図19 2区 SD0387（南から）

出土遺物　近世の肥前系陶磁器の他、中世土師器坏・小皿、中国産陶磁器や古代瓦片や中世瓦片がわずかに出土している。

井戸　SE0002（図22・23・28）　１区１面で検出。近世～近現代まで使われた瓦組井戸である。井筒は桶組痕跡のみ確認。掘方は平面形が円形で、形状は円筒状である。埋土は黒灰～暗青灰色混砂弱粘質土。掘方は径3.05～3.60m。瓦組井側は一段あたり８枚組で９段が残っていた。直径0.68m。井筒の径は直径0.48mを測る。底面までの深さは3.05mで、底面の標高は1.42m。

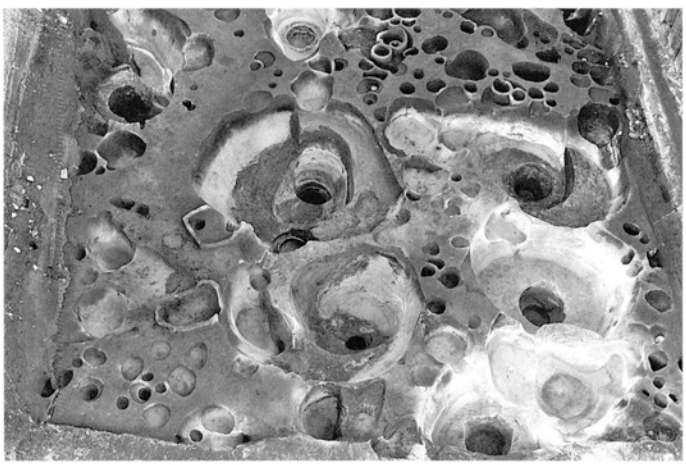


図20 2区南側遺構分布部分拡大（南から）

出土遺物（10～31）　肥前系染付椀12～16・猪口10、白磁猪口11・小皿22～24・鉢25・青磁鉢27、陶器鉄釉椀17、陶器灯明皿18、刷毛目手椀19、擂鉢20、片口小鉢

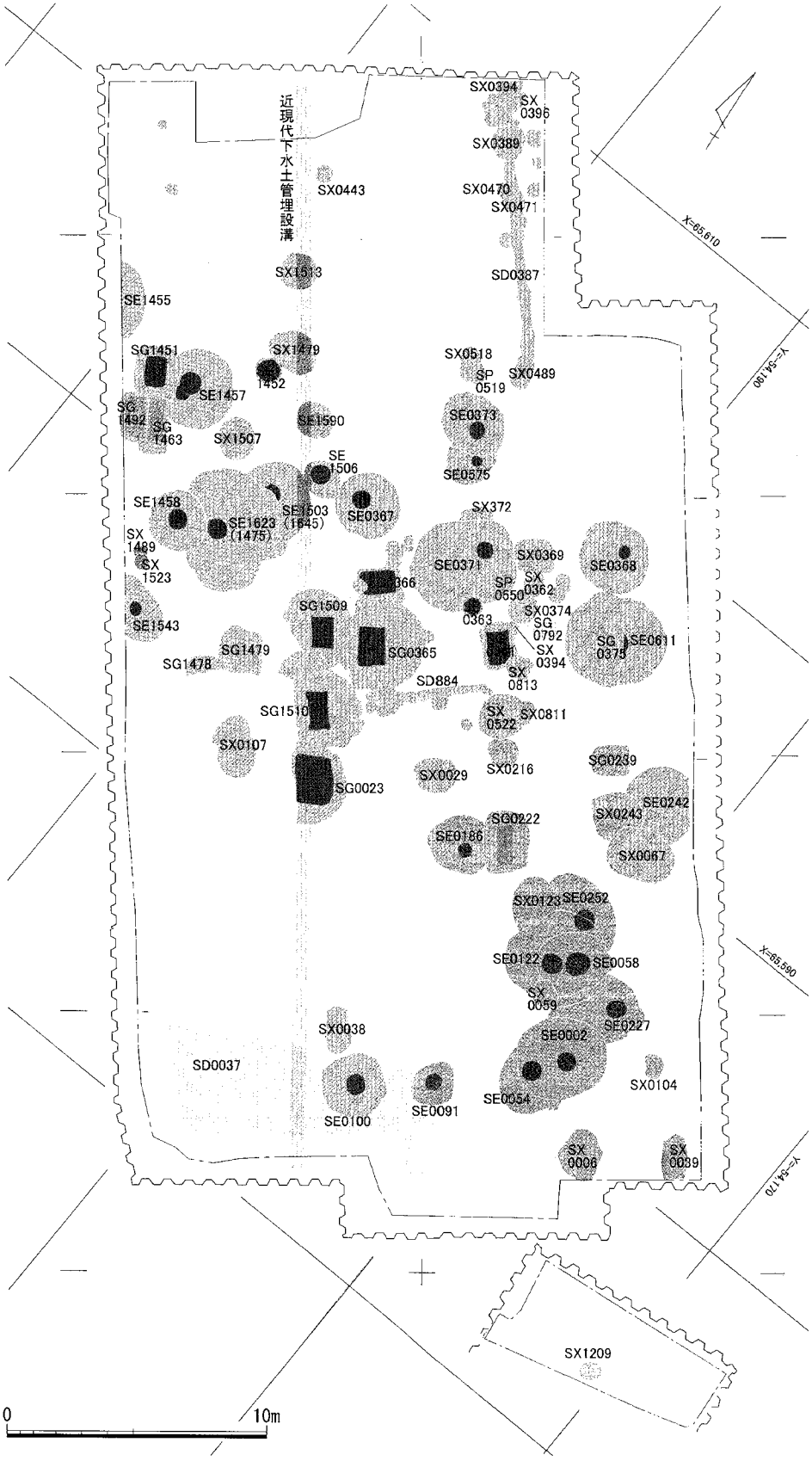


図21 近世遺構分布状況略図(1/250)

21、小石原系陶器鉢28、土師質風炉又は鉢26、近世瓦片29～31の他、古墳時代～中世の陶磁器が出土している。

井戸　SE0054(0066)(図22～25)1区2面検出。近世～近代の井戸である。掘方は平面形が円形で、形状は円筒状である。埋土は暗灰色混砂粘質土、明灰色砂の混合土層。掘方は径2.54～2.60m。井筒は確認。掘方底面を一段掘りくぼめ桶を据えたと思われる。底面までの深さは1.98mで、底面の標高は1.27m。14世紀代の遺物が目立つ。遺構の先後関係はSE0102→SE0054→SE0002。

出土遺物(1～9)　肥前系染付猪口1・椀2の他、弥生土器、奈良時代須恵器坏・小皿や中国産白磁Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ類、口禿皿3、青白磁合子7、龍泉窯系青磁Ⅲ類椀、土師器坏6・小皿4・5、土錘等8・9が二次的に混入した状態で出土している。

井戸　SE0064(図31・114・115)

1区2面検出。現代のコンクリート製井戸である。

出土遺物(41)　古墳時代から近代までの遺物が多量に出土している。41は近世の石製硯である。

図22 SE0002・0054掘下げ状況(南から)

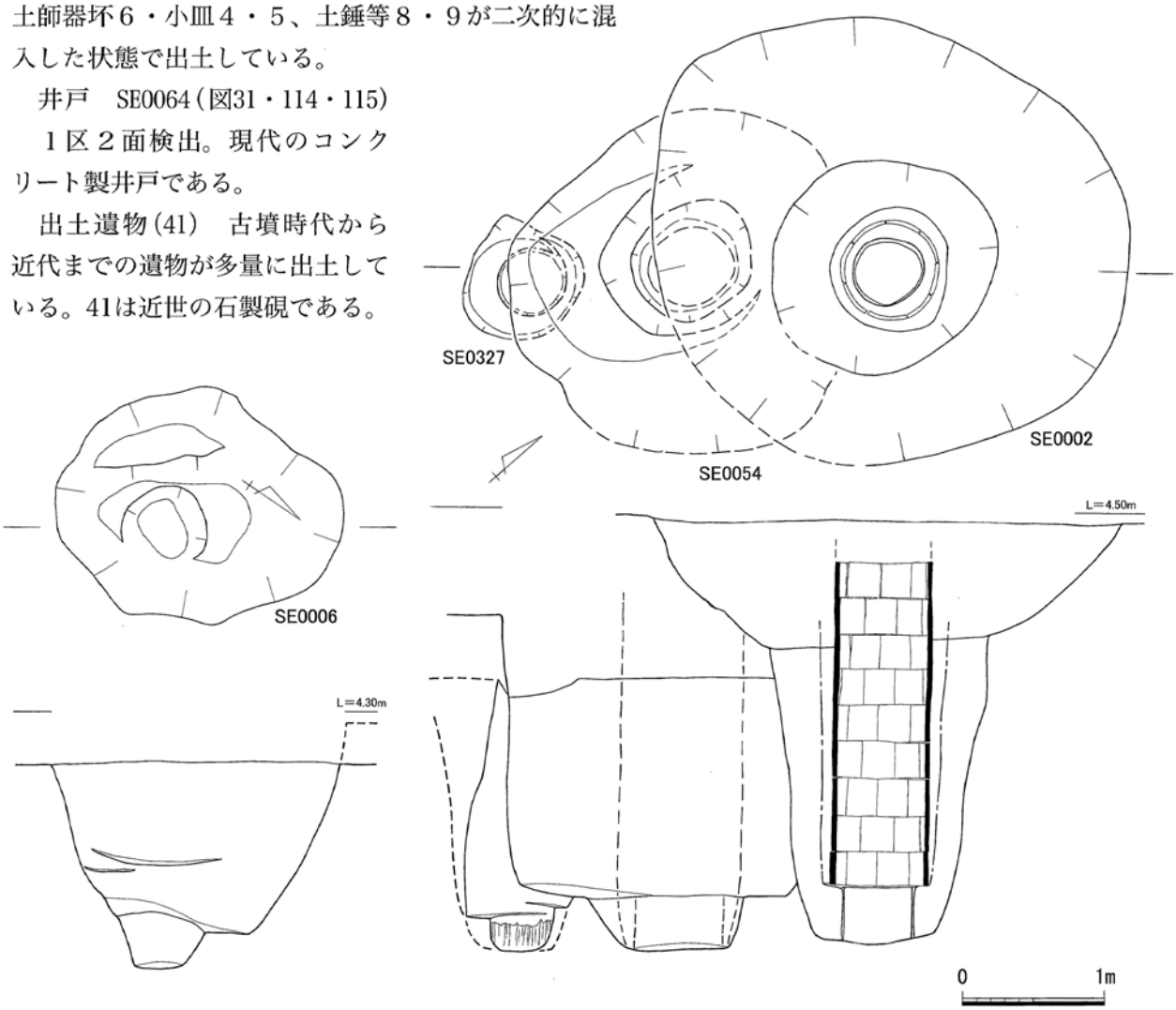


図23 SE0002・0006・0054・0327平面及び断面図(1/50)

井戸　SE0006（図23）　1区1面検出。近世から近現代の井戸である。掘方は平面形が楕円形で、形状は逆円錐台状である。埋土は灰色粘質土で石炭殻を多く含む多い。掘方は径長軸2.05m、短軸1.63m。井筒は確認できなかったが掘方底面を一段掘りくぼめ桶を据えたと思われる。底面までの深さは1.50mで、底面の標高は2.51m。遺構の先後関係はSD0037・SX0005→SE0006、SE0002→SE0006である。

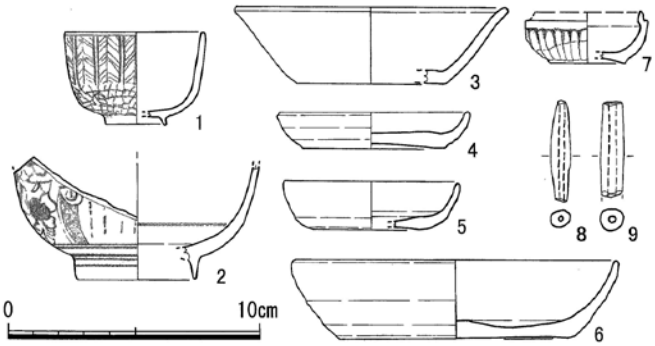


図24 SE0054出土遺物実測図（1/3）

出土遺物　小片のため図示していない。肥前系染付椀、皿、鉢の他、古墳時代～中世にわたる陶磁器、銅銭が二次的に混入した状況で出土している。

井戸　SE0058（図26・29・30・119・213）　1区2面検出。近世の井戸である。井筒は桶組掘方は平面形が楕円形で、形状は逆円錐台状である。埋土は暗灰～黒灰色混砂粘質土井筒内には灰褐色混砂粘質土。掘方は径2.63～2.78mで、底面までの深さは2.40mである。掘方底面を一段掘りくぼめ桶を据えている。井筒は土圧で歪んでおり、直径約56cmで、幅12～15cmほどの板材を組んでいる。枚数は不明。底面の標高は1.38m。遺構の先後関係はSE0122→SE0058→SE0001。

図25 SE0054完掘状況（南から）

出土遺物（32～40）　肥前系鉄絵陶器椀32・33・38、京焼風椀34、染付皿35、白磁小椀36、青緑釉磁器皿37、鉄釉大形鉢39、二彩刷毛目文大鉢40・大皿の他、中国産陶磁器、銅銭5点、石製硯片が出土している。銅銭中には、五銖銭40011が含まれる。

図26 SE0058・0122井筒完掘状況（北西から）

井戸　SE0363（図29・31）　2区1面検出。近世から近代の瓦組井戸である。井筒は桶組か。掘方は平面形がやや円形で、形状は円筒状である。埋土は暗灰褐色～暗灰色砂質土瓦礫を多く含む。掘方は径1.57m。井側は一段あたり9枚組で10段まで確認した。直径0.63m。井筒の径は不明。底面までの深さは約2.68m。遺構の先後関係はSE0370→SE0363である。

出土遺物（42～43）　肥前系染付椀42、中世瓦片43などが出土している。

図27 SE0370完掘状況（西から）

井戸　SE0122（図26・29・31・119）　1区2面検出。近世から近代の井戸である。井筒は桶組。掘方は平面形が円形で、形状は逆円錐台状である。埋土は暗灰混砂粘質土と灰褐白色砂の混合土。掘方は径4.24～4.19m。掘方底面を一段掘りくぼめ桶を据えている。桶は

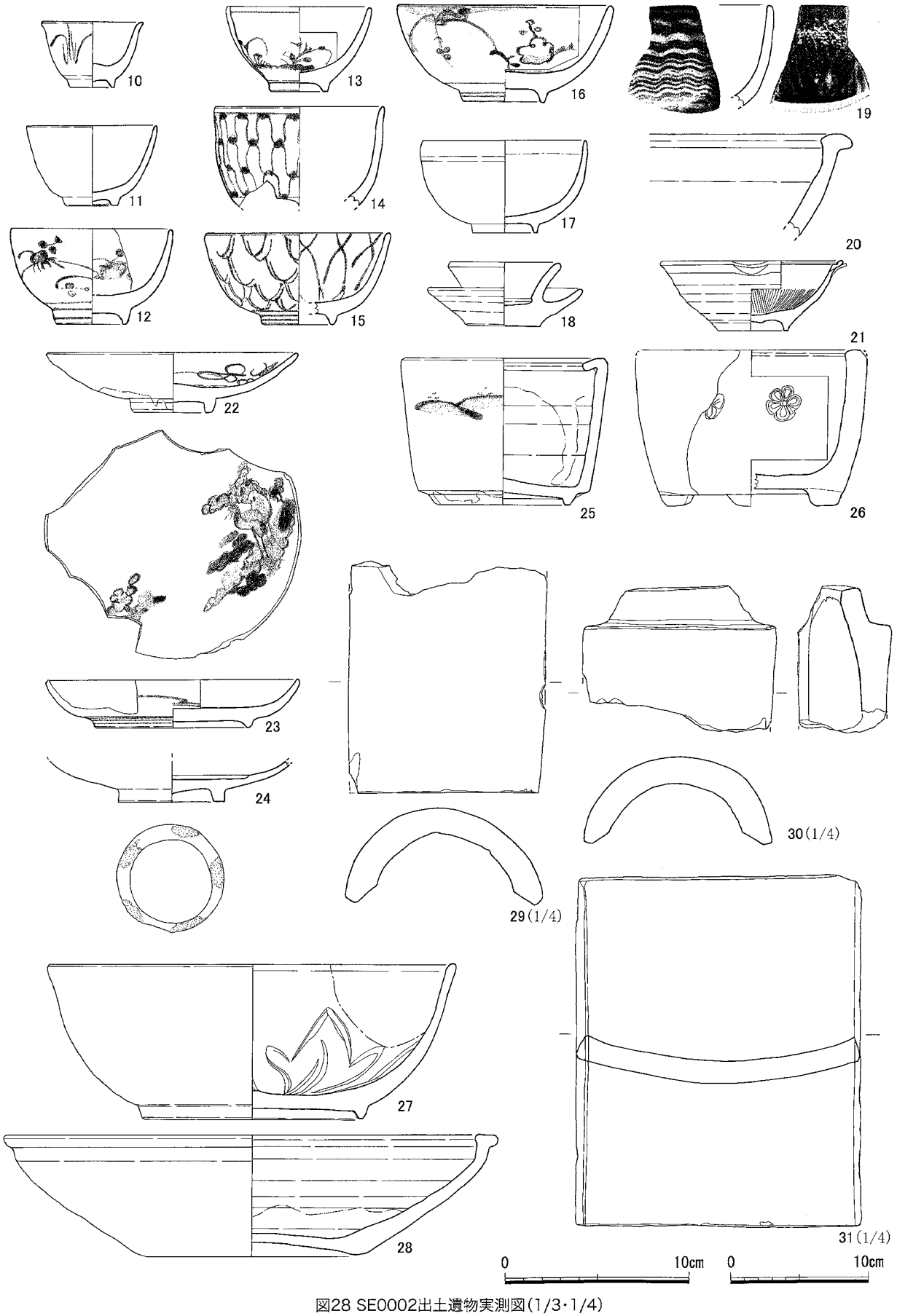


図28 SE0002出土遺物実測図(1/3・1/4)

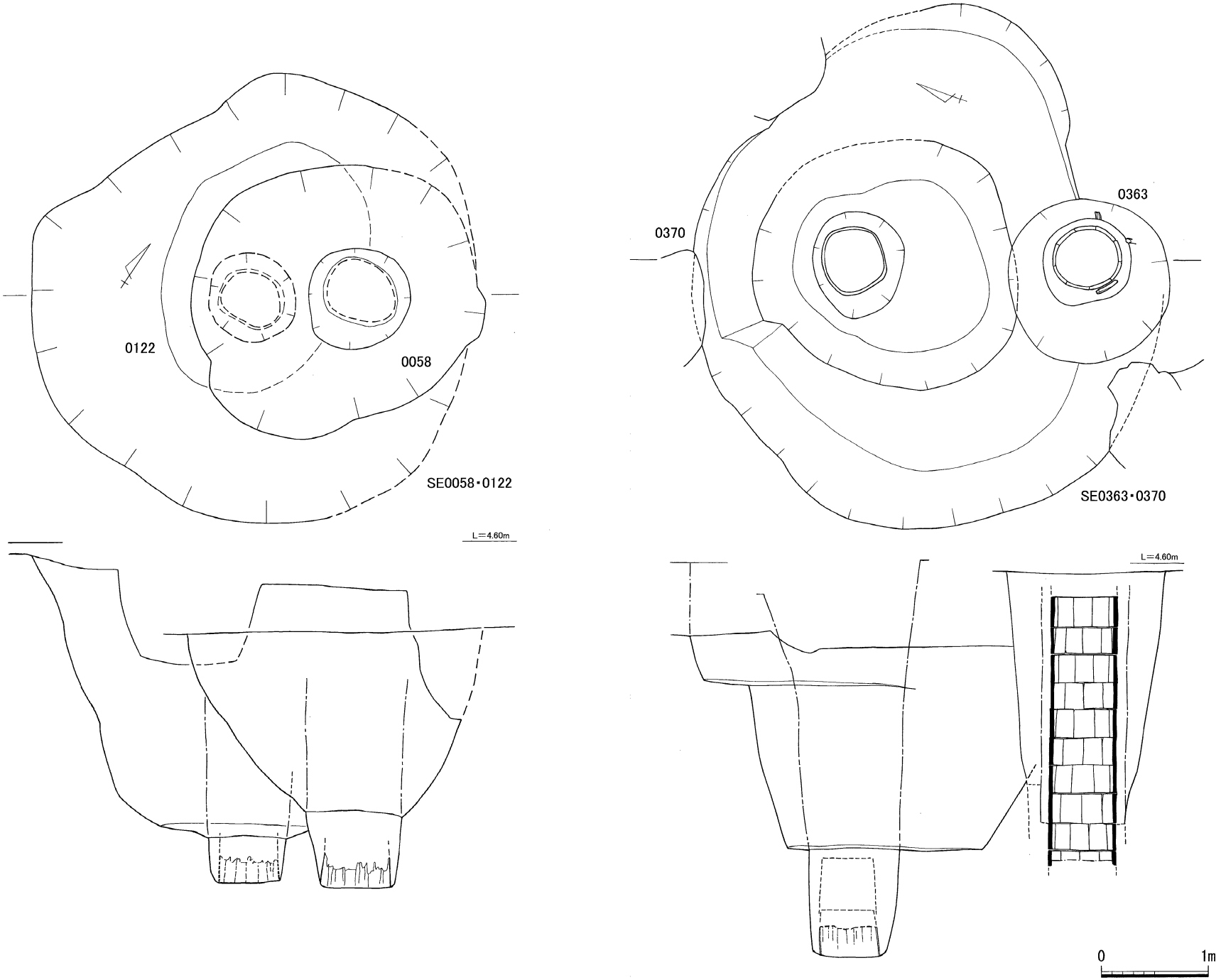


図29 SE0058・0122・0363・0370平面及び断面図 (1/50)

土圧で歪んでいる。直径約50cmで、幅12cmほどの板を12枚前後組んでいる。底面までの深さは3.60m。底面の標高は1.43m。遺構の先後関係はSE0122→SE0058である。

出土遺物(44～48)　肥前系染付、陶器擂鉢48の他、中国産白磁椀Ⅴ・Ⅷ類、龍泉窯系青磁椀Ⅲ類45、褐釉四耳壺、緑釉壺東播磨系捏鉢、中世平瓦、古代丸・平瓦が出土している。

井戸　SE0091(図32・35)　1区2面検出。近世の井戸である。井筒は桶組。掘方は平面形が円形で、形状は円筒状である。上部は近代廃棄土壙により削平されている。埋土は暗灰褐色砂質土。掘方は径1.65m以上。井筒の径は直径約0.5mの桶組か。底面までの深さは1.38mで、底面の標高は1.34m。遺構の先後関係はSE091→SE099、SE0091→SX0010→SX0026→SX0025である。

出土遺物　近世肥前系陶磁片の他、弥生土器甕、中世土師器坏・小皿片・土鍋片、瓦器椀、中国産

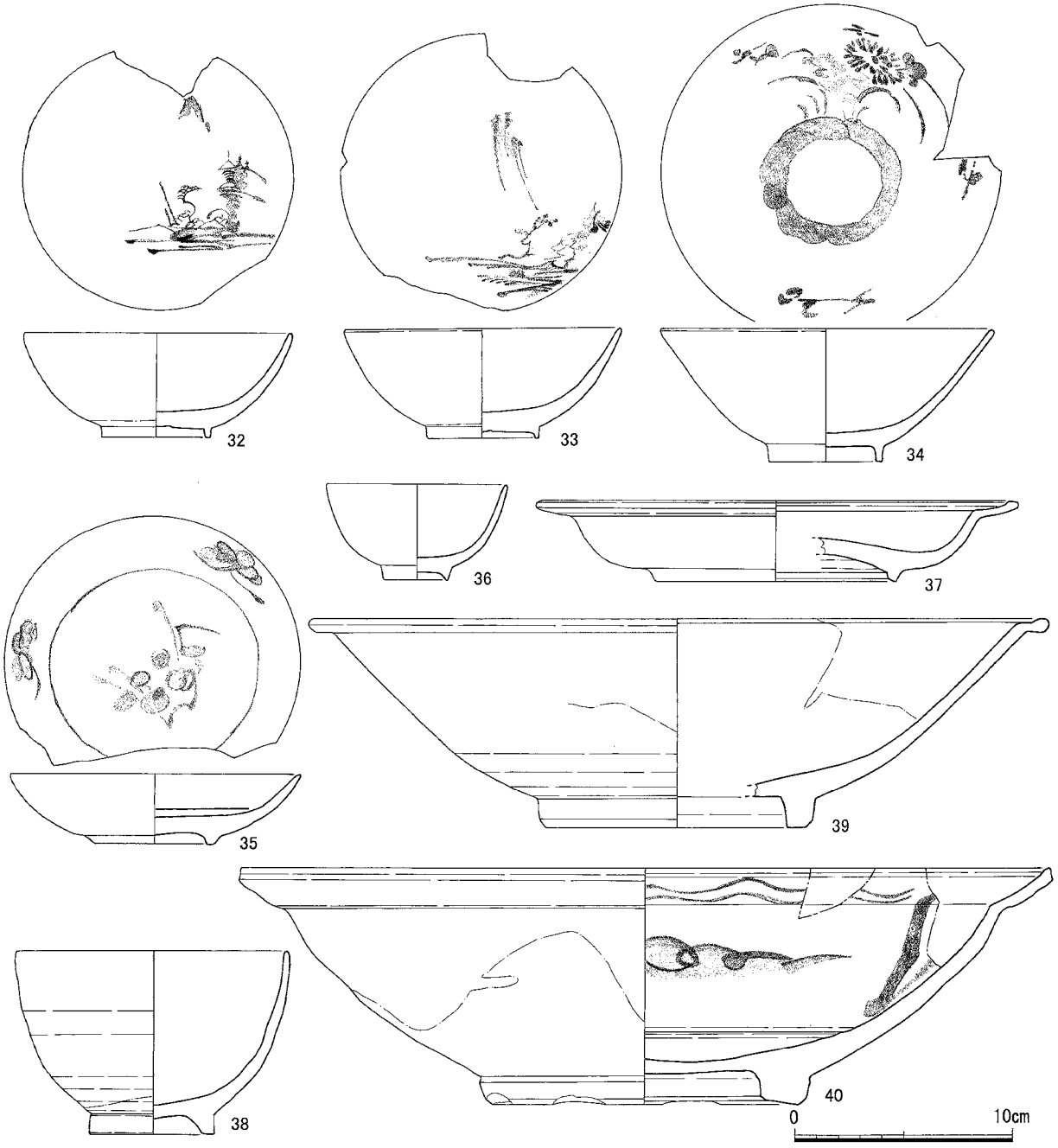


図30 SE0058出土遺物実測図(1/3)

白磁椀Ⅳ・輪状釉剥類、中世平瓦等が出土している。

井戸　SE0186（図32～34・119）　1区2面検出。上部は近代攪乱SX0010で削手されている。井筒は桶圧痕のみ確認。掘方は平面形が円形で、形状は逆円錐台状である。埋土は掘方は暗灰色混砂粘質土。掘方は径2.28～2.5m以上。掘方底面に桶を据え黄灰白～白色粗砂を裏込めしている。底面までの深さは2.9mで、底面の標高は1.48m。近世から近代にかけて利用された井戸である。

出土遺物（49～63）　近世の肥前系染付椀、猪口、徳利、色絵人形、唐津系刷毛手椀・小皿、鉢、擂鉢53、鉄釉大形鉢49～51・壺52の他、近世軒平瓦58・59や三巴文丸瓦がある。丸瓦には「二郎右衛門」銘がある60、「三郎右衛門」銘61、三列点の62がある。また石製硯63、土製鈴、弥生土器高坏・器台、奈良時代須恵器坏身・蓋、瓦器椀、中世土師器坏・小皿54～57、七輪、獣骨片が出土している。

井戸　SE0227（図32・38・37・119）　1区2面検出。近世から近代の井戸である。掘方は平面形が楕円形で、形状は逆円錐台状である。埋土は掘方は暗灰色混砂弱粘質土、井筒内は黒灰色粘質土、灰白色砂質土の混合土層である。掘方は径3.1～3.45m以上で、底面までの深さは2.6mである。掘方底面を一段掘りくぼめ桶を据えている。井筒は直径約0.8mほどの大形のもので、幅15cm前後の板を組んでいる。枚数は不明。井筒底面の標高は1.24m。遺構の先後関係はSE0227→SX0057、SD0042→SE0227→SE0058。

出土遺物（64～68）　肥前系染付椀、猪口、皿、青磁香炉をはじめとして、肥前系打刷毛波状文椀64、中国産緑釉陶器で皿65、水注66、香炉蓋67と思われる破片の他、青釉合子68、黒釉天目、「九右衛門？」

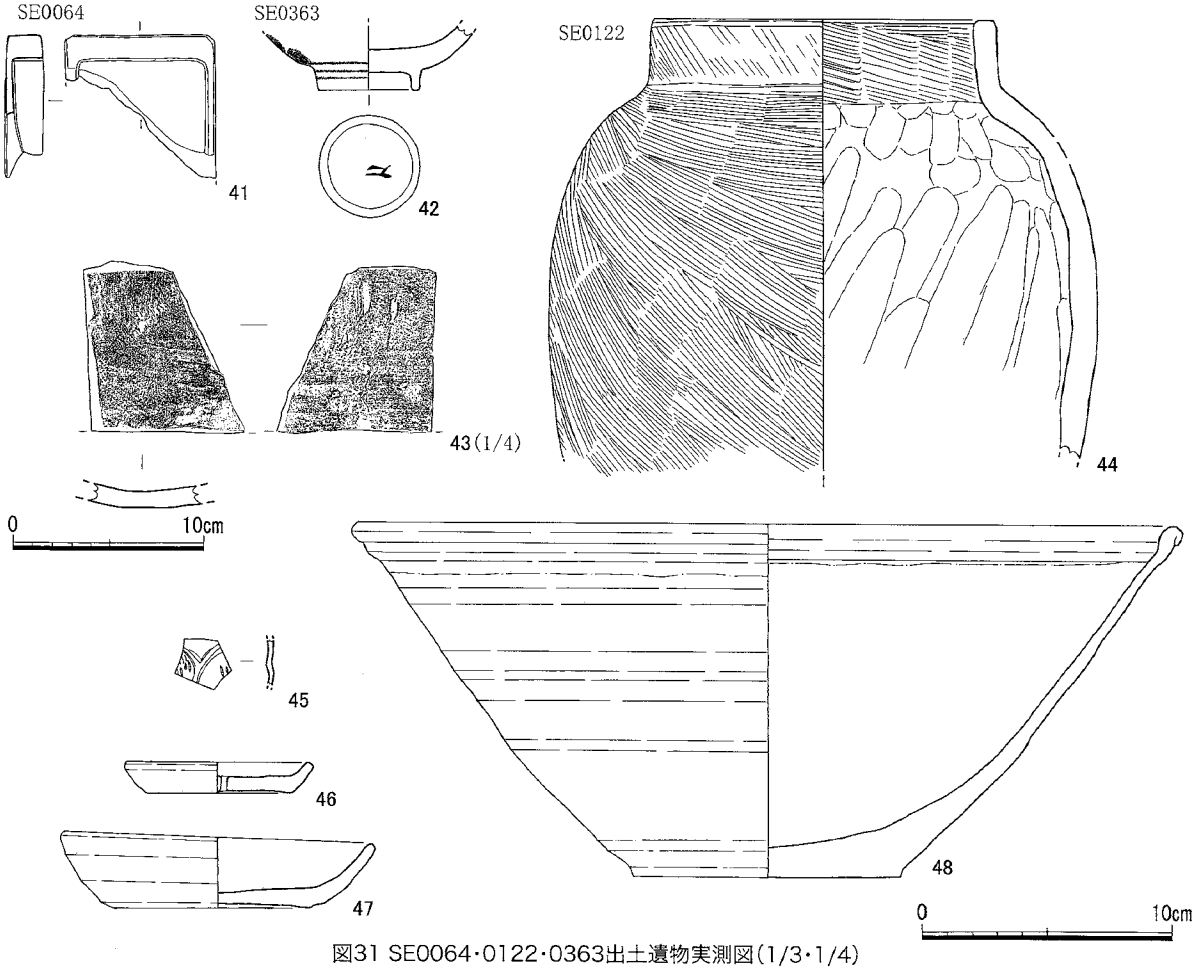


図31 SE0064・0122・0363出土遺物実測図（1/3・1/4）

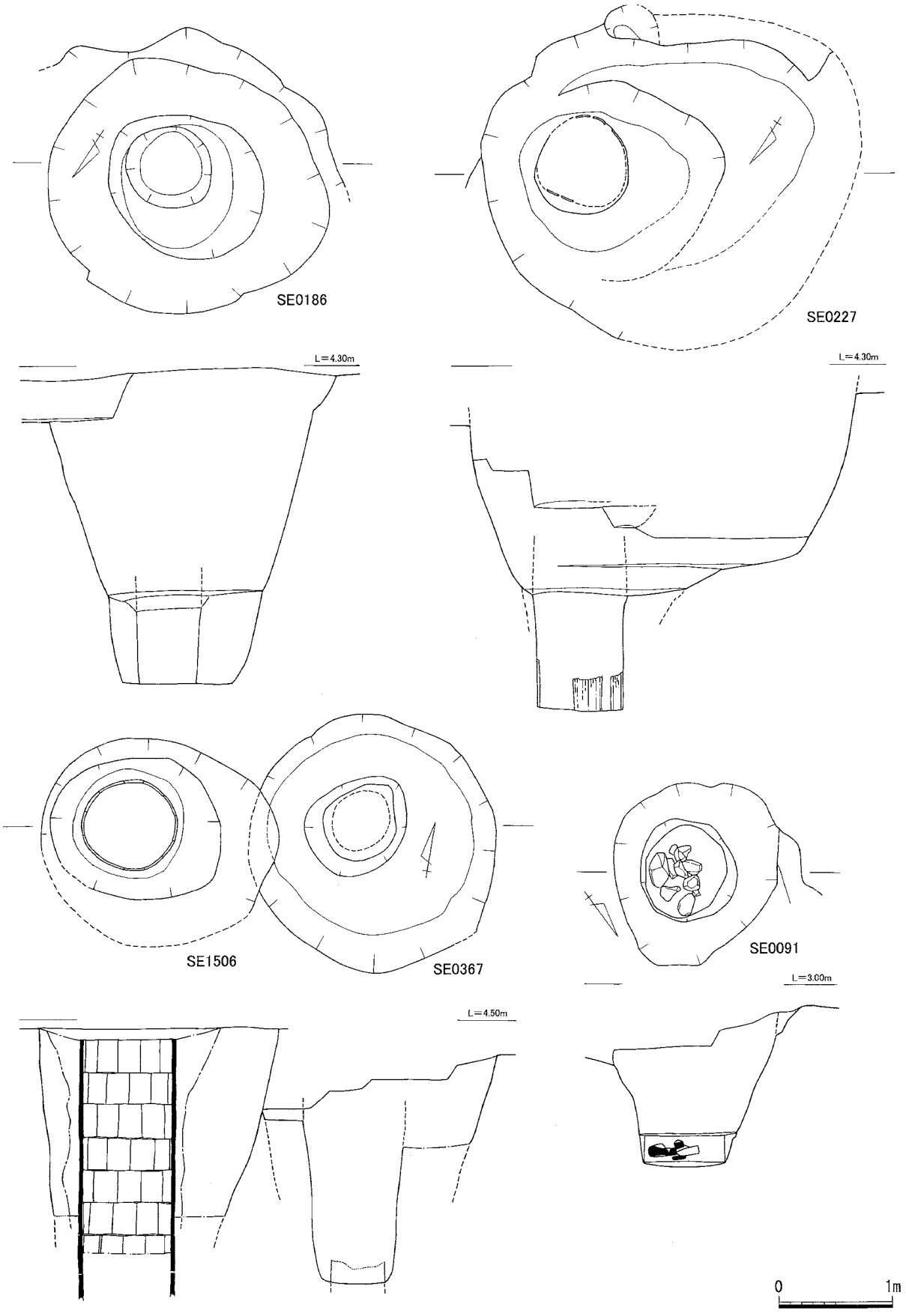


図32 SE0091・0186・0227・0367・1506平面及び断面図(1/50)

銘ある平瓦、銅銭、獣骨片が出土している。

井戸　SE0367（図32・36・38）　２区１面検出。近世の井戸である。井筒は桶痕跡を確認した。掘方は平面形が円形で、形状は円錐台状である。埋土は掘方は灰色砂・灰褐色砂質土の混合土、井筒内には暗灰色～灰色砂～粘質土。掘方は径2.10～2.45m以上で、底面までの深さは2.10mである。掘方底面に桶を据え、黄灰～黄白色粗砂を裏込めし、直径約0.50mの井筒を組上げている。底面標高は2.15m。遺構の先後関係はSX1008→SE0584→SE0896→SE0367である。

図33 SE0186完掘状況（北西から）

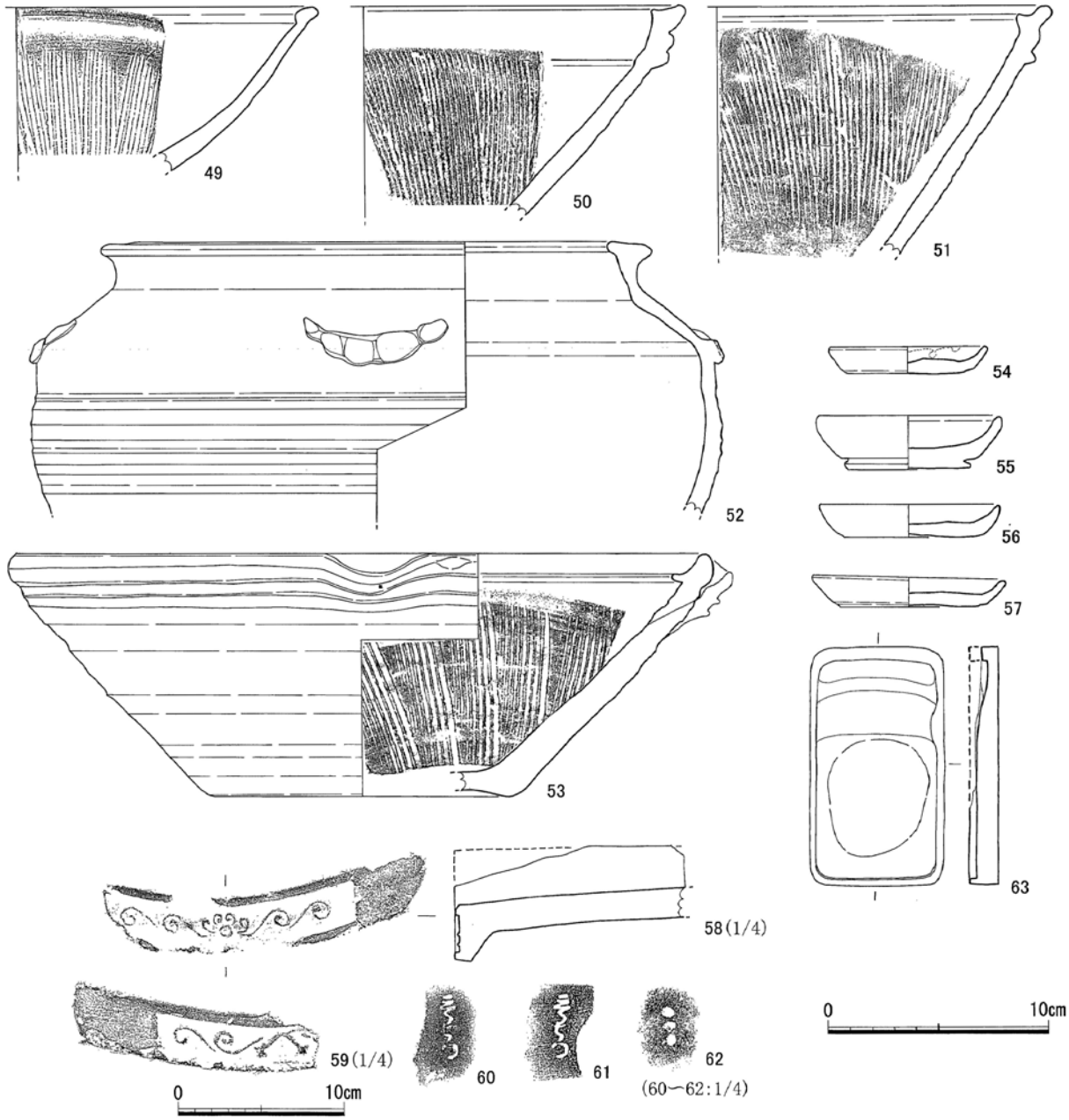


図34 SE0186出土遺物実測図（1/3・1/4）

出土遺物(69～77)　肥前系染付椀69・70、油瓶72、白磁と思われる徳利73、色絵椀の他、陶器椀71、壷74・75、鉢76・甕77、擂鉢、土瓶等がまとまって出土している。

井戸　SE1506(図32)　3区1面検出。江戸期から現代まで使われた瓦組井戸である。井筒は桶組である。掘方は平面形が円形で、形状は円錐台状である。埋土は暗灰～黒灰色混砂弱粘質土で瓦礫を多く含む。掘方は直径1.00～2.05m以上。瓦組井側は直径0.92mで、一段あたり12枚組で7段まで確認した。安全上完掘はしていないため井筒の形状等は確認できていない。

出土遺物　図示していない。肥前系染付椀・小皿・徳利、唐津系椀、土瓶、桟瓦、軒平瓦、七輪の他、土師器坏・小皿、中国産白磁・青磁・陶器等の細片が出土している。

井戸　SE0252(図39・40)　1区2面検出。近世の井戸である。井筒は桶の圧痕のみ確認。掘方は平面形が円形で、形状は円筒状である。埋土は暗灰色砂質土。掘方は径1.90～2.25m以上で、底面までの深さは1.96mである。掘方底面を一段掘りくぼめ桶を据えている。井筒の径は直径約0.7mで、幅13cm前後の板を組んでいる。枚数は不明。底面の標高は1.43m。遺構の先後関係はSE0252→SX0123→SE0058、SE0252→SE0122→SE0058である。

図35 SE0091井筒・遺物出土状況(北東から)

図36 SE0367(東から)

図37 SE0227(西から)

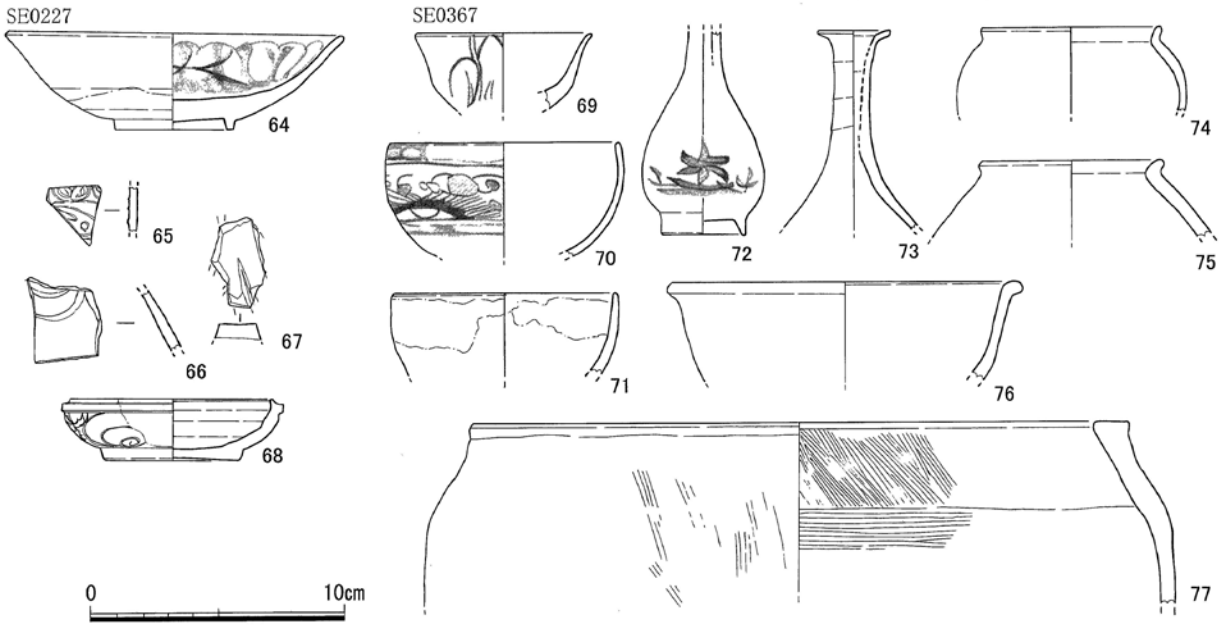


図38 SE0227・SE0367出土遺物実測図(1/3)

出土遺物（78 ～ 94）　肥前系染付椀・小皿81・猪口・鉢・唐津系椀78・鉢79・壺80・刷毛目手皿・擂鉢84 ～ 86の他、土師器小皿82・83、中国産白磁椀Ⅴ類90・皿Ⅱ類92・Ⅲ類91、青白磁皿93、龍泉窯系青磁椀Ⅲ類、同安窯系青磁皿94、銅銭１点等が出土している。白磁椀90の高台外底には墨書が残る。

井戸　SE0368（図41 ～ 43）　２区１面検出。近世から近代の井戸である。掘方は平面形が円形で、形状は円錐台状。埋土は掘方は褐～明褐色砂質土、井筒は灰～灰褐色砂質土。掘方は径2.65 ～ 3.0m。掘方底面に径0.40 ～ 0.50mの桶を据えたものか。井筒内には黄灰白色砂質土、黒灰色弱粘質土が堆積。底面までの深さは2.3mで、底面の標高は1.90mである。遺構の先後関係は SX0783→ SX0782→ SE0368。

出土遺物（95 ～ 107）　肥前系白磁紅皿95、土師器坏99・小皿96、土製鈴、瀬戸瓶、中国産白磁椀Ⅱ・Ⅳ・Ⅴ類105、皿Ⅲ類104・Ⅳ類102・Ⅵ類101・103・青白磁合子、瓦器椀97・98、龍泉窯系青磁壺106、褐

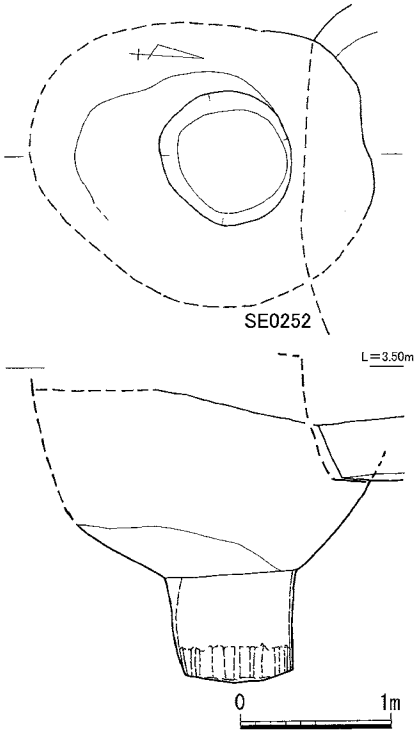


図39 SE0252平面及び断面図（1/50）

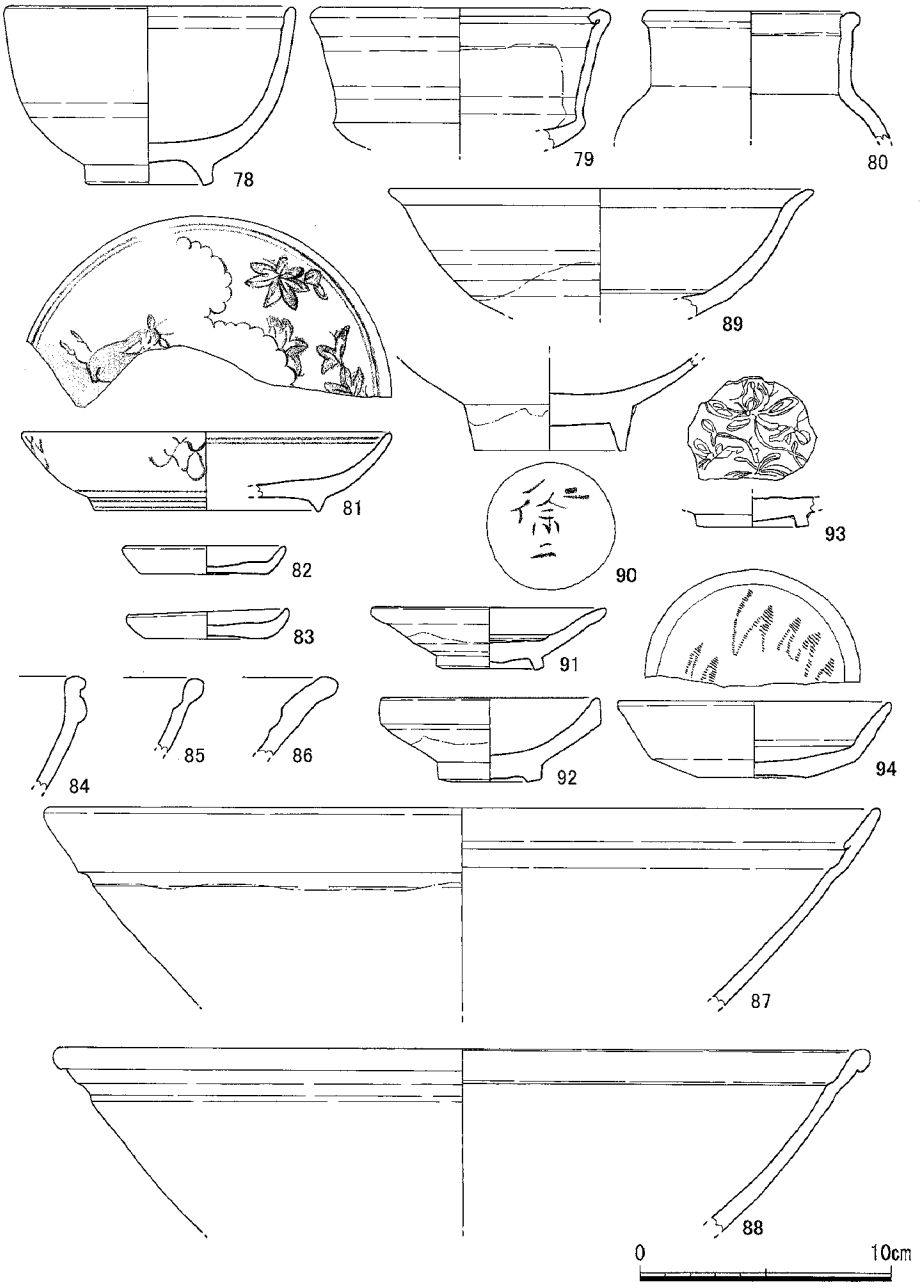


図40 SE0252出土遺物実測図（1/3）

釉四耳壺、水注、鉢、陶器水注・鉢107が出土している。

井戸　SE0575（図47・48）　２区１面検出。近世から近代の井戸。井筒は不明。掘方は平面形が不定形で、形状は円筒状である。埋土は掘方には暗灰色～灰色混砂弱粘質土の混合層。掘方は径1.7～2.0m。底面までの深さは1.24mで、底面の標高は2.86m。遺構の先後関係はSE0575→SX0572→SE0576である。

出土遺物（108・109）　肥前系染付椀108・小皿・猪口、唐津系椀109・刷毛目手皿、七輪、三巴文軒丸瓦、黄釉鉄絵盤、褐釉壺、中世瓦、銅銭２点が出土している。

井戸　SE0611（図41・44・48）　２区１面検出。近世から近代の井戸である。井筒は桶組か。掘方は平面形が楕円形で、形状は円錐台状である。埋土は掘方は灰褐色砂質土、明褐色砂層と暗灰色粘質土の混合土である。井筒内は褐色砂質土と暗灰色粘質土。掘方は径3.32～3.98mで、底面までの深さは2.62mである。掘方底部を一段掘り下げ、径0.45～0.60mの井筒を据えている。底面の標高は1.73m。

出土遺物（110・111）　肥前系陶器蓋110・刷毛目手皿111、青釉皿、近世平瓦の他、中世土師器坏・小皿、奈良時代須恵器坏身・蓋、中国産白磁椀Ⅱ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅷ類、龍泉窯系青磁椀Ⅰ類等が出土。

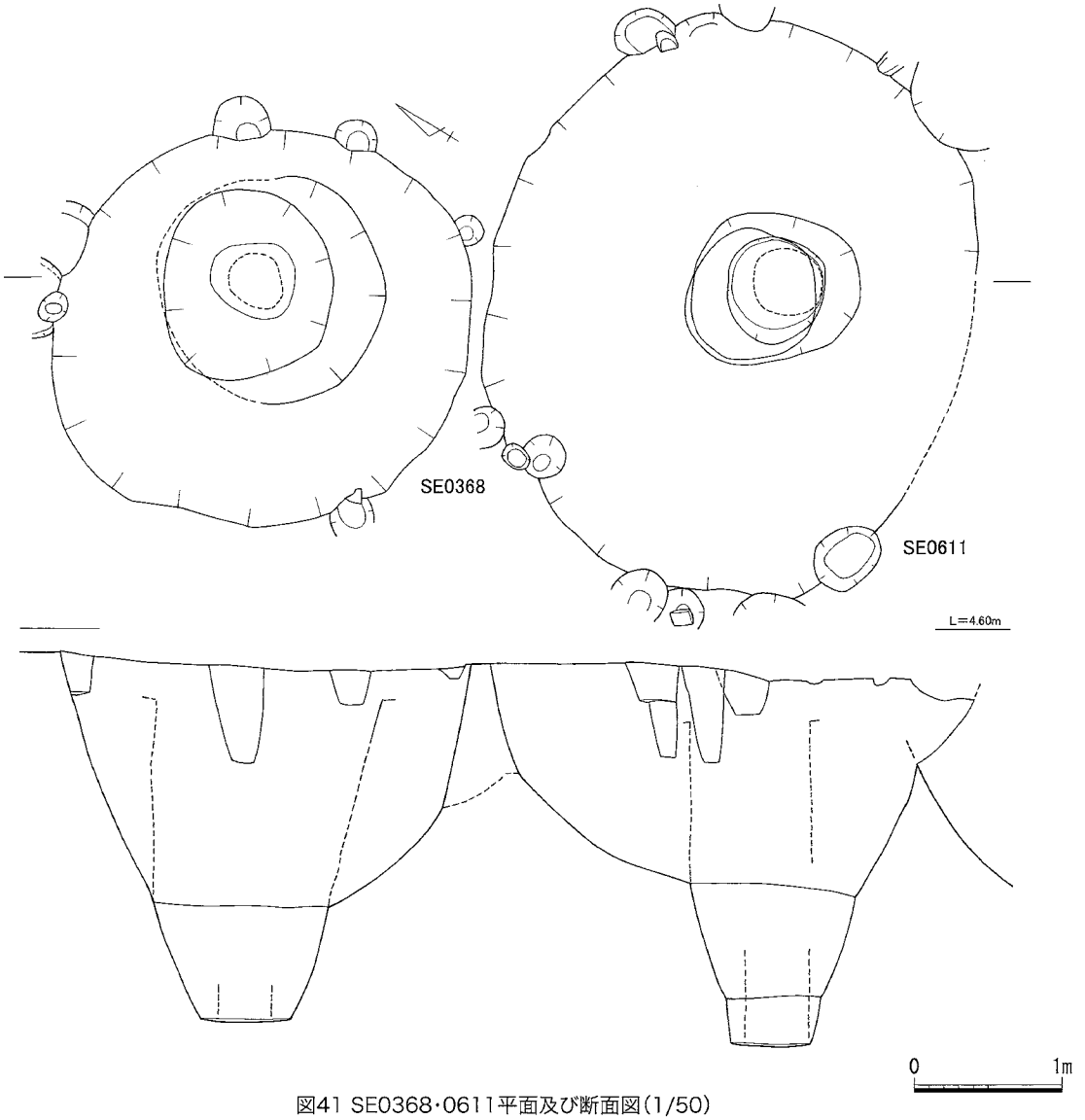


図41 SE0368・0611平面及び断面図（1/50）

井戸　SE0373（図47・46）　２区１面検出。近世の井戸である。井筒は桶痕跡を確認。掘方は平面形が楕円形で、形状は円筒状である。埋土は掘方には黄褐色砂と灰褐色砂の混合土、井筒内には黒灰色砂質土。掘方は径1.55～0.98mで、底面までの深さは1.59mである。掘方底面に井筒を据え、小礫を含む粗砂を裏込めしている。井筒掘方は0.60mほどか。底面の標高は2.50m。遺構の先後関係はSE0575→SE0373、SX0374→SE0373である。

出土遺物　肥前系染付椀、角鉢、唐津系椀等の他、奈良時代須恵器坏蓋、中世土師器坏・小皿、白磁椀Ⅳ・Ⅴ・Ⅷ類、黄釉盤等が出土している。

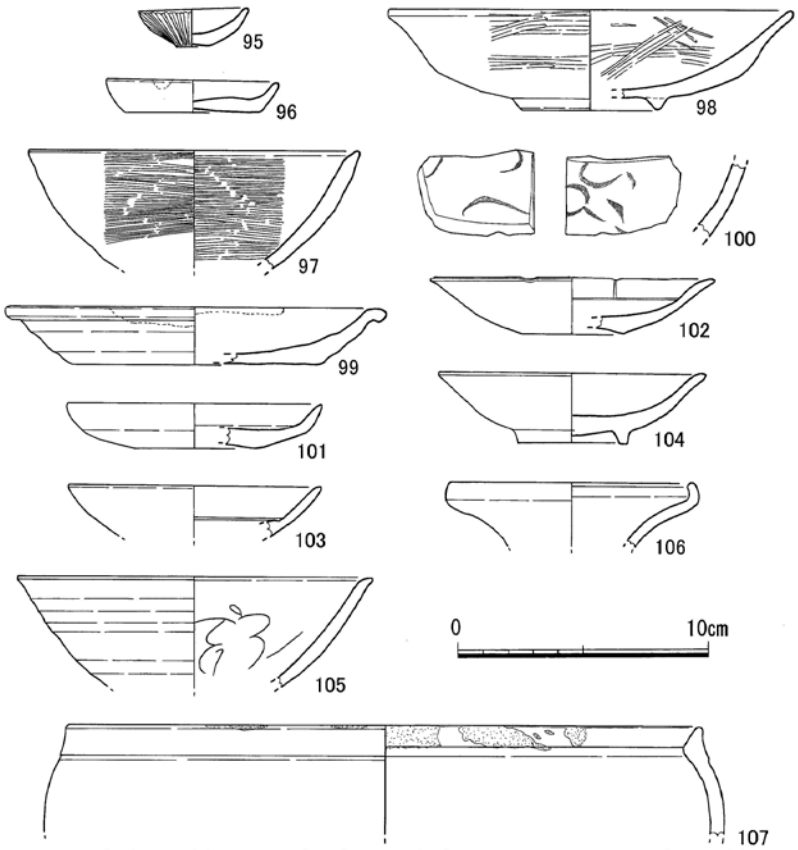


図42 SE0368出土遺物実測図（1/3）

井戸　SE1455（図48）　３区１面検出。掘方の一部を確認した。掘方は平面形が楕円形と思われる。埋土は黒灰褐色砂質土。掘方の規模、井筒等については不明。

出土遺物（112～114）　肥前系仏花器112・113、唐津系瓶、近世瓦114（印判「□衛門」有り）等が投棄された状況で出土している。

井戸　SE1457（図47・48）　３区１面検出。江戸時代の井戸である。井筒は桶痕跡を確認。掘方は平面形が円形で、形状は逆円錐台状である。埋土は暗灰色～褐色砂質土。掘方は径3.0～3.21mで、底面までの深さは2.20mである。掘方底面に径は0.8mの井筒を据え置き、小礫を含む粗砂を裏込めし、井筒の安定を図っている。底面の標高は1.60m。遺構の先後関係はSE1457→SE1463である。

出土遺物（115～124）　掘方から肥前系染付椀、猪口115、徳利、唐津系椀116・小皿117、中国産黒釉天目椀118・119、白磁皿Ⅳ類120、三巴文軒丸瓦124、瓦転用瓦玉121、高麗陶器甕底部122、石鍋、砥石が出土している。井筒からは肥前系染付椀、皿、鉢、唐津系椀、擂鉢、瓦磚123、「九右衛門」印判銘がある近世丸

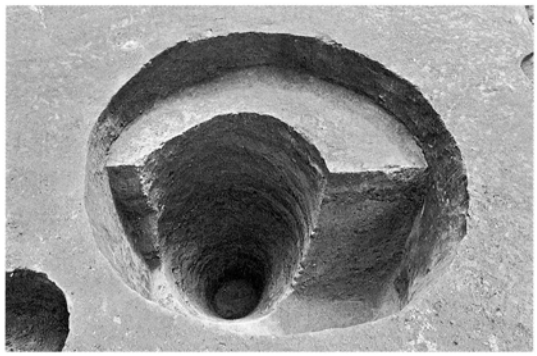


図43 SE0368井筒（北から）

図44 SE0611（西から）

瓦114が出土している。

井戸　SE1458(図53・51・52)　3区1面検出。江戸時代～近代の井戸である。井筒は桶組。掘方は平面形が楕円形で、形状は円筒状である。埋土は灰茶色～灰茶褐色混砂弱粘質土。掘方は径2.15～2.32m。井筒直径は0.60mほどか。底面までの深さは2.37mで、底面の標高は1.71m。遺構の先後関係はSE1538・1540→SE1458、SE1623→SE1458。

出土遺物(125～134)　井筒からは肥前系染付椀126、白磁猪口125、唐津系刷毛目手椀、皿、無文の椀128、陶器擂鉢127、土師質の焼塩壺の身130と蓋131、近世瓦134、中国産黒釉天目椀129等が出土している。掘方からは肥前系染付椀・小皿、鉢唐津系椀、土瓶、備前系擂鉢、大形の鉄釉陶器捏鉢(7～8個体分)等の近世遺物の他、奈良時代須恵器坏、瓦磚132、古代～中世土師器坏・小皿、瓦質火鉢133、中国産陶磁器、石鍋片等の近世から近代の遺物が大量に出土している。

図45 SE0187(西から)

図46 SE0373(北から)

井戸　SE1543(図49・50・54)　3区1面検出。西壁断面にかかる近世の井戸である。井筒は不明。掘方は平面形が楕円形で、形状は逆円錐台状である。埋土は黒灰褐色砂質土(単純層)木炭ブロック黒灰色～暗灰色砂質土。掘方は径2.0～2.15mで、底面までの深さは1.50mである。掘方底面を一段掘りくぼめ、径0.55～0.60mの井筒を据え置いたものと思われる。底面の標高は2.84m。

出土遺物(135～141)　肥前系染付皿135・140、焼塩壺136の他、古墳時代土師器甕、奈良時代須恵器坏、瓦器椀、土師器坏(ヘラ)・小皿(ヘラ)137～139、中国産白磁椀Ⅱ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ類141・小皿Ⅵ類・四耳壺、龍泉窯系青磁椀、青白磁椀、緑釉陶器壺、明青花皿、鉄滓、石鍋片、馬歯等が出土している。

井戸　SE1503(1645)(図53・56)　3区1面検出。江戸時代の井戸である。井筒は桶組。掘方は平面形が円形で、形状は円錐台状である。埋土は暗茶褐色軟質砂質土(木炭を多く含む)。掘方は径2.95～3.10m。井筒は0.5～0.6mほどか。底面までの深さは2.47mで、底面の標高は1.42m。

出土遺物(142～144)　肥前系陶磁器の他、中国産陶器緑釉盤142・北宋代のものと思われる緑釉印花皿片143・144が出土している。

井戸　SE1538(図56)　3区1面検出。近世の井戸である。掘方の一部を確認した。掘方は平面形が楕円形と思われる。埋土は暗灰色混砂粘質土。

出土遺物(145～149)　肥前系染付椀や仏花器、香炉、七輪、近世の丸・平瓦、桟瓦の他、古墳時代土師器甕、奈良時代須恵器坏、古代～中世の土師器坏・小皿、瓦器椀、中国産白磁椀Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ類、皿Ⅵ類、龍泉窯系青磁椀Ⅳ類、同安窯系青磁皿天目椀、緑釉皿、褐釉陶器蓋、鉄滓、銅銭、石鍋片が出土している。

井戸　SE1590(図50・56)　3区2面検出。近世から近代の井戸である。井筒は不明。掘方は平面形が円形で、形状は円筒状である。埋土は黒青灰～暗青灰褐色砂質土。掘方は径1.4～1.5m。底面までの深さは1.80mで、底面の標高は2.20m。

出土遺物(150～154)　肥前系染付椀151、仏飯器150・花器、小石原系皿、香炉152、唐津系灯明皿

153、七輪、近世丸・平瓦、中国産白磁椀Ⅳ・Ⅴ類、龍泉窯系青磁椀、同安窯系青磁皿、石鍋、硯片が出土している。

井戸　SE1623(1475)（図53・55・56）

３区２面検出。江戸時代の井戸である。井筒は桶組。掘方は平面形が楕円形で、形状は逆円錐台状である。埋土は暗茶灰色～暗灰褐色混砂粘質土。掘方は径3.30～4.26m。井筒直径は0.72～0.78mほどか。底面までの深さは2.72mで、底面の標高は1.33m。遺構の先後関係はSE1623→SE1458である。

出土遺物(155～156)　二次的に混入した状況で、古墳時代土師器甕・壷・壷、中国産白磁椀Ⅱ・Ⅳ・Ⅴ156・Ⅵ類、福建産と思われる白磁小椀155、皿Ⅵ類、龍泉窯系青磁椀・小皿、同安窯系青磁椀・小皿、黄釉盤青白磁合子、水注、甕、鉢、瓦が多量に出土。

枡　SG0023(＝0050・084)（図57）

１区１面検出。近世の枡である。掘方は平面形が円形で、形状は逆円錐台状である。埋土は暗青灰色混砂粘質土。掘方は2.02×1.75m、深さは0.35mで、底面の標高は3.50mである。長軸の方位はN-32°-W。遺構の先後関係はSX0050→SX0084→SX0234。SX0050との境には鉄分が２～３mmほど硬く沈着している。

出土遺物　肥前系染付(徳利・椀・小皿、小石原系仏花器等の近世遺物の他、奈良時代須恵器高坏、中世瓦質火舎等が出土している。

土壙　SX0029(＝0065)（図57・59）

１区１面検出。近世の土壙である。掘方は平面形が楕円形で、形状は円筒状である。埋土は暗灰褐色粘質土で砂礫はわずかに木炭を含む。掘方の規模は1.60×1.30m、深さは0.63mである。底面の標高は3.50m。長軸の方位はN

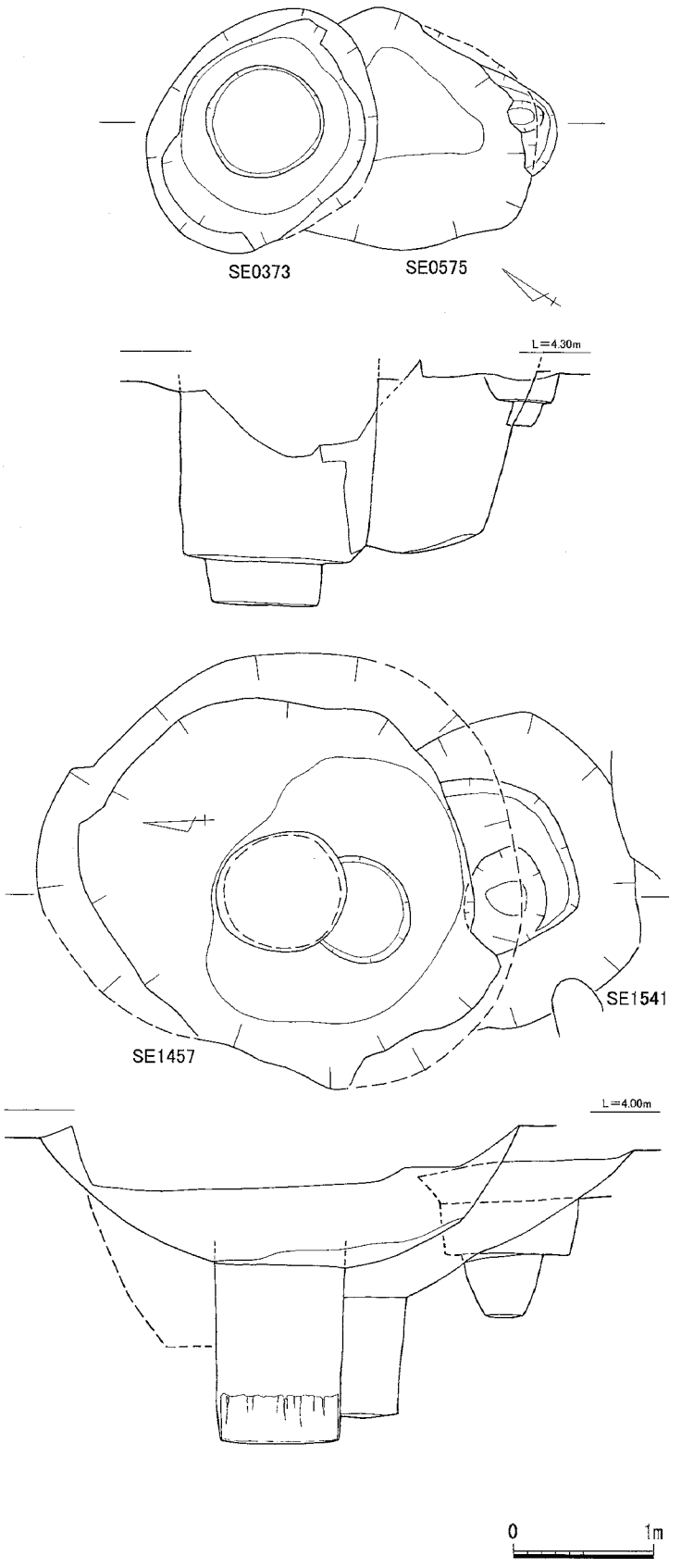


図47 SE0373・0575・1457・1541平面及び断面図(1/50)

-57°-W。遺構の先後関係はSP212→SX065(SX029)である。

出土遺物(157～159)　肥前系染付・白磁猪口157・青磁鉢159、小石原系鉢楠木正成を讃える絵柄の近代色絵椀、土製鈴158等の近世～近代の遺物他、中国産白磁椀Ⅱ・Ⅴ類、褐釉皿が出土している。

土壙　SX0038(図57・59)　1区2面検出。近世の土壙である。掘方は平面形が隅丸長方形で、断面形は逆台形。埋土は木炭ガラを多く含む黒灰色混砂粘質土。掘方の規模は1.54×1.08×0.48mで底面の標高は3.82m。長軸の方位はN-58°-W。遺構の先後関係はSX01101→SX0038、SP0097→SX0038、SE0100→SX00383。

出土遺物(160)　肥前染付椀・白磁皿160、小石原系瓶、土師器坏、皿、瓦質の三足付火鉢、中国産白磁椀Ⅴ類・小皿等が出土している。

土壙　SX0039(図58・59)　1区2面検出。近世の土壙である。掘方は平面形が隅丸長方形で、断面

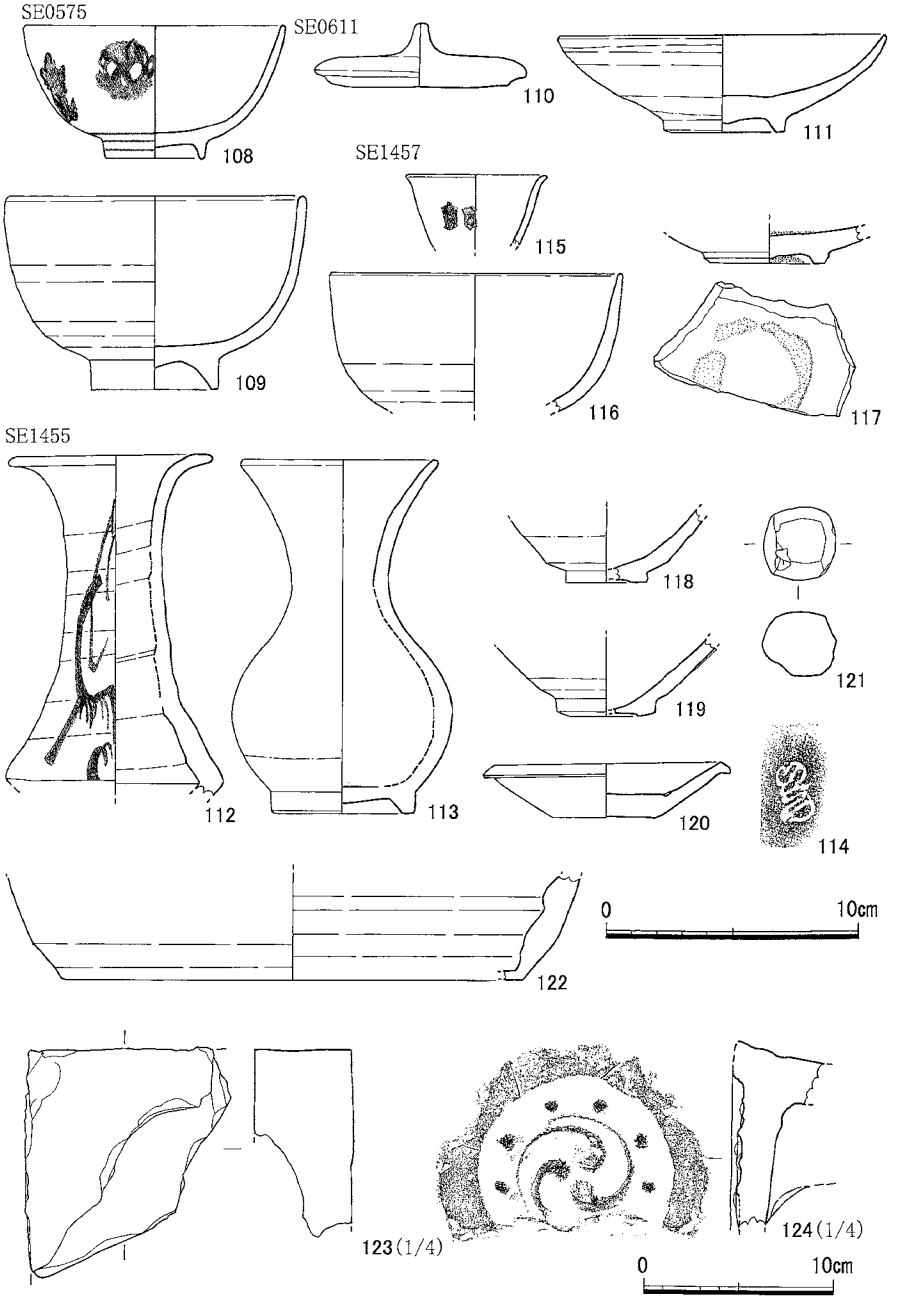


図48 SE0575・0611・1455・1457出土遺物実測図(1/3・1/4)

形は逆台形。埋土は暗灰色粘質土でやや青味を帯びる。木組の痕跡が床面に残っている。掘方の規模は2.0± α ×1.3± αmで、深さは0.54± αmである。底面標高は3.58m。長軸の方位はN-39°40′-W。

出土遺物(161 ～ 164)　肥前系染付皿163・陶器椀161・162・擂鉢164の他、土師器坏・小皿、瓦器椀、瓦質火鉢、龍泉窯系青磁椀等が出土している。

土壙　SX0059(図57・59)　1区2面検出。近世の廃棄用土壙である。掘方は平面形が不定形で、断面形は逆台形。埋土は灰色粘質土。掘方の規模は1.35×1.05×0.4mで、底面の標高は3.71m。長軸の方位はN-33°20′-W。遺構の先後関係はSX0060・SE0122→SX0059である。

出土遺物(165 ～ 170)　肥前系染付椀165・166・猪口・油壺167、唐津系陶器壺168・皿169、瓦質火舎170、七輪、焙烙、三巴文軒丸瓦等の近世遺物の他、弥生土器甕、瓦器椀、中世平瓦片が出土している。

土壙　SX0107(図57)　1区2面検出。近世の土壙である。掘方は平面形が楕円形で、形状は円錐台状である。埋土は暗褐色混砂粘質土。掘方の規模は0.96×0.67m、深さは0.72mで、底面の標高は2.21m。

出土遺物　肥前系染付椀をはじめとする近世遺物の他、奈良時代須恵器坏、古代～中世土師器坏・小皿、中国産白磁椀V類、皿、龍泉窯系青磁椀、黄釉盤、中世瓦等の小片が出土している。

土壙　SX0104(図58・59)　1区2面検出。近世の土壙である。掘方は平面形が隅丸長方形で、断面形は逆台形埋土は暗灰褐色砂質土。掘方の規模は1.91×1.26m、深さは0.46mで、底面の標高は3.38m。長軸の方位はN-35°-W。遺構の先後関係はSX0104→SX0004、SX0056である。

出土遺物(171 ～ 179)　土製鈴171、肥前系青緑釉皿172・173・唐津系青緑釉皿177・徳利179の他、中国産

図49 3区SE1543完掘状況(南東から)

SE1543内土層及び調査区西壁部分土層観察所見

第1　層　混瓦礫砂層(1～3層は現代攪乱)
第2　層　黄褐色粘土塊、黒灰色混砂粘土層
第4　層　暗灰色砂層　10YR3/2
第14　層　黒灰～暗灰色粘質土層
第16　層　レンガ小塊の裏込め土
　(黄橙色粘土・木炭黄灰色砂質土を含む)
第18　層　黒褐色混砂粘質土層
　(黄灰色粘質土・木炭小片・礫を含む)
第19　層　暗褐色混砂粘質土層
　(18層の一部か　黄灰色粘質土を含む)
第20　層　黄灰色粘土と黒褐色との混合土
　(4・14・16・18・19層とは同じ層群)
第64　層　黒灰色砂混砂粘質土、黄灰色含む。
第65　層　暗褐色～褐色砂質土
第66　層　暗灰褐色～暗褐色砂質土
　(木炭・土師片含む)
第67　層　暗褐色砂と黄褐色砂の混合土
第70　層　黒灰褐色～黒褐色混砂粘質土
第71　層　70層より明るい暗灰褐色混砂粘質土
第72　層　暗褐色砂層(木炭・褐色砂混合)
第73①層　黒褐色混砂粘質土(黒色土混入)
第73②層　褐色砂質土小塊
第74　層　黒褐色混砂粘質土
第75　層　黒褐色砂質土と暗褐色砂質土の混合土
第76　層　暗褐色混砂粘質土と黒褐色土の混合土
第77　層　暗褐色砂質土と暗灰褐色砂質土の混合
第78　層　暗褐色砂層
第79　層　黒灰褐色～黒褐色砂質土
　(上層褐色味強い)
第80　層　暗褐色砂層(木炭片含む)
第81　層　暗褐色～褐色砂層
第82　層　褐色砂層(黒灰色粘質土混入)
第83　層　褐色砂層
第84　層　明褐色混砂粘質土
第85　層　褐色砂層(木炭・黒褐色土含む)
第86　層　褐色砂質土
第87　層　褐色～明褐色砂層
第88　層　褐色砂と黒褐色砂質土の混合土
第106　層　褐色(HUE10YR4/4)砂層
　(70、72 ～ 83層がSE1543の埋土)

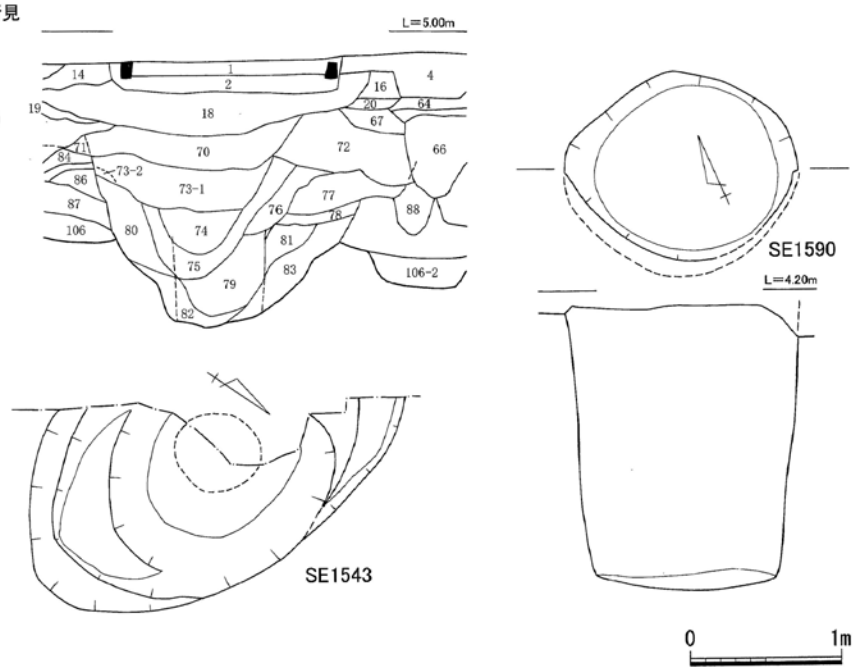


図50 SE1543・1590平面及び断面図(1/50)

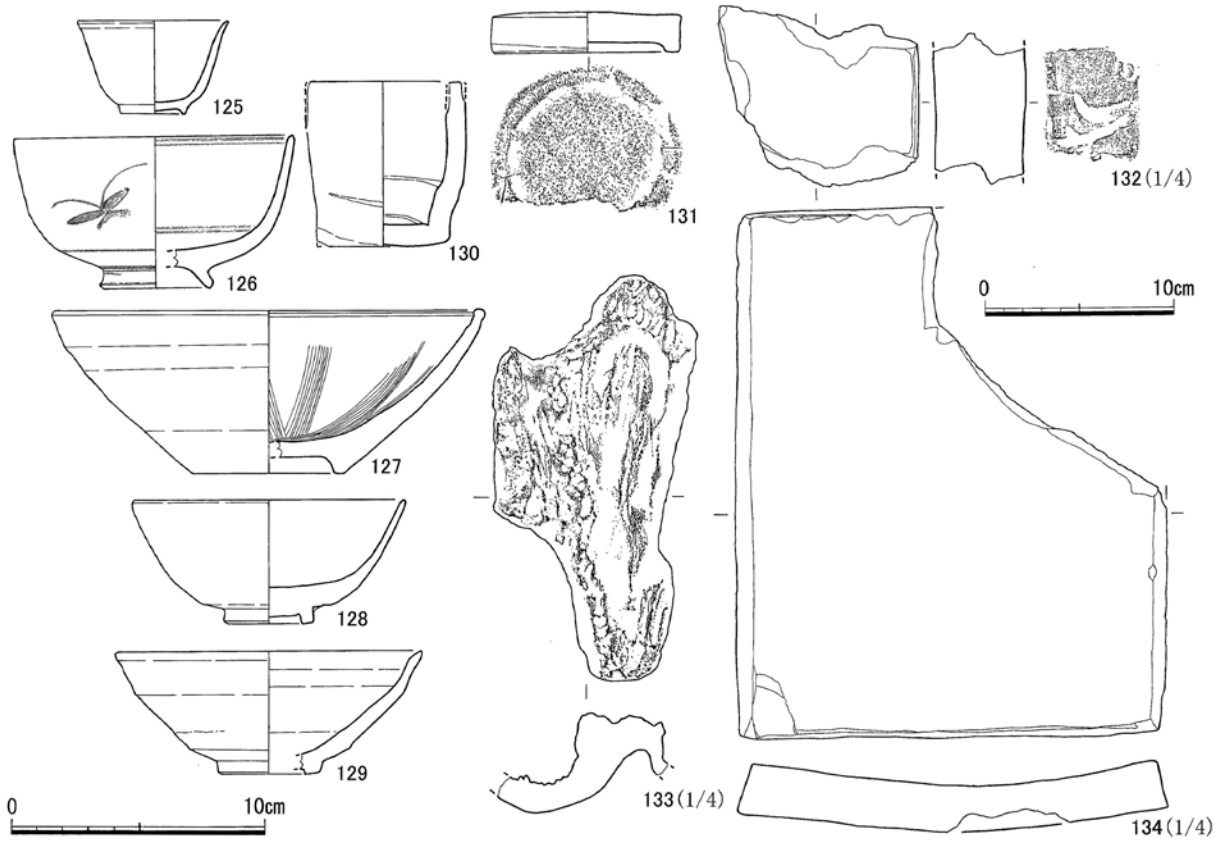


図51 SE1458出土遺物実測図(1/3・1/4)

陶器皿178・中世土師器坏179・小皿174・175が82枚以上まとまって出土している。

土壙　SX0123(図61・63・60)　1区2面検出。近世～近代の石組土壙である。柱等の礎盤の可能性がある。掘方は平面形が楕円形で、断面形は逆台形。埋土は暗灰褐色砂質土。掘方の規模は2.05×1.65m、深さは0.60mで、底面の標高は3.55m。人頭大の平らな礫石を花弁状に据え上面レベルを揃えて平坦に配石している。遺構の先後関係はSX0123→SE0122、SP0273→SX0123、SP0276→SX0123、SE0252→SX0123、SP0272→SX0123である。

出土遺物(180)　肥前系染付椀180の他、中世土師器坏・小皿、瓦、龍泉窯系青磁椀が出土している。

土壙　SX0243(図61・63)　1区2面検出。掘方は平面形が隅丸長方形で、断面形は逆台形。埋土は暗灰～黒灰色砂質土、暗灰褐色混砂質土で木炭片を多く含む。掘方の規模は1.68～1.85m、深さ1.8mで、深さは1.31m。底面の標高は2.76m。長軸の方位はN-33°-W。遺構の先後関係はSE0243→SE0242→SE0067→SE0001、SE0243→SE0244である。

出土遺物(181～189)　肥前系染付椀181・陶器擂鉢185・徳利186、唐津系椀182、刷毛目手椀、皿183、焙烙184、砥石188・189等の他、弥生土器、古墳時代土師器小片、中世土師器坏・小皿東播系捏鉢、中国産白磁椀Ⅱ・Ⅳ・Ⅷ類、龍泉窯系青磁椀、同安窯系青磁椀・皿、滑石製石鍋、瓦塼187等が出土している。

図52 3区SE1458井筒(南西から)

土壙　SX0372(図61)　2区1面検出。近世から近代の土壙である。掘方は平面形が楕円形で、形状は円筒状である。埋土は暗灰色砂質土(木炭含む)。掘方

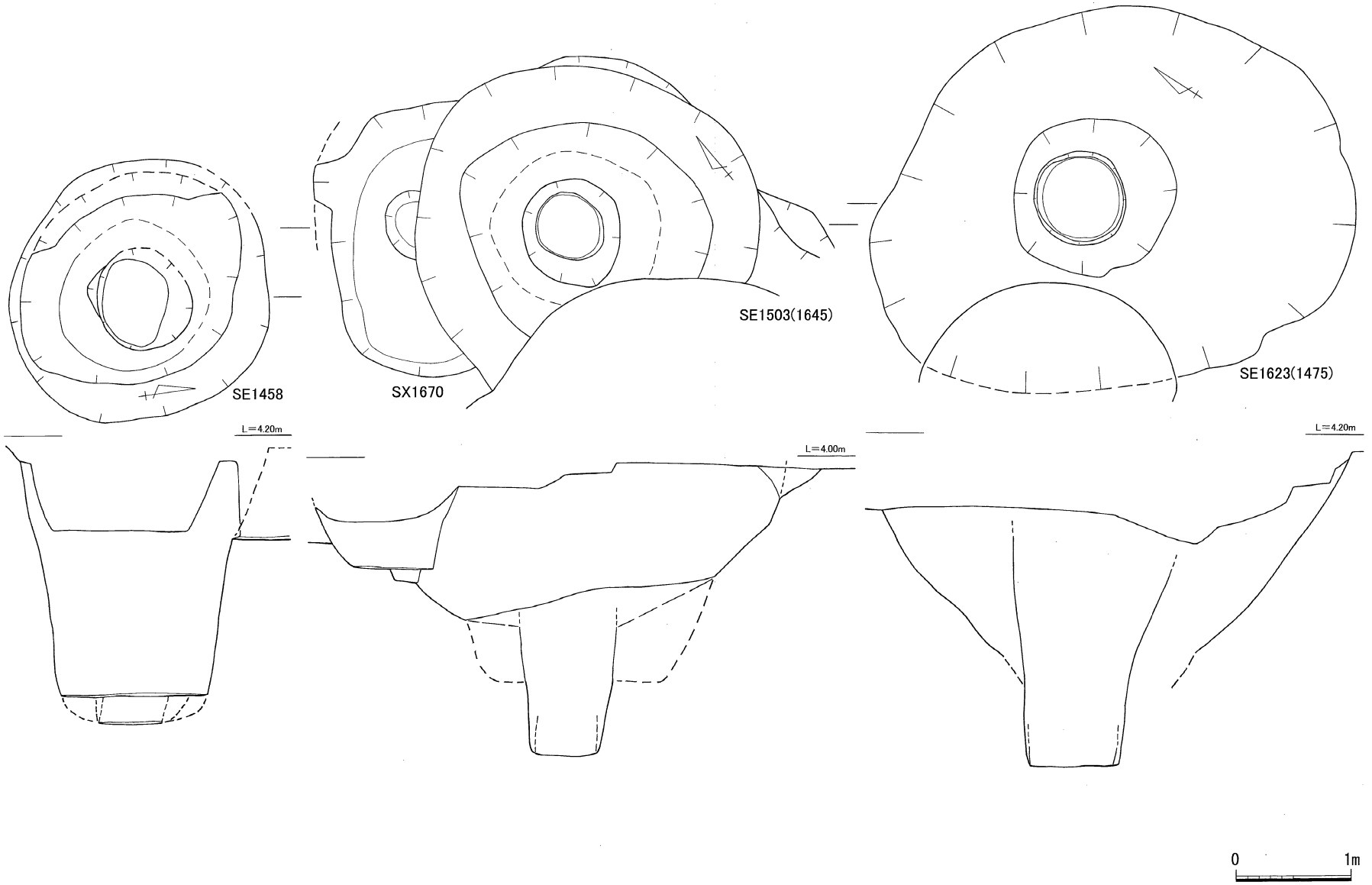


図53 SE1458・1503・1623・SX1670平面及び断面図(1/50)

の規模は1.40×1.27m、深さ0.88mで、底面の標高は3.35m。遺構の先後関係はSX0865→SX0372→SE0370。

出土遺物　肥前系染付椀、唐津系刷毛目手椀等の近世～近代の遺物を主として、古代縄目叩丸瓦、中国産白磁椀Ⅳ・Ⅴ類、龍泉窯系青磁椀、銅銭1点等が出土している。

土壙　SX0374(図61)　2区1面検出。近世から近代の土壙である。掘方は平面形が楕円形で、形状は円錐台状である。埋土は暗灰褐色砂質土(木炭含)～黒灰色砂質土。掘方の規模は1.16×1.10m、深さは0.46mである。底面の標高は4.10m。遺構の先後関係はSX0374→SE0373である。

出土遺物　肥前系染付椀、刷毛目手皿、鉄釉瓶等の他、中世土師器坏・小皿、白磁椀Ⅳ類等が出土。

土壙　SX0518(図61・63)　2区1面検出。近世の土壙である。掘方は平面形が隅丸長方形で、断面形は逆台形。埋土は黒褐色混砂粘質土。掘方の規模は1.32×0.84m、深さは0.21mである。底面の標高は4.33m。長軸の方位はN-38°30′-W。遺構の先後関係はSX0518→SX0517である。

出土遺物(190)　肥前系染付・陶器皿190の他、中世土師器坏・小皿、中国産白磁椀Ⅳ・Ⅴ類、中世瓦片、獣骨片等の小片が出土している。

土壙　SX0811(図62)　2区1面検出。近世の土壙である。掘方は平面形が隅丸長方形で、断面形は逆台形。埋土は暗灰色混砂粘質土。掘方の規模は1.07×0.61mで、深さは0.26mである。底面は標高3.99m。長軸の方位はN-22°15′-W。

出土遺物　近世肥前系染付

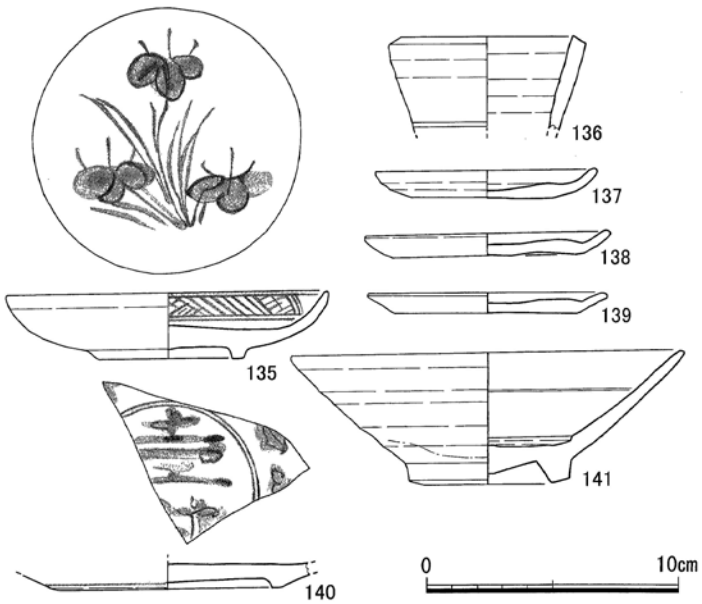


図54 SE1543出土遺物実測図(1/3)

図55 SE1623(1475)井筒検出状況(南から)

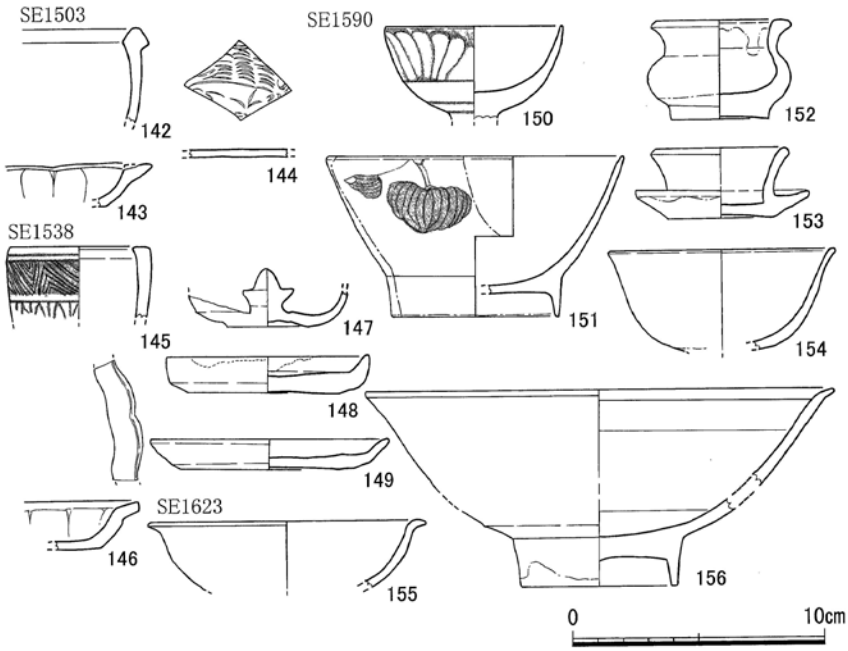


図56 SE1503・1538・1590・1623出土遺物実測図(1/3)

の他、土師器坏・小皿、瓦器椀、瓦等が出土している。

土壙　SX1476（図62）　３区１面検出。近世の土壙である。掘方は平面形が円形で、形状は逆円錐台状である。埋土は暗灰褐色混砂弱粘質土。掘方の規模は1.58×1.5＋αmで、深さは0.47mである。底面の標高は4.15m。

出土遺物　肥前系染付椀・小皿・猪口、土瓶、銅銭、石鍋片等が出土している。

土壙　SX1477（図62・64）　３区１面検出。近世から近代の土壙。掘方は平面形が円形で、形状は円筒状である。埋土は暗灰褐色混砂弱粘質土。掘方の規模は1.72×1.70m、深さは1.81mで、底面標高は2.8m。

出土遺物　肥前系染付椀・小皿・猪口・唐津系刷毛目手皿・椀、花器、小石原系皿・花器・鉢、京焼風の陶器椀、瓦質風炉、土瓶、石鍋、硯が出土している。

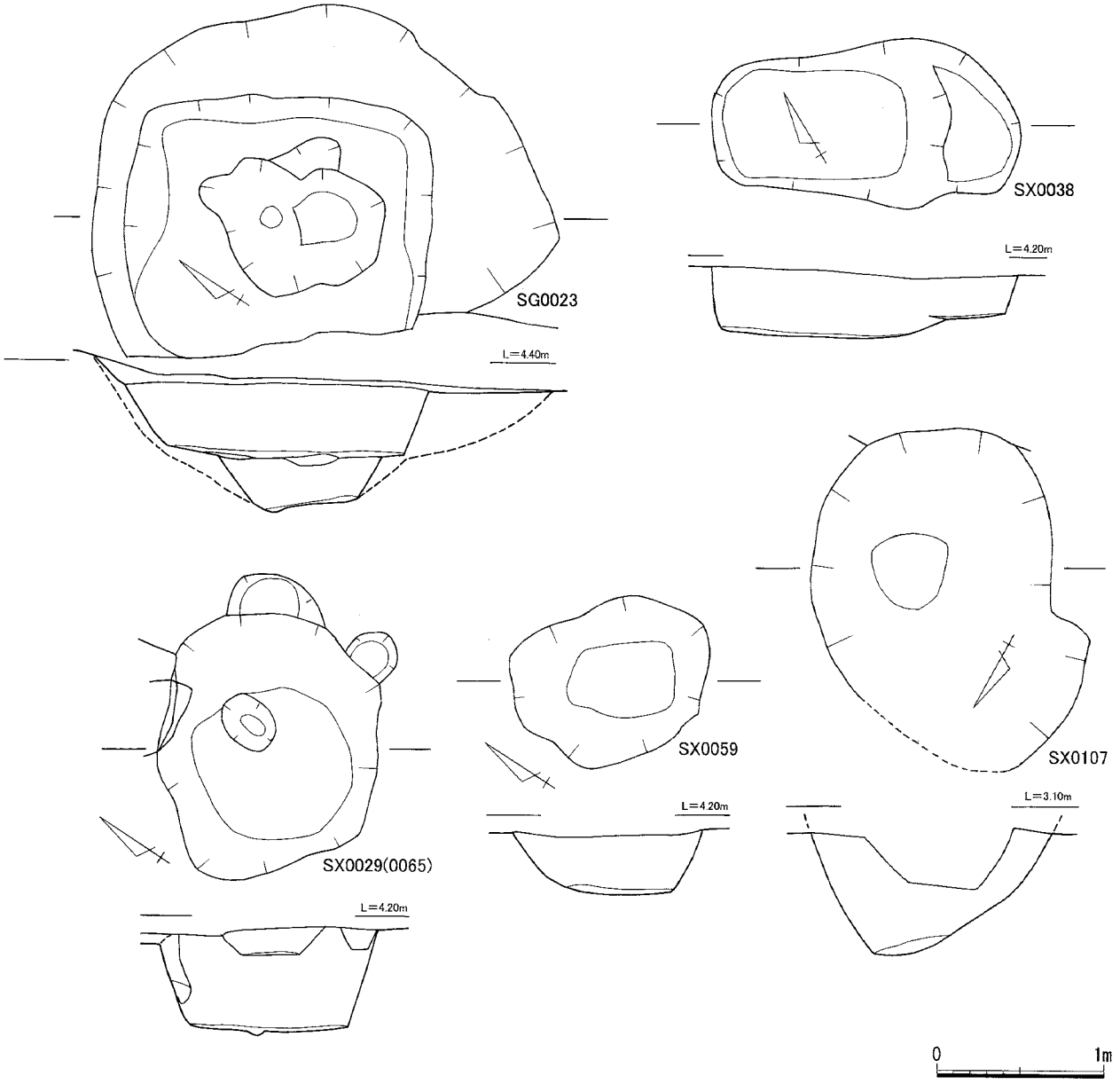


図57 SG0023・SX0029・0038・0059・0107平面及び断面図（1/40）

土壙　SX1479（図62・63）　３区１面検出。近世から近代の土壙である。掘方は平面形が楕円形で、形状は円筒状である。埋土は暗灰～暗灰褐色砂質土で木炭焼土含む。掘方の規模は1.80×1.62×1.10mで、底面の標高は2.85m。

出土遺物（191 ～ 193）　肥前系染付椀・小皿・鉢蓋191、青磁香炉、唐津系椀192・皿、土瓶、土錘、石鍋、砥石193、桟瓦、七輪、焙烙の他、奈良時代須恵器坏、甕、瓦器、土師器坏・小皿、瓦器椀、桟瓦が出土している。

土壙　SX1489（図62）　３区１面検出。近世から近代の土壙である。掘方は平面形が楕円形で、形状は円錐台状である。埋土は暗灰褐色～灰褐色混砂粘質土。掘方の規模は1.18×0.90m、深さは0.37mで、底面の標高は3.60mである。

出土遺物　近世瓦片、中国産陶磁器片、土師器坏・小皿が少量出土している。

土壙　SX1507（図62・65）３区１面検出。近世から近代の土壙である。掘方は平面形が楕円形で、形状は円筒状である。埋土は暗茶灰色砂土で木炭片を若干含む。掘方の規模は1.65×1.40m、深さは0.76mで、底面の標高は3.87mである。

出土遺物　肥前系染付椀・小皿、唐津系椀・小皿、擂鉢、七輪、焙烙、三巴文軒丸瓦、軒平瓦、七輪の他、奈良時代須恵器坏・皿、土師器椀・坏・小皿、中国産白磁椀Ⅱ・Ⅴ・Ⅵ類・小皿、緑釉陶器、磁灯窯系黄釉陶器盤、褐釉耳壺、鉢、銅銭、李朝陶器片が出土している。

枡　SG0239（図68・70）　１区２面検出。近世の枡である。掘方は平面形が隅丸長方形で、断面形は逆台形。埋土は暗灰～暗青灰色粘質土床面には鉄分が沈着し硬く締まっている。掘方の規模は1.52×1.22m。深さは0.44mで、底面の標高は3.33m。長軸の方位はN-56°45′-Wである。

出土遺物（194 ～ 205）　肥前系猪口194・195・椀197・198・皿199、唐津系椀196・猪口、小石原系か壺200、香炉205、中国産白磁皿Ⅲ類201・青白磁輪花椀203、龍泉窯系青磁椀202、黒釉天目椀204、滑石製石鍋、東播系捏鉢、銅銭、獣骨片、貝殻等出土している。

枡　SG0361（図68・77・66）　２区１面検出。近世から近代の枡である。掘方は平面形が隅丸長方形で、断面形は逆台形。埋土は軟質の暗灰褐色砂質土で瓦礫を含む。木組を検出している。掘方の規模は1.81×1.45m、深さは0.17mで、底面の標高は4.1m。長軸の方位はN-32°15′-Wである。遺構の先後関

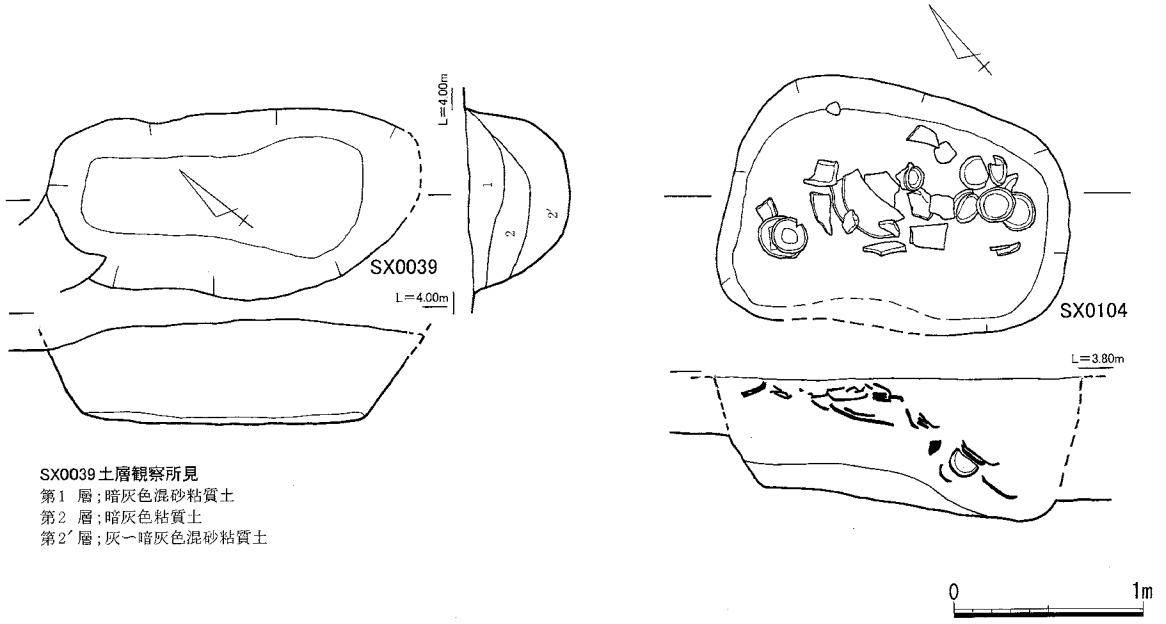


図58 SX0039・0104平面及び断面図（1/40）

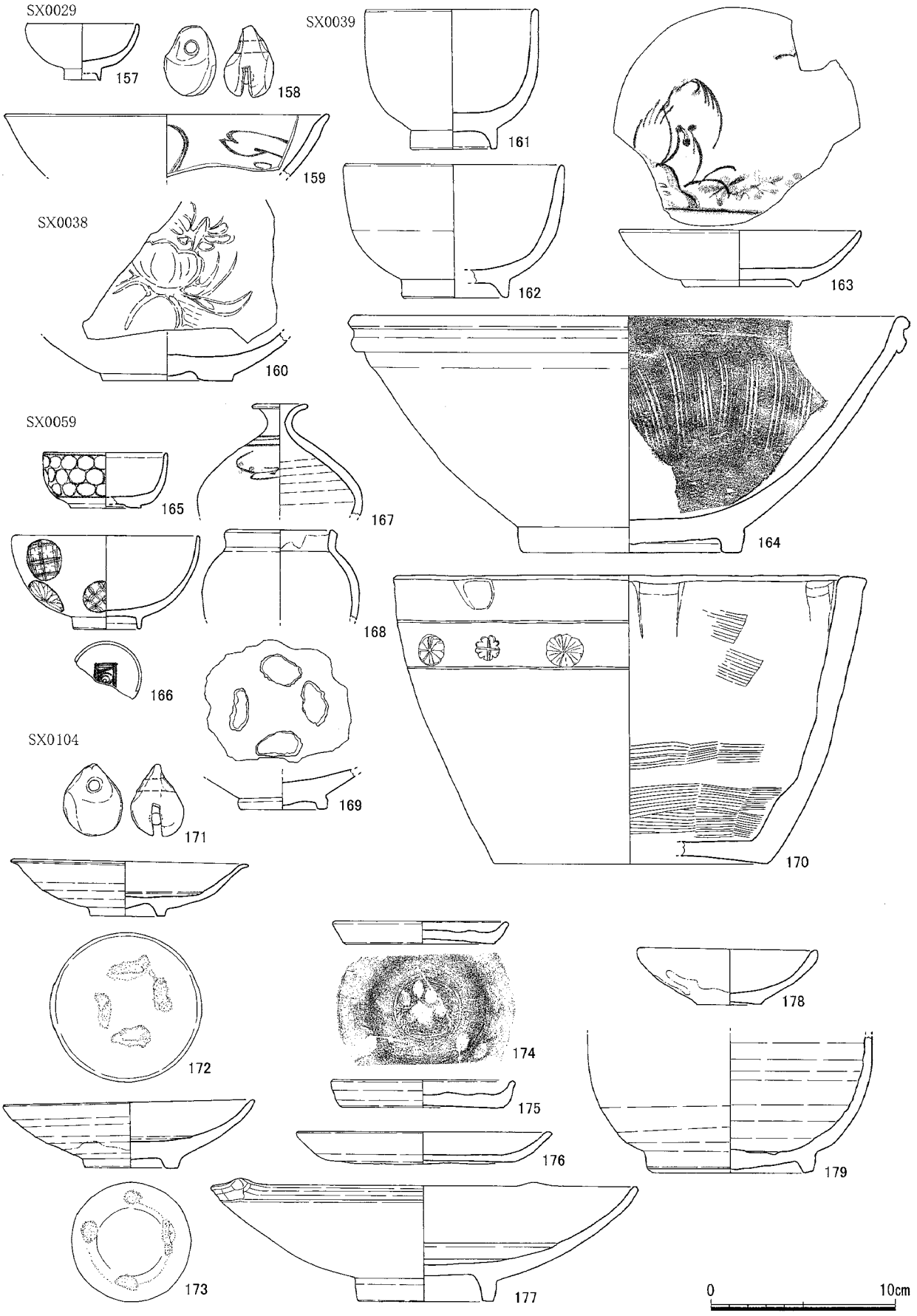


図59 SX0029・0038・0039・0059・0104出土遺物実測図(1/3)

図60 1区SX0123完掘状況(北から)

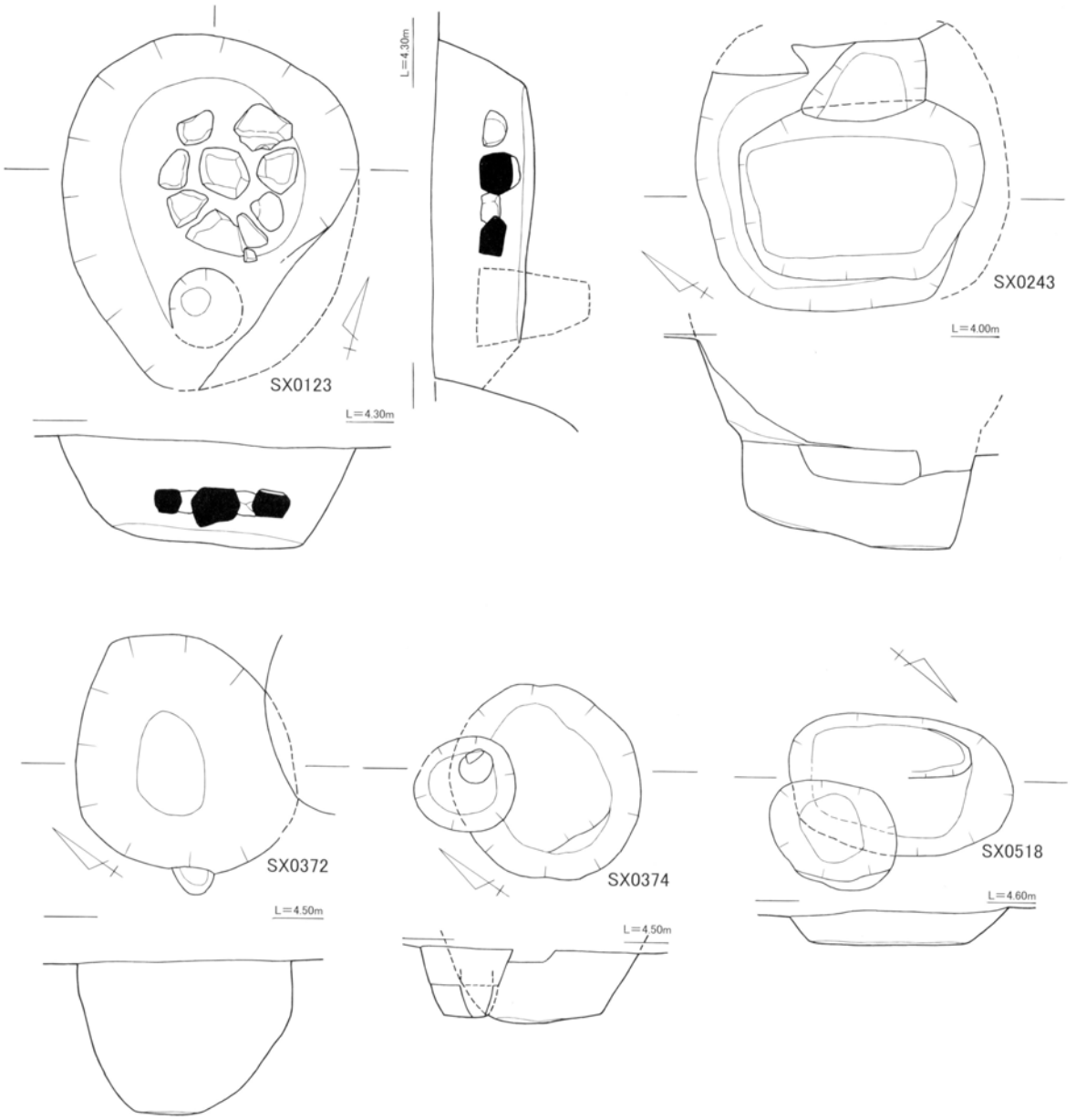
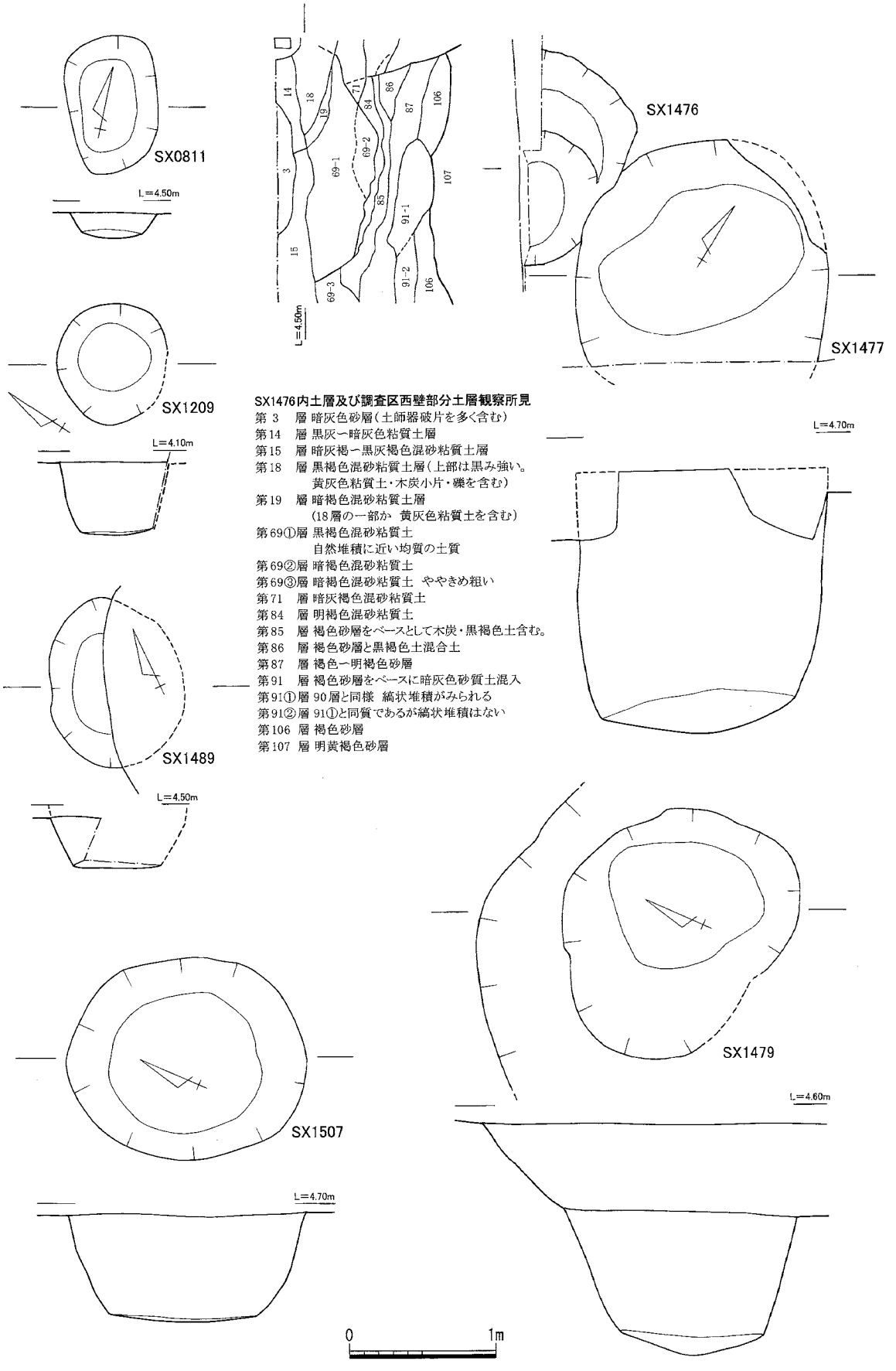


図61 SX0123・0243・0372・0374・0518平面及び断面図(1/40)



SX1476内土層及び調査区西壁部分土層観察所見

第 3　層 暗灰色砂層（土師器破片を多く含む）
第14　層 黒灰ー暗灰色粘質土層
第15　層 暗灰褐ー黒灰褐色混砂粘質土層
第18　層 黒褐色混砂粘質土層（上部は黒み強い。
　　黄灰色粘質土・木炭小片・礫を含む）
第19　層 暗褐色混砂粘質土層
　　（18層の一部か　黄灰色粘質土を含む）
第69①層 黒褐色混砂粘質土
　　自然堆積に近い均質の土質
第69②層 暗褐色混砂粘質土
第69③層 暗褐色混砂粘質土　ややきめ粗い
第71　層 暗灰褐色混砂粘質土
第84　層 明褐色混砂粘質土
第85　層 褐色砂層をベースとして木炭・黒褐色土含む。
第86　層 褐色砂層と黒褐色土混合土
第87　層 褐色ー明褐色砂層
第91　層 褐色砂層をベースに暗灰色砂質土混入
第91①層 90層と同様　縞状堆積がみられる
第91②層 91①と同質であるが縞状堆積はない
第106　層 褐色砂層
第107　層 明黄褐色砂層

図62 SX0811・1209・1476・1477・1479・1489・1507平面及び断面図（1/40）

係は SX0361→ SX0381→ SX0379。

出土遺物(206 ～ 210)　肥前系染付皿208・209、仏花器206・207、産地不明の陶器擂鉢210・瓶、七輪、近世平瓦、中国産白磁椀Ⅳ・Ⅷ類、黄釉盤等が出土している。

枡　SG0365(図71・77・72)　２区１面検出。掘方は平面形が不定形で、断面形は逆台形。埋土は暗茶褐色砂質土、下部には暗灰色砂質土。掘方の規模は2.30×1.52m。深さは0.55mで、底面の標高は3.94m。長軸の方位はN-34°-W。遺構の先後関係は SX0821→ SX0824→ SX0542→ SG0365。

出土遺物(211 ～ 218)　肥前系染付皿217・椀・猪口・鉢・唐津系か小椀211 ～ 214・灯火皿215・大皿・仏花器、土師質焙烙、土鍋、擂鉢216、桟瓦、土製鈴、唐子、大黒人形、粘板岩製砥石218等の近世～近代の遺物が多量に出土している。

枡　SG0366(図68・77)　２区１面検出。近世から近代の枡である。掘方は平面形が隅丸長方形で、断面形は逆台形。埋土は暗褐色砂質土(やや明るい)・木炭含む。掘方の規模は1.71×1.18 。深さは0.24mで、底面の標高は4.26mである。長軸の方位はN-54°30′-Wである。遺構の先後関係は SX0542→ SX0366。

出土遺物(219・220)　肥前系陶器皿220、小石原系陶器皿、土製鈴、古墳時代土師器甕、中世土師

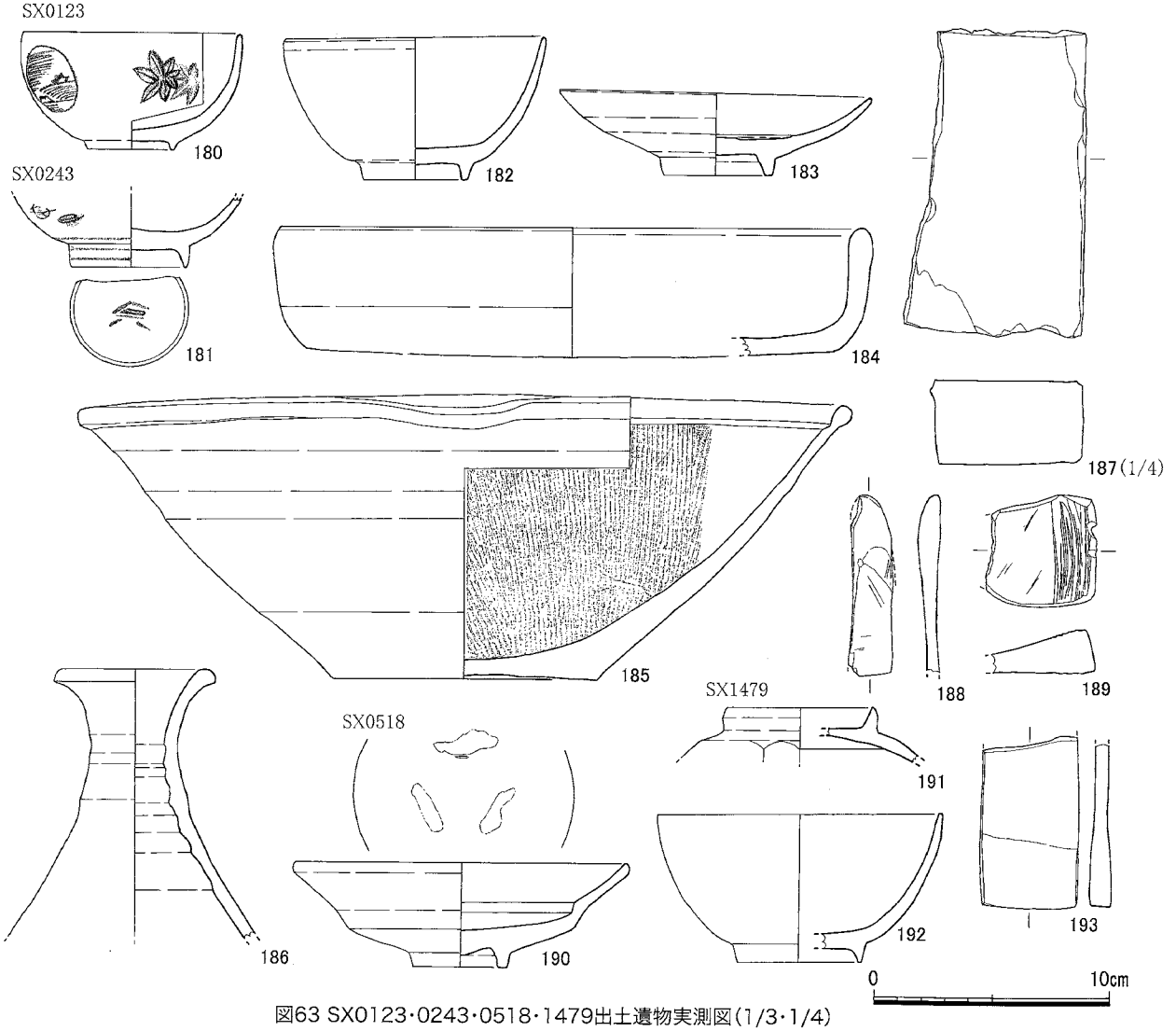


図63 SX0123・0243・0518・1479出土遺物実測図(1/3・1/4)

器坏・小皿、中国産白磁Ⅱ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅷ類、龍泉窯系青磁椀、同安窯系青磁椀、褐釉陶器水注又は瓶219、皿、滑石製石鍋、中世瓦片、獣骨片等が出土している。

枡　SG0375（図68・67）　２区１面検出。近世から近代の枡である。掘方は平面形が隅丸長方形で、断面形は逆台形。埋土は灰色～暗黄灰色砂質土～砂で底面には鉄分が硬く沈着している。掘方の規模は2.17×0.98m。深さは0.30mで、底面の標高は4.05m。長軸の方位はN-33°-W。遺構の先後関係はSE0611→SX0375である。

出土遺物　肥前系染付椀、刷毛目手椀・小皿、鉄釉瓶等の近世遺物の他、中世土師器坏・小皿、白磁椀Ⅳ・Ⅴ・Ⅷ類等が出土している。

土壙　SX0792（図68・77）　２区１面検出。近世の桝である。掘方は平面形が隅丸長方形で、断面形は逆台形。埋土は暗灰～暗黄灰褐色砂質土。掘方の規模は1.22×0.70m、深さは0.16mで、底面の標高は4.27m。長軸の方位はN-27°-E。

出土遺物（221～224）　肥前系染付椀221・白磁皿222、土師質焙烙223、李朝粉青沙器皿224、銅銭１点が出土している。

枡　SG1463（図68）　３区１面検出。近世から近代の枡である。掘方は平面形が隅丸長方形で、断面形は逆台形。埋土は上層は茶褐色混砂弱粘質土下層から床面には暗褐色混砂粘質土、灰色粗砂の混合土が堆積している。掘方の規模は2.24×1.22m。深さは0.62mで、底面の標高は3.89m。長軸の包囲はN-31°-Wである。

出土遺物　肥前系染付椀、皿、猪口、唐津系刷毛目手皿、無文椀、陶器擂鉢、近世瓦、キセル吸口、銅銭、土鈴、土人形等の大量の近世～近代の遺物の他、中国産黒釉天目椀の他、奈良時代須恵器坏、土師器坏・小皿、東播系捏鉢、瓦質火鉢、中国産白磁Ⅳ・Ⅴ類、口禿白磁皿が出土している。

枡　SG1492（図68）　３区１面検出。近世から近代の枡である。掘方は平面形が隅丸長方形で、断面形は逆台形。埋土は暗黄灰色～暗灰褐色混砂弱粘質土。掘方の規模は1.78×1.34m、深さは0.45mで、底面の標高は4.05m。長軸の方位はN-32°-W。

土壙　SX0394（図69）　２区１面検出。近世から近代の枡である。掘方は平面形が楕円形で、形状は円錐台

図64 SX1477完掘状況（南から）

図65 SX1507完掘状況（東から）

図66 SG0361完掘状況（南から）

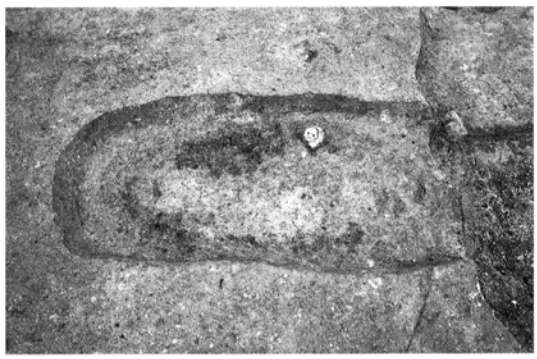


図67 SG0375完掘状況（西南から）

状である。埋土は灰褐色～暗褐色混砂粘質土。掘方の規模は1.24×1.24m、深さは0.72mで、底面の標高は3.88m。

出土遺物　近世～近代の七輪、土管、近世瓦片を中心として、中世土師器坏・小皿、中国産白磁椀Ⅱ類・小皿Ⅵ類、貝殻片等が出土している。

土壙　SX0821（図71・73）　２区１面検出。近世の土壙である。掘方は平面形が円形で、形状は円筒状である。埋土は暗灰色砂質土。掘方の規模は1.15×1.02m、深さは1.01mで、底面の標高は3.65m。遺構の先後関係はE0821→SX0542→SX0365である。井戸の可能性がある。

出土遺物　土師器坏・小皿、瓦器椀、中国産白磁椀Ⅳ・Ⅴ・Ⅷ類、東播系捏鉢等出土している。

土壙　SX0824（図71・77・73）　２区１面検出。近世の土壙である。掘方は平面形が円形で、形状は円筒状である。埋土は暗灰～黒灰色砂質土。掘方の規模は1.10×1.06m、深さは0.73mである。底面

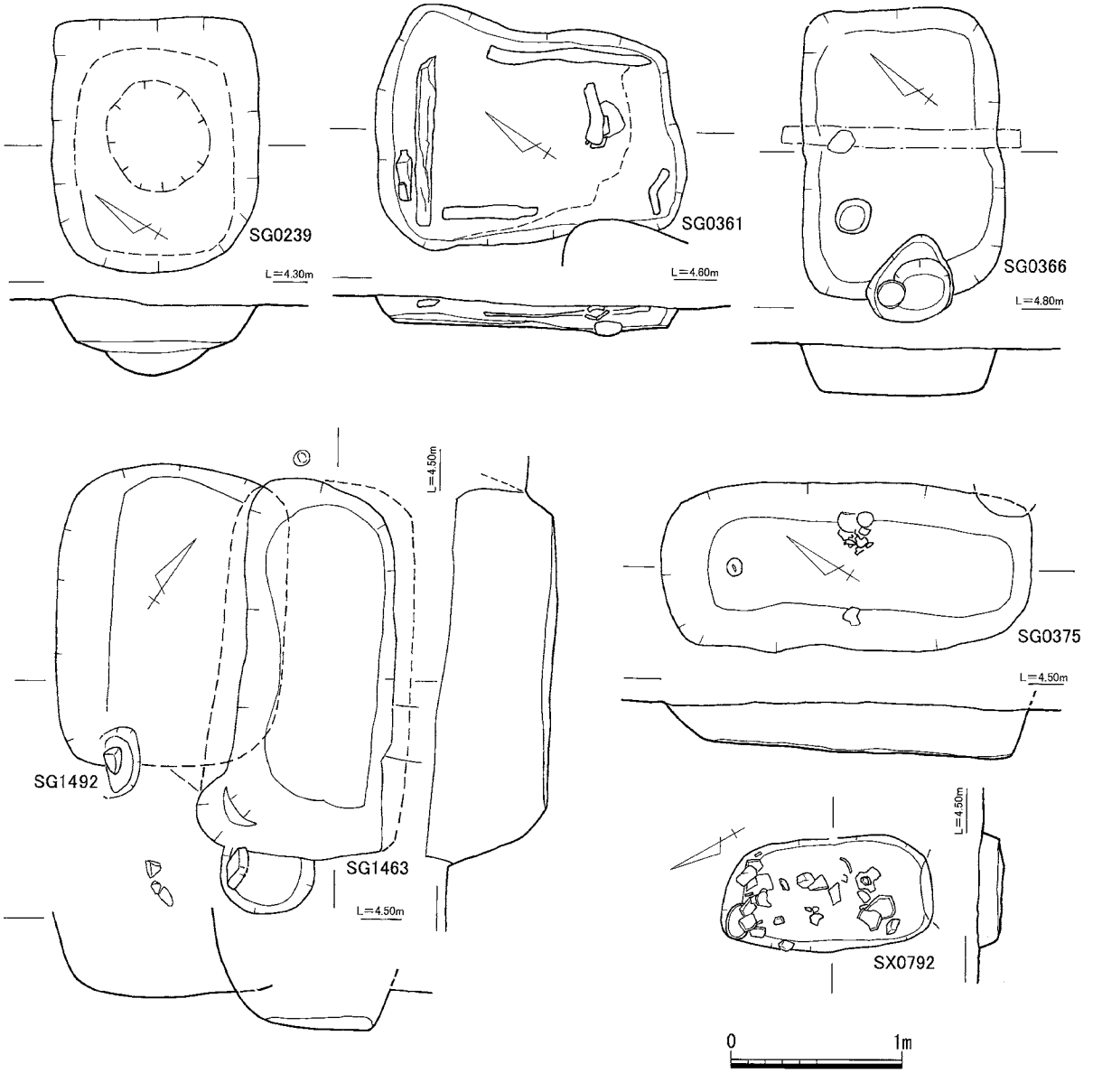


図68 SG0239・0361・0366・0375・0792・1463・1492平面及び断面図（1/40）

の標高は3.72m。井戸の可能性がある。遺構の先後関係はSX0821→SX0824→SX0542→SG0365である。

出土遺物(225・226)　近世瓦の他、奈良時代須恵器坏蓋、中国産白磁Ⅱ・Ⅳ・Ⅴ類・陶器耳壺225・226が出土している。

枡　SG1451(図71・77)　3区1面検出。近世の木枠桝である。掘方は平面形が隅丸長方形で、断面形は逆台形。埋土は暗灰～暗青灰色混砂若粘質土で砂礫を含む床面には薄く鉄分が沈殿し硬く締まっている。基底部で木質痕跡を確認。掘方は2.01×1.72mで、深さは0.21m。底面の標高は4.49m。長軸の方位はN-26°30′-Wである。

出土遺物(227)　肥前系染付、七輪、土師器坏・小皿中国産白磁椀Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ類、高麗青磁椀227等が出土している。

枡　SG1509(図71・74)　3区1面検出。近世から近代の木枠組枡である。掘方は平面形が隅丸長方形で、断面形は逆台形。埋土は暗灰～灰褐色混砂弱粘質土で砂礫を含む。掘方は2.25×1.75mで、深さは0.25m。底面の標高は4.34m。長軸の方位はN-34°-Wである。

出土遺物　肥前系染付椀・小皿、備前擂鉢、平瓦、七輪の他、土師器坏・小皿、龍泉窯系青磁椀、同安窯系青磁皿等の小片が出土している。

枡(石組)　SG1510(図76・75)　3区1面検出。近世から近代の木枠組枡である。掘方は平面形が不定形で断面形は逆台形。埋土は暗灰～黒灰色混砂粘質土。多量の瓦礫を含む。礫石は石組みが崩落したものである。掘方は3.33×2.81mで、深さは1.08mである。底面の標高は3.05m。長軸の方位はN-35°-Wである。

出土遺物　肥前系染付椀・小皿、土瓶、丸・平瓦、三巴文軒丸瓦、七輪等の近世～近代遺物の他、土師器坏・小皿、中国産白磁椀Ⅱ・Ⅳ・Ⅵ類、口禿白磁皿、龍泉窯系青磁椀Ⅳ類、同安窯系青磁皿、緑釉陶器、磁灯窯系盤、褐釉耳壺、土鈴、石鍋等の小片が出土している。博多人形土型がまとまって出土している。

以下では、その他の遺構から出土した特徴的な遺物について述べる。

1区1面検出の現代コンクリー

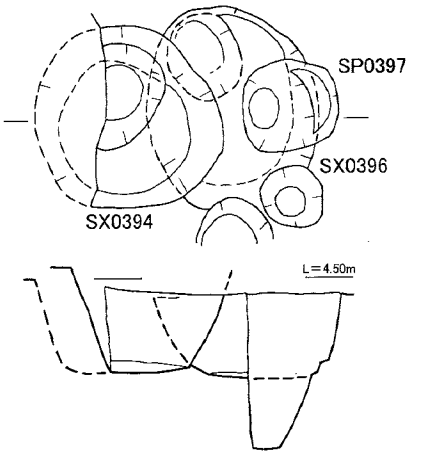


図69 SX0394・0396・SP0397
平面及び断面図(1/40)

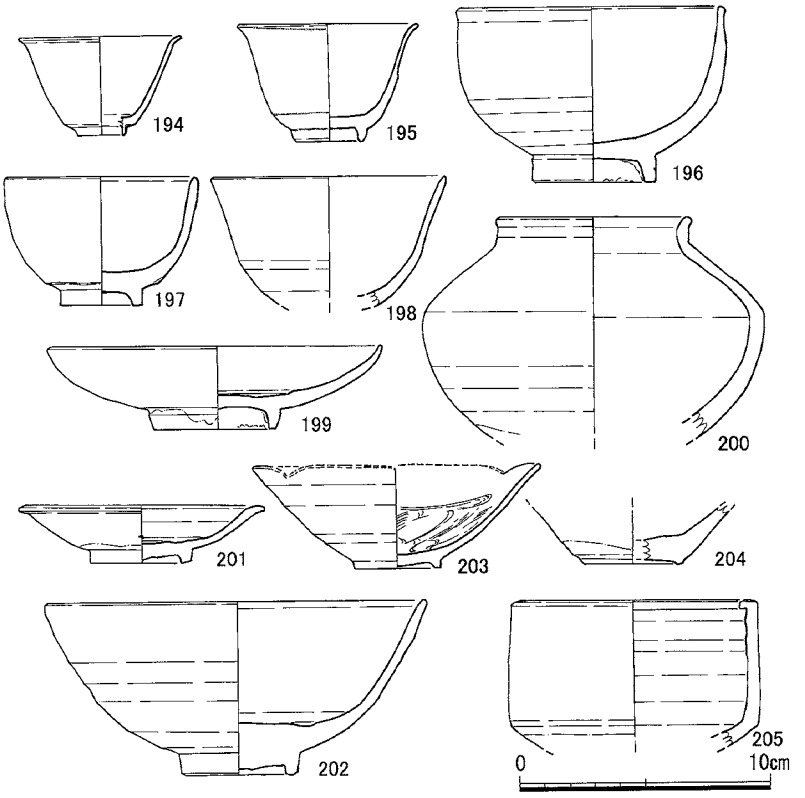


図70 SG0239出土遺物実測図(1/3)

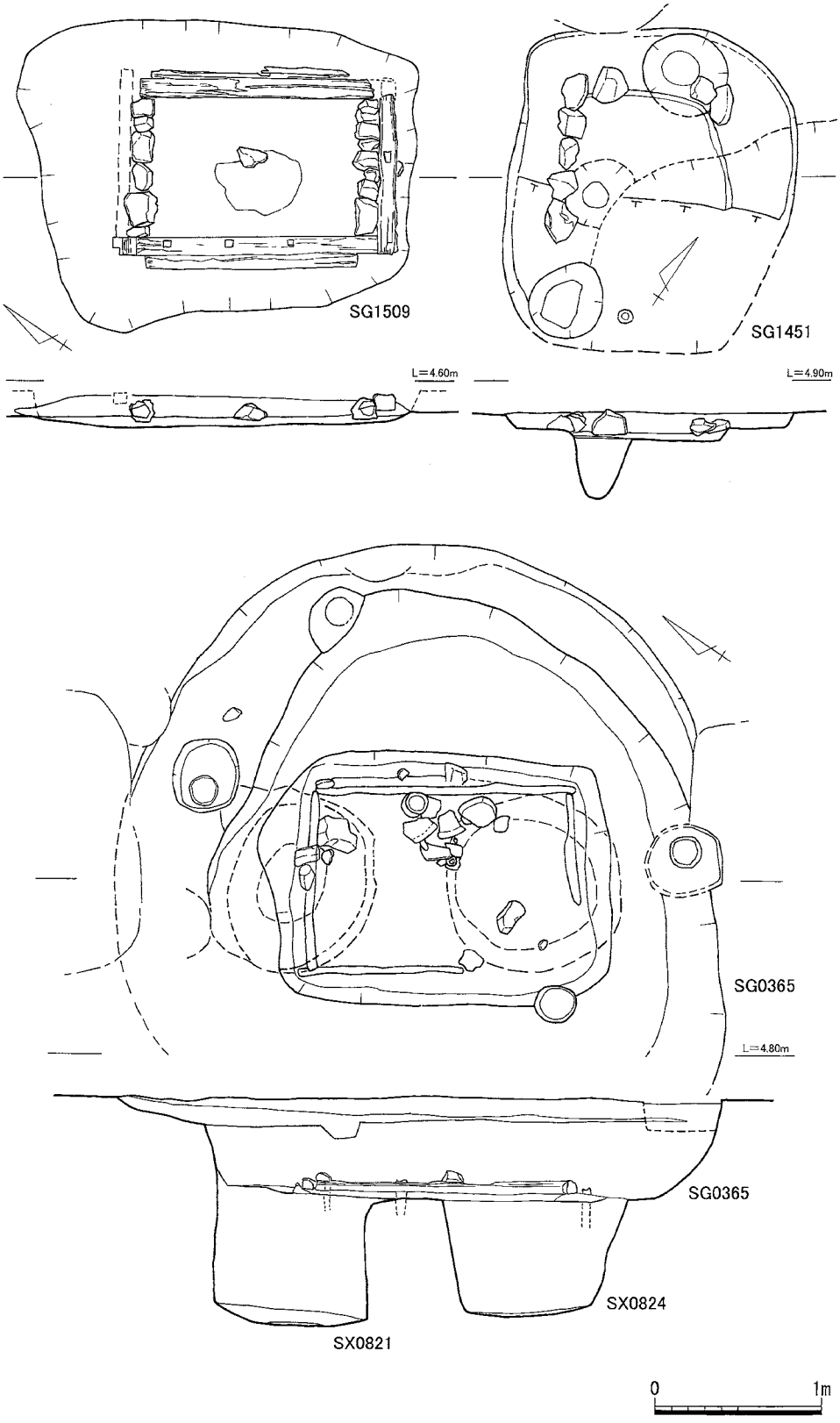


図71 SG0365・1451・1509、SX0821・0824平面及び断面図(1/40)

図72 SG0365完掘状況・遺物出土状況(南から)

図73 SX0821・0824完掘状況(北西から)

図74 SG1509完掘状況(東から)

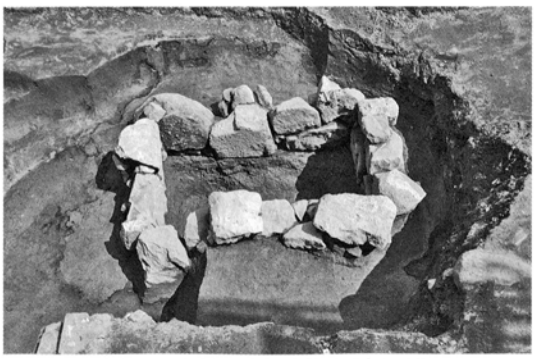


図75 SG1510完掘状況(西南から)

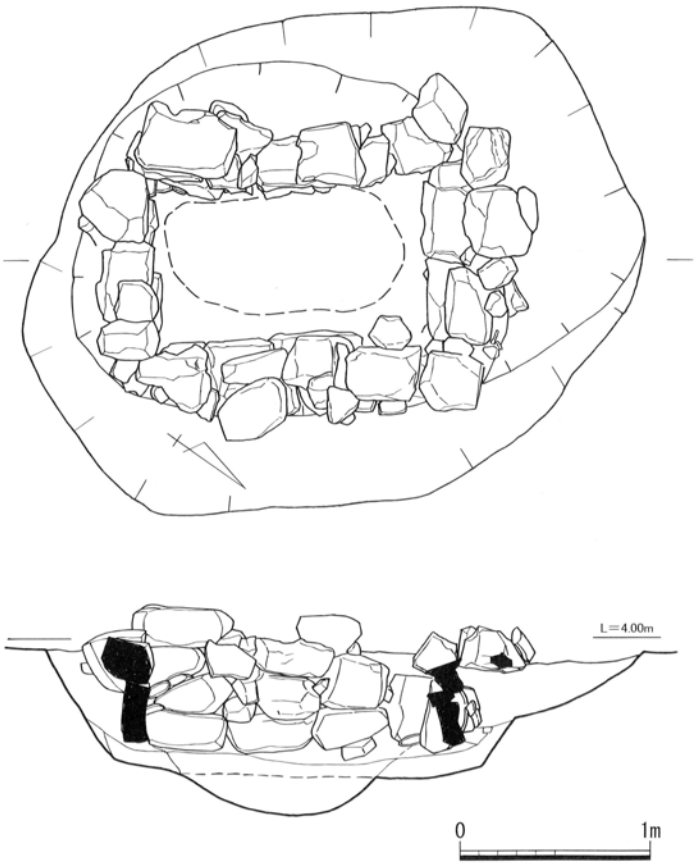


図76 SG1510平面及び断面図(1/40)

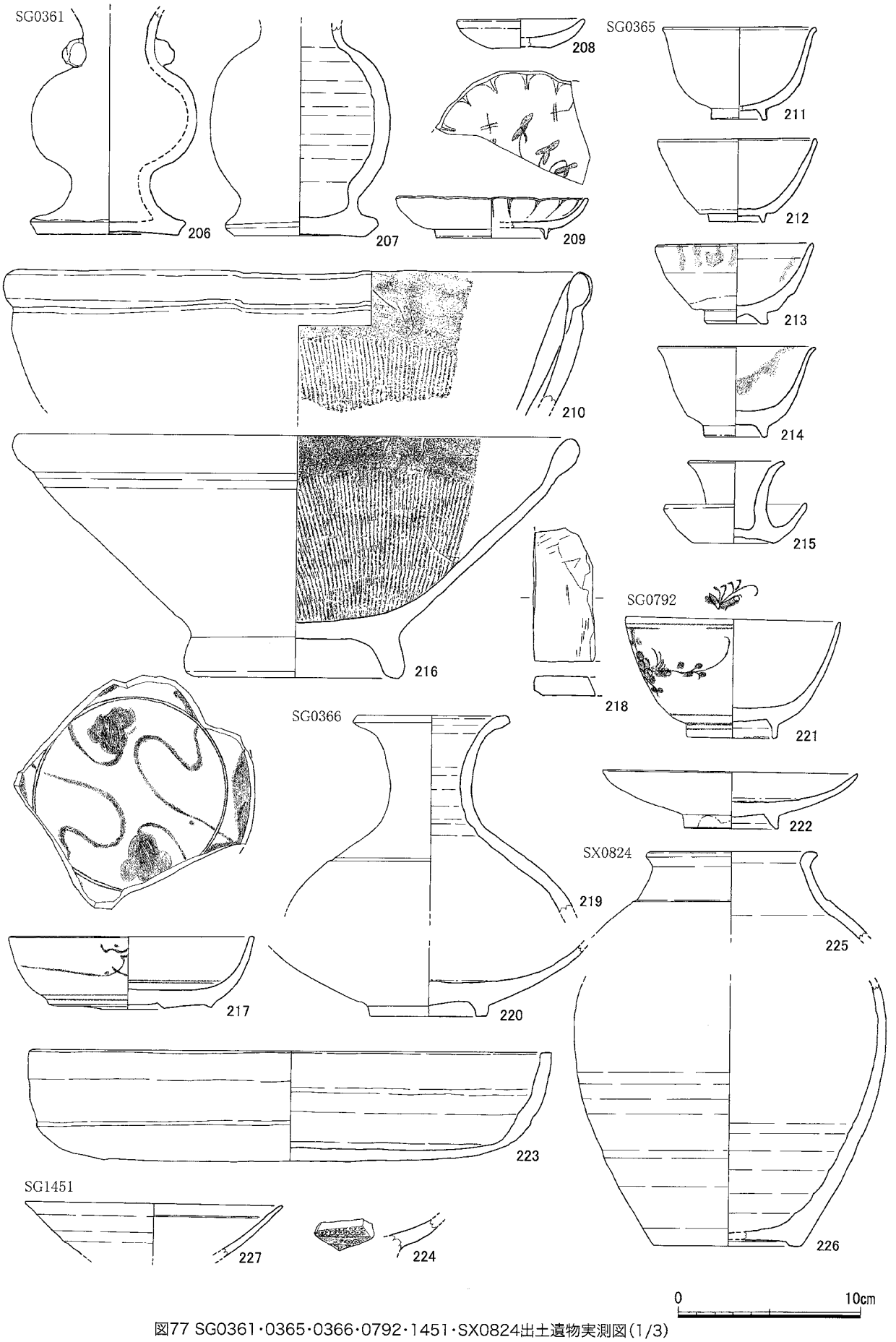


図77 SG0361・0365・0366・0792・1451・SX0824出土遺物実測図(1/3)

ト製井戸であるSE0001(図78)からは、「博多三右衛門」印判がある近世丸瓦228、中国産白磁皿Ⅲ類229・230が出土している。

1区1面検出の近世～近代の土壙であるSX0027(図78)からは、肥前系染付猪口233・陶器皿234、中国産白磁皿Ⅲ類232等が、SX0041からは、肥前系染付椀236・238・皿237、中国産白磁椀Ⅱ類239が出土している。1区1面検出の近世の土壙であるSX0031(図78)からは、肥前系青釉大皿235等が、SX0065(図78)からは緑釉盤240が出土している。

1区2面検出の近代土壙であるSX0106(図78)からは、三葉藤巴文軒丸瓦241、三巴文軒丸瓦243、軒平瓦242、博多人形片、土瓶等が、1区2面検出の近世土壙であるSX0128(図78)からは、青白磁合子身244、肥前系青磁椀245、土錘246、唐津系椀・小皿等が出土している。

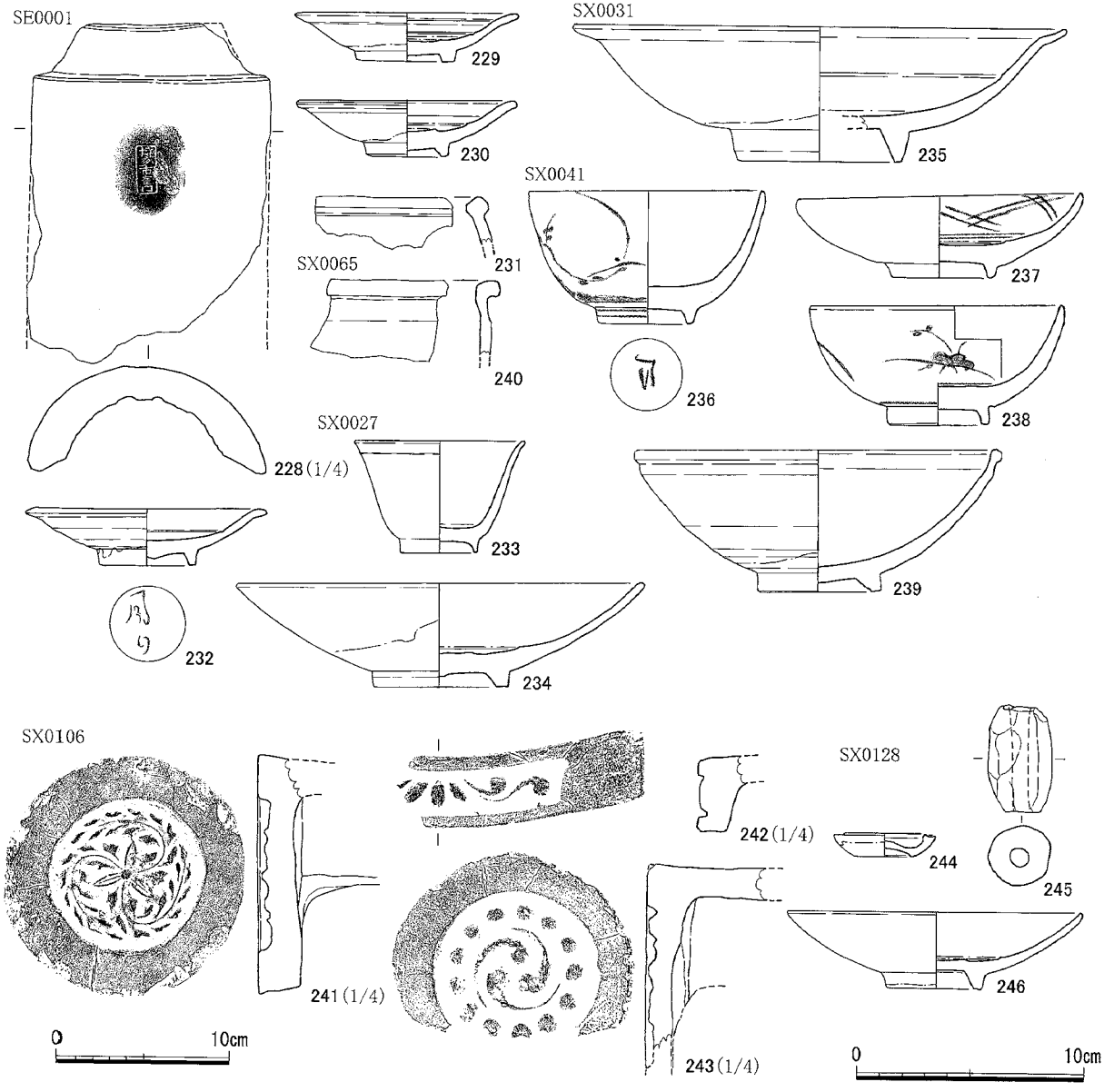


図78 その他の遺物(SE0001・SX0027・0031・0041・0065・0106・0128)出土実測図(1/3・1/4)

表2 近世遺構出土遺物観察表

頁	挿図番号	遺物番号	出土遺構	遺物登録番号	分類	時期	法量(cm) 口径又は長さ	底径	高台 高さ	高台 直径	腰部径	幅	器高	厚さ	胎土又は材質	焼成	色調又は釉調	成形・調整・施文等の特徴 その他特記事項
13	24	1	SE 0054	00075	肥前系染付猪口	近世	5.4	–	0.4	2.4	–	–	3.7	–	精緻	堅緻	淡く青味ある透明釉	染付の発色やや不良
		2		00072	肥前系染付椀	近世	–	–	0.9～1.0	4.8	–	–	(5.0)	–	精緻	堅緻	淡く青味ある透明釉	染付の発色良好(コバルトブルー)
		3		00079	中国産白磁口禿皿(大I X1c類)	中世	10.9	5.8	–	–	–	–	3.0	–	精良	堅緻	淡く青味ある透明釉	底部は釉を掻きならしている
		7		00080	中国産青白磁合子身	中世	(4.3)受部4.8	3.0	–	–	–	–	(1.9)	–	白色 精緻	堅緻	青味ある透明釉	体部、内面に施釉
14	28	10	SE 0002	00019	肥前系染付猪口	近世	5.4	–	–	2.4	–	–	2.5～2.6	–	白色 精緻	–	釉ダマリは青緑がかかっている 発色良好 透明釉	
		11		00012	肥前系白磁小椀	近世	(7.0～7.1)	–	–	2.8	–	–	4.3～4.4	–	白色精緻	堅緻	透明 やや青味有り	高台畳付に砂目残る(全面施釉後掻取っている)釉色はダミ色に近い ロクロ水引痕残る
		12		00013	肥前系染付小椀	近世	(8.8)	–	–	3.6～3.8	–	–	5.3	–	黒色砂粒含む精緻 灰色～白色	堅緻	透明	高台畳付は露胎,砂付き 染付色は鉄釉に近い(唐津)暗灰緑色
		13		00011	肥前系染付小椀	近世	8.1～8.4	–	–	3.1～3.2	–	–	4.4～4.6	–	精緻	良	発色不良くすんだ青	全面磁釉後高台畳付は掻取 焼き歪んでおり口縁は波うっている
		14		00010	肥前系染付椀	近世	9.2～9.3	–	–	–	–	9.0	≒6.3～6.5	–	精良(白)	堅緻	ややくすんだ藍色	網目が外面にみられる
		15		00024	肥前系染付椀	近世	10.1	–	–	4.0	–	–	5.0	–	白色 精緻	堅緻	発色良～染め付け淡青色	内外面ともに網目 内低見込にも施文(内容は不明)外面には水挽き痕残る
		16		00023	肥前系染付椀	近世	11.8	–	–	4.4	–	–	5.3	–	精緻 灰色～白色	堅緻	(やや発色悪いコバルトブルの染付 絵付	全面施釉後内底は輪状に釉剥ぎ
		17		00014	肥前系陶器鉄釉椀	近世	8.8～8.9	–	–	3.7	–	–	4.9～5.0	–	精緻 暗灰褐色	堅緻	黒褐(オリーブ色)口縁部は浸け掛けによる	高台畳付は露胎. 全面施釉
		18		00020	肥前系陶器皿(灯明)	近世	6.1～8.6	4.0～4.1	–	–	–	–	3.5	–	明赤褐色 精良	硬く焼き締まっている	赤褐色	左回転
		19		00015	肥前系陶器刷毛文椀	近世	–	–	–	–	–	–	–	–	茶褐色きめ細かく精良	堅緻	茶褐色に見えるが,透明釉か刷毛白色釉	外面は波形刷毛文 内面は打刷毛文(現川かどうか?)
		20		00021	陶器擂鉢	近世以降	22.2	–	–	–	–	–	10cm前後か?	–	精良	堅く焼締まる	特有の照りのある鉄釉(壺)	やや小振り 降ろし目は内面全面
		21		00018	肥前系陶器片口小鉢	近世以降	10.0	3.8～4.0	–	–	–	–	3.8	–	黒茶褐色泥質土きめが細かい	堅緻	鉄釉(柿釉ー照り有)	降ろし目は0.8～0.9cm内に7条底部から口縁へ向けている小鉢として食器にもちいられたものか?
		22		00026	肥前系染付皿	近世	13.6	–	–	4.2	–		3.3	–	白色 精緻	堅緻	発色やや不良 くすんだ青色	釉薬はつけかけによる 高台から体部下半は露胎 内底は輪状掻き取り
		23		00025	肥前系染付皿	近世	13.7	10.1	–	8.3	–	–	2.4～2.5	–	白色 精緻	堅緻	淡く青味 絵付けはややくすんだ青	荒磯・松・鶴2羽を描く
		24		00022	肥前系陶器京焼風皿	近世	–	–	–	5.6～5.9	–	–	–	–	白色精良ややしまりない	良 硬く焼き締まっている	透明な黄白色	表面には細やか表層水裂.一見萩焼風砂は白黒半透明白.きめ細かい 内外面ともに全面施釉
		25		00017	肥前系染付鉢	近世	(11.2)	9.4	–	7.4	–	–	8.0	–	灰白色(内)精緻	堅緻	淡灰褐色表裂が多い	高台は暗赤褐色～灰赤褐色 内面にはロクロ水挽痕を強く残す
		27		00027	肥前系青磁鉢	近世～	22.3	–	–	12.2	–	–	8.5～8.6	–	白～灰白色精緻	堅緻	透明な緑灰色	内面に浅く片ヘラ彫の草文を施文後施釉している
		28		00028	小石原系陶器鉢	近世～	26.8	11.2～13	–	–	–	–	6.5～7.0	–	灰白色 精緻	堅緻	緑灰色～緑茶色 器表面(露胎部分)は赤褐色	焼き歪んでいる ロクロ痕全面に残る
16	30	32	SE 0058	00082	肥前系陶器椀	近世	12.2	–	0.5	5.0	–	–	4.8	–	精良 白色	堅く締まる	黄褐色がかった透明釉	濫色による風景絵(発色不良)細かい貫入が全面有
		33		00081	肥前系陶器椀	近世	12.5	–	0.5	5.2	–	–	5.1	–	精良 白色	堅く締まる	黄褐色がかった透明釉	濫色による風景絵(発色不良)細かい貫入が全面有
		34		00083	肥前系京焼風陶器椀	近世	15.0	–	0.8	5.2	–	–	6.1	–	精良 白色	堅く締まる	白色の透明釉	青緑・朱・青・黄土色による絵付後焼成それぞれ黒色線で縁どっている(剥落している)
		35		00088	肥前系染付皿	近世	13.2	–	0.4	5.4	–	–	3.2	–	精緻	堅緻	淡く青味ある透明釉	高台畳付に砂目付着
		36		00084	肥前系染付(又は白磁)椀	近世	8.3	–	0.7	2.9	–	–	4.4	–	精緻	堅緻	透明で淡く青み有る白色	高台のところどころに砂目あり 全面施釉
		37		00086	肥前系青緑釉磁器皿	近世	22.0	–	0.6	11.0	–	–	3.6	–	精緻 白～灰白色	堅緻	緑灰～緑色 釉層は全体に厚い	高台内には輪状掻き取り 底部～高台焼きひずんでいる
		38		00085	肥前系陶器椀	近世か	12.4	–	1.0	5.6	–	–	8.4	–	灰色～茶灰色石英砂多く含む	堅緻	灰～灰緑色	椀の腰は高く全体に高くみえる(1/2復元) ロクロ回転ヘラケズリ
		39		00087	唐津二彩刷毛目文大鉢	近世～	33.9	–	1.4	12.6	–	–	9.6	–	精良	堅緻		
		40		00089	唐津二彩刷毛目毛文大皿	近世～	37.2	–	1.3	14.7	–	–	10.8	–	精良 暗赤褐色	堅緻	緑釉 鉄釉によって地文である白濁釉の上に施文施釉している	砂目跡は7カ所 目跡は打欠ている
17	31	41	SE 0064	00096	石製硯	近世～	5.6	–	–	–	–	6.0		1.5	灰色、凝灰岩質か	–		
		42	SE 0363	00361	肥前系磁器椀	近世～	–	4.0	–	–	–	–	(2.5)		黒色粒(非常に細かい)多く含む 灰白色	–	釉は灰白色	文様は灰色を呈する
		45	SE 0122 掘方	00138	中国陶器緑釉薬壺か	11C～か?	–	–	–	–	–	–	0.2～0.3	–	精良 灰白	よく焼き締まる	深い緑色 発色良し	中国磁壮窯系の可能性有り胎土釉調から型押成形ー内面に指痕
		48		00140	陶器擂鉢	近世	32.9	10.5	–	–	–	–	14.1	–	赤褐～赤橙褐色(白色砂を含む)	堅緻	茶褐色	降ろし目の単位は16条(幅4cm)
19	34	49	SE 0186	00183	肥前系(唐津か)擂鉢	近世	(26.8)	–	–	–	–	–		–	精良 灰色	堅緻	茶褐色	降ろし目は4条1単位(幅1.4～1.5cm)外面には水挽き後が強く残る
		50		00180	肥前系(唐津か)擂鉢	近世～	(28.8)	–	–	–	–	–	–	–	精良微細な石英砂を多く含む	堅緻	茶褐色	降ろし目は10条1単位(幅2.2cm)(1/10) ロクロ回転ヨコナデ
		51		00181	肥前系(唐津か)擂鉢	近世～	(30.1)	–	–	–	–	–	–	–	精良 1～2mm大の石英砂を多く含む	堅緻	暗茶褐色	降ろし目は10条単位(幅2.5cm)(1/10) ロクロ回転ヨコナデ
		52		00184	肥前系(唐津か)擂鉢	近世～	(24.7)	–	–	–	(31.1)	–	–	–	精緻 暗紫褐色	堅緻	暗褐色～黒褐 鉄釉を淡くかけている	水挽き後を強く残している 耳は装飾的に貼り付けている 内面は格子目叩痕(ナデ消している)
		53		00182	肥前系(唐津か)擂鉢	近世～	(31.5)	(13.5～14)	–	–	–	–	10.9	–	精良 石英・長石砂を多く含む	堅緻	暗赤褐色	全体に焼きひずみが大きい ロクロ回転ヨコナデ(水挽きが強く残る)
		58		00170	軒平瓦	近世～	15.0	–	–	–	–	[24.0]	–	2.0	砂粒を多く含み粗い	軟 もろい	黒灰色	
		59		00171	軒平瓦	近世	3.0	–	–	–		[26.0]	–	(2.0)	砂粒を多く含み粗い	軟 もろい	黒灰色	
		63		00175	石製硯	近世	10.7	–	–	–	–	6.0	–	1.3	凝灰岩質粘板岩製	–	灰～暗灰色	

頁	挿図番号	遺物番号	出土遺構	遺物登録番号	分類	時期	法量(cm) 口径又は長さ	底径	高台 高さ	高台 直径	胴部径	幅	器高	厚さ	胎土又は材質	焼成	色調又は釉調	成形・調整・施文等の特徴 その他特記事項
20	38	64	SE 0227	00196	肥前系(唐津)打刷毛波状文椀	近世	13.2	–	0.4	4.8	–	–	3.7～3.9	–	精緻　暗茶褐色	堅緻	刷毛目→白色　染め付け→灰黄褐色釉	現川焼の可能性有り 京焼風の高台ケズリの手法に注意→窯印有り
		65		00193	中国産緑釉陶器(皿か)	11C～	2.4	2.1	–	–	–	–	0.3～0.4	–	精良　灰色	よく焼き締まっている	深い緑色　裏面は透明な緑釉	内面に印花文
		66		00194	中国産緑釉陶器(水注か)	11C～	3.5	2.8	–	–	–	–	0.4～0.5	–	精良　黄白色(黒・白・赤褐色の砂粒含む)	よく焼き締まっている	緑色不透明釉	外面はヘラ描き草花文か 内面はナデ
		67		00195	中国産緑釉陶器(貼付文皿か)	11C～	3.5	2.1	–	–	–	–	0.7	–	精良　淡く赤みある白色土	軟	透明な深い緑	土師器の胎土に似るが均質な泥質土(ややざらっとしている)
		68		00192	中国産青釉合子	中世～	7.9受 8.7	高0.5 径5.4	–	–	–	–	2.5	–	精緻　微細な黒色斑含む	堅緻	ややくすんだ半透明の青色	外面には浮彫風の雲文とら線文を施文
		69	SE 0367	00389	肥前系染付小椀	近世	(8.9)		–	–	–	–	(3.1)	–	細かい黒色粒多く含む　白色	良好	白色	口縁部1/4残存　外面に染付による植物文
		70		00388	肥前系色絵椀	近世	(9.0)	–	–	–	–	–	(4.6)	–	細かい砂粒ごくわずか含む　淡褐色	良好	淡褐色	口縁部1/4残存　外面には色絵で施されている
		71		00387	肥前系陶器椀	近世	(8.8)	–	–	–	–	–	(3.2)	–	細かい砂粒含む　灰色	良好	黒褐色　この上に黄褐色釉で重ね掛けを行う	(口縁部1/4残存)
		72		00385	肥前系染付油瓶	近世	–	–	0.7	3.4	–	–	(8.0)	–	砂粒はほとんど混じっていない　白色		釉はやや青味ある透明な白色	(口縁部欠損)　胴部には染付による草花文を施す(筆?)
		73		00394	肥前系白磁徳利	近世	2.8	–	–	–	–	–	(8.0)	–	黒色粒少量含む　灰白色	良好	釉は透明な灰白色	口縁部
		74		00381	陶器壺(肥前系か)	近世	(7.0)	–	–	–	–	–	(3.4)	–	精良　淡灰褐色	良好	褐色～淡褐色の下地の釉を口縁部内外面に施しその上に透明釉を施す	(口縁～胴部1/4残存)29
		75		00382	陶器壺(肥前系か)	近世	(7.0)	–	–	–	–	–	(3.1)	–	黒色粒及び白色粒少量含む　褐色	良好	刷毛目後その上に透明釉を施す	(口縁～胴部1/8弱残存)
		76		00386	陶器鉢(肥前系か)	近世	(13.7)	–	–	–	–	–	(4.0)	–	白,黒色粒少量含む　灰褐色	良好	釉は淡黄褐色　2度掛け	(口縁部1/12残存)
		77		00383	陶器甕(肥前系か)	近世	(25.8)	–	–	–	–	–	(6.8)	–	白色粒5mm以下多く含む　灰褐色	良好	外側は暗褐色　内側は灰褐色	口縁部1/10残存
21	40	78	SX 0252 掘方	00266	肥前系(唐津)椀	近世～	11.4	–	0.8	5.0	–	–	7.1	–	淡く黄味がかった白色	–	–	京風の唐津,見た目以上に軽く感じる　明黄褐釉が全面,細かい氷裂が全面に見られる
		79		00268	肥前系(唐津)陶器鉢	近世	11.9	–	–	–	10.0		–	–	赤～褐色　精緻	良く焼き締まっている,温度が低	緑～緑灰色　発色不明	体部下半は露胎 口縁部を内側に折り返し丸く仕上げている
		80		00267	肥前系(唐津)陶器壺	近世	8.4	–	–	–	11.2		–	–	赤褐色の精緻	良,良く焼き締まっている	青緑釉　発色良好	口縁内面上部まで施釉,肩の張りは弱い
		81		00272	肥前系染付皿	近世	14.1	–	0.5	8.9	–	–	3.1	–	白色　精緻	堅緻	薄くダミ　染付はコバルト色	
		84		00269	肥前系(唐津か)陶器擂鉢	–	–	–	–	–	–	–	–	–	白砂,黒色灰を含むややきめ粗	堅緻	赤褐色	中国製の可能性有 降ろし目は6条1単位
		85		00270	肥前系(唐津か)陶器擂鉢	–	–	–	–	–	–	–	–	–	暗赤褐色　きめ細かな泥質土	堅緻	暗赤褐色	
		86		00271	肥前系(唐津か)陶器擂鉢	–	–	–			–	–	–	–	12に良く似る	堅緻	暗赤灰褐色	
		87		00274	肥前系(唐津か)陶器擂鉢	–	37.2	–	–	–	–	–	–	–	暗褐色　精緻	堅緻	暗褐色	降ろし目は14条が1単位　鉄製が鋭い
		88		00273	肥前系(唐津か)陶器擂鉢	–	32.3	–	–	–	–	74.0	–	–	暗赤褐色　精緻	堅緻	暗褐色	降ろし目は14条が1単位 暗褐色内外とも丁寧なヨコナデ
		90		00261	中国産白磁 V4b類	12C半～後半	–	–	1.8	6.0	–	–	–	–	精緻　黒色斑微細粒	堅緻	灰白色透明,スが点在している	高台外底に墨書有 ヘラケズリ出
		93		00275	中国産青白磁皿か	–	–	–	0.5	4.5	–	–	–	–	白色　精緻	堅緻	淡く青味がかった透明釉	印花(蓮華文)を内底に施文している
23	42	95	SE 0368	00409	肥前系白磁紅皿	近世	4.4	1.2	–	–	–	–	1.4	–	白色	良好	釉はやや緑かかった淡灰白色(透明)	完形　内外面に直径3mm以下の砂粒が付着している　口縁は貝殻状となる
		106		00406	中国産陶器水注?	–	(9.7)	–	–	–	–	–	(2.6)	–	灰褐色	良好	釉は光沢のある暗褐色・緑褐色	口縁部1/8残存
		107		00407	中国産陶器鉢	–	(25.0)	–	–	–	–	–	(4.3)	–	暗褐色粒・黒色粒比較的多く含む　灰褐色	良好	釉は灰褐色	口縁部1/8残存　口縁部内面に目跡がある　一部外面にもみられる
26	48	108	SE 0575	00662	肥前系染付椀	近世	10.4	–	–	4.0	–	–	5.3	–	白色精良　磁器質	–	淡く赤身帯びた乳白色透釉　全釉	外面コンニャク判　近世前半
		109		00663	肥前系陶器椀	近世	(12.0)	–	–	(5.0)	–	–	7.7	–	黄白色　陶胎ざらつき有り	–	乳白色透明釉　全体に細かい氷裂	全釉
		111	SE 0611	00698	–	近世	13.0	–	–	4.9	–	–	3.9	–	黒褐色粒含む	良好	内　緑灰　外　灰白～浅黄	見込み　釉ハギ
		112	SE 1455	01437	花瓶	近世	8.1	–	–	–	8.6	–	(15.0)	–	精緻　暗灰色	堅緻	緑灰色の透明釉　暗緑灰の絵	肥前系(唐津)か 内外面にロクロ水挽き痕残る
		113		01438	肥前系(唐津)瓶	近世	7.8	–	0.8	5.7	8.7	–	14.0	–	精緻　暗赤褐色	堅緻	黒褐色　発色良好	高台,胴部下半,内面以外は全面施釉
		115	SE 1457	01473	肥前系染付猪口	近世	5.5	–	–	–	–	–	(2.9+α)		精緻　微細な黒斑含む	堅緻	淡く青味がかった透明釉	井筒　(1/2)
		116		01474	肥前系(唐津)椀	近世～	11.5	–	–	–	–	–	(5.4+α)					
		117		01475	肥前系(唐津)小皿	17C～	–	–	0/4～0.5	4.8	–	–	(1.5+α)		精良　0.5mmほどの白砂,黒色砂多く含む	堅緻	くすんだ灰緑色の半透明釉	目跡が内底,高台内に残る　井筒(1/3) 高台ヘラケズリ
		118		01477	中国産黒釉天目椀	12C～	–	–	0.5	–	–	–	(3.0+α)		精良　黒色砂を多く含む	堅緻	黒色～黒褐色釉	磁灶窯に似る　(井筒1/12) 高台～体部ヘラケズリ
		119		01476	中国産黒釉天目椀	12C～	–	–	0.6	4.0	–	–	(3.1+α)		精緻　微細な白色黒色砂含む　(灰色)露胎部は暗赤褐色	堅緻	黒褐色　発色良好	やや大型　福建産(建窯か)　井筒(1/3) 高台ヘラケズリ
		122		01478	高麗陶器甕か	11C～	–	(18+α)	–	–	–	–	(4.0+α)		精良 微細な白砂含む(暗赤褐色素質)	堅緻	つやの有る黒灰色	焼成時に気泡ができてふくらんでいる(井筒1/15) ヨコナデ
		124		01472	三巴文軒丸瓦	近世	14.2	瓦当径 10.0	–	–	–	–	–		砂粒を多く含みきめ粗い	堅く締まる	黒灰色	器面ヨコナデ,ナデ
28	51	125	SE 1458	01484	肥前系白磁猪口	近世	5.8	–	0.4	2.5	–	–	3.7		精緻	堅緻	白色の透明釉	外面はロクロヘラケズリ
		126		01483	肥前系染付椀	近世後半～	11.0	–	0.7	4.4	–	–	6.0		精緻　白色	堅緻	淡く青味がかった透明釉	腰が深い　図は裏文　正面文様は欠失(1/2)
		127		01487	肥前系(唐津)擂鉢	近世	17.0	6.0	0.7	6.0	–	–	6.4		きめ粗い　橙色0.5mmほどの白色砂含む	堅く締まる	黒褐釉の不透明釉	降ろし目は9条又は11条が1単位

頁	挿図番号	遺物番号	出土遺構	遺物登録番号	分類	時期	法量(cm) 口径又は長さ	底径	高台 高さ	高台 直径	脚部径	幅	器高	厚さ	胎土又は材質	焼成	色調又は釉調	成形・調整・施文等の特徴 その他特記事項
28	51	129	SE 1458	01486	中国産黒釉天目椀	－	11.1	－	0.5	4.1	－	－	4.9		精緻　灰色　微細な白色,黒色砂含む	堅緻	黒色の不透明釉	口縁部端は、暗赤褐色(あずき)色
		130	SE 1458	01482	焼塩壺	近世	6.2	4.8～5.1	－	－	－	－	6.6		精良　0.5mm大の砂粒含む	良く焼き締まっている	赤褐色	器面が粗れている.(銘の痕跡が残るのみ)　(4/5) 型づくりの可能性有
		131		01481	焼塩壺蓋	近世	7.4	天井部7.4	－	－	－	－	1.6		精良　0.5～1.0mm大の砂粒,雲母含む	良く焼き締まっている	黄褐色	器面が粗れている.内面に布目痕有 (2/3) 型づくりの可能性有
		133		01489	三巴文軒丸瓦	近世	(13.5～14.0)	瓦当9.0	－	－	－	－	－		精良　明灰色、微細な雲母片含む	良く締まる　もろい	黒灰色	丸瓦部分が剥落している　(1/3)
30	54	135	SE 1543	01671	肥前系染付皿	近世	12.8	－	－	5.6	－	－	2.6		淡く灰色おびる白色磁器質　精良		水色おびた不透明釉 発色悪い	17C前半～中位?
		136		01673	中国産緑釉陶器壺?	－	－	－	－	－	－	－	－		黄白色　精良 陶器			内面に釉がかかっていないので天地逆で脚の可能性もある　中国華北(磁州窯あたり?)産か?
		140		01672	明青花皿	明末～清初?	－	－	－	(9.2)	－	－	－		白色　精良			16C末～17C前位か?(漳州窯か?)
		142	SE 1503	01609	中国産陶器緑釉盤	－	－	－	－	－	－	－	－		白色粒多く含む 灰色～淡灰色	良好	ガラス質　不透明 緑色	口縁部片　口縁下の胴部外面には釉が気泡となり表面が荒れている
		143		01610	中国産陶器緑釉皿	－	－	－	－	－	－	－	－		白色粒多く含む 淡灰色～灰色	良好	ガラス質で透明感は少しある	(口縁端部は輪花状となる)　表面の緑釉は火を受け銀化　口縁部貼付文様不明瞭
		144		01611	中国産陶器緑釉皿	－	－	－	－	－	－	－	－		褐色粒比較的少なく含む　灰白色～淡灰色	良好	ガラス質　透明感は少しある	1503－143と同一個体か　内外面の緑釉は銀化　内面には植物文が型押で施文
		145	SE 1538	01631	肥前系染付香炉?	近世	(5.4)	－	－	－	－	－	－		やや灰色おびた白色磁器質　精良		やや水色画がかった透明釉	
		146		01633	中国産緑釉皿	宋代?或いはもっと古いか?	－	－	－	－	－	－	－		二次被熱しており不明確本来は白色に近かったかかなり精良		被熱して釉が煮えている	華北産?
		147		01632	中国褐釉陶器蓋	宋代?	－	3.2	－	－	－	－	－		灰白色　白,黒色粒含むがきめは細か　硬陶質		暗褐色不透明釉	磁灶窯
		150	SE 1590	01731	肥前系染付仏飯器	－	(7.0)	－	－	－	－	－	3.7		非常に細かい黒色粒比較的多く含む乳白色	良好	ガラス質　透明 淡青白色	身1/2残存
		151		01730	肥前系染付椀	－	(11.6)	－	－	(6.5)	－	－	6.4		黒色粒少量含む 乳白色	良好	ガラス質　透明 淡青白色	口縁～底部1/4残存
		152		01732	肥前系陶器香炉か	－	(5.1)	－	－	5.8	－	－	4.0		白色粒,黒色粒比較的多い　中央部は灰色外,内側は淡褐色	良好	淡黄褐色　ガラス質 透明感ある	
		153		01733	－	－	(5.1)	4.3	－	－	－	－	3.8		白色粒,黒色粒比較的多く含む　茶褐色	良好	茶色　一部に白淵がみられる	口縁部1/2欠損
		155	SE 1623	01743	中国産白磁小椀	宋代?									白色　精良　磁器質		乳白色　不透明釉 ピンホールあり	福建産と思われるが詳細不明
33	59	157	SX 0029	00041	肥前系染付猪口	－	4.0	－	－	1.9	－	－	3.0	－	精緻(白色)	堅緻	透明な白色(淡く青味ある)ガラスの光沢	全面施釉
		160	SX 0038	00053	朝鮮又は高麗白磁か	－	－	－	0.4	7.0	－	－	－	－	精良微細な黒斑含む	堅緻	灰白色鉄分吹き出し有	内底見込に印花文有.文様はかなりにぶくなっている。蛇の目高台
		161	SX 0039	00054	肥前系(唐津)	近世か	9.3	－	1.1	2.3	－	－	7.5	－	淡黄白色石英砂含む	堅く締まる	淡黄白色細かい氷裂	高台畳付部は磨研なめらかになっている ロクロ水挽き
		162		00055	肥前系(唐津)	近世か	11.6	－	1.0	3.8	－	－	7.2	－	淡黄白色石英含む	堅く締まる	淡黄白色細かい氷裂	高台畳付部は磨研　なめらか　目跡有 ロクロ水挽き
		163		00056	肥前系染付皿	－	13.0	－	0.3	6.3	－	－	3.0	－	白～灰白色微細な黒斑含む	堅緻	淡く青み有る透明釉発色やや不良	高台畳付部砂目跡
		164		00057	陶器擂鉢	近世～	30.0	－	1.3	12.0	－	－	12.7	－	黄灰色　砂粒を含みきめ粗い	軟　よく締まっていない	褐～茶褐色　発色不良	内面はかなりすりへっている(口径1/8復元) 降ろし目は8条単位
		165	SX 0059	00094	肥前系染付猪口	近世	6.6	－	0.2	3.8			3.0	－	精緻	堅緻	淡く青味ある透明釉施文は青緑	高台は蛇ノ目高台 口縁内,高台は施釉後掻取
		166		00090	肥前系染付椀	17C末～近世	10.0	－	0.6	3.6	－	－	5.1	－	精緻	堅緻	淡く青みある透明釉	裏銘に方形枠に(福)　有田・樋口窯か 内底には4足と思われるハマの痕跡がのこる
		167		00091	肥前系染付油壺	近世後半～	2.9～3.0	－	－	－	－	－	(7～8)	－	精緻	堅緻	青みある透明釉	内面には水挽き痕が強く残る
		168		00092	肥前系(唐津)壺	近世～19C	6.1	－	－	－	8.4	－	－	－	精良　褐色ややきめ粗い	堅緻	暗～黒茶褐色釉かげにムラがある	内面は露胎
		169		00093	肥前系(唐津)陶器皿	近世	－	－	0.8	4.8	－	－	－	－	精良　暗茶褐色	堅緻	縁灰色	砂目跡4ケ所
		172	SX 0104	00114	肥前系(唐津)	近世	12.7	－	－	4.1	－	－	2.8～3.1	－	灰白～灰色　精緻	良好　堅く締まる	透明な黄灰緑色	内底高台畳付に砂目跡が4ヶ所残る 内底中央にはトンボ軸跡がかすかに残る ロクロ成形　外面回転ヘラケズリ
		173		00115	肥前系青緑釉皿	近世～19C	13.4	－	－	4.1～4.2	－	－	3.4～3.8	－	灰白～灰白　精緻	良好　堅緻	青緑色の透明釉 －	内面は輪状に釉剥ぎ　体部下半～高台は露胎　釉はツツカケ 外面には回転ヘラケズリ　高台ケズイ出し
		177		00130	肥前系肥前系(唐津)青緑釉大小皿	近世	22.7	－	1.2	7.2	－	－	6.2～6.5	－	灰色　精良	硬質であるがやや焼き締まっていない	青緑釉 －	内底は輪状に釉剥ぎ　五輪花(押圧による) 焼成温度が低かったのか発色不良
		178		00117	中国産陶器皿	11C～12C	9.7	3.5	－	－	－	－	2.9～3.1	－	灰褐色　精良	良く焼き締まっている	灰白～灰黄白色	底部回転ヘラ切り(左回転)
		179		00116	肥前系(唐津)徳利	近世～19C	－	－	1.1	8.6	15.2		－	－	淡灰褐色　精良	良く焼き締まっている	外面にはアメ色～明灰白	釉は刷毛目手によるもの
36	63	180	SX 0123	00141	肥前系染付椀	19C	9.2	－	0.4	3.6	9.3	－	5.0	－	白色精緻	堅緻	淡く青味がかった透明釉	かえで文はコンニャク判か 高台畳付に砂目跡有
		181	SX 0243	00232	肥前系染付椀	近世～		－	1.0	4.8		－		－	精緻	堅緻	淡く青味かかった透明釉	高台外底に「■」銘有り
		182		00231	肥前系白磁椀	近世～	11.0	－	0.7	4.4		－	6.1	－	精緻　白色微細な黒色斑含む	堅緻	淡く青緑色かかった透明釉	高台畳付に砂目,釉には氷裂有り 畳付以外全面施釉
		183		00230	肥前系青磁皿	近世～	13.2	－	0.8	4.7		－	3.2～3.6	－	精緻　白色露胎 表面は赤褐色	堅緻	青緑色かかった半透釉	若干焼きひずんでいる 内底輪状掻き取り
		185		00235	肥前系擂鉢	近世	32.7～33.0	11.7	－	－	－	－	11.7～12.0	－	精良　暗紫褐色	堅緻	暗茶褐色	右回転糸引離し　外面にはロクロ水挽き痕強く残る
		186		00233	肥前系(唐津)徳利	近世～19C	6.8	－	－	－	－	－	(11.5＋α)	－	精良	堅く焼き締まる	灰緑色の不透明釉	頸の内面にはロクロによるしぼり痕残る
		190	SX 0518	00647	肥前系灰釉陶器皿	17C初	(14.2)	－	－	(4.0)	－	－	4.5	－	淡褐色から淡灰色ややざらつき有り	－	淡白色半透明釉　部分滝に白淵する 淡灰	全釉　釉剥ぎ有り
		191	SX 1479	01540	高麗青磁蓋?	高麗	－	－	－	天井部6.2	－	－	－		灰褐色　細かい白色砂粒少量		淡オリーブ色半透明釉	11C前～12C前
		192		01538	肥前系白磁椀	近世	(12.0)	－	－	(5.2)	－	－	6.3		淡く灰色おびた乳白色完全磁器質でない		ごく淡く水色がかった透明釉全体に細かい氷裂入る	

頁	挿図番号	遺物番号	出土遺構	遺物登録番号	分類	時期	法量(cm) 口径又は長さ	底径	高台 高さ	高台 直径	胴部径	幅	器高	厚さ	胎土又は材質	焼成	色調又は釉調	成形・調整・施文等の特徴 その他特記事項
39	70	194	SG 0239	00206	肥前系青磁猪口	近世～	6.4	–	0.3	1.8	–	–	3.9	–	精緻　白色	堅緻	透明釉　淡く青味あり	(1/6) 回転ヘラケズリ
		195		00205	肥前系染付猪口	近世～	7.2	–	0.5	2.6	–	–	4.7	–	精緻　白色	堅緻	淡く青みがかった透明釉	高台畳付は露胎　砂目が付着(1/2)
		196	SG 0239	00203	肥前系(唐津)椀	近世～19C	10.6	–	1.1	4.9	10.7	–	6.9～7.0	–	精緻	堅く焼き締まっている	明黄褐色の透明釉	高台内には砂目残る 外面下半はヘラケズリ
		197		00208	肥前系唐津猪口	近世～	7.7	–	0.7	3.1	–	–	5.1	–	精良　黒茶褐色	堅緻	黒褐色	ロクロ回転右回り
		198		00207	肥前系青磁椀	近世～	9.2～9.4	–			–	–	5.2+α	–	精緻　灰白色	堅緻	淡く青みある透明釉	焼きひずんでいる(1/3)
		199		00209	肥前系青磁皿	近世～	13.1	–	0.8	4.8	–	–	3.5	–	精緻　灰白色	堅緻	淡く青みある透明釉 大きめ目の貫入あり	内底は輪状掻き取り砂目がのこる
		200		00202	小石原か		9.8	–	–	–	13.5	–	8.8+α	–	精緻　灰色	堅緻	い貫入有り	(1/3) 体部下半は露胎
		203		00199	中国産青白磁輪花椀	12C～13C	10.2～10.4	–	0.3	0.3	–	–	4.0～4.1	–	精緻	堅緻	青緑色がった透明釉	復元図は六輪花(五輪花の可能性あり) 外面はヘラケズリ内面はヘラ先櫛目文よる花文
		204		00201	中国産黒釉天目椀	12C～	–	–	0.2	3.8～4.0		–	2.2+α	–	精緻　灰色0.5㎜ほどの黒色砂含む	堅緻	黒褐色　黄灰褐色の斑状の吹き出しあり	高台のケズリだしは弱い
		205		00204	小石原系香炉		9.6	–	–	–	10.0	–	5.9+α	–	精緻　灰白色微細な石英砂含む	堅緻	青緑色の不透明釉	体部下～高台へは露胎(1/8) 内面はヘラケズリ
42	77	206	SX 0361	00360	陶器瓶	–	–	7.6	–	–	–	–	(12.2)	–	砂粒はほとんど混じっていない 灰色	–	釉は淡灰緑色　頸部および胴部外面の一部には暗緑褐色の発色の釉が施されている　外底および露胎部は明褐色から暗褐色を呈する	外底は上底状となる
		207		00359	陶器瓶	–	–	7.1	–	–	–	–	(11.5)	–	白色粒直径2.5㎜以下少量含む 黒褐色～褐色	–	釉は底部を残し全面に施す	内面にはロクロ目がある　外底は淡く上げ底となる　胴部から底部(胴部1/4残存) 外底は糸切離であるが粗いナデ消しが行われている
		208		00356	肥前系磁器皿	–	(7.0)	–	–	–	–	–	1.6	–	細かい黒色粒淡く含む　淡灰色	–	釉はやや緑色ぎみの褐色　透明感ある	口縁部外面の釉は釉薬が黒褐色に窯変している　1/4残存
		209		00357	肥前磁器皿	–	(8.6)	–	–	–	–	–	2.2	–	黒色粒淡く含む 白色	–	釉はやや緑色ぎみの白(透明感ある)	内面にはトンボと水仙?の文様がある　1/3残存
		210		00358	近世陶器	–	(32.0)	–	–	–	–	–	7.9	–	白色粒直径4㎜以下比較的多く含む 明褐色	良好	赤褐色	口縁部1/8残存
		211	SX 0365	00365	近世陶器小椀	–	(8.4)	–	–	–	–	–	5.1	–	非常に細かい砂粒少量含む ベージュ色	–	釉は淡緑灰色(透明感ある)	内外面に細かい氷裂がみられる　ほぼ完形に近いが接合せず
		212		00366	近世陶器小椀	–	8.8	–	–	–	–	–	4.6	–	非常に細かい黒色粒少量含む 淡灰白色	–	釉は淡緑青色を帯びる淡灰色(半透明)	外底は明褐色である　内面口縁部は直下には釉溜まりがみられる
		213		00367	近世陶器小椀	–	8.7	–	–	–	–	–	4.4	–	非常に細かい黒色粒淡く含む 灰色	–	釉は褐色の釉の上に乳白色をかける	外面胴部下位から底部は茶褐色から灰褐色を呈する露胎である
		214		00371	近世陶器	–	(8.5)		–	3.4	–	–	5.0	–	砂粒はほとんど混じっていない　ベージュ色	–	釉は淡褐色(透明感ある)	口縁～胴部1/2欠損　内面には青緑色の文様が施されている　内面見込みと外底高台には目跡がある
		215		00373	近世陶器	–	外9.6 内5.05	4.4	–	–	–	–	4.6	–	非常に細かい白色及び黒色粒多く含む　灰色	–	釉は淡緑褐色(透明感ある)	(口縁部(外)1/2欠損)露胎部は茶褐色を帯びる
		216		00369	国産陶器		30.1	11.2	–	–	–	–	13.2	–	砂粒直径5㎜以下比較的多く含む 明褐色	良好	釉は暗褐色	(口縁～胴部1/2弱欠損)高台畳付には重ね焼きの目跡が一周する　擂目は13本　見込の擂目は磨滅している
		217		00372	近代磁器染付皿	–	(13.0)		0.4	8.9	–	–	4.0	–	黒色粒比較的多く含む　淡灰白色	–	釉、白色(透明感ある)	(口縁部1/8残存)　内面には小さな目跡が1カ所に認められる
		219	SX 0366	00379	中国陶器水注	–	(8.0)	–	–	–	–	–	(10.8)	–	黒色粒・白色粒ともに比較的少ない淡灰褐色		釉は暗緑褐色	内面にはロクロ調整痕がみられる　肩部には一条の沈線が巡る(口縁～胴部1/4残存把手は不明)
		220		00380	陶器皿	–	–	–	–	6.4	–	–	(3.9)	–	砂粒はほとんど混じっていない ベージュ色	良好	外面は乳白色の釉　内面は青緑色の釉　内底は釉を環状に掻きとる	(口縁部～胴部欠損)畳付は釉を掻き取る　目跡がある28
		221	SX 0792	00788	肥前系染付椀	近世～	11.7	–	0.8	5.0	–	–	6.4～6.6	–	精緻　灰白色	堅緻	淡く青味ある透明釉 呉須はやや発色悪く暗い藍色	淡く焼きひずんでいる 高台内面と畳付に砂目残る　内底に草文　外面には梅花折枝文
		222		00789	肥前系白磁皿	近世～	13.7	0.8	–	5.2	–	–	3.05～3.2	–	精緻	堅緻	淡く青味ある透明釉	内底は輪状に釉剥ぎ　高台削り出しは軸がズレている
		224		00790	李朝粉清沙器皿	15C～	長3.0		–	–	–	3.7	–	0.5～1.1	精良　灰色	硬く締まっている	灰緑色に白釉をすり込む	白色釉薬を生地に象嵌しすり込んでいる
		225	SX 0824	00798	陶器耳壷V	12C	9.2～9.4								赤茶褐色、精良	硬く焼き締まっている	緑灰色不透明釉	内外面共水引ミ水掻き紺を強く残す 内外面とも水挽きに痕を強く残す
		226		00798	陶器耳壷V	12C				8.0					赤茶褐色、精良	硬く焼き締まっている	緑灰色不透明釉	内外面共水引ミ水掻き紺を強く残す 内外面とも水挽きに痕を強く残す
		227	SX 1451	01434	高麗青磁椀	12C	(14.0)	小片のため不正確	–	–	–	–	–	–	淡灰白色　磁器質精良	–	淡青灰色透明釉	
43	78	231	SE 0001	00004	中国産緑釉盤	緑釉磁灶窯12C～13C	38前後	–	–	–	–	–	–	–	砂粒を含むややきめ粗い粘土	良	内外面とも鉛緑釉 –	器面に砂粒が多く付着　(溶着)している 口縁部が淡く内傾している
		233	SX 0027	00038	肥前系猪口	–	7.4	–	0.6	3.4	–	–	4.9	–	白色　　精良	堅緻	透明釉 釉ダマリの色(淡青緑色)からみると青白磁の可能性あり	高台内に砂目跡がのこる
		234		00037	肥前系陶器皿	近世～	17.8	–	0.7	5.8	–	–	4.5	–	精緻　明灰色	堅緻	不透明釉 緑褐色	内底は輪状に釉剥ぎ本来は青釉か
		235	SX 0031	00044	肥前系青緑釉皿	近世～	21.4	–	1.4	7.2	–	–	5.9	–	灰色～黒色斑含む	良　堅く締まる	内面は透明な緑釉外面は灰色釉	高台～口縁にかけて回転ヘラケズリ
		236	SX 0041	00059	肥前系染付椀	近世後半～	10.3	–	0.7	4.2	–	–	5.8	–	精緻　白色砂混	堅緻	淡く青味ある透明釉　染付の発色はやや不良くすんだ紺色	
		237		00061	肥前系染付皿	近世	12.3	–	0.6	4.4	–	–	3.4～3.6	–	精緻	堅緻	淡く青味ある不透明釉 染付は発色不良	内底は輪状に釉剥ぎ　目跡有
		238		00060	肥前系染付椀	近世後半～	10.8	–	0.8	4.4	–	–	5.1	–	精緻	堅緻	淡く青みある不透明釉 染付は明るい青色	内底は輪状に釉剥ぎ
		240	SX 0065	00097	中国産黄釉盤	12C～13C	–	–	–	–	–	–	–	–	灰色　白・黒砂粒を多く含む	よく焼き締まっている	緑灰色	磁灶窯産か
		241	SX 0106	00131	三葉藤巴文軒丸瓦	近世	14.0	笵径8.8	–	–	–	–	–	–	精良　白砂含む	堅く締まる	黒灰色	同笵の物は福岡城内から出土している　潮見、花見桝　近世
		242		00133	軒平瓦	近世	–	–	–	–	–	瓦当幅15.2(24.2)	瓦当中央高4.0	–	精良　白砂多含む	堅く締まる	黒灰色	笵文様大振りである→幕末～明治期か
		243		00132	三巴文軒丸瓦	近世	(14.0)	笵径9.5	–	–	–	–	–	–	精良　白砂含む	堅く締まる		(博多金右ェ門)か？銘有
		244	SX 0128	00164	合子身	不明	3.6(受部4.4)	2.4	–	–	–	–	1.0	–	精緻	堅緻	淡く青味がかる透明釉	底部は上げ底 回転ヘラケズリ
		246		00162	肥前系青磁椀	近世～19C	12.9	–	0.7	4.0	–	–	3.3	–	精緻	堅緻	灰緑色がかかった不透明釉	内底は環状に掻取

3．中世～古代の遺構と遺物

中世の遺構は調査区中央から北側にかけて確認できたが、本来は調査区全体にわたり分布していたものと考えられる。特に南側（第１区・２区南側）では近世及び近代以降の攪乱による削平が顕著であり遺存状況は良くない。遺構には、井戸（桶組・方形井側桶組）、溝、土壙、建物及び建物地業跡の他、多数の柱穴等がある。近世と同様に特に井戸が多い。当該調査地周辺の中世後期における土地区画のあり方をうかがい知ることができる溝及び建物等が確認されている。遺物は古墳時代から中世にわたる各種の遺物を多く含んでいるため、重要と思われるものついては図示している。個別遺物の説明については表４を参照されたい。図示した遺物すべてを網羅はしていないが、特徴的なものを取り上げて観察所見を述べている。

建物基礎地業 SB0388（図80・81）　２区１面調査区北側で確認した。14～15世紀代と考えられる明黄灰色混砂粘質土を主体とする整地層を切って掘削している。中央部から北西部にかけては昭和前期の地下室によって深く掘削されており破壊が著しい。古代末から中世初めと考えられる SE1215の上部に位置しており、中世後期以降の時期が考えられる。掘方は布掘りで平面形は「ロ」字形になると推定される。掘方の断面は逆台形状である。掘方内には拳大ほどの礫石が比較的密にみられた。埋土は暗灰色～灰褐色砂質土と黄灰褐色土の混合土で木炭片を含んでおり、良く締まっている。掘方の規模は長辺が4.81m、短辺が4.25mである。掘方の深さは検出面から0.21mであるが、本来は0.5m前後あった可能性がある。底面の標高は4.39m。掘方の形状や博多遺跡群におけるこれまでの検出例からみて倉庫等の基礎地業跡と思われる。掘方南北長軸の方位は、N-6°-Wである。遺構の先後関係は SE1215→ SB0388→ SD0387である。

出土遺物　特に図示していない。中世土師器坏・小皿、瓦器椀、中国産白磁椀Ⅱ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅷ類、四耳壺、龍泉窯系青磁椀Ⅱ・Ⅲ類、同安窯系青磁椀・小皿、青白磁皿、馬歯、高麗青磁片等が出土している。いずれも細片で、二次的な堆積である。

溝状遺構 SD0037（図79・82～87）　１・４区２面検出。東西にほぼ直線的に延びる中世後期の大溝である。後世の遺構により寸断されており断続的であるが、長さ約21mについて確認することができた。断面形は１区と４区の溝法面の状況をみると逆台形となる。４区で検出した南壁法面は比較的残りがよく、角度は仰角50～55°でかなり傾斜が強い。一方、北壁法面は後世の遺構により寸断されており原状を留めていないため明確ではないが、１区調査区の東壁の観察では、南壁法面とほぼ同じ角度であった可能性がある。掘削基盤が砂丘のため軟弱ということもあり、法面の表面処理をどのような手法で行っていたかについては、調査の結果では明らかにできていない。埋土は、底面に堆積している灰色混砂弱粘質土上面に、1cm 前後の陶磁器破片・木炭小粒等を含みややきめの粗い暗灰～暗淡灰褐色砂質土が均質に厚く堆積している。土層の堆積からみてある程度埋まった溝を一時的に埋め戻した可能性がある。溝の幅については、完掘していないためやや不正確ではあるが、１区北側と４区南側の法面の角度から推定して、約５～6.5m以上の規模と推定できる。壕といった方が適切かもしれない。基底面は浅い船底状である。検出面から最深部までの深さは0.98m。底面の標高は3.39m。主軸の方向は両壁の方向性は必ずしも同一ではないが概ねN-60～66°-Eにおさまる。当該地点から東へ約80m離れた33次調査地点では、ほぼ同時期の東西に延びる壕が確認されており、方向と位置関係からみてこの溝の一部であることが考えられる。中世後期15世紀代以降の時期が想定される。溝を切る SE0100の出土遺物から見て、その下限は江戸時代以前と考える。

出土遺物（248～254）　遺物の出土量は比較的少なく、一時的に埋め戻されたと思われる暗灰～暗

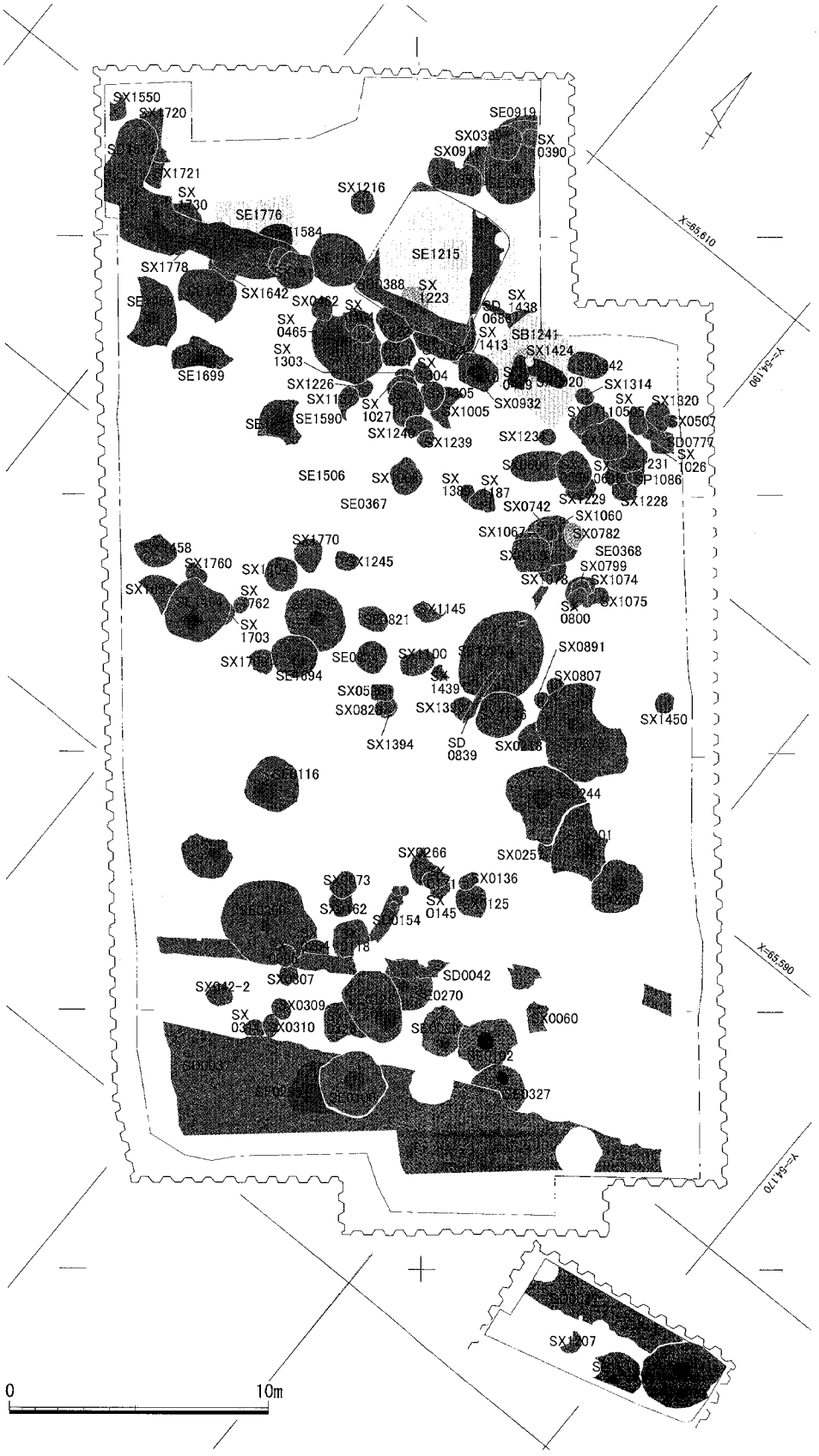


図79 中世～古代遺構分布状況略図(1/250)

淡灰褐色砂質土層中から二次的な堆積状況で出土した。中国産白磁椀250（墨書あり　花押か）・小皿248、龍泉窯系青磁椀252・高台付皿254、高麗陶器甕253、李朝白磁椀、墨書（「秋」か）のある土師器坏249、備前擂鉢片、獣骨片等が出土している。

溝状遺構 SD0042（図88～90）　1区2面検出。東西にやや屈曲しながらもほぼ直線的に延びる中世後期の溝である。後世の遺構によって分断され断続的であるが長さ約20mについて確認した。断面形は「U」字形である。埋土は暗褐色～暗灰褐色粘質土で良く締まっている。部分的に暗灰色砂～砂質土がブロック状に混入している。方向性と時期からみて、SD0037とほぼ併存していた可能性がある。溝の幅は約0.55～0.65mで、検出面から最も深いところで0.70m以上ある。底面の標高は3.78～4.05mで西から東へ向かって緩やかに低くなっている。主軸の方向は、N-60°-W前後で

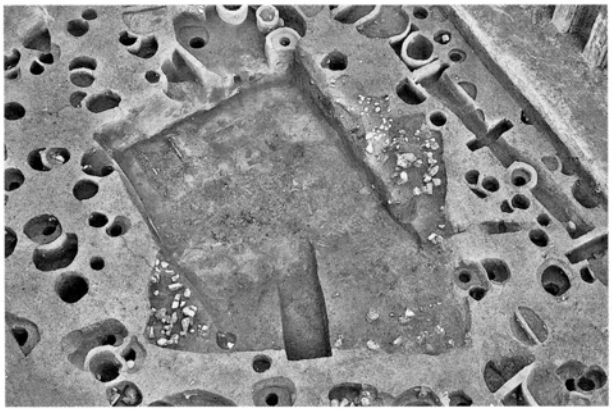


図80 SB0388完掘状況（南から）

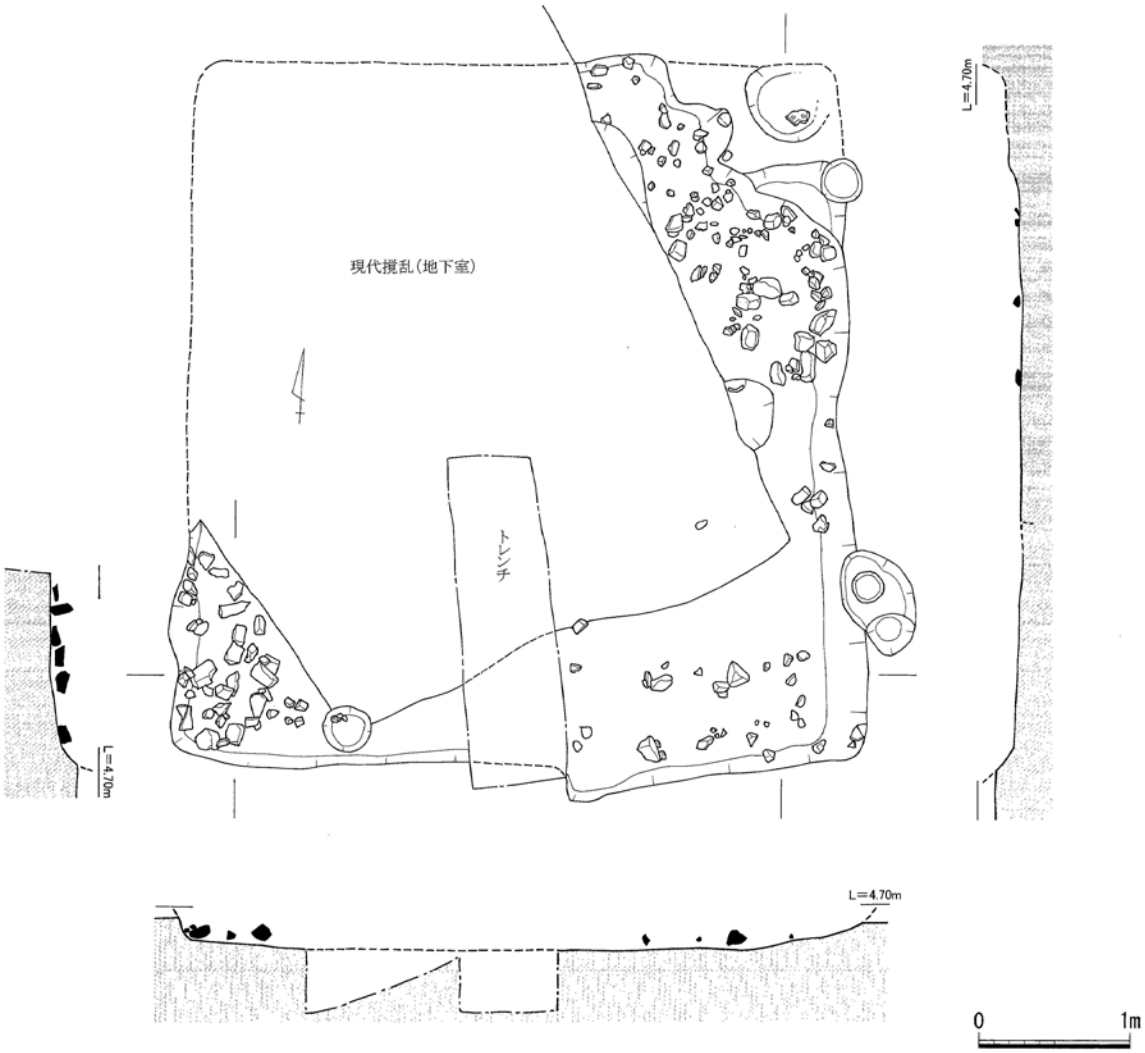


図81 SB0388平面及び断面図（1/50）

ある。遺構の先後関係はSD0153→SP0152→SD0042→SX004→SX0017、SX0118→SP0040→SX0015、SD0042→SX0043→SE0087である。

出土遺物(255・256)　中国産明代青花皿255、石製権256、白磁椀Ⅳ・Ⅴ類、褐釉四耳壺、備前擂鉢片、銅銭洪武通宝(初鋳1368年) 40008等がいずれも二次的な堆積状況で出土している。14世紀後半以降の時期か。

溝状遺構SD1563(図91)　3区2面検出。中世の溝である。長さ3.4mについて確認した。断面形は船底状である。ほとんど底面部分のみ遺存している状況である。埋土は暗灰褐色～暗褐色混砂粘質土で木炭片、砂礫をわずかに含む。幅は0.7～1.0mを測る。底面の標高は4.20～4.30mで北から南へ向かって低くなりながらSD1482へ直交して連続する。本溝はSD1482で区画される矩形の区画内において南北方向に小区画を成す溝と考えられる。主軸の方向はN-7～9°-Wである。

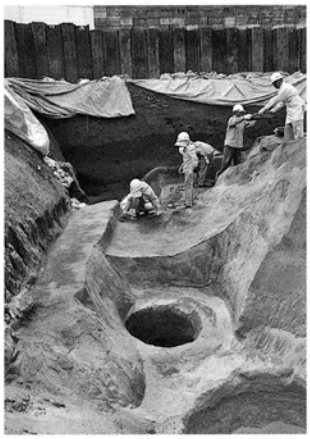


図82 SD0037掘り下げ状況(北東から)

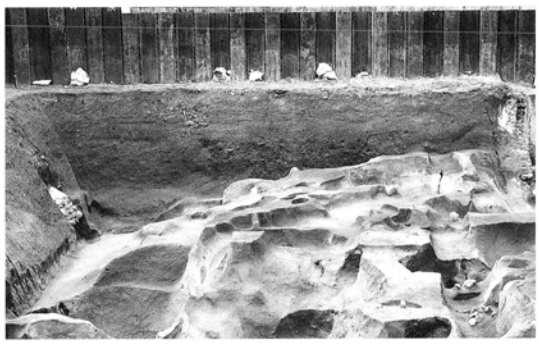


図83 1区2面SD0037西壁土層断面(東から)

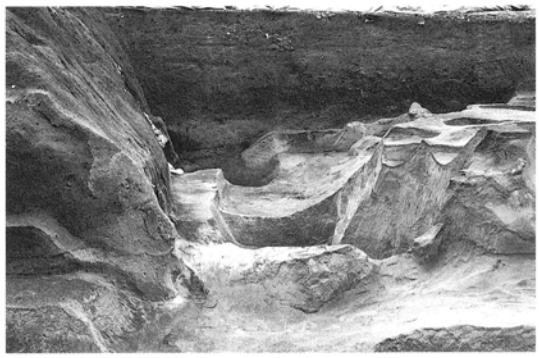


図84 SD0037土層断面(東から)

図85 4区SD0037土層断面(東から)

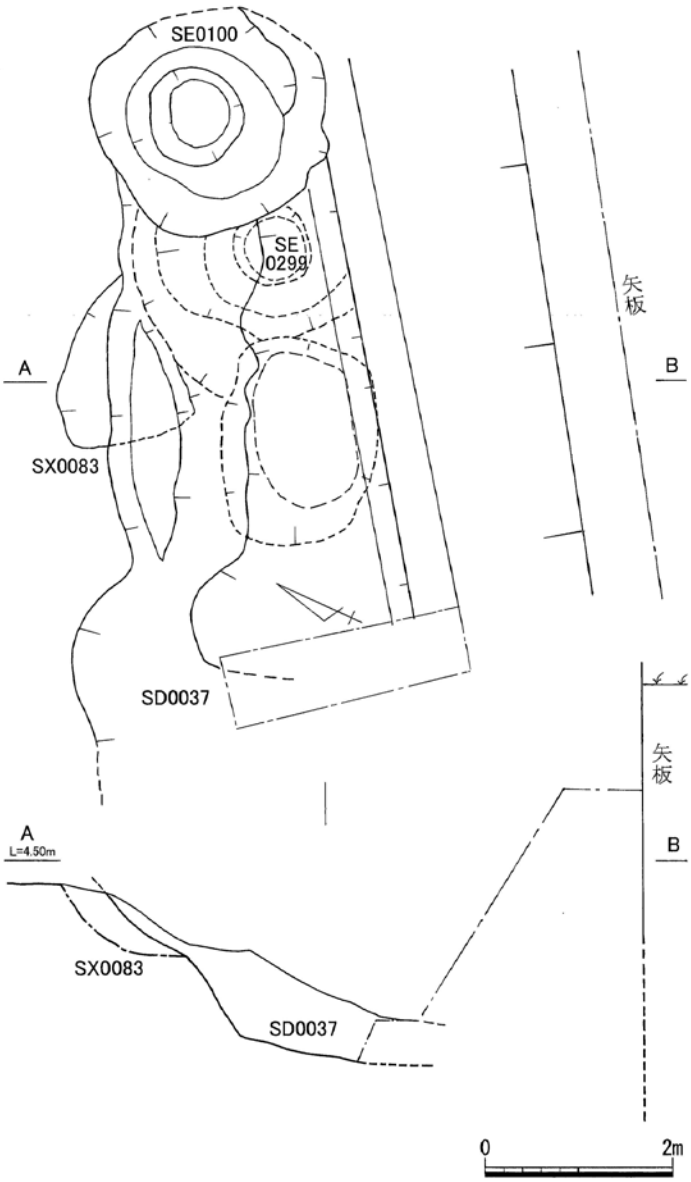


図86 SD0037平面及び断面図(1/80)

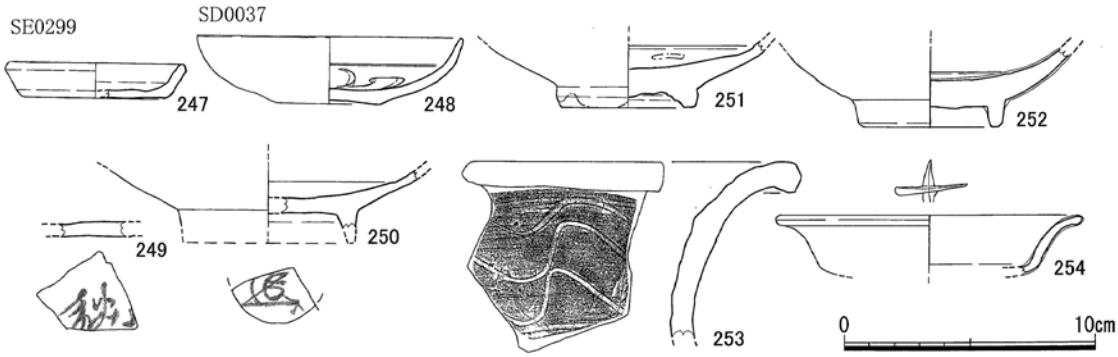


図87 SD0037・SE0299出土遺物実測図(1/3)

出土遺物(257～260)　床面直上の暗灰褐色混砂粘質土からまとまって出土しているが量的には多くなく、いずれも二次的な堆積である。奈良時代須恵器皿、土師器坏・小皿257、瓦器椀、中国産白磁椀Ⅳ・Ⅴ類・小皿・口禿皿258、合子蓋259、龍泉窯系青磁椀・小皿、同安窯系青磁椀・小皿、陶器大鉢260・黄釉盤、中世瓦片等が出土している。

井戸　SE0100(0187)(図92・96・102)　1区2面検出。中世後期～江戸期の井戸である。近世の土壙SX0038は井筒上部に位置し、SE0100の掘方の一部を削平している。井筒は桶組である。掘方は平面形が楕円形で、形状は円錐台状。埋土は灰褐～灰褐白色混砂弱粘質土。掘方は径2.38～2.82m、井筒底面までの深さは2.50mである。掘方底面に径0.60mの桶を据え井筒としている。井筒は桶の痕跡のみ確認。底面の標高は1.63m。遺構の先後関係はSX0100→SX0018、SD0037→SE0100→SX0038である。

出土遺物(261～264・667～673)　いずれも二次的に混入したものである。古墳時代土師器甕・高坏、奈良時代須恵器坏、中国産白磁椀Ⅳ・Ⅴ類・小皿(墨書有り)・小皿Ⅵ類262、青白磁合子身261・椀、龍泉窯系青磁椀・同安窯系青磁皿、緑釉印花皿263、黄釉盤、褐釉四耳壺、中世土師器坏264・小皿等が出土している。なお、土師器小皿667～670・坏671、白磁皿672・673は井筒0187からの出土で投棄された状態で出土している。

井戸　SE0102(図96・102)　1区2面検出。中世の井戸である。井筒は桶組または曲げ物の可能性がある。掘方は平面形が円形で、形状は円筒状である。掘方は径2.34～2.69m、井筒底面までの深

図88 SD0042完掘状況(東から)

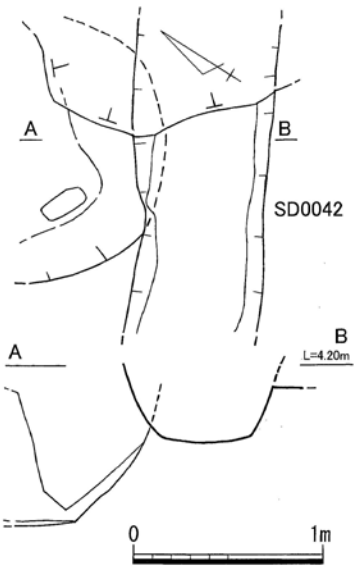


図89 SD0042平面及び断面図(1/40)

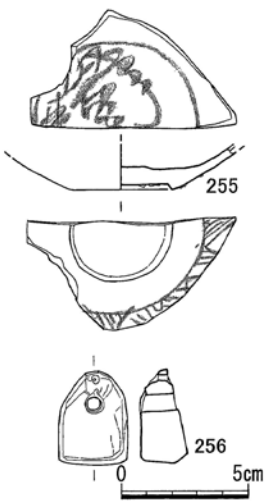


図90 SD0042出土遺物実測図(1/3)

さは1.92mを測る。埋土は掘方内には暗灰褐色混砂弱粘質土と灰色砂質土、かろうじて残った井筒掘方内には暗灰色砂が堆積している。井筒の径は0.70mほどか。底面の標高は2.04mである。遺構の先後関係はSE0103→SE0102→SX0009→SX0008である。

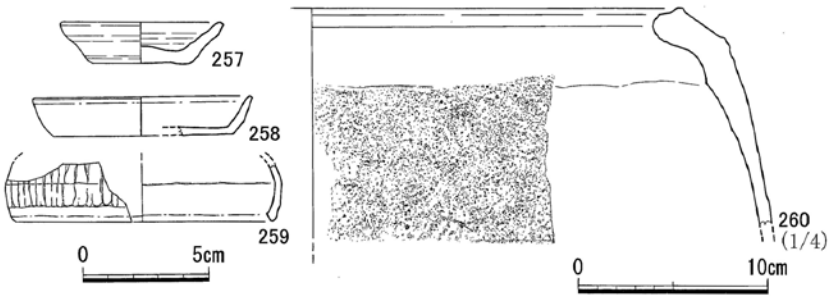


図91 SD1563出土遺物実測図(1/3・1/4)

出土遺物(265～272)　土師器坏・小皿265・266・268、奈良時代須恵器坏、瓦器椀269、中国産白磁椀Ⅱ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ(271)類、同安窯系青磁椀、黄釉盤、青白磁合子身267、陶器甕270、格子叩を残す丸瓦片272等が出土している。270と271の外底部には墨書があるが、遺存状況が悪く判読は難しい。271は「李□」とも読める。

井戸　SE0110(0111)(図93・96)　1区2面検出。中世の井戸である。現代地下室基礎工事にあたってその上部のほとんどが掘削され、掘方の一部と井筒下部が遺存している。井筒は桶組である。掘方は平面形が楕円形で、形状は円筒状である。埋土は掘方は灰白砂と黒灰色砂質土の混合土である。掘方は径1.10～2.28m、井筒底面までの深さは1.05mである。井筒には拳大から人頭大の礫石が投棄された状態で出土した。井筒径は0.60～0.80mほどと思われる。井側は石組みの可能性がある。底面の標高は1.63mである。遺構の先後関係はSE0110→SX0109・SX0113・SX0112。

出土遺物　図示していない。二次的な混入の状況で中世土師器坏・小皿、土師質片口鉢、中国産白

図92 SE0100井筒出土状況(南西から)

図93 SE0110井筒検出状況(西から)

図94 SE0116井筒検出状況(西から)

図95 SE0299完掘状況(北東から)

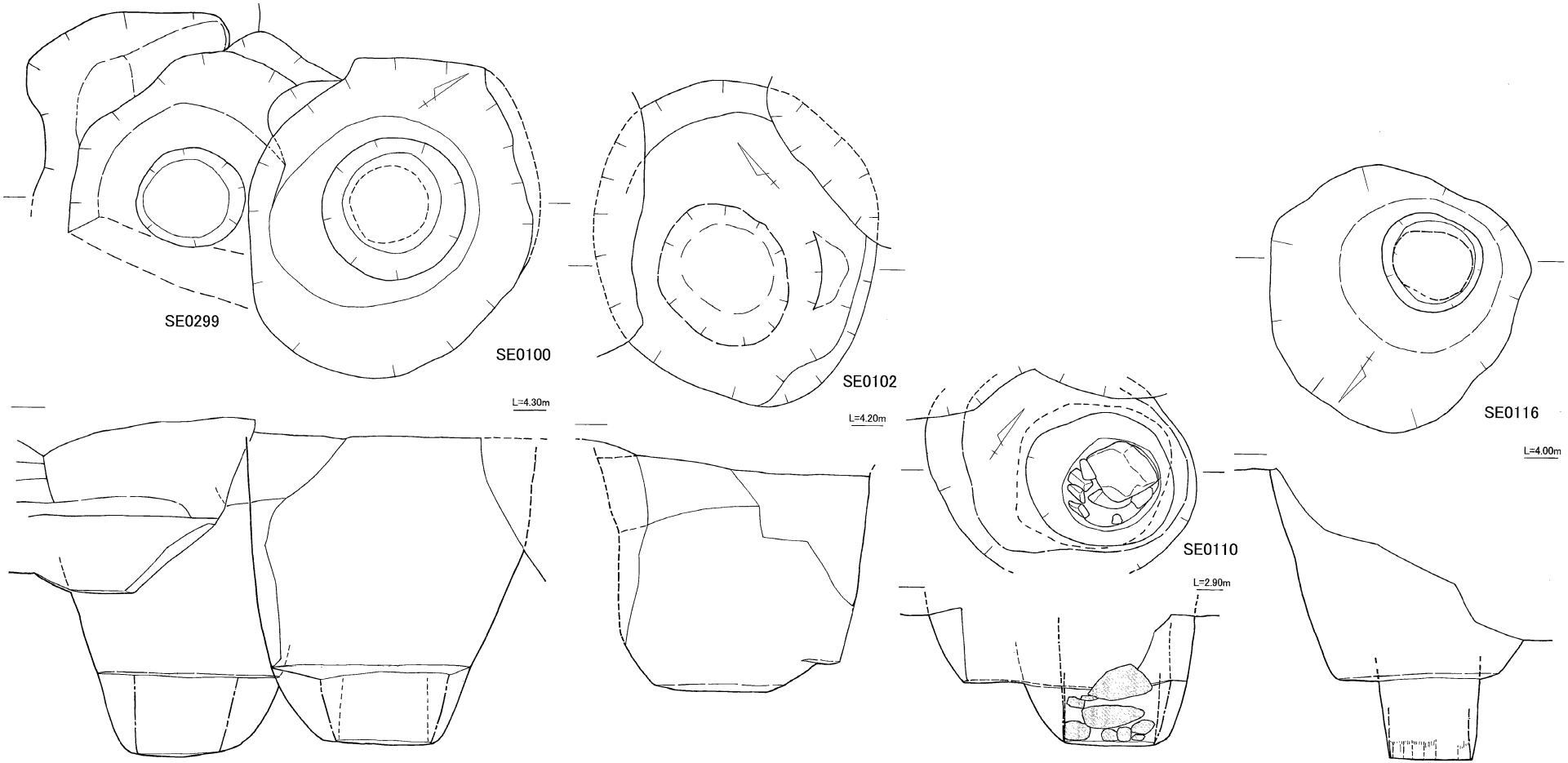


図96 SE0100・0102・0110・0116・0299平面及び断面図(1/50)

0 1m

磁口禿皿片、龍泉窯系青磁椀、黄釉盤、土錘等の破片が出土している。いずれも小片である。

井戸　SE0116(図96・94)　1区2面検出。中世の井戸である。井筒は桶組か。掘方は平面形が円形で、形状は円錐台状である。埋土は暗灰～灰褐白色砂質土。掘方は径2.18×2.15m、井筒底面までの深さは2.31mである。掘方底面に桶組の井筒を据え、黄灰白～黄白色粗砂を裏込めし井筒を安定させている。井筒は径0.65～0.70mほどか。底面の標高は1.50mを測る。遺構の先後関係はSE0116→SX0050→SX0235である。

出土遺物　図示していない。二次的な混入の状況で弥生土器甕、古墳時代複合口縁壺、中世土師器坏・小皿・椀、瓦器椀が出土している。掘方からは中国産白磁椀Ⅳ・Ⅴ類、陶器鉢等出土している。近世の遺物は出土していない。

井戸　SE0299(図87・95・96)　1区3面検出、SD0037床面上で確認した。中世の井戸である。井筒は確認できていないが桶組と思われる。掘方は平面形が円形で、形状は逆円錐台状である。掘方の大部分は溝SD0037から削平されており、埋土は暗灰色～灰色混砂粘質土。掘方は径2.7m前後と思われる。井筒底面までの深さは2.72mを測る。掘方底面に桶組の井筒を据え、黄灰白～白色粗砂を裏込めして井筒を安定させている。井筒の径は0.70～0.80mか。底面の標高は1.68mを測る。遺構の先後関係はSE0299→SD0037→SE0100である。

出土遺物(247)　弥生時代中期前半甕、古墳時代土師器甕、古代～中世土師器坏・小皿、黒色土器椀、中国産白磁椀Ⅷ類が出土している。

井戸　SE0370(図27・29・123・187・212)　2区1面検出。井筒は桶組痕跡を確認した。掘方は平面

図97 SE1210完掘状況(北から)

図98 SE1212完掘状況(東から)

図99 SE1215井筒検出状況(北東から)

図100 SE1215井筒掘り下げ状況(西から)

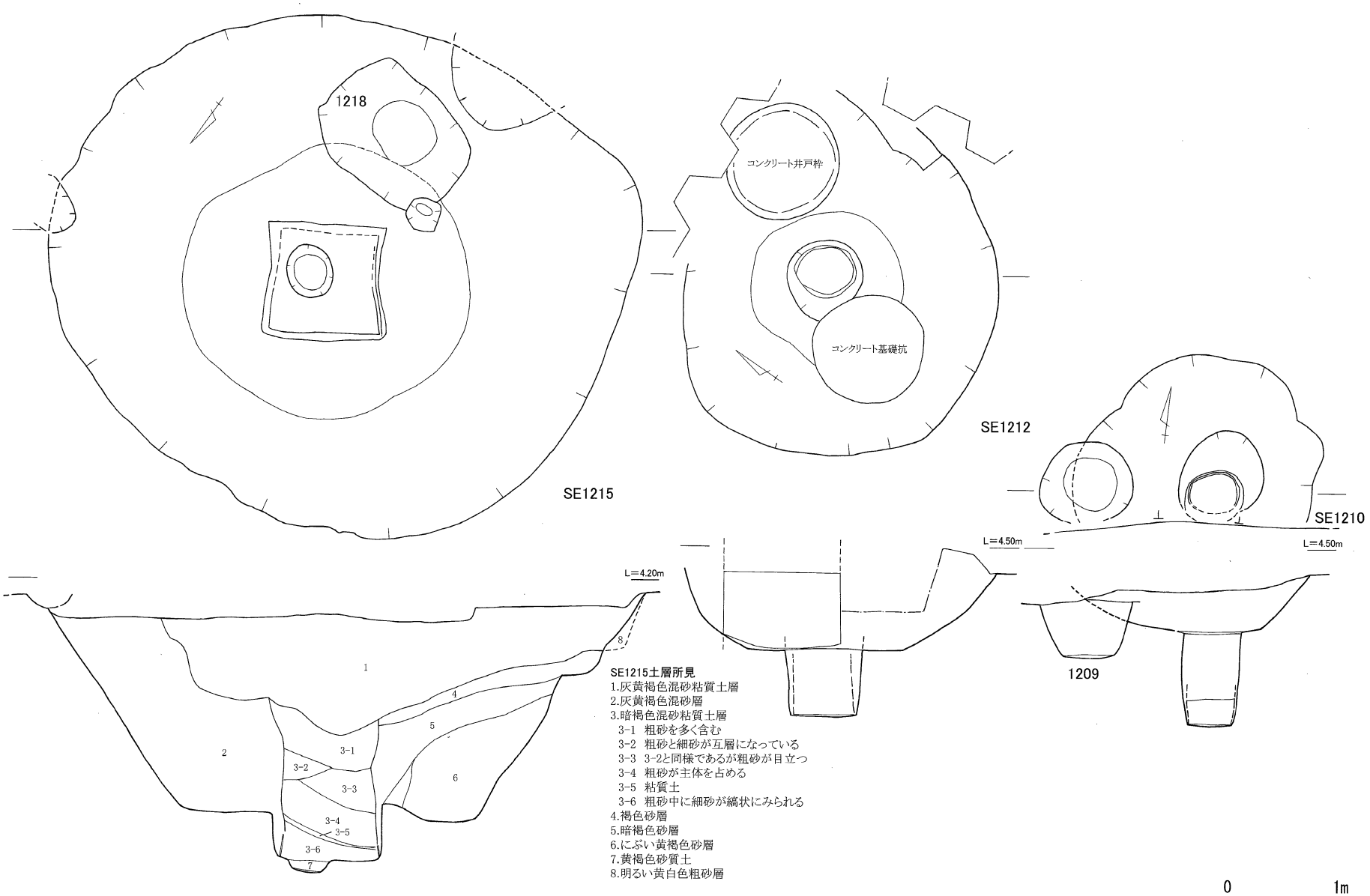


図101 SE1210・1212・1215平面及び断面図(1/50)

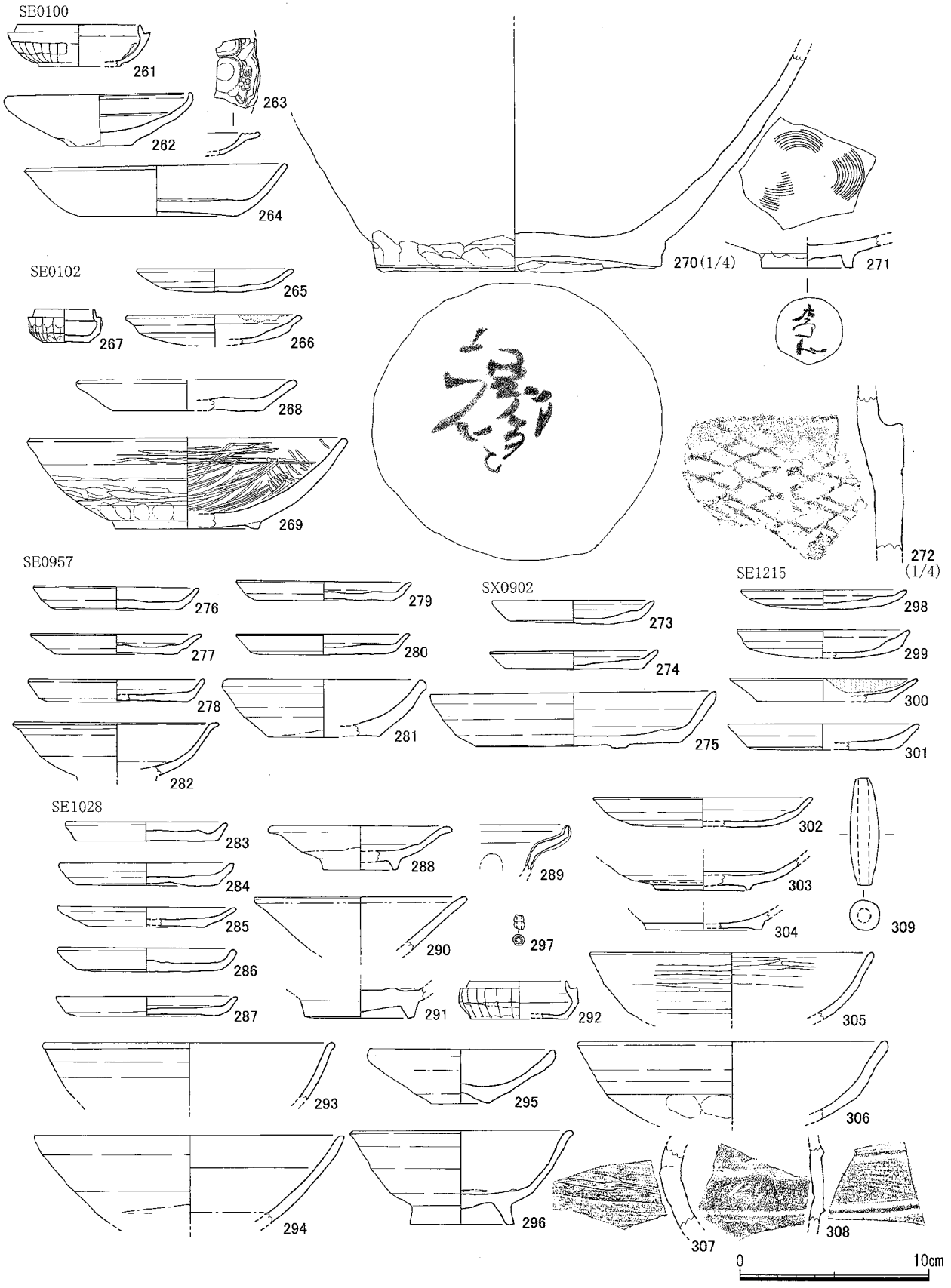


図102 SE0100・0102・0957・1028・1215・SX0902出土遺物実測図(1/3・1/4)

形が楕円形で、形状は逆円錐台状である。埋土は掘方上層では暗灰褐色砂質土(木炭含む)中層から下層には黄灰色粘質土+灰色砂質土混合土、井筒には暗灰褐色砂質土、砂層が堆積。掘方は径4.4～4.9mで、底面までの深さは3.23mを測る。掘方底面を一段掘りくぼめ桶を据えている。桶は土圧で歪んでいるが、直径約0.50mほどか。圧痕からみて桶は巾10～12cmほどの板を組んでいる。枚数は不明。12～13枚前後か。底面の標高は1.37m。遺構の先後関係はSE0370→SE0363、SP0551→SE0363、SX0887→SX0884→SE0370→SE0363である。

出土遺物(485～548・1118～1133)　掘方上層部分で木炭片や獣骨細片とともに、完形に復元可能な中世土師器坏523～541・1121・小皿485～522・1118～1120の破片が多量に出土している。井戸の埋め戻しにあたり一括で投棄されたものと思われる(SX1061として取り上げている)。他は二次的に混入した遺物である。中国産白磁椀Ⅱ(1125)・Ⅳ(1124)・Ⅴ・Ⅷ(1126～1128)類・皿Ⅲ類1123・Ⅳ類1121、四耳壺、青白磁合子か1133、龍泉窯系青磁椀Ⅲ類、同安窯系青磁椀1130・皿542、褐釉陶器皿543・耳壺544～546・1131・鉢547・甕1132、緑釉陶器鉢548、高麗青磁皿549・椀か1129、瓦磚、獣骨片が出土している。

井戸　SE1210(図97・101)　4区3～4面相当面検出。中世の井戸である。調査区南壁にかかっている。

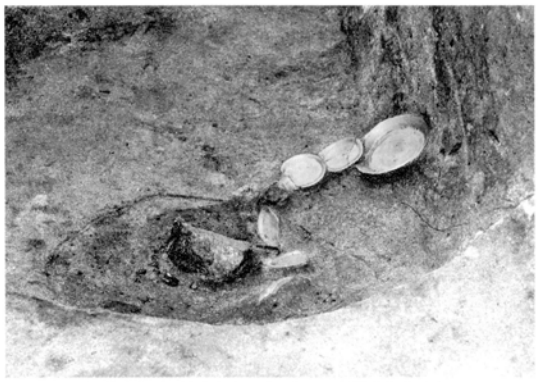


図103 SX0902遺物出土状況(南から)

図104 SE1540完掘状況(西から)

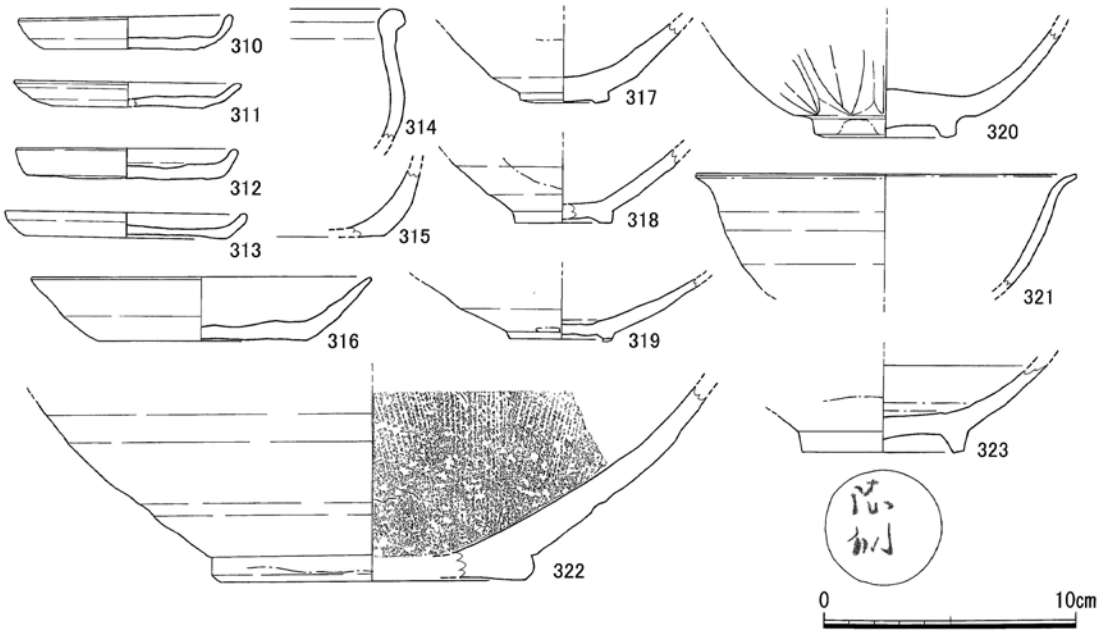


図105 SE1540出土遺物実測図(1/3)

井筒は桶組の痕跡を確認した。掘方は平面形が不整な円形で、形状は円錐台状である。埋土は暗褐色～灰褐色混砂粘質土。掘方は径2.15～2.20mで、井筒底面までの深さは1.32mを測る。掘方底面を掘りくぼめ、径0.40～0.45mのやや小ぶりの井筒を据えている。底面の標高は2.93m。遺構の先後関係はSX1209→SE1210。

出土遺物　土師器坏・小皿の小片がわずかに出土しているが、図示できるものはない。

土壙　SX1209（図62・101）４区４面検出。中世の土壙である。掘方は平面形が円形で、形状は円筒状である。埋土は黒灰色粘質砂質土（木炭多く含）。掘方の規模は0.91×0.75mで、深さは0.56mである。

図106 SX0162・0073完掘状況（西から）

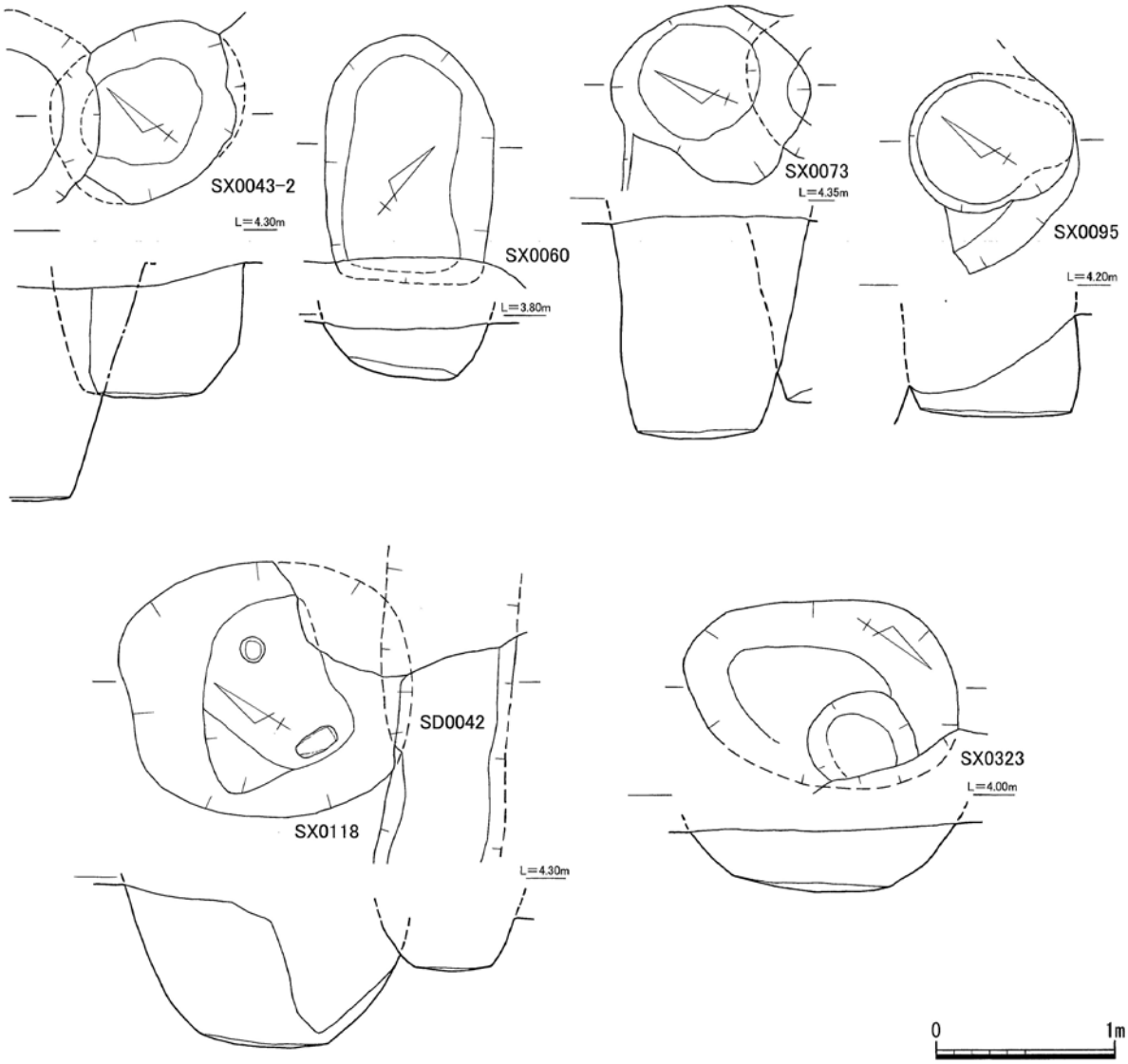


図107 SD0042・SX0043-2・0060・0073・0095・0118・0323平面及び断面図（1/40）

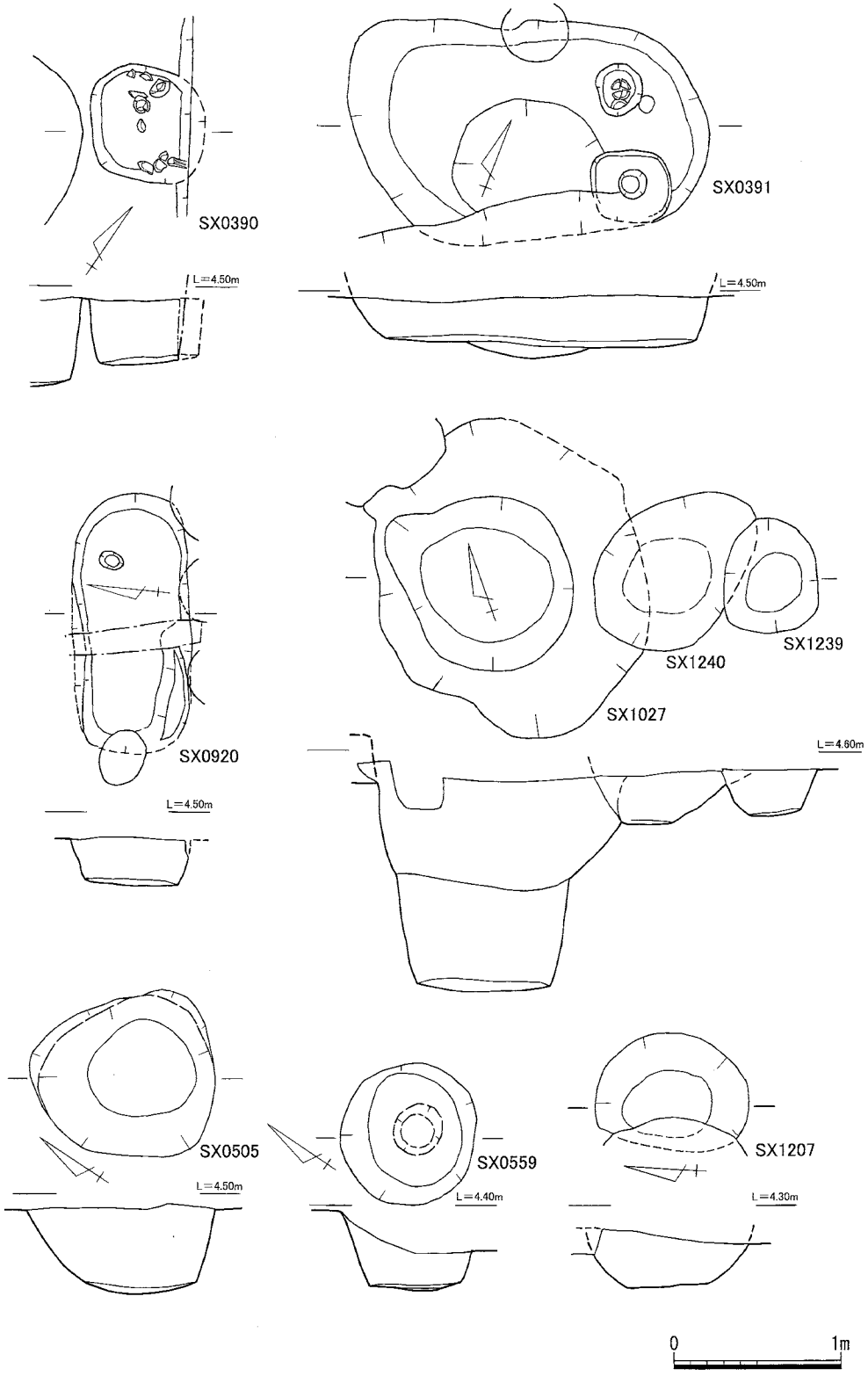


図108 SX0390・0391・0505・0559・0920・1027・1207・1239・1240平面及び断面図(1/40)

底面の標高は3.52m。遺物は出土していない。

井戸　SE1212（図98・101）　4区3～4面相当面検出。中世の井戸である。井筒は桶組の痕跡を確認した。掘方は平面形が円形で、形状は円錐台状である。東西には現代のコンクリート枠の井戸があり、これらにより掘方と井筒はかなり削平されている。埋土は暗褐～褐色砂質土。掘方は径2.82～3.0mで、井筒底面までの深さは1.56mを測る。掘方底面を掘りくぼめ、径0.48～0.55mの井筒を据えている。底面の標高は3.01m。

出土遺物　二次的な混入の状況で土師器坏・小皿の小片がわずかに出土している。

井戸　SE1215（図99～102）　2区3面検出。古代末から中世の方形井側を有する井戸である。井筒は桶組または曲物である。掘方は平面形が楕円形で、形状は円錐台状である。埋土は掘方はややきめ粗い灰褐色砂（わずかに粘性あり）、井筒には灰色砂質土と暗灰色混粗砂粘質土が堆積している。掘方は径5.25～4.52mでかなり大きな規模である。井筒底面までの深さは2.28mを測る、土層及び掘方の痕跡からみると、掘方の底面を掘りくぼめた後、四隅に6～8cm角の柱を立て、柱間には約1.5cm厚の板を縦方向に差して井側を作っている。井側は東西に1.05m南北に1.10mほどで、その中央部に径0.45mほどの井筒を据えたものと思われる。井筒底面の標高は1.62mである。 なお、井筒上面に位置する土壙であるSX0902から出土した土師器からみて12世紀後半以降には埋没していたと思われる。

出土遺物（298～301）　ほとんどが掘方からの出土であるがいずれも二次的な混入によるものである。掘方からは古墳時代土師器甕、高坏、奈良時代須恵器坏・皿、土師器坏・小皿、中国産白磁椀Ⅱ

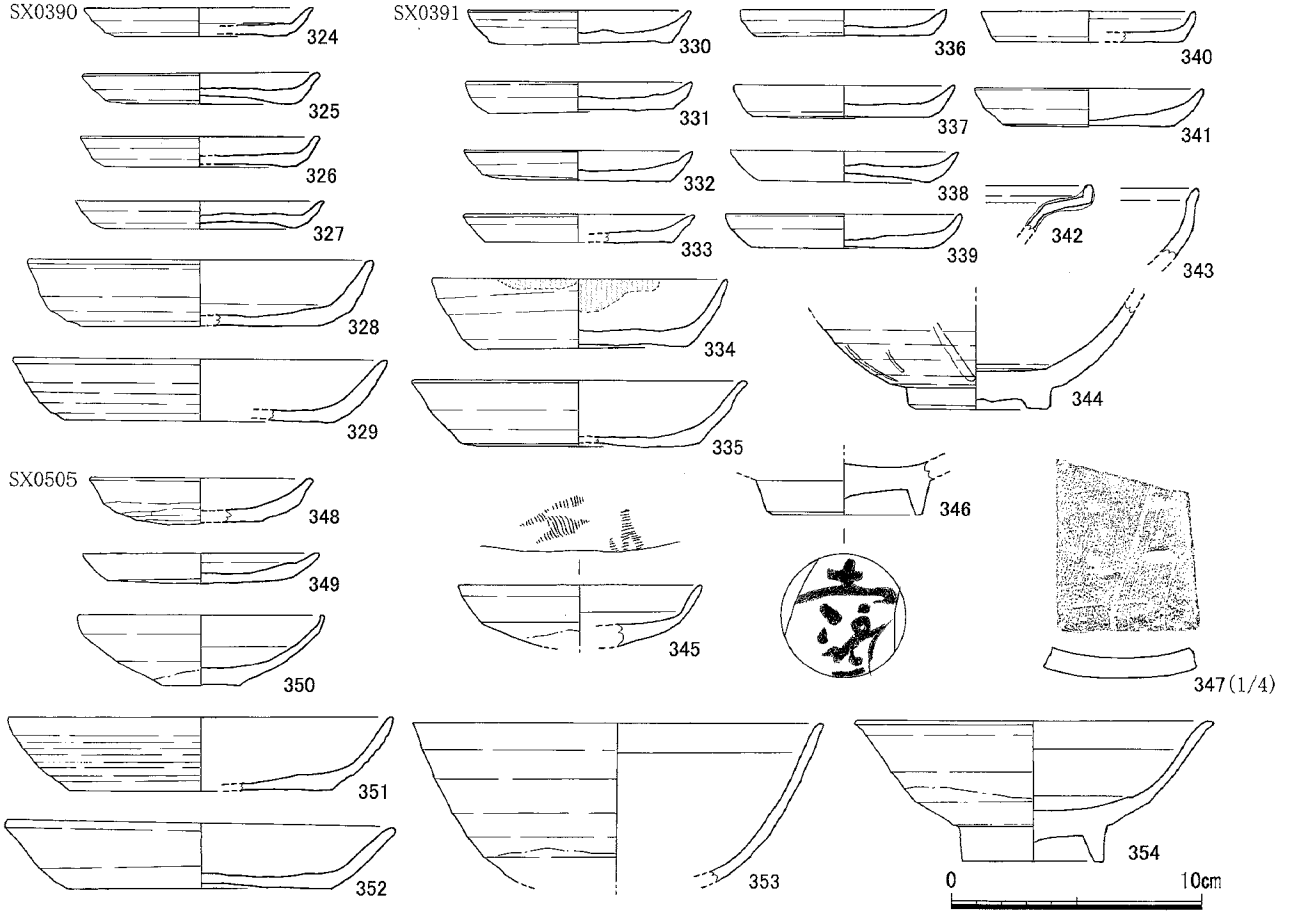


図109 SX0390・0391・0505出土遺物実測図（1/3・1/4）

・Ⅳ類・小皿Ⅵ類・高台付皿、龍泉窯系青磁椀、高麗陶質土器甕が出土している。井筒からは土師器坏・小皿298～301、瓦器、中世瓦片等が出土している。

井戸　SX0902（図102・103）　２区２面検出。中世の土壙である。SE1215の井筒上層部にあたり、SE1215埋没の時期の下限を知る遺構である。掘方は平面形が楕円形で、埋土は暗褐色～暗褐色混砂弱粘質土層。掘方は径0.86×1.01mで、深さは0.56mである。

出土遺物（273～275）　投棄された状態で出土した土師器坏275・小皿273・274の他はいずれも埋土への二次的な混入によるもので、小片である。奈良時代須恵器坏身、瓦器椀、中国産白磁椀Ⅱ類、皿Ⅵ類が出土している。

井戸　SE0957（図102）　２区２面検出。中世の井戸である。調査区壁にかかっているため完掘していない。井筒は桶組と思われる。掘方は平面形が楕円形で、埋土は暗褐色～暗灰褐色砂質土。

出土遺物（276～282）　弥生中期土器甕、土師器坏・小皿276～280、奈良時代須恵器甕、坏、瓦器椀、格子目叩痕のある古代瓦、中国産白磁椀Ⅱ・Ⅳ・小皿281・Ⅵ類282、龍泉窯系青磁椀（明代の可能性がある）・青白磁菊花皿・椀、磁灶窯盤・水注、滑石製石鍋片が出土している。遺物はほとんどが細片で、二次的な混入品である。

井戸　SE1028（図102）　２区２面検出。中世後期の井戸である。井筒は桶組か。掘方は平面形が不

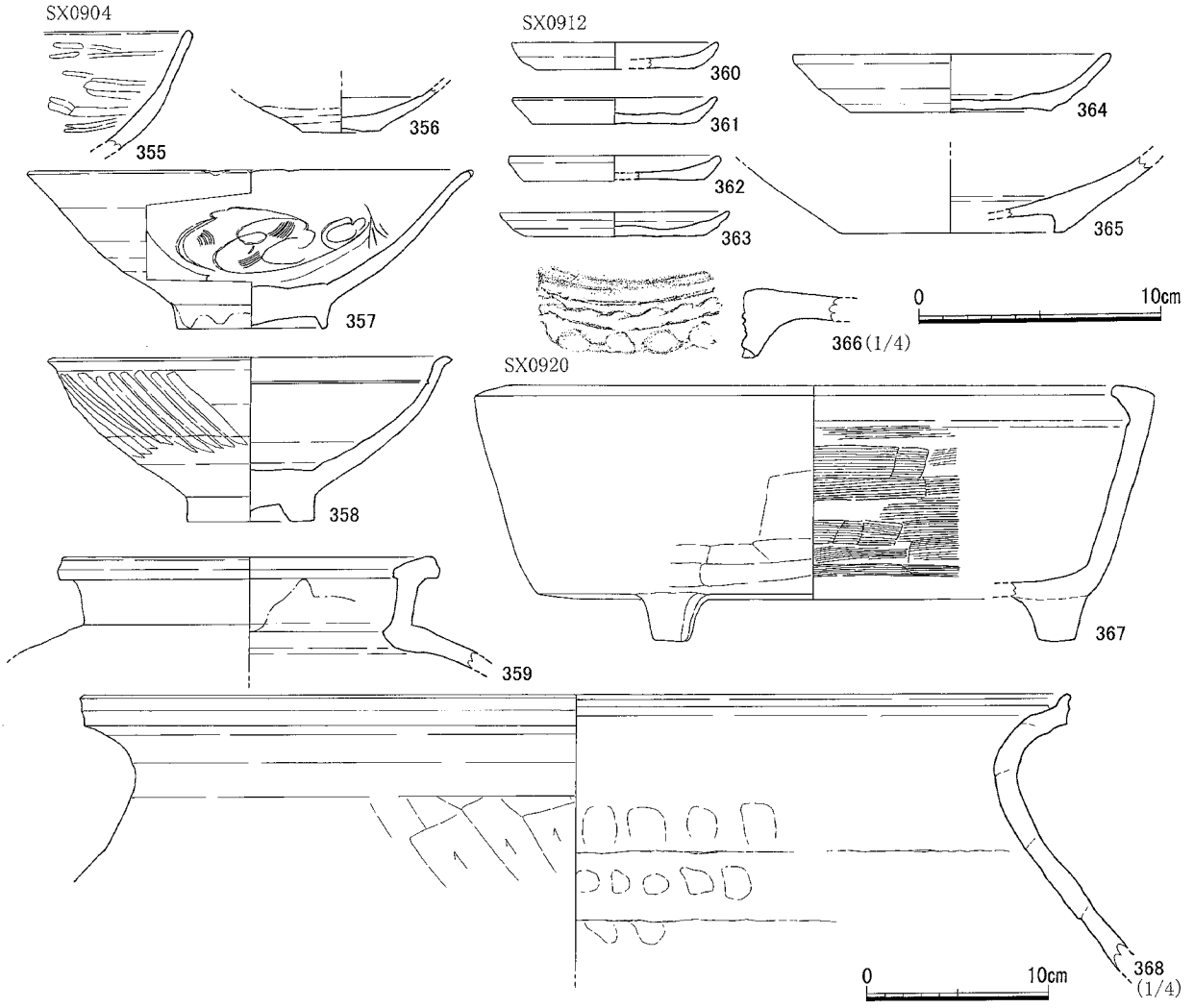


図110 SX0904・0912・0920出土遺物実測図（1/3・1/4）

整な円形で、埋土は暗褐色砂質土と黒灰色混砂粘質土、明褐色砂の混合土である。掘方は径2.67×2.50mで、井筒底面までの深さは2.35mを測る。底面の標高は1.67m。12世紀後半代の遺物が多いが、龍泉窯系青磁Ⅳ類等の出土からみて、15世紀代まで下がる可能性がある。

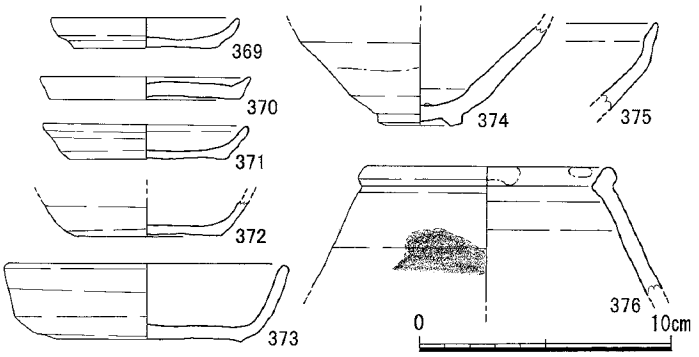


図111 SX0920出土遺物実測図(1/3)

出土遺物(283～297)　出土遺物はいずれも二次的な混入品で、小片が多い。古墳時代土師器鉢・壷、奈良時代土師器甕・須恵器坏、古代土師器椀・坏・小皿283～287、瓦器椀、中国産白磁椀Ⅱ293・Ⅳ・Ⅴ・Ⅷ類291・294・小皿Ⅵ類288、龍泉窯系青磁椀Ⅳ類289、緑釉椀又は皿、褐釉鉢・小皿295、四耳壺片、青白磁合子292、天目椀290、高麗青磁椀296、ガラス製連玉297等が出土している。

井戸　SE1540(図104・105)　3区1面検出。中世の井戸である。井筒は確認できていないが桶組の可能性がある。掘方は平面形が不整な円形で、形状は逆円錐台状埋土は暗茶灰色軟質砂質土。掘方は径3.01×2.82mである。掘り下げ面までの深さは1.63m。

出土遺物(310～323)　出土遺物はいずれも二次的な混入品で、小片が多い。奈良時代須恵器坏・皿、甕、瓦器椀、土師器坏316・小皿310～313、中国産白磁椀Ⅱ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ323類、口禿椀321・小皿、龍泉窯系青磁椀Ⅲ類320、同安窯系青磁椀・小皿、青白磁合子、緑釉陶器盤314・315、禾目天目椀317・318、高麗青磁椀319、褐釉陶器摺鉢322、石鍋、瓦片が出土している。323の外底部には「□綱」の墨書がある。

土壙　SX0043-2(図107)　1区2面検出。中世の土壙である。掘方は平面形が不整な楕円形で、形状は逆円錐台状である。埋土は暗褐色混砂弱粘質土でほぼ均一である。木炭片をわずかに含む。掘方の規模は1.18×0.89×0.76mで、底面の標高は3.26m。遺構の先後関係はSX0044→SX0043→SX0043-2→SX0187→SE00876である。

出土遺物　いずれも二次的な混入品で、ほとんどが小片のため図示できるものはない。白磁Ⅳ・Ⅴ類椀、弥生土器片、古墳時代甕片、中世土師器坏・小皿、内黒土器椀、土師質土鍋片、瓦器椀等が出土している。

土壙　SX0060(図107)　1区2面検出。中世の土壙である。掘方は平面形が隅丸長方形で、断面形は逆台形。埋土は灰褐色混砂粘質土。掘方の規模は1.41×

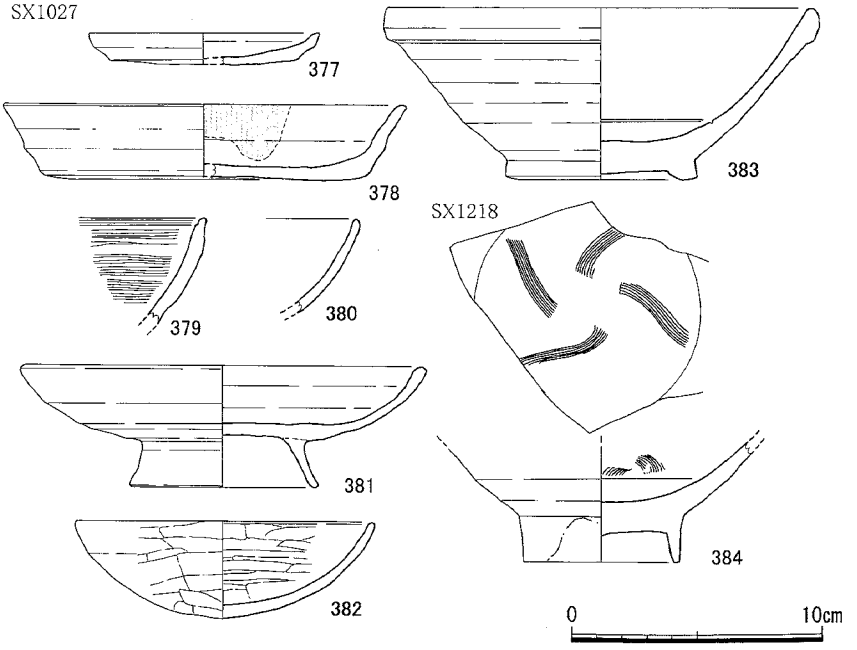


図112 SX1027・1218出土遺物実測図(1/3)

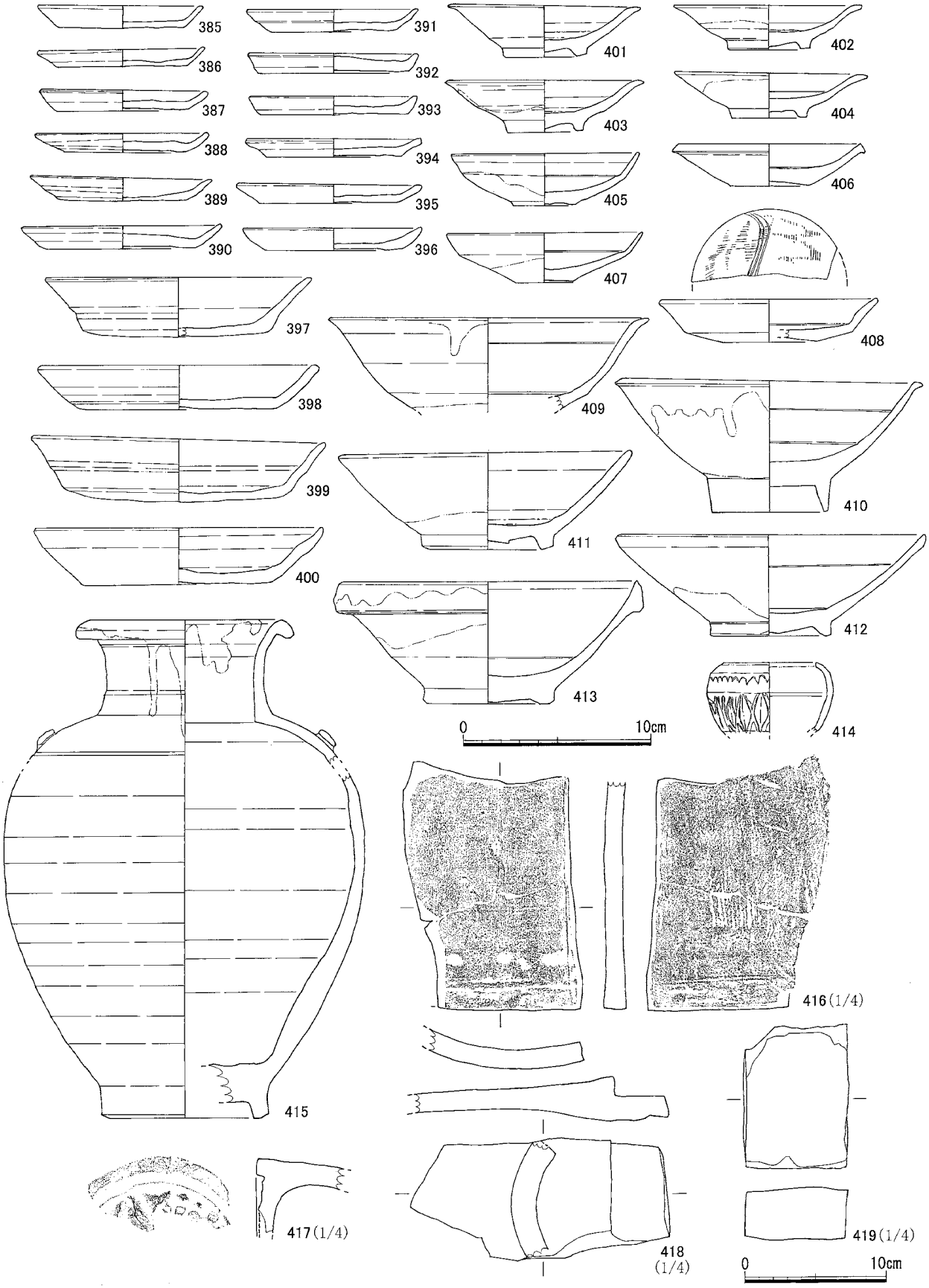


図113 SD1482出土遺物実測図(1/3・1/4)

0.95m、深さ0.32m。長軸の方位はN-39°20′-W。上限は12世紀後半頃であろう。柱穴の可能性がある。

出土遺物　いずれも二次的な混入品で、ほとんどが小片のため図示できるものはない。中世土師器坏・小皿、中国産白磁椀Ⅳ・Ⅴ類椀、同安窯系青磁椀等が少量出土している。

土壙　SX0073(図107)　1区2面検出。中世の土壙である。掘方は平面形が円形で、形状は円筒状である。埋土は灰褐色～褐色混砂弱粘質土。掘方の規模は1.11×0.98m、深さ1.26m。長軸の方位はN-21°0′-W。遺構の先後関係はSX120→SX073(SX121)である。

出土遺物　いずれも二次的な混入品で、ほとんどが小片のため図示できるものはない。弥生土器甕、中世土師器坏・小皿片・土鍋片、瓦器椀、中国産白磁椀Ⅳ類が50点ほど出土している。

図114 SE0064・0126・0270完掘状況(西から)

土壙　SX0095(図107)
1区2面検出。中世の土壙である。掘方は平面形が円形で、形状は円筒状である。埋土は暗褐色混砂粘質土。掘方の規模は0.92×0.78m、深さ0.57m。長軸の方位はN-33°-W。遺構の先後関係はSD042→SX095→SE027→SE0866である。

出土遺物　いずれも二次的な混入品で、ほとんどが小片のため図示できるものはない。中世土師器坏・小皿片、瓦器椀、中国産白磁椀Ⅴ類黄釉盤が出土している。小片のみである。

土壙　SX0118(図107)
1区2面検出。掘方は平面形が円形で、形状は円筒状である。埋土は褐色～暗褐色混砂粘質土。掘方の規模は1.66×1.44m、深さ0.8m。遺構の先後関係はSX0118→SD0042である。

出土遺物　いずれも二次

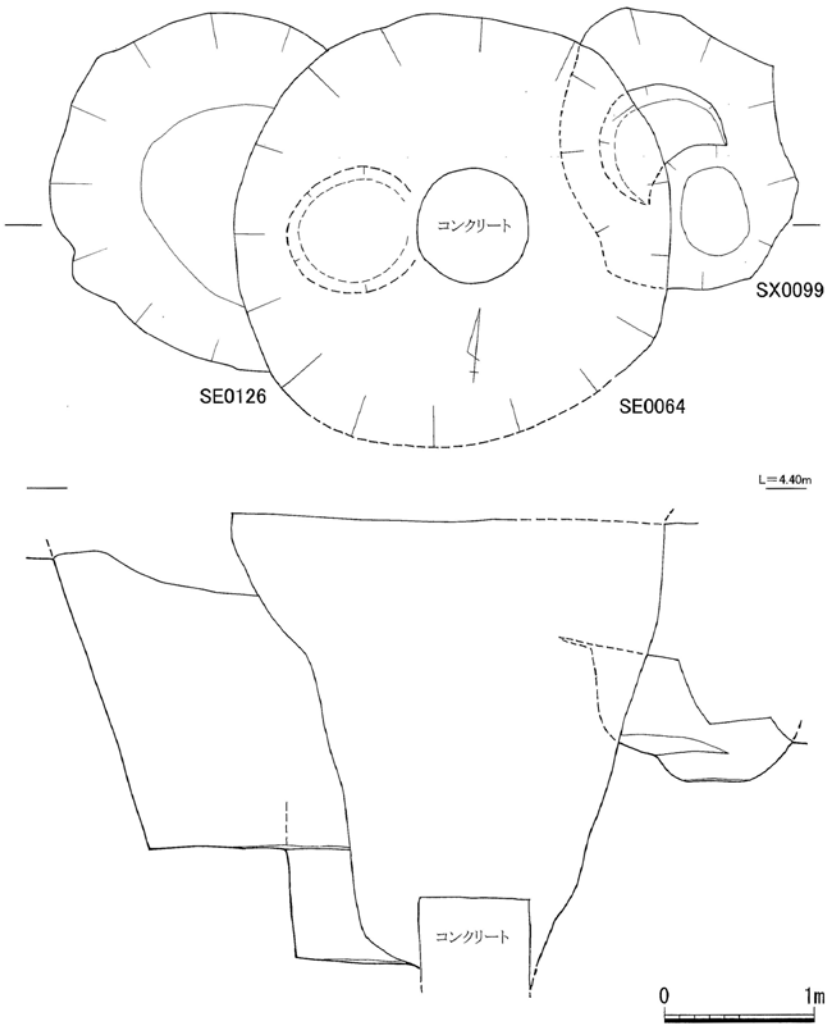


図115 SE0064・SX0099・SE0126平面及び断面図(1/50)

的な混入品で、ほとんどが小片のため図示できるものはない。古墳時代土師器甕・鉢、古代土師器丸底坏、椀、中世土師器坏・小皿、東播磨系捏鉢、中国産白磁Ⅱ・Ⅴ・Ⅷ類、陶器鉢等が出土している。

土壙　SX0323（図107）　1区3面検出。中世の土壙と思われる。掘方は平面形が楕円形で、断面形は逆台形。埋土は暗褐色混砂弱粘質土。掘方の規模は1.53×1.09m、深さ0.38m。長軸の方位はN-34°-W。遺構の先後関係はSE0126→SX0323である。出土遺物はない。

土壙　SX0390（図108・109）　2区1面検出。中世の土壙である。掘方は平面形が隅丸方形で、断面形は逆台形。埋土は灰褐色砂質土（木炭・貝含む）。掘方の規模は0.7×0.7m、深さ0.39m。長軸の方位はN-33°-W。遺構の先後関係はSX0913→SE0919→SX0390。

出土遺物（324～329）　いずれも二次的な混入品である。中世土師器坏328・329・小皿324～327の他、奈良時代須恵甕・坏蓋、中国産白磁Ⅳ・Ⅴ類、龍泉窯系青磁椀Ⅱ・Ⅲ類、褐釉四耳壺、水注、獣骨片が出土している。

土壙　SX0391（図108・109）　2区1面検出。中世後期の土壙である。掘方は平面形が不整な楕円形で、断面形は逆台形。埋土は黒褐色土（木炭多く含む）と灰～灰褐色砂質土（木炭・黄粘土含む）の

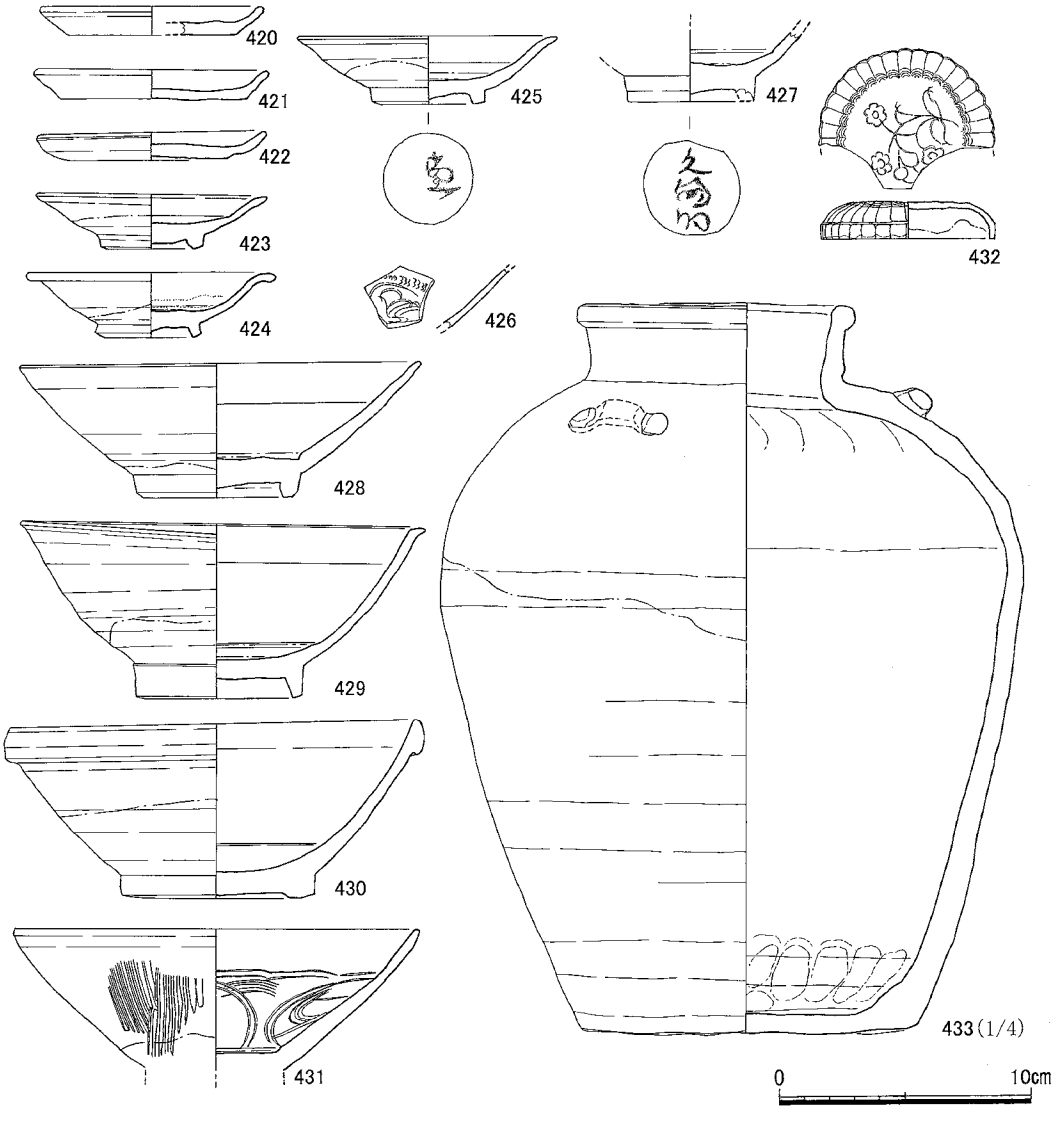


図116 SE0126出土遺物実測図（1/3・1/4）

混合土である。掘方の規模は2.21×1.29m、深さ0.38m。長軸の方位はN-70°-E。遺構の先後関係はSE0911→SX0391→SP0416である。

出土遺物(330～347)　いずれも二次的な混入品である。中世土師器坏334・335・小皿330～333・336～341、奈良時代須恵器坏、中国産白磁椀Ⅱ・Ⅳ・Ⅴ(346)類、青白磁口禿皿、菊花型作りの皿、龍泉窯系青磁椀Ⅰ(344)・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ(342)類、黄釉盤、同安窯系青磁皿345、黒釉天目椀343、中世瓦347等が出土している。

土壙　SX0396(図69)　2区1面検出。古代末から中世にかかる土壙である。掘方は平面形が楕円形で、形状は円錐台状である。埋土は暗褐色砂質土。掘方の規模は1.40×1.15m、深さ0.57mで、底面の標高は3.86m。遺構の先後関係はSX0396→SX0394・SX0399。

出土遺物　中世土師器坏・小皿、中国産白磁椀Ⅳ・Ⅴ類、東播系捏鉢が出土。

土壙　SX0505(図108・109)　2区1面検出。中世の土壙である。掘方は平面形が不整な円形で、形状は円筒状である。埋土は灰～暗灰色砂質土でほぼ均一な土質である。掘方の規模は1.12×1.03m、深さ0.54±αm。遺構の先後関係はSD0777→SX0505→SP0383である。

出土遺物(348～354)　いずれも二次的な混入品である。奈良時代土師甕、須恵甕・坏身・蓋、中世土師器坏351・352・小皿348・349、瓦器椀、中国産白磁椀Ⅱ・Ⅳ・Ⅴ(353・354)・Ⅷ類、皿Ⅵ(350)類、同安窯系青磁皿、中世瓦片が出土している。

図117 SE0244井筒検出状況(南西から)

図118 SE0244井筒完掘状況(西から)

図119 SE0186・0244・0301・0256・0058・0061・0227分布状況(西から)

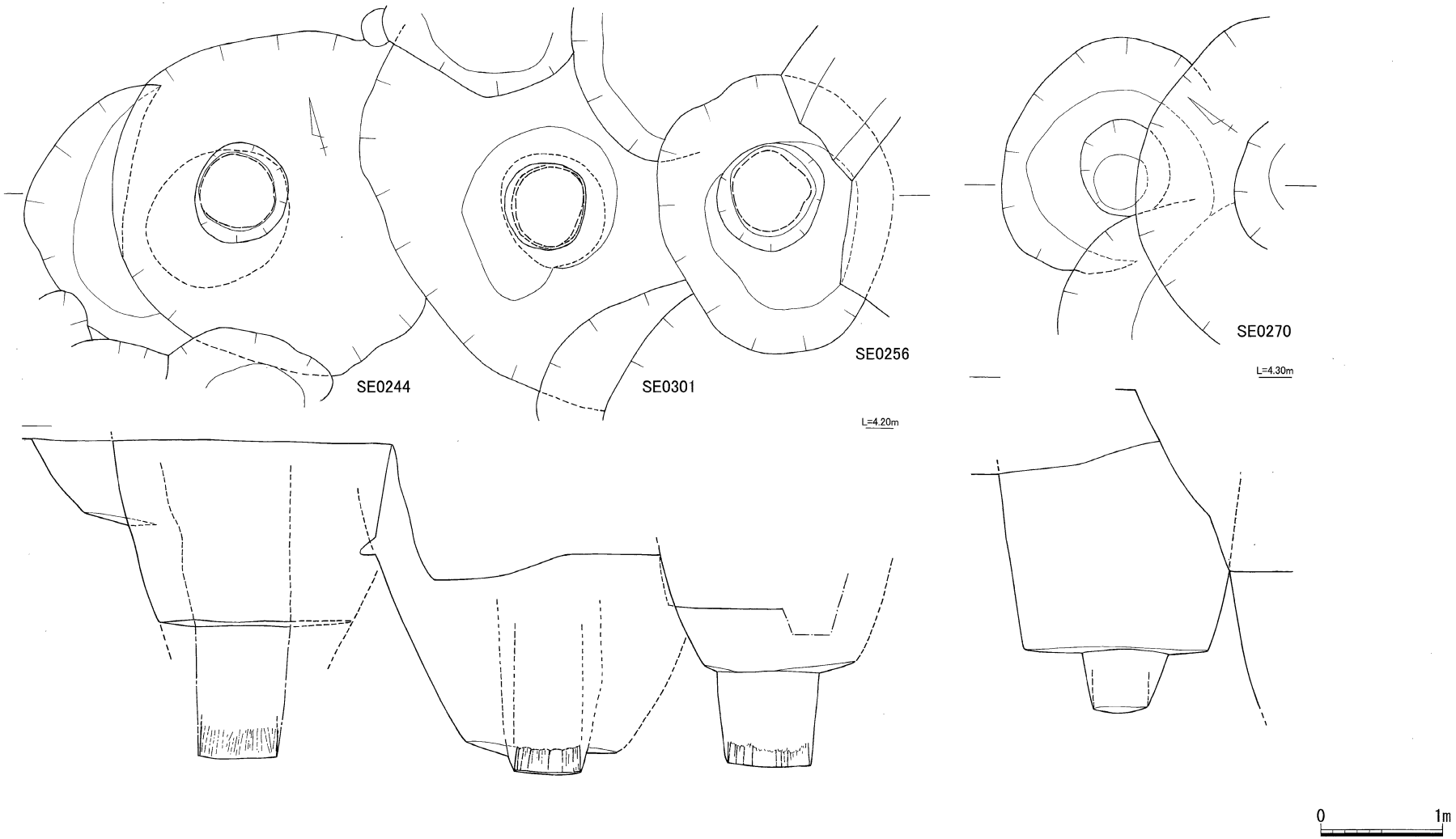


図120 SE0244・0256・0270・0301平面及び断面図(1/50)

土壙　SX0559（図108）　２区１面検出。中世後期の土壙である。掘方は平面形が円形で、形状は円筒状である。埋土は黒灰色砂質土、暗褐色砂、明褐色砂の混合土。掘方の規模は0.87×0.81mで深さは0.47mである。

出土遺物　いずれも二次的な混入品で、ほとんどが小片のため図示できるものはない。中世土師器坏・小皿、瓦器椀等が出土している。

土壙　SX0920（図108・110・111）　２区２面検出。中世後期の土壙である。掘方は平面形が隅丸長方形で、形状は逆台形状である。埋土は木炭・黄灰色粘土小塊を多く含む軟質のややくすんだ褐色砂質土。掘方の規模は1.61×0.7×0.31m。長軸の方位はN-75°-Eである。

出土遺物（367～376）　土師器坏373・小皿369～372、瓦器椀、常滑産陶器甕368、中国産白磁椀Ⅳ・Ⅴ類、龍泉窯系青磁椀、黒釉天目椀374・375、陶器耳壺376、瓦質火舎367等が出土している。

土壙　SX1027（図108・112）　２区２面検出。中世の土壙である。掘方は平面形が不整な楕円形で、形状は円筒状である。埋土は暗褐色混砂粘質土。掘方の規模は1.95×1.63m、深さ1.39mで、底面の標高は3.20m。遺構の先後関係はSX1027→1240→1239。掘方の形状等からみて井戸の可能性もある。

出土遺物（377～383）　いずれも二次的な混入品である。古墳時代土師器甕・鉢382、奈良時代土師器甕・須恵器坏、土師器椀380・坏378・小皿377・脚台付坏381、楠葉型瓦器椀379、中国産白磁椀Ⅱ・Ⅳ・Ⅵ（383）類、・小皿、褐釉鉢、四耳壺、瓦片、獣骨片が出土している。

土壙　SX1207（図108）　２区４面検出。中世後期～近世の土壙である。掘方は平面形が楕円形で、形状は円筒状である。埋土は暗茶褐色砂質土。掘方の規模は0.90×0.71m、深さ0.36m。

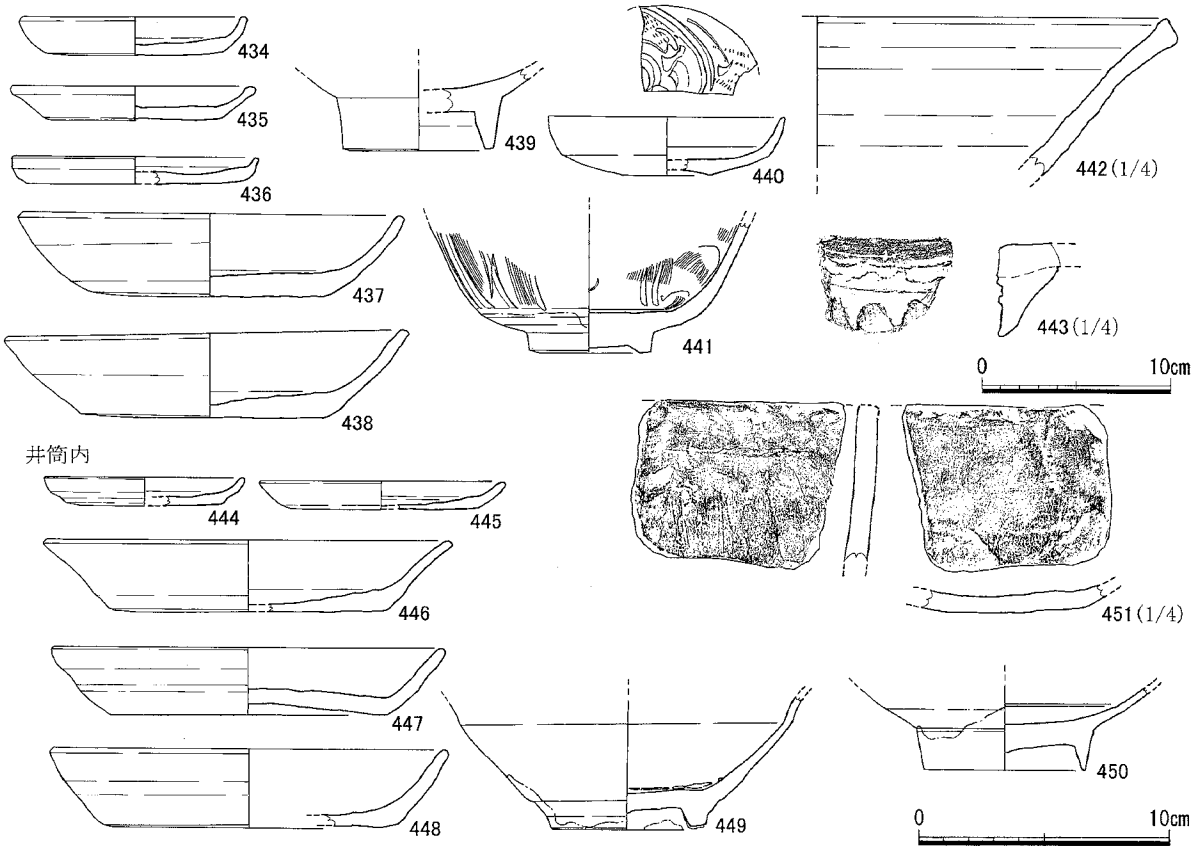


図121 SE0244出土遺物実測図（1/3・1/4）

出土遺物　いずれも二次的な混入品で、ほとんどが小片のため図示できるものはない。中世土師機片、瓦片、獣骨片が数点出土している。

土壙　SX1239（図108）　２区４面検出。中世の土壙である。掘方は平面形が不整な楕円形で、形状

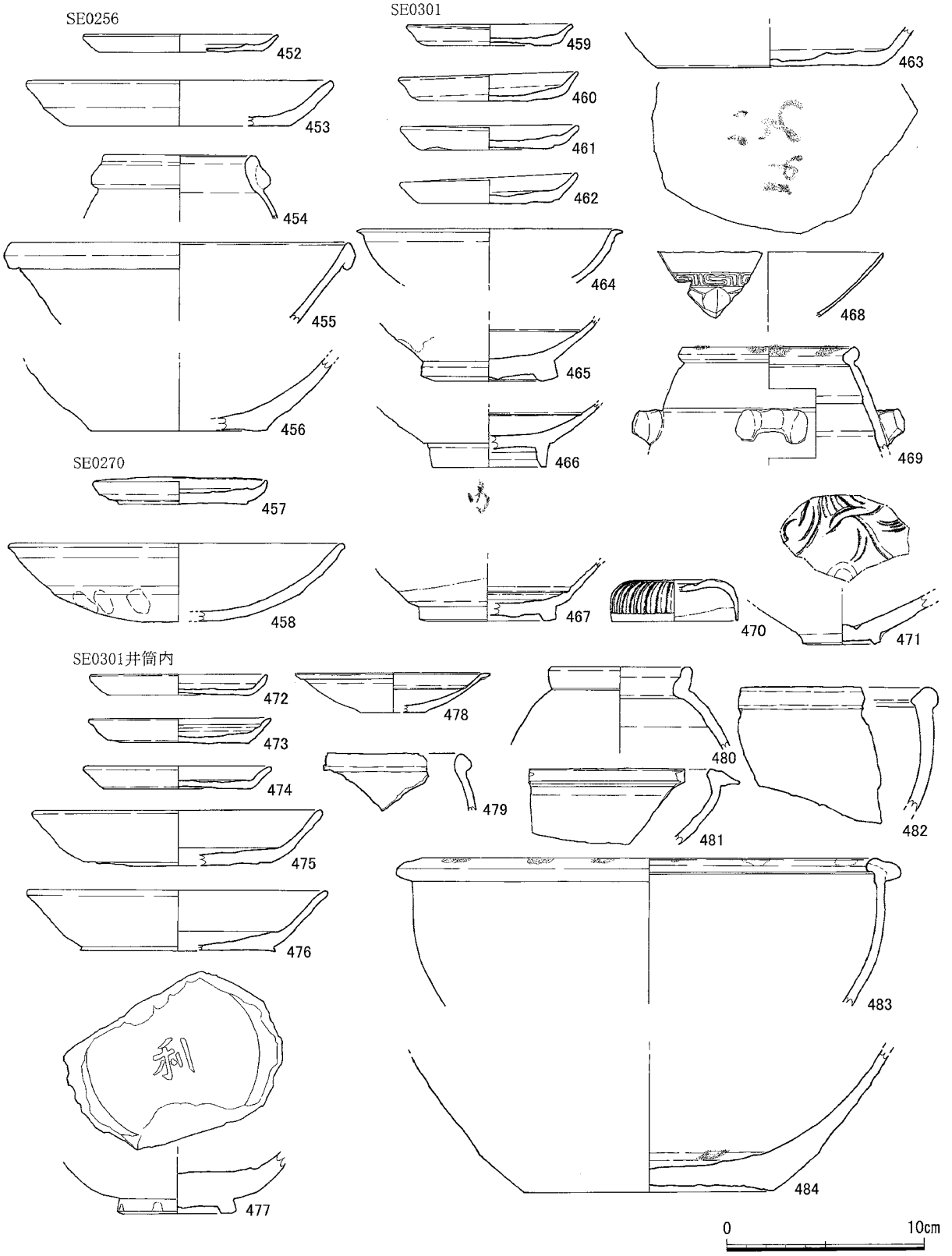


図122 SE0256・0270・0301出土遺物実測図（1/3）

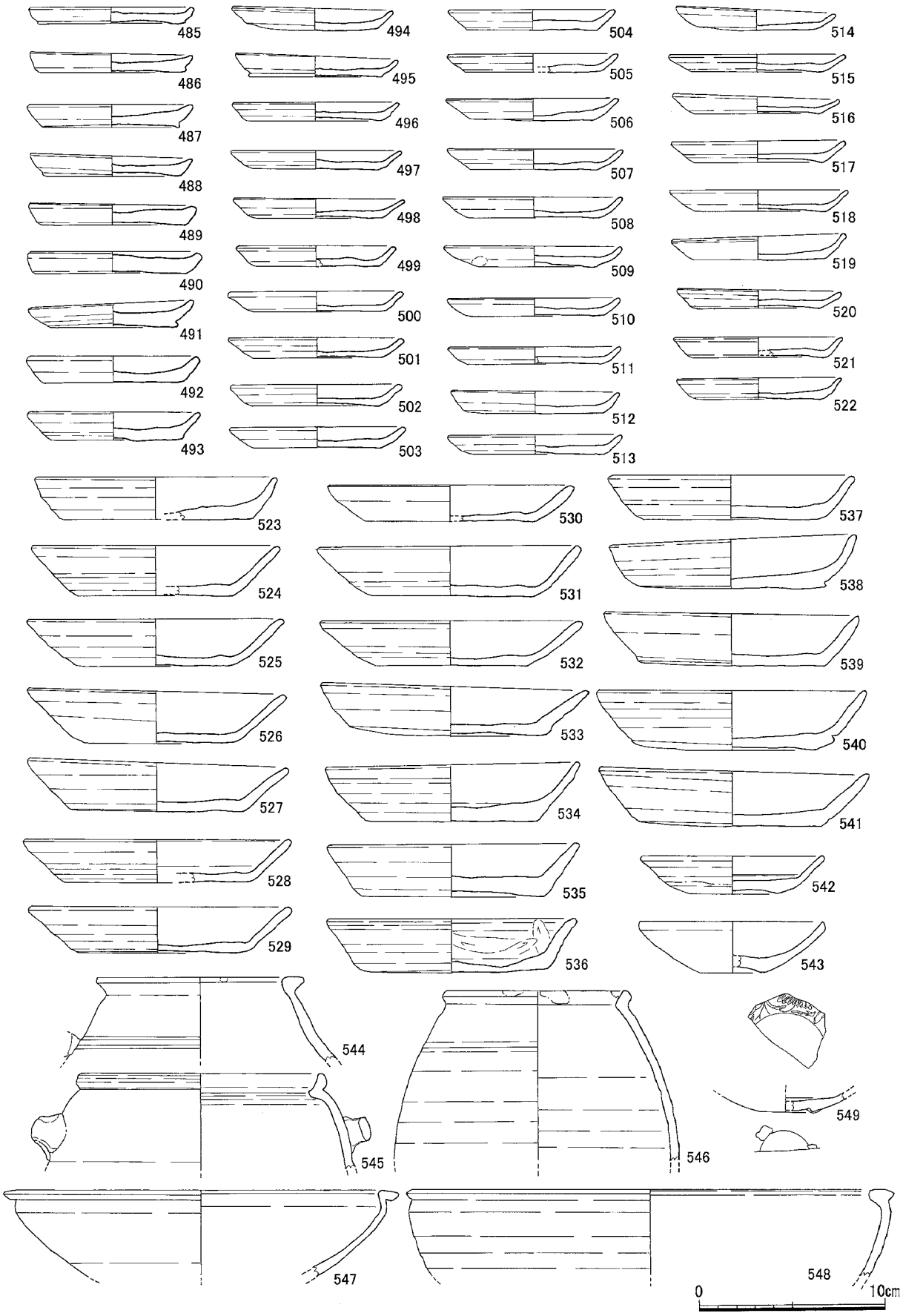


図123 SE0370出土遺物実測図(1/3)

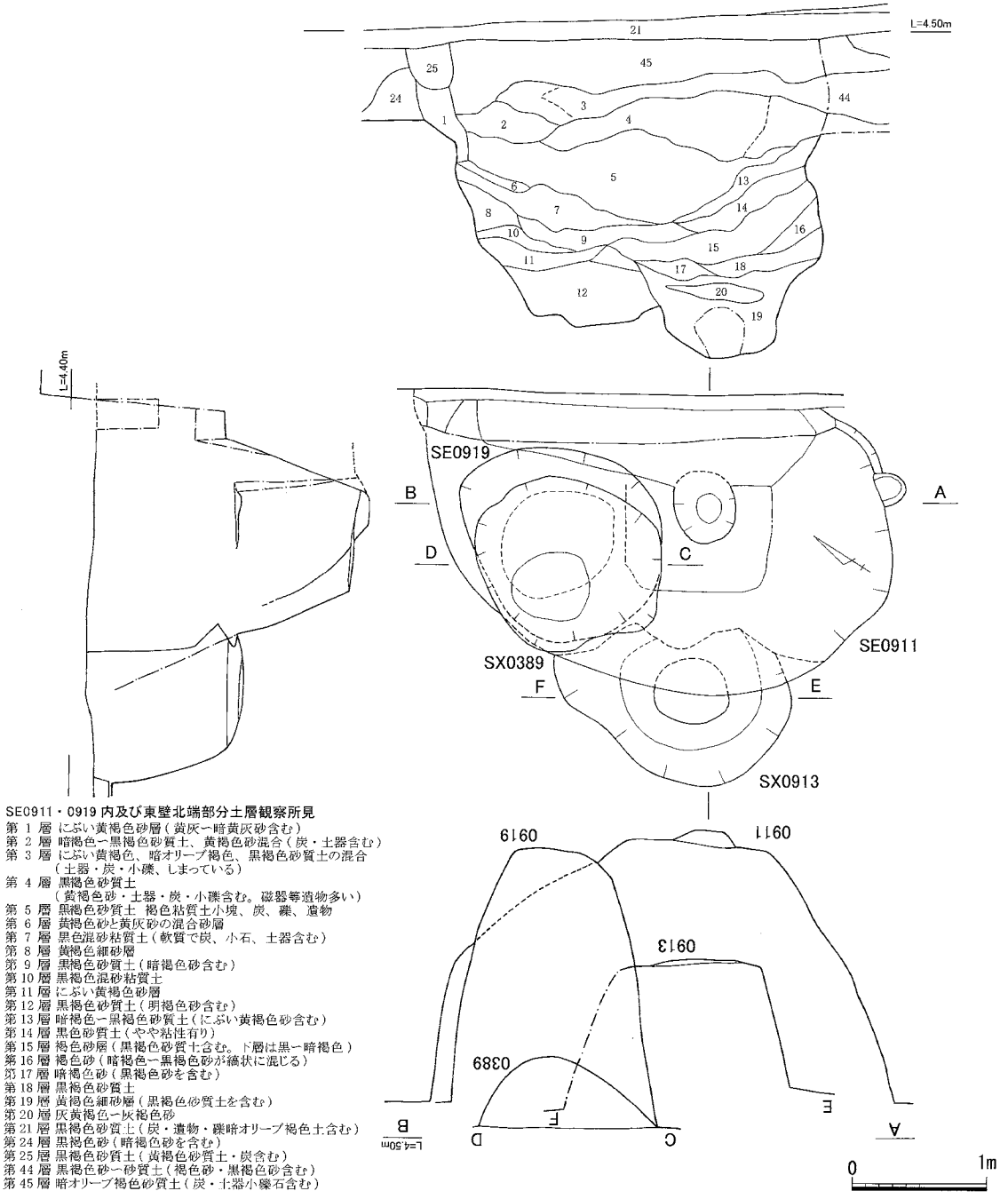
は円筒状である。埋土は暗灰褐色砂質土。掘方の規模は0.71×0.57m、深さ0.29mである。

出土遺物　いずれも二次的な混入品で、ほとんどが小片のため図示できるものはない。土師器坏(ヘラ切)・小皿、中国産白磁Ⅳ・Ⅴ類等が出土している。

土壙　SX1240(図108)　２区４面検出。中世の土壙である。掘方は平面形が不整な楕円形で、形状は円筒状である。埋土は黒褐～暗褐色砂質土。掘方の規模は1.17×0.83m、深さ0.31m。SX1240を切る。

出土遺物　いずれも二次的な混入品で、ほとんどが小片のため図示できるものはない。土師器坏(ヘラ切)・小皿、中国産白磁出土している。

土壙　SX0904(図110)　２区２面検出。遺構図は図示していない。中世の土壙である。掘方は平面形



SE0911・0919 内及び東壁北端部分土層観察所見
第 1 層 にぶい黄褐色砂層(黄灰ー暗黄灰砂含む)
第 2 層 暗褐色ー黒褐色砂質土、黄褐色砂混合(炭・土器含む)
第 3 層 にぶい黄褐色、暗オリーブ褐色、黒褐色砂質土の混合(土器・炭・小礫、しまっている)
第 4 層 黒褐色砂質土(黄褐色砂・土器・炭・小礫含む。磁器等遺物多い)
第 5 層 黒褐色砂質土 褐色粘質土小塊、炭、礫、遺物
第 6 層 黄褐色砂と黄灰砂の混合砂層
第 7 層 黒色混砂粘質土(軟質で炭、小石、土器含む)
第 8 層 黄褐色細砂層
第 9 層 黒褐色砂質土(暗褐色砂含む)
第 10 層 黒褐色混砂粘質土
第 11 層 にぶい黄褐色砂層
第 12 層 黒褐色砂質土(明褐色砂含む)
第 13 層 暗褐色ー黒褐色砂質土(にぶい黄褐色砂含む)
第 14 層 黒色砂質土(やや粘性有り)
第 15 層 褐色砂層(黒褐色砂質土含む。下層は黒ー暗褐色)
第 16 層 褐色砂(暗褐色ー黒褐色砂が縞状に混じる)
第 17 層 暗褐色砂(黒褐色砂を含む)
第 18 層 黒褐色砂質土
第 19 層 黄褐色細砂層(黒褐色砂質土を含む)
第 20 層 灰黄褐色ー灰褐色砂
第 21 層 黒褐色砂質土(炭・遺物・礫暗オリーブ褐色土含む)
第 24 層 黒褐色砂(暗褐色砂を含む)
第 25 層 黒褐色砂質土(黄褐色砂質土・炭含む)
第 44 層 黒褐色砂ー砂質土(褐色砂・黒褐色砂含む)
第 45 層 暗オリーブ褐色砂質土(炭・土器小礫石含む)

図124 SE0911・0919, SX0389・0913平面及び断面図(1/50)

が不定形で、埋土は暗灰褐色～黄灰褐色砂質土。掘方の規模は0.65×0.50m、深さ0.31mである。柱穴の可能性がある。

出土遺物(355～359)　いずれも二次的な混入品で、ほとんどが小片である。奈良時代須恵器坏身、瓦器椀355、中国産白磁椀Ⅱ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅷ類357・小皿Ⅵ類356、同安窯系青磁椀358、磁灯窯系盤、褐釉耳壺359、黒釉天目椀(福建省産か)が出土している。

土壙　SX0912(図110)　２区２面検出。中世の土壙である。掘方は平面形が不整な楕円形で、埋土は黄灰色粘土・焼土・砂礫を多く含む暗灰～暗灰褐砂質土。掘方の規模は0.77×0.56m、深さは0.35mを測る。

出土遺物(360～366)　いずれも二次的な混入品で、ほとんどが小片である。土師器坏364・小皿360～363、重圏波状文軒先平瓦366、中国産褐釉陶器鉢365が出土している。

土壙　SX1218(図112)　２区４面検出。中世の土壙である。掘方は平面形が楕円形で、埋土は黒灰色～褐色砂混合。掘方の規模は1.32×0.97m、深さ0.33mである。

出土遺物(384)　いずれも二次的な混入品で、ほとんどが小片である。土師器坏・小皿、瓦器(楠葉型のものも含む)、中国産白磁椀Ⅱ・Ⅳ・Ⅴ(384)類、陶器耳壺、瓦片、銅銭１点等が出土している。

図125 SE0911・0919土層断面(西から)

図126 SE0911・0919中層炭化藁灰層出土状況(東から)

図127 SX0913完掘状況(東から)

溝状遺構　SD1482・0777(図79・113)　２・３区１～２面検出。両溝ともに東西にほぼ直線的に延びる中世の溝である。底面から約15～40cm 程度の遺存状況であり、残りは悪い。両溝は後世の遺構によって寸断されているが、出土遺物及び方向性からみて同じ溝と考えられる。長さ20mについて確認断面形は船底状、一部「Ｖ」字形である。埋土はSD1482が暗灰褐色混砂粘質土で、良く締まり砂礫を含む。SD0777は暗灰褐色～灰褐色粘質土である。部分的に明灰色砂がブロック状にみられる。現存の幅は0.6～1.3mを測るが、本来２m前後はあったものと思われる。底面の標高は4.0～4.2m を測り、緩やかに東へ向かって低くなっている。主軸の方向は、N-81～82°-Wで、SD1563とは直交しており、東西に延び、一定の範囲を画する溝であった可能性がある。

出土遺物(385～419)　SD1482西端部では、溝北壁から床面直上の灰色砂質土中から、土師器坏・小皿が約60枚分ほどまとまり、また中国産白磁等が出土している。一括で投棄されたものと思われる。その他はいずれも二次的な混入品である。奈良時代須恵器坏、土師器坏397～400・小皿385～396、

中国産白磁椀Ⅳ(413)・Ⅴ(409・410)・Ⅷ類(411・412)、・小皿Ⅲ(401～404)・Ⅳ(406)・Ⅵ類(405・407)・四耳壺415、青白磁合子身414、龍泉窯系青磁椀、同安窯系青磁椀・小皿408、瓦片416～418、瓦磚419が出土している。12世紀半ばから後半にかかる時期のものが主体を占める。

井戸　SE0099(図115)　1区2面検出。井筒は不明。掘方は平面形が不整な楕円形で、形状は円筒状である。埋土は黒灰～褐色混砂弱粘質土。掘方は径1.60～1.24m、井筒底面までの深さは0.7mで、底面の標高は2.43m。遺構の先後関係はSE0126→SE0099→SE0647である。

出土遺物　いずれも二次的な混入品で、ほとんどが小片である。弥生土器甕、中世土師器坏・小皿片・土鍋片、瓦器椀、中国産白磁椀Ⅳ・Ⅴ類、中世平瓦等が出土している。

井戸　SE0126(図114～116)　1区2面検出。古代末から中世の井戸である。掘方の東半分ほどをSE0064から削平されている。井筒は桶組の痕跡のみ確認できた。掘方は平面形が円形で、形状は円筒

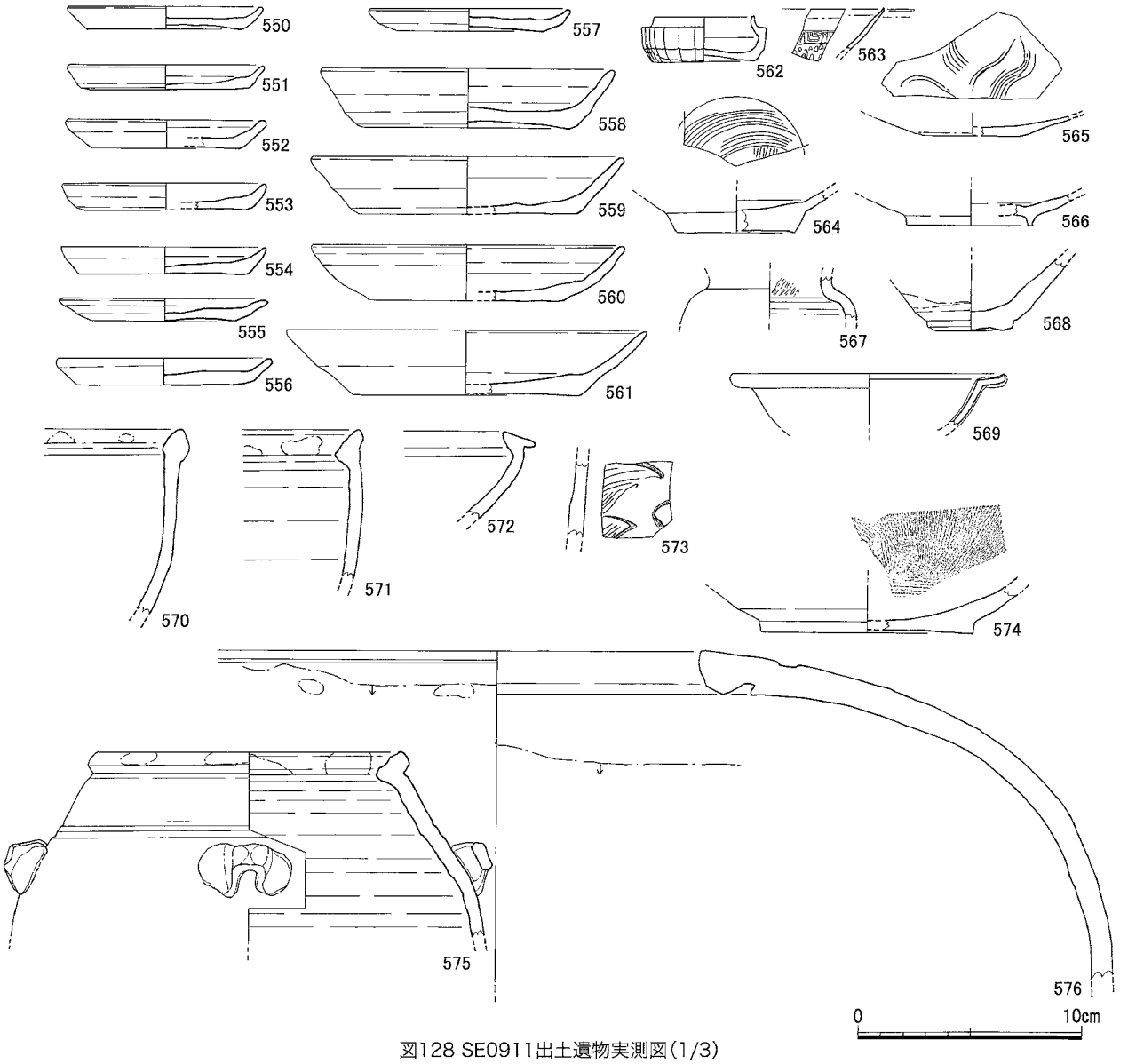


図128 SE0911出土遺物実測図(1/3)

状である。埋土は掘方は暗灰～灰色砂、井筒最下部では暗灰色混粗砂粘質土がみられた。掘方は径1.82～2.10mで、井筒底面までの深さは2.15mである。井筒の径は0.60～0.70mの規模が推定できる。底面の標高は1.86m。遺構の先後関係はSE0126→SE0064である。

出土遺物(420～433)　いずれも二次的に混入して出土している。弥生土器甕、古墳時代土師器甕、中世土師器坏・小皿420～422、中国産白磁椀Ⅳ(430)・Ⅴ(429)・Ⅷ類(427・428)・小皿類423～425、青白磁印花椀426・合子蓋432、龍泉窯系青磁椀、同安窯系青磁椀431、天目椀、褐釉四耳壺433・鉢、楠葉型の瓦器椀、波状押圧文軒平瓦、銅銭1点等が出土している。

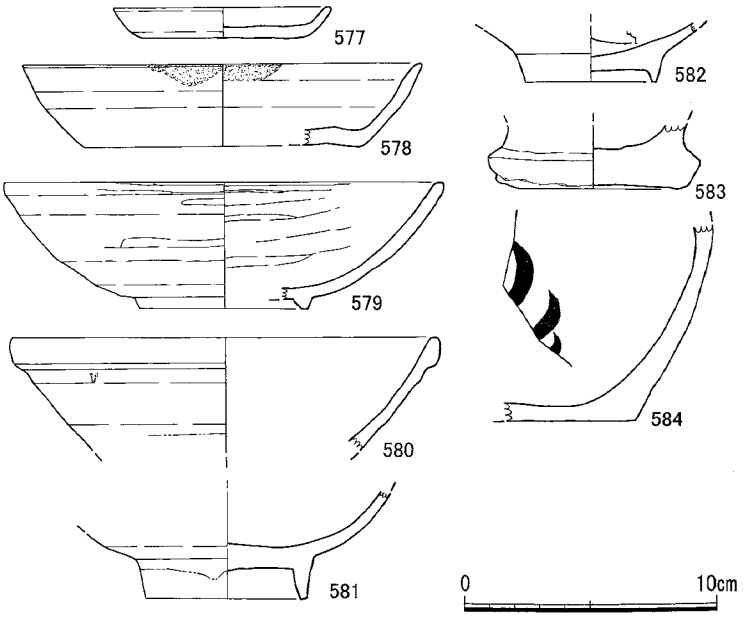


図129 SX0913出土遺物実測図(1/3)

井戸　SE0244(図117～121)　1区2面検出。古代末から中世の井戸である。井筒は桶組と思われる。掘方は平面形が楕円形で、形状は逆円錐台状である。埋土は暗灰色混砂粘質土、黒灰色砂の混合土、井筒内には黄灰白色と黒灰色砂が堆積している。掘方は径2.87mで井筒底面までの深さは2.61mを測る。掘方底面に径0.58～0.60mの井筒を据え、明灰白色砂を裏込めし安定させている。底面の標高は1.52m。遺構の先後関係はSX0222→SE0244→SE0301→SX0257である。

出土遺物(434～450)　434～443は掘方からの出土で、いずれも二次的に埋土に混入し出土している。444～450は井筒からの出土である。中世土師器坏437・438・447・448・小皿434～436・444・445、東播系須恵質捏鉢442、中国産白磁椀Ⅳ・Ⅴ(450)・Ⅷ類・不明439・小皿Ⅷ類440、青白磁椀、龍泉窯系青磁椀441・小皿、同安窯系青磁椀449・小皿、黄釉盤、波状押圧文平瓦443・451、高麗青磁椀、獣骨片等が出土している。

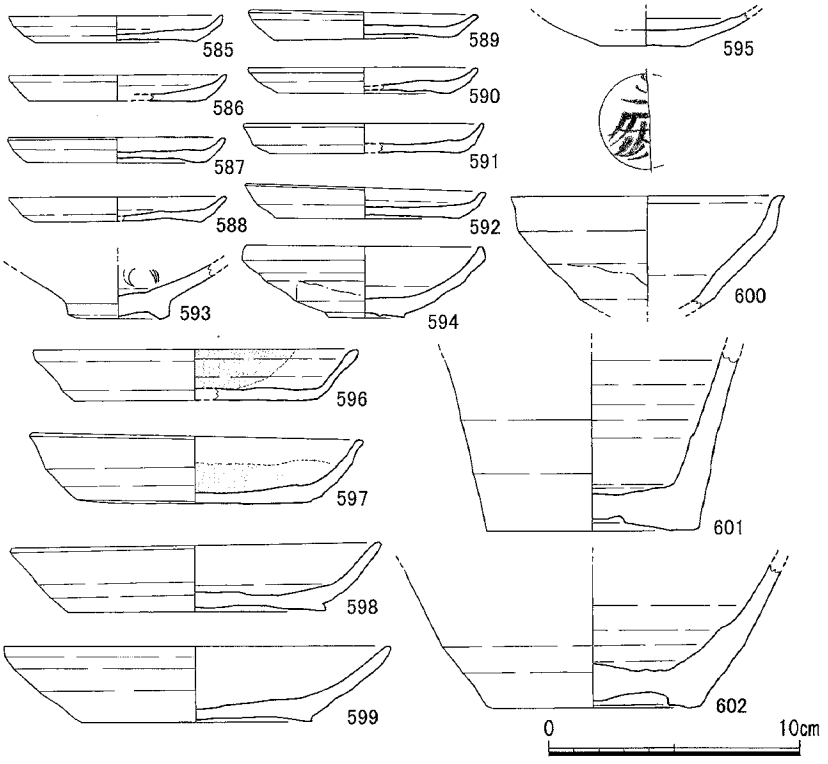
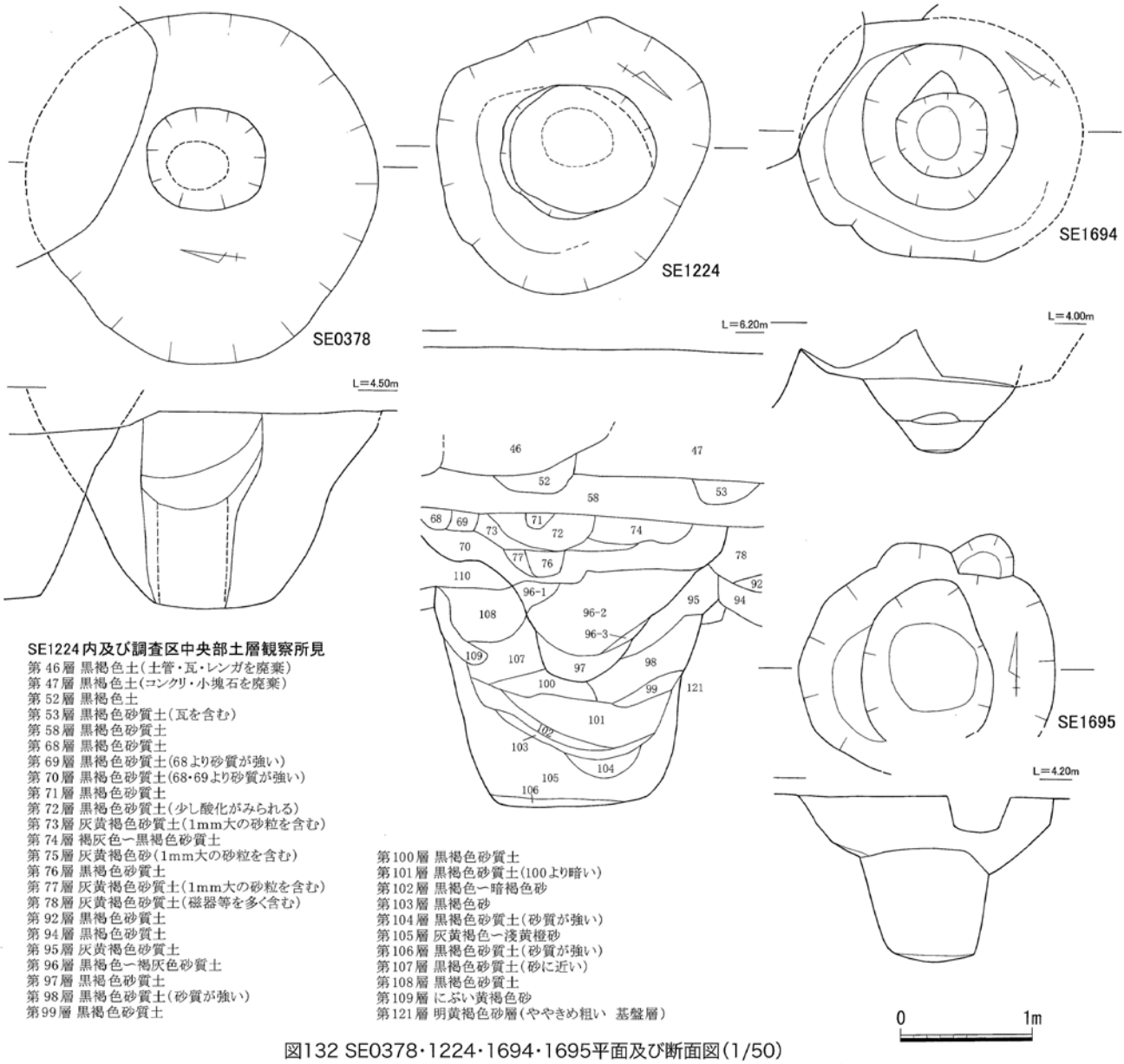


図130 SE0919出土遺物実測図(1/3)

井戸　SE0256（図119・120・122）　1区3面検出。現代SE0001の掘方下部で検出。中世の井戸である。SE0001とSE0067によって大きく削平されている。井筒は桶組痕跡を確認した。掘方は平面形が楕円形で、形状は逆円錐台状である。埋土は黒褐色砂質土。掘方は径1.92～2.30mを測る。井筒底面までの深さは1.67mで、掘方底面を一段掘りくぼめ桶組の井筒を据えている。井筒は径が0.55～0.61mの大形で、圧痕から巾10～12cmの板を組んでいることがわかる。枚数は不明。底面の標高は1.39m。

図131 SE1224完掘状況（南から）



SE1224内及び調査区中央部土層観察所見
第46層 黒褐色土（土管・瓦・レンガを廃棄）
第47層 黒褐色土（コンクリ・小塊石を廃棄）
第52層 黒褐色土
第53層 黒褐色砂質土（瓦を含む）
第58層 黒褐色砂質土
第68層 黒褐色砂質土
第69層 黒褐色砂質土（68より砂質が強い）
第70層 黒褐色砂質土（68・69より砂質が強い）
第71層 黒褐色砂質土
第72層 黒褐色砂質土（少し酸化がみられる）
第73層 灰黄褐色砂質土（1mm大の砂粒を含む）
第74層 褐灰色ー黒褐色砂質土
第75層 灰黄褐色砂（1mm大の砂粒を含む）
第76層 黒褐色砂質土
第77層 灰黄褐色砂質土（1mm大の砂粒を含む）
第78層 灰黄褐色砂質土（磁器等を多く含む）
第92層 黒褐色砂質土
第94層 黒褐色砂質土
第95層 灰黄褐色砂質土
第96層 黒褐色ー褐灰色砂質土
第97層 黒褐色砂質土
第98層 黒褐色砂質土（砂質が強い）
第99層 黒褐色砂質土
第100層 黒褐色砂質土
第101層 黒褐色砂質土（100より暗い）
第102層 黒褐色ー暗褐色砂
第103層 黒褐色砂
第104層 黒褐色砂質土（砂質が強い）
第105層 灰黄褐色ー淡黄橙砂
第106層 黒褐色砂質土（砂質が強い）
第107層 黒褐色砂質土（砂に近い）
第108層 黒褐色砂質土
第109層 にぶい黄褐色砂
第121層 明黄褐色砂層（ややきめ粗い　基盤層）

図132 SE0378・1224・1694・1695平面及び断面図（1/50）

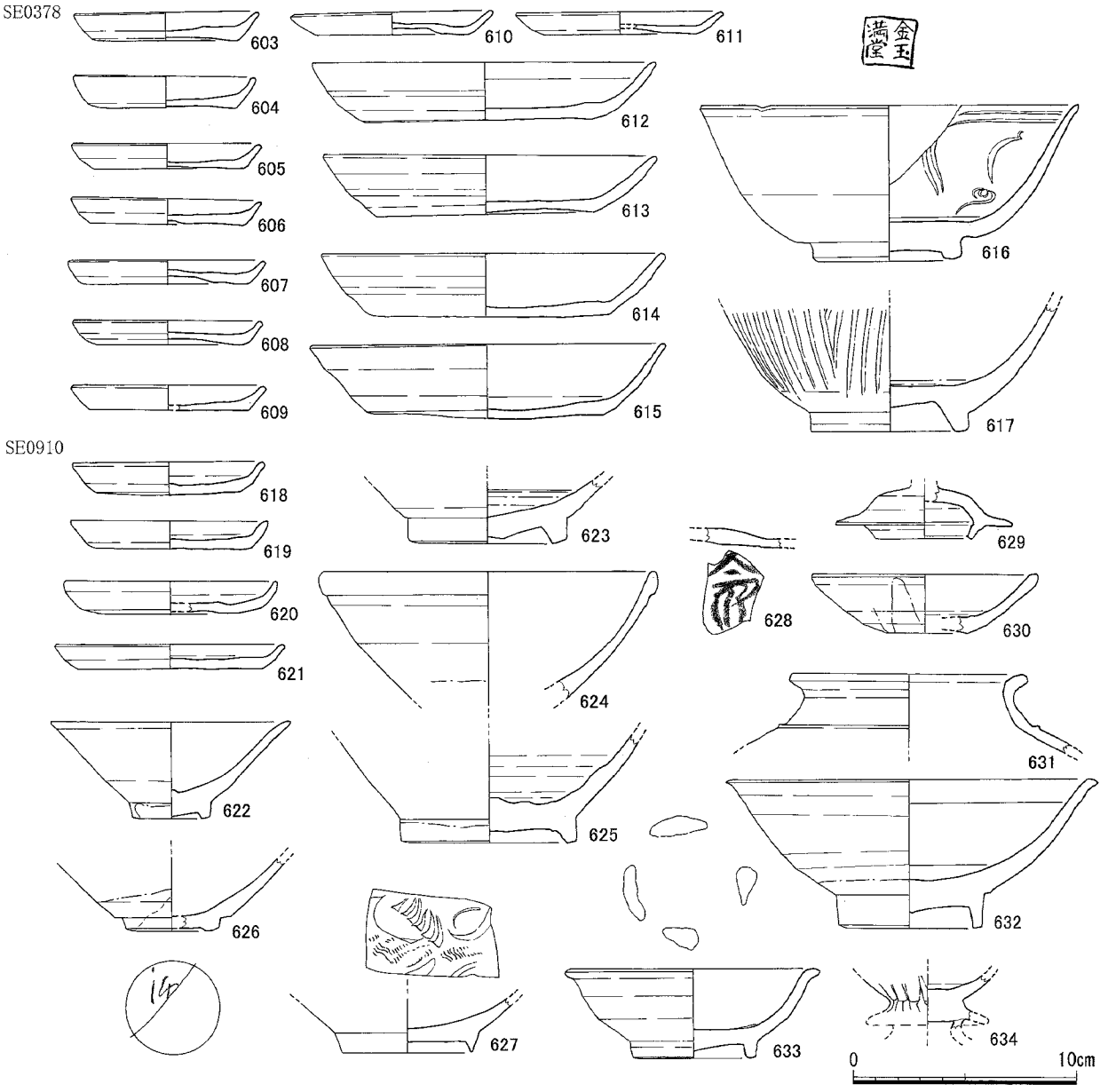


図133 SE0378･0910出土遺物実測図(1/3)

出土遺物(452～456)　いずれも二次的に埋土混入して出土している。中世土師器坏453・小皿452、中国産白磁椀Ⅳ類455、陶器耳壺454、無釉陶器鉢456等が出土している。

井戸　SE0270(図120)　1区3面検出。古代末から中世にかかる井戸である。井筒は桶組か。掘方は平面形が楕円形で、形状は逆円錐台状である。埋土は掘方は淡灰褐色砂層、井筒下部には灰褐色粗砂。掘方は径2.0～2.05m。掘方底面を一段掘りくぼめ、井筒を据え置いたものと思われる。井筒の径0.45～0.5mで、井筒底面までの深さは2.26mである。底面の標高は1.45m。遺構の先後関係はSE0270→SX0094→SD0042である。

出土遺物(457・458)　古墳時代土師甕・高坏、奈良時代須恵器坏、土師器甕、瓦器椀、古代土師器丸底坏458・小皿457、中国産白磁椀Ⅴ・Ⅷ類、瓦片等が出土している。

井戸　SE0301(図119・120)　1区3面検出。古代末から中世の井戸である。井筒は桶組痕跡のみ確認した。掘方は平面形が楕円形で、形状は逆円錐台状である。埋土は掘方上層から中位には暗灰

～黒灰色砂質土。掘方は径3.0～3.5m、井筒底面までの深さは2.67mである。掘方底面を一段掘りくぼめ径0.5～0.55mの井筒を据え置いたものと思われる。底面の標高は1.38m。遺構の先後関係はSE0244→SE0301→SX0257である。

出土遺物(459～471・472～484)　459～471は掘方内からの出土。472～484は井筒からの出土している。中世土師器坏475・476・小皿459～462・472～474、中国産白磁椀Ⅱ・Ⅳ(465)・Ⅴ(464・466)・Ⅷ類(467)・小皿、青白磁椀468・合子蓋470、陶器耳壺469、壷479・480、龍泉窯系青磁椀477、同安窯系青磁椀471(初期龍泉窯系青磁か)、青白磁合子470・椀か468、緑釉陶器盤、陶器鉢463・481、黄釉鉄絵盤482、高麗青磁椀、中世瓦片が出土している。463底部には「いろは」、466「門？」の墨書がある。

井戸　SE0327(図23)　1区3面検出。井筒は桶組痕跡を確認した。古代末から中世の井戸である。掘方は平面形が円形で、形状は逆円錐台状である。埋土は井筒内は暗灰色混砂粘質土。掘方は径2m前後で、井筒底面までの深さは1.9mを測る。掘方底面に桶組の井筒を据え、小礫を含む灰白色粗砂を裏込めし、井筒を安定させている。底面の標高は2.51m。遺構の先後関係はSE0327→SE0066(0054)。

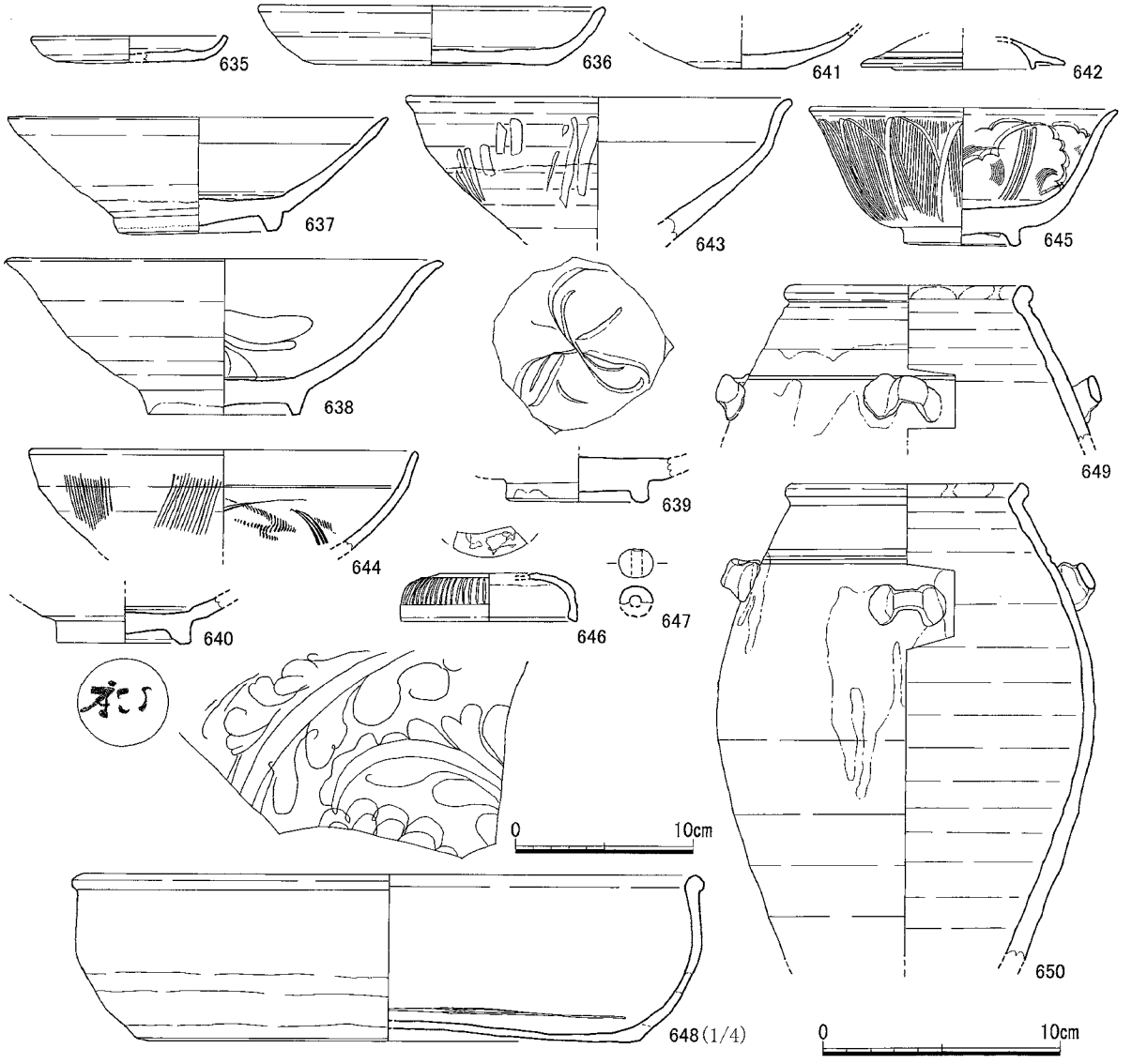


図134 SX1221出土遺物実測図(1/3・1/4)

出土遺物　奈良時代須恵器坏、中世土師器坏・小皿片、中国産陶器片等が出土しているが、ほとんどが小片のため図示していない。

土壙　SX0389(図124・139・141)　２区１面検出。中世の土壙である。掘方は平面形が不整な楕円形で、断面形は船底状である。埋土は暗褐色砂質土。掘方の規模は1.41×1.74mで、深さは0.45m。遺構の先後関係はSX0913→SE0919→SE0911→SX0684→SX0389である。

出土遺物(689～697)　いずれも二次的な混入品で、ほとんどが小片である。弥生土器、奈良時代土師器皿、須恵器高台付坏・蓋、中世土師器坏692・小皿689～691、瓦器椀695、東播系捏鉢696、中国産白磁椀Ⅳ・Ⅴ・Ⅷ類、青白磁口禿椀693、龍泉窯系青磁椀Ⅲ類697、国産と思われる緑釉陶器椀694、古代縄目叩平瓦等が出土している。

井戸　SE0911(図124～126・128)　２区２面検出。中世の井戸である。方形井側の可能性がある。井筒は桶組か。掘方は平面形が不整な楕円形で、形状は逆円錐台状である。埋土は暗灰褐色砂質土、黄灰色粘土、黄灰色混砂弱粘質土の混合土で木炭、焼土を含んでいる。下部は暗茶褐色砂質土で５～15cm厚の木炭層および木炭を多く含んだ層が中位にある。掘方は径2.71～3.81mで、底面までの深さは2.40mを測る。掘方床面を浅く掘りくぼめ、径0.5mほどの井筒を据えたものと思われる。また、底面には一辺1.0～1.1mほどの方形の浅い窪みがあることから方形の井側が組まれていた可能性がある。底面の標高は2.07m。方形井側の方向はN-28～30°-Wである。遺構の先後関係はSX0913→SE0919→SE0911→SX0684→SX0470である。

出土遺物(550～576)　二次混入の状況で遺物が大量に出土している。土師器坏558～561・小皿550～557、中国産青白磁皿565・椀564・566・口禿印花椀563・合子身562、龍泉窯系青磁椀569、緑釉陶器瓶567、黄釉陶器鉄絵盤573、褐釉陶器鉢571・572・甕576・耳壺575、無釉陶器擂鉢574、黒釉天目椀568、高麗青磁梅瓶片、銅銭１点、獣骨片が出土した他、木炭片、藁灰がまとまって層を形成している。

土壙　SX0913(図124・125・127・129)　２区２面検出。古代末から中世の土壙である。SE1215の井筒上部に位置している。掘方は平面形が不整な円形で、形状は逆円錐台状である。埋土は上層部分は黒灰色粘質土と暗褐色砂の混合土で、中層以下では黒灰～黒色混砂粘質土が主となり、下層部には木炭、灰を多く含んでいる。掘方の規模は1.40×1.95mで深さは1.05mを測る。底面の標高は3.20m。遺構の先後関係はSX0913→SE0911→SE0919→SX0389である。

出土遺物(577～584)　遺物は二次的な混入の状況で出土している。古墳時代土師器甕、壷、土師器坏578・小皿577、瓦器椀579、中国産白磁椀Ⅱ・Ⅳ(580)・Ⅴ類・ⅢⅥ類、青白磁椀581・582、黒釉陶器壺、磁灯窯黄釉鉄絵盤584が出土している。

井戸　SE0919(図124・126・130)　２区２面調査区北側で検出。古代末から中世の井戸である。井筒は桶組痕跡を確認した。掘方は平面形が不整な円形で、形状は円筒状である。埋土は黒灰色粘質土、木炭層(黒灰色粘質土)暗灰色砂層。掘方は径1.48～1.90mて底

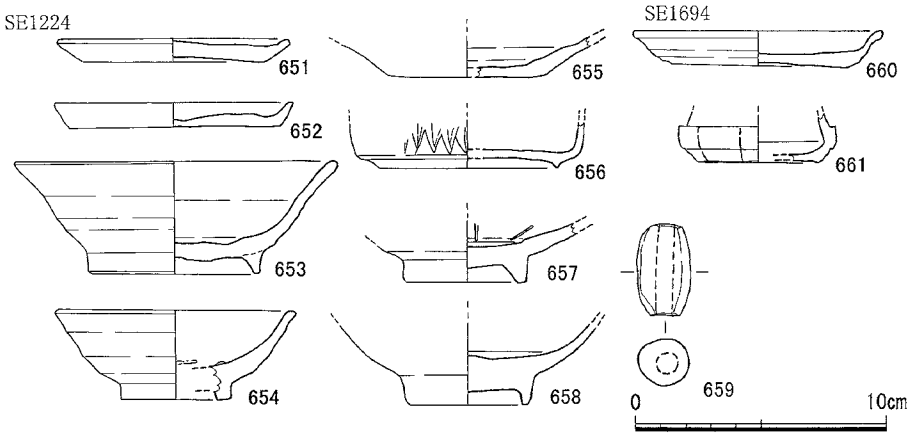


図135 SE1224・1694出土遺物実測図(1/3)

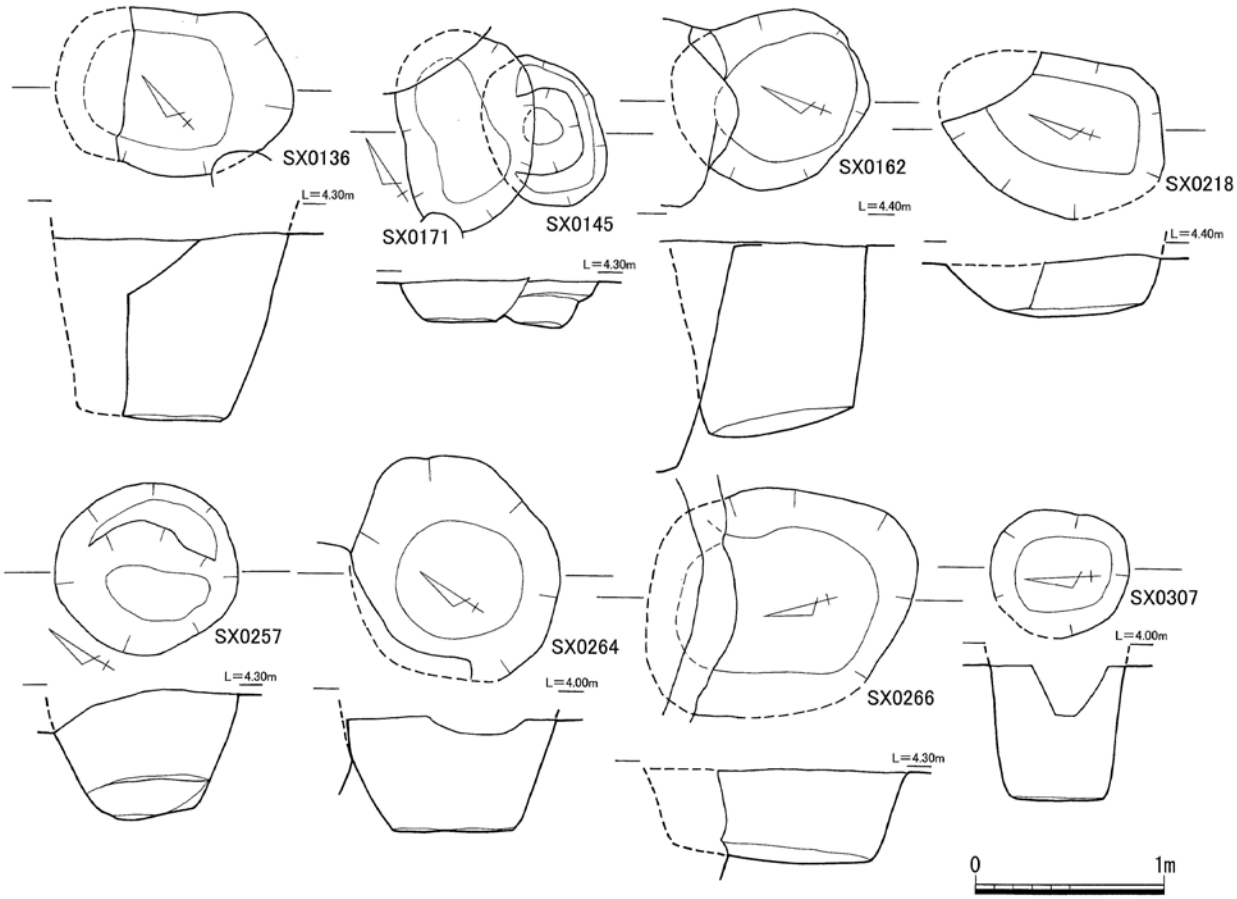


図136 SX0136・0145・0162・0171・0218・0257・0264・0266・0307平面及び断面図(1/40)

面までの深さは2.10mを測る。底面の標高は2.38mである。遺構の先後関係はSX0913→SE0911→SE0919→SX0389である。

出土遺物(585～602)　遺物は二次混入の状況で比較的多量に出土している。古墳時代甕、奈良時代土師器甕、須恵器甕、長頸壺、土師器坏596～599・小皿585～592、中国産白磁椀V類、皿VI類595(墨書有り)、青白磁椀593・小皿、褐釉陶器皿595・壷601・602、黒釉天目椀600、獣骨片が出土している。

井戸　SE0378(0377)(図132・133)　2区1面検出。古代末～中世の井戸である。井筒は桶組痕跡を確認した。掘方は平面形が不整な楕円形で、形状は逆円錐台状である。埋土は掘方には暗青灰色～暗灰色砂質土、井筒には暗青灰色粘質土と灰色砂。掘方は径2.70～2.50mで、井筒底面までの深さは1.5～1.6mを測る。掘方底面に井筒を据、小礫を含む明黄白色粗砂を裏込めしている。井筒は径0.50～0.60mほどか。底面の標高は2.78m。遺構の先後関係はSX0891→SE0378である。

図137 SX0136完掘状況(北西から)

図138 SX0264完掘状況(南西から)

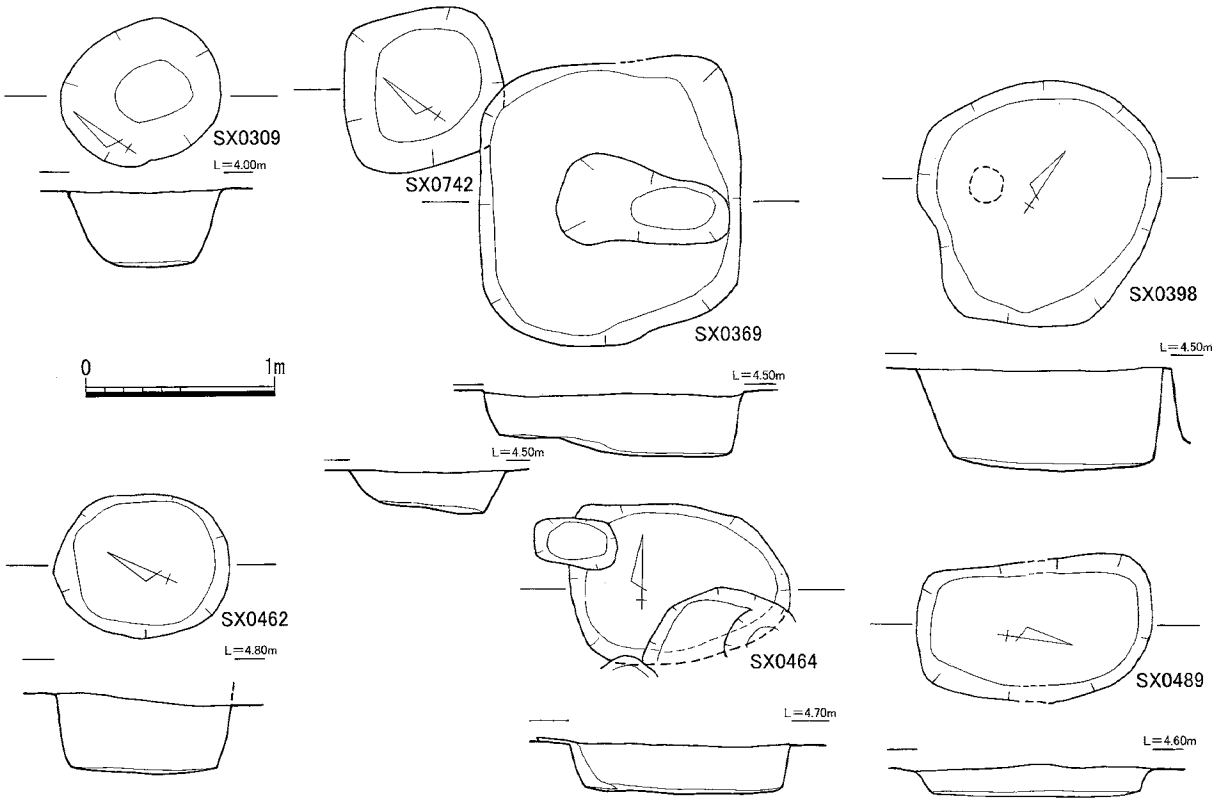


図139 SX0309・0369・0398・0462・0464・0489・0742平面及び断面図(1/40)

出土遺物(603～617)　奈良時代須恵器坏身・蓋、土師器坏612～615・小皿603～611、中国産白磁椀Ⅳ・Ⅴ・Ⅷ類、龍泉窯系青磁椀616、同安窯系青磁椀617、青白磁椀・小皿、黄釉鉄絵盤、褐釉四耳壺、中世平瓦、高麗青磁輪花椀、陶器、獣骨片等が出土している。

井戸　SE1224(図132・135・131)　2区4面検出。古代末～中世の井戸である。井筒は桶組か。掘方は平面形が不整な楕円形で、形状は円筒状である。掘方の埋土は黒褐色土～明褐色砂層、黒褐色砂質土と明褐色砂の互層。掘方は径2.0～2.2m、井筒底面までの深さは1.78mである。掘方底面に径0.45～0.60mの井筒を据え小礫を含む灰黄褐色・明黄白色粗砂を裏込めしている。底面の標高は2.40m。

出土遺物(651～659)　二次的に混入した状況で出土している。古墳時代土師器甕・壺、奈良時代須恵器甕、土師器椀・坏・小皿、瓦器椀(楠葉型)、東播系皿、常滑焼甕、中国産白磁椀Ⅱ(657)・Ⅳ・Ⅴ・Ⅷ類、皿Ⅵ類、口禿椀656、青白磁椀658・合子身661、陶器瓶、高麗青磁椀654、古代瓦片出土。

井戸　SE1541(図47・190)　3区1面検出。中世の井戸である。井筒は不明。掘方は平面形が円形で、形状は円筒状である。埋土は暗灰～暗青灰色混砂若粘質土。掘方は径2.0～2.15m。底面までの深さは1.19mである。井筒直径は0.5mほどか。底面の標高は2.51m。

出土遺物(974～987)　いずれも二次的に混入した状況で出土している。掘方からは土師器坏・小皿、瓦器椀、丸・平瓦、中国産白磁椀Ⅱ(980)・Ⅳ・Ⅴ・Ⅷ類982、青白磁椀981、龍泉窯系青磁椀、同安窯系青磁椀983・小皿、無釉陶器蓋984、褐釉陶器耳壺・水注985、鉢986、石鍋片等が出土している。井筒からは古墳時代土師器甕、奈良時代須恵器坏・皿、瓦器がわずかに出土している。

井戸　SE1694(1646)(図132・135)　3区2面検出。中世の井戸である。井筒は不明。掘方は平面形が楕円形で、形状は逆円錐台状である。埋土は暗灰色砂質土が均質に堆積している。掘方は径1.85～2.16mで、井筒底面までの深さは0.98mである。底面の標高は2.97m。

出土遺物(660・661)　いずれも二次的に混入した状況で出土している。古墳時代土師器甕、奈良

時代須恵器皿、土師器甕、土師器坏・小皿660、瓦器椀、中国産白磁椀Ⅱ・Ⅳ・Ⅴ類・小皿Ⅵ類、青白磁合子661、石鍋等が出土している。

井戸　SE1695（図132）　3区3面検出。古代末～中世の井戸である。井筒は不明。掘方は平面形が不整な楕円形で、形状は逆円錐台状である。埋土は暗灰色砂質土と黄灰色砂の混合土である。掘方は径1.80～1.95mで、井筒底面までの深さは1.28mである、底面の標高は2.7mを測る。

出土遺物　二次的に埋土に混入した状況で出土しており、いずれも小片のため図示していない。古墳時代土師器甕、奈良時代須恵器坏、土師器甕、土師器坏・小皿が出土している。

井戸　SE0910（図133）　2区2面検出。古代末～中世の井戸である。井筒は未確認であるが桶組の可能性がある。掘方は平面形が不整な楕円形で、埋土は暗灰～暗青灰褐色砂質土である。上部では木炭を多く含んでおり、遺物がまとまって出土している。

出土遺物（618～634）　木炭を含む暗灰色砂質土からまとまって比較的多量の遺物が出土した。土師器坏・小皿618～621、中国産白磁椀Ⅱ・Ⅳ（624）・Ⅴ（622）・Ⅷ（623）類・壺625・蓋629、青白磁椀627、灯火器634、黒釉天目椀626、黄緑釉陶器壺628、褐釉陶器皿630・耳壺631、高麗青磁椀633、須恵質瓦、銅銭1点等が出土している。

土壙　SX1221（図134）　2区4面検出。古代末～中世の土壙である。掘方は平面形が楕円形で、埋土は明灰褐色粘質土（木炭含）。掘方の規模は1.21×0.88m。深さは0.42mである。

出土遺物（635～650）　いずれも二次的に混入した状況で出土している。古墳時代土師器甕、土師器椀・坏636・小皿635、瓦器椀、中国産白磁椀Ⅱ（640）・Ⅳ・Ⅴ・Ⅶ（638）・Ⅷ類（637）、青白磁口禿皿641・合子646・642、龍泉窯青磁椀Ⅰ（639）・Ⅱ（645）類、同安窯系青磁椀643・644、緑釉陶器盤、天目椀、磁灯窯系陶器盤648、灰緑色釉褐彩陶器耳壺649・650、ガラス小玉647等が出土している。640の外底部には墨書がある。

土壙　SX0136（図136・137）　1区2面検出。中世の土壙である。掘方は平面形が不整な隅丸方形で、形状は円筒状である。埋土は暗灰褐色混砂粘質土。掘方の規模は1.25×0.87m、深さは1.00mである。

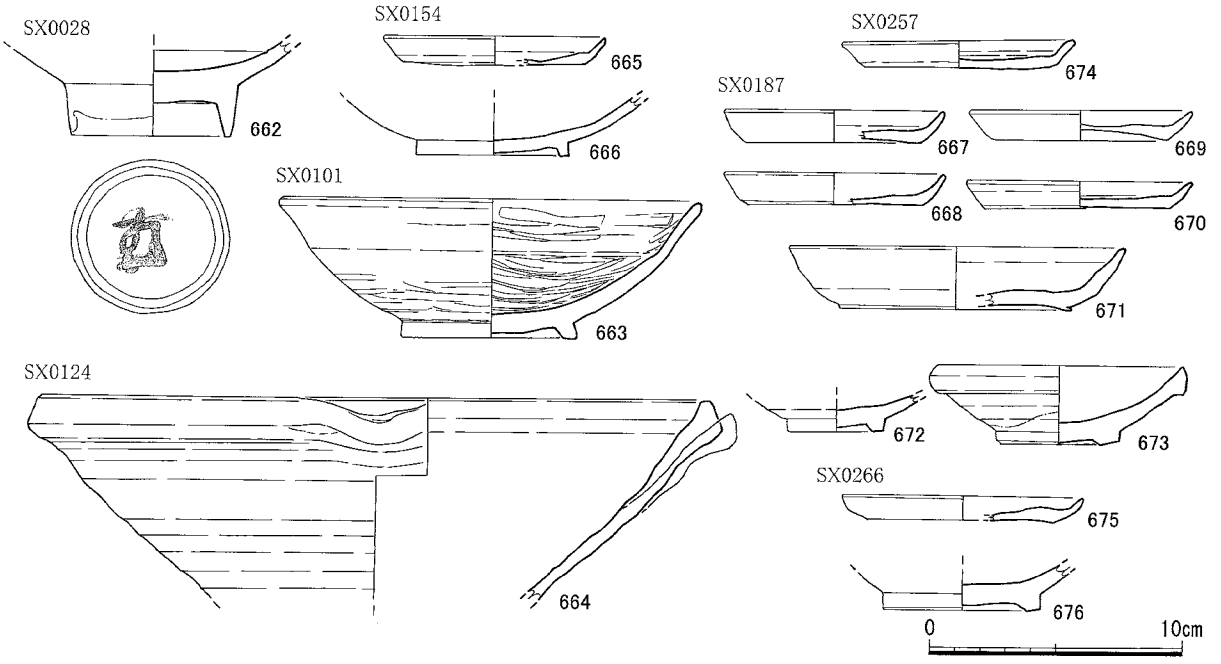


図140 SX0028・0101・0124・0154・0187・0257・0266出土遺物実測図（1/3）

底面の標高は3.17m。長軸の方位はN-45°0′-W。遺構の先後関係はSX0125→SX0136→SX0186である。

出土遺物　いずれも二次的に混入した状況で出土している。小片のため図示していない。弥生土器甕、古墳時代土師器甕、中国産白磁椀Ⅳ・Ⅴ・Ⅷ類、瓦器椀等が出土している。

土壙　SX0145（図136）　1区2面検出。古代末～中世の土壙である。掘方は平面形が不整な楕円形で、断面形は逆台形。埋土は暗褐色～暗灰褐色混砂粘質土。掘方の規模は0.84×0.62mで、深さ0.26m。長軸の方位はN-12°-W。遺構の先後関係はSP0145→SX0171→SP0170→SP0081、SX0171→SP0260。

出土遺物　いずれも二次的に混入した状況で出土している。古墳時代須恵器坏、土師器坏・小皿、中国産白磁皿、褐釉陶器、瓦器椀、黒色土器椀片等が出土している。

土壙　SX0162（＝0120）（図136・106）　1区2面検出。古代末～中世の土壙である。掘方は平面形が円形で、形状は円筒状である。埋土は暗褐色～暗灰褐色混砂粘質土。掘方の規模は1.10×0.98m、深さは1.08m。底面の標高は3.20m。長軸の方位はN-21°-W。遺構の先後関係はSD0154→SX0162。

出土遺物　奈良時代須恵器坏片、中世土師器坏・小皿が出土している。

土壙　SX0171（図136）　1区2面検出。古代末～中世の土壙である。掘方は平面形が不整な楕円形で、断面形は逆台形。埋土は暗灰褐色混砂弱粘質土。掘方の規模は1.07×0.74m、深さは0.24mである。長軸の方位はN-33°-W。遺構の先後関係はSP0145→SX0171→SX0266。

出土遺物　いずれも二次的に混入した状況で出土している。奈良時代須恵器坏片、中世土師器坏・小皿出土している。瓦器椀（楠葉型）、龍泉窯系青磁椀、同安窯系青磁椀が出土している。

土壙　SX0218（図136）　1区2面検出。古代末～中世の土壙である。掘方は平面形が不整な楕円形で、

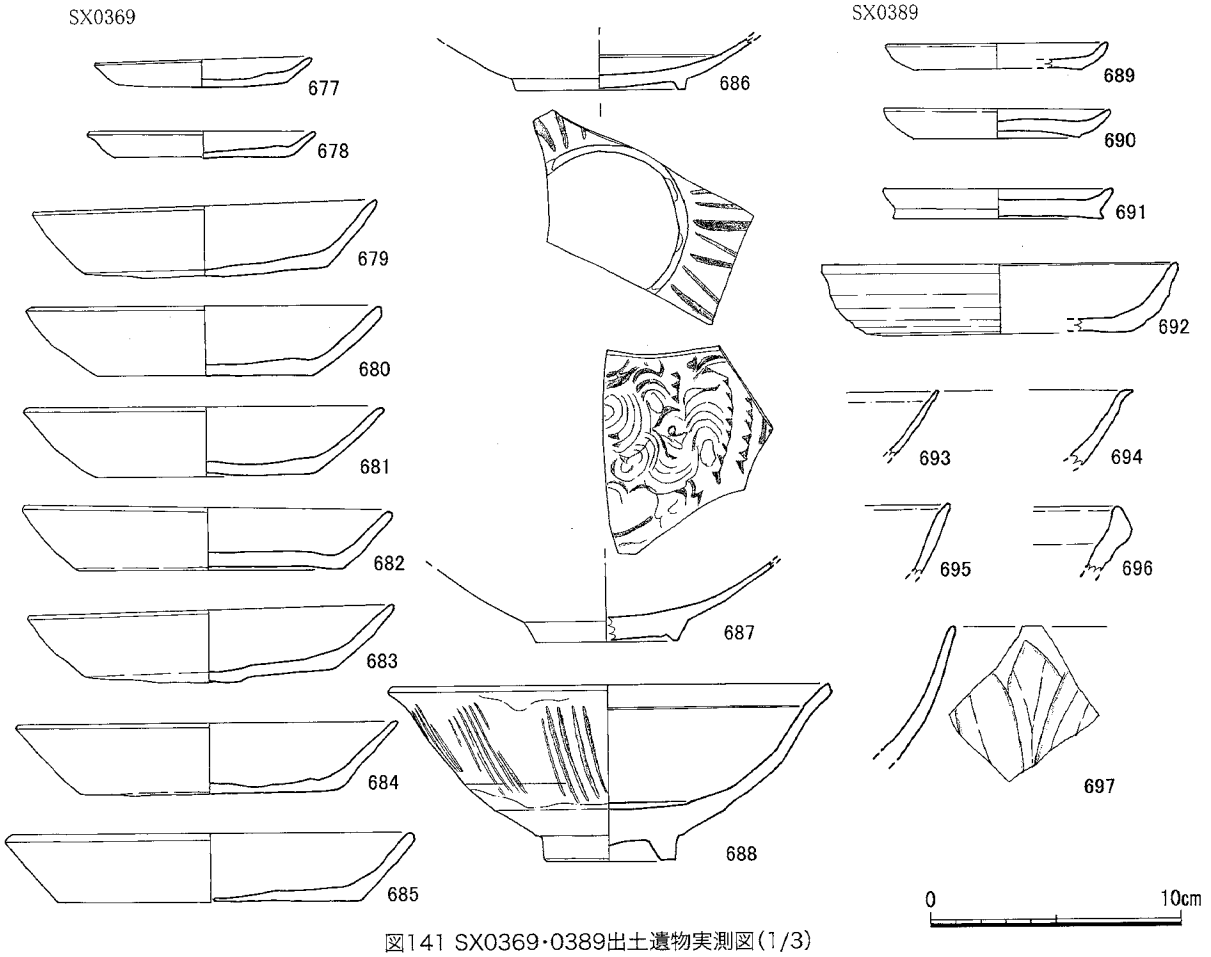


図141 SX0369・0389出土遺物実測図（1/3）

断面形は逆台形。埋土は暗褐色土。掘方の規模は1.25×0.88mで、深さは0.33mである。長軸の方位はN-19°30′-W。遺構の先後関係はSX269→SX0218である。

出土遺物　いずれも二次的に混入した状況で出土している。奈良時代須恵器坏、中国産白磁椀Ⅱ・Ⅳ・Ⅴ類、皿Ⅵ類、黒釉天目椀、黄釉盤、褐釉四耳壺、石製硯等が出土している。

土壙　SX0257（図136・140）　1区3面検出。古代末～中世の土壙である。掘方は平面形が円形で、形状は逆円錐台状である。埋土は暗灰～黒灰色砂質土木炭片を多く含む。掘方の規模は0.96×0.92mで、深さは0.68mである。底面の標高は3.63m。遺構の先後関係はSE0244→SE0301→SX0257である。

出土遺物（674）　いずれも二次的に混入した状況で出土している。中世土師器坏・小皿674、中国産白磁椀Ⅴ類等が出土している。

土壙　SX0264（図136・138）　1区3面検出。古代末～中世の土壙である。掘方は平面形が不整な楕円形で、形状は逆円錐台状である。埋土は暗灰褐色～黒褐色混砂粘質土である。掘方の規模は1.22×1.11m、深さは0.62mである。遺構の先後関係はSX0264→SD0042→SX0047である。SX0264の上部はSX0047により切られている。

出土遺物　いずれも二次的に混入した状況で出土している。小片のため図示していない。古墳時代土師甕、奈良時代須恵器坏、瓦器椀、中世土師器坏・小皿、中国産白磁椀Ⅴ類、瓦片が出土している。

土壙　SX0266（図136・140）　1区3面検出。古代末～中世の土壙である。掘方は平面形が不整な隅丸方形で、断面形は逆台形。埋土は黒灰～黒褐色混砂弱粘質土。掘方の規模は1.43×1.23mで、深さは0.48mを測る。長軸の方位はN-15°-W。遺構の先後関係はSP0267→SX0266→SP0195→SE0186、

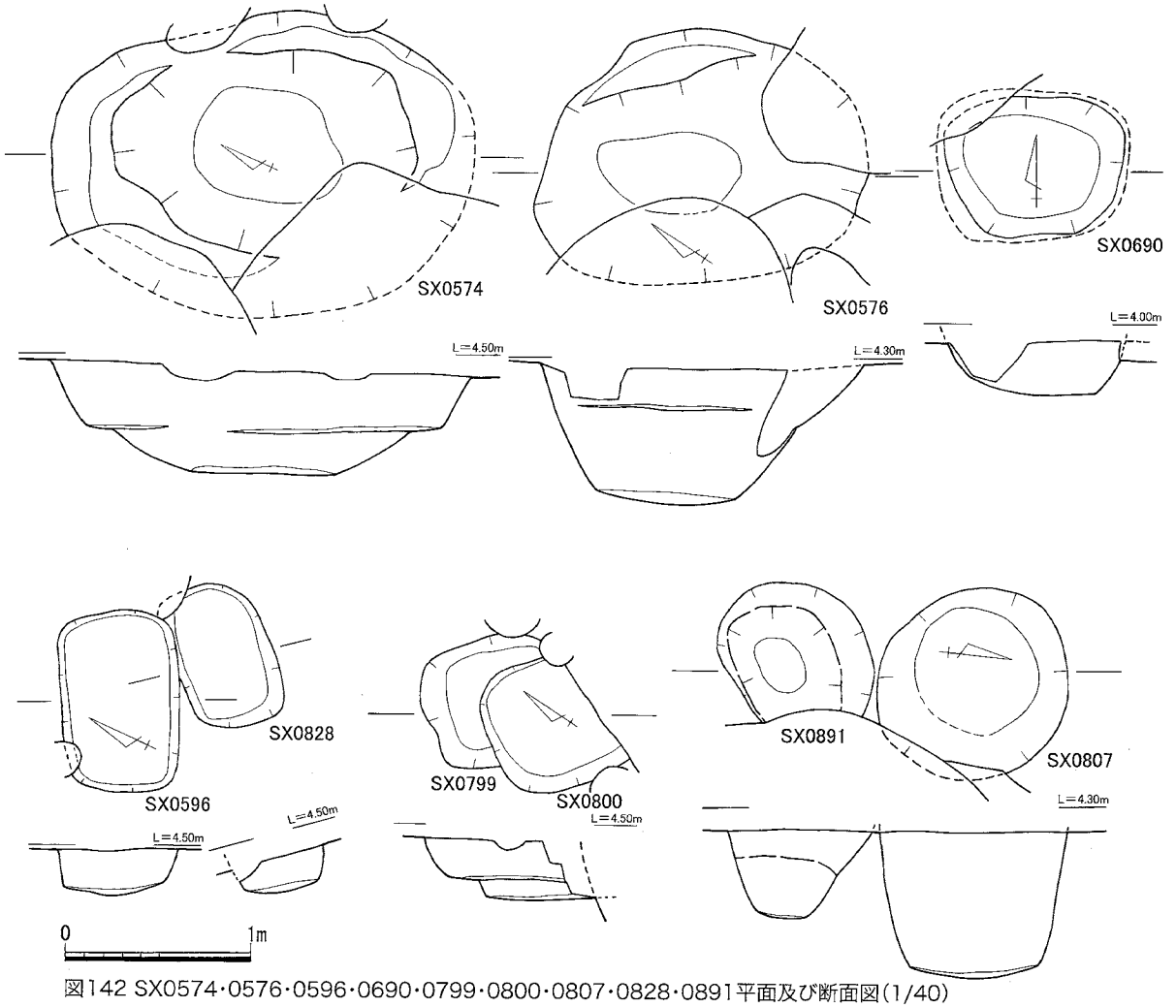


図142 SX0574・0576・0596・0690・0799・0800・0807・0828・0891平面及び断面図（1/40）

SP0268→ SX0171→ SX0266→ SP0195。

出土遺物(675・676)　いずれも二次的に混入した状況で、奈良時代土師甕、中世土師器坏・小皿675、瓦器椀676・小皿、中国産白磁Ⅱ・Ⅳ類等が出土している。

土壙　SX0307(図136)　1区3面検出。古代末～中世の土壙である。柱穴の可能性がある。掘方は平面形が円形で、形状は円筒状である。埋土は褐色～暗褐色混砂粘質土。掘方の規模は0.74×0.70m、深さは0.73mである。底面の標高は3.17m。遺構の先後関係は SP0319→ SX0307→ SX0045・SX0087。

出土遺物　いずれも二次的に混入した状況で中世土師器坏・小皿片が出土している。小片のため図示していない。

土壙　SX0309(図139)　1区3面検出。古代末～中世の土壙である。掘方は平面形が不整な楕円形で、形状は逆円錐台状である。埋土は暗褐色砂質土。掘方の規模は0.84×0.78mで、深さは0.43mである。遺構の先後関係は SX0310→ SX0309→ SX0311である。

出土遺物　いずれも二次的に混入した状況で土師器坏・小皿片が出土している。

土壙　SX0369(図139・141)　2区1面検出。中世の土壙である。掘方は平面形が不整な隅丸方形で、断面形は逆台形。埋土は木炭を含む暗灰～黒灰褐色砂質土と黄灰褐色砂質土(木炭、焼土含)、黒灰色砂質土がみられた。黄橙色焼土・礫石が多く混入している。掘方の規模は1.56×1.37mで、深さ0.34m。長軸の方位はN-56°0′-W。遺構の先後関係は SX0374→ SX0362→ SX0369、SX0815→ SX0369である。

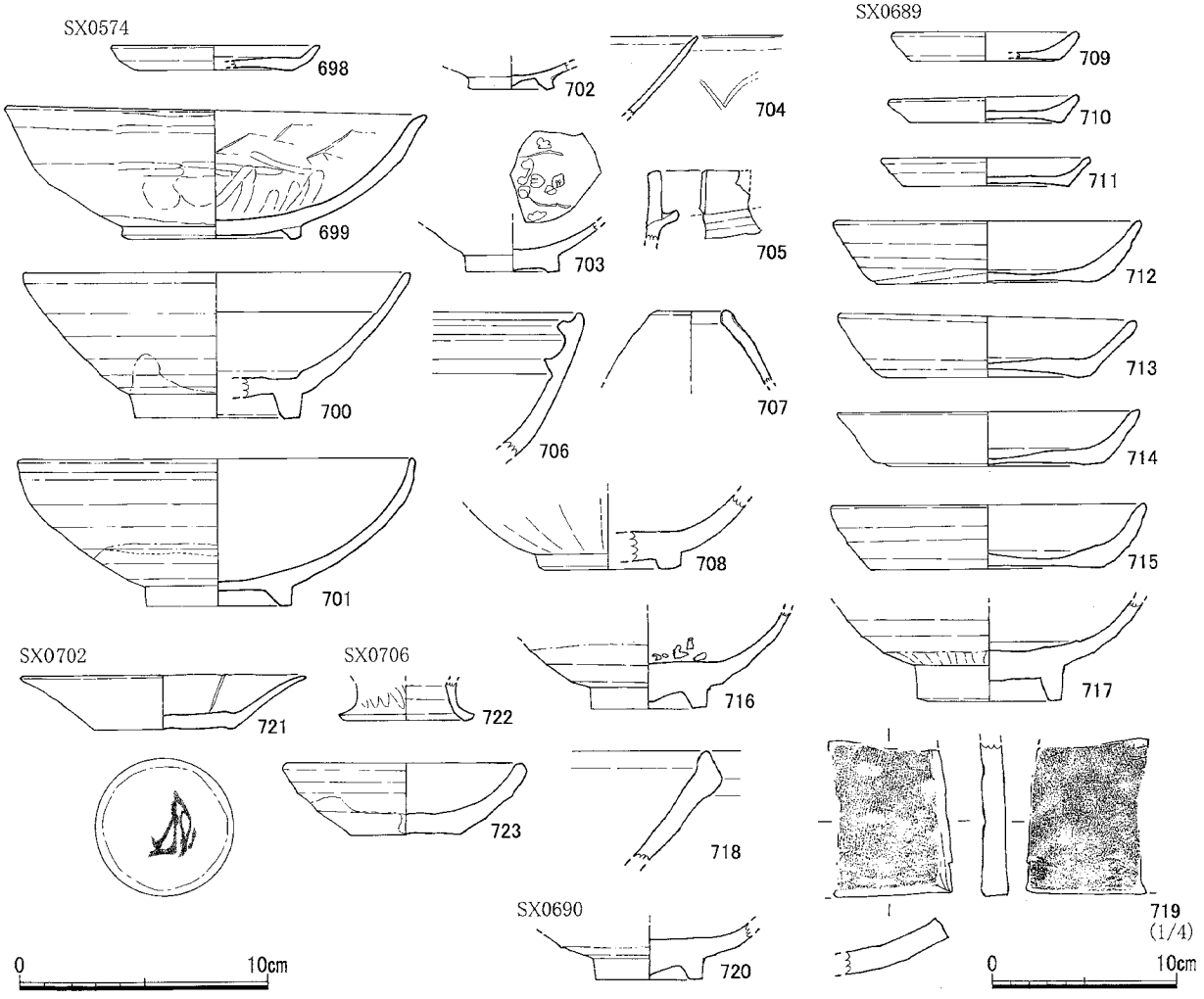


図143 SX0574・0689・0690・0702・0706出土遺物実測図(1/3・1/4)

出土遺物(677～688)　いずれも二次的に混入した状況で出土している。中世土師器坏679～685・小皿677を主として、中国産白磁椀Ⅳ・Ⅴ類、四耳壺、青白磁合子・椀686・687、同安窯系青磁椀688、黄釉盤、鉢、高麗陶器甕、滑石製石鍋等が出土している。

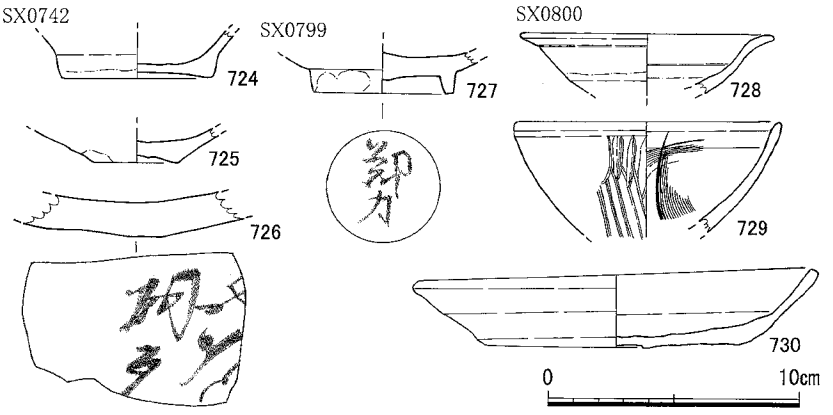


図144 SX0742・0799・0800出土遺物実測図(1/3)

土壙　SX0398(図139)　2区1面検出。中世の土壙。掘方は平面形が不整な楕円形で、形状は円筒状である。埋土は暗褐～暗灰褐色砂質土。掘方の規模は1.25×1.22mで、深さは0.53m。

出土遺物　土師器坏・小皿片が二次的に混入した状況で出土している。小片のため図示していない。

土壙　SX0462(図139)　2区1面検出。中世の土壙である。SX0462は2面SX0962の上部の可能性がある。掘方は平面形が円形で、形状は円筒状である。埋土は暗褐色砂質土。掘方の規模は0.93×0.77mで、深さは0.41mを測る。

出土遺物　中世土師器坏・小皿、瓦器椀(楠葉型)、中国産青白磁椀、龍泉窯系青磁片、同安窯系青磁椀、滑石製石鍋片等が二次的に混入した状況で出土している。小片のため図示していない。

土壙　SX0464(図139)　2区1面検出。中世の土壙である。掘方は平面形が不整な楕円形で、形状は円筒状である。埋土は黄灰白色粘質土。掘方の規模は1.15×0.86m、深さは0.23mを測る。

出土遺物　中世土師器坏・小皿、中国産白磁椀Ⅳ・Ⅴ・Ⅷ類、皿Ⅵ類、同安窯系青磁片等が二次的に混入した状況で出土している。小片のため図示していない。

土壙　SX0489(図139)　2区1面検出。掘方は平面形が不整な隅丸方形で、断面形は逆台形。埋土は暗灰褐～暗褐色混砂粘質土。掘方の規模は1.24×0.70m、深さ0.18m。長軸の方位はN-6°30′-W。SD0387→SX0489である。

出土遺物　中世土師器坏・小皿、中国産白磁椀Ⅳ・Ⅴ・Ⅷ類、皿Ⅵ類、龍泉窯系青磁、同安窯系青磁片、高麗青磁片、中世瓦片等が二次的に混入した状況で出土している。小片のため図示していない。

土壙　SX0742(図139・144)　2区1面検出。近世の土壙である。掘方は平面形が不整な隅丸方形で、断面形は逆台形。埋土は暗褐色混砂粘質土がほぼ均一に堆積している。掘方の規模は0.86×0.83mで、深さは0.21m。長軸の方位はN-55°-W。

出土遺物(724～726)　中国産青白磁合子身724、褐釉陶器皿725、中世瓦726等が二次的に混入して出土している他、中世土師器坏・小皿、瓦器椀、白磁Ⅴ・Ⅷ類、龍泉窯系青磁椀Ⅱ類、同安窯系青磁椀・小皿等の小片が多く出土している。なお726には墨書がある。

土壙　SX0028(図140)　1区1面検出。近世～近代の土壙である。掘方は平面形が不整な楕円形で、断面形は逆台形状である。埋土は暗灰～暗灰褐色混砂弱粘質土である。

出土遺物(662)　中国産白磁椀Ⅴ類662(花押と思われる墨書がある)の他、土師器坏、奈良須恵器甕片、中世瓦質火舎、七輪片等の小片が混入して出土している。

土壙　SX0101(図140)　1区2面検出。中世の土壙である。掘方は平面形が楕円形で、断面形は逆台形である。埋土は暗灰褐色砂質土。

出土遺物(663)　瓦器椀663が出土した他、中世土師器坏・小皿片が二次的に混入した状況で出土しているが、小片のため図示していない。

土壙　SX0124(図140)　1区2面検出。近世～近代の土壙である。埋土は暗灰～暗灰褐色砂質土。

出土遺物(664)　東播系捏鉢664の他、弥生土器、古墳時代土師器甕、高坏、中世土師器坏・小皿、瓦器椀、中国産白磁椀Ⅳ・Ⅴ・Ⅷ類、龍泉窯系青磁椀Ⅲ類、黄釉盤、天目椀、土錘、中世瓦片、銅銭2点等が二次的な混入の状況で出土している。

溝状遺構　SD0154・0839(図79・140)　1・2区1・2面検出。調査区の中央から南側で確認した。ほぼ南北に直線的に延びる溝である。後世の遺構によって分断され不連続であるが、長さ約15.1mに

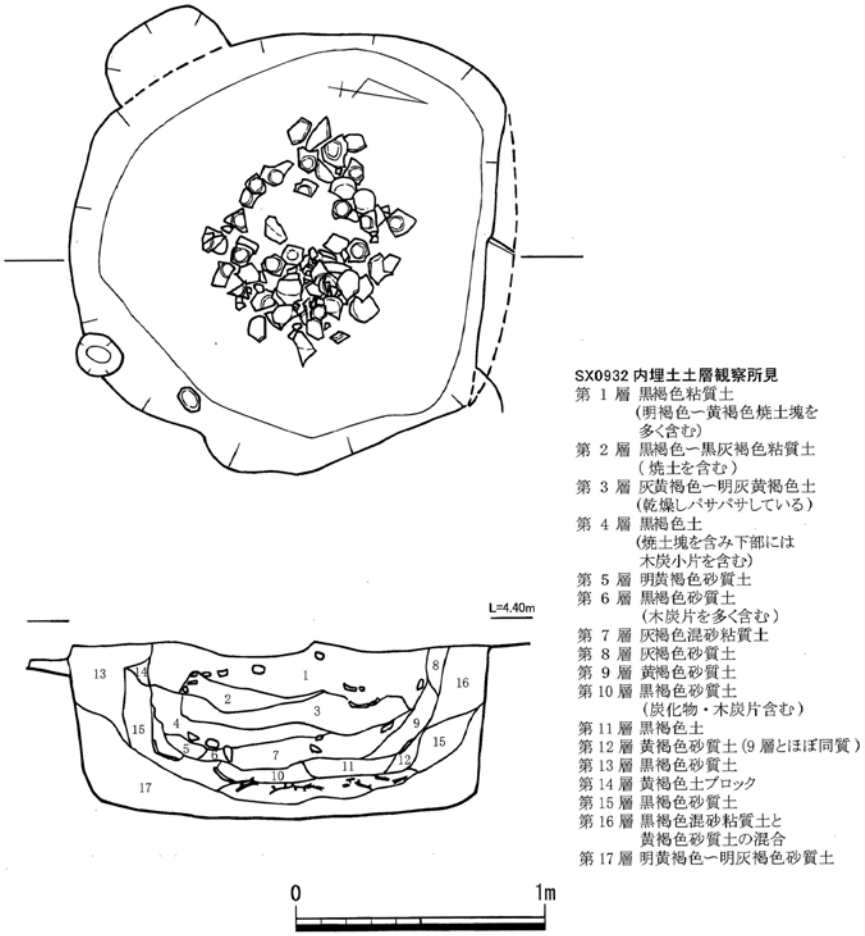


図145 SX0932平面及び断面図(1/30)

図146 SX0932(焼土壙)土層断面(東から)

図147 SX0932完掘状況(西から)

図148 SX0932完掘状況(北から)

図149 SX0932遺物出土状況(北から)

ついて確認できた。断面形は「U」字形である。幅は0.45～0.60mで、検出面からの深さは20～30cmを測る。埋土は暗褐色混砂弱粘質土で木炭片をわずかに含み、灰白色砂のブロックが所々みられた。2区及び3区において東西に延びるSD1482・0777とはほぼ直交しており、埋土の類似性や、出土遺物からみて、同時期における一連の小区画用の溝であった可能性がある。底面は北から南(SD0154)へ向かって低くなっている。底面の標高は3.50～3.72m。主軸の方向はN-8°-Wである。遺構の先後関係はSP0167→SD0154→SX0118→SX0015、SD0154→SP0077・SP0078・SP0162である。

出土遺物(665・666)　いずれも二次的に混入した状況で出土している。ほとんどが小片である。古墳時代土師器甕、古代土師器坏、格子目平瓦、中世土師器坏666・小皿665、東播磨系捏鉢、中国産白磁Ⅴ・Ⅷ類、陶器鉢等が出土している。

土壙　SX0574(図142・143)　2区1面検出。中世の土壙である。掘方は平面形が不整な楕円形で、形状は逆円錐台状である。埋土は上層が黒灰色砂質土で、下層は木炭・若干の焼土を含む暗灰色砂質

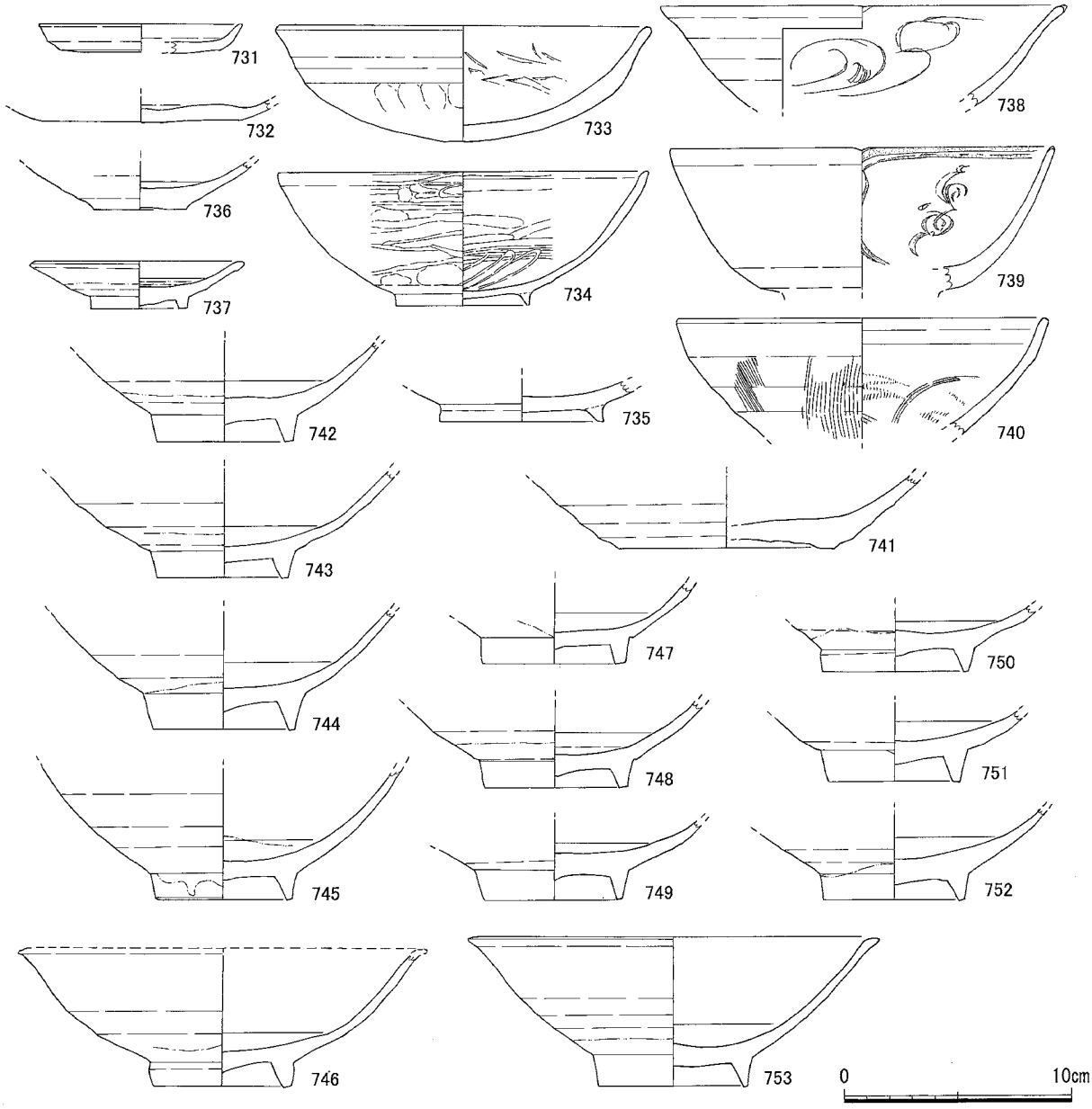


図150 SX0932出土遺物実測図(1/3)

土。掘方の規模は2.30×1.70mで、深さは0.56m。遺構の先後関係はSX0574→SX0385→SX0380である。

出土遺物(698～708)　いずれも二次的に混入した状況で出土している。中国産白磁椀Ⅱ(701)・Ⅳ・Ⅴ・Ⅷ類(700)・小皿Ⅵ類、青白磁小椀702・703・口禿椀704・小壷705・707、無釉陶器鉢706、龍泉窯青磁椀708、東播系捏鉢等が出土している。

土壙　SX0576-2(図142)　2区1面検出。古代～中世の土壙である。掘方は平面形が不整な楕円形で、形状は逆円錐台状である。埋土は黒灰色砂質土と暗褐色砂、明褐色砂の混合土である。掘方の規模は1.81×1.40mで、深さは0.76mである、底面の標高は3.45mを測る。

出土遺物　いずれも二次的に混入した状況で出土している。小片のため図示していない。古墳時代

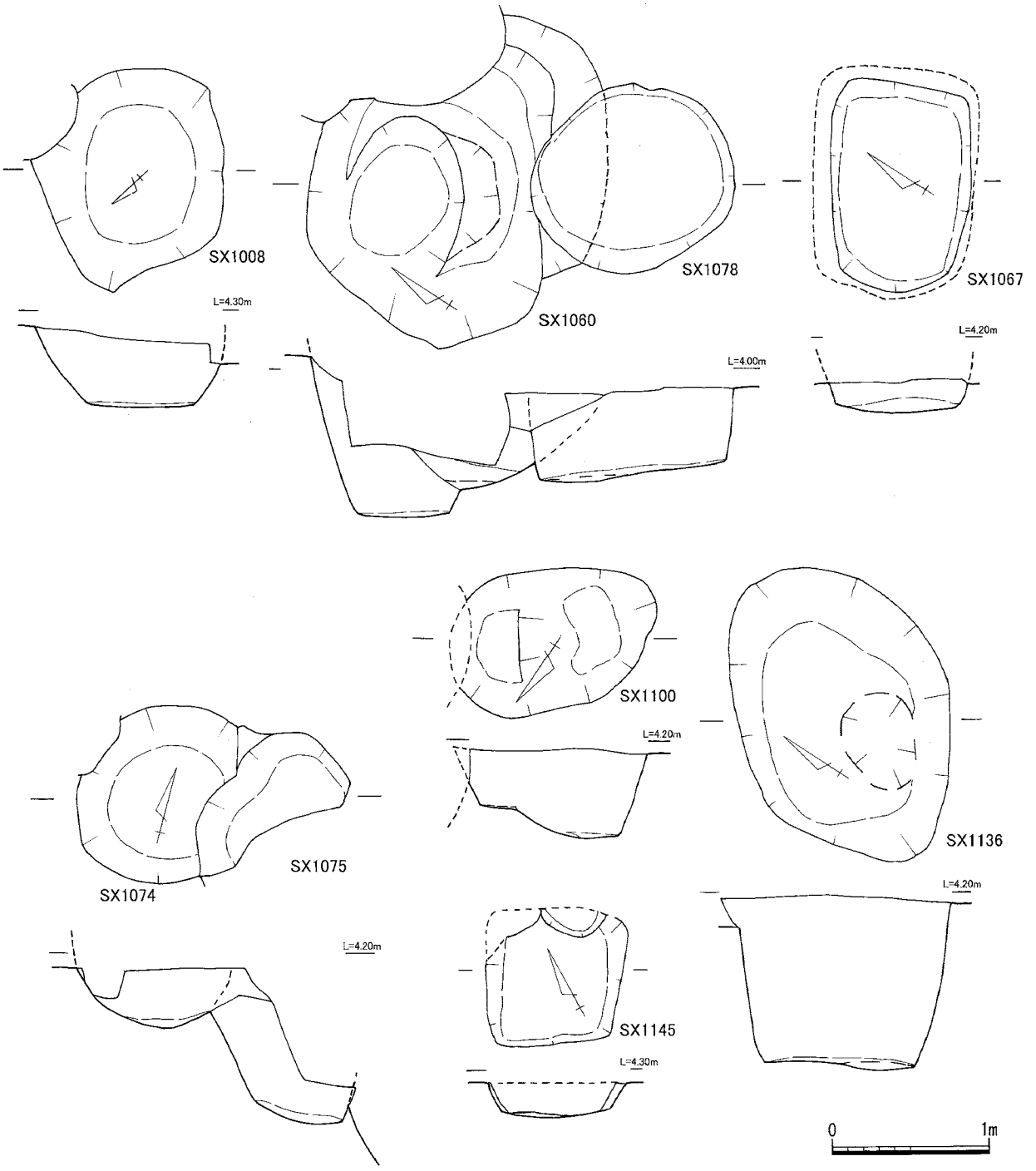


図151 SX1008・1060・1067・1074・1075・1078・1100・1136・1145平面及び断面図(1/40)

甕、奈良時代須恵、中世土師器坏・小皿、瓦器椀、中国産白磁椀Ⅱ・Ⅳ・Ⅴ類、皿Ⅵ類、龍泉窯系青磁椀、皿、緑釉、褐釉四耳壺・鉢、中世瓦片等が出土している。

土壙　SX0596（図142）　２区１面検出。中世の土壙である。掘方は平面形が不整な隅丸方形で、断面形は逆台形。埋土は暗灰褐色砂質土。掘方の規模は1.01×0.51m深さは0.25mである。長軸の方位はN-60°-Eを測る。遺構の戦後関係はSX0828→SX0596→SD0884である。

出土遺物　いずれも二次的に混入した状況で出土している。小片のため図示していない。奈良時代

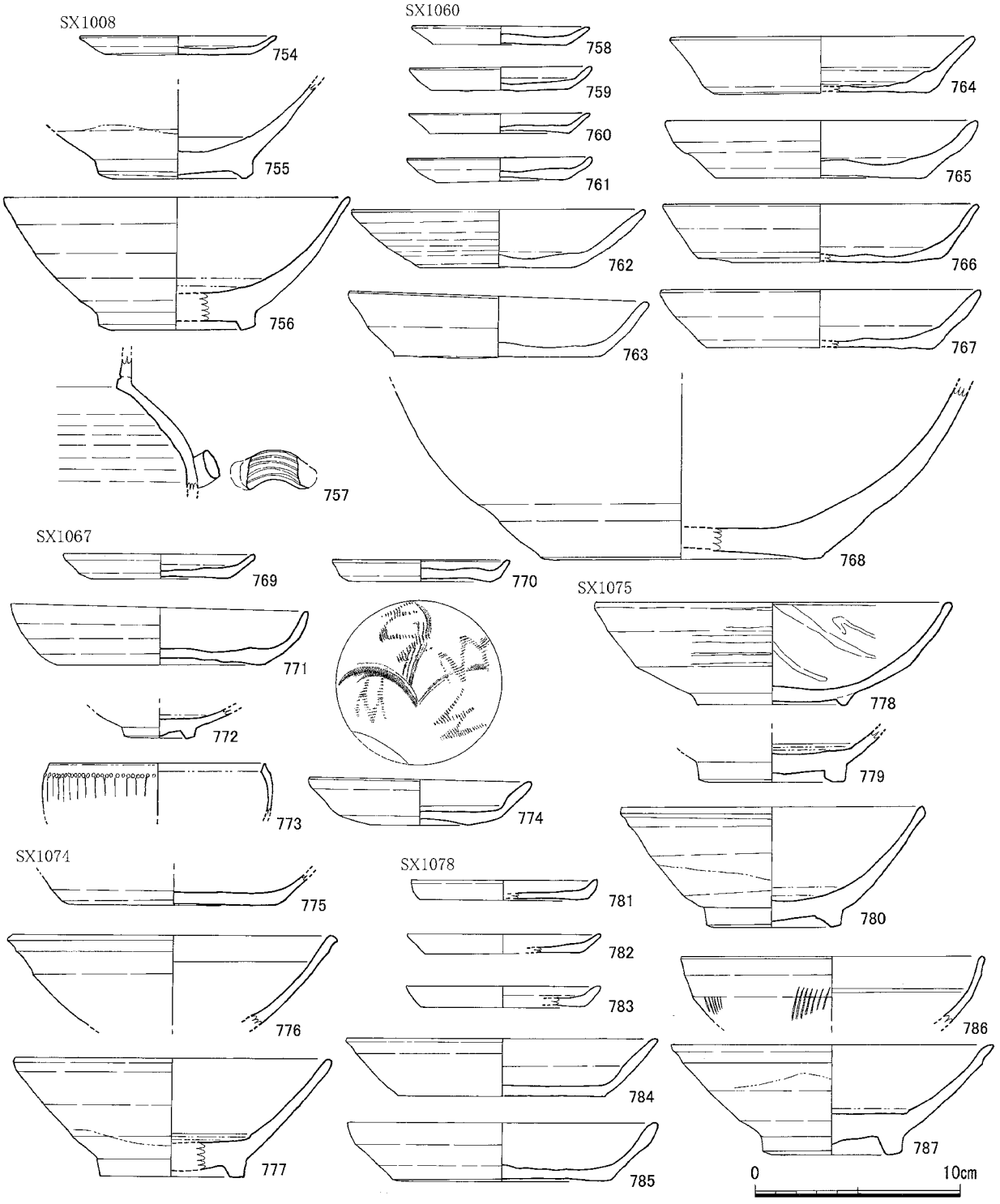


図152 SX1008・1060・1067・1074・1075・1078出土遺物実測図（1/3）

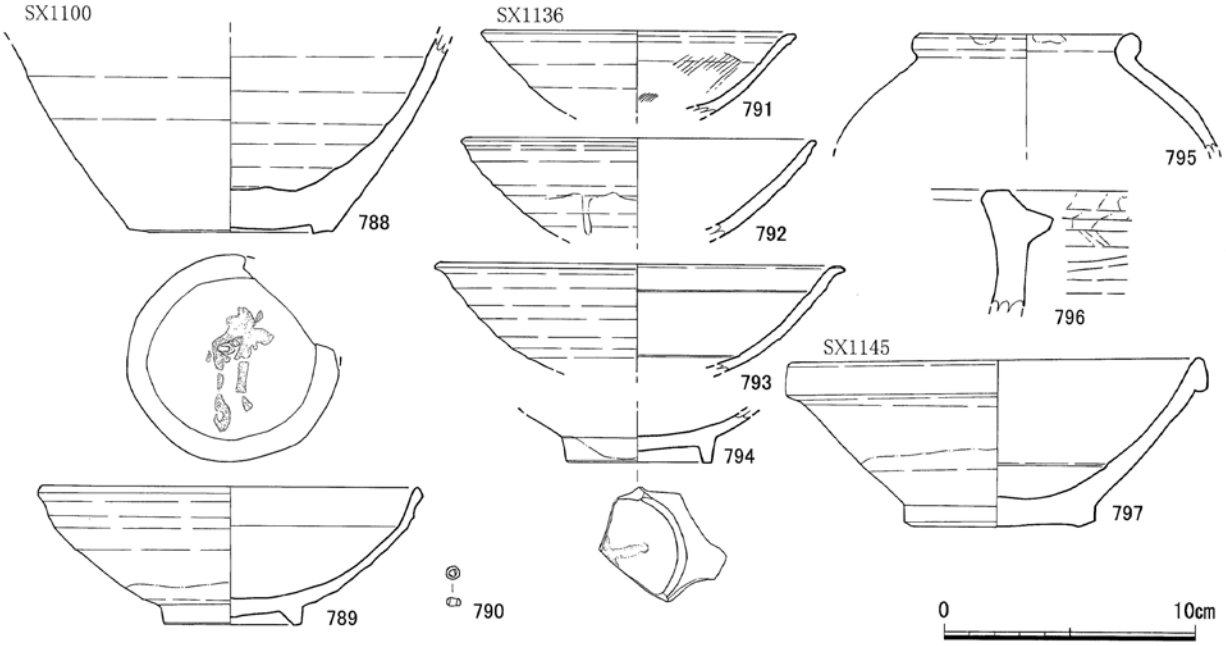


図153 SX1100･1136･1145出土遺物実測図(1/3)

須恵器坏、古代土師丸底坏、中世土師器坏・小皿、中国産陶器片等が出土している。

土壙　SX0690(＝1010)(図142・143)　2区1面検出。古代～中世の土壙である。掘方は平面形が不整な隅丸方形で、断面形は逆台形。埋土は暗灰～暗褐色混砂弱粘質土。掘方の規模は1.03×0.85m、深さは0.30mである。

出土遺物(720)　いずれも二次的に混入した状況で出土している。龍泉窯系青磁椀Ⅱ類720の他は小片のため図示していない。中世土師器坏・小皿、中国産白磁椀Ⅴ・Ⅷ類、青白磁椀・合子、同安窯系青磁椀、緑釉陶器が出土、壷堝として転用されたと思われる白磁片が出土している。

土壙　SX0799(図142・144)　2区1面検出。古代～中世の土壙である。柱穴の可能性がある。掘方は平面形が隅丸方形で、断面形は逆台形。埋土は暗灰～暗黄灰褐色砂質土。掘方の規模は0.70×0.70mで、深さは0.21mである。長軸の方位はN-50°-W。

出土遺物(727)　中国産白磁椀Ⅴ類(727)の他、土師器坏・小皿の小片が出土している。小皿には墨書がみられるものもある。

土壙　SX0800(図142・144)　2区1面検出。古代～中世の土壙である。掘方は平面形が隅丸方形で、断面形は逆台形。埋土は暗灰～暗灰褐色砂質土。掘方の規

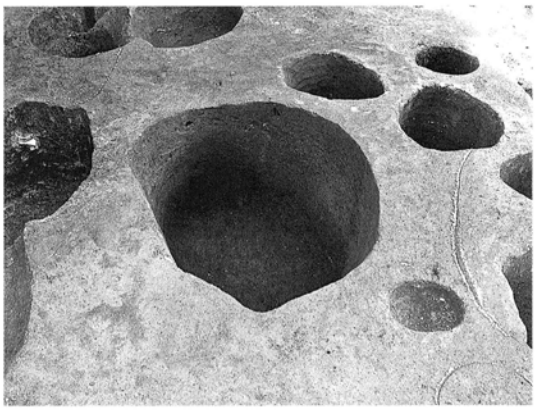


図154 SX1228完掘状況(南西から)

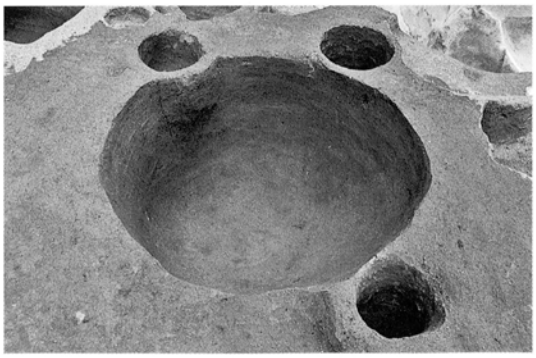


図155 SX1229完掘状況(北西から)

模は0.85×0.85mで、深さ0.32m。長軸方位はN-53°-W。

出土遺物(728～730)　中国産白磁椀Ⅲ728、同安窯系青磁椀729、土師器坏730の他、土師器小皿、瓦器椀等が出土しているが、いずれも小片である。

土壙　SX0807(図142)　2区1面検出。中世の土壙である。掘方は平面形が円形で、形状は円筒状である。埋土は黒褐色砂質土・暗褐色砂質土。掘方の規模は1.20×0.90mで、深さは0.49mである。底面の標高は3.32mである。長軸の方位はN-80°-W。

出土遺物　いずれも二次的に混入した状況で土師器坏・小皿、瓦器椀、中国産白磁椀Ⅳ・Ⅴ類等が出土している。小片のため図示していない。

図156 SX1232完掘状況(西から)

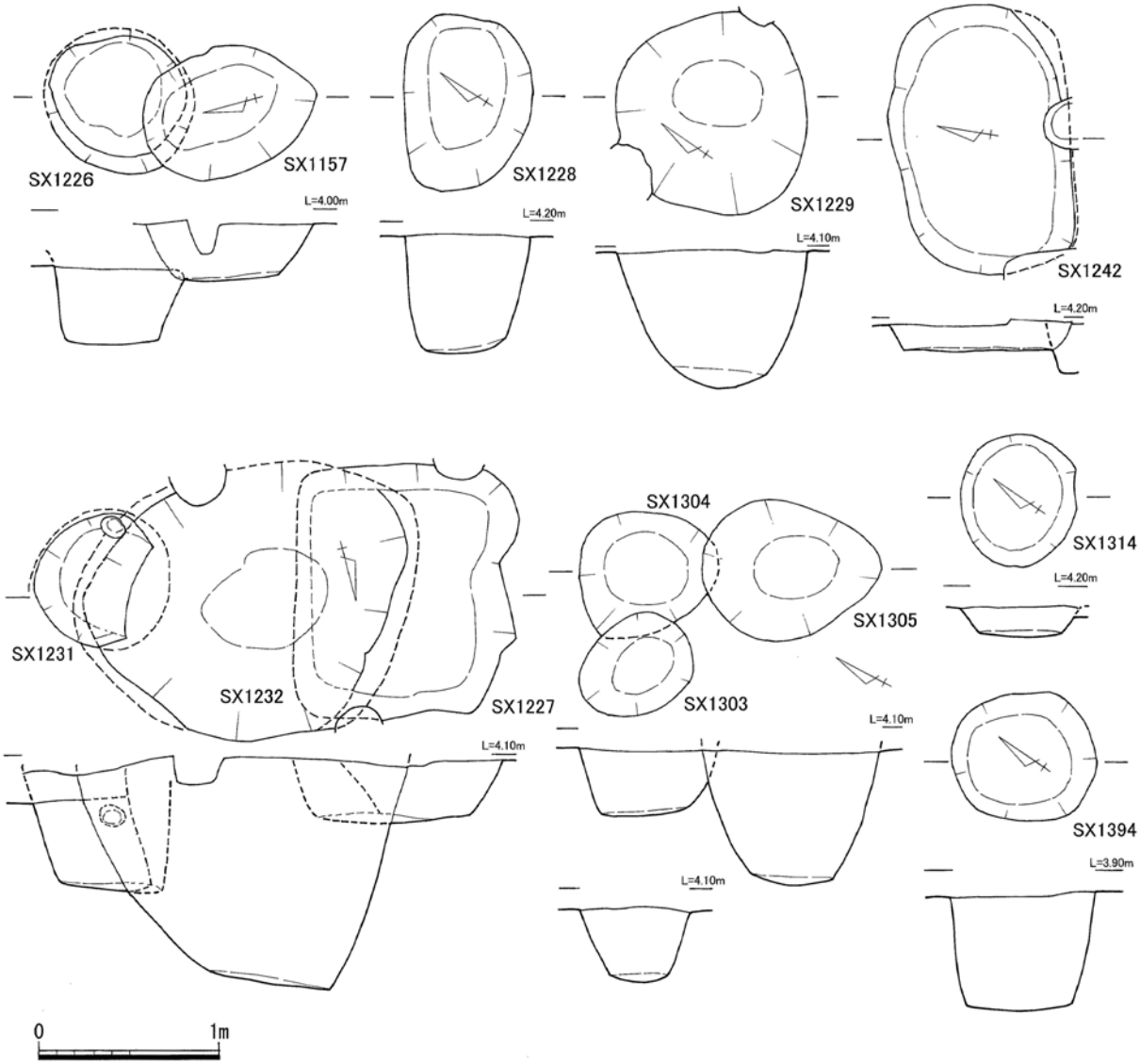


図157 SX1157・1226～1229・1231・1232・1242・1303～1305・1314・1394平面及び断面図(1/40)

土壙　SX0828(図142)　２区１面検出。古代末～中世の土壙である。掘方は平面形が隅丸長方形で、断面形は逆台形。埋土は暗灰～暗青色砂質土で、床面は鉄分が沈着している。掘方の規模は0.72×0.51mで、深さは0.20m。長軸の方位はN-47°-W。遺構の先後関係はSX0828→SX0596→SD0884である。

出土遺物　二次的に混入した状況で土師器坏・小皿、獣骨片が出土している。小片のため図示していない。

土壙　SX0891(＝1399)(図142)　２区１面検出。古代末～中世の土壙である。掘方は平面形が楕円形で、形状は逆円錐台状である。埋土は軟質の黒灰～黒灰褐色砂質土である。掘方の規模は0.98×0.80mで、深さは0.70m。長軸の方位はN-68°30′-W。遺構の先後関係はSX0891→SE0378である。

出土遺物　二次的に混入した状況で土師器坏・小皿片が出土している。小片のため図示していない。

土壙　SP0689(図143)　２区１面検出。中世の土壙である。柱穴の可能性がある。

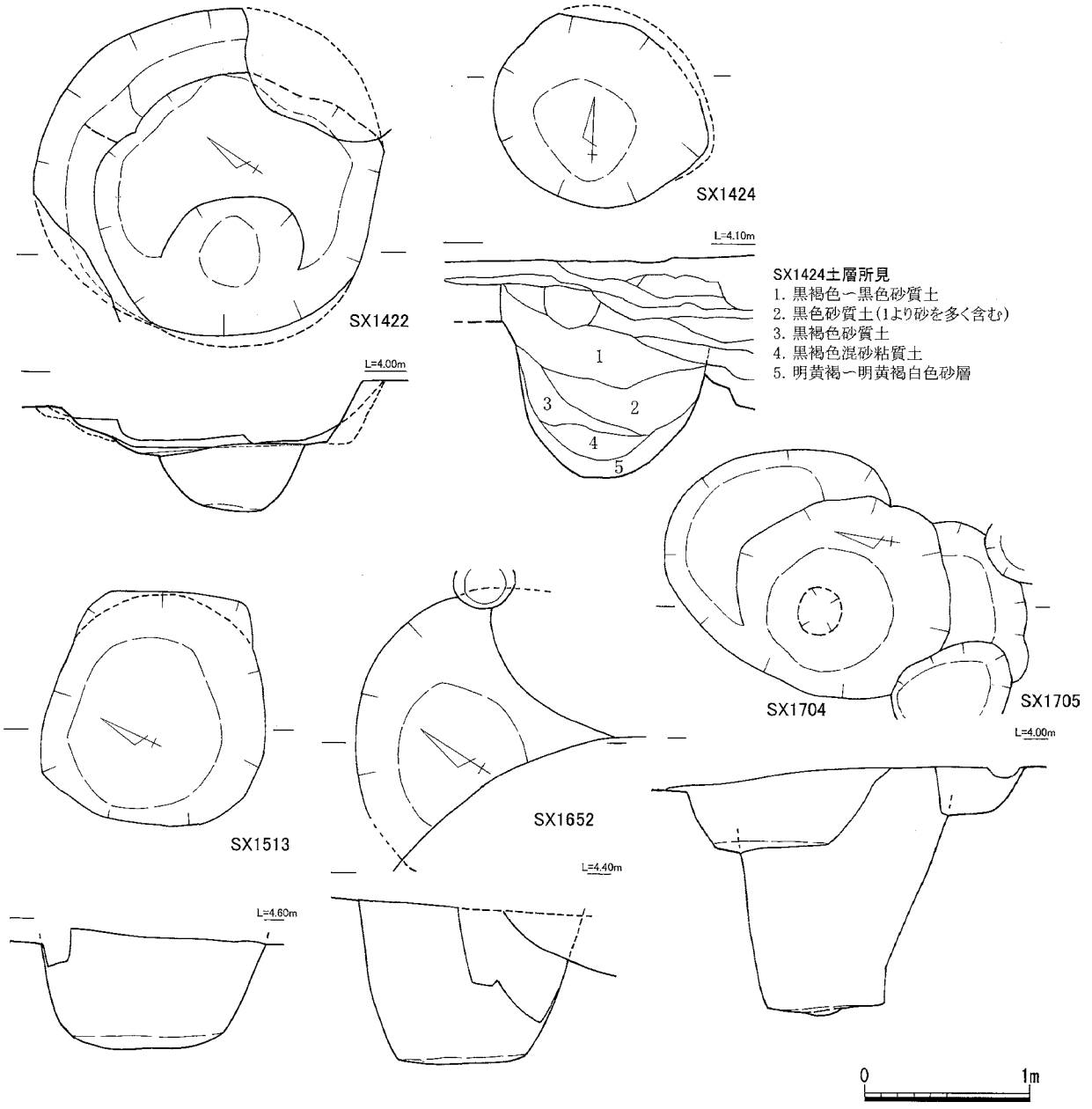


図158 SX1422・1424・1513・1652・1704・1705平面及び断面図(1/40)

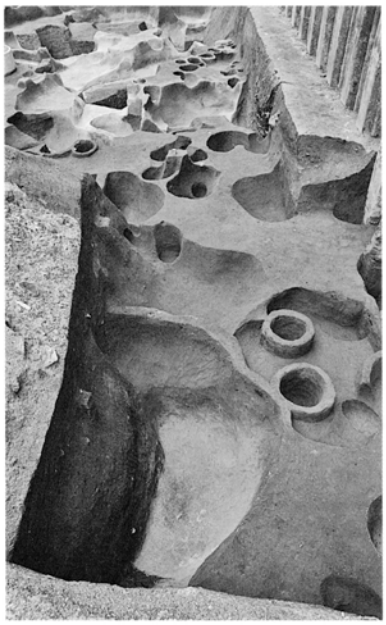


図159 SX1720・1721(北東から)

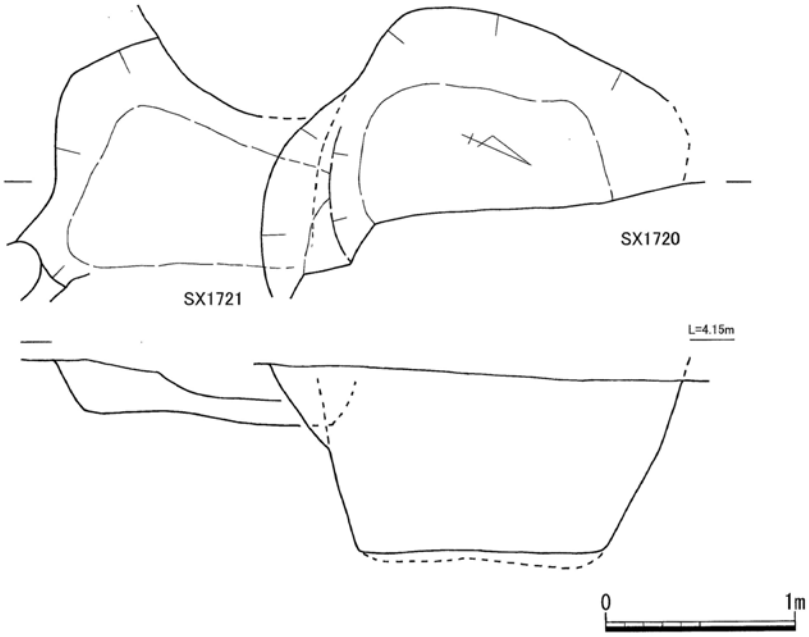


図160 SX1720・1721平面及び断面図(1/40)

出土遺物(709～719)　いずれも二次的に混入した状況で出土している。古墳時代土師甕、中世土師器坏712～715・小皿709～711、東播磨系捏鉢718、中国産白磁椀Ⅳ・Ⅴ(717)類、同安窯系青磁椀716、平瓦719、銅銭が出土している。

土壙　SX0702(図143)　2区1面検出。中世の土壙である。掘方は平面形が楕円形で、形状は逆円錐台状である。埋土は暗灰～暗黄灰褐色砂質土。

出土遺物(721)　中国産白磁Ⅴ類、皿721、中世土師器坏・小皿、古墳時代土師甕等が二次的に混入した状況で出土している。

柱穴　SP0706(図143)　2区1面検出。中世の柱穴である。掘方は平面形が円形で、形状は円筒状である。埋土は暗灰褐色混砂粘質土である。

出土遺物(723)　中国産青白磁灯火台、褐釉陶器皿723が二次的に混入した状況で出土している。

土壙　SX0932(図145～150)　2区2面検出。古代末～中世の土壙である。掘方は平面形が不整な円形で、断面形は逆台形。埋土は黄橙色焼土塊、木炭、黄灰白色混砂粘土を含む良く締まった暗灰褐色砂質土である。黄灰白色混砂粘土はブロック状に掘方床面から側壁にかけて約5cmほどの層を成してみられ、鉢状に粘土を貼った状態に見えたが、むしろ何らかの構造を持つ壁体を破却後投棄した可能性があると判断された。粘土中には炭化した籾殻や米、火を受けてかなり劣化した銅銭などが比較的多量に出土している。この黄灰白色混砂粘土の下部には、白磁椀の高台破片を主とした遺物が一括投棄された状態で

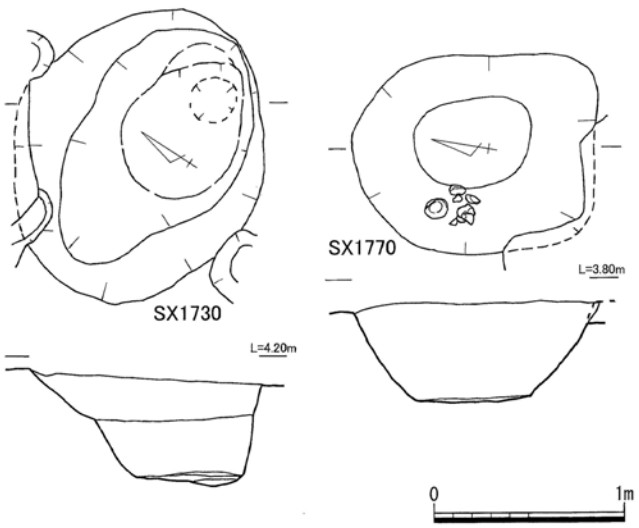


図161 SX1730・1770平面及び断面図(1/40)

大量に出土している。床面は特に火を受けた痕跡はない。掘方の規模は1.78×1.75mで、深さは0.70mである。底面の標高は3.63m。長軸の方位はN-10°-Wである。

出土遺物(731～753)　投棄、又は二次的に混入した遺物が、暗灰褐色砂質土中から出土している。土師器坏732・丸底坏733・小皿731、瓦器椀734、中国産白磁椀Ⅴ(742～753)・小皿Ⅲ(736)・Ⅵ(737)・Ⅶ(738)類、青白磁椀735、龍泉窯系青磁椀739、同安窯系青磁椀740、無釉陶器鉢741、褐釉陶器壷、黄釉鉄絵盤、磁州系黒釉天目椀、高麗期朝鮮系無釉陶器等が出土した他、北宋代の銅銭が141点出土した。中国産白磁はほとんどが11世紀後半から12世紀前半におさまる同一型式で、個体数は67個以上ある。これらの資料は福建省産の可能性が高い。なお、最も新しいものは、内底に輪状の掻取のある高台付白磁皿Ⅲ類737である。

土壙　SX1008(図151・152)　2区2面検出。中世の土壙である。掘方は平面形が不整な楕円形で、形状は逆円錐台状である。埋土は灰褐色砂質土。掘方の規模は1.45×1.20mで、深さは0.43mである。遺構の先後関係はSX1008→SE0584→SE0896→SE0367である。

出土遺物(754～757)　いずれも二次的に混入した状況で出土している。古墳時代土師器甕、奈良時代土師器甕・須恵器坏身、古代土師器坏・小皿754、瓦器椀、中国産白磁椀Ⅱ・Ⅳ(755)・Ⅷ類756・同安窯系青磁椀・小皿、褐釉鉢、四耳壺756、瓦片が出土している。

土壙　SX1060(図151・152)　2区2面検出。中世の土壙である。掘方は平面形が不整な楕円形で、形状は逆円錐台状である。埋土は上層は暗褐～褐色砂質土、中層から下部には暗灰～暗青灰色砂質土がほぼ均質に堆積している。掘方の規模は2.20×1.82m、深さは1.01m。底面の標高は3.20mを測る。

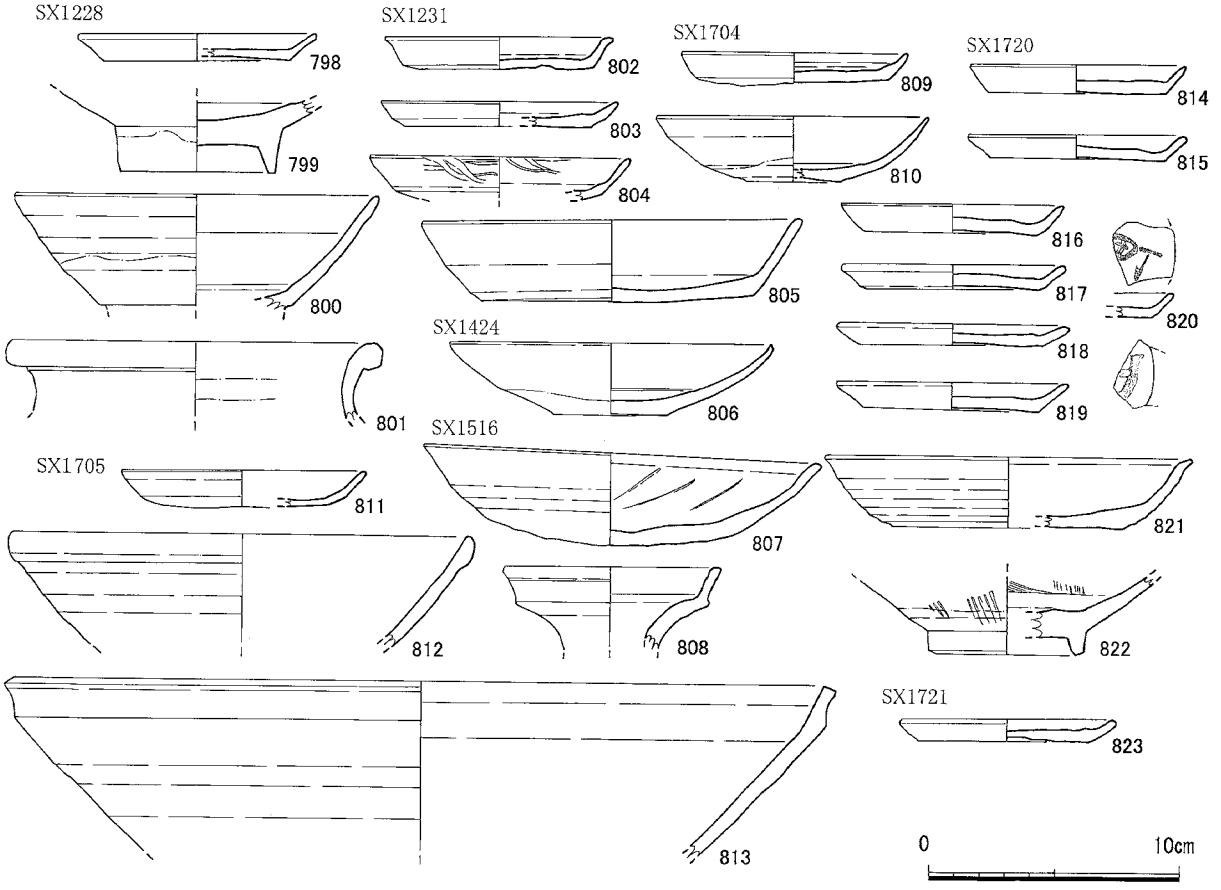


図162 SX1228・1231・1424・1516・1704・1705・1720・1721出土遺物実測図(1/3)

出土遺物(758～768)　いずれも二次的に混入した状況で出土している。奈良時代須恵器甕・坏、古代土師器坏763～767・小皿758～761、瓦器椀、中国産白磁椀Ⅱ・Ⅳ・Ⅷ類、・小皿Ⅵ類、龍泉窯系青磁椀・同安窯系青磁椀・小皿、無釉陶器鉢768等が出土している。

土壙　SX1067(図151・152)　２区２面検出。中世の土壙である。掘方は平面形が不整な隅丸方形で、断面形は逆台形。埋土は黄灰～灰褐色砂質土。掘方の規模は1.38×0.90mで、深さは0.20mである。長軸の方位はN-50°-E。

出土遺物(769～774)　いずれも二次的に混入した状況で出土している。古墳時代土師器甕・壷、奈良時代須恵器甕・坏、土師器坏771・小皿769・770、瓦器椀、東播系捏鉢、中国産白磁椀Ⅳ・Ⅷ類・小皿Ⅵ類、青白磁合子773、同安窯系青磁椀・小皿774、天目椀772、磁灯窯系盤、銅銭が出土している。

土壙　SX1074(図151・152)　２区２面検出。中世の土壙である。掘方は平面形が不整な円形で、掘方断面は船底状である。埋土は黒褐色単純層。掘方の規模は

図163 SE1483完掘状況(南から)

図164 SE1494井筒検出状況(南東から)

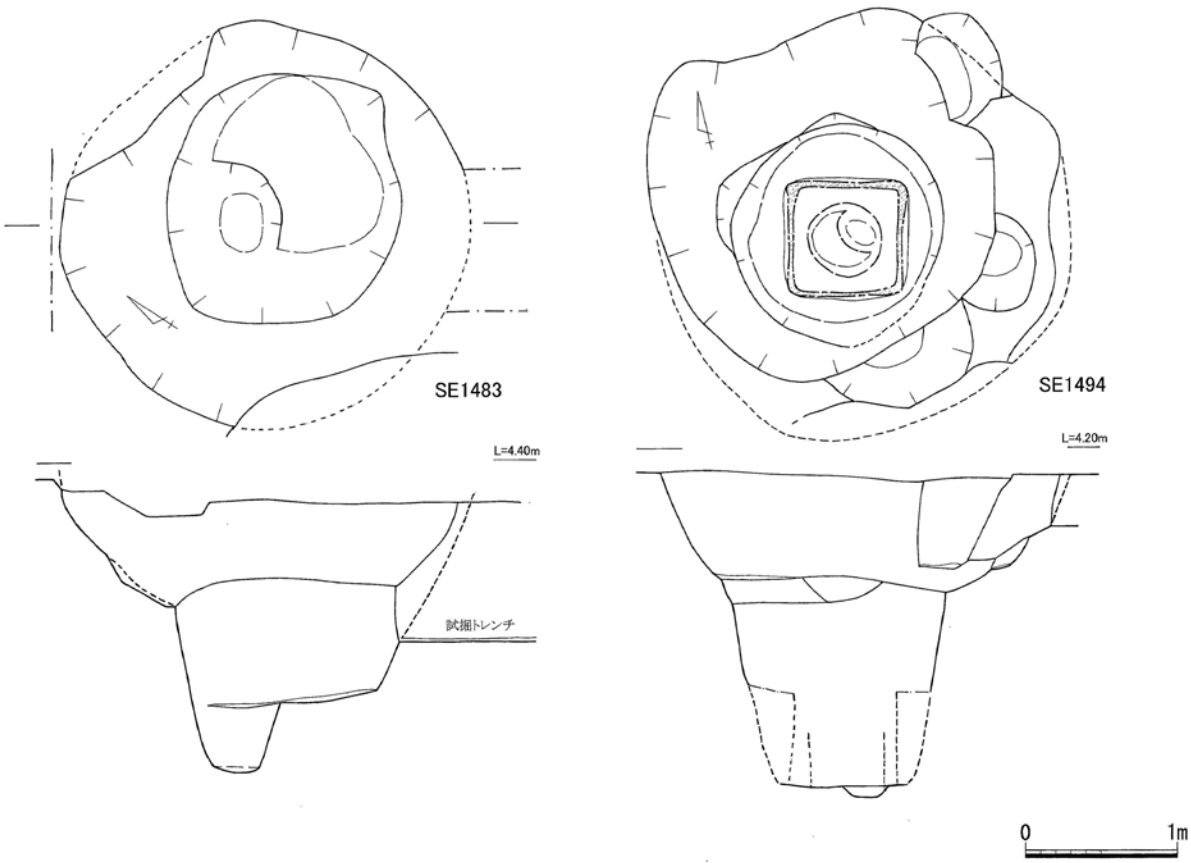


図165 SE1483・1494平面及び断面図(1/50)

1.15×1.15mで、深さは0.37mである。

出土遺物(775～777)　いずれも二次的に混入した状況で出土している。古墳時代土師器壷、古代土師器坏775・小皿、中国産白磁椀Ⅳ・Ⅴ(776)類・Ⅷ(777)類、青白磁合子が出土している。

土壙　SX1075(図151・152)　2区2面検出。中世の土壙。掘方は平面形が不定形で、形状は円筒状である。埋土は黒褐色砂質土。掘方の規模は1.20×1.0mほどか。深さ0.76mで、底面の標高は3.13m。

出土遺物(778～780)　土師器坏・小皿、瓦器椀778、中国産白磁椀Ⅳ・Ⅴ・Ⅷ(779・780)類が二次的に混入した状況で出土している。

土壙　SX1078(図151・152)　2区3面検出。中世の土壙である。掘方は平面形が円形で、形状は円筒状である。埋土は暗黄灰～暗褐色砂質土。掘方の規模は1.30×1.20mで、深さは0.61m。底面の標高は3.26m。

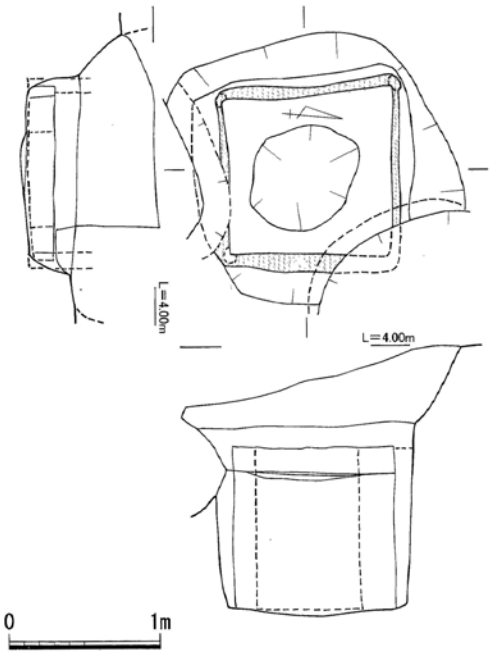


図166 SE1621平面及び断面図(1/50)

図167 SE1621井側・井筒検出状況(南から)

図168 SE1621方形井側完掘状況(北東から)

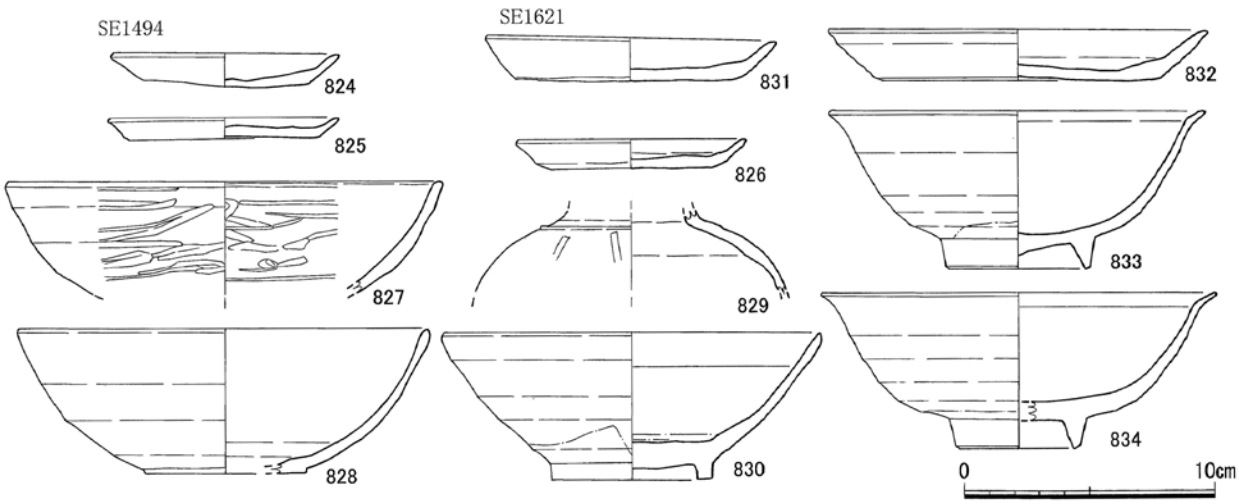


図169 SE1494・1621出土遺物実測図(1/3)

出土遺物(781～787)　土師器坏784～785・小皿781～783、中国産白磁椀Ⅳ～Ⅷ類(787)、同安窯系青磁椀786、瓦片、銅銭1点が土している。いずれも二次的に混入した状況で出土している。

土壙　SX1100(図151・153)　2区3面検出。中世の土壙である。掘方は平面形が不定形で、形状は円筒状である。埋土は黒灰色砂質土、褐色砂混含土。掘方の規模は1.38×0.90mで、深さは0.57m。

出土遺物(788～790)　土師器坏・小皿、瓦器椀789、中国産白磁椀Ⅱ・Ⅳ類、龍泉窯系青磁椀、褐釉陶器耳壷788、ガラス小玉790、瓦片が二次的に混入した状況で出土している。なお、耳壷788の底部には墨書があるが、遺存状況が悪く判読できない。

土壙　SX1136(図151・153)　2区3面検出。中世の土壙である。掘方は平面形が不整な楕円形で、形状は円筒状である。埋土は黒灰～黒灰褐色砂質土。掘方の規模は1.98×1.38m、深さは1.11mである。底面の標高は3.05m。

出土遺物(791～796)　土師器坏、奈良時代須恵器坏、瓦器椀、中国産白磁椀Ⅱ・Ⅴ類791～794(墨書有り)、褐釉陶器壺795、瓦片、滑石製石鍋796、獣骨片が二次的に混入した状況で出土している。

土壙　SX1145(＝1357)(図151・153)　2区3面検出。中世の土壙である。掘方は平面形が不整な隅丸方形で、断面形は逆台形。埋土は暗灰褐色～黒灰褐色混砂粘質土。掘方の規模は0.88×0.88mほどで、深さは0.21m。長軸の方位はN-29°-Wである。

図170 SE1653方形井側(南西から)

図171 SE1669方形井側完掘状況(南から)

図172 SE1669完掘状況(南から)

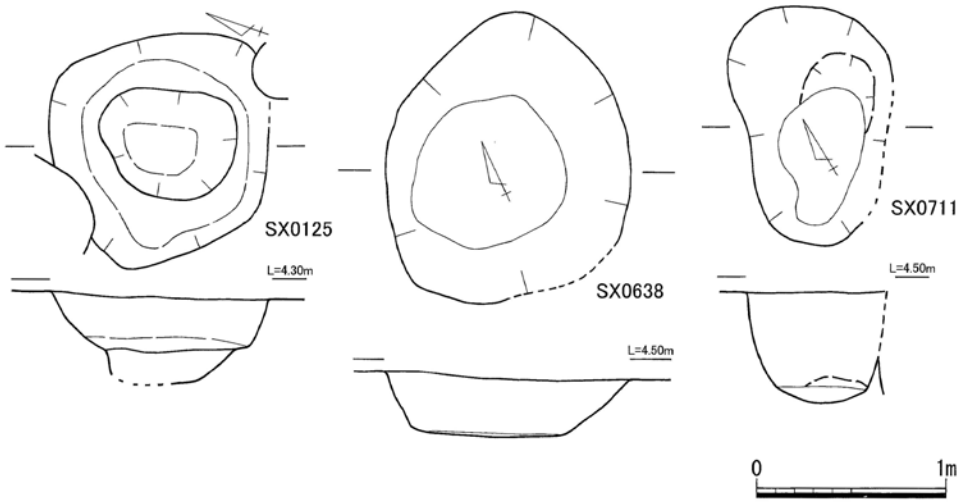


図173 SX0125・0638・0711平面及び断面図(1/40)

出土遺物(797)　土師器坏・小皿、中国産白磁椀Ⅳ類797が二次的に混入した状況で出土している。

土壙　SX1157(図157)　２区３面検出。中世の土壙である。掘方は平面形が不整な楕円形で、形状は逆円錐台状である。埋土は黒褐色砂質土。掘方の規模は1.01×0.73mで、深さは0.31mである。

出土遺物　いずれも二次的に混入した状況で出土しており、小片であるため図示していない。土師器丸底坏、奈良時代土師器甕、瓦器椀、中国産白磁椀Ⅴ・Ⅷ類、褐釉陶器等の12世紀半ばから後半代を中心とする遺物が出土している。

土壙　SX1226(図157)　２区４面検出。中世の土壙である。掘方は平面形が円形で、形状は円筒状である。埋土は暗褐色～黒灰色砂質土。掘方の規模は0.81～0.87m、深さは0.44mで、底面の標高は3.19mである。遺構の先後関係はSX1226→SX1157である。

出土遺物　いずれも二次的に混入した状況で土師器坏・小皿、瓦器、中国産白磁椀Ⅳ類、奈良時代須恵器坏、瓦片等が出土している。小片であるため図示していない。

土壙　SX1227(図157・176)　２区４面検出。古代の土壙である。掘方は平面形が不整な隅丸長方形で、断面形は逆台形。埋土は黒灰～暗灰褐色砂質土。掘方の規模は1.41×1.21mで、深さは0.32mである。長軸の方位はN-14°-W。

出土遺物(891～896)　いずれも二次的に混入した状況で出土している。古墳時代土師器甕、奈良時代須恵器坏・皿・甕、土師器椀・坏893・小皿891・892、瓦器椀、東播系皿、常滑焼甕、中国産白磁椀Ⅱ・Ⅳ・Ⅴ(896)・Ⅷ(894・895)類、皿Ⅵ類、磁灯窯系陶器盤、陶器耳壺等が出土している。

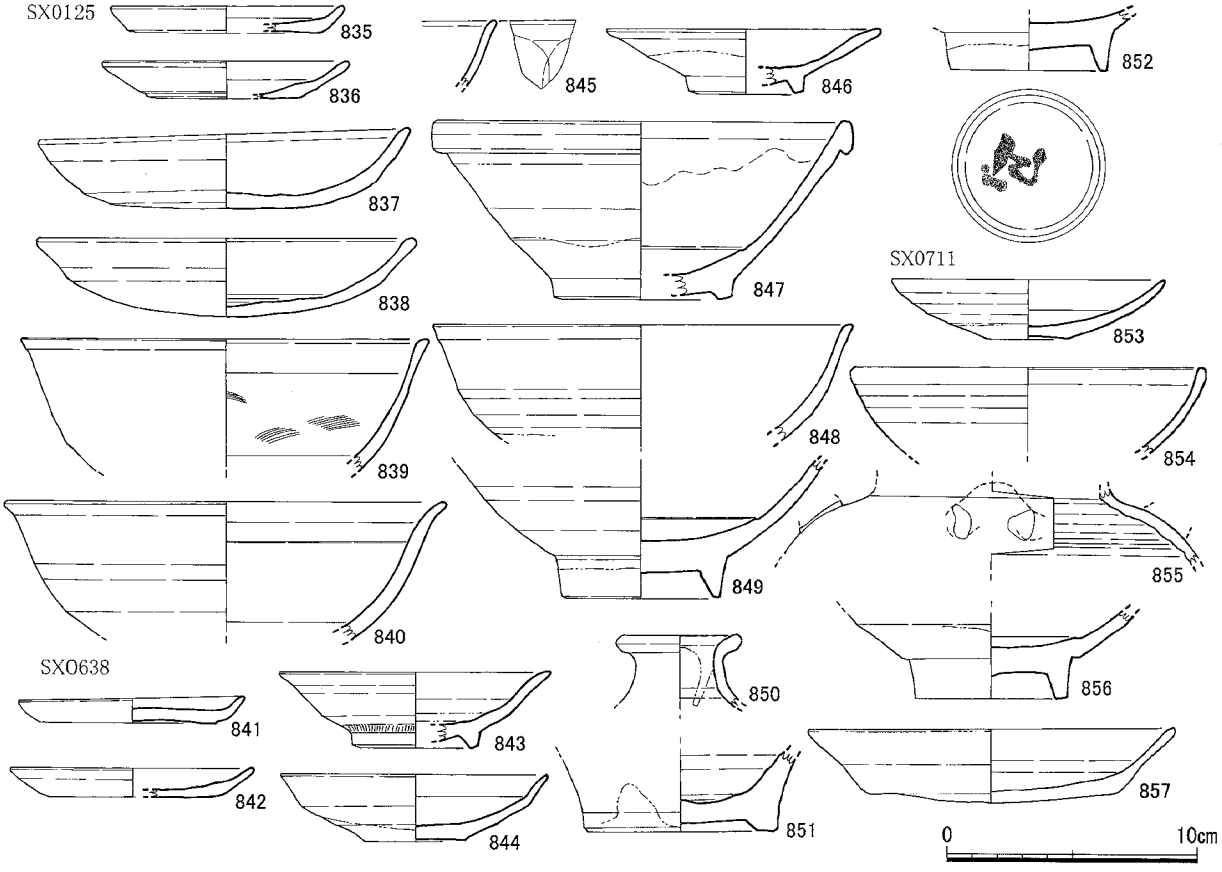


図174 SX0125・0638・0711出土遺物実測図(1/3)

土壙　SX1228(図154・157・162)　２区４面検出。中世の土壙である。掘方は平面形が不整な楕円形で、形状は逆円錐台状である。埋土は黒褐色～暗褐色砂質土。掘方の規模は1.00×0.73mで、深さは0.69m。底面の標高は3.44m。

出土遺物(798～801)　古墳時代土師器甕、土師器坏・小皿798、中国産白磁Ⅴ(799)・Ⅷ(800)、類陶器耳壺801・鉢等が二次的に混入した状況で出土している。

土壙　SX1229(図155・157)　２区４面検出。中世の土壙である。掘方は平面形が不整な円形で、形状は逆円錐台状である。埋土は黒褐色砂質土(木炭含む)。掘方の規模は1.13×1.07mで、深さは0.79mである。底面の標高は3.30m。

出土遺物　奈良時代土師器甕、須恵器坏、土師器坏・小皿、中国産白磁椀Ⅱ・Ⅳ・Ⅴ類・小皿等の破片が二次的に混入した状況で出土している。

土壙　SX1231(図157・162)　２区４面検出。古代～中世の土壙である。掘方は平面形が不整な円形で、形状は逆円錐台状である。埋土は黒褐色粘質土。掘方の規模は0.80×0.78mで、深さは0.77m。

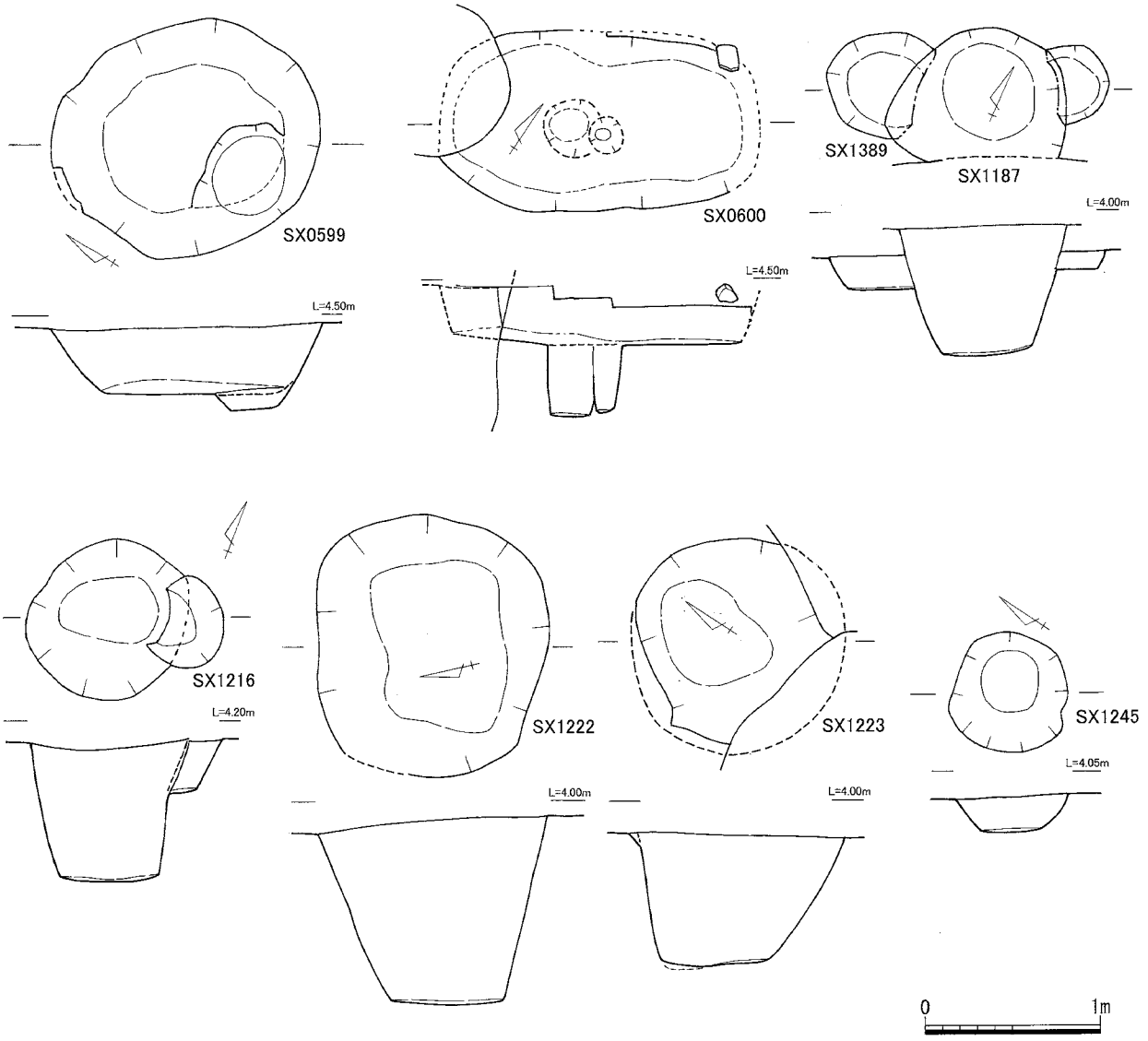


図175 SX0599・0600・1187・1216・1222・1223・1245・1389平面及び断面図(1/40)

底面の標高は3.33m。

出土遺物(802～805)　いずれも二次的に混入した状況で出土している。古墳時代土師器甕、奈良時代土師器甕、須恵器坏、土師器坏805・小皿802・803、瓦質小皿804、中国産白磁椀Ⅱ・Ⅳ・Ⅴ類、陶器耳壺が出土している。

土壙　SX1242(図157)　2区4面検出。中世の土壙である。掘方は平面形が不整な隅丸長方形で、断面形は逆台形。埋土は灰褐色砂質土。掘方の規模は1.53×1.00mで、深さは0.17mである。長軸の方位はN-9°-W。

出土遺物　小片のため図示していない。古墳時代土師器甕・壷、奈良時代須恵器坏・甕、土師器椀・坏・小皿、瓦器椀(楠葉型有)、中国産白磁椀Ⅱ・Ⅳ・Ⅴ類、龍泉窯系青磁椀Ⅱ類が二次的に混入した状況で出土している。

土壙　SX1303(図157)　2区4面検出。中世の土壙である。掘方は平面形が不整な楕円形で、形状は逆円錐台状である。埋土は暗褐～暗灰褐色粘質土。掘方の規模は0.67×0.51mで、深さは0.35mである。遺構の先後関係はSX1304→SX1303である。

出土遺物　小片のため図示していない。古墳時代土師器甕・壷、土師器坏・小皿等が出土している。

土壙　SX1304(図157)　2区4面検出。中世の土壙である。掘方は平面形が不整な楕円形で、形状は逆円錐台状である。埋土は暗灰褐色砂質土。掘方の規模は0.80×0.71mで、深さは0.37m。遺構の先後関係はSX1304→SX1303・1305。

出土遺物　小片のため図示していない。古墳時代土師器甕、奈良時代須恵器坏、中国産白磁椀Ⅳ・Ⅴ類等が少量出土している。

土壙　SX1305(＝1238)(図157)　2区4面検出。中世の土壙である。掘方は平面形が不整な楕円形で、形状は逆円錐台状である。埋土は暗灰褐色砂質土。掘方の規模は1.01×0.79mで、深さは0.76mである。底面の標高は3.20m。遺構の先後関係はSX1304→SX1305である。

出土遺物　小片のため図示していない。奈良時代須恵器片、土師器坏・小皿片が少量出土している。

土壙　SX1314(図157)　2区4面検出。中世の土壙である。掘方は平面形が楕円形で、形状は逆円錐台状である。埋土は暗灰褐色砂質土。掘方の規模は0.77×0.67mで、深さは0.18mである。

出土遺物　小片のため図示していない。奈良時代須恵器片、土師器坏・小皿、瓦器椀、中国産白磁椀Ⅳ類が出土している。

土壙　SX1394(図157)　2区4面検出。古代～中世の土壙である。掘方は平面形が不整な円形で、形状は円筒状である。埋土は灰褐色混砂弱粘質土。掘方の規模は0.83×0.72mで、深さは0.64mである。底面の標高は3.11m。

出土遺物　土師器坏・小皿小片が若干出土しているが、図示できるものはない。

土壙　SX1422(図158)　2区1面検出。古代～中世の土壙である。掘方は平面形が不整な円形で、形状は逆円錐台状である。埋土は暗灰褐色混砂弱粘質土。掘方の規模は2.05×1.98mで、深さは0.77mである。底面の標高は3.12m。

出土遺物　土師器坏・小皿片が若干出土しているが、小片のため図示できるものはない。

土壙　SX1424(図158・162)　2区1面検出。中世の土壙である。掘方は平面形が不整な楕円形で、形状は逆円錐台状で底面は船底状である。埋土は暗灰褐色混砂弱粘質土。掘方の規模は1.33×1.09m、深さは0.96mである。底面の標高は3.68m。

出土遺物(806)　奈良時代須恵器坏・甕、土師器竈、土師器坏、瓦器椀、東播系捏鉢、中国産白磁椀Ⅱ・Ⅳ・Ⅴ類、皿Ⅵ(806)、類陶器耳壺、鉢等が二次的に混入して出土している。

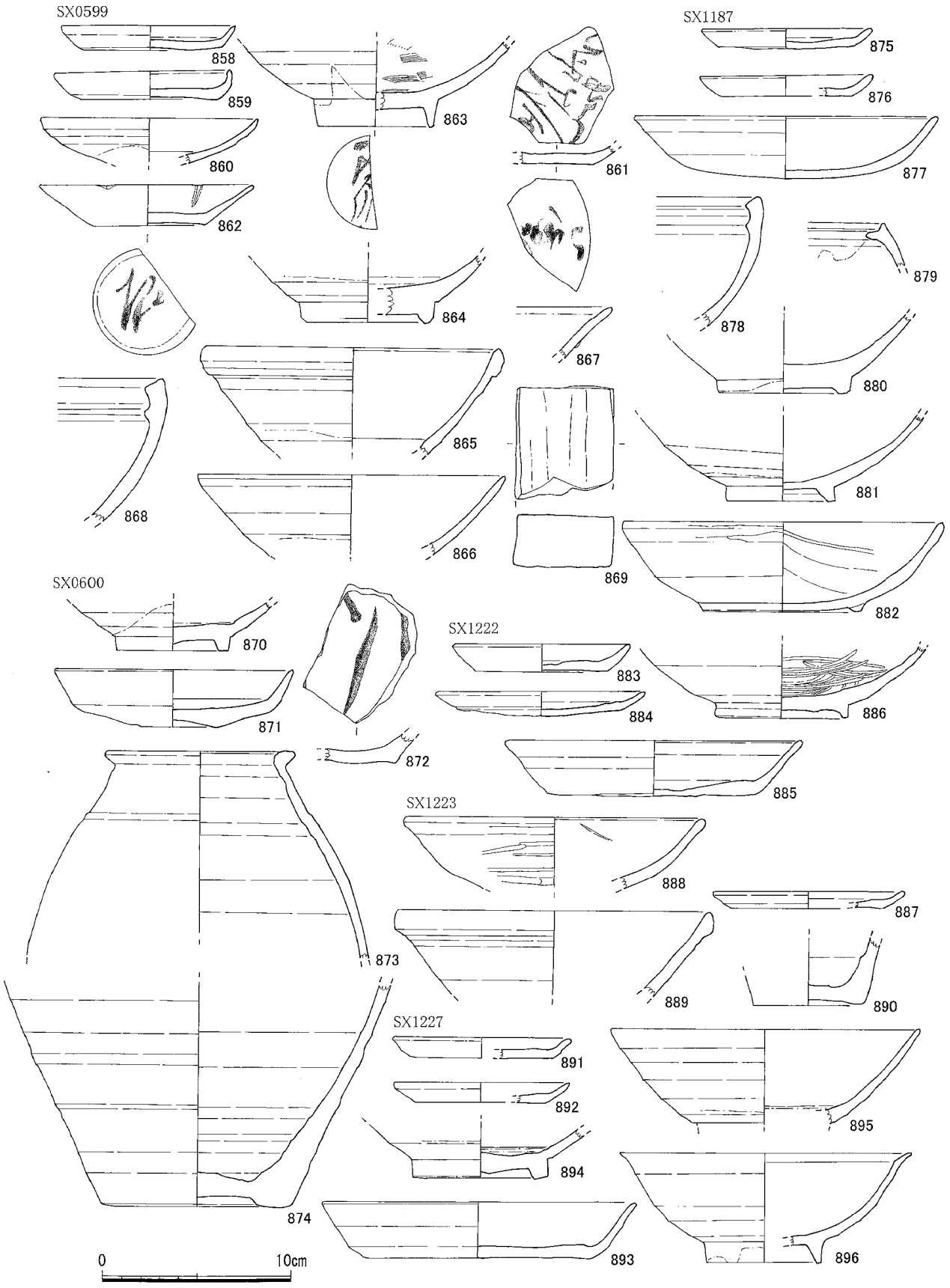


図176 SX0599・0600・1187・1222・1223・1227出土遺物実測図(1/3)

土壙　SX1513（図158）　３区１面検出。古代～中世の土壙である。掘方は平面形が不整な楕円形で、形状は円筒状である。埋土は暗灰色混砂弱粘質土。掘方の規模は1.43×1.33mで、深さは0.73m。

出土遺物　弥生時代甕、古墳時代土師器甕、中国産白磁椀Ⅱ・Ⅳ類、瓦が出土している。

土壙　SX1652（図158）　３区２面検出。中世の土壙。掘方は平面形が不整な円形で、形状は逆円錐台状。埋土は暗灰褐色砂土。掘方の規模は2.00×2.0mほどか。深さは0.97mで、底面の標高は3.26m。

出土遺物　古墳時代土師器甕・壷・壷、奈良時代土師器甕、師器椀・坏・小皿、瓦器椀、中国産白磁椀Ⅱ・Ⅴ・Ⅷ類、石鍋（ミニチュア）が等が二次的に混入して出土している。

土壙　SX1704（図158・162）　３区４面検出。古代末～中世の土壙である。掘方は平面形が不整な円形で、形状は円筒状である。埋土は軟質の暗灰～暗灰褐色砂

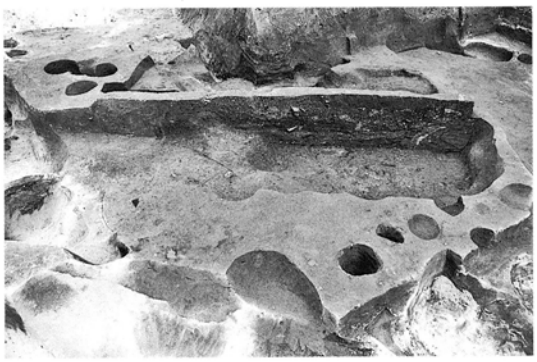
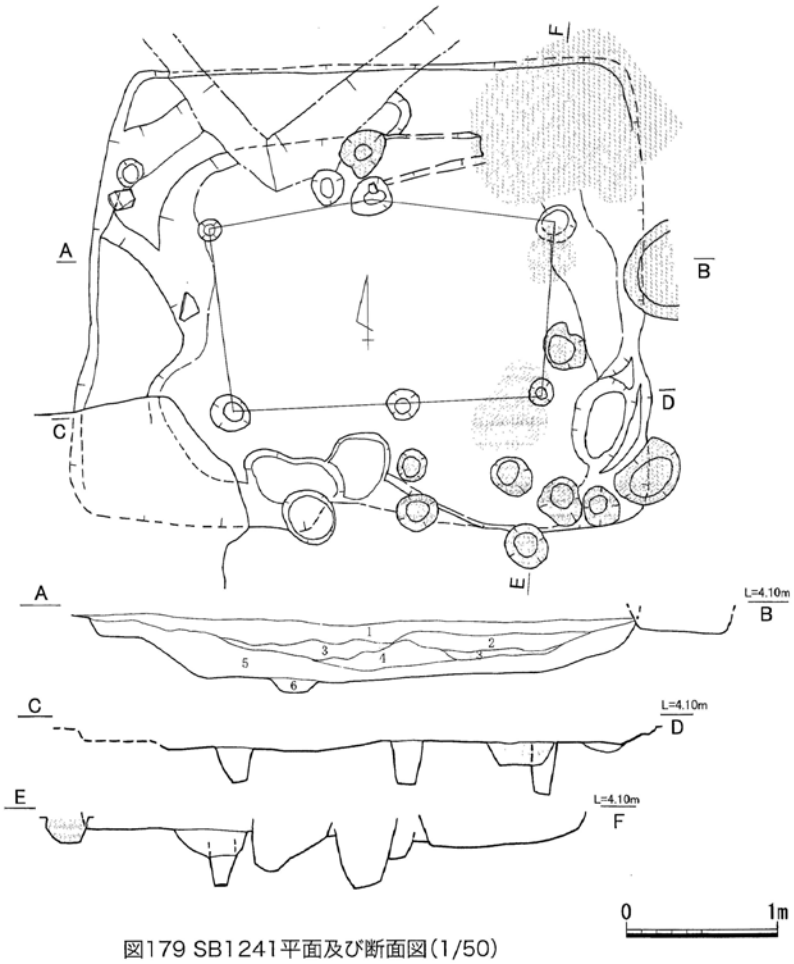


図177 SB1241床面掘り下げ状況（南から）

図178 SB1241検出状況（北から）



SB1241 内埋土土層観察所見

第１層　黒褐色～暗灰褐色混砂粘質土（黄灰～黄橙灰色焼土小塊含む）
第２層　暗灰褐色混砂粘質土（わずかに焼土小塊含む）
第３層　黒灰～黒色粘質土（焼土小塊・木炭を多く含む）
第４層　暗灰褐色混砂粘質土
第５層　灰褐色混砂粘質土（木炭含む）
第６層　暗灰褐色混砂粘質土（焼土小塊含む）

図179 SB1241平面及び断面図（1/50）

質土。掘方の規模は1.35×1.29mで、深さは1.50mである。底面の標高は2.32m。

出土遺物(809～810)　土師器坏・小皿809、中国産白磁皿V(810)類等がわずかに出土している。

土壙　SX1705(図158・162)　3区4面検出。古代末～中世の土壙である。掘方は平面形が不整な楕円形で、形状は逆円錐台状である。埋土は軟質の暗灰～暗灰褐色砂質土。掘方の規模は0.81×0.55mで、深さは0.35m。

出土遺物(811～813)　古墳時代土師器甕・高坏・壷、奈良時代須恵器坏・皿・土師器甕、土師器甕、土師器坏・小皿811(ヘラ)、瓦器椀、須恵質捏鉢813、中国産白磁椀IV(812)・V類・小皿VI類が出土している。いずれも小片である。

土壙　SX1720(図159・160・162)　3区4面検出。古代末～中世の土壙である。掘方は平面形が不整な楕円形で、形状は逆円錐台状である。埋土は軟質の暗灰～暗灰褐色砂質土。掘方の規模は1.83×1.50mほどか。深さは0.95mで、底面の標高は2.97m。

出土遺物(814～822)　古墳時代土師器甕・壷、奈良時代須恵器甕・坏・小皿・土師器甕、土師器坏821・小皿(814～820)、中国産白磁椀II・IV・V類・小皿VI類、同安窯系青磁椀822、黄釉陶器盤、褐釉陶器耳壷、鉢、瓦等が二次的に混入して出土。土師皿820の底部には墨書があり、「町」と読める。

土壙　SX1721(図159・160・162)　3区4面検出。古代末～中世の土壙である。掘方は平面形が不整な隅丸長方形で、断面形は逆台形。埋土は軟質の暗褐色～黒灰褐色混砂弱粘質土。掘方の規模は1.80

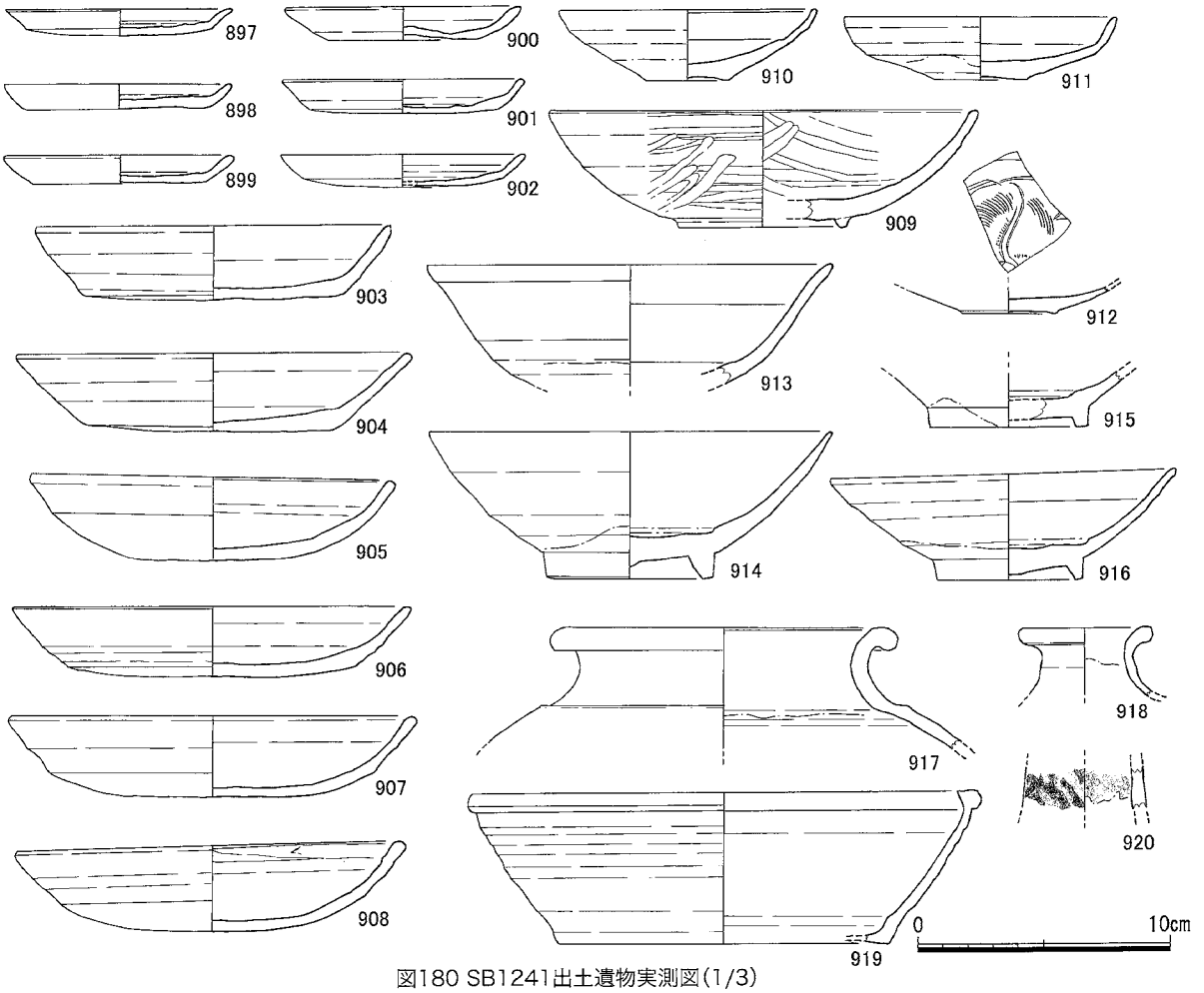


図180 SB1241出土遺物実測図(1/3)

×1.50m。深さは0.28m。長軸の方位はN-5°-W。

出土遺物(823)　古墳時代土師器甕、奈良時代須恵器甕・坏、土師器坏・小皿823、中国産白磁椀Ⅴ類・小皿Ⅵ類、龍泉窯系青磁椀、黄釉陶器盤、鉢等が少量出土している。

土壙　SX1730(図161)　3区4面検出。古代末～中世の土壙である。掘方は平面形が不整な楕円形で、形状は逆円錐台状である。埋土は軟質の黒灰褐色混砂粘質土。掘方の規模は1.60×1.35mで、深さは0.54mである。底面の標高は3.60m。

図181 SE0306完掘状況(北から)

出土遺物　土師器皿の小片が出土している。図示できるものはない。

土壙　SX1516(図162)　3区1面検出。古代～中世の土壙である。掘方は平面形が楕円形で、埋土は暗褐色混砂粘質土である。

出土遺物(807～808)　奈良時代須恵器坏、土師器椀・丸底坏807・坏・小皿、中国産白磁椀Ⅴ類、龍泉窯系青磁椀、同安窯系青磁皿、高麗青磁瓶808が出土している。

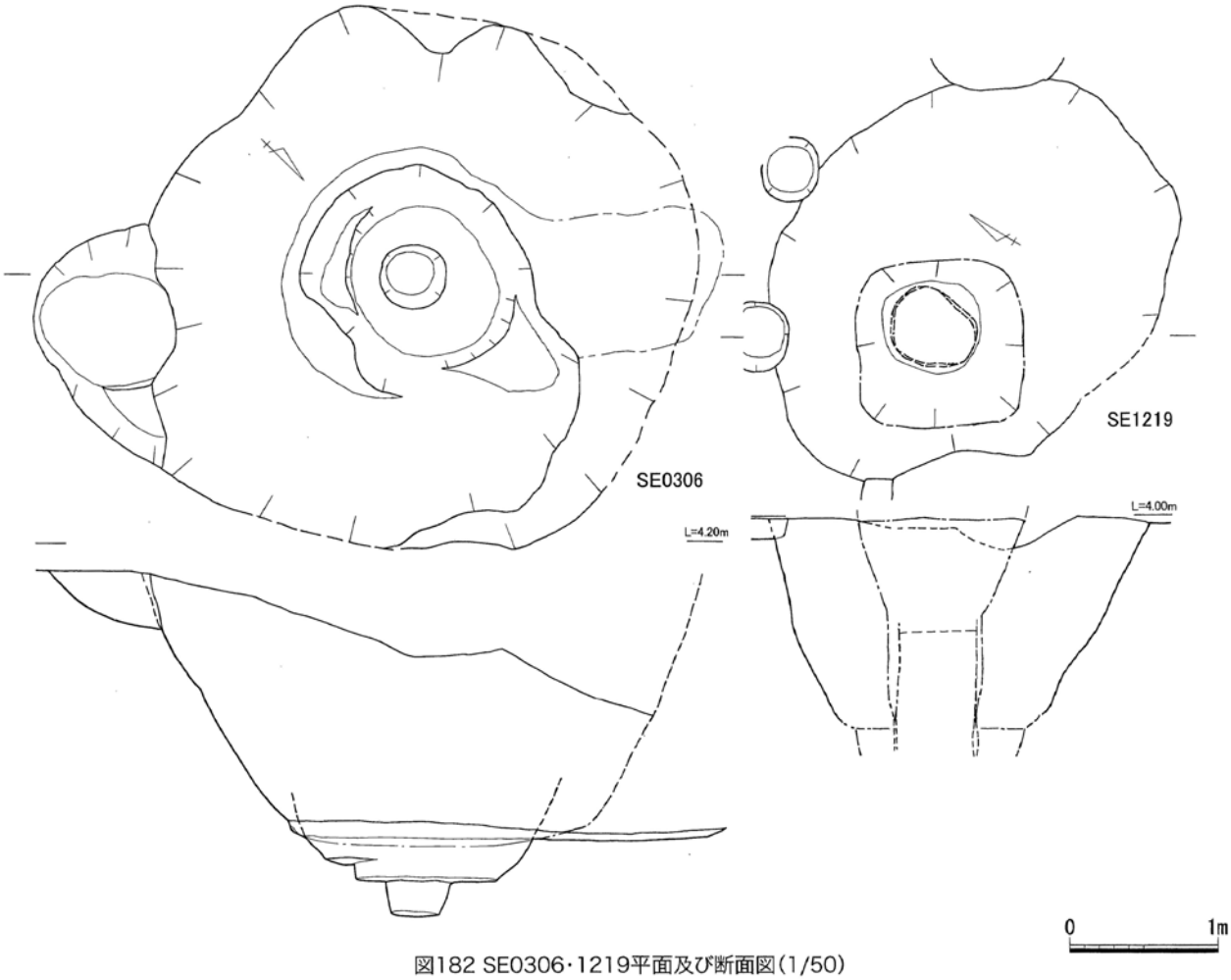


図182 SE0306・1219平面及び断面図(1/50)

井戸　SE1483(図163・165)　3区1面検出。古代～中世の井戸である。井筒は桶組の可能性がある。掘方は平面形が円形で、断面形は逆台形。埋土は上層は黒灰色砂質土、下層は黒灰褐色混砂粘質土である。掘方は径2.70×2.70m。底面までの深さは1.87mである。井筒の径は不明。井筒底面の標高は2.30m。

出土遺物　各時期にまたがる遺物が大量に出土している。奈良時代土師器甕・須恵器坏・皿、土師器坏・小皿、瓦器椀、中国産白磁Ⅳ・Ⅴ・Ⅷ類、龍泉窯系青磁椀、同安窯系青磁椀・小皿、磁灯窯系陶器盤、褐釉耳壺、天目椀、銅銭、石鍋片が出土している。

井戸　SE1494(1546・1653)(図164・165・169・170)　3区1面検出。古代末～中世の井戸である。痕跡のみ確認したが、四隅に柱をたて、側板をはめた方形井側の井戸である。井筒は不明確であるが曲物の可能性がある。掘方は平面形が方形で、断面形は逆台形。埋土は暗灰～黒灰色砂質土。掘方は径2.90×2.80mで井筒底面までの深さは2.50mを測る。方形井側は0.80×0.85mで、他の方形井側と比べるとやや小ぶりである。井筒の径は直径0.50mほどである。底面の標高は1.87m。方形井側の長軸の方位はN-14°-Eである。

出土遺物(824・825・827・828・830)　土師器坏・小皿824・825、瓦器椀827、須恵質土器椀828、中国産白磁椀Ⅱ・Ⅳ・Ⅵ(830)類の他、古墳時代甕、奈良時代須恵器坏等が出土している。

井戸　SE1621(図166～169)　3区2面検出。古代末～中世の井戸である。井側は痕跡のみ確認できた。四隅に柱をたて、側板をはめた方形井側となる。井筒は曲物の可能性がある。掘方は平面形が方形で、形状は逆円錐台状である。埋土は黒褐色砂質土と暗褐色混砂弱粘質土の混合土である。所々

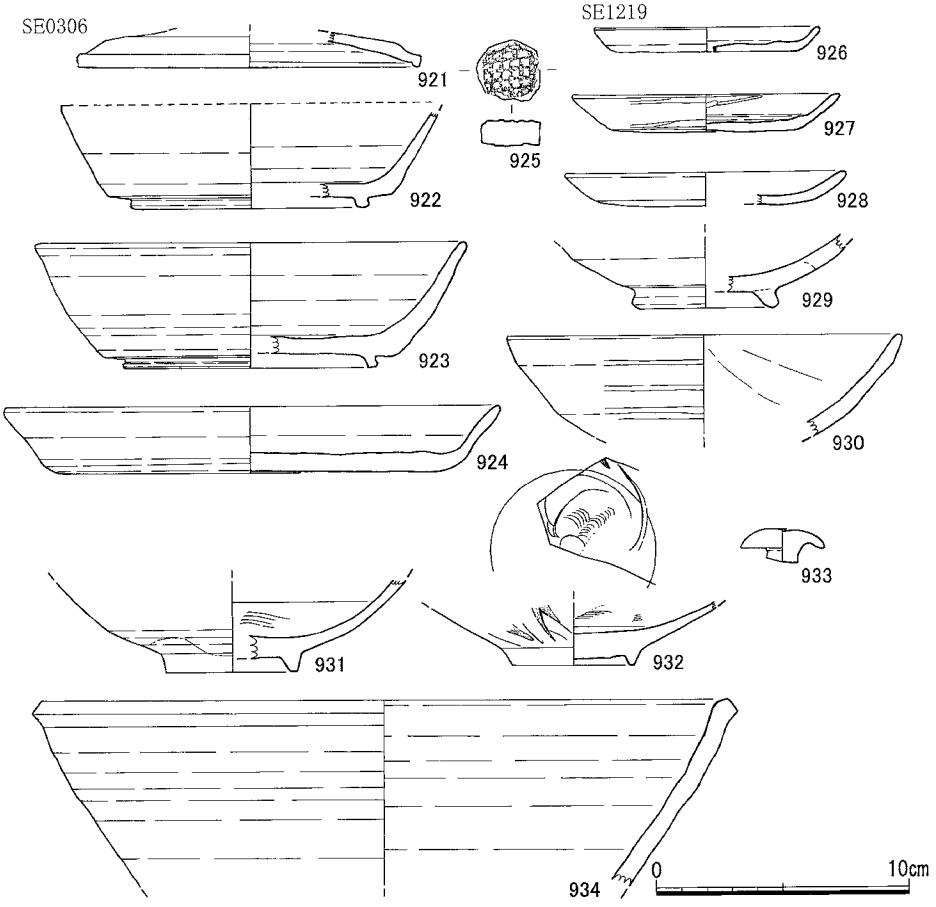


図183 SE0306・1219出土遺物実測図(1/3)

に白砂のブロックがみられる。掘方は径2.0×1.79mで井筒底面までの深さは1.82mを測る。方形井側はほぼ正方形に近く一辺が1.1×1.15mを測る。井筒の径は不明であるが直径0.60mほどと思われる。底面の標高は2.20mである。方形井側の長軸の方向はN-5°-Wである。

出土遺物(831～834)　井筒からは古墳時代土師器甕・壷、奈良時代須恵器坏・皿、土師器坏831・832・小皿、瓦器椀、中国産白磁椀Ⅳ・Ⅴ(833・834)・Ⅷ類、石鍋片等が出土している。掘方からは、古墳時代土師器甕・高坏、瓦器椀、東播系捏鉢、石鍋、瓦等が出土している。いずれも二次的に埋土に混入した状況で出土している。

土壙　SX0125(図173・174)　1区2面検出。古代末～中世の土壙である。掘方は平面形が不整な楕円形で、形状は逆円錐台状である。埋土は暗灰褐色砂質土。掘方の規模は1.27×1.17mで、深さは0.47mである。長軸の方位はN-70°-W。遺構の先後関係はSX0125→SP0136、SP0146(SP0147)・SP0140・SP0139・SP0138→SX0125、SX0129→SX0125→SP0137である。

出土遺物(835～840)　二次的に埋土に混入した状況で出土している。弥生土器甕、古墳時代土師器甕、土師器丸底坏838・坏837(ヘラ)・小皿835・836、瓦器椀(楠葉型)、中国産白磁椀Ⅳ・Ⅴ(839・840)類、同安窯系青磁椀、古代丸瓦等が出土している。

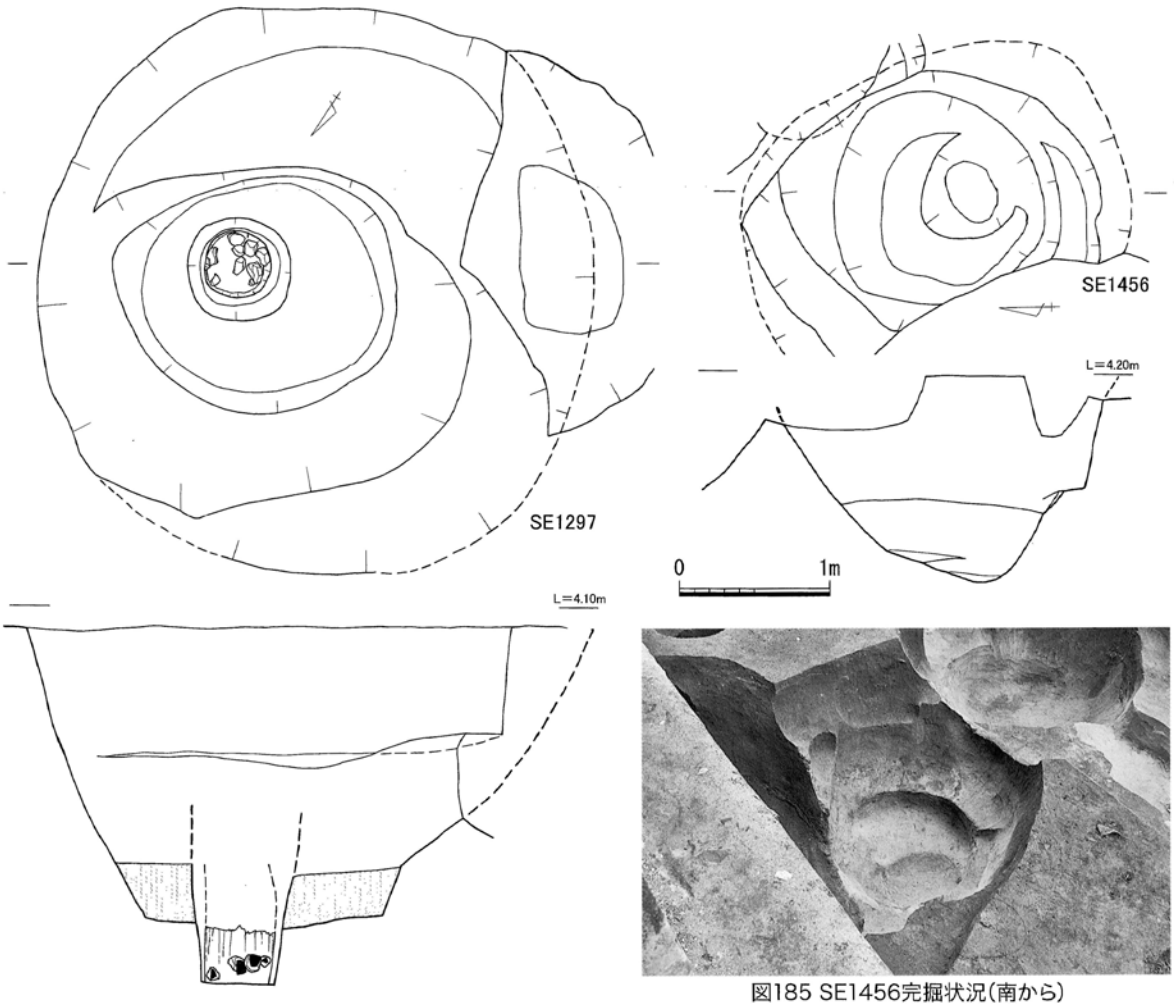


図185 SE1456完掘状況(南から)

図184 SE1297・1456平面及び断面図(1/50)

土壙　SX0638（図173・174）　２区１面検出。古代末～中世の土壙である。掘方は平面形が不整な楕円形で、形状は逆円錐台状である。埋土は暗灰褐色砂質土。掘方の規模は1.59×1.30mで、深さは0.31mである。

出土遺物（841～852）　二次的に混入した状況で出土。奈良時代須恵器坏身・蓋・甕、中世土師器坏・小皿841・842、瓦器椀、中国産白磁椀Ⅱ・Ⅳ（847）・Ⅴ（848・849・852）・Ⅷ類・小皿Ⅲ（843・846）・Ⅵ（844）類、陶器瓶850・耳壺851、龍泉窯系青磁椀845・同安窯系青磁椀等が出土している。

土壙　SX0711（図173・174）　２区１面検出。古代末～中世の土壙である。掘方は平面形が不整な楕円形で、形状は円筒状である。埋土は暗灰～暗褐色混砂弱粘質土。掘方の規模は1.30×0.81mで、深さは0.60m。

出土遺物（853～857）　二次的に埋土に混入した状況で出土している。

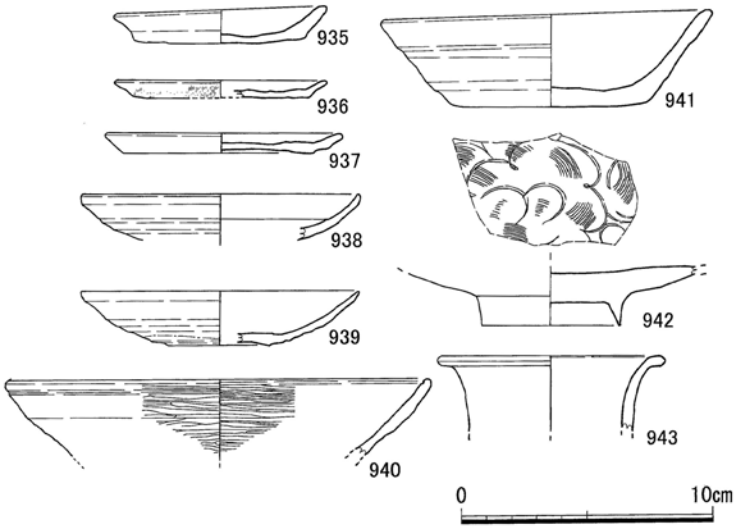


図186 SE1297出土遺物実測図（1/3）

図187 SE0370・1297完掘状況（西から）

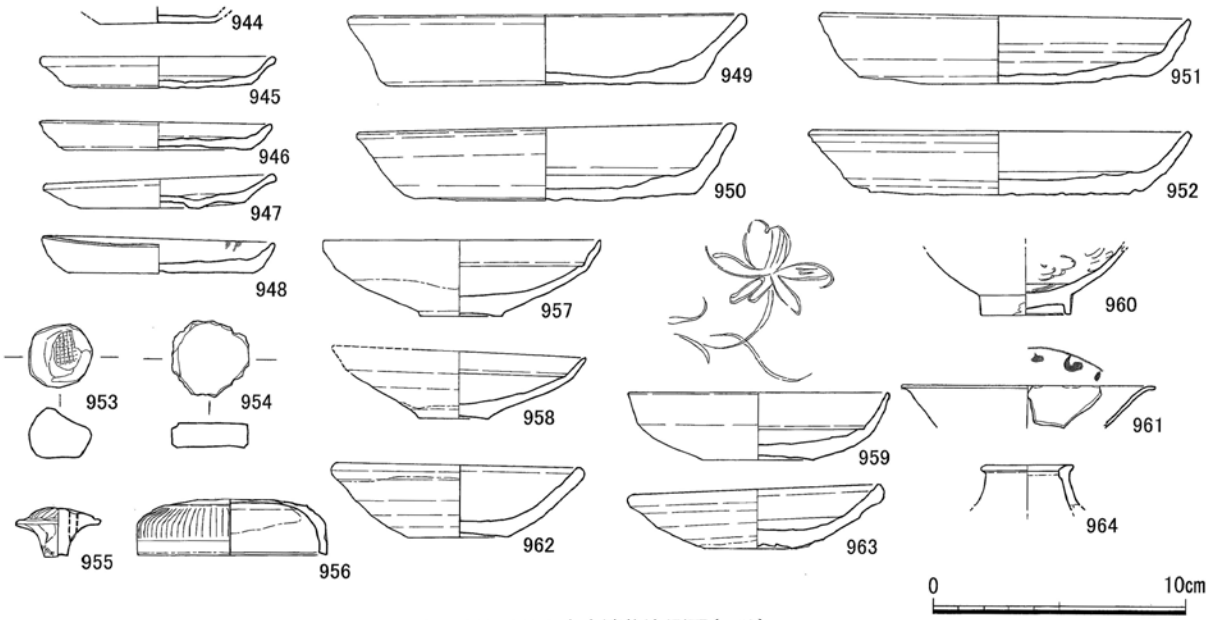


図188 SE1456出土遺物実測図（1/3）

古墳時代土師甕、高坏脚部、奈良時代須恵器坏身・蓋、甕、長頸壺、中世土師器坏857・小皿、瓦器椀、中国産白磁椀Ⅱ(854)・Ⅳ・Ⅴ(856)・Ⅷ類、皿Ⅵ(853)韘胼磁灶窯系褐釉小壺、褐釉四耳壺855、滑石製石鍋、中世瓦等が出土。

土壙　SX0599(図175・176)　2区1面検出。古代末の土壙である。掘方は平面形が不整な円形で、形状は逆円錐台状である。埋土は黒灰～暗灰褐色砂質土。掘方の規模は1.59×1.37m、深さ0.47m。

出土遺物(858～869)　二次的に埋土に混入した状況で出土している。中世土師器坏(墨書有り)・小皿858・859・861、古墳時代須恵器坏・身、瓦器椀、土師質土鍋、中国産白磁椀Ⅱ・Ⅳ(865) Ⅴ(863)・

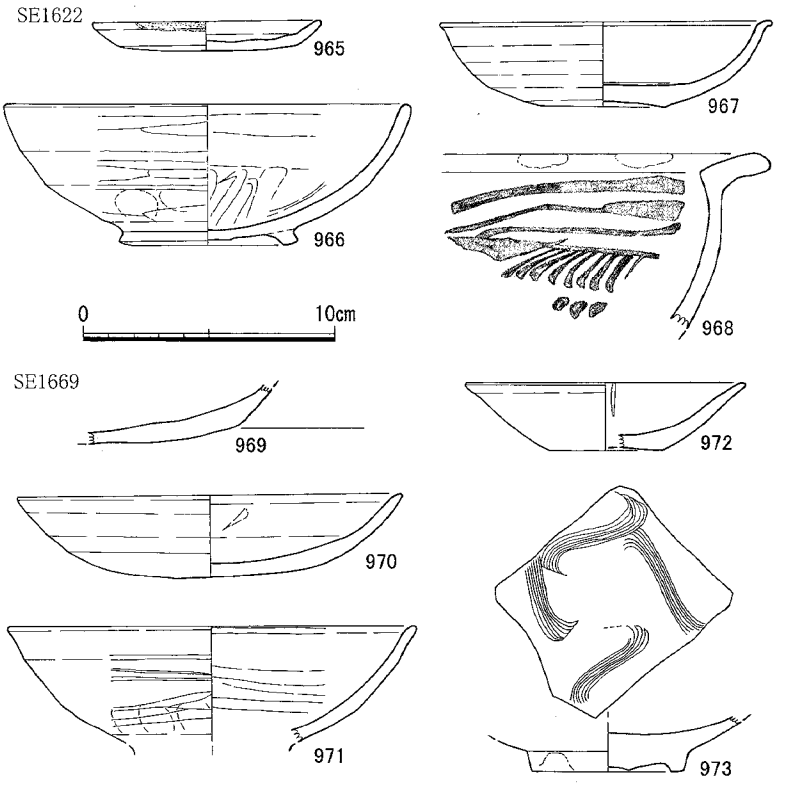


図189 SE1622・1669出土遺物実測図(1/3)

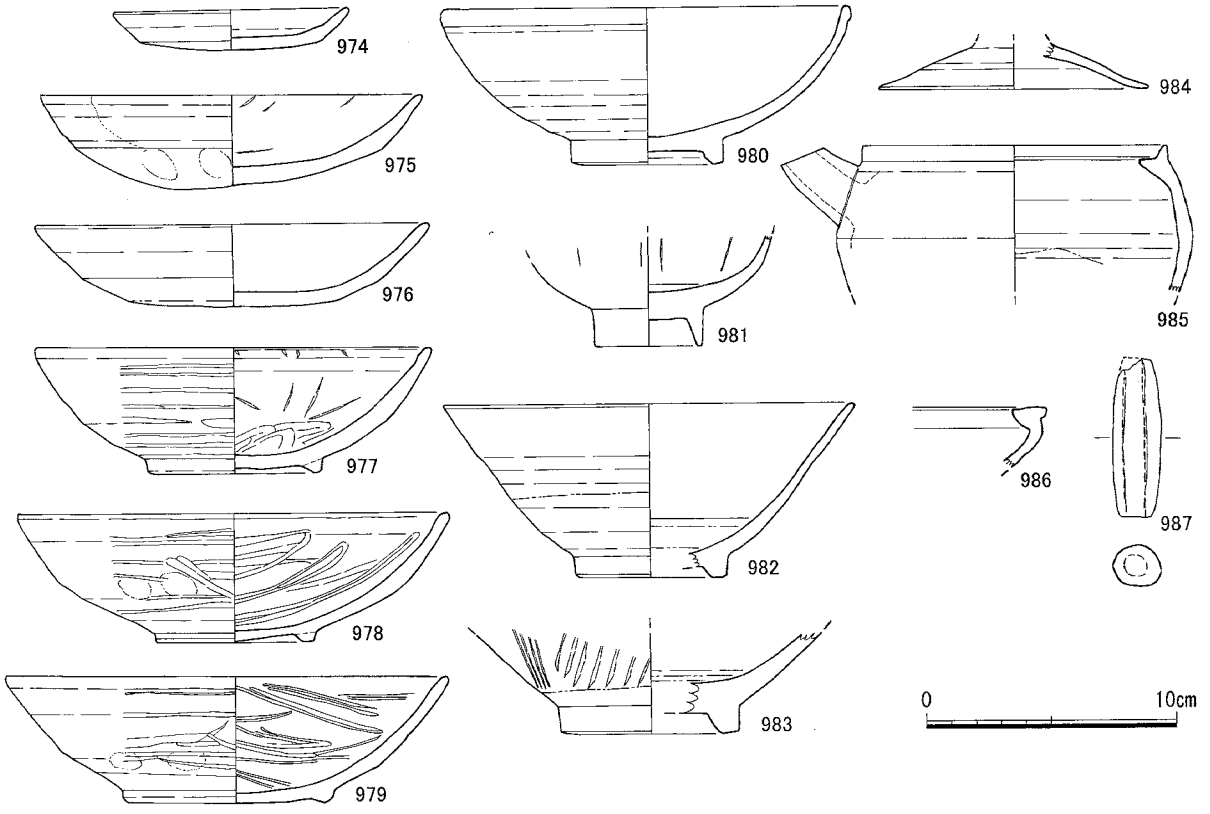


図190 SE1541出土遺物実測図(1/3)

Ⅷ(864・866)類・小皿Ⅳ(862)Ⅵ(860)類、同安窯系青磁椀、黄釉盤、白覆輪天目碗867、褐釉四耳壺・鉢、陶器鉢868、中世瓦、磚869等出土している。

土壙　SX0600(図175・176)　２区１面検出。古代末の土壙である。掘方は平面形が不整な隅丸長方形で、断面形は逆台形。埋土は黒灰褐色砂質土。掘方の規模は1.85×1.04mで、深さは0.34mを測る。長軸の方位はN-56°-W。遺構の先後関係はSX0600→SE0364である。

出土遺物(870～874)　二次的に埋土に混入した状況で出土している。奈良時代須恵器坏、古代格子叩平瓦・縄目叩丸瓦、中世土師器坏・小皿、瓦器椀、中国産白磁椀Ⅱ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅷ(870)類・小皿871・四耳壺、龍泉窯系青磁皿、黄釉鉄絵盤872、陶器壷873・874・甕・耳壺が出土している。

土壙　SX1187(図175・176)　２区３面検出。中世の土壙である。掘方は平面形が不整な楕円形で、形状は円筒状である。埋土は黒褐～黒灰褐色砂質土。掘方の規模は1.05×0.85m、深さは0.75mである。底面の標高は3.16m。黄釉鉄絵盤、遺構の先後関係はSX1389→SX1187である。

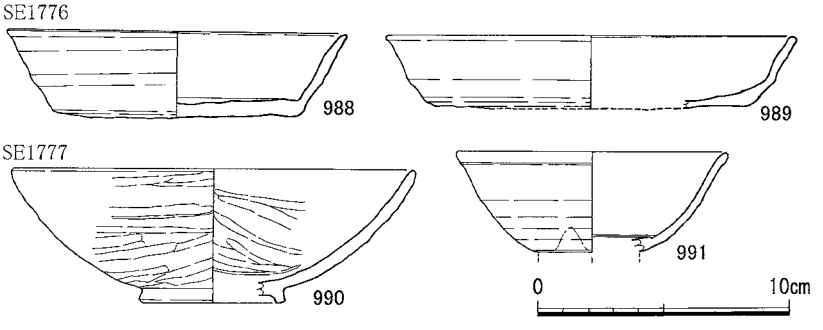


図191 SE1776・1777出土遺物実測図(1/3)

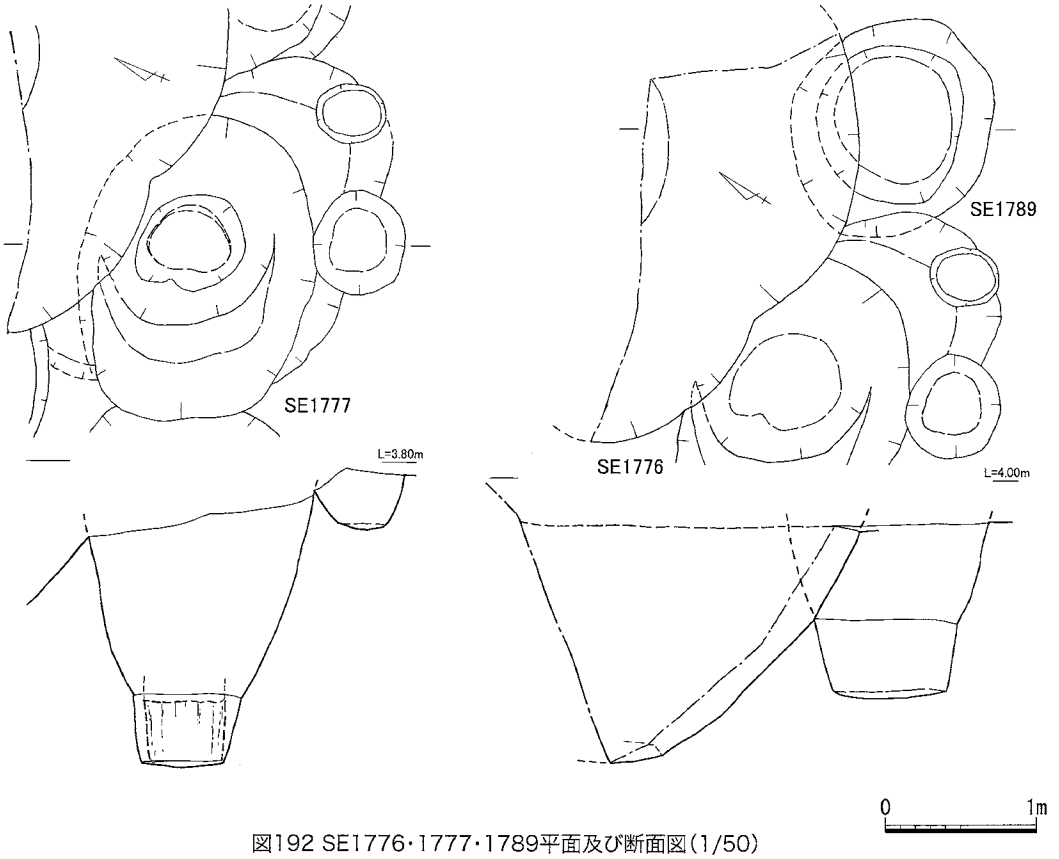


図192 SE1776・1777・1789平面及び断面図(1/50)

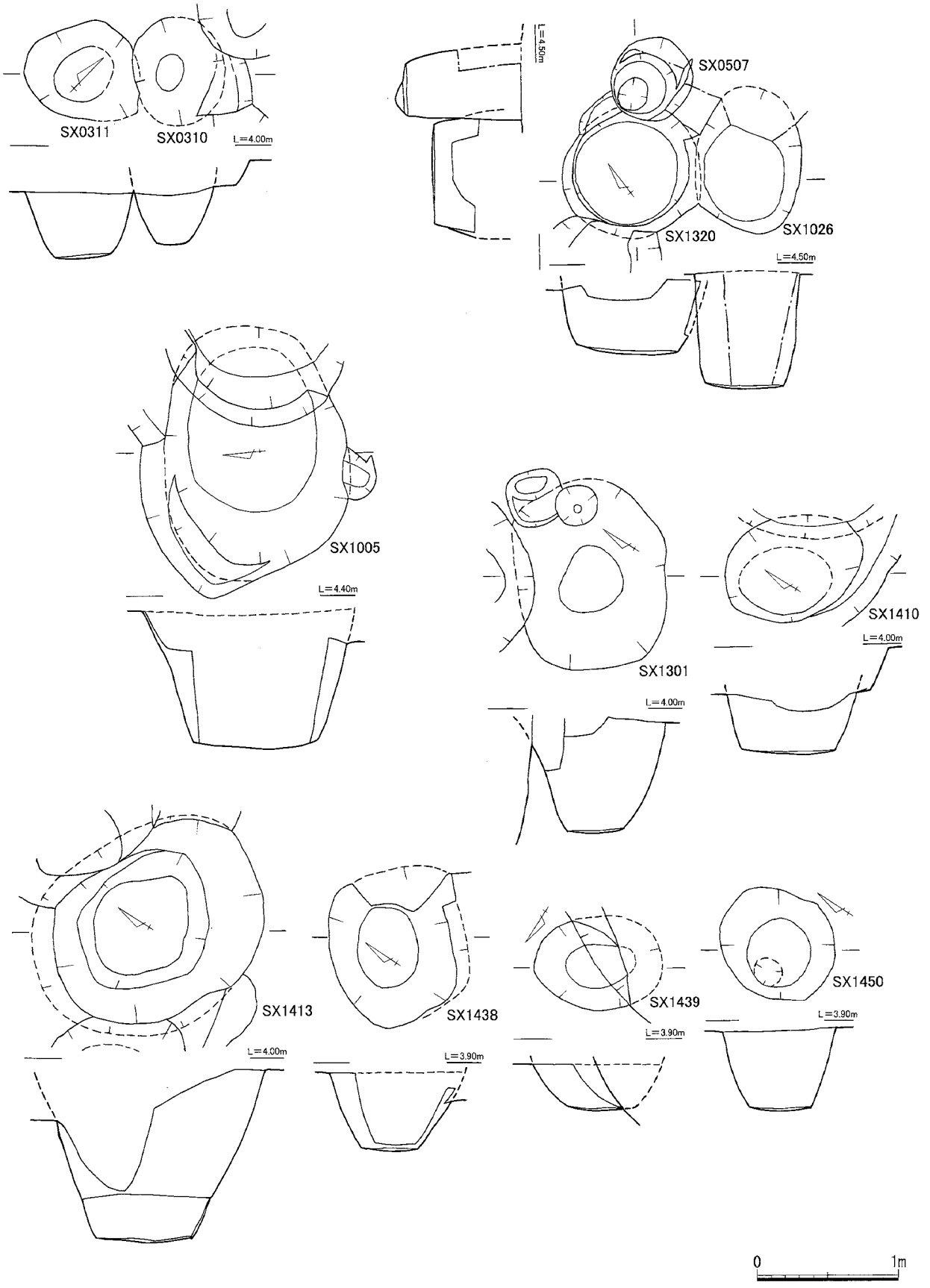


図193 SX0310・0311・0507・1005・1026・1301・1320・1410・1413・1438・1439・1450平面及び断面図(1/40)

出土遺物(875～882)　古墳時代土師器甕、奈良時代土師器甑、土師器丸底坏877・坏・小皿875・876、瓦器椀882、中国産白磁椀Ⅱ(881)・Ⅳ(880)・Ⅴ・Ⅷ類、無釉陶器鉢878・879、褐釉注口付壺(急須)等が出土している。

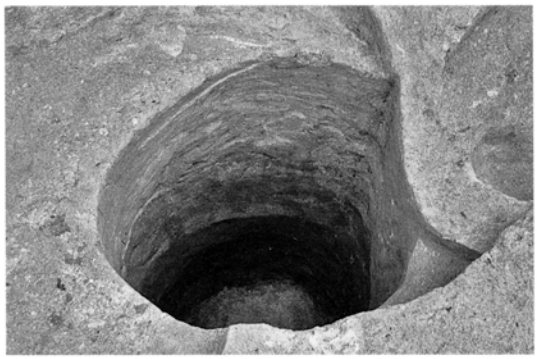


図194 SX1026完掘状況

土壙　SX1216(図175)　2区4面検出。古代の土壙である。掘方は平面形が不整な円形で、形状は円筒状である。埋土は暗灰褐色混砂弱粘質土である。掘方の規模は0.93×0.90m、深さは0.81mである。底面の標高は3.27m。

出土遺物　二次的に埋土に混入した状況で出土している。土師器坏・小皿、瓦器、中国産白磁椀Ⅱ・Ⅳ類、瓦片出土している。

土壙　SX1222(図175・176)　2区4面検出。古代末～中世の土壙である。掘方の形状からみて井戸の可能性がある。掘方は平面形が不整な隅丸長方形で、断面形は逆台形である。埋土は黒褐色～黒灰褐色砂質土でほぼ均質に堆積している。掘方の規模は1.51×1.33m、深さは1.07mで、底面の標高は2.82mである。長軸の方位はN-74°-W。

出土遺物(883～886)　古墳時代土師器甕、奈良時代土師器甕、須恵器坏・鉢、土師器椀・坏885・小皿883・884、瓦器椀886、東播系捏鉢、中国産白磁椀Ⅱ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅷ類、褐釉陶器水注、土錘出土。

土壙　SX1223(図175・176)　2区4面検出。古代末の土壙である。掘方は平面形が不整な円形で、形状は逆円錐台状である。埋土は黒灰色粘質砂質土と暗褐色砂質土である。掘方の規模は1.25×1.20m、深さは0.79mである、底面の標高は3.03mを測る。

出土遺物(887～890)　古墳時代土師器甕・高坏・壷、奈良時代須恵器坏鉢、土師器椀・坏・小皿887、瓦器椀888、東播系捏鉢、中国産白磁椀Ⅱ・Ⅳ(889)・Ⅴ・Ⅷ類、陶器瓶890、瓦片、銅銭1点等が出土している。

土壙　SX1245(図175)　2区4面検出。古代の土壙である。掘方は平面形が不整な円形で、形状は逆円錐台状である。埋土は暗灰褐色砂質土。掘方の規模は0.69×0.69mで、深さは0.20mである。

出土遺物　二次的に埋土に混入した状況で出土している。土師器坏・小皿、中国産白磁片等出土しているが、いずれも小片のため図示していない。

土壙　SX1389(図175)　2区4面検出。古代の土壙である。掘方は平面形が不整な円形で、形状は逆円錐台状である。埋土は灰褐色砂質土。掘方の規模は0.65×0.65m、深さは0.19mである。遺構の先後関係はSX1389→SX1187である。

出土遺物　古墳時代土師器甕、土師器坏・小皿が出土しているが小片のため図示していない。

建物　SB1241(図177～180)　2区4面検出。古代末～中世の半地下式構造の建物跡である。掘方の平面形はやや不整な方形で、断面形は浅皿状である。埋土は白色粘土、混暗灰色土明褐色砂黒色粘質土、木炭の混合土が堆積している。規模は長辺が3.70mで、短辺が3.10m。掘方は最深部が0.40mである。床面は必ずしも平坦ではなく、中央部がわずかにくぼんでいる。竪穴の中央には小屋組を支える柱穴が6本あり、1×2間で並んでいる。柱間は桁行1.25m、梁行2.0～2.35mである。柱穴は径が20～30cmほどであり、また柱間隔が狭く、小規模の半地下式竪穴である。居住用というよりもむしろ簡易な作業小屋とも考えられる。長軸の方向は、N-4°-Eである。

出土遺物(897～920)　上面～上層からは古墳時代土師器甕、奈良時代須恵器坏・皿・甕、古代～中

世土師器椀・坏903～908・小皿897～902、瓦器椀909、中国産白磁椀Ⅱ・Ⅳ・Ⅴ(913)・Ⅷ(914～916)類、皿Ⅵ(910・911)類・その他912、磁灯窯系陶器盤・瓶、褐釉陶器耳壺917・瓶918、鉢919、古代瓦。中層～下層からは中世土師器坏・小皿片、奈良時代須恵器坏・皿、甕、常滑焼甕、中国産白磁椀Ⅱ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅷ類、皿Ⅵ類、緑釉陶器瓶又は水注の頸部と思われる920が出土。中国産陶磁器は小片が多い。

井戸　SE0306(0325)(図181～183)　1区3面検出。古代の井戸である。井筒痕跡のみ確認。掘方は平面形が不整な円形で、形状は逆円錐台状である。埋土は灰褐色～暗褐色混砂粘質土。掘方は径3.80×3.80mで、井筒底面までの深さは2.25m。底面を一段掘りくぼめ、径0.5～0.55mの井筒を据えている。井筒は曲物の可能性がある。底面の標高は1.63m。遺構の先後関係はSE0306→SX0086→SX0087である。

出土遺物(921～925)　奈良時代須恵器坏身922・923・蓋921・皿924・瓦玉925、土師器甕、小皿片が出土している。

井戸　SE1219(1220)(図182・183)　2区4面検出。痕跡のみ確認したが、四隅に柱をたて、側板をはめた方形井側の井戸である。井筒は桶組。掘方は平面形が不整な楕円形で、形状は逆円錐台状である。埋土は暗茶褐色砂質土と明褐色砂質土の混合土である。掘方は径2.41～3.10mで、井筒底面までの深さは1.60mである。掘方底部底面に残る方形井側の痕跡は1.1×1.1mほど、井筒の径は0.47～0.57mの大きさである。底面の標高は2.00m。方形井側の方向はN-57°-W。

出土遺物(926～934)　須恵器坏・鉢、壷片、土師器坏・小皿926～928、瓦器椀929・930、須恵質鉢934、中国産白磁椀Ⅱ・Ⅳ・Ⅴ(931)・Ⅵ(932)類、青白磁瓶蓋933、高麗陶器等が出土している。

井戸　SE1297(図184・186・187)　2区4面検出。掘方は平面形が不整な円形で、形状は逆円錐台状

図195 SX0782完掘状況(東から)

図196 0782遺物出土状況

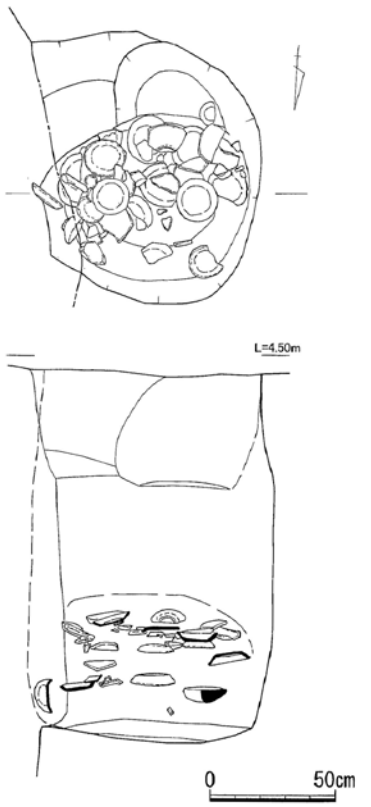


図197 SX0782平面及び断面図(1/30)

である。埋土は暗灰褐色砂質土と黄灰褐色砂の混合土。掘方は径3.79×3.68mで、井筒底面までの深さは2.37mである。掘方底面を掘りくぼめ0.50mほどの井筒を据えている。井筒は不明である。桶組か。底面の標高は1.59m。

出土遺物(935～943)　井筒からは、弥生土器片、奈良時代須恵器坏、中国産白磁椀Ⅱ類が出土。掘方からは古墳時代土師器甕・壷、奈良時代須恵器坏・甕・長頸壷、土師器坏941(ヘラ)・小皿935～937、瓦器椀940(楠葉型)、中国産白磁椀Ⅱ・Ⅴ類・皿Ⅵ(938・939)・水注か943、青白磁椀942が出土。

井戸　SE1456(図184・188・185)　3区1面検出。古代末の井戸である。不明掘方は平面形が不整な

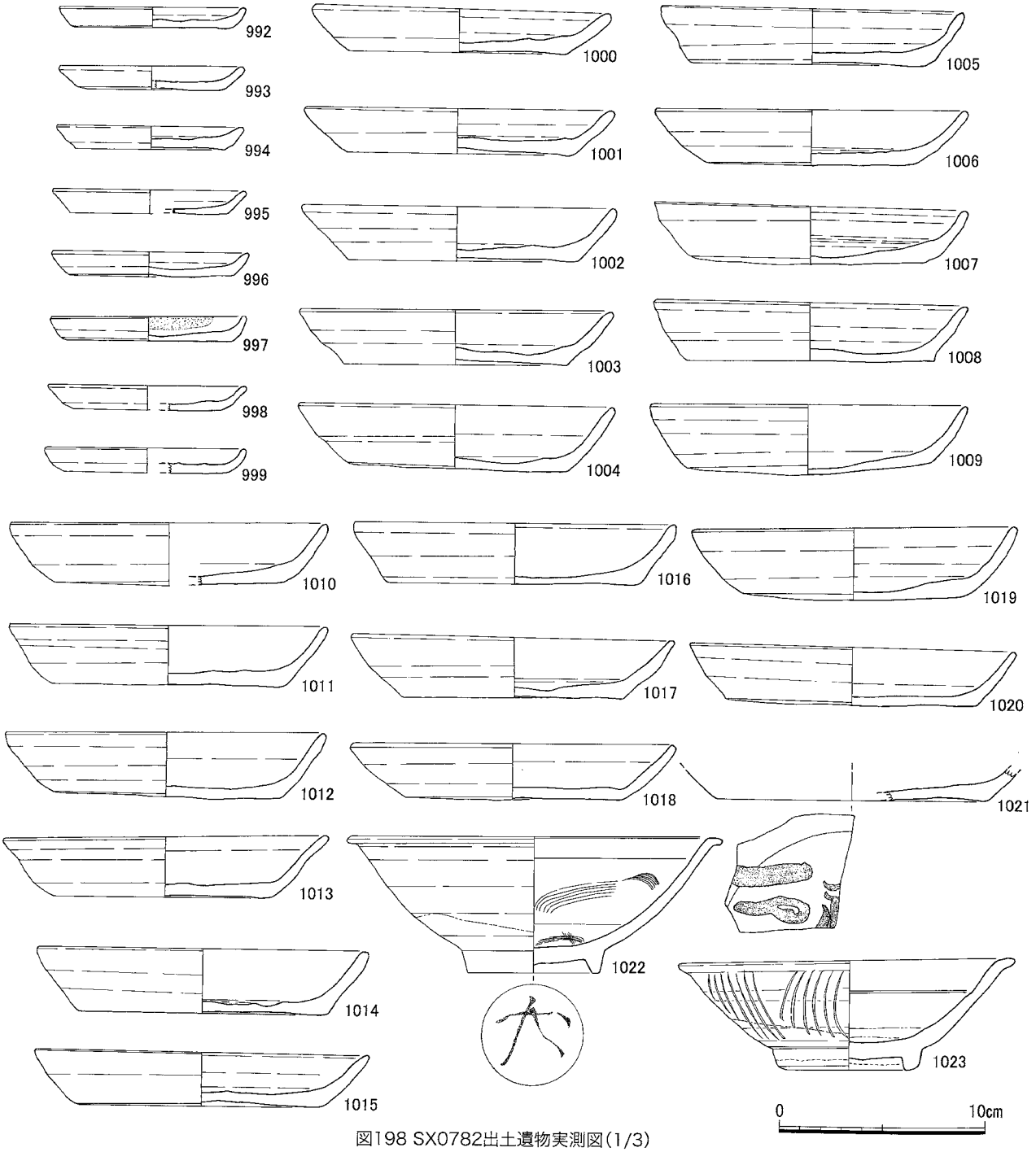


図198 SX0782出土遺物実測図(1/3)

円形で、形状は逆円錐台状である。埋土は暗灰色砂質土と黄灰褐色粗砂、黄灰色粘質土の混合土。掘方は径2.60×2.60mほどか。井筒底面までの深さは1.40mで、底面の標高は2.77m。

出土遺物(944～964)　掘方からは弥生土器片、古墳時代土師器甕、奈良時代須恵器坏(墨書有り)、高坏、土師器坏949・951・小皿944～947、中国産白磁椀Ⅱ・Ⅳ・Ⅴ類・磁州窯系白磁鉄絵椀961、龍泉窯系青磁椀・小皿、青白磁合子蓋956・瓶栓955、磁灯窯系黄釉盤、天目椀、褐釉陶器耳壺・水注、李朝陶器片、銅銭、石鍋、瓦片が出土。井筒からは、古墳時代土師器甕、奈良時代土師器甕、土師器坏952・小皿948、中国産白磁椀Ⅳ・Ⅴ類・小皿Ⅱ963・Ⅵ(957・958・959)類、青白磁蓋、褐釉陶器鉢・瓶964・皿962・耳壺、石鍋片、瓦玉953・954が出土している。土師器坏皿は10～15個体分ほど出土。

井戸　SE1622(図189)　3区2面検出。古代末の井戸である。調査壁にかかっている。

出土遺物(965～968)　古墳時代土師器甕・高坏、奈良時代須恵器坏・皿、土師器坏・小皿965(ヘラ)、瓦器椀966、中国産白磁椀Ⅱ・Ⅳ・Ⅴ類・皿Ⅴ(967)、黄釉鉄絵盤968が出土している。

井戸　SE1669(図171・172・189)　3区2面検出。井側は痕跡のみ確認できたが、四隅に柱をたて、側板をはめた方形井側の井戸である。遺存状況は良くない。井筒は桶組と思われる。掘方は平面形が方形で、断面形は逆台形。埋土は暗褐色砂と明褐色砂質土の混合土層で、井筒内には暗灰～黒灰色混砂粘質土が堆積している。掘方は径1.70～1.80mで、井筒底面までの深さは1.20mを測る。方形井側はほぼ正方形で一辺1.10×1.00mを測る。井筒の径は直径0.55～0.60m。底面の標高は1.92m。

図199 SX1544遺物出土状況(北北西から)

図200 SX1544遺物出土状況(西南西から)

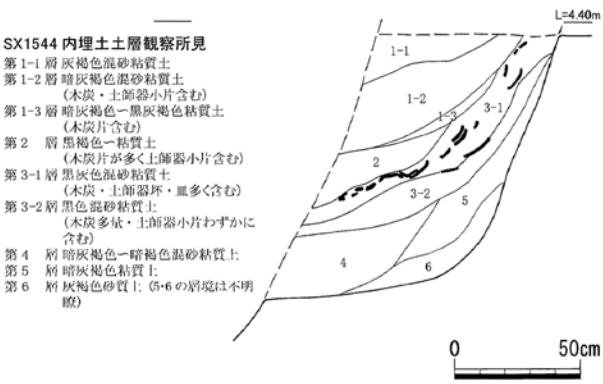


図201 SX1544平面及び土層断面図(1/30)

出土遺物(969～973)　二次的に埋土に混入した状況で出土している。量的には多くない。古墳時代土師器甕、奈良時代土師器甕、土師器丸底坏969・970・小皿。瓦器椀971、中国産白磁椀VI？(973)類・皿IV(972)類が出土している。

井戸　SE1776(図192・191)　３区４面検出。完掘していないため井筒については不明。掘方は平面形が不整な楕円形で、形状は逆円錐台状である。埋土は灰褐色粘質土と黒灰色混砂粘質土の混合土。掘方は径3.40×3.40± αmで、最深部までの深さは1.58mである。底面の標高は2.10m。

出土遺物(988～989)　奈良時代須恵器坏988、中世土師器坏989・皿、中国産白磁片等が出土。

井戸　SE1777(図192・191)　３区４面検出。古代末の井戸である。井筒は桶組。掘方は平面形が不整な楕円形で、形状は逆円錐台状である。埋土は灰褐色粘質土と黒灰色混砂粘質土の混合土。掘方は径2.01×1.60± αmで、井筒底面までの深さは1.81mである。底面の標高は1.77m。

出土遺物(990～991)古墳時代土師器甕・壷、奈良時代須恵器甕・坏・小皿・土師器甕、土師器坏・小皿、瓦器椀990、中国産白磁椀II・IV・V(991)類・小皿VI類、陶器大甕、格子目叩平瓦が出土。

土壙　SX0782(図195～198)　２区２～３面相当面検出。古代末～中世の土壙である。掘方は平面形が不整な円形で、断面形は逆台形。埋土は暗灰褐～暗褐色砂土。掘方の規模は1.0×1.05± αm、深さは1.48mである。底面の標高は2.96m。遺構の先後関係はSX0783→SX0782→SE0368である。

出土遺物(992～1023)　掘方の中層から下部にかけて、一括投棄された中世土師器坏1000～1021・小皿992～999が大量に出土している。これらに混入して中国産白磁椀II・IV・V1022・VIII類、皿VI類、龍泉窯系青磁椀、同安窯系青磁椀・小皿、青白磁皿、緑釉土器片、墨書のある天目椀、獣骨片がある。同安窯系青磁椀1023の内底は輪状に釉剥ぎしている。土師器坏1021の底部には墨書による人面が、ま

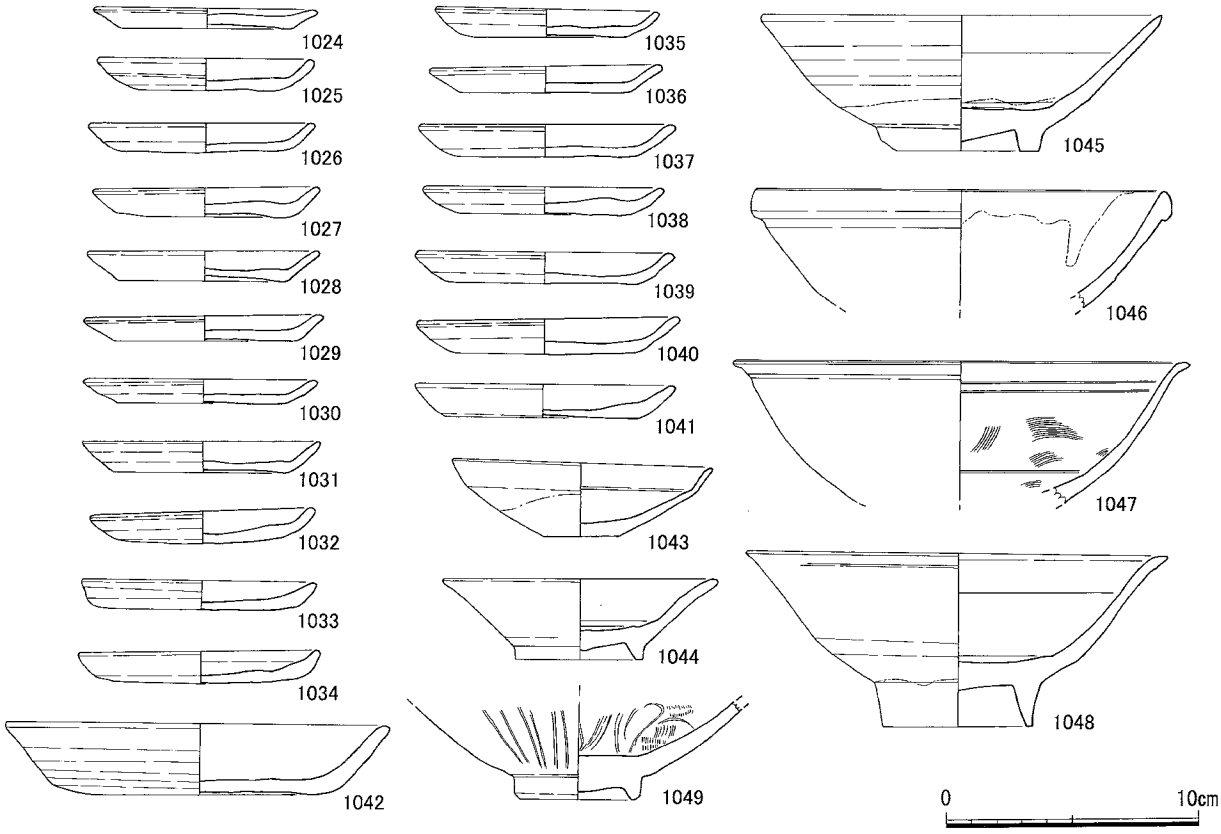


図202 SX1544出土遺物実測図(1/3)

た白磁椀1022には同じく墨書があり「犬」と読める。

土壙　SX1544（図199～202）　３区２～３面相当面検出。掘方は平面形が不整な円形で、形状は逆円錐台状である。埋土は暗灰褐色～黒灰褐色混砂弱粘質～強粘質土で、中層部では木炭片を多く含み層を成している。掘方の規模は1.8×1.8mで、深さは1.03mである。底面の標高は3.30m。

出土遺物（1024～1049）　一括で投棄されたと思われる土師器坏1042、小皿1024～1041が出土。坏は３点、小皿は50点以上の個体数がある。これらに混入して中国産白磁椀Ⅱ・Ⅳ（1046）・Ⅴ（1047・1048）・Ⅷ（1045）類・ⅢⅢ（1044）・Ⅵ（1043）類、同安窯系青磁椀1049、褐釉盤・大甕・鉢が出土している。

井戸　SE1789（図192）　３区４面検出。古代の井戸である。井筒は不明。掘方は平面形が不整な円形で、形状は逆円錐台状である。埋土は暗灰色砂質土（上面粘質土）。掘方は径1.56×1.31mで、掘方底面までの深さは1.15mである。底面の標高は2.53mを測る。遺構の先後関係はSE1789→SE1776である。

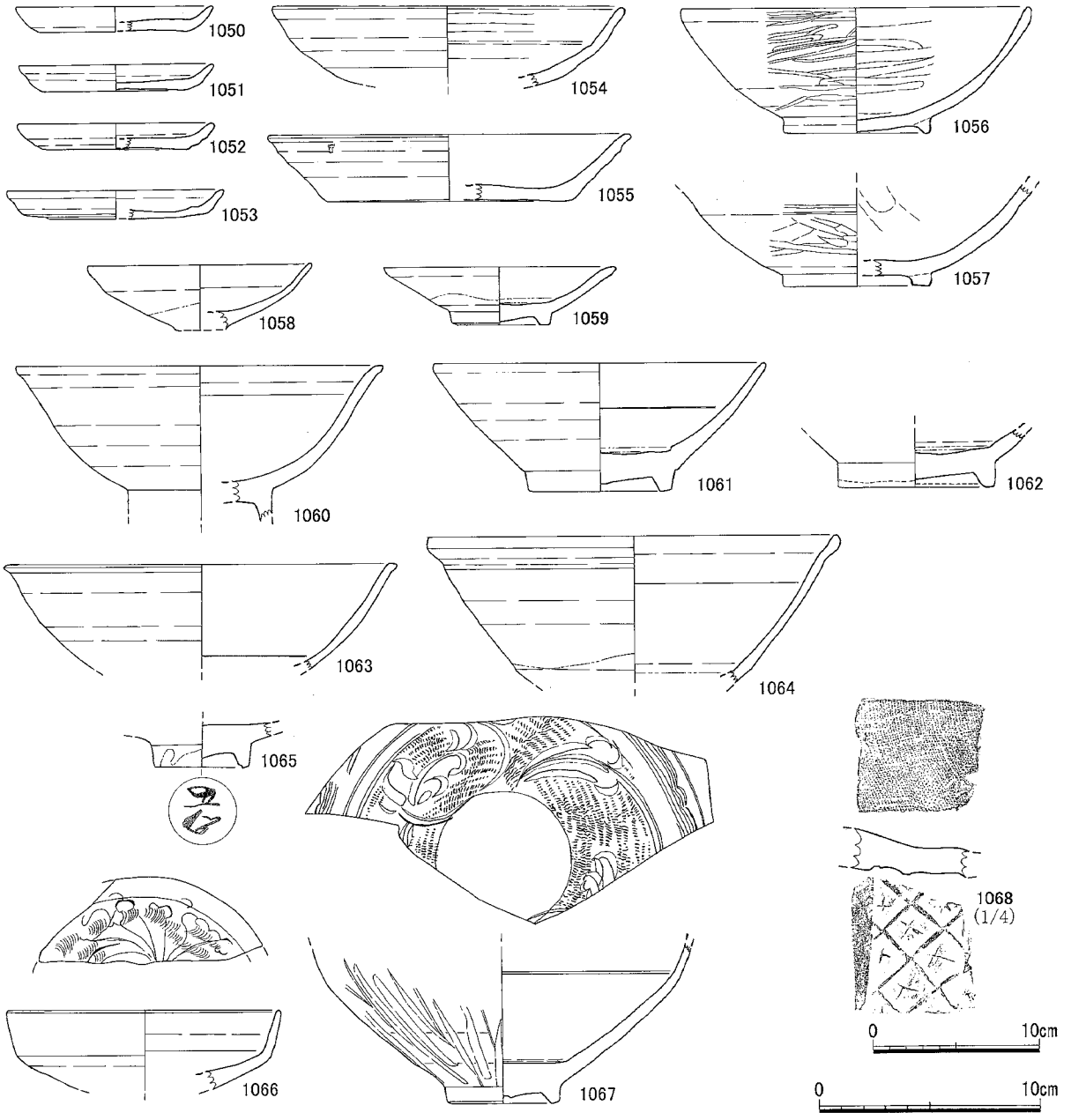


図203 SX1005出土遺物実測図（1/3・1/4）

出土遺物　奈良時代土師器、土師器坏・小皿、中国産白磁椀Ⅱ類等が出土している。

土壙　SX0311（図193）　1区3面検出。掘方は平面形が不整な楕円形で、形状は逆円錐台状である。埋土は暗青灰色粘質土と暗褐色砂質土の混合土。掘方の規模は0.86×0.73×0.48mで、底面の標高は3.19m。遺構の先後関係はSX0310→SX0309→SX0311である。古墳時代土師甕片、奈良時代土師坏片が少量出土している。

土壙　SX0507（図193）　2区1面検出。掘方は平面形が不整な円形で、形状は円筒状である。埋土は黒褐～黒色砂質土。掘方の規模は0.60×0.58m、深さは0.90mである。底面の標高は3.40m。遺構の先後関係はSX1320→SP0507である。古代～中世土師器坏・小皿（ヘラ切りと糸切りがほぼ同量出土）、奈良時代須恵器甕・坏身・蓋、瓦器椀、白磁椀Ⅱ・Ⅳ・Ⅴ類、龍泉窯系青磁碗・同安窯系青磁椀・小皿、黄釉鉄絵盤、褐釉四耳壺・大甕等が出土している。

土壙　SX1005（図193・203）　2区2面検出。古代末の土壙である。掘方は平面形が不整な楕円形で、形状は円筒状である。埋土は暗灰色～灰褐色粘質土。掘方の規模は1.81×1.30m、深さは1.00mである。底面の標高は3.32m。遺構の先後関係はSX1005→SE0373である。

出土遺物（1050～1068）　土師器丸底坏1054・坏1055・小皿1050～1053、瓦器1056・1057、中国産白磁椀Ⅱ（1064）・Ⅴ（1060・1063）・Ⅷ（1061・1062）類、皿Ⅲ（1059）類・Ⅵ（1058）類、緑釉陶器片、龍泉窯系青磁椀1060・皿1066、同安窯系青磁椀1067、古代の格子叩平瓦1068等が出土している。

土壙　SX1026（図193・194）　2区2面検出。古代末～中世の土壙である。掘方は平面形が不整な楕円形で、形状は円筒状である。埋土は灰褐色砂質土。掘方の規模は1.04×0.75mで、深さは0.83mである。底面の標高は3.60m。遺構の先後関係はSX1320→SX1026である。

出土遺物　古墳時代土師器甕・複合口縁壺・高坏・壺、古代土師器坏・小皿、瓦器椀、中国産白磁椀Ⅳ・Ⅴ類・四耳壺片が出土。

土壙　SX1232（図156・157・204）　2区4面検出。古代末～中世の土壙である。掘方は平面形が不整な円形で、形状

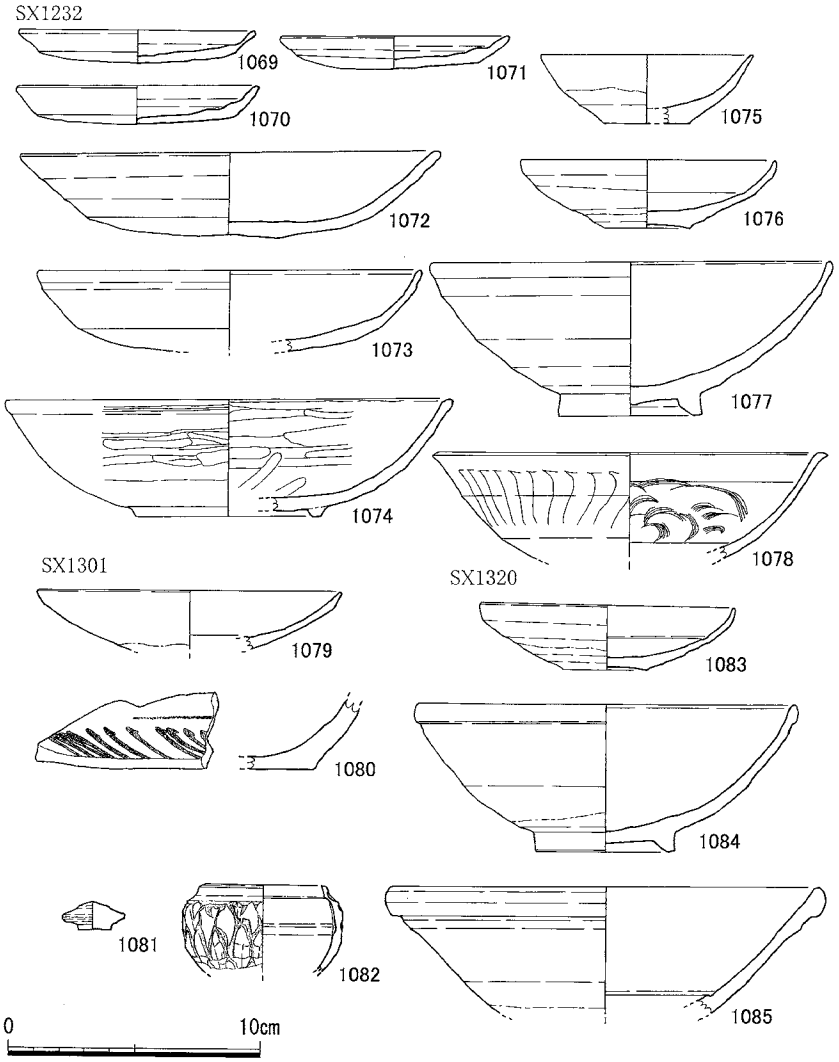


図204 SX1232・1301・1320出土遺物実測図（1/3）

は逆円錐台状である。埋土は黒褐～暗褐色砂質土。掘方の規模は1.90×1.55mで、深さは1.31m。底面の標高は2.78m。

出土遺物(1069～1078)　古墳時代土師器甕、奈良時代須恵器坏・皿・甕、土師器椀・坏1072・1073・小皿1069～1071(回転ヘラ)、瓦器椀1074、東播系皿、常滑焼甕、中国産白磁椀Ⅱ(1077)・Ⅳ・Ⅴ(1078)・Ⅷ類、皿Ⅵ(1076)類、磁灯窯系陶器盤、陶器耳壺・小皿1075等が出土。

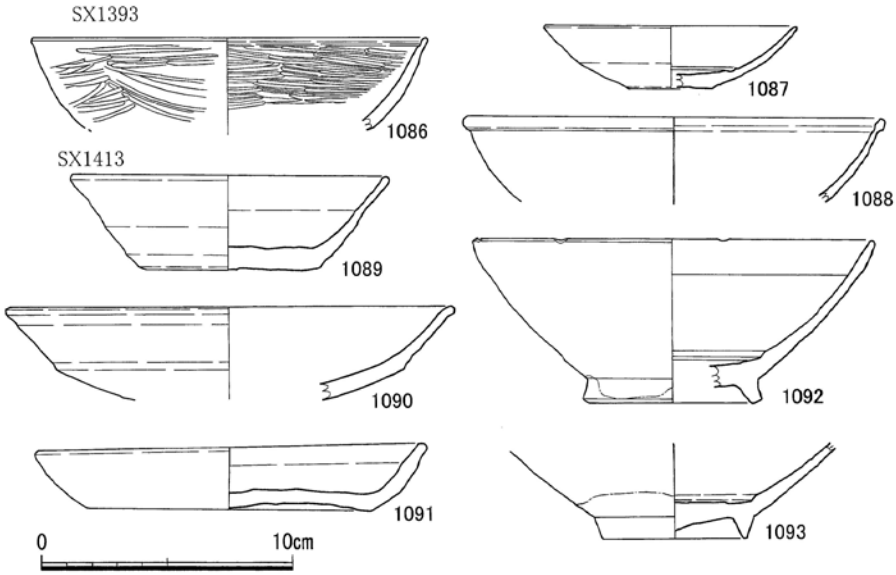


図205 SX1393・1413出土遺物実測図(1/3)

土壙　SX1301(図193・204)　2区4面検出。古代末～中世の土壙である。掘方は平面形が不整な楕円形で、形状は逆円錐台状である。埋土は暗褐～暗灰褐色粘質土。掘方の規模は1.35×1.08m、深さは0.83mである。底面の標高は3.09m。

出土遺物(1079～1082)　古墳時代土師器甕、奈良時代須恵器坏、土師器椀・坏・小皿、瓦器椀(楠葉型有)、中国産白磁椀Ⅳ・Ⅴ類・皿Ⅵ(1079)類、青白磁合子蓋1081・身1082、黄釉鉄絵盤1080が出土。

土壙　SX1320(図193・204)　2区4面検出。古代末～中世の土壙である。掘方は平面形が不整な円形で、形状は円筒状である。埋土は暗灰褐色砂質土。掘方の規模は1.00×0.98m、深さは0.58mである。底面の標高は3.87m。遺構の先後関係はSX1320→SX1026である。

出土遺物(1083～1085)　古墳時代土師器甕、奈良時代須恵器甕・坏、土師器椀・坏・小皿、瓦器椀、中国産白磁椀Ⅱ(1084)・Ⅳ(1085)類・小皿Ⅵ(1083)類等が出土している。

土壙　SX1410(図193)　2区3面相当面検出。古代の土壙である。掘方は平面形が不整な楕円形で、形状は逆円錐台状である。埋土は黒灰色砂～明褐色砂混合土。掘方の規模は1.01×0.74m、深さは0.43mで、底面の標高は3.24mである。土師器坏・小皿が少量出土している。

土壙　SX1438(図193)　2区1面検出。古代末～中世の土壙である。掘方は平面形が不整な楕円形で、形状は逆円錐台状である。埋土は暗灰褐色混砂弱粘質土。掘方の規模は1.20×1.10m、深さは0.57mである。底面の標高は3.37m。古墳時代土師器甕、土師器坏が出土している。

土壙　SX1439(図193)　2区1面検出。古代の土壙。掘方は平面形が不整な楕円形で、形状は逆円錐台状。埋土は暗灰～黒褐色混砂弱粘質土。掘方の規模は0.91×0.68m、深さは0.33mで、底面の標高は3.38m。

出土遺物　古墳時代土師器甕、奈良時代須恵器坏・土師器甕、土師器坏の小片が出土している。

図206 SX1778完掘(南西から)

土壙　SX1450(図193)　2区1面検出。古代の土壙である。掘方は平面形が不整な楕円形で、形状は逆円錐台状である。埋土は暗灰褐色混砂弱粘質土。掘方の

規模は0.90×0.77m、深さは0.59mである。、底面の標高は3.26m。

出土遺物　古墳時代土師器甕・坏、奈良時代須恵片、土師器坏が出土している。

土壙　SX1393（図205）　２区４面検出。古代の土壙又は柱穴である。掘方は平面形がやや不整な楕円形で、埋土は暗灰褐色～黒褐色混砂弱粘質土である。

出土遺物（1086 ～ 1088）　奈良時代須恵器坏片、土師器坏・小皿片、瓦器椀1086（楠葉型）、中国産白磁椀Ⅱ（1088）類・皿Ⅵ（1087）が出土している。

土壙　SX1413（図193・205）　２区１面検出。古代末～中世の井戸の可能性がある。掘方は平面形が不整な楕円形で、形状は逆円錐台状である。埋土は黒灰～黒褐色砂質土と茶褐色砂質土の混合土である。掘方の規模は1.77×1.40m、深さは1.50mである。底面の標高は2.69m。

出土遺物（1089 ～ 1093）　古墳時代土師器甕・壷、奈良時代須恵器坏1089・甕、土師器丸底坏1090・坏1091・小皿、瓦器椀、中国産白磁椀Ⅱ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅷ（1092・1093）類・小皿Ⅵ類、青白磁椀、陶器耳壺、フイゴ羽口、古代瓦（縄目）、高麗陶器片、銅銭１点、獣骨片が出土している。

土壙　SX1550（図207・208）　３区３面相当面面検出。古代末～中世の土壙である。掘方は平面形が不整な円形で、形状は逆円錐台状である。埋土は暗灰～黒灰色混砂弱粘質土。掘方の規模は1.17×1.05m、深さは0.47mで、底面の標高は4.17m。

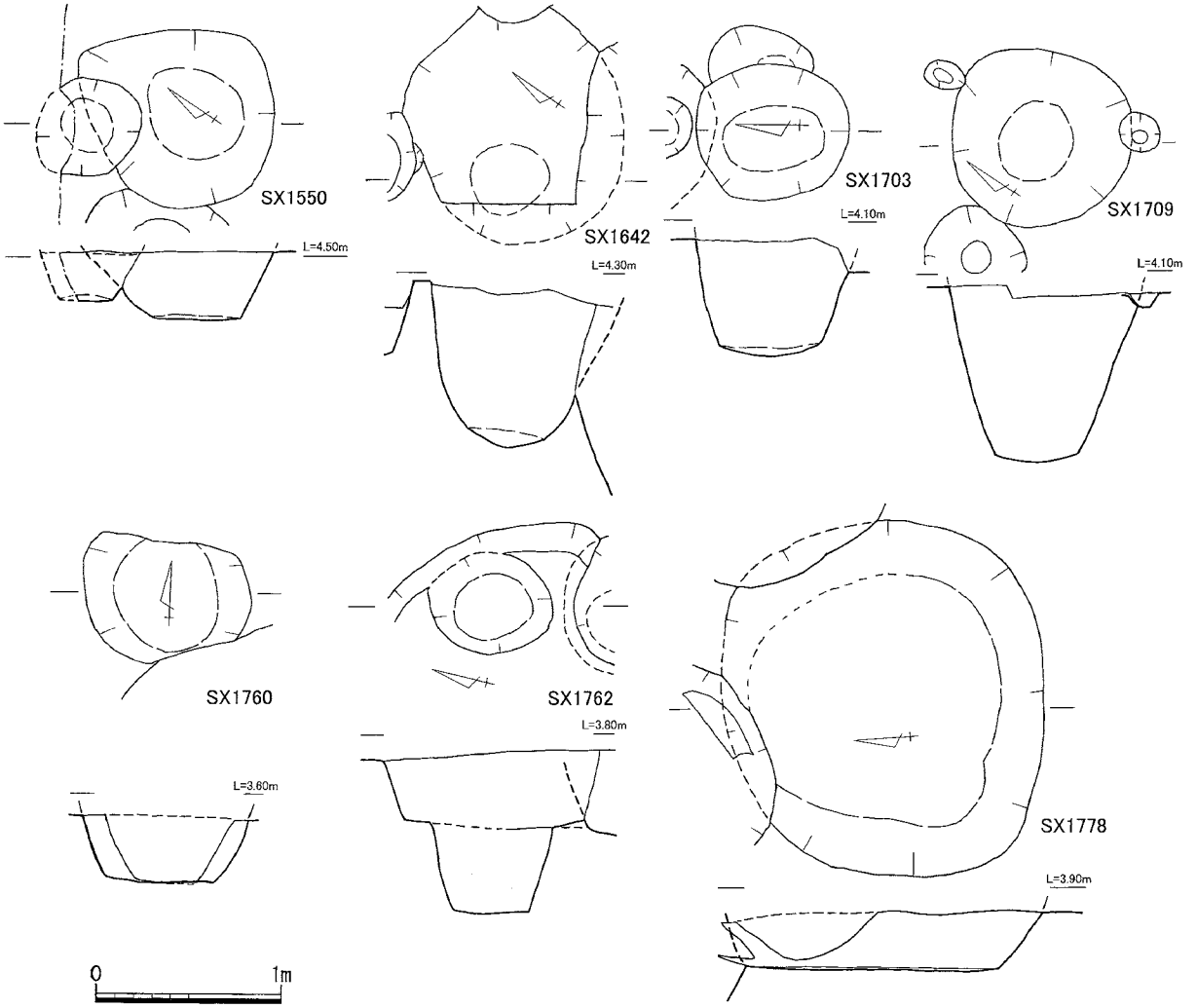


図207 SX1550・1642・1703・1709・1760・1762・1778平面及び断面図（1/40）

出土遺物(1094～1095)　土師器坏・小皿、瓦器椀、捏鉢、中国産白磁椀Ⅳ・Ⅴ(1094)類・小皿、同安窯系青磁椀・皿、磁灯窯系緑釉陶器盤1095等が出土している。

土壙　SX1584(図208～211)　3区2面検出。古代の土壙である。掘方は平面形が不整な円形で、形状は逆円錐台状である。埋土は暗灰～黒灰色混砂弱粘質土。掘方の規模は1.58×1.38m、深さは0.30mである。底面の標高は3.69m。

出土遺物(1096～1101・1105)　高麗期陶質土器大甕1105が投棄された状況で出土している。口縁部と底部片はなく、肩部から胴部のみである。これに混入して奈良時代須恵器坏・皿、土師器坏・小皿、黒色土器、中国産白磁椀Ⅱ・Ⅳ1097・Ⅴ(1098・1099)・Ⅵ類・皿Ⅱ1096・Ⅵ類、褐釉陶器耳壷か1100、瓦1101片が出土している。

土壙　SX1642(図207・208)　3区2面検出。古代末～中世の土壙である。掘方は平面形が不整な楕円形で、形状は逆円錐台状で底面は船底状である。埋土は暗灰褐色混砂弱粘質土。掘方の規模は1.27×1.13m、深さ0.83mで、底面の標高は3.36m。

出土遺物(1102～1104)　古墳時代土師器甕、奈良時代須恵器坏、土師器椀・坏・小皿、瓦器椀1102、中国産白磁椀Ⅱ・Ⅳ(1104)・Ⅴ類・皿Ⅵ？(1103)類、褐釉甕・鉢、石鍋が出土している。

土壙　SX1703(図207)　3区4面検出。古代の土壙である。掘方は平面形が不整な円形で、形状は逆円錐台状である。埋土は暗灰～黒灰色混砂弱粘質土。掘方の規模は0.83×0.71m、深さは0.63mである。底面の標高は3.39m。

出土遺物　古墳時代土師器甕、奈良時代須恵器坏・土師器甕、土師器坏・小皿が出土している。

土壙　SX1709(＝1741)(図207)　3区4面検出。古代末～中世の土壙である。掘方は平面形が不整な円形で、形状は逆円錐台状である。埋土は軟質の暗灰～暗灰褐色砂質土。掘方の規模は0.97×0.97m、深さは0.93mである。底面の標高は3.08m。

出土遺物　奈良時代土師器甕、古代～中世土師器坏・小皿の小片が出土。

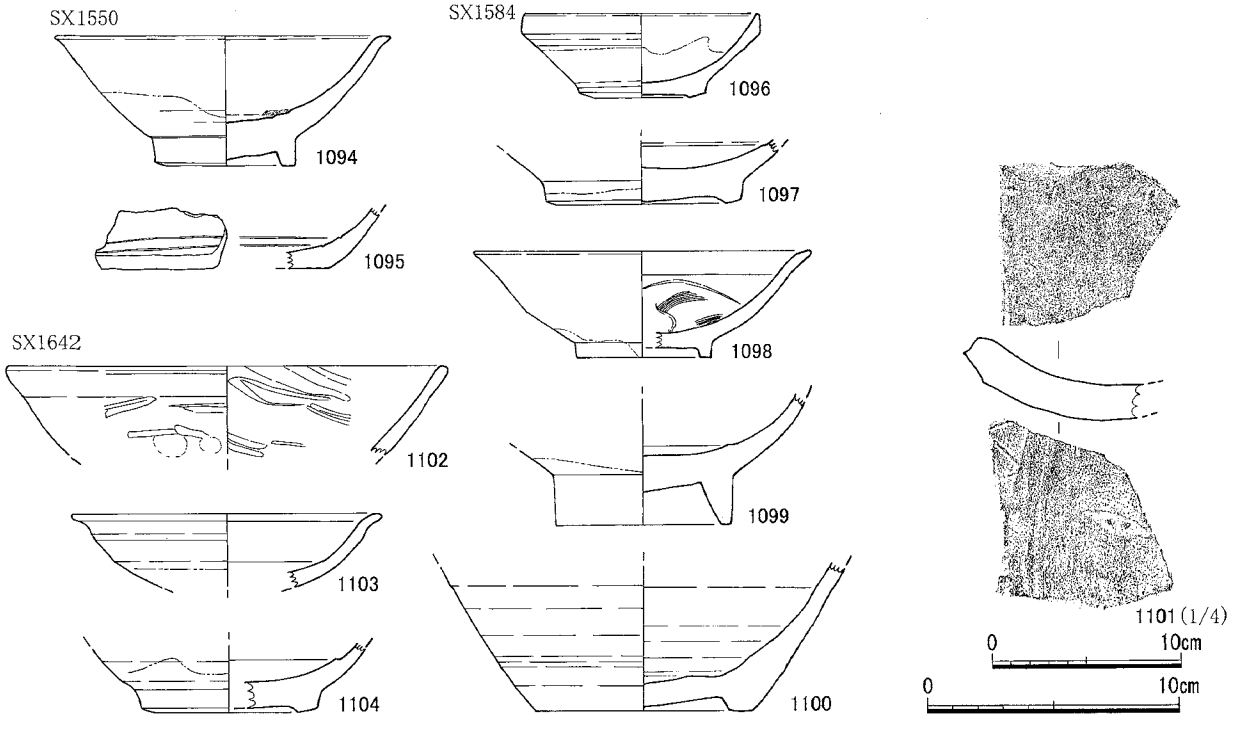


図208 SX1550・1584・1642出土遺物実測図(1/3・1/4)

図209 SX1584遺物出土状況(北西から)

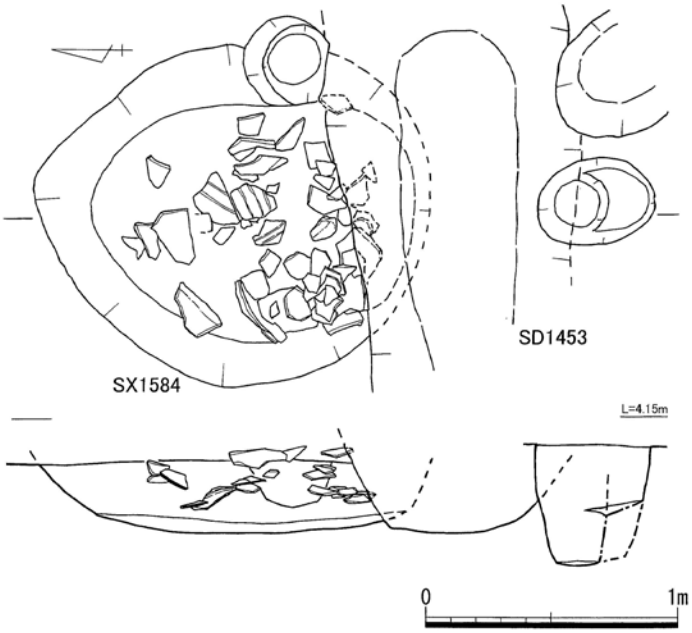


図210 SX1584遺物出土状況平面及び断面図(1/30)

土壙　SX1760(図207)　3区4面検出。古代末～中世の土壙である。掘方は平面形が不整な楕円形で、形状は逆円錐台状である。埋土は軟質の暗褐色～黒灰褐色混砂弱粘質土。掘方の規模は0.88×0.88m、深さは0.37mである。底面の標高は3.35m。奈良時代須恵器坏・土師器甕、土師器坏・小皿等が出土。

土壙　SX1762(図207)　3区4面検出。古代末～中世の土壙である。掘方は平面形が不整な楕円形で、形状は逆円錐台状である。埋土は黒灰褐色～暗灰褐色混砂粘質土。掘方の規模は1.2×1.2mほどか。深さは0.87m。底面の標高は2.83m。古墳時代土師器甕、奈良時代須恵器坏・土師器坏・小皿等出土。

以下では、その他の遺構から出土した特徴的な遺物について述べる。

1区3面検出の古代末～中世の土壙SX0254からは、須恵器坏1106・1108・皿1107・甕、瓦器椀、中国産白磁Ⅴ・Ⅷ類が出土している。

2区2面検出の古代末～中世の土壙SX1002からは、土師器坏1109・1110・小皿(墨書有り)、瓦器椀片、中国産白磁椀Ⅱ・Ⅳ・Ⅴ類、龍泉窯系青磁碗、同安窯青磁皿1111、銅銭6点が出土している。

2区2面検出の古代末～中世の土壙SX1010からは、土師器坏・小皿1112、瓦器椀、東播系捏鉢、中国産白磁椀Ⅱ・Ⅳ・Ⅴ(1114～1116)・皿Ⅵ(1113)類・同安窯系青磁椀・小皿、黒釉天目椀1117、古代瓦(格子目叩)片が出土。

2区2面検出の中世の土壙SX1061からは、土師器坏1121・小皿1118～1120、中国産白磁椀Ⅱ(1125)・Ⅳ(1124)・Ⅷ(1126～1128)類・皿Ⅲ(1123)・Ⅳ(1122)類、高麗青磁椀1129、青白磁合子か1133、褐釉四耳壺1131・大甕1132、銅銭1点出土が出土している。

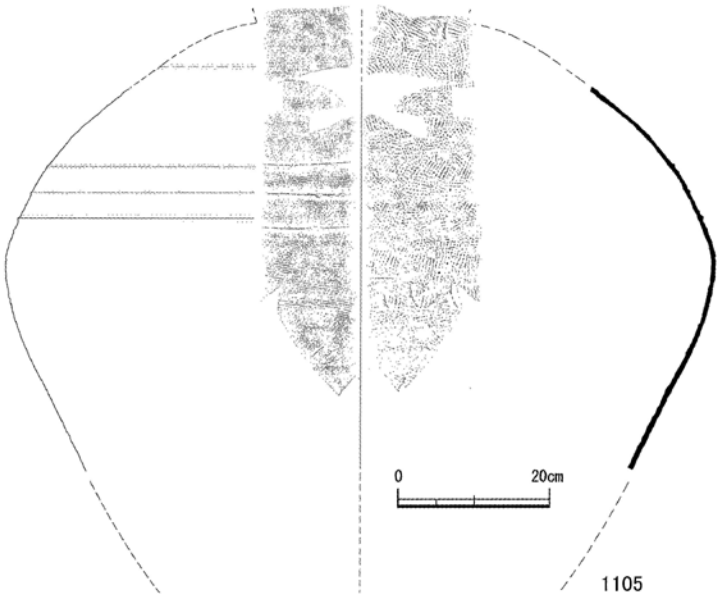


図211 SX1584出土遺物実測図(1/10)

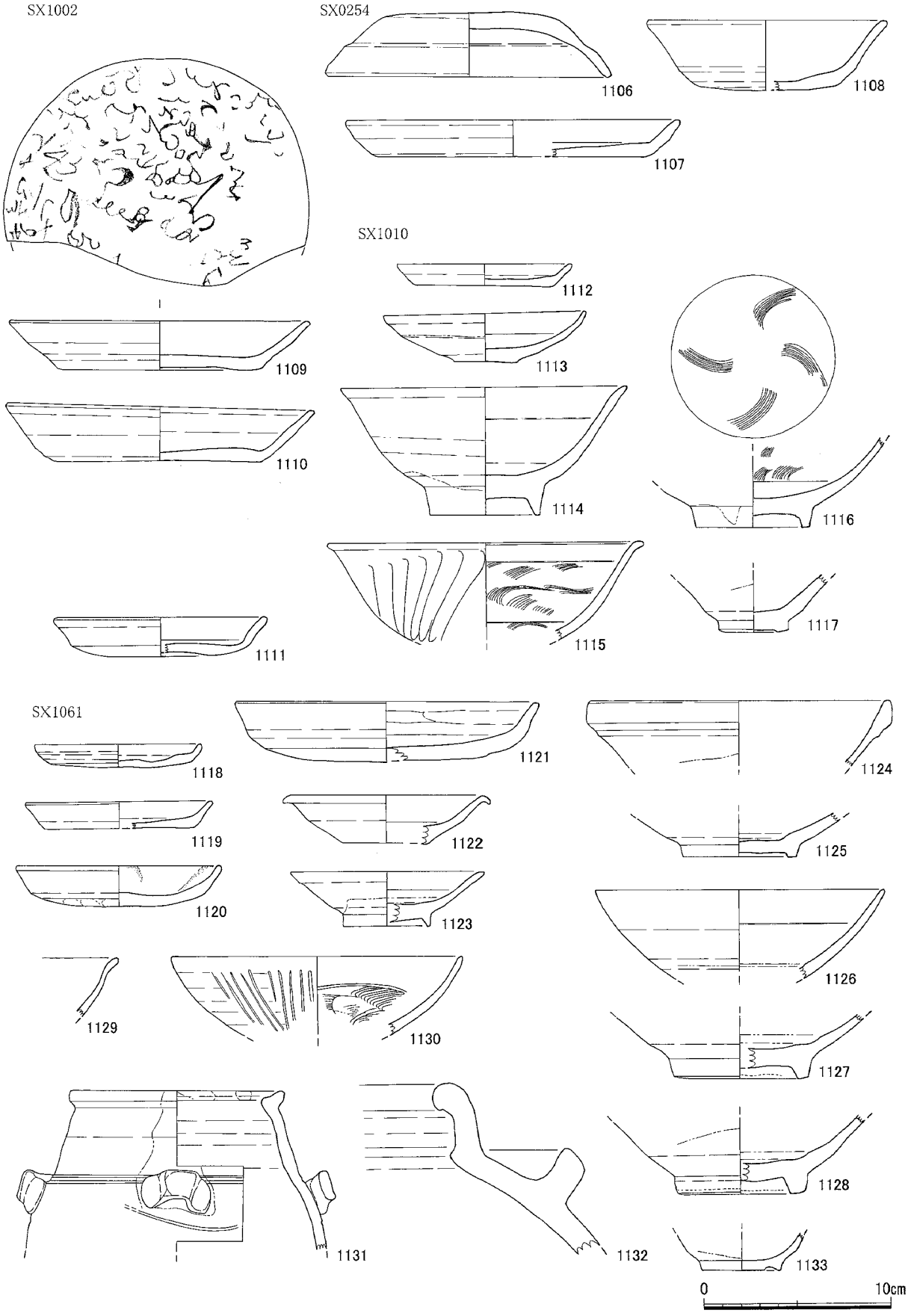


図212 その他の遺物(SX0254・1002・1010・1061)出土遺物実測図(1/3)

表4　博多175次調査出土銅銭一覧

銭貨名	初鋳年	登録番号	調査区	検出面	出土遺構	遺存状況
五銖銭か		40011	1区	2面	0058 上層	Xがかすかに残る
開元通寶	621	40045	2区	2面	0932	完形　やや小振り
		40214	2区	2面	0932	1/2
		40242	2区	1面	攪乱トレンチ一括	完形
		40246	2区	1面	上面	完形
景德元寶	1004	40052	2区	2面	0932	4/5 残存
		40257	2区	1面	上面堀下時	ほぼ完形
祥符通寶	1009	40049	2区	2面	0932	完形
祥符元寶	1009	40018	1区	2面	0126 井筒	完形
		40194	2区	2面	0932	完形
天禧通寶	1017	40043	2区	2面	0932	完形
		40066	2区	2面	0932	完形
天聖元寶	1023	40171	2区	2面	0932	完形
		40195	2区	2面	0932	完形
		40196	2区	2面	0932	完形
明道元寶	1032	40174	2区	2面	0932	完形
景祐元寶	1034	40233	2区	3面	1223	完形
皇宋通寶	1038	40050	2区	2面	0932	完形
		40051	2区	2面	0932	完形
		40054	2区	2面	0932	完形
		40057	2区	2面	0932	完形
		40065	2区	2面	0932	完形
		40075	2区	2面	0932	完形
		40095	2区	2面	0932	完形
		40108	2区	2面	0932	完形
至和元寶	1054	40055	2区	2面	0932	完形
治平元寶	1064	40024	1区	2面	0252 上面～上層	完形
		40198	2区	2面	0932	完形
熙寧元寶	1068	40161	2区	2面	0932	熙寧□□
		40046	2区	2面	0932	完形
		40062	2区	2面	0932	完形
		40067	2区	2面	0932	完形
		40091	2区	2面	0932	完形
		40097	2区	2面	0932	完形
熙寧元寶	1068	40140	2区	2面	0932	ほぼ完形
		40238	2区	4面	1413	完形
		40269	1区	2面	0237	完形
元豊通寶	1078	40012	1区	2面	0058 井筒内	完形
		40040	2区	2面	0932	完形
		40056	2区	2面	0932	完形
		40060	2区	2面	0932	完形
		40096	2区	2面	0932	完形
		40180	2区	1面	0509	完形
		40192	2区	3面	0932	完形
		40044	2区	2面	0932	完形
元祐通寶	1086	40179	2区	1面	0492	元□通寶
		40047	2区	2面	0932	完形
		40098	2区	2面	0932	完形
		40200	2区	2面	0932南北トレンチ一括	完形
紹聖元寶	1094	40039	2区	2面	0932	完形
		40063	2区	2面	0932	完形
		40169	2区	2面	0932	完形
		40204	2区	2面	0932南北トレンチ一括	完形
		40239	2区	2面	堀下時中央西側一括	完形
元符通寶	1098	40107	2区	2面	0932	完形
		40199	2区	2面	0932	完形
		40201	2区	2面	0932南北トレンチ一括	完形
聖宋元寶	1101	40042	2区	2面	0932	完形
		40203	2区	2面	0932南北トレンチ一括	
大観通寶	1107	40032	1区	2面	0058 掘方上層	完形
		40142	2区	2面	0932	完形
		40189	2区	3面	0910 掘方	完形
政和通寶	1111	40053	2区	2面	0932	完形
		40197	2区	2面	0932	完形
		40227	2区	3面	1002 暗灰褐色砂土	完形
洪武通寶	1368	40008	1区	2面	0042 西側最下層	完形
無文銭		40005	1区	1面	0024 上層	完形小振りである
無文か		40058	2区	2面	0932	完形文字痕跡なし

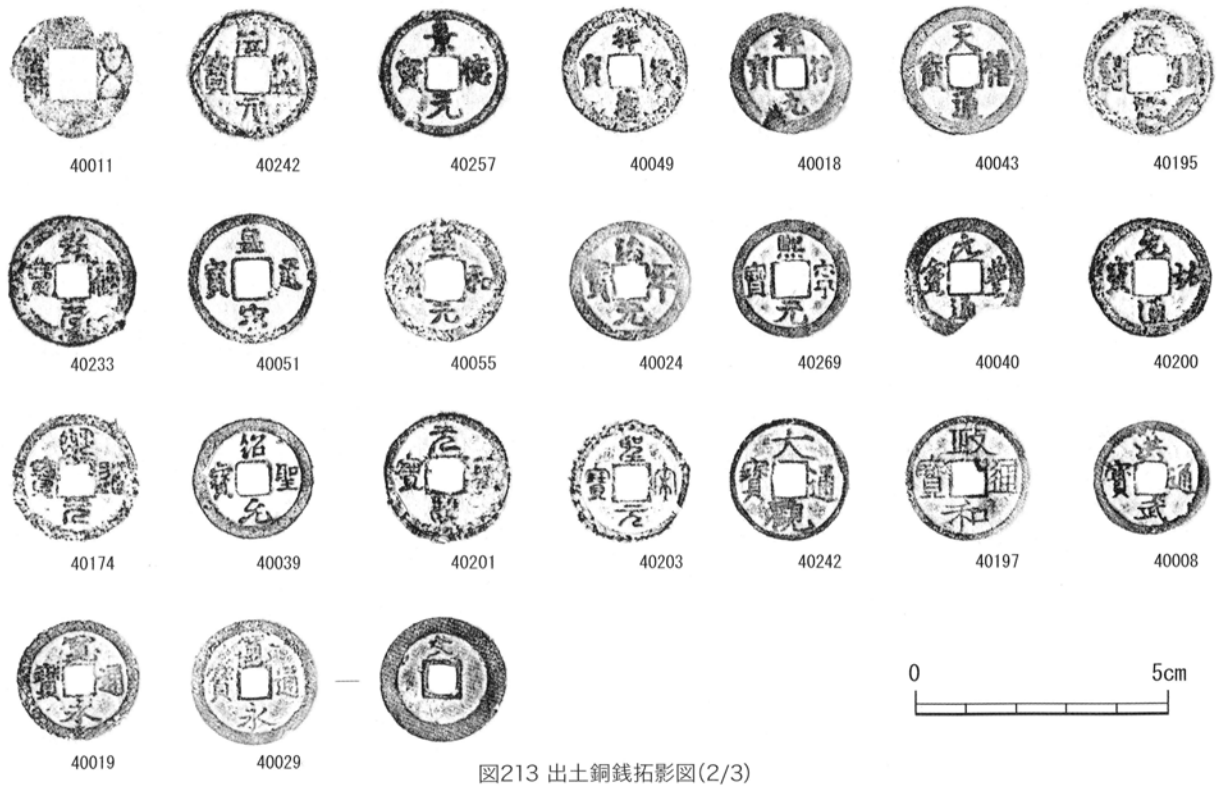


図213 出土銅銭拓影図(2/3)

表5 中世出土遺物観察表

頁	挿図番号	遺物番号	出土遺構	遺物登録番号	器種 器形 分類	時期	法量(cm)								胎土又は材質	焼成	色調又は釉調	成形・調整の特徴 その他　特記事項
							口径又は長さ	底径	高台		胴部径	幅	器高	厚さ				
									高さ	直径								
52	87	248	SD 0037	00101	中国産白磁皿 大VI類か	12C	10.6	4.0					2.7	–	精緻　灰白色	堅緻	灰白色がかった透明釉　発色良	内底にヘラ描きによる草花文を施文
		250		00051	中国産白磁椀 大V類	11C後半～12C前半	–	–	(1.7)	(6.8)	–	–	–	–	精緻灰白色微細な黒斑含む	堅緻	透明な灰白色	外底に墨書(花押か)、福建
		251		00052	李朝白磁椀?	–	–	–	0.7	5.4	–	–	–	–	灰白色微細な黒色斑有	堅緻	淡く青味ある透明釉	内底、高台畳付に目跡各4カ所有 高台削り出し雑
		252		00099	中国産龍泉窯系青磁椀	15C～			1.0	5.6			(3.0+α)	–	精緻　灰白色	堅緻	青緑色の半透明釉　発色淡く不良、外底輪状釉剥ぎ	内底にはヘラ彫による「十」?がある
		253		00102	高麗無釉陶器甕	11C～12C	長8.4					8.0	(1.3+α)	–	暗赤紫褐色　精良	堅く焼き締まる	黒灰色　ツヤ有	頸部にヘラ描きによる波状文有 内外面ともにヨコナデ
		254		00100	中国産龍泉窯系青磁高台付皿	15C	12.2						(2.4+α)	–	精緻　灰白～白色	堅緻	青味の強い半透明釉　発色淡く不良、釉層厚い	–
	90	255	SD 0042	00063	中国産明代青花皿	16C	–	4.0	–	–	–	–	–	–	精緻わずかにきめ粗	堅緻	透明釉	碁笥底　砂粒が付着　漳州窯か
		256		00064	石製権	単独資料としては不明	3.7	–	–	–	2.7	–	–	1.8	泥質頁岩	–	暗灰色	全面磨研　穿孔2カ所　穿孔1 1mm　穿孔2　5～6mm(g)
53	91	258	SD 1563	01711	中国産白磁口禿皿 大IX類	13C後半～14C前半	8.4	7.0	–	–	–	–	1.6		黒色粒比較的多く含む.乳白色.	良好	淡く黄色味ある白色、透明、口縁部釉剥ぎ	
		259		01712	中国産白磁合子蓋	–	10.0	–	–	–	–	–	–		黒色粒少量含む.乳白色.	良好		
		260		01710	中国産陶器甕	–	–	–	–	–	–	–	–		3mm以下の白色粒,2mm以下の黒色粒多量.灰黒色～明褐色.	良好	淡く灰緑色味ある白色、透明	内面にあて具痕.
57	102	261	SE 0100	00104	中国産青白磁合子身	12C～13C	6.4 受部7.4	4.4	–	–	–	–	(2.3)	–	精緻　白色	堅緻	青味ある透明釉	内面子持ち(環状)ー
		262	SE 0034	00049	中国産白磁皿 大VI類	11C後半～12C前半	9.8	3.3	–	–	–	–	2.7	–	精緻	堅緻	黄褐色、釉上がり不良	広東ー
		263		00048	中国産緑釉印花鍔皿	–	(14.0)	–	–	–	–	–	2.0	–	灰色～褐色砂を多く含む	良く締まっている	光沢のある不透明な緑色	口縁上面に陽印刻文、中国産か
		267	SE 0102 井筒	00106	中国産青白磁合子身	13C～	3.0受部3.8	2.4	–	–	–	–	1.8	–	精緻　微細な黒色砂含む	堅緻	青味ある透明釉	ー 体部に1段の段有
		270		00111	中国産陶器甕.	12C～13C	–	14.8～15	–	–	–	–	–	–	白紫黒色砂粒を多く含む泥質土	堅く締まる	褐～暗褐色釉	底部に墨書有り(「蒋」か)ー
		271		00107	中国産白磁椀 大VI類か	11C後半～12C前半	–	–	0.8	4.8	–	–		–	精緻　灰黄白色	堅緻	灰色の不透明釉　発色悪い	外底に墨書(李■か　)ー
		281	SE 0957	00928	中国産白磁 大II類	12C後半代	(10.6)	(5.8)	–	–	–	–	3.0	–	白っぽい淡灰白色 磁器質　空隙多い	–	淡く灰色がかった透明釉、内底輪状釉剥ぎ	福建
		282		00929	中国産白磁高台付皿	12C前半	(10.6)	–	–	–	–	–	–	–	淡灰白色　磁器質	–		福建
		288	SE 1028	01011	中国産白磁高台付皿	–	(9.6)	–	–	(4.0)	–	–	2.3	–	灰白色　中に細かい黒斑多い　ザラつく　磁器質	–	乳白色半透明釉　ピンホール多い	
		289		01009	中国産龍泉窯系青磁杯　大III類	13C後半～14C前半	–	–	–	–	–	–	–	–	白色淡灰白色　精良磁器質	–	淡青白色透明釉	
		290		01013	白覆輪天目椀	12C	–	–	–	–	–	–	–	–	淡黄白色　わずかにザラつく　ガラス化していない	–	黄味の強い淡オリーブ色透明釉細かい氷裂入る、全面施釉	
		291		01008	中国産白磁椀 大VIII類	12C中～後半	–	–	–	5.7	–	–	–	–	淡灰白色　磁器質空隙多い		青灰色透明釉　釉層厚い	
		292		01010	中国産青白磁合子身	12～13C	(5.0)	(5.0)	–		–	–	2.0	–	白色　極めて精良磁器質	–	乳白色　氷裂多い	
		293		01017	中国産白磁椀	11C後半～12C前半	(15.2)	–	–	–	–	–	–	–	白色　磁器質　精良	–		福建南部の製品か
		294		01012	中国産白磁椀 大VIII類	12C中～後半	(16.0)	–	–	–	–	–	–	–	白色　淡灰白色　磁器質空隙多い	–	黒茶色不透明釉	
		295		01015	中国産褐釉陶器皿	12C	(9.8)	–	–	(3.0)	–	–	2.8	–	暗赤褐色　中に細かい黒斑入るがきめ細かい	–		
		296		01014	高麗青磁椀	11C後半～12C前半	(11.6)	–	–	5.4	–	–	4.9	–	淡灰褐色　中に細かい白色粒ごく少量	–	黒褐色透明釉	内底に白色土(目跡)
		297		01016	ガラス製玉	–	–	–	–	–	–	–	–	–		–	ごく淡く黄味おびた透明釉　ガラス化している 青色	未成品(切離していない)
		303	SE 1215	01108	中国産白磁皿 大VIII類	11C後半～12C前半	–	–	–	(5.0)	–	–	–	–	白っぽい淡灰白色 精良磁器質でない	–	淡く青緑色がかった透明釉 淡く発色悪い	広東
		304		01100	国産緑釉陶器	平安後期	(6.0)	–	–	–	–	–	–	–	淡黄白色　精良　土師質	–		国産(長門あたり?)
		307		01103	高麗無釉陶器	12C?	–	–	–	–	–	–	–	–	暗紅灰色(器面は黒灰色)精良　硬陶質	良好　良く焼き締まる	暗灰茶褐色	内面あて具痕ナデ消す
		308		01104	高麗無釉陶器	12C?	–	–	–	–	–	–	–	–	暗紅灰色(器面は黒灰色)精良　硬陶質	良好　良く焼き締まる	暗灰茶褐色	外面格子目タタキ、内面あて具痕
58	105	314	SE 1540	01651	中国産緑釉陶器盤	12～13C	–	–	–	–	–	–	–		淡灰褐色　砂粒多量　粗い		不透明な緑色	安徽省磁灶窯産
		315		01650	中国産緑釉陶器盤	12～13C	–	–	–	–	–	–	–		淡灰白色　砂粒含み ざらつく　粗い		不透明な緑色	安徽省磁灶窯産
		317		01640	中国産禾目天目椀	12～13C	–	–	–	(3.6)	–	–	–		暗灰色　微細な白色砂粒含む　わずかに粗い		黒茶色不透明釉	福建北部
		318		01641	中国産天目椀	12～13C	–	–	–	(3.8)	–	–	–		褐色　ざらつく　わずかに粗い　軟陶質		淡黄白色不透明釉　ピンホール多い、内底輪状釉剥ぎ	福建福州近郊か
		319		01643	高麗青磁椀	12C?	–	–	–	(4.0)	–	–	–		淡褐色　精良		黒茶色不透明釉	
		320		01639	中国龍泉窯系青磁椀 大II類	13C前半	–	–	–	(5.6)	–	–	–		灰色　精良　磁器質		黒色不透明釉	
		321		01638	中国産白磁口禿椀 大IX類	13C後半～14C前半	(15.0)	–	–	–	–	–	–		わずかに灰色おびた淡灰白色　磁器質		青緑色透明釉　ガラス化している	
		322		01644	中国産褐釉陶器擂鉢	12～13C	–	–	–	(12.0)	–	–	–		暗赤褐色　1～2mmの白色砂粒極めて多量　非常にきめ　粗い			降ろし目はすりへっている
		323		01642	中国産白磁椀	11C後半～12C前半	–	–	–	6.3	–	–	–		黄白色　空隙多い ガラス化していない		黄味がかった半透明釉、全釉、畳付に白色耐火土	外底に墨書「●綱」か?
61	109	342	SX 0391	00624	中国産龍泉窯系青磁盤口壺　大III類	13C後半～14C前半	–	–	–	–	–	–	–	–	淡灰白色　磁器質精良	–	淡青緑色　半透明釉　氷裂入る　釉層厚い	
		343		00627	中国産黒釉天目椀	12C後半～	–	–	–	–	–	–	–	–	淡褐色　細かい黒斑入る	–	黒色不透明釉	
		344		00625	中国産龍泉窯系青磁椀　大I類	12C中～後半	–	–	–	5.7	–	–	–	–	暗灰色　ざらつく硬陶質	–	暗緑灰色　半透明釉　淡く白濁するピンホール多い	外面ヘラ彫り状痕跡は施釉時使用の工具痕か?　外底にハマの一部付着
		345		00626	中国同安窯系青磁皿　大III類	12C中～後半	(9.6)	–	–	–	–	–	(2.5)	–	白味の強い淡灰褐色 精良　磁器質	–	黄味の強いオリーブ色　透明釉	–
		346		00628	中国産白磁椀 大V類	11C後半～12C前半	–	(6.2)	–	–	–	–	–	–	淡黄白色～白色　ガラス化していない空隙多い	–	乳白色不透明釉　ピンホール有り	外底に墨書
		350	SX 0505	00635	中国産白磁皿 大VI類	11C後半～12C前半	(9.8)	(3.1)	–	–	–	–	2.8	–	白っぽい淡灰白色 精良磁器質	–	淡く青味帯びた半透明釉、細かい氷裂入る	
		353		00636	中国産白磁椀 大V類	11C後半～12C前半	(16.2)	–	–	–	–	–	–	–	淡黄白色　空隙多い　ガラス化していない	–	淡く青味を帯びた乳白色不透明釉、ピンホール多い	
		354		00637	中国産白磁椀 大V類	11C後半～12C前半	(14.2)		–	(5.6)	–	–	5.5	–	わずかに灰色かかった白色 磁器質　空隙多い	–	淡く青味を帯びた乳白色、不透明釉、ピンホールかなり多い	
62	110	356	SX 0904	00808	中国産白磁皿 大VI類	11C後半～12C前半	–	3.2	–	–	–	–		–	かなり白っぽい　淡灰白色 完全磁器質でない	–	暗茶色	広東
		357		00807	中国産白磁椀 大VII類	12C中～13C初	(18.2)	–	–	(6.0)	–	–	6.5	–	淡灰白色　磁器質	–	淡黄色半透明釉(釉下に白化粧)	福建
		358		00806	中国同安窯系青磁椀	12C後半～13C初?	(16.4)	–	–	5.2	–	–	6.8	–	淡灰褐色　精良　空隙多い	–	淡く黄味帯びた透明釉	福建莆田窯か?
		359		00809	中国産褐釉陶器四耳壺	12C代	(15.6)	–	–	–	–	–	–	–	淡灰色　白と黒色の細かい砂粒多い　粗い	–	暗褐色～暗茶褐色の不透明釉	
		365	SX 0912	00863	中国産緑褐釉陶器鉢	13C前半	–	–	–	(9.2)	–	–	–	–	明橙色　細かい白色砂粒少量　黒斑入る	–	不透明な緑褐色	
		368	SX 0920	00898	常滑産陶器甕	13C前半位	(54.0)	–	–	–	–	–	–	–	わずかに紅味がかった灰色　1mm前後の白色砂粒と黒色粒多量含む　きめ粗い	良好　良く焼き締まる	暗灰色　黄灰から褐色の自然釉が部分的に見られる	外面板状工具のナデ
63	111	374	SX 0920	00895	中国産黒釉天目椀	12～13C	–	–	–		–	–	–	–	黒灰色　微細な白色粒多い　粗い	–	淡オリーブ色不透明釉(口に褐釉かかる)	
		375		00894	中国産黒釉天目椀	12～13C	–	–	–	–	–	–	–	–	灰色　微細な白色砂粒　黒斑入る　きめ粗い	–	黒色不透明釉　全体に釉が煮えている	

頁	挿図番号	遺物番号	出土遺構	遺物登録番号	器種 器形 分類	時期	法量(cm) 口径又は長さ	底径	高台 高さ	高台 直径	胴部径	幅	器高	厚さ	胎土又は材質	焼成	色調又は釉調	成形・調整の特徴 その他 特記事項
63	111	376	SX 0920	00896	青緑色釉陶器壺	13C前半	(10.2)	–	–	–	–	–	–	–	暗紅灰色　細かい白色砂粒少量　きめ細かい	–	不透明な青緑色	
	112	380	SX 1027	01002	中国産白磁椀 大II類	北宋後半～南宋前半	–	–	–	–	–	–	–	–	淡黄白色　精良　磁器質でない	–	乳白色半透明釉　白濁する	広東
		383		01001	中国産白磁椀 大IV類	11C後半～12C前半	(17.2)	–	–	(7.6)	–	–	6.8	–	淡黄白色　完全ガラス化していない　空隙多い	不良	不透明な黄白色	
		384	SX 1218	01111	中国産白磁椀 大V類	11C後半～12C前半	–	–	–	6.2	–	–	–	–	白色　淡灰白色　磁器質	–	不透明な灰白色	
64	113	401	SD 1482	01604	中国産白磁皿 大III類	12C中～後半	10.2	4.4	–	–	–	–	2.6～2.8	–	砂粒を含む	良好	灰白色、内底輪状釉剥ぎ(白泥付着)	
		402		01547	中国産白磁皿 大III類	12C中～後半	9.9	–	0.5	4.4	–	–	2.4		黒色粒を比較的多く含む乳白色を呈す.	良好	ガラス質.透明.	
		403		01605	中国産白磁皿 大III類	12C中～後半	10.6	4.1	–	–	–	–	2.7～2.9	–	淡灰色でわずかに粗い	良好	黄色をあびた灰色、内底目痕3ヶ所? 灰白色	
		404		01544	中国産白磁皿 大III類	12C中～後半	10.2	–	0.5	4.0	–	–	2.4		黒色粒多く含む.乳白色.	良好	淡くガラス質.透明感少.	
		405		01603	中国産白磁皿 大VI類	11C後半～12C前半	10.0	5.3	–	–	–	–	2.8	–	精緻	良好	灰白色、内底輪状釉剥ぎ(白泥付着)	
		406		01548	中国産白磁皿	–	9.7	4.2	–	–	–	–	2.2		黒色粒.気泡多く含む.灰白色.	良好	不透明釉. 灰白色	見込みに沈線. 外底部露胎.
		407		01549	中国産白磁皿	–	10.4	3.0	–	–	–	–	2.2		黒色粒少量含む.淡灰色.	良好	淡青白色ガラス質だが不透明.淡灰色	内面に沈線. 外面下部露胎.
		408		01545	中国産同安窯系青磁皿 大I類	12C中～後半	11.2	5.0	–	–	–	–	2.3		黒色粒.気泡少量含む.灰白色.	良好	灰白色ガラス質だが不透明.	
		409		01546	中国産白磁椀 大V類	11C後半～12C前半	16.8	–	–	–	–	–	–		黒色粒.気泡比較的多く含む.灰白色.	良好	灰白色、透明感なし.内底輪状釉剥ぎ(白泥付着)	
		410		01543	中国産白磁椀 大V類	11C後半～12C前半	16.3	–	1.8	6.1	–	–	7.0		細い黒色粒多く含む.淡褐色.	良好	淡灰白色、ガラス質で透明.	
		411		01607	中国産白磁椀 大VIII類	12C中～後半	15.5	7.0	–	–	–	–	5.0～5.30	–	灰白色	良好	黄味がかった灰白色、内底輪状釉剥ぎ(白泥付着)	
		412		01608	中国産白磁椀 大VIII類	12C中～後半	16.4	6.4	–	–	–	–	5.3～5.5	–	精緻	良好		
		413		01606	中国産白磁椀 大IV類	11C後半～12C前半	17.7	6.4	–	6.9	–	–	6.5	–	精良　わずかに気泡	良好	灰白色、内底輪状釉剥ぎ	
		414		01550	中国産青白磁合子身	12C	5.0	–	–	–	–	–	–		黒色粒比較的多く含む.白色.	良好	内面に釉・鉄絵、外面露胎	
		415		01558	中国産白磁四耳壺	12C	(10.2)	8.8	–	–	–	–	(26.6)		黒色粒多く含む　淡黄褐色	良好	淡く不透明な明灰白色	
66	116	423	SE 0126	00149	中国産白磁皿 大III類	12C中～後半	8.2	–	0.5	4.0	–	–	2.1～2.2	–	精緻	堅緻	不透明釉	体部はヘラケズリ
		424		00150	中国産白磁皿 大III類	12C中～後半	9.8	–	0.5	4.2	–	–	2.6	–	精緻	堅緻	不透明釉.内底輪状釉剥ぎ(白泥付着)	体部はヘラケズリ
		425		00151	中国産白磁皿 大III類	12C中～後半	10.3～10.5	–	0.5	4.5	–	–	2.7	–	精緻	堅緻	うすく灰緑色がかった透明釉、内底輪状釉剥ぎ	外底に墨書(花押か)体部ヘラケズリ
		426		00161	中国産青白磁椀	12C	–	–	–	–	–	–	–	0.2～0.3	精緻	堅緻	淡く青味ある透明釉	内面にヘラ片彫文
		427		00155	中国産白磁椀 大VIII類	12C中～後半	–	–	1.0	5.0	–	–	–	–	精緻　スが多い　褐色細砂を多く含む	わずかに不良　堅緻	明黄白色、内底輪状釉剥ぎ	外底に墨書(「久衛門」か)内底は輪状掻取
		428		00160	中国産白磁椀 大VIII類	12C中～後半	15.6～15.8	–	0.9	6.1～6.3	–	–	5.4	–	精緻	堅緻　不良	くすんだオリーブ色　発色不良、内底輪状釉剥ぎ	
		429		00158	中国産白磁椀 大V類	11C後半～12C前半	15.5～15.9	–	1.3	6.3～6.5			6.5～7.0	–	精緻	堅緻	灰色がかった半透明釉(内底輪状釉剥ぎ)	
		430		00159	中国産白磁椀 大IV類	11C後半～12C前半	16.1～16.5	–	0.9	7.7	–	–	6.75～7.2	–	精緻　スが目立て砂粒を含む	堅緻	淡黄褐白色	外面は回転ヘラケズリ
		431		00156	中国産初期龍泉窯系青磁椀	12C前半	(16.0)	–	–	–	–	–	(6.5)	–	精緻　灰色でスが多い　黒色微砂含む	堅緻	オリーブ色の透明釉	
		432		00157	中国産青白磁合子蓋	12C～	6.9	天井部4.5	–	–	–	–	1.5	–	精緻　白色	堅緻	淡く青味ある透明釉	天井部に陽印刻文
		433		01225	中国産陶器三耳壺	12C～	14.8	18.7				30.2	38.7～39.0		きめ粗(0.5～3mm大の白砂.黒色.暗茶褐色を多く含む	堅く焼き締まる	体部下半暗赤褐色	肩に厚手の自然釉かかる　耳の貼付は雑　胎土から中国産と判断
69	121	439	SE 0244 掘方	00256	中国産白磁椀	11C後半～12C前半	–	–	2.1	5.8	–	–	–	–	微細な黒斑　精良	堅緻	透明な白色.透明なガラス光沢	福建省南部か
		440		00244	中国産白磁皿 大VIII類1	11C後半～12C前半	9.3	3.4	–	–	–	–	2.3	–	精緻	堅緻	淡く黄灰色がかった透明釉	内底にはヘラ及び櫛目による草花文 底部は施釉後釉掻取
		441		00257	中国産龍泉窯系青磁椀　大I類	12C中～後半	–	–	0.9	4.7	–	–	–	–	淡黄灰色～灰色.黒色粒含む	堅緻	オリーブ(灰黄褐色)ガラス質の光沢	
		443		00258	波状押圧文瓦	12C	–	–	–	–	–	–	瓦当面の高さ4.9	–	暗褐色　泥質土	良く焼き締まっている	暗灰色	器面調整後波状押圧を施す
		449		00255	中国産同安窯系青磁椀	12C中～後半	–	–	1.1	6.2	–	–	–	–	灰色.白色.黒色の砂	堅緻鉄分ふき出し有	緑灰色ガラス光沢あり	内底・高台に白泥付着 露胎部は赤～茶褐色
		450		00245	中国産白磁椀 大V類4	11C後半～12C前半	–	–	1.6～1.7	6.4	–	–	–	–	精緻　スが目立つ黒色微細含む	堅緻	黄白色の半透明釉	外面ロクロ回転ヘラケズリ
70	122	454	SE 0256	00283	中国産陶器耳壺 大III類	13C～14C	7.4	–	–	–	–	–	–	–	暗紫褐色　精良	堅く締まる	二次的な火を受けている　灰白～アメ色	■■宜興窯 口縁部は貼り付け肥厚させている
		455		00281	中国産白磁椀 大IV類	11C後半～12C前半	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	淡く黄灰白色がかった不透明釉	
		456		00282	中国産無釉陶器鉢 大I類	12C～	–	9.0～	–	–	–	–	–	–	赤褐色石英砂を多く含む	堅く締まる		
		464	SE 0301 掘方	00332	中国産白磁皿 大V類	11C後半～12C前半	13.4	–	–	–	–	–	–	–	精良	堅緻	黄味がかった透明な褐色	広東
		465		00329	中国産白磁椀 大IV類－1a	11C後半～12C前半	–	–	1.1	6.9	–	–	–	–	精緻　ス.微少な黒斑	堅緻	明灰色　透明	
		466		00330	中国産白磁 大V類－4	11C後半～12C前半	–	–	1.3	5.9	–	–	–	–	精緻	堅緻	灰白　淡い緑色がかかる	高台内墨書有り　(門か?)
		467		00331	中国産白磁椀 大VIII類	12C中～後半	–	–	0.8	6.9	–	–	–	–	精良　V類に似るス　微少な黒斑含む	堅緻	灰白色、内底輪状釉剥ぎ	
		468		00333	中国産青白磁椀	12C	13.6	–	–	–	–	–	–	–	精緻(白色)	堅緻	淡く青味かかった透明釉	陽印刻文による雷文と蓮花文を内面に施文
		469		00335	中国産陶器耳壺 大VI類(四耳)	13C前半	9.0	–	–	–	–	–	–	–	精良　鉄分がふき出している	–	内外面とも施釉茶褐色、口縁上面に目痕	
		470		00334	中国産青白磁合子蓋	–	6.5	天井部5.2	–	–	–	–	2.1	–	精良(白色)	堅緻	薄く青味ある透明釉	天井部に単弁の陽印刻蓮華文
		471		00320	高麗青磁椀	12C	–	–	–	(4.0)	–	–	–	–	灰白色　磁器質　精良	–	淡い青灰色　透明釉　釉層厚い	内面劃花文
		477	SE 0301 井筒	00312	中国産龍泉窯系青磁椀　大I類	12C中～後半	–	–	0.7	6.0	–	–	–	–	精緻	堅緻	半透明の灰黄緑色	内底に「利」文字印文あり
		478		00313	中国産青白磁皿	12C	9.9	3.2	–	–	–	–	2.1	–	精緻(白色)	堅緻	うすく灰緑色がかった透明釉	
		479		00314	中国産緑釉陶器鑿	–	–	–	–	–	–	–	–	–	黒.黒褐色砂粒を多く含む(白色砂)目の粗い胎土	–	不透明な緑色	安徽省磁灶窯
		480		00315	中国産陶器壺 大V類	12C～	7.2	–	–	–	–	–	(25前後か)	–	暗赤褐色　白砂　黒色斑精良	堅く締まる	黒茶褐色の透明釉	
		481		00317	中国産陶器鉢 大VI類	13C～	–	–	–	–	–	–	–	–	明褐色～明橙褐色白砂黒.暗紫色砂含む	堅緻	全面にうすく不透明な暗褐色釉	
		482		00316	中国産黄釉陶器鉄絵鑿	12～13C	–	–	–	–	–	–	–	–	白砂黒斑を多く含むきめ粗い	良く焼き締まっている	黄灰色	安徽省磁灶窯、内底に鉄絵の一部
		483		00318	中国産陶器鉢 大IV類	–	外径25.4 内径22.0	–	–	–	–	–	–	–	暗紫褐色	堅緻	黒褐色　不透明釉全面施釉 紫、口縁端部に目痕	
		484		00319	中国無釉陶器鉢 大I類	12～13C	–	12.6	–	–	–	–	–	–	白色(石英・長石)黒色又は黒紫色の砂粒を多く含む	良　堅(焼き締まっている	赤褐色	内面は使用されていない
71	123	542	SE 0370	00474	中国同安窯系青磁皿 大I類	–	(17.8)	–	–	4.6	–	–	2.0	–	灰色を程し堅質		灰緑色	無文　内面休部と見込み部の境に一条の段が巡る　外面体部下半は無釉
		543		00558	中国産褐釉陶器皿	11C後半～12C前半	(9.8)	(3.6)	–	–	–	–	2.7	–	黒色粒、白色粒少量含む褐色	良好	淡灰白色不透明白濁化	外底は上げ底となる　露胎部釉はケズりとっている　口縁から底部1/3残存
		544		00538	中国産褐釉陶器耳壺 大IV類	12C	(11.0)	–	–	–	–	–	(4.6)	–	–	–	褐釉	口縁部1/5残存

頁	挿図番号	遺物番号	出土遺構	遺物登録番号	器種器形分類	時期	法量(cm) 口径又は長さ	底径	高台 高さ	高台 直径	胴部径	幅	器高	厚さ	胎土又は材質	焼成	色調又は釉調	成形・調整の特徴 その他 特記事項
	123	545		00504	中国産陶器耳壷大VI類	13C	(12.8)	–	–	–	–	–		–	淡赤褐色、細かい	–	暗緑褐色不透明釉、白濁、口縁内面に目痕	
		546		00575	中国産陶器壺大IV類	12～13C	(9.6)				–		(9.1)	–	砂粒直径2㎜以下比較的少量含む 暗褐色	良好	釉は淡灰褐色 不透明、口縁に目痕	
71		547	SE 0370	00576	中国産陶器鉢大VI類	–	(23.0)	–	–	–	–	–	(4.7)	–	黒色・白色粒多く含む暗褐色	良好	釉はオリーブ色不透明	口縁から胴部1/6残存
		548		00557	中国産褐釉陶器鉢大III類	13C	(26.0)		–	–	–	–	(4.7)	–	赤褐色粒少量含む 淡赤褐色、細か	良好	暗赤褐色～淡赤褐色、剥落し不明確	口縁から胴部片1/12残存
		549		00584	高麗青磁皿	12C?	–	–	–	(2.8)	–	–	–	–	灰白色 細かい隙間が多く他と比べてざらつく	–	淡青灰色透明釉、全釉、畳付部分に耐火土	内面陽印刻文あり
	128	562		00835	中国産青白磁合子身	–	(4.4)	(4.6)	–	–	–	–	2.0	–	白色 精良 磁器質	–	緑色不透明釉	
		563		00831	中国産青白磁口禿椀	12～13C	–	–	–	–	–	–	–	–	白色 精良 磁器質	–	青白色透明釉 ガラス化している	内面陽印刻文あり
		564		00833	中国産青白磁皿	12C	–	(4.0)	–	–	–	–	–	–	白色 精良 磁器質	–	淡青白色覇透明釉(かせている)二次被熱によるものか?)	
		565		00832	中国産青白磁椀	12C	–	–	–	(5.2)	–	–	–	–	白色 精良 磁器質	–	淡青白色不透明(煮えている二次被熱?)	
		566		00834	中国産青白磁椀	–	–	–	–	(5.6)	–	–	–	–	白色 精良 磁器質	–	淡青白色透明釉	
		567		00836	中国産緑釉陶器瓶		–	–	–	–	–	–	–	–	淡褐色 精良 硬陶質	–	淡青透明釉 ガラス化し 上質	安徽省磁灶窯
		568		00847	中国産黒釉天目椀	12～13C	–	–	–	3.8	–	–	–	–	明橙色～黒灰色 微細な白色砂粒少量 わずかに粗い	–	–	
74		569	SE 0911	00843	中国龍泉窯系青磁椀大III類	13C後半	(12.0)	–	–	–	–	–	–	–	淡灰白色 精良 磁器質	–	–	
		570		00840	中国産黄釉陶器鉄絵盤	12C後半～13C	–	–	–	–	–	–	–	–	淡黄白色 細かい白色砂粒多量 非常にきめ粗い	–	黄茶色不透明釉 釉層うすい 発色わるい(焼成不足)	安徽省磁灶窯
		571		00838	中国産黄釉陶器鉢大III類	12C後半～13C	–	–	–	–	–	–	–	–	淡褐色 細かい白色粒含む 粗い	–	–	
		572		00841	中国産褐釉陶器鉢大VI類	12C後半～13C	–	–	–	–	–	–	–	–	明橙褐色 砂粒ほとんどなし	–	淡オリーブ色不透明釉	
		573		00837	高麗青磁梅瓶	12C	–	–	–	–	–	–	–	–	淡灰色 精良	–	黄緑色不透明釉 釉層うすい	SE0367出土と同一個体
		574		00839	中国産無釉陶器擂鉢	12～13C	–	–	–	–	–	–	–	–	黒灰色 粗い 硬陶質	–	黄緑～黄色不透明釉 –	
		575		00842	中国産陶器耳壺大VI類(四耳)	12C後半～13C前半	(13.2)	–	–	–	–	–	–	–	灰白色 精良 硬陶質	–	淡青灰色透明釉 釉層あつい	
		576		00857	中国産褐釉陶器甕大IV類	12～13C	(18.0)	–	–	–	(55,0)	–	–	–	赤褐色 1～2㎜の白色砂粒多量含む きめ粗い		–	江蘇省宜興窯か
	129	580		00868	中国産白磁椀大IV類	11C後半～12C前半	(16.6)	–	–	–	–	–	–	–	淡灰白色 磁器質 精良空隙多い	–	乳白色 半透明釉 ピンホール多い	
		581		00869	中国産白磁椀大V類	11C後半～12C前半	–	–	–	6.3	–	–	–	–	白色 精良 磁器質	–	淡青白色 透明釉	
		582	SE 0913	00870	中国産青白磁椀	12C前半	–	–	–	(5.1)	–	–	–	–	白色 精良 磁器質	–	半透明の黒釉	
		583		00871	中国産黒釉陶器壺?	–	–	8.3	–	–	–	–	–	–	暗紅灰色 1～2㎜の白色砂粒含 きめ細かい 硬陶質	–	淡黄緑色不透明釉	
		584		00872	中国産黄釉鉄絵盤	–	–	–	–	–	–	–	–	–	灰色(外器面露胎部分は赤変)細かい砂粒多量 きめ細かい	–		安徽省磁灶窯
75	130	593		00891	中国産青白磁椀	12C	–	–	–	(4.0)	–	–	–	–	白色 精良 磁器質	–	淡黄白不透明釉白濁する	
		594		00890	中国産褐釉陶器皿	11C後半～12C前半	(9.2)	–	–	〔2.8〕	–	–	2.8	–	暗灰色 細かい黒斑少量硬陶質	–	青白色透明釉	
		595		00892	中国産白磁皿大VI類	11C後半～12C前半	–	(3.8)	–	–	–	–	–	–	淡灰白色 精良 磁器質	–		外底に墨書有り、広東
		600	SE 0919	00876	中国産黒釉天目椀	12C後半～13C代	(10.8)	–	–	–	–	–	–	–	淡褐色～黒灰色 微細な白色・黒色粒含む わずかに粗い	–	発色不良 暗オリーブ色不透明釉	
		601		00878	中国産褐釉陶器壷	12C?	–	–	–	(8.4)	–	–	–	–	淡灰色 細かい黒斑入る硬陶質	–		
		602		00877	中国産緑褐釉陶器壺	12～13C	–	–	–	(8.4)	–	–	–	–	淡灰色 細かい黒斑入る空隙多い 硬陶質	–	褐釉?不透明釉	
	133	616	SE 0378 (377)	00607	中国龍泉窯系青磁椀大I類4b	12C中～後半	16.8	–	–	6.4	–	–	7.0	–	精良	良好	オリーブ灰色	輪花、内底「金玉満堂」
		617		00606	中国同安窯系青磁椀	12C中～後半	-	–	–	7.0	–	–	–	–	緻密	良好	にぶい黄色、内底輪状釉剥ぎ	外面粗いクシ目文
		622		00811	中国産白磁小椀	11C後半～12C前半	10.6	–	–	3.4	–	–	4.3	–	淡黄白色 空隙多い 完全ガラス化していない	–	淡灰白色 透明釉 外面気泡多い	
		623		00813	中国産白磁椀大IX類	12C中～後半	–	–	–	–	–	–	–	–	淡灰白色 磁器質 精良わずかに青味帯びた半透明釉	–	淡く黄味帯びた淡青灰色 不透明釉(内面はガラス化し透明)	
		624		00824	中国産白磁椀大IV類	11C後半～12C前半	(14.6)		–	–	–	–	–	–	白色 淡灰白色 磁器質空隙多い	–	黄緑色～暗茶色 不透明釉 釉層薄い	
		625		00814	中国産白磁壺か	12C?	–	–	–	(7.8)	–	–	–	–	灰白色 磁器質 精良	–		
		626		00827	中国産天目椀	12C	–	–	–	(4.2)	–	–	–	–	淡黄褐色 細かい白色砂粒少量 きめ粗い	–	暗オリーブ色 不透明釉 発色不良	外底に墨書「網」か?
77		627		00816	中国産青白磁椀	12C	–	–	–	(3.8)	–	–	–	–	白色 精良 磁器質	–		外底に円形のハマ痕(やや赤変する)
		628	SE 0910	00828	中国産黄緑色釉陶器壺か		–	–	–	–	–	–	–	–	淡灰色 黒斑多く含む 硬陶質	–		外底に墨書
		629		00823	中国産白磁蓋		–	(4.2)	–	–	–	–	–	–	淡灰白色 磁器質 中に黒斑含む	–	淡く黄味おびた透明釉 気泡あり	
		630		00825	中国産褐釉陶器皿	11C後半～12C前半	(10.0)	(3.8)	–	–	–	–	2.6	–	暗紅灰色黒斑入る 細かい 硬陶質	–	暗黄茶色不透明釉 釉層薄い	
		631		00826	中国産褐釉陶器耳壺大V類	12C	(10.6)	–	–	–	–	–	–	–	暗褐色 黒斑含む きめ細かい	–	黒茶色不透明釉(釉下に鉄化粧)	
		632		00812	中国産白磁椀大V類	11C後半～12C前半	–	–	–	–	–	–	–	–	淡灰白色 磁器質 空隙多い	–		
		633		00821	高麗青磁椀	12C前半	–	–	–	–	–	–	–	–	淡灰褐色～淡灰色 細かい白色砂粒含む きめわずかに粗い	–	青白色透明釉 ガラス化している	
		634		00822	中国産青白磁灯火器	11C後半～12C前半	–	–	–	–	–	–	–	–	白色 磁器質 精良	–	淡く青味かかった透明釉	
	134	637		01125	中国産白磁椀大VIII類	12C中～後半	(15.9)	–	–	(6.9)	–	–	4.9	–	白っぽい淡灰白色 精良だが空隙多い 磁器質	わずかに良好	淡灰白色不透明釉	
		638		01126	中国産白磁椀大VII類	12C中～13C初	(18.2)	–	–	(6.4)	–	–	6.6	–	淡灰白色 精良だが細かい空隙おおい 磁器質	良好	青白色 半透明釉 二次被熱?(内面釉が煮えている)	
		639		01130	中国龍泉窯青磁椀大I類	12C中～後半	–	–	–	6.0	–	–	–	–	淡灰白色 精良 磁器質	良好	淡オリーブ色半透明釉 釉層うすい	
		640		01132	中国産白磁椀大II類	11C後半～12C前半	–	–	–	(5.6)	–	–	–	–	淡灰白色 精良 完全磁器質でない	良好	水色帯びた透明釉 ガラス化している	外底に墨書あり
		641		01127	中国産青白磁皿	12C	–	3.4	–	–	–	–	–	–	白色 精良 磁器質	良好		
		642		01133	中国産青白磁合子蓋		(6.0)	–	–	–	–	–	–	–	白色 極めて精良	良好	オリーブ色透明釉 ガラス化している 内面に白色の付着物多い	
78		643	SX 1221	01134	中国同安窯系青磁椀	12C後半?	(16.2)	–	–	–	–	–	–	–	淡灰白色(露胎部分赤変)精良だが空隙多い 磁器質	良好	淡灰緑色不透明釉 器面に鉄分吹き出しが多い 釉層うすい 上部には褐釉を流しかけ	同安系であるが終末期のかなり粗製品 同安ではなく福建近郊連江浦口窯あたりの製品か?
		644		01131	中国同安窯系青磁椀大I類	12C中～後半	(16.2)	–	–		–	–	–	–	淡灰色 精良 磁器質	良好	淡黄白色不透明釉 白濁する	
		645		01109	中国龍泉窯青磁椀大I類	12C中～後半	13.0	–	0.7	4.9	–	–	5.8	–	精緻 灰色～灰白色 微細な白砂含む	堅緻		外面は櫛描文の上にヘラ片彫の蓮花文 内面は草花文と櫛描文
		646		01129	中国産青白磁合子蓋	12～13C	–	–	–	–	–	–	–	–	白色 精良 磁器質	良好	淡青緑色透明釉 ガラス化している 氷裂入る	
		647		01110	ガラス製玉	–	1.2～1.4	孔径0.4	–	–	–	–	–	–	ガラス製	–	淡く青味帯びた乳白色透明釉 淡白色	全体に風化し淡く黄味がかった白色 新鮮な剥離面は半透明の淡緑色
		648		01137	中国産緑釉陶器盤	–	(34.2)	(28.4)	–	–	–	–	9.4	–	淡赤褐色 細かい白色砂粒多量含む	不良		外面と内底見込周縁部分に赤褐色土粒が多量付着 内面に細い線彫り花文

頁	挿図番号	遺物番号	出土遺構	遺物登録番号	器種器形分類	時期	法量(cm) 口径又は長さ	底径	高台 高さ	高台 直径	胴部径	幅	器高	厚さ	胎土又は材質	焼成	色調又は釉調	成形・調整の特徴その他 特記事項
78	134	649	SE 1221	01135	灰緑色釉褐彩陶器耳壺 大VI類(四耳)	13C前半	(9.4)	—	—	—	—	—	—	—	淡灰色 細かい黒粒入る硬陶質	良好	淡青灰~淡黄緑色不透明 発色悪い白濁する 肩部に褐釉を流し掛け	
		650		01136	灰緑色釉褐彩陶器耳壺 大VI類(四耳)	13C前半	(9.6)	—	—	—	—	—	—	—	淡褐色~淡灰白色 1mm位の白色砂粒多い 空隙多い	不良	緑色半透明釉	
79	135	654	SE 1224	01152	高麗青磁椀	11C中~後半	(9.4)	—	—	(4.3)	—	—	3.5	—	灰白色 1mm位の白色砂粒多い 粗い	—	黄味の強い不透明釉	
		656		01155	中国産青白磁口禿腰折椀	12C後半~		—	—	(7.0)	—	—	—		白色 磁器質 精良	—		
		657		01153	中国産白磁椀 大II類	11C後半~12C前半		—	—	4.9		—	—	—	かなり白い 淡灰白色 精良	—		広東
		658		01157	中国産青白磁椀	12C前半		—	—	(4.6)	—	—	—		白色 磁器質 精良	—		
		661	SX 1694	01759	中国産青白磁合子身	12C~13C	—	—	—	—	—	—	—		淡灰白色 精良 磁器質			
82	140	662	SX 0028	00040	中国産白磁椀 大V類	11C後半~12C前半	—	—	2.0	6.3	—	—	—	—	スが多い白色砂に微細な黒斑あり	堅緻	発色不良 鉄分吹き出し有り 不透明な灰色(タマリの部分はアメ色)	外底に墨書(花押か) —
		672	SX 0187	00191	中国産白磁皿 大III類	12C中~後半	—	—	0.6	3.8	—	—	—	—	精緻	堅緻	灰緑色がかった不透明釉	外底に墨書有り(内容不明) 回転ヘラケズリ
		673		00190	中国産白磁皿 大II類1b	11C後半~12C前半	5.1	—	0.6	4.8	—	—	3.2	—	精緻	堅緻	灰色がかった透明釉	— 回転ヘラケズリ成形
		676	SX 0266	00291	中国産白磁椀 大IV類−2a	11C後半~12C前半	—	—	0.7	6.2	—	—	—	—	精良 ス有り 黒色斑	堅緻	淡く不良 黄灰色	— —
83	141	686	SX 0369	00429	中国産青白磁椀	—	—	—	—	(6.6)	—	—	2.1	—	黒色粒比較的多く含む 灰白色	堅緻	釉は青白色(半透明)、全釉	外面には片彫りによる蓮弁文?、恐らく口禿か —
		687		00428	中国産青白磁椀	12C	—	—	0.8	〔5.5〕	—	—	(3.2)	—	黒色粒少量含む 白色	堅緻	釉は透明な青灰色	外底にはハマ痕 —
		688		00426	中国同安窯系青磁椀	12C後半~13C?	(17.2)	—	—	5.1	—	—	7.0	—	黒色粒比較的多く含む 灰白色	堅緻	釉は淡灰緑色、半透明	口縁~胴部1/2欠損 外部には粗い櫛で平行線を施す —
		693	SX 0389	00611	中国産青白磁口禿椀	12~13C	—	—	—	—	—	—	—	—	白色精良 磁器質	堅緻	2次被熱し乳白色不透明	— —
		694		00612	緑釉皿(国産か)	古代									淡褐色土師質きめ細かい	堅緻	緑色半透明釉釉層薄い 全面に施釉	ヘラケズリ
		695		00610	中国産白磁口禿椀	13C前半~14C前半	—	—	—	—	—	—	—	—	白色 磁器質精良	良好	淡く青味帯びた乳白色 半透明釉	—
		697		00609	中国龍泉窯青磁椀 大II類	13C前半	—	—	—	—	—	—	—	—	淡灰色磁器質精良	良好	淡青緑色透明釉 ガラス化している釉層淡く厚い	外面鎬蓮弁文 —
85	143	700	SX 0574	00654	中国産白磁椀 大VIII類	12C中~後半	(15.6)	—	—	(6.6)	—	—	5.9	—	かなり白い 磁器質 精良	堅緻	淡く青味を帯びた乳白色透明釉 ピンホール有り、内底輪状釉剥ぎ	
		701		00655	中国産白磁椀 大II類	11C後半~12C前半	(16.0)	—	—	(5.8)	—	—	6.0	—	淡灰白色 磁器質でない	堅緻	淡く黄味帯びた不透明釉 細かい氷裂入る 釉下に白化粧土をかける	広東省産
		702		00658	中国産青白磁小椀	—	—	—	—	(3.4)	—	—	—	—	淡灰白色 精良 磁器質	堅緻	青色透明釉	
		703		00657	中国産青白磁小椀	—	—	—	—	3.8	—	—	—	—	白色 精良 磁器質	堅緻	青白色 透明釉	内底に陽印刻文
		704		00659	中国産青白磁口禿椀	12~13C	—	—	—	—	—	—	—	—	白色 磁器質 精良	堅緻	淡く青味帯びた半透明釉	
		705		00661	中国産青白磁	—	—	—	—	—	—	—	—	—	わずかに灰色帯びた白色磁器質 精良	堅緻	淡青白色透明釉ガラス化している	
		706		00656	中国産無釉陶器鉢 大I類	11C後半~12C	—	—	—	—	—	—	—	—	わずかに赤味をおびた暗灰色 細かい白色砂粒と黒色粒多量 きめかなり粗い 硬陶質	良好		
		707		00660	中国産青白磁小壺	—	(2.6)	—	—	—	—	—	—	—	白色 磁器質 精良	—	淡青白色半透明釉 表面2次被熱したのか煮えている	
		708		00653	中国龍泉窯青磁椀 大II類	13C 前半	—	—	—	5.6	—	—	—	—	淡灰褐色 ガラス化していない 精良	—	暗オリーブ色 透明釉	
		716	SX 0689	00725	青磁椀	12C?	—	—	—	4~6	—	—	—	—	精良	良好	灰白~オリーブ灰透明釉	
		717		00724	中国産白磁椀 大V類	11C後半~12C前半	5.8	—	—	—	—	—	—	—	褐色粒含む	良好	灰白	— —
		720	SX 0690	00728	青磁椀	12C?	—	—	—	(4.2)	—	—	—	—	淡灰白色 精良 磁器質	—	内面に一部青磁釉が残るがとけた銅の付着により不明	破面と内面に溶解した銅が付着ルツボとして使用したものか
		721	SX 0702	00730	中国産白磁皿	11C後半~末	(11.4)	(5.6)	—	—	—	—	2.2	—	淡灰白色 精良 磁器質	—	透明釉ガラス化している (淡く灰色味ある) 内外氷裂入る	福建南部の製品、五輪花、内面白堆線、外底に墨書
		722	SX 0706	00733	中国産青白磁灯火台	11C後半~12C	—	—	—	—	—	—	—	—	白色 精良 磁器質	—	青白色透明釉、内面露胎黒変	外面ヘラ片彫り
		723		00732	中国産褐釉陶器皿	11C後半~12C前半	9.8	4.4	—	—	—	—	2.9	—	黒紅灰色 黒斑入る 硬陶質	—	かなり黒味の強い茶緑色 不透明釉釉層薄い、口縁端部釉剥ぎ	
86	144	724	SX 0742	00744	中国産青白磁合子身	—	—	—	—	(6.0)	—	—	—	—	白色 磁器質 精良	良好	青白色透明釉	畳付に黒色粒付着 型起し
		725		00745	中国産褐釉陶器皿	11C後半~12C前半	—	3.4	—		—	—	—	—	赤褐色 精良	—	暗黒茶色不透明釉 —	
		727	SX 0799	00794	中国産白磁椀 大V類	11C後半~12C前半	—	—	1.0	6.1	—	—	—	—	精緻 灰白色 微細な黒色砂含む	堅緻		外底に墨書あり「鄭尓」薄く「阿」か?、内底に櫛描文
		728	SX 0800	00796	中国産白磁 大III類2	12C中~後半	10.0	—	—	—	—	—	(2.4+α)	—	精緻	堅緻	オリーブ色の透明釉 発色良	
		729		00797	中国同安窯系青磁椀 大I類	12C中~後半	10.6	—	—	—	—	—	(4.5+α)	—	精緻	堅緻	緑灰色不透明釉	外面ヘラ片彫り 内面櫛目文
88	150	736	SX 0932	00905	中国産白磁皿 大VI類	11C後半~12C前半		—	—	(4.0)	—	—	—	—	淡黄白色 精良 完全磁器質でない	—	淡く黄味帯びた乳白色 半透明釉(発色不良) 気泡多い	
		737		00904	中国産白磁皿 大III類	12C中~後半	9.3	—	—	4.2	—	—	2.1	—	白色淡灰白色 磁器質 精良 空隙多い	—	淡黄白色不透明釉(釉下に白化粧している)	
		738		00919	中国産白磁椀 大VII類	12C後半代~13C前半	(19.8)	—	—	—	—	—	—	—	淡灰白色 磁器質 精良空隙多い	—	淡青灰色透明釉 ガラス化している	
		739		00922	中国龍泉窯青磁椀 大I類	12C中~後半	(16.8)	—	—	—	—	—	—	—	淡灰色 磁器質 精良	—		
		740		00920	中国同安窯系青磁椀 大I類	12C中~後半	(16.4)	—	—	—	—	—	—	—	淡灰色 精良 磁器質	—		
		741		00903	無釉陶器鉢 大I類	11C後半~13C	—	—	—	(9.4)	—	—	—	—	暗紅灰色 1mm位の白色砂粒多量 非常にきめ粗い	良好 硬陶質	淡く黄味帯びた透明釉 ガラス化している	
		742		00910	中国産白磁椀 大V類	11C後半~12C前半	—	—	—	6.0	—	—	—	—	白色 淡灰白色 磁器質精良	—	透明釉 ガラス化している ピンホール多い	
		743		00917	中国産白磁椀 大V類	11C後半~12C前半	—	—	—	5.8	—	—	—	—	淡灰白色 磁器質 精良	—		
		744		00912	中国産白磁椀 大V類	11C後半~12C前半	—	—	—	6.2	—	—		—	白色 淡灰白色 磁器質精良	—	淡く乳白色帯びた透明釉 ピンホール多い	
		745		00907	中国産白磁椀 大V類	11C後半~12C前半		—	—	(6.0)	—	—	—	—	淡灰白色 磁器質 精良空隙多い	—	透明釉 ガラス化している 気泡多い	
		746		00911	中国産白磁椀 大V類	11C後半~12C前半	(17.8)	—	—	6.0	—	—	(6.1)	—	淡灰色 磁器質 ザラつき 空隙多い	—	乳白色半透明釉	
		747		00908	中国産白磁椀 大V類	11C後半~12C前半		—	—	6.2	—	—	—	—	淡灰白色 磁器質 精良空隙多い	—		
		748		00913	中国産白磁椀 大V類	11C後半~12C前半	—	—	—	6.3	—	—		—	淡灰色 磁器質 精良 空隙多い	—	淡く灰色がかった透明釉 氷裂入る	
		749		00914	中国産白磁椀 大V類	11C後半~12C前半	—	—	—	6.1	—	—	—	—	淡灰色 磁器質 ザラつきあり 空隙多い	—	淡く黄味帯びた透明釉 ガラス化している ピンホール多い	
		750		00916	中国産白磁椀 大V類	11C後半~12C前半	—	—	—	6.3	—	—	—	—	淡灰白色 磁器質 わずかにザラつきあり	—	透明釉 ガラス化している	
		751		00915	中国産白磁椀 大V類	11C後半~12C前半	—	—	—	5.8	—	—	—	—	淡灰白色(わずかに褐色味)ザラつきあり 磁器質 空隙多い	—	透明釉 ガラス化している	
		752		00909	中国産白磁椀 大V類	11C後半~12C前半	—	—	—	6.2	—	—	—	—	白色 淡灰白色 磁器質精良	—	透明釉 ガラス化している	
		753		00906	中国産白磁椀 大V類	11C後半~12C前半	(8.0)	—	—	(6.4)	—	—	6.6	—	黄白色 精良 完全にガラス化していない 空隙多い	—	淡く黄味帯びた透明釉 ガラス化している 気泡少しあり	
90	152	755	SX 1008	00982	中国産白磁椀 大IV類	11C後半~12C前半	—	—	—	7.6	—	—		—	淡黄白色 空隙多い 磁化していない		発色不良 白色 淡灰白色不透明釉ピンホール多い	
		756		00983	中国産白磁椀 大VIII類	12C中~後半	(16.8)	—	—	6.5	—	—	(7.6)	—	淡灰白色 空隙多い 磁器質	—	淡く青味おびた透明釉	

頁	挿図番号	遺物番号	出土遺構	遺物登録番号	器種器形分類	時期	法量(cm) 口径又は長さ	底径	高台 高さ	高台 直径	胴部径	幅	器高	厚さ	胎土又は材質	焼成	色調又は釉調	成形・調整の特徴 その他 特記事項
90	152	757	SX 1008	00984	中国産白磁四耳壺	11C後半～12C前半	－	－	－	－	－	－	－	－	かなり白い(わずかに灰色がかる) 精良 空隙多い 磁器質	－		広東か？
		768	SX 1060	01042	無釉陶器鉢 大I類	11C後半～13C	－	－	－	－	－	－	－		赤褐色 1mm位の白色砂粒極めて多量に含む かなり粗い	極めて良好	－	内面使用によりかなりすれている 外底一部に白土が付着
		772	SX 1067	01064	中国産白磁皿 大III類	12C中～後半	－	－	－	3,4	－	－	－		白色 淡灰白色 磁器質精良	－	淡く黄味おびた透明釉	
		773		01065	中国産白磁小壺	11C後半～12C	(10.4)	－	－	－	－	－	－		白色 極めて精良 磁器質	－	オリーブ色透明釉 良くとけガラス質	
		774		01066	中国同安窯系青磁皿 大I類	12C中～後半	10.8	4.7	－	－	－	－	2.2	－		－		
		776	SX 1074	01068	中国産白磁椀 大V類	11C後半～12C前半	(16.0)	－	－	－	－	－	－	－	白色 磁器質 精良	－	乳白色不透明釉 全く発色不良 ピンホール多い、内底輪状釉剥ぎ	
		777		01069	中国産白磁椀 大VIII類	12C中～後半	(15.4)	－	－	(7.0)	－	－	5.8	－	橙黄色 磁化していない空隙多い	－		
		779	SX 1075	01072	中国産白磁椀 大VIII類	12C中～後半	－	－	－	7.1	－	－	－	－	白色 淡褐色 きめ細かい精良 白色 磁器質 中に黒斑入る			
		780		01070	中国産白磁椀	11C後半～12C前半	14.8	－	－	6.5	－	－	5.9	－	淡黄白色 完全磁化していない 空隙多い	－		
		786	SX 1078	01080	中国同安窯系青磁椀 大I類	12C中～後半	(14.8)	－	－	－	－	－		－	淡灰褐色 磁器質 精良	－		12C中～後
		787		01079	中国産白磁？椀	12C中～後半	(15.6)	－	－	(6.8)	－	－	5.4	－	灰色 磁器質	－		福建浦口窯か、同安窯の系統
91	153	788	SX 1100	01248	灰緑色釉陶器壺	12C～13C	(8.2)						7.8		黒色粒比較的少なく含む灰色～明褐色	良好	淡緑白色(釉下に化粧掛け)	外底に墨書(判読は不可能) 底部1/4欠損
		789		01249	中国産白磁椀 大II類	11C後半～12C前半	(14.8)	5.0		5.5			5.5		灰色の胎土 黒色砂粒	良好		体部外面、口縁部以下ヘラケズリ
		790		01247	ガラス製玉		0.5(孔径0.3)										不透明灰緑色 深い青	重さ 0.1g
		791	SX 1136	01283	中国産白磁椀 大V類	11C後半～12C前半	(12.4)								黒色砂粒含む	良好	灰白色	内面に一条の沈線をめぐらす 内面に櫛目文
		792		01282	中国産白磁椀 大V類	11C後半～12C前半	(13.6)								黒色砂粒含む	良好	緑がかった灰色	外面口縁部～体部中ほどまで釉が厚めにかかる 口縁部を小さく丸め、玉縁状につくる
		793		01281	中国産白磁椀 大V類	11C後半～12C前半									灰色 黒色砂粒	良好	灰白色	口縁部に厚く釉がかかる 内面口縁部付近、見込部に一条ずつ段をもつ 口縁部はくちばし状に外反
		794		01280	中国産白磁椀 大V類	11C後半～12C前半				5.8					精緻	良好	緑がかった灰色	外底に墨書有(「十」?)
		795		01277	中国産陶器壺 大IV類		(8.4)						4.5		褐色粒、黒色粒多く含む 暗褐色	良好		口縁上面には目跡がある 口縁部1/8残存
		797	SX 1145	01284	中国産白磁椀 大IV類		16.0	6.4		13.5			6.6		灰白色で精緻	良好	灰白～灰黄白色	内外面口縁部付近の釉は厚くかかる体部下半～高台は露胎
95	162	799	SX 1228	01168	中国産白磁椀 大V類	11C後半～12C前半	6.1	－	－	－	－	－	－		白色 淡灰白色 磁器質空隙多い	－	淡灰白色不透明釉 ピンホール多い	
		800		01169	中国産白磁椀 大VIII類	12CC中～後半	(14.2)	－	－	－	－	－	－		淡灰白色 磁器質 空隙多い	－	黄緑色不透明釉	
		801		01170	中国産黄釉耳壺 大III類	12C～	(14.8)	－	－	－	－	－	－		淡褐色 わずかにザラつく	－		安徽省磁灶窯
		806	SX 1424	01420	中国産白磁皿 大VI類	11C後半～12C前半	12.7	4.5	－	－	－	－	2.9	－	精緻	堅緻		広東、内底に界線あり 体部下半露胎(1/4) 外面回転ヘラケズリ
		808	SX 1516	01620	高麗青磁瓶	11～12C	(8.6)	－	－	－	－	－	－		淡灰色 細かい白色砂粒少量 わずかに粗い		黄味の強い淡オリーブ色不透明釉 白濁する	
		810	SX 1704	01765	中国産白磁皿 大VI類	11C後半～12C前半	(10.8)	(3.7)	－	－	－	－	2.6		淡灰褐色 精良			
		812	SX 1705	01767	中国産白磁椀 大IV類	11C後半～12C前半	(18.0)	－	－	－	－	－	－		淡灰白色 磁器質 空隙多い			
		822	SX 1720	01777	中国同安窯系青磁椀	12C後半	－	－	－	(6.2)	－	－	－		淡灰白色 磁器質 精良			
97	169	829	SE 1494	01706	中国産白磁水注？	－	－	－	－	－	－	－	－		黒色粒少量含む.乳白色.	良好		外面にヘラ状工具によるヘラ彫
		830		01751	中国産白磁椀 大VIII類	12C中～後半	(15.0)			(6.4)			5.8		淡灰白色 磁器質 空隙多い			
		833	SE 1621	01736	中国産白磁椀	11C後半～12C前半	(15.0)	(5.8)	－	－	－	－	6.3		灰白色 精良 磁器質 空隙あり		黄味がかった透明釉 ガラス化している	833、834は同じタイプ。高台は白磁V類と似るが福建南部の可能性あり
		834		01737	中国産白磁椀	11C後半～12C前半	(15.6)	(5.0)	－	－	－	－	6.2		灰白色 精良 磁器質			
99	174	839	SX 0125	00148	中国産白磁椀 大V類1cか	11C後半～12C前半	16.0	－	－	－	－	－		－	精緻	堅緻	透明釉	内面には短めの櫛描文 口縁端部までヘラケズリ
		840		00147	中国産白磁椀 大V類	11C後半～12C前半	17.4	－	－	－	－	－	(7.5～8.0)	－	精緻	堅緻	灰色がかった透明釉	内面には3条の界線
		843	SX 0638	00707	中国産白磁皿 大III類－1	12C中～後半	(10.8)	－	－	(5.0)	－	－	3.0	－	精良	良好	灰白10Y8/1、内底輪状釉剥ぎ	
		844		00709	中国産白磁皿 大VI類－2a	11C後半～12C前半	(10.6)	(4.0)	－	－	－	－	2.7	－	褐色粒含む	良好	浅黄5Y7/4	広東 －
		845		00716	中国龍泉窯青磁椀 大II類	13C前半	－	－	－	－	－	－	－	－	精良	良好	オリーブ灰2..5GY5/1	外面蓮弁文
		846		00708	中国産白磁皿 大III類－I	12C中～後半	(10.8)	－	－	(4.6)	－	－	2.6	－	黒褐色粒含む	良好	オリーブ黄7.5Y6/3、内底輪状釉剥ぎ	
		847		00711	中国産白磁椀 大IV類	11C後半～12C前半	(16.4)	－	－	(5.0)	－	－	7.1	－	黒色粒含む	良好	淡黄2.5Y8/3	玉縁口縁
		848		00713	中国産白磁椀 大V類	11C後半～12C前半	(16.6)	－	－	－	－	－	4.6	－	黒褐色粒含む	良好	灰白5Y8/2	－
		849		00712	中国産白磁椀 大V類	11C後半～12C前半	－	－	－	(6.2)	－	－	5.4	－	黒褐色粒含む	良好	淡黄2.5Y8/3	－
		850	SX 0711	00742	中国産褐釉陶器小壺	12～13C?	(4.8)	－	－	－	－	－	－	－	暗灰色かなり細かく精良	良好	暗茶褐色不透明釉(2度掛けしている)	安徽省磁灶窯
		851		00741	中国産白磁壺？	11C後半～12C前半	－	－	－	(7.2)	－	－	－	－	淡灰色 微細な黒斑入る完全磁器質でない	良好	水色帯びた半透明釉、内面露胎	(855と同一個体？)
		852	SX 0638	00714	中国産白磁椀 大V類	11C後半～12C前半	6.2	－	－	－	－	－	－	－	黒色粒含む	良好		外底に墨書 －
		853	SX 0711	00737	中国産白磁皿 大VI類	11C後半～12C前半	(10.8)	(3.2)	－	－	－	－	2.4	－	淡灰白色 微細な黒斑入る 完全磁器質でない	良好	淡く黄味帯びた淡灰白色不透明釉溶けていない、釉下に化粧掛け)	広東
		854		00735	中国産白磁椀 大II類	11C後半～12C前半	(13.8)	－	－	－	－	－	－	－	淡灰色 微細な黒斑入る完全磁器質でない	良好	透明釉 ガラス化している(釉下に白化粧なし)	広東 外面釉下ヘラ削り
		855		00740	中国産白磁四耳壺	11C後半～12C前半	－	－	－	－	－	－	－	－	淡灰白色 微細な黒斑入る 完全磁器質でない	良好	水色かかった透明釉 ガラス化している 2次被熱している	広東
		856		00739	中国産白磁椀 大V類	11C後半～12C前半	－	－	－	(6.0)	－	－	－	－	淡灰白色隙間多い磁器質	良好	淡く黄味帯びた透明釉 ガラス化している	ヘラケズリ
102	176	860	SX 0599	00679	中国産白磁皿 大VI類	11C後半～12C前半	(11.4)	－	－	－	－	－	－	－	淡灰白色 完全磁器質でない 精良	－	淡く黄味帯びた不透明釉 釉層薄い	(北宋後半～南宋前)
		862		00676	中国産白磁皿	11C後半～12C前半	(11.4)	(5.8)	－	－	－	－	2.2	－	白色 精良 磁器質	－	淡く灰色がかった透明釉	福建南部の製品、内面白堆線、外底に墨書
		863		00681	中国産白磁椀 大V類	11C後半～12C前半	－	－	－	(6.2)	－	－	－	－	淡褐色 磁化していない空隙多い	－	淡く灰色かかった不透明釉 発色不良 ピンホール多い	外底に墨書
		864		00675	中国産白磁椀	11C後半～12C前半	－	－	－	(7.0)	－	－	－	－	白色 淡灰白色 黒色粒入る 磁器質	－	乳白色不透明釉、内底輪状釉剥ぎ	
		865		00677	中国産白磁椀 大IV類	11C後半～12C前半	(15.4)	－	－	－	－	－	－	－	淡灰白色 磁器質 空隙多い	－	乳白色 不透明釉 ピンホールあり	
		866		00678	中国産白磁椀	12C前半	(16.2)	－	－	－	－	－	－	－	淡灰白色 磁器質 空隙多い	－	淡く水色おびた乳白色 半透明釉 ピンホールあり	
		867		00680	白覆輪天目椀	11C後半～12C前半	－	－	－		－	－	－	－	淡灰白色磁質	－	黒茶色半透明釉、口縁端部は釉剥ぎ後透明釉施釉	
		868		00682	無釉陶器鉢 大I類	11C後半～12C	－	－	－	－	－	－	－	－	暗紅灰色 約1mmの砂粒を多量含む きめ粗い 硬陶質	良好		使用により表面摩耗
		870	SX 0600	00686	中国産白磁椀 大VIII類	12C中～後半	－	－	－	(6.0)	－	－	－	－	黒色粒含む	良好	灰白7.5Y7/1、内底輪状釉剥ぎ	
		871		00687	中国龍泉窯青磁皿 大I類－1a	12C中～後半	12.5	4.3		－	－	－	3.1		褐色粒含む	良好	灰オリーブ7.5Y6/2	－－

頁	挿図番号	遺物番号	出土遺構	遺物登録番号	器種 器形 分類	時期	法量(cm) 口径又は長さ	底径	高台 高さ	高台 直径	胴部径	幅	器高	厚さ	胎土又は材質	焼成	色調又は釉調	成形・調整の特徴 その他 特記事項
102	176	872	SX 0600	00690	中国産黄釉陶器鉄絵盤	12C～13C	-	–	–	–	–	–	–	–	砂粒　褐色粒多い	良好	浅黄色5Y7/3黄釉鉄絵	安徽省磁灶窯
		873		00689	中国産陶器壺 大V類	13～14C	(10.0)	–	–	–	–	–	11.0	–	褐色粒含む	良好	灰黄褐色10YR4/2	–
		874		00688	中国産陶器耳壺 大VI類	12C～13C		(10.0)	–	–	–	–	12.0	–	わずかに砂粒含む	良好	(外)浅黄5Y7/3(内)灰白5Y7/2	– –
		878	SX 1187	01095	無釉陶器鉢 大I類	11C後半～12C	–	–	–	–	–	–	–	–	暗紅灰色　1～2mmの白色砂粒多量　粗い	良好 硬陶質		
		879		01096	中国産中国産褐釉陶器急須	11C後半～12C	–	–	–	–	–	–	–	–	暗紅灰色　細かい白色砂粒少量　わずかに粗い	–	黒褐色不透明釉	安徽省磁灶窯
		880		01093	中国産白磁椀 大IV類	11C後半～12C前半	–	–	–	6.9	–	–	–	–	白色　淡灰白色　磁器質	–	乳白色不透明釉	
		881		01094	中国産白磁椀 大II類	11C後半～12C前半	–	–	–	5.7	–	–	–	–	淡灰白色　精良　磁器質でない	–	乳白色半透明釉(釉下に化粧掛)	広東
		889	SX 1223	01146	中国産白磁椀 大IV類	11C後半～12C前半	(16.4)	–	–	–	–	–	–	–	淡灰白色　磁器質　空隙多い	–	淡青灰色不透明釉	
		890		01147	青灰釉陶器長瓶	11C後半～12C前半	–	5.9	–	–	–	–	–	–	淡褐色～淡灰色　硬陶質細かい白色砂粒少量	–		
		894	SX 1227	01163	中国産白磁椀 大VII類	12C中～後半	–	–	–	7.1	–	–	–	–	淡灰白色　空隙多い　磁器質	–	淡灰白色不透明釉　ピンホール	
		895		01162	中国産白磁椀 大VII類	12C中～後半	(16.2)		–	–	–	–	–	–	白色　磁器質　精良	–	淡く青味帯びた乳白色半透明釉　ピンホール、内底輪状釉剥ぎ	
		896		01164	中国産白磁椀	11C後半～12C前半	(15.4)	–	–	(6.0)	–	–	5.8	–	黄白～淡橙色　ガラス化していない　空隙多い	–		833、834と同タイプ。福建南部産か
104	180	910	SB 1241	01203	中国産白磁皿 大VI類	11C後半～12C前半	(10.2)	(3.2)	–	–	–	–	2.8	–	淡灰白色　わずかに褐色がかる　精良	–	淡黄白色不透明釉	
		911		01204	中国産白磁皿 大VI類	11C後半～12C前半	(10.8)	(3.6)	–	–	–	–	2.5	–	淡黄白色　精良　磁器質でない	–	青味帯びた透明釉	
		912		01205	中国産白磁皿	11C後半～末	–	(3.6)	–	–	–	–	–	–	淡灰白色　白っぽい　磁器質　精良	–	黒褐色　不透明釉	福建南部か
		913		01202	青磁椀	12C中～後半	(16.0)	–	–	–	–	–	–	–	淡灰白　微細な黒斑入るわずかに粗い	–	淡く黄味おびる透明釉(釉下に化粧掛けする)	福建省浦口窯か
		914		01201	中国産白磁椀 大VIII類	12C中～後半	(15.8)	–	–	(6.4)	–	–	5.8	–	白色　磁器質　空隙多い	–	淡緑灰色透明釉	
		915		01211	中国産白磁椀	12C中～13C初?			–	(6.2)	–	–		–	白色淡灰白色　空隙多い磁器質	–		
		916		01200	中国産白磁椀 大VIII類	12C中～後半	13.6	–	–	5.7	–	–	4.2	–	白色淡灰白色　磁器質	–	淡灰白色透明釉　氷裂入る、内底輪状釉剥ぎ	
		917		01208	中国産褐釉陶器耳壺 大II類	12～13C	(13.6)	–	–	–	–	–	–	–	淡灰色　白色、黒色砂粒多い　粗い	–		安徽省磁灶窯
		918		01206	中国産褐釉陶器小壺	12～13C?	(5.4)	–	–	–	–	–	–	–	淡灰色　細かい　中に黒斑入る　硬陶質	–	黒褐色不透明釉	安徽省磁灶窯
		919		01207	中国産褐釉陶器盤	12～13C?	(20.2)	(13.0)	–	–	–	–	6.0	–	淡灰色　精良　緻密　硬陶質	–	暗黄茶色不透明釉	安徽省磁灶窯
		920		01290	中国産緑釉陶器瓶	–	–	–	–	–	–	–	–	–	細い黒色粒比較的多く含む　淡褐色	良好		
106	183	931	SX 1219	01119	中国産白磁椀 大V類	11C後半～12C前半	–	–	–	(5.2)	–	–	–	–	黄白色　空隙多い　ガラス化していない	–	わずかに灰色がかった乳白色　半透明釉　ピンホール多い	
		932		01118	中国産白磁椀	11C後半～末	–	–	–	(4.8)	–	–	–	–	白色淡灰白色　磁器質	–	黄味おびた透明釉　良く溶けている	福建南部産?
		933		01120	中国産白磁小壺蓋	11C後半～末	3.3	–	–	–	–	–	1.3	–	淡灰白色　精良　磁器質でない	–	乳白色不透明釉	広東
108	186	938	SE 1297	01329	中国産白磁皿 大VI類	11C後半～12C前半	(10.8)	–	–	–	–	–	–	–	精緻	良好	不透明淡褐色	広東
		939		01328	中国産白磁皿 大VI類	11C後半～12C前半	(11.0)	(3.8)	–	–	–	–	2.2	–	細かい黒斑が多く含む	良好	黄味がかった灰色	広東
		942		01318	中国産青白磁椀	12C代か	(5.6)	–	–	–	–	–	2.4	–	黒色粒多く含む　白色	良好		内面にはヘラ彫りと櫛描文
		943		01317	中国産白磁水注		(8.7)	–	–	–	–	–	3.0	–	黒色粗比較的多く含む　灰白色	良好	ガラス質　透明感はある　青白色	口縁部1/8残存
	188	944	SE 1456	01460	玉製环か	–	–	(4.5)	–	–	–	–	(0.3+α)	–	白色硬玉　硬度はガラスより硬い		黄白色　発色不良	全面磨研
		955		01459	中国産青白磁水注蓋?	–	3.3	–	–	–	–	–	1.9	–	精緻	堅緻		空気抜きの穿孔有
		956		01442	中国産青白磁合子蓋	12C～13C	7.5	天井部5.5	–	–	–	–	2.2	–	精緻	堅緻		広東
		957		01446	中国産白磁皿 大VI類1a	11C後半～12C前半	10.9	3.2	–	–	–	–	3.0	–	精緻	堅緻		広東 底部～外面ヘラケズリ
		958		01445	中国産白磁皿 大VI類1a	11C後半～12C前半	10.5	2.8	–	–	–	–	2.4～2.9	–	精緻　微細な白色、黒色砂含む	堅緻	緑灰～黄緑灰色のうすい不透明釉	底部～外面ヘラケズリ
		959		01461	中国産白磁皿 大VII類	11C後半～12C前半	10.4	4.3	–	–	–	–	2.7	–	精緻　白色砂、黒色砂を含む	堅緻ある わずかに不良		内底にヘラ片彫りによる蓮花文を施文
		960		01444	中国産白磁小椀	12C	–	–	0.8	3.6	–	–	(2.8+α)	–	精緻	堅緻	緑灰～黄緑灰色のうすい不透明釉	内面ヘラ彫り霊文、花文
		961		01457	中国産白磁小椀	11C後半～12C前半	10.0	–	–	–	–	–	(1.6+α)	–	精緻	堅緻	灰緑色がかった透明釉、内面口縁下は露胎	口縁部に鉄絵、磁州窯
		962		01441	中国産褐釉陶器皿	11C後半～12C前半	10.0	4.0	–	–	–	–	2.7～2.95	–	精緻	堅緻	淡く青味がかった透明(発色不良)	
		963		01440	中国産褐釉陶器皿	11C後半～12C前半	10.2	3.6	–	–	–	–	2.15～2.6	–	精緻	堅緻		内面体部中央に弱い界線有り
		964		01458	高麗青磁瓶	12C～	3.6	–	–	–	–	–	(1.8+α)	–	精緻　灰色、微細な白、黒色砂をわずかに含む	堅緻	青味ある透明釉	
109	189	967	SE 1622	01740	中国産白磁皿 大V類	11C後半～12C前半	13.1	4.9	–	–	–	–	3.4	–	淡灰白色　磁器質		淡オリーブ色不透明釉	
		968		01741	中国産黄釉陶器鉄絵盤	11C後半～12C前半	–	–	–	–	–	–	–	–	淡灰白色　細かい白、黒色砂粒多い　きめ粗い			安徽省磁灶窯
		972	SE 1669	01756	中国産白磁皿 大IV類	11C後半～12C前半	(11.0)	(4.4)	–	–	–	–	2.7	–	淡黄白色　空隙多い　ガラス化していない			
		973		01755	中国産白磁椀	11C後半～12C前半		–	–	6.0	–	–	–	–	白色　精良　磁器質		黄白色不透明釉　ピンホール多い	
	190	980	SE 1541	01656	中国産白磁椀 大II類	11C後半～12C前半	(16.2)	–	–	(6.0)	–	–	6.2	–	灰白色　精良			
		981		01660	中国産青白磁椀	11C後半～12C前半	–	–	–	–	–	–	–	–	白色　精良　磁器質		茶褐色不透明釉	
		982		01663	中国産白磁椀	12C後半～13C前半?	(16.2)	–	–	(6.0)	–	–	6.9	–	黄白～灰白色　細かいすきま多		淡オリーブ色透明釉、内底輪状釉剥ぎ	福建浦口窯
		983		01664	中国産同安窯系青磁椀	13C前半頃	–	–	–	(7.0)	–	–	–	–	淡褐色～淡赤褐釉　空隙多くかなり粗い		淡緑褐釉不透明釉	福建浦口窯の製品の可能性がある
		984		01662	中国産無釉陶器蓋	12C?	(10.6)	–	–	–	–	–	–	–	灰色　細かい白、黒色粒多い　わずかに粗い　硬陶質		青味がかった淡灰白色　半透明釉	安徽省磁灶窯
		985		01661	中国産褐釉陶器急須	11C後半～13C	(12.0)	–	–	–	–	–	–	–	灰色　細かい白、黒色粒多い　わずかに粗い　硬陶質			安徽省磁灶窯
		986		01665	中国産褐釉陶器鉢 大VI類	12C後半～13C前半	–	–	–	–	–	–	–	–	淡灰褐色　細かい黒斑入るが細かい			
110	191	991	SE 1777	01812	中国産白磁椀 大V類	11C後半～12C前半	12.8	–	1.0	4.0	–	–	(4.0+α)	–	精緻　灰白色、微細な黒色斑	堅緻		外面ヘラケズリ
114	198	1022	SX 0782	00755	中国産白磁 大V類	11C後半～12C前半	18.2	–	–	(6.4)	–	–	6.7	–	淡黄白色　精良だがすきま多い完全ガラス化していない	不良	淡黄白色不透明釉発色不良気泡多い	外底に墨書「大」—
		1023		00754	中国同安窯系青磁椀	12C後半～13C前半?	16.3	–	–	6.8	–	–	5.4	–	暗灰色　精良だがすきま多い	不良	淡い緑灰色不透明釉　白濁する発色不良、内底輪状釉剥ぎ	福建建江浦口窯あたり —
116	202	1043	SX 1544	01681	中国産白磁皿 大VI類	11C後半～12C前半	10.2	3.0	–	–	–	–	2.9	–	黒色粒少量含む.乳白色.	良好		
		1044		01679	中国産白磁皿 大II類	12C中～後半	10.8	–	0.5	6.0	–	–	3.2	–	黒色粒多く含む.灰白色.	良好	淡緑褐色ガラス質.	
		1045		01675	中国産白磁椀 大VIII類	12C中～後半	15.8	–	1.0	6.2	–	–	5.4	–	黒色粒・気泡多く含む.淡灰褐色.	良好	淡灰白色淡く透明.	

頁	挿図番号	遺物番号	出土遺構	遺物登録番号	器種 器形 分類	時期	法量(cm) 口径又は長さ	底径	高台 高さ	高台 直径	胴部径	幅	器高	厚さ	胎土又は材質	焼成	色調又は釉調	成形・調整の特徴 その他 特記事項
104	202	1046	SX 1544	01676	中国産白磁椀 大IV類	11C後半～12C前半	16.2	—	—	—	—	—	—	—	黒色粒・気泡径7mm以下多く含む.灰白色.	良好	淡灰色不透明釉	
		1047		01678	中国産白磁椀 大V類	11C後半～12C前半	18.0	—	—	—	—	—	—	—	黒色粒多量に含む.淡褐色.	良好	灰白色透明感なし.	内面に櫛描文
		1048		01677	中国産白磁椀 大V類	11C後半～12C前半	16.6	—	1.7	5.9	—	—	6.9	—	黒色粒・気泡多く含む.淡灰色.	良好	緑がかった淡灰色	内面に沈線.全周しない.
		1049		01680	中国同安窯系青磁椀	12C中～後半	—	—	0.9	5.0	—	—	—	—	黒色粒多く含む.淡灰褐色.	良好	淡黄褐色ガラス質.	外面に縦方向の櫛目.内面にヘラによる花文と櫛による刺突雷光文.
117	203	1058	SX1005	00967	中国産白磁皿 大VI類	11C後半～12C前半	(10.0)	(2.2)	—	—	—	—	(2.9)	—	白味の強い淡灰褐色 精良	—	青味がかった透明釉	広東
		1059		00964	中国産白磁皿 大III類	12C中～後半	10.4	—	0.5	4.4	—	—	2.6	—	かなり白い わずかに灰色味 磁質 精良	—	淡灰白色不透明釉 気泡多い	
		1060		00965	中国産白磁椀 大V類	11C後半～12C前半	(16.4)	—	—	—	—	—	—	—	淡灰白色 精良 磁器質 空隙多い	—	淡く黄味帯びた半透明釉 氷裂多い	
		1061		00962	中国産白磁椀 大VIII類	12C中～後半	(15,0)	—	0,9	(6.4)	—	—	5.7	—	淡灰白色 磁器質	—	淡く青味帯びた透明釉、内底輪状釉剥ぎ(白泥付着)	
		1062		00963	中国産白磁椀 大VIII類	12C中～後半		—	1.1	(7.0)	—	—		—	灰白色 磁器質 精良	—	淡灰白色不透明釉、内底輪状釉剥ぎ	
		1063		00966	中国産白磁椀 大V類	11C後半～12C前半	(17.6)	—	—	—	—	—	—	—	淡灰褐色 空隙多い 完全ガラス化していない	—	黄味帯びた透明釉	
		1064		00961	中国産白磁椀	12C中～後半	(19.2)	—	—	—	—	—	—	—	淡灰白色 鉄分多く表面に褐色斑点が多い	—	淡く青味帯びた透明釉 ガラス化している、内底輪状釉剥ぎ(白泥付着)	おそらく内底は輪状釉ハギと思われる
		1065		00968	中国同安窯系青磁椀	12C前半	—	—	1.1	4.2	—	—	—	—	淡灰色 硬陶質	—	—	外底墨書あり
		1066		00960	中国産龍泉窯系青磁皿	12C前半	(12.0)	—	—	—	—	—	—	—	淡灰白色 磁器質	—	白色 淡灰白色不透明釉 気泡多い	内底片ヘラによる草花文
		1067		00959	中国産龍泉窯系青磁椀	12C前半	5.0	—	—	—	—	—	0.7	—	淡灰色 精良 磁器質	—	淡オリーブ色 黄味強い ガラス化している	
118	204	1076	SX 1232	01185	中国産白磁皿 大VI類	11C後半～12C前半	10.1	—	—	3.3	—	—	2.7	—	淡灰白色 精良	—	淡く黄味おびた透明釉 (釉下に化粧掛け)	
		1077		01186	中国産白磁椀 大II類	11C後半～12C前半	(15.8)	—	—	(5.6)	—	—	6.1	—	淡灰褐色 精良 磁器質でない	—	—	
		1078		01182	中国産白磁椀 大V類	11C後半～12C前半	—	—	—	—	—	—	—	—	淡灰白色 磁器質 空隙多い	—	—	
		1079	SX 1301	01331	中国産白磁皿 大VI類	11C後半～12C前半	(11.8)						2.4	—	砂粒少なく含む 約1cm細長い気泡が含む 灰白色	良好		
		1080		01330	中国産黄釉陶器鉄絵盤	12～13C							1.8	—	褐色、黒色、白色粒1mm以下比較的多く含む 淡褐色	良好	ガラス質 不透明 淡灰褐色	安徽省磁灶窯、内面鉄絵
		1081	SX 1320	01217	中国産白磁小壷蓋	11C後半～12C前半	径2.4	—	—	—	—	2.3	1.2	—	精緻	堅緻	黄灰色がかった透明釉	中国広東省 偏平な宝珠形に回転ヘラ削りで仕上げている
		1082		01216	中国産青白磁合子身	12C～	4.8	—	—	—	6.3	—	(3.4+α)	—	精緻 白色、微細な黒色斑含む	堅緻	淡黄灰色がかった透明釉	体部内面中央にやや上部に段がある
		1083		01214	中国産白磁皿 大VI類	11C後半～12C前半	10.0	3.3	—	—	—	—	2.9～3.2	—	精緻 灰白色、微細な黒色斑含む	堅緻	灰白色がかった透明釉	外面ロクロ回転ヘラ削り
		1084		01218	中国産白磁椀 大II類	11C後半～12C前半	15.2	—	0.8	5.6	—	—	5.9	—	精緻 明黄灰色微細な白、黒色砂含む	堅緻	—	外面回転ヘラ削り
		1085		01215	中国産白磁椀 大IV類	11C後半～12C前半	17.2	—	—	—	—	—	(5.0+α)	—	精緻 明灰白色で黒色斑多く含む	堅緻	淡く水色がかった透明釉 体部下部は露胎	外面ロクロ回転ヘラ削り
119	205	1087	SX 1413	01378	中国産白磁皿 大VI類	11C後半～12C前半	10.0	3.5	—	—	—	—	3.0	—	精緻	堅緻	淡黄色の半透明釉	外面回転ヘラケズリ
		1088		01379	中国産白磁椀 大II類	11C後半～12C前半	16.6	—	—	—	—	—	(3.3+α)	—	精緻	堅緻	—	外面回転ヘラケズリ
		1092		01376	中国産白磁椀	11C後半～12C前半	15.9	—	1.0	7.1	—	—	6.5	—	精良 白砂、黒色砂を含む	堅緻	明灰白色がかった透明釉、内底輪状釉剥ぎ	六輪花になる 外面ロクロ回転ヘラケズリ
		1093		01377	中国産白磁椀 大VIII類	12C中～後半	—	—	0.9	5.8	—	—	(3.7+α)	—	精緻	堅緻	淡く黄色がかった半透明釉	外面ロクロ回転ヘラケズリ
121	208	1094	SX 1550	01708	中国産白磁椀	11C後半～12C前半	13.1	—	1.1	5.5	—	—	5.1	—	黒色粒・気泡多く含む.淡灰色.	良好	緑色ガラス質だが不透明	内底、高台内に付着物あり
		1095		01709	中国産緑釉陶器盤	—	(小破片)	—	—	—	—	—	—	—	白色粒を含む砂粒が多く含む.淡褐色.	良好	暗茶褐色	内面に沈線による施文 安徽省磁灶窯
		1096	SX 1584	01724	中国産白磁皿 大II類	11C後半～12C前半	9.1	—	0.5	4.9	—	—	—	—	黒色粒多量.淡灰色～淡褐色	良好	ガラス質透明感ある、氷裂あり	
		1097		01720	中国産白磁椀 大IV類	11C後半～12C前半	—	—	—	(7.8)	—	—	—	—	白色淡灰白色 磁器質 空隙多い		淡く乳白色おびた透明釉	
		1098		01725	中国産白磁椀 大V類	11C後半～12C前半	13.2	—	0.6	5.2	—	—	4.2	—	黒色粒気泡多い.淡褐色.	良好		内面に片彫りの花文・櫛描きあり.
		1099		01721	中国産白磁椀 大V類	11C後半～12C前半	—	—	—	(6.8)	—	—	—	—	白っぽい淡灰白色 磁器質 空隙多い		発色悪く不明 淡いオリーブ色	
		1100		01722	中国産陶器耳壷 大VI類	12～13C	—	—	—	(8.4)	—	—	—	—	灰色 空隙多い			
		1103	SX 1642	01746	中国産白磁皿	11C後半～12C前半	(12.2)	—	—	—	—	—	—	—	淡灰色 磁器質 空隙多い			
		1104		01745	中国産白磁椀 大IV類	11C後半～12C前半	—	—	—	(7.0)	—	—	—	—	淡灰白色 磁器質 空隙多い		淡く青味帯びた乳白色不透明釉 ピンホール多い	
122	211	1105	SX 1584		高麗陶質土器	12C後半	—				93.5	—			暗灰色 精良	良好	暗灰～黒灰色	底部は平底か
123	212	1111	SP 1002	00958	中国同安窯青磁皿 大I類	12C中～後半	(11.2)	—	—	(5.2)	—	—	2.1	—	淡灰白色 精良 磁器質	—	オリーブ色透明釉 ガラス化している 淡オリーブ色透明釉 良く溶けている	
		1113	SX 1010	00989	中国産白磁皿 大VI類	11C後半～12C前半	10.6	3.2	—	—	—	—	2.6	—	かなり白い わずかに灰色味 磁器質でない 精良	—	— 黄味の強い淡黄白色不透明釉(たぶん白化粧を釉に施す)	
		1114		00990	中国産白磁椀 大V類	11C後半～13C前半	15.1	—	—	6.8	—	—	5.8	—	淡黄白色 ガラス化していない 空隙多い	—	— 灰色がかった半透明釉 ピンホール多い	
		1115		00992	中国産白磁椀 大V類	11C後半～12C前半	(16.6)	—	—	—	—	—	—	—	淡灰白色 磁器質 精良空隙多い	—	— 乳白色半透明釉 ピンホール多い	
		1116		00991	中国産白磁椀 大V類	11C後半～12C前半	—	—	—	6.0	—	—	—	—	白色わずかに灰色味 磁器質 精良	—	— わずかに青み帯びた乳白色透明釉	
		1117		00993	中国産黒釉天日椀	12C～13C	—	—	—	(3.7)	—	—	—	—	赤褐色 微細な白色粒含む 焼き締まっていない 陶胎	—	— 発色悪い 黒茶色不透明釉 光沢なし	
		1122	SE 1061	01053	中国産白磁皿 大IV類	12C前半	(11.0)	(4.6)	—	—	—	—	2.5	—	淡黄白色 完全ガラス化していない 空隙多い	—	—	
		1123		01045	中国産白磁皿 大III類	12C中～後半	(10.2)	—	—	(4.6)	—	—	2.9	—	淡灰白色 磁器質 空隙多い	—	淡く黄味おびた乳白色不透明釉、内底輪状釉剥ぎ(白泥付着)	
		1124		01052	中国産白磁椀 大IV類	11C後半～12C前半	(16.2)	—	—	—	—	—	—	—	淡灰白色 磁器質 空隙多い	—	黄味おびた半透明釉 ピンホールあり	
		1125		01050	中国産白磁椀 大II類	11C後半～12C前半	—	—	—	(6.0)	—	—	—	—	淡灰白色 完全磁器質でない	—	淡く青味帯びた透明釉、内底輪状釉剥ぎ	胎土からみて広東産の可能性がある
		1126		01051	中国産白磁椀 大VIII類	12C中～後半	(15.4)	—	—	—	—	—	—	—	白色淡灰白色 精良 磁器質	—	白っぽい淡灰白色不透明釉 ピンホール多い	
		1127		01046	中国産白磁椀 大IX類	12C中～後半	(7.2)	—	—	—	—	—	—	—	淡灰白色 磁器質 精良	—	青白色透明釉 ガラス化している	
		1128		01044	中国産白磁椀 大IX類	12C中～後半	—	—	—	(6.8)	—	—	—	—	黄白色 空隙多い 完全ガラス化していない	—	淡く青味帯びた乳白色半透明釉、内底輪状釉剥ぎ(白泥付着)	内底輪状釉剥ぎ(白泥が輪状に付着)
		1129		01049	高麗青磁椀	11C後半～12C前半?	—	—	—	—	—	—	—	—	淡灰色 中に細かい白色砂粒含む わずかに粗い 磁器質	—	黄味の強い半透明釉	
		1130		01048	中国産龍泉窯系青磁椀	12C前半か?	(15.4)	—	—	—	—	—	—	—	淡灰色 精良 磁器質	—	淡青灰色不透明釉 釉層うすい	
		1131		01058	中国産陶器耳壷 大VI類	12C後半代?	(11.4)	—	—	—	—	—	—	—	淡灰色 細かい白色砂粒多い きめ粗い	—	ナマコ釉不透明釉	
		1132		01059	中国産施釉陶器甕	—	—	—	—	—	—	—	—	—	暗赤褐色 1～2mmの粗大な白色砂粒極めて多量含む きめ非常にきめ粗い	—	—	中国産と思われるが、年代、産地などは不明確
		1133		01047	中国産青白磁小壷か		—	—	—	(4.2)	—	—	—	—	白色 精良 磁器質	—	淡いオリーブ色透明釉	外底はハマの跡が赤く残る

４．古代の遺構と遺物

奈良時代半ばから後半の時期におさまる遺構と遺物は、調査区の中央部あたりに比較的集中して検出できたが、本来は、遺物の出土量、出土分布の状況から見て、当該期の遺構が調査区全面にそう高くない密度で分布していたものと思われる。当該地点は、奈良時代の方一町の推定官衙域の中央部に相当していることと、東側に隣接する36次調査では地鎮遺構が検出されていることを考慮しておく必要がある。検出した遺構は、土壙と柱穴である。明確に当該期に属する井戸はないが、古代後期としたSE0306はこの時期まで遡る可能性がある。遺物は須恵器坏、皿等の供膳具が多いが、土師器甕と組み合って何らかの祭祀行為を示唆する出土状況のものがあった。

柱穴　SP1401（図221・218・216）　２区４面検出。古代前期（奈良時代）の柱穴である。掘方は平面形が不整な楕円形で、形状は円筒状である。埋土は暗灰褐色～黒灰褐色粘質土。掘方の規模は0.63×0.55m、深さ0.21mである。底面の標高は3.55m。底面には、蓋をした状態で須恵器高台付坏が埋納されていた。地鎮もしくは柱抜跡内への奉納祭祀に関わるものかとも思われる。

出土遺物（1134～1135）　1134は須恵器坏蓋で、口径13.6cm、器高1.1cm、つまみの径0.9cmである。胎土精良、良く焼き締まっている。色調は灰～黒灰色。蓋は身1135と比べ口径がやや小ぶりである。1135は須恵器高台付坏で、口径14.2cm、高台の高さ0.4cm、高台径8.4cm、器高4.1cmである。胎土精良（0.5㎜大の白色砂、微細な雲母含んでいる）堅く締まり焼成良好である。８世紀後半頃に比定できる。

図214 SX0043完掘状況（南東から）

土壙　SX0043（図214・218・219）　１区２面検出。古代後期（平安時代）の土壙である。掘方は平面形が不整な楕円形で、形状は逆円錐台状である。埋土は淡灰褐色～褐色混砂弱粘質土。掘方の規模は2.20×1.83mで、深さは1.18mである。底面の標高は2.67m。長軸の方位はN-38°30′-Wである。遺構の先後関係はSX0044→SX0043→SX0043-2→SX0187である。

図215 SX1398完掘状況（西から）

出土遺物（1136～1137）　丸底の土師器坏、土師器高台付大皿1136・1137等が若干出土している。1136、1137はほぼ同じ大きさであり、口径20.0cm、器高は1136が3.1cm、1135が2.6cmである。いずれも高台内以外は全面ロクロ回転による丁寧な磨研仕上げで、赤橙～赤褐色を呈する。８世紀半ば～後半の所産か。

土壙　SX1392（図219・220）　２区４面検出。古代前期（奈良時代）の土壙である。掘方は平面形が不整な楕円形で、形状は逆円錐台状である。埋土は灰褐色砂質土。掘方の規模は1.50×1.17mで、深さは0.23mである。底面の標高は3.51m。土師器甕がやや傾いた状態で、斜めに口を上に向け、また、須恵器の蓋が甕口縁からずれ落ちたような状態で出土した。

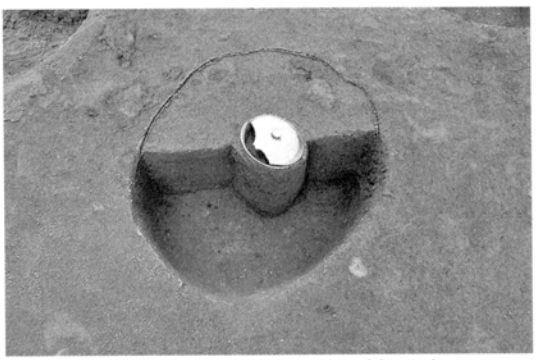


図216 SX1401遺物出土状況（南から）

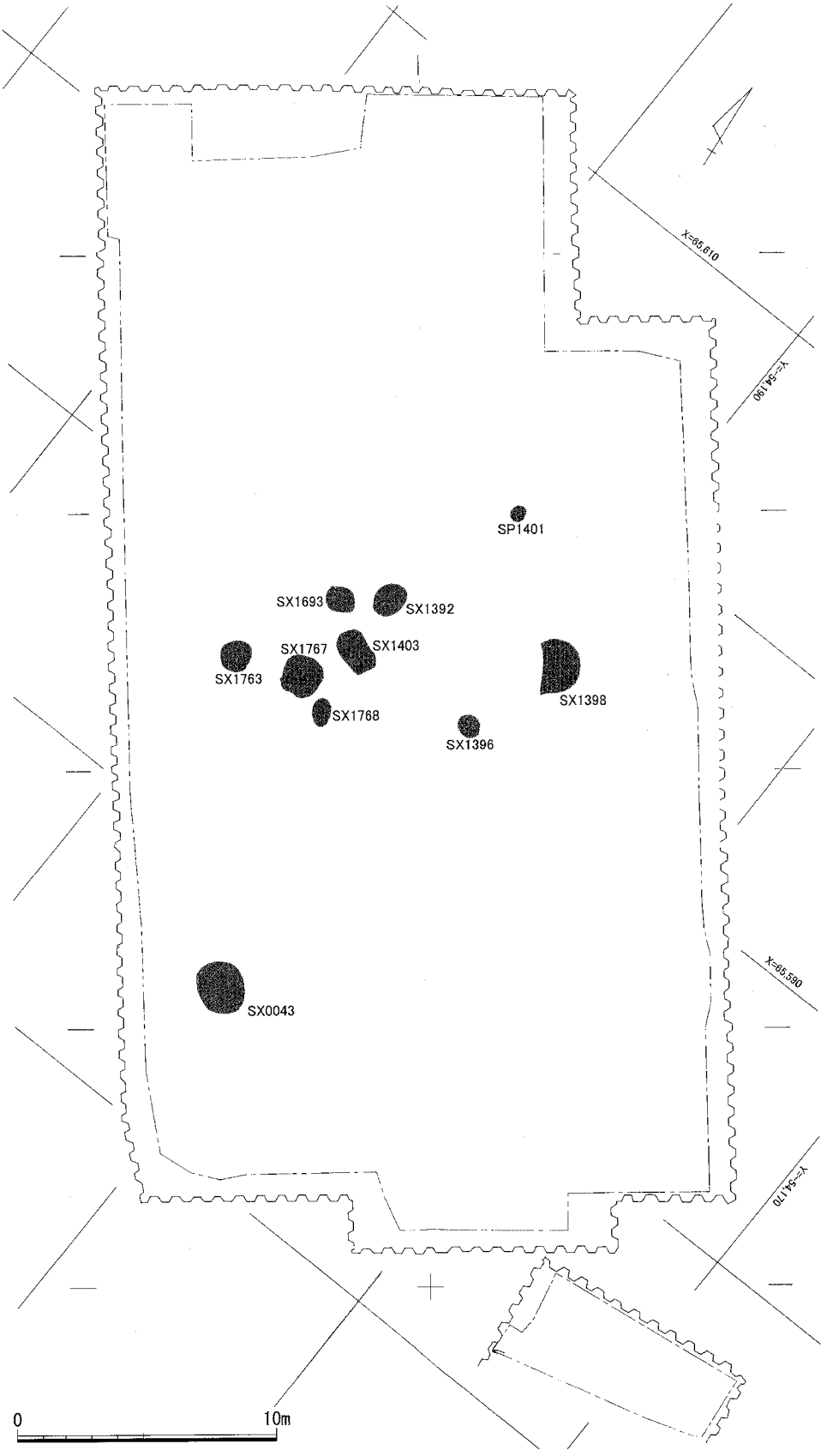


図217 古代遺構分布状況略図(1/250)

出土遺物(1147・1148)　1147は須恵器坏蓋である。口径20.3cm、器高2.8cmである。天井部はほぼ水平に延び、口縁端部はほぼ垂直下につまみ出されている。つまみは扁平である。1148は土師器甕である。口径22.0cm、器高9.4cmである。口縁部は外反し、内面は斜位のヘラ削り成形、口縁部から体部外面にかけては主に縦方向の刷毛目調製による。8世紀半ば頃か。

土壙　SX1396(図219)　2区4面検出。古代後期の土壙である。掘方は平面形が不整な円形で、形状は逆円錐台状である。埋土は灰褐色混砂弱粘質土。掘方の規模は0.98×0.78m、深さ0.55mで、底面の標高は3.39mである。

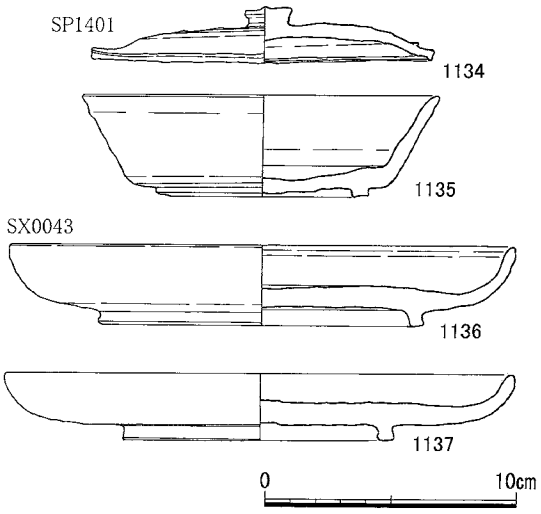


図218 SX0043・SP1401出土遺物実測図(1/3)

出土遺物　奈良時代須恵器甕、土師器坏・小皿が出土している。小片のため図示していない。

土壙　SX1398(図215・219)　2区4面検出。掘方は平面形がやや不整な円形で、形状は逆円錐台状である。埋土は暗褐色～暗灰褐色混砂弱粘質土がほぼ均一に堆積している。掘方の規模は2.04×2.0mほどか。深さは0.28mで、ほぼ平坦な底面の標高は3.66mである。

出土遺物　奈良時代須恵器、土師器坏・小皿が出土している。図示していない。

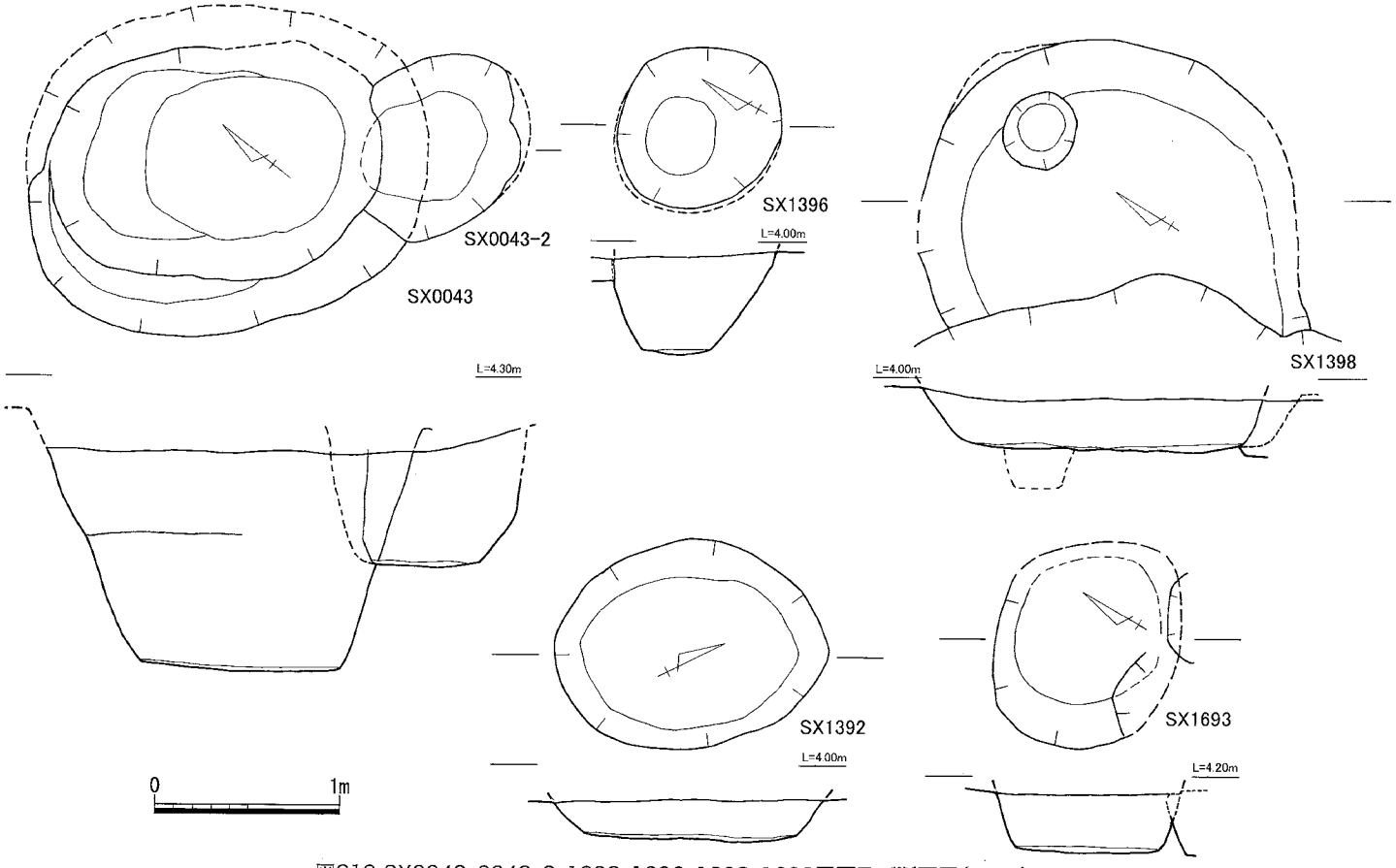


図219 SX0043・0043-2・1392・1396・1398・1693平面及び断面図(1/40)

土壙　SX1693（図219）　３区２面検出。古代後期の土壙である。掘方は平面形が不整な楕円形で、形状は逆円錐台状である。埋土は暗灰色～暗灰褐色混砂弱粘質土。掘方の規模は0.93×0.77m、深さは0.23mで、底面の標高は3.89mである。

出土遺物　古墳時代土師器甕、奈良時代土師器甕、土師器坏・小皿等が出土しているが小片のため図示していない。

土壙　SX0215（＝0326）（図220）　１区２～３面相当面検出。古代後期の土壙である。掘方は平面形が不整な楕円形で、形状は逆円錐台状である。埋土は暗褐色～暗灰褐色混砂弱粘質土。掘方の規模は1.36×0.95m、深さは0.22mである。長軸の方位はN-56°30′-Wである。

出土遺物　奈良時代須恵器坏・土師器甕1140、黄釉陶器盤、褐釉四耳壺等が出土しているが、小片

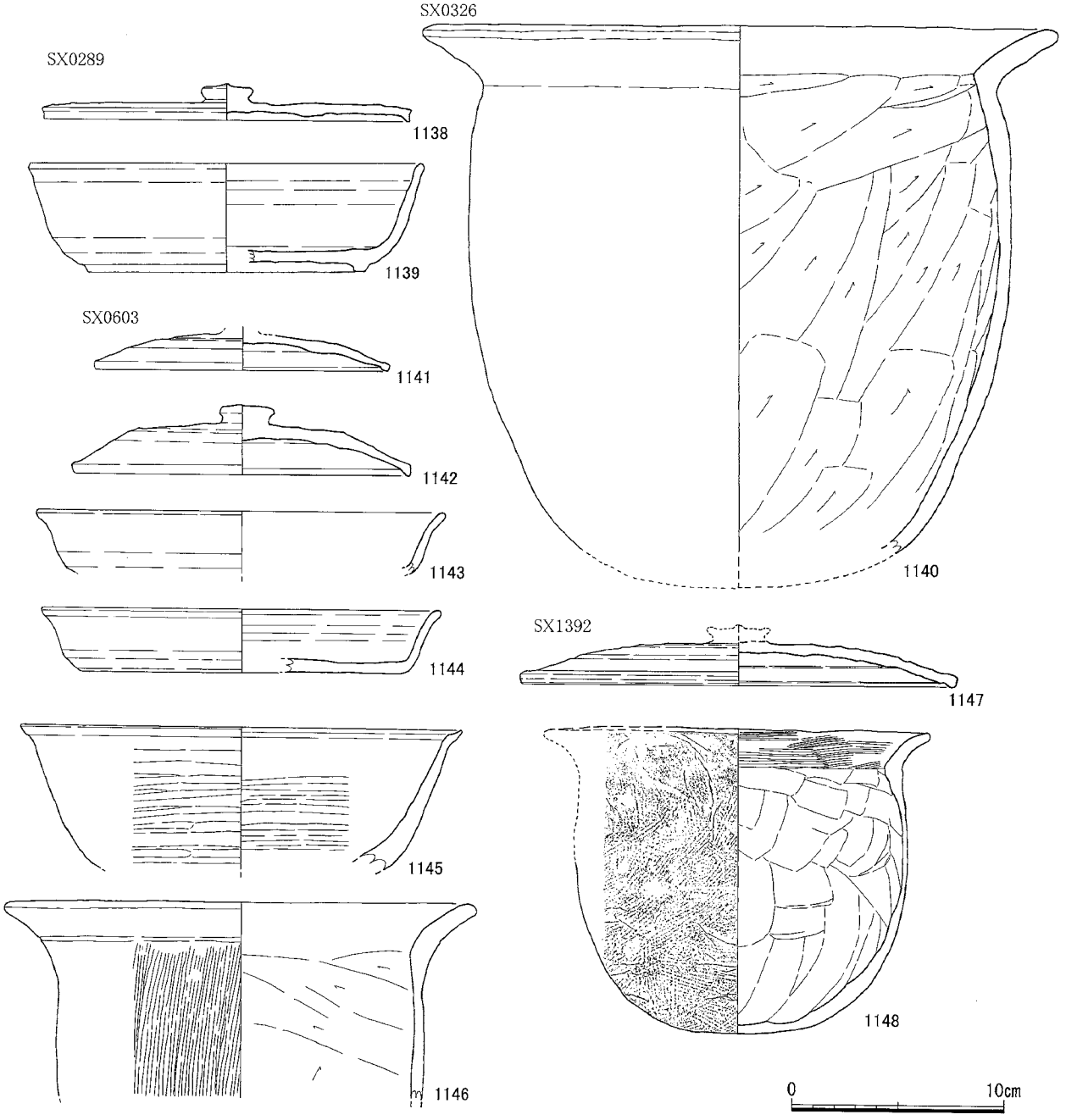


図220 SX0289・0326・0603・1392出土遺物実測図（1/3）

のため図示していない。甕1140は口径29.5cm、器高28.6±αcm、胴部径25.2cm。内面は底部から口縁部方向のヘラ削りによる成形。外面は縦刷毛目による器面調整であるが器壁がほとんど剥落している。

土壙　SX0289（図220）　1区3面検出。古代後期の土壙である。掘方は平面形が隅丸方形で、断面形は逆台形。埋土は暗褐色混砂弱粘質土である。掘方の規模は1.20×0.89m、深さは0.38m。

出土遺物（1138～1139）　奈良時代須恵器坏蓋1138・高台付坏1139が出土している他、古墳時代土師器甕や中国産白磁片等がわずかに出土している。

2区1面検出の近世～近代の土壙であるSX0603からは、肥前系刷毛目手椀等の近世遺物に混入して、奈良時代須恵器坏身蓋1141・1142、坏身1143・皿1144の他・土師器甕1146、土師器鉢1145が出土している。鉢1145は、口径20.4cm、器高6.7cmで、内外の器面は丁寧な回転ヘラミガキによる。口縁端部には受け部状にわずかな段を巡らせている。

土壙　SX1403（図221）　2区4面検出。古代前期（奈良時代）の土壙である。掘方は平面形が不整な隅丸長方形で、断面形は逆台形。埋土は黒灰～黒灰褐色混砂弱粘質土がほぼ均一に堆積している。掘方の規模は1.61×1.12m、深さは0.60mである。底面の標高は3.20m。長軸の方位はN-55°-Wである。遺構の先後関係はSX1403-2→SX1403である。

出土遺物　奈良時代の須恵器坏・皿の小片が出土しているが、小片のため図示していない。

土壙　SX1403-2（図）　2区4面検出。SX1403の下部で確認した。古代前期（奈良時代）の土壙である。掘方は平面形がやや不整な円形で、断面形は逆台形である。埋土は黒灰褐色混砂弱粘質土である。掘方の規模は1.20×1.20m、深さ0.73mである。底面の標高は2.95m。

出土遺物　奈良時代の須恵器坏・皿の小片が出土しているが小片のため図示していない。

土壙　SX1763（図221）　3区4面検出。古代後期（平安時代）の土壙である。掘方は平面形がやや不整な円形で、形状は円筒状である。埋土は暗褐色混砂粘質土。掘方の規模は1.1×1.1mほどか。深さは0.83mで、底面の標高は2.70m。

出土遺物　古墳時代土師器甕、奈良時代須恵器坏・土師器甕、土師器丸底坏・小皿等出土。小片のため図示していない。

土壙　SX1767（図221）　3区

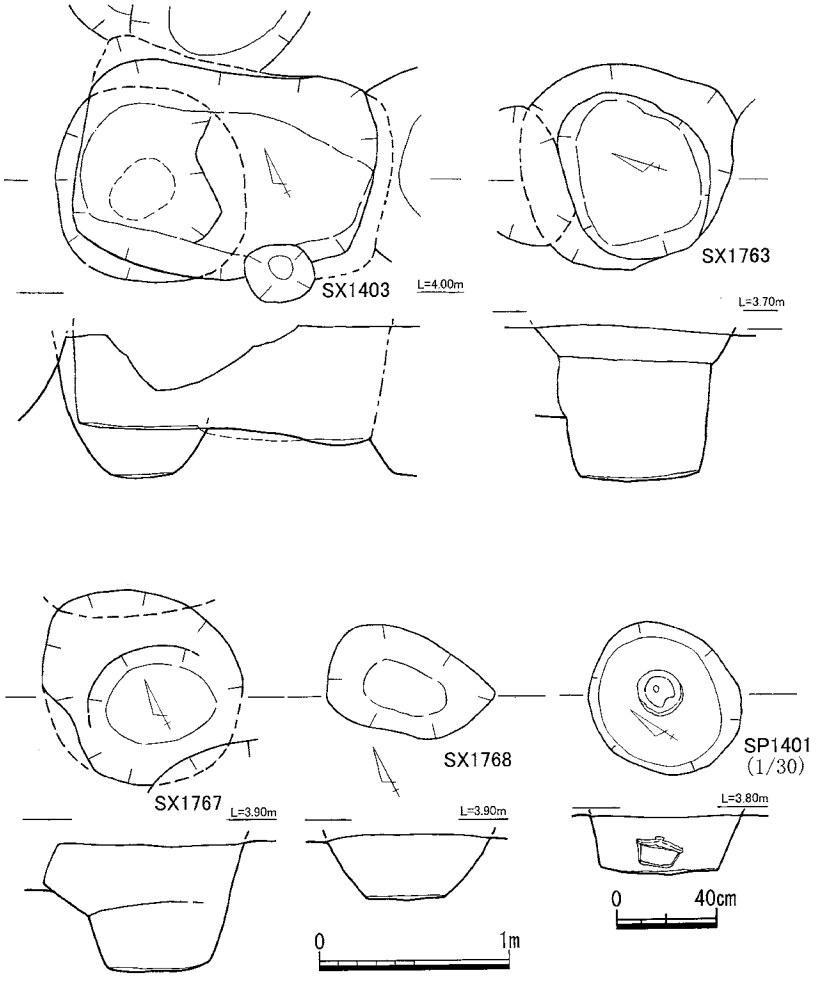


図221 SP1401・SX1403・1763・1767・1768平面及び断面図（1/30・1/40）

４面検出。古代後期（平安時代）の土壙である。掘方は平面形が不整な楕円形で、形状は円筒状である。埋土は軟質の暗褐色～黒灰褐色混砂弱粘質土。掘方の規模は1.17×1.0m、深さは0.68mで、底面の標高は3.10mである。

出土遺物　古墳時代土師器甕、奈良時代須恵器坏・土師器甕、土師器坏・小皿等出土しているが、小片のため図示していない。

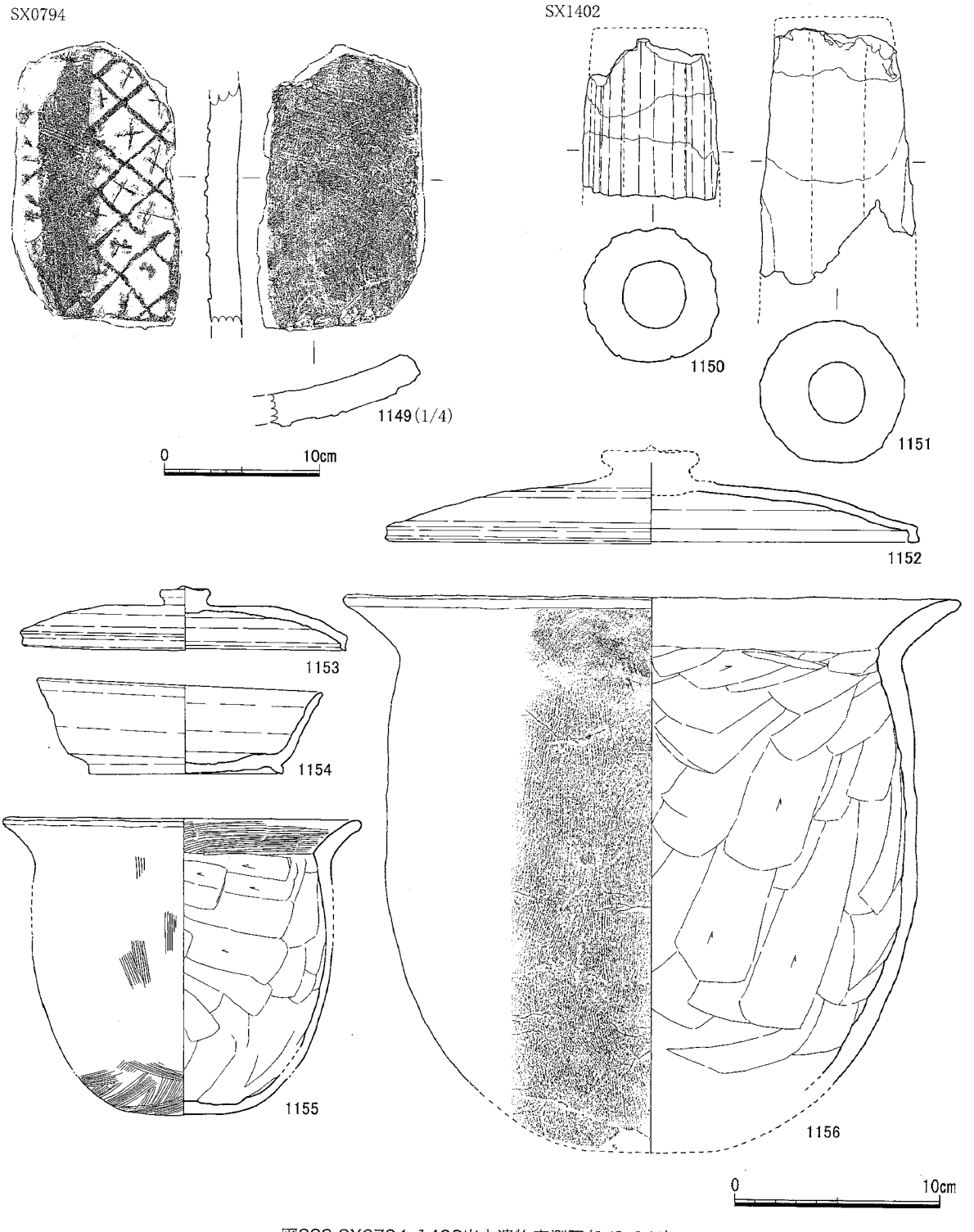


図222 SX0794・1402出土遺物実測図（1/3・1/4）

土壙　SX1768（図221）　３区４面検出。掘方は平面形が不整な楕円形で、形状は逆円錐台状である。埋土は暗灰褐色混砂弱粘質土。掘方の規模は0.90×0.57m、深さは0.34mで、底面の標高は3.47mである。

出土遺物　奈良時代須恵器坏・土師器甕、土師器坏・小皿等出土しているが、小片のため図示していない。

土壙　SX0794（図222）　２区３面相当面検出。古代後期（平安時代）の土壙である。掘方は平面形がやや不整な円形で、形状は円筒状である。埋土は暗褐色～暗灰褐色混砂弱粘質土。掘方の規模は1.21×0.98m、深さ0.71mで、底面の標高は3.89mである。

出土遺物（1149）　格子目叩を残す古代平瓦1149の他、奈良時代須恵器坏・土師器甕、土師器坏・小皿等が出土している。

土壙　SX1402（図222）　２区４面検出。古代後期（平安時代）の土壙である。掘方は平面形が楕円形で、断面形は浅皿状である。埋土はわずかに焼土や木炭片を含む黒灰～暗灰褐色砂質土。掘方の規模は1.22×0.89m、深さ0.35mである。底面の標高は2.75m。

出土遺物（1150～1156）　奈良時代須恵器坏・甕、土師器甕、甑、フイゴ羽口1150・1151が出土している。フイゴ羽口先端は、いずれも熱溶解し暗灰～灰褐色に変色している。最大径は6.8～7.1cmで、孔径は約3.0cmである。古墳時代の所産である可能性もある。

土壙　SX1414（図223）　２区１面検出。古代後期（平安時代）の土壙である。掘方は平面形が不整な楕円形で、断面形は浅皿状である。埋土は暗褐色混砂粘質土。掘方の規模は1.60×0.88m、深さは0.52mである。

出土遺物（1157）　古墳時代土師器甕、奈良時代須恵器坏・甕、土師器移動式竈1157、土師器坏、中国産白磁椀(鑑)類が出土している。竈1157は、焚き口から掛け口までの破片で、焚き口上部から側部には火受けのための鍔を有し、左右両側面には取っ手が付く。内面は部分的にヘラ削り成形、外面は刷毛目調整。掛け口周辺には炭化物が付着している。掛け口の径は24.5～25.0cmである。

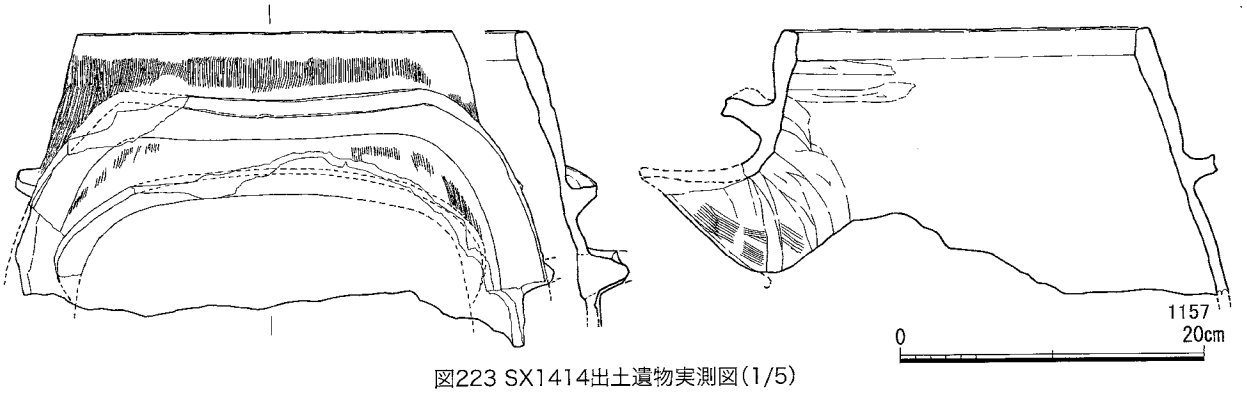


図223 SX1414出土遺物実測図（1/5）

5．古墳時代の遺構と遺物

古墳時代の遺構は調査区全体にわたって確認できた。遺構には、竪穴住居や用途不明の竪穴、土壙、柱穴、溝等がある。住居跡には一定の箇所で切り合っているものもあるが、遺構密度はそう高くなく、散発的な状況である。調査範囲が狭いために確定的には言えないが、規模や住居跡の並び方、遺物の出土傾向からみて、一定の規制を受けながら建物が配置されたものの、比較的居住期間が短かったものと考えられた。出土遺物の特徴として、機内系を中心として、山陰、吉備、東海地方からもたらされたものがあり在地系のものが少ない傾向が指摘できる。個別遺物の説明については表６を参照されたい。図示した遺物すべてを網羅はしていないが、特徴的なものを取り上げて観察所見を述べている。

溝状遺構　SD1213（図225）　４区３～４面相当面検出。南北に延びる溝である。調査区西端部において幅1.0～1.2m、長さ2.5～3.0mについて確認した。断面形は浅い船底状で、深さは0.36mを測る。北端部は、中世後期の溝であるSD0037によって削平されており残っていない。埋土は暗灰褐色砂質土がほぼ均一に堆積している。底面の標高は3.6～3.68m。主軸の方向は、N-34～36°-W。南側に隣接する第27次調査においては、当該溝の南側に隣接して土壙状の遺構が確認されていることから、当該溝の南端部は一端途切れている可能性がある。このことから、方形周溝の一部である可能性も考えておきたい。

出土遺物　古墳時代土師器甕、壷、高坏などが出土しているが、小片のため図示していない。

土壙　SX1778（図206・207）　３区４面検出。古墳時代前期の土壙である。掘方は平面形が不整な楕円形で、断面は浅皿状である。埋土は軟質の灰褐色～暗褐色混砂粘質土。掘方の規模は1.96×1.75m、深さは0.31mで、底面の標高は3.47m。

出土遺物　掘方中位から下部にかけて散発的に遺物が出土している。古墳時代土師器甕、鉢、壷、高坏等があるが、いずれも小片のため図示していない。

竪穴住居　SC0305（図226・229・232）　１区３面検出。

図225 SD1213完掘状況（南東から）

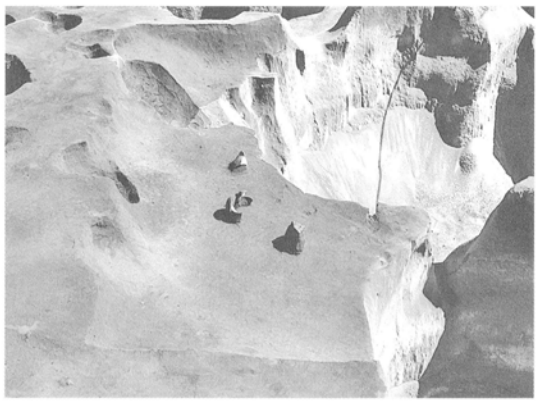


図226 SC0305完掘状況（西南から）

図224 北側竪穴住居群（南から）

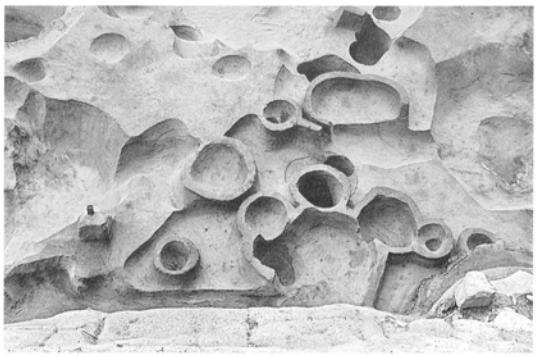


図227 SC0335・0352完掘状況（北から）

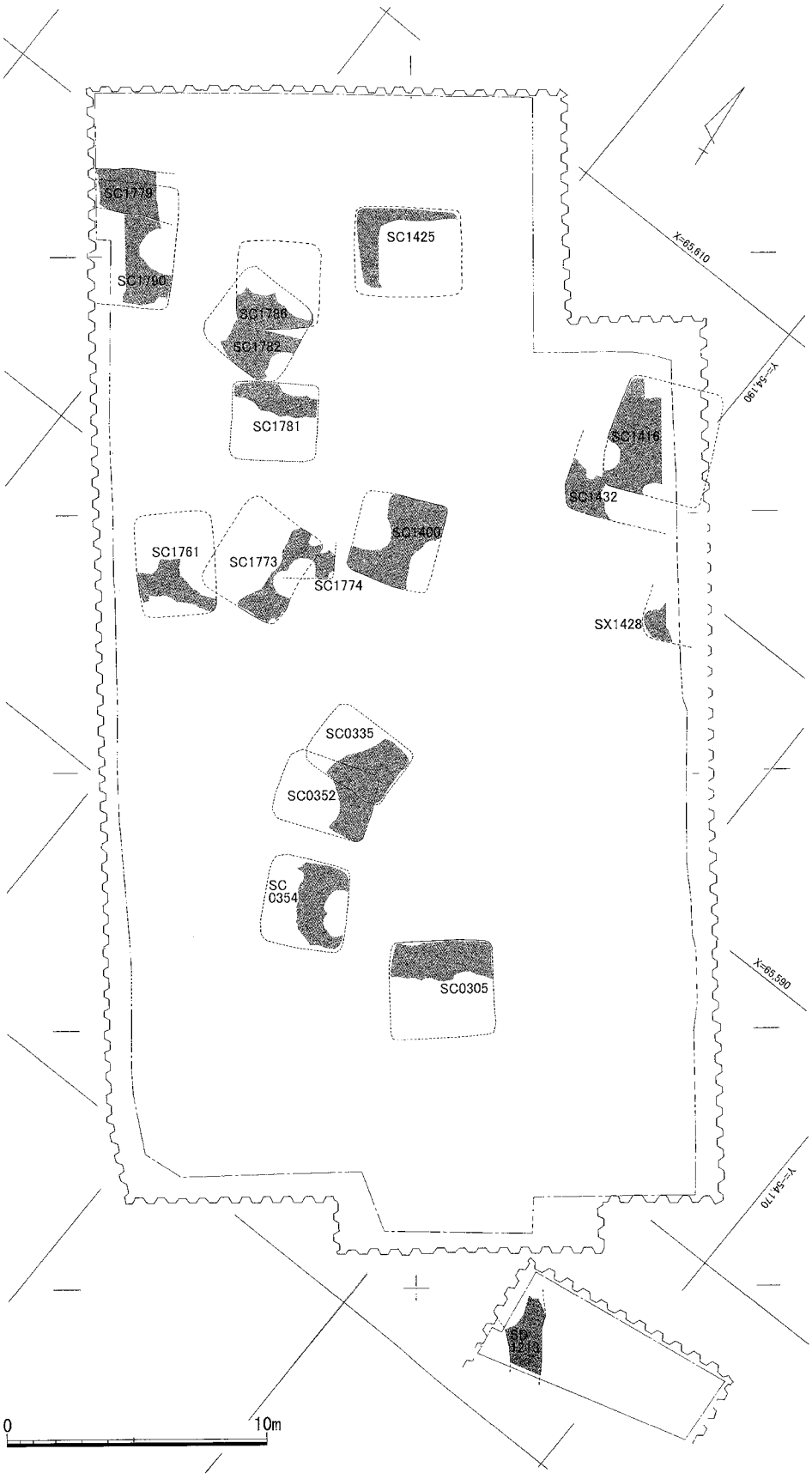


図228 古墳時代遺構分布状況略図(1/250)

古墳時代前期の竪穴住居である。南側は後世の遺構により削平を受け消滅しており、北側半分のみ遺存している。掘方の平面形は方形を成すと思われる。断面形は逆台形状である。埋土は軟質の暗褐色～黒褐色砂質土が均一に堆積している。下部は黒みが強く木炭を若干含む。床面はほぼ平坦であるが中央部がわずかにくぼんでいる。炉床と思われる。床面に柱穴等はみられない。最も残りのよい東西辺が3.88～3.90mを測ることから、平面規模は一辺４mほどの大きさが推定される。深さは検出面から0.45～0.5mである。床面の標高は3.40m。長軸の方向はN-30～33°-Wである。

出土遺物(1158～1169)　埋土の中位から床面直上にかけて土師器甕・鉢・高坏・小型壷等が出土している。埋土中のものは小片が多く、散発的な出土状況である。1158～1160は素口縁の鉢である。いずれも精製品で、内外面とも丁寧なヘラミガキが施されている。1161は小型丸底壷、1162～1164は外反口縁鉢である。いずれも内面はハケ目調整、外面は丁寧なヘラミガキが施されている。1165は脚付鉢である。器壁は厚く内外面ともナデ調整による。1166は小型器台である。受け部立ち上がりは外反気味で端部は丸くおさめる。内外面とも丁寧なヘラミガキで受け部内面は放射状に暗文を施している。1167～1169は布留系の甕で、口縁部から肩部破片である。1167の口縁部ははわずかに外湾し口縁端部外側を水平につまみ出している。1168・1169は口縁端部を内・外側につまみ出している。いずれもナデ仕上げに先行してハケ目調整が施されており、体部内面は頸部屈曲部を残してやや下がった位置まで横位のヘラケズリによる。

土壙　SX0310(図193)　１区３面検出。古墳時代前期の土壙である。掘方は平面形が不整な楕円形

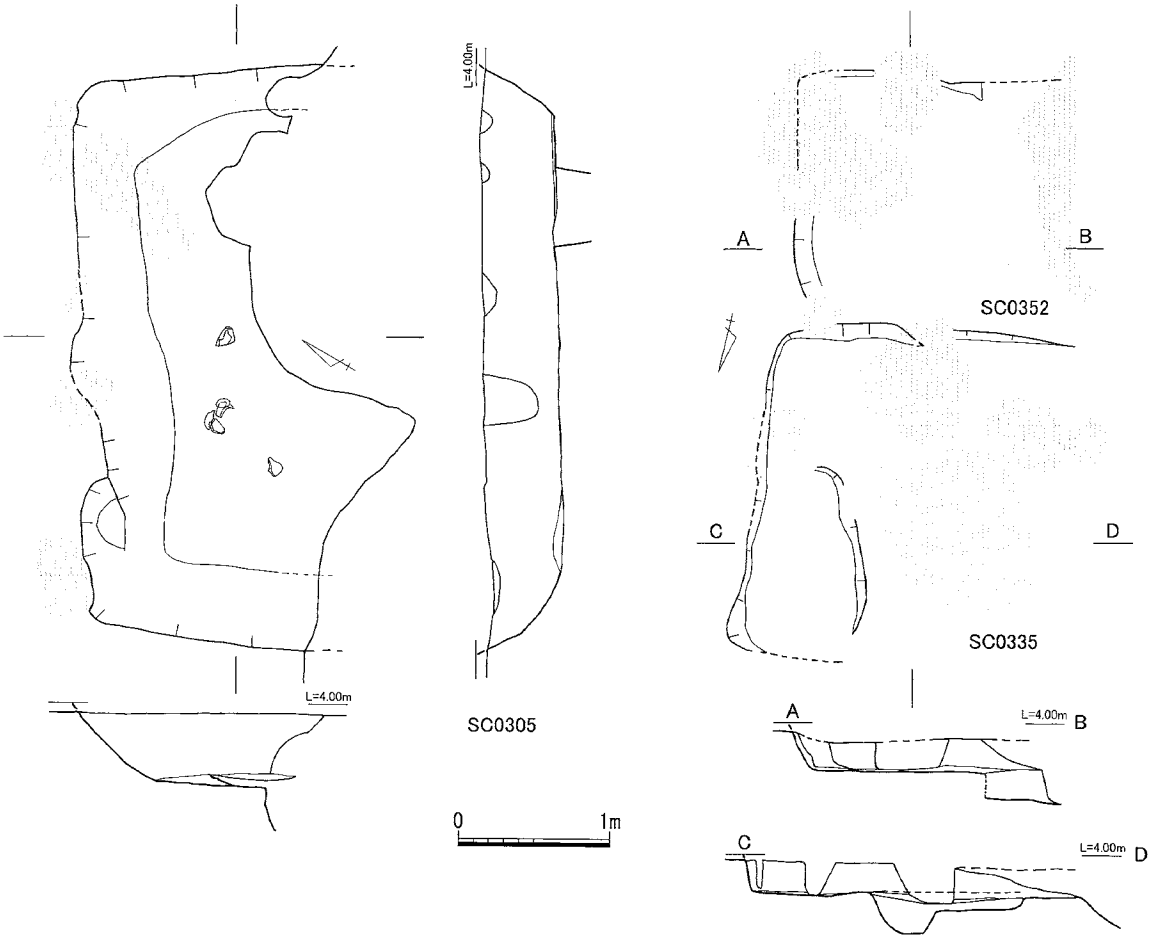


図229 SC0305・0335・0352平面及び断面図(1/50)

で、形状は逆円錐台状である。埋土は暗褐色～黒褐色混砂弱粘質土が均一に堆積している。掘方の規模は0.76×0.65m、深さは0.43m。底面の標高は3.31m。遺構の先後関係はSX0310→SX0309→SX0311である。

出土遺物　古墳時代前期の土師器甕片が少量出土している。小片のため図示していない。

竪穴　SC0335（図227・229）　1区3面検出。古墳時代前期の竪穴である。西側は後世の遺構により削平を受け消滅しており、また、北側ではSC0335によって削平されているため本来の形状はほとんどとどめていない。断片的に残る壁から推定すると、平面形は方形もしくは長方形の竪穴となる。断面形は逆台形状である。平面規模は現存長で東西辺1.20×南北辺1.85mを測るが、2.0×2.0mほどを想定している。壁高は検出面から0.27mの深さで遺存している。埋土はやや軟質の暗褐色～暗灰褐色砂質土で、下部は黒みが強く木炭を若干含み、SC0305の埋土とほぼ同質である。床面はほぼ平坦で、標高は3.60～3.70mを測る。長軸の方向はN-6°-Wである。住居用の竪穴としては規模が小さいため作業用もしくは何らかの保存・保管目的等の半地下式の

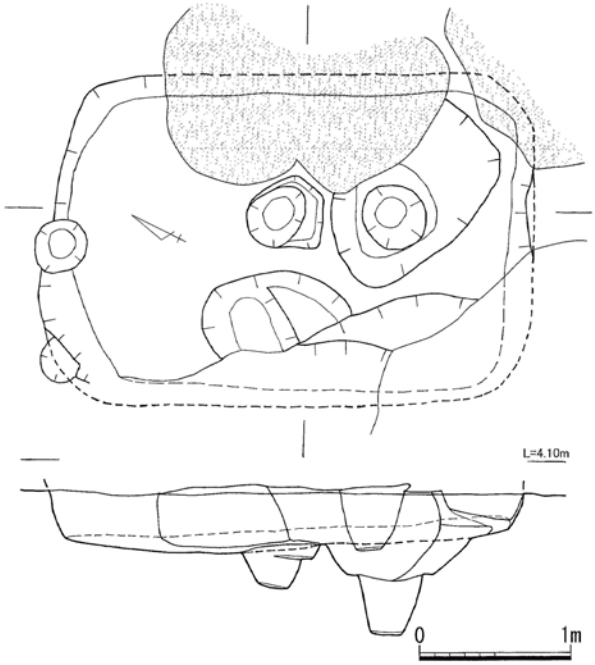


図230 SC0354平面及び断面図（1/50）

図231 SC0354完掘状況（西から）

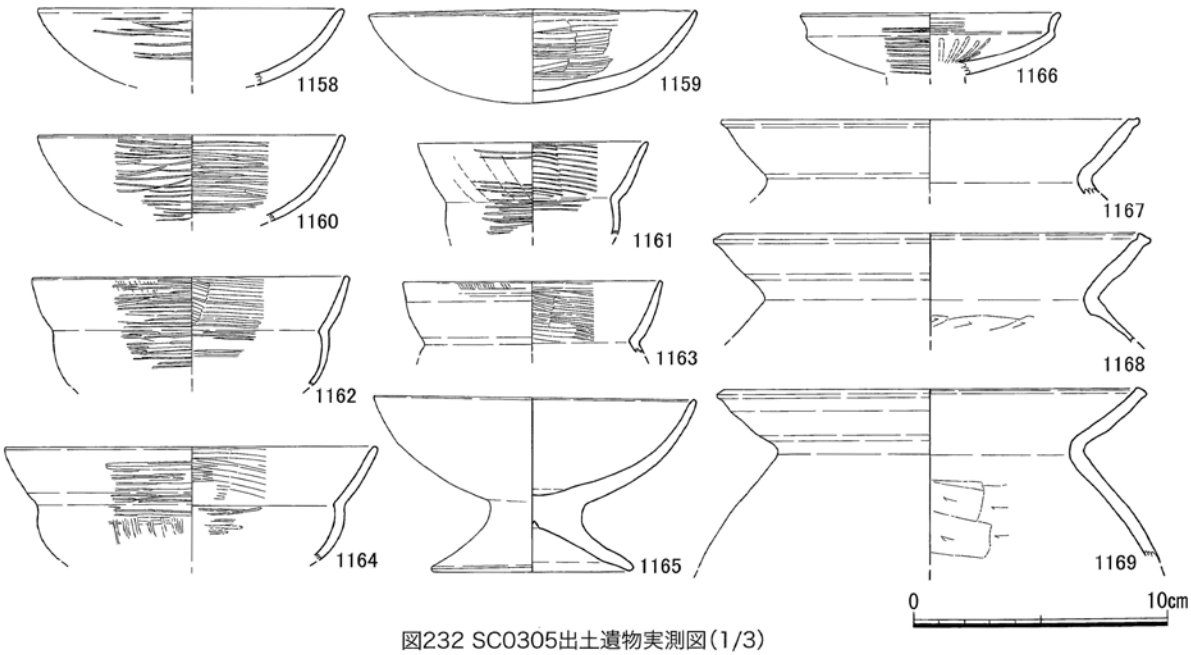


図232 SC0305出土遺物実測図（1/3）

竪穴と想定しておく。

出土遺物　古墳時代の土師器甕片が若干出土しているが小片のため図示していない。

竪穴　SC0352（図229・227）　1区3面検出。古墳時代前期の竪穴である。西側及び北側は後世の遺構により削平を受け消滅しているため本来の形状をほとんどとどめていない。南壁は竪穴SC0335を切っている。平面形は断片的に残る壁から推定すると、竪穴SC0335と同様な方形もしくは長方形の竪穴となる。断面形は逆台形状である。埋土は暗褐～暗灰褐色砂質土で、SC0305の埋土とほぼ同質である。床面には柱穴等の施設は特にない。平面規模は南北辺2.21mについて確認できたが、竪穴SC0335よりやや大きな2.5×2.5mほどと思われる。竪穴SC0335と同様に、住居用としては規模が小さいため作業用もしくは何らかの保存・保管目的等の半地下式の竪穴と想定しておく。壁高は床面から0.25～0.30m。床面の標高は3.63m。長軸の方向はN-15°-W。

図233 SC1400土層断面・遺物出土状況（西から）

出土遺物　遺物はきわめて散発的に古墳時代土師器片が出土している。小片のため図示していない。

竪穴　SC0354（図230・231）　1区3面検出。古墳時代前期の竪穴である。掘方の平面形は長方形で、形状は逆台形状である。埋土は暗褐～暗灰褐色砂質土で下層部分では木炭小片を比較的多く含む。東辺から南、西辺は部分的に後世の遺構により大きく削平され、寸断されている。平面規模は南北辺3.20m、東西辺2.25mの大きさとなる。床面には柱穴は確認できていない。竪穴SC0335・SC0352と同様に、作業用もしくは何らかの保存・保管目的等の半地下式の竪穴と想定しておく。壁高は床面から0.40m。床面の標高は3.43mである。長軸の方向はN-25～27°-Wである。

出土遺物　埋土から古墳時代前期土師器甕片が散発的に出土しているが、小片のため図示していない。

竪穴住居　SC1400（図233～237）　2区4面検出。古墳時代前期の竪穴住居である。東辺から南、北西辺にかけては後世の遺構によって大きく削平されている。掘方の平面形は方形で、断面形は逆台形状である。埋土は軟質の黒褐色～暗褐色砂質土である。南北中軸線に沿って土層ベルトを設定し堆積状況を観察した。中層から床面にかけて（第7層～10層が該当）土師器小片や小礫石、木炭片を比較的多く含み、土師器等のもほとんどがこの層位からの出土。四周の壁から床に向かって徐々に堆積していった状況が見て取れた。平面規模は南北辺が3.55m、東西辺が3.20～3.40mほどと推定。

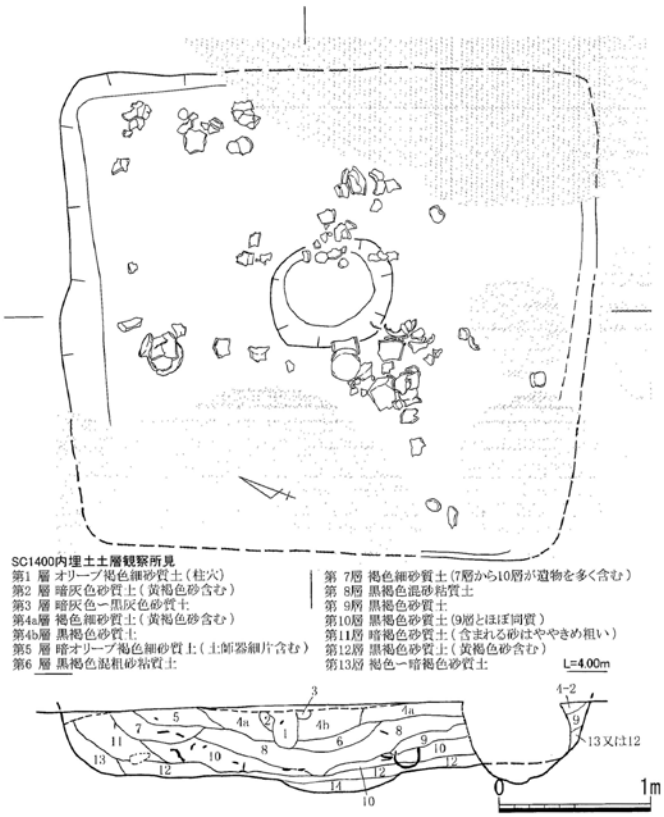


図234 SC1400平面及び断面図（1/50）

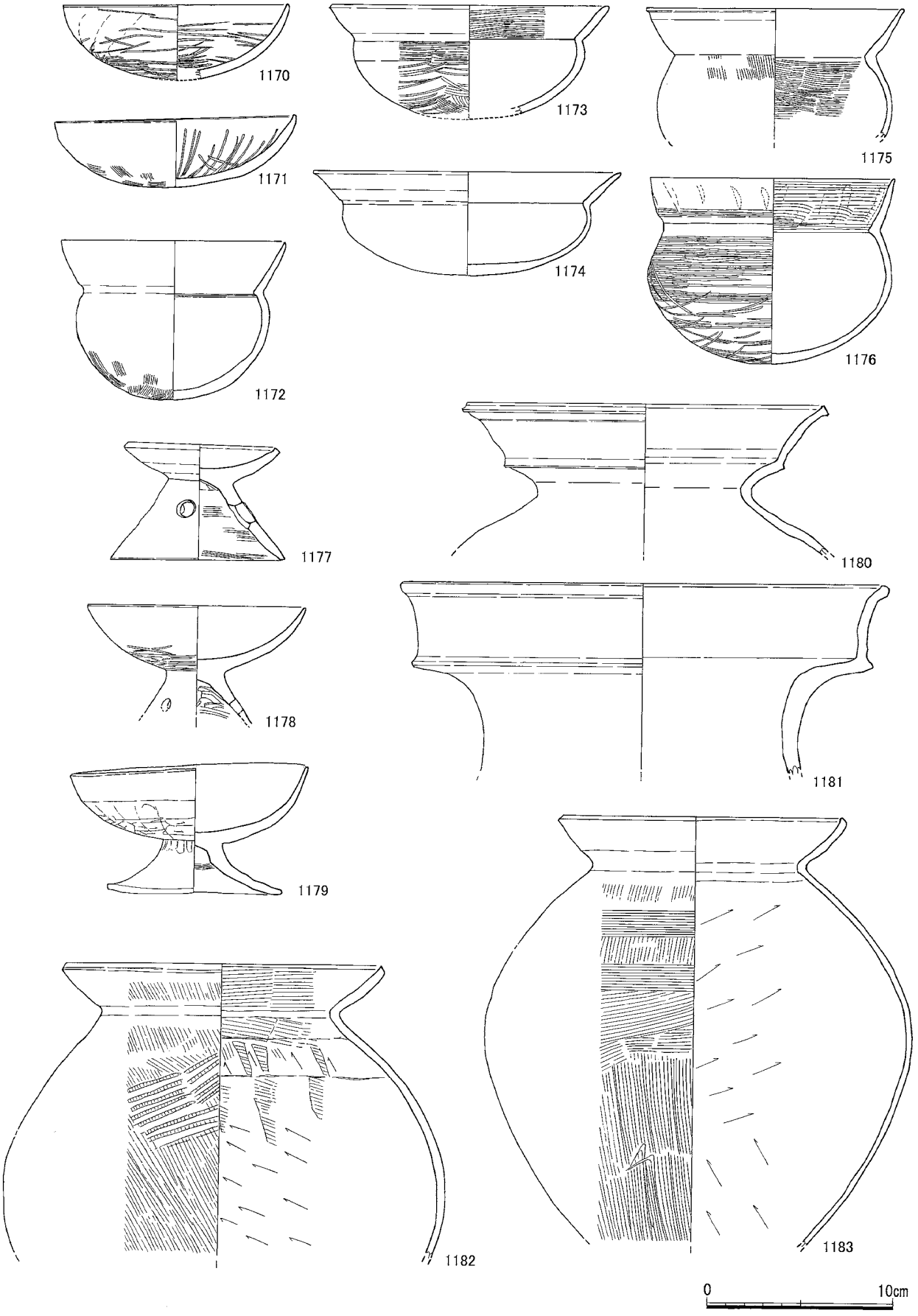


図235 SC1400出土遺物実測図1 (1/3)

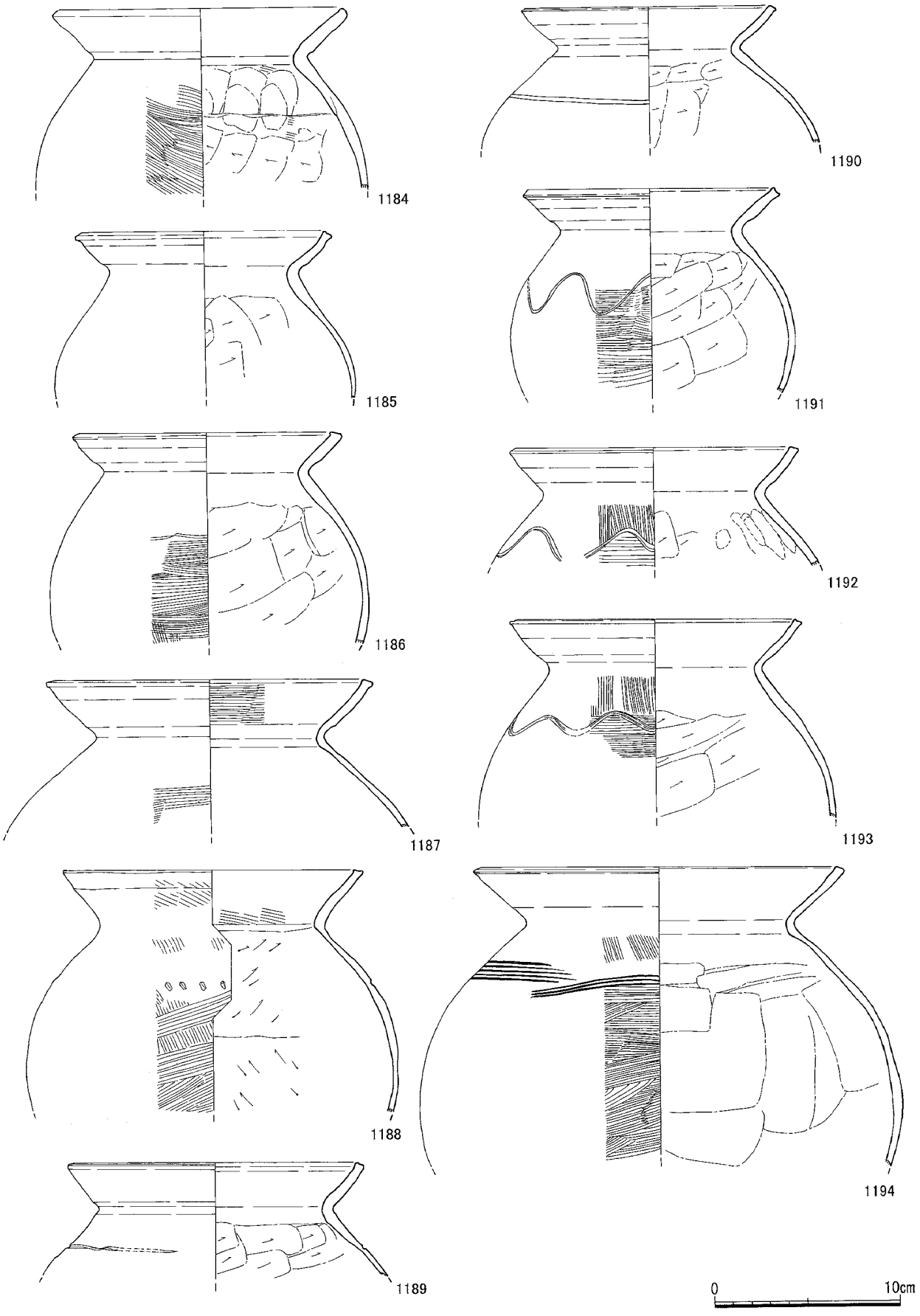


図236 SC1400出土遺物実測図2(1/3)

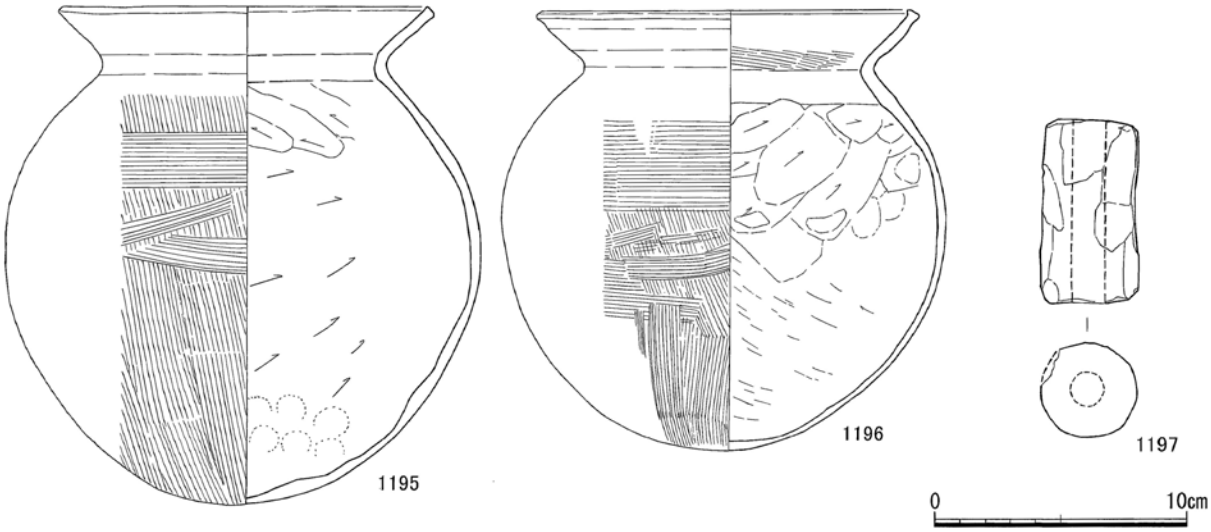


図237 SC1400出土遺物実測図3(1/3)

壁高は床面から0.48～0.60mの高さである。床面中央に若干の黄橙色焼土を含む、断面浅皿状の窪み(炉床か。直径0.68～0.80m)が有る他は、柱穴等の他の施設は確認できていない。床面の標高は3.22m。長軸の方向はN-20～22°-Wである。

出土遺物(1170～1197)　1170・1171は素口縁の鉢である。いずれも精製品で、内外面とも丁寧なヘラミガキを施す。1171の内面には底部から口縁に向けて放射状のヘラ先による暗文を施文している。1172・1175・1176は小型丸底壷である。口縁部はわずかに外湾しながら立ち上がる。口縁端部は1172がわずかに丸みを帯びて収めるのに対し、1175・1176はわずかに引き出している。いずれも内外面ともハケ目調整後、体部肩部から体部～底部にかけて丁寧なヘラミガキを施している。1173・1174は外反口縁鉢である。いずれも内面はハケ目調整、体部外面は丁寧なヘラミガキが施されている。1173の体部には体部全周約1/3～1/4単位毎に回転させ、ヘラミガキを施している。1177は小型器台である。器壁はやや厚い。脚部中央からやや上位には、径1.0cmの穿孔がある。体部は内外面とも丁寧なヘラミガキで受け部口端

図239 SC1416・1432完掘状況(西から)

図238 SC1416土層断面(南東から)

図240 SC1416完掘状況(南から)

部はわずかに内面上方に引き出されている。1178・1179は脚付鉢である。いずれも内外面ともハケ目による器面調整後、横位のヘラミガキを施している。1178の脚部には径1.0cm弱の穿孔がある。1179の鉢底部のヘラケズリはやや荒い。1180・1181は山陰系の二重口縁壷である。1180の頸部は強く屈曲し、口縁部は大きく外反する。口縁内端・外端部はいずれもわずかにつまみ出され断面三角形となる。1181の頸部は直に立ち上がった後強く屈曲し、内湾気味でほぼ直立する口縁下端に続き、接合部で外方に強くつまみ出している。口縁部内端はわずかにつまみ出され、外端は丸く収めている。1182～1196は布留系の甕である。全形がわかるものは1195・1196のみで、ほとんどが口縁部から胴部の破片である。胴部中位よりやや上部に最大形があると考えられやや長胴となるもの1182・1183と、概ね中位にあるもので胴部が球に近いものがある。いずれも内面成形は底部から斜上方のヘラケズリによるもので、ケズリの範囲が体部と口縁部の屈曲部までと、屈曲部から約1.0～2.0cm下部の位置までのものに分かれる。口縁部はわずかに外湾しながら立ち上がり、端部を平坦にまとめた後内外につまみ出している。つまみ出しの強弱は明瞭なものと非常に弱いもの等個体差がある。体部は内外面とも丁寧なヘラミガキで受けや大きい。外面の調整はハケ目整形し、あるいはナデ仕上げを行い、先行する叩き痕を残す1182もある。肩部文様は一条の沈線文1190、波状文1191・1192・1193、櫛描廻線のもの1194、刺突文を施すもの1188などがある。1197は大型の管状土錘。

竪穴住居　SC1416（図238～244）　2区3面検出。古墳時代前期の竪穴住居跡である。調査区東壁にほぼ半分がかかっており、完掘していない。竪穴の平面形は方形か。断面は逆台形である。土層の堆積状況は平面中央部を斜めに横断する調査壁と東西軸上に設定した土層ベルトにより観察した。埋土は黒灰～黒褐色、黒灰褐色砂質土が主であり、図241土層断面図中の第30層以下が住居内の埋土である。SC1400

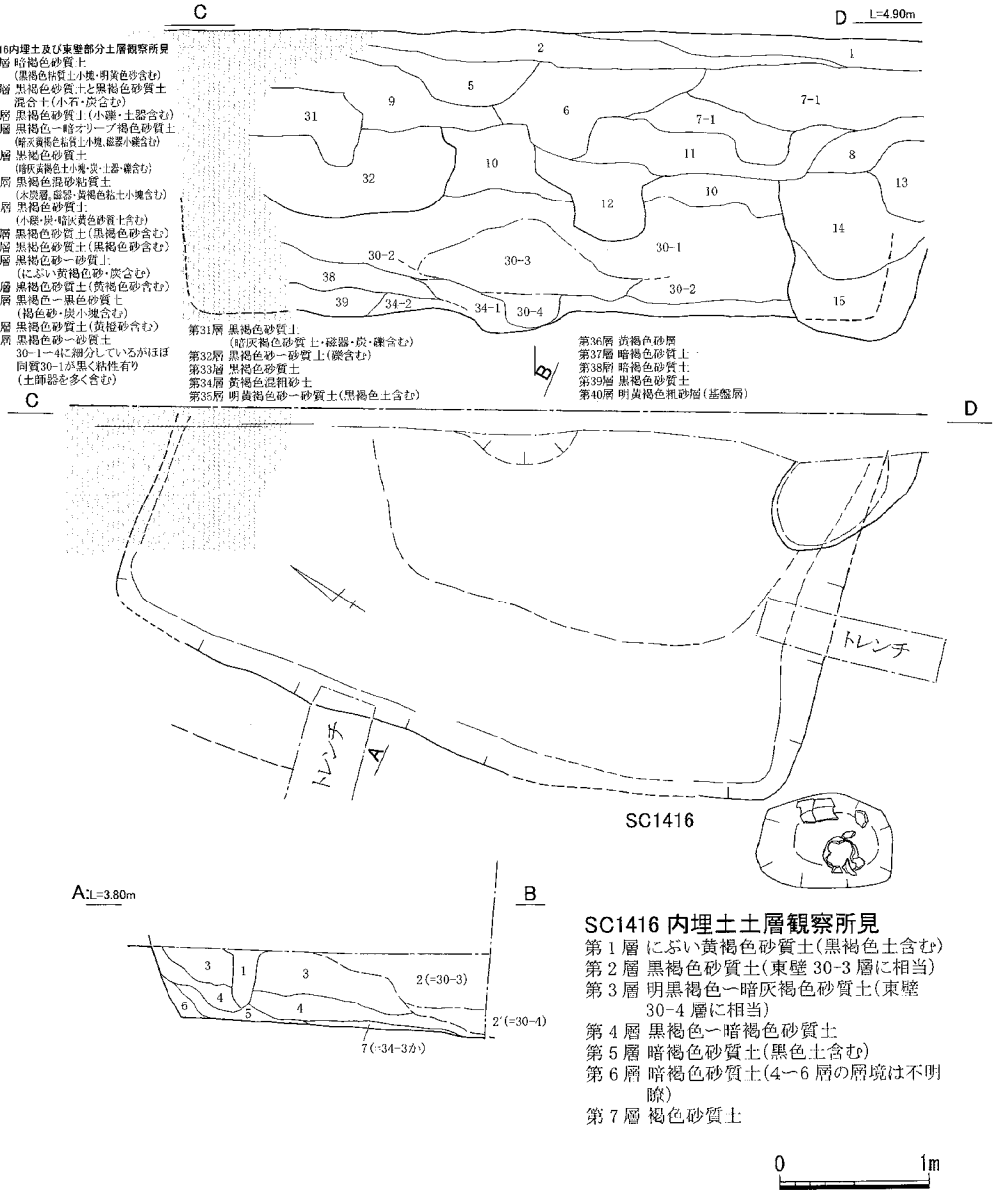


図241 SC1416平面及び断面図(1/50)

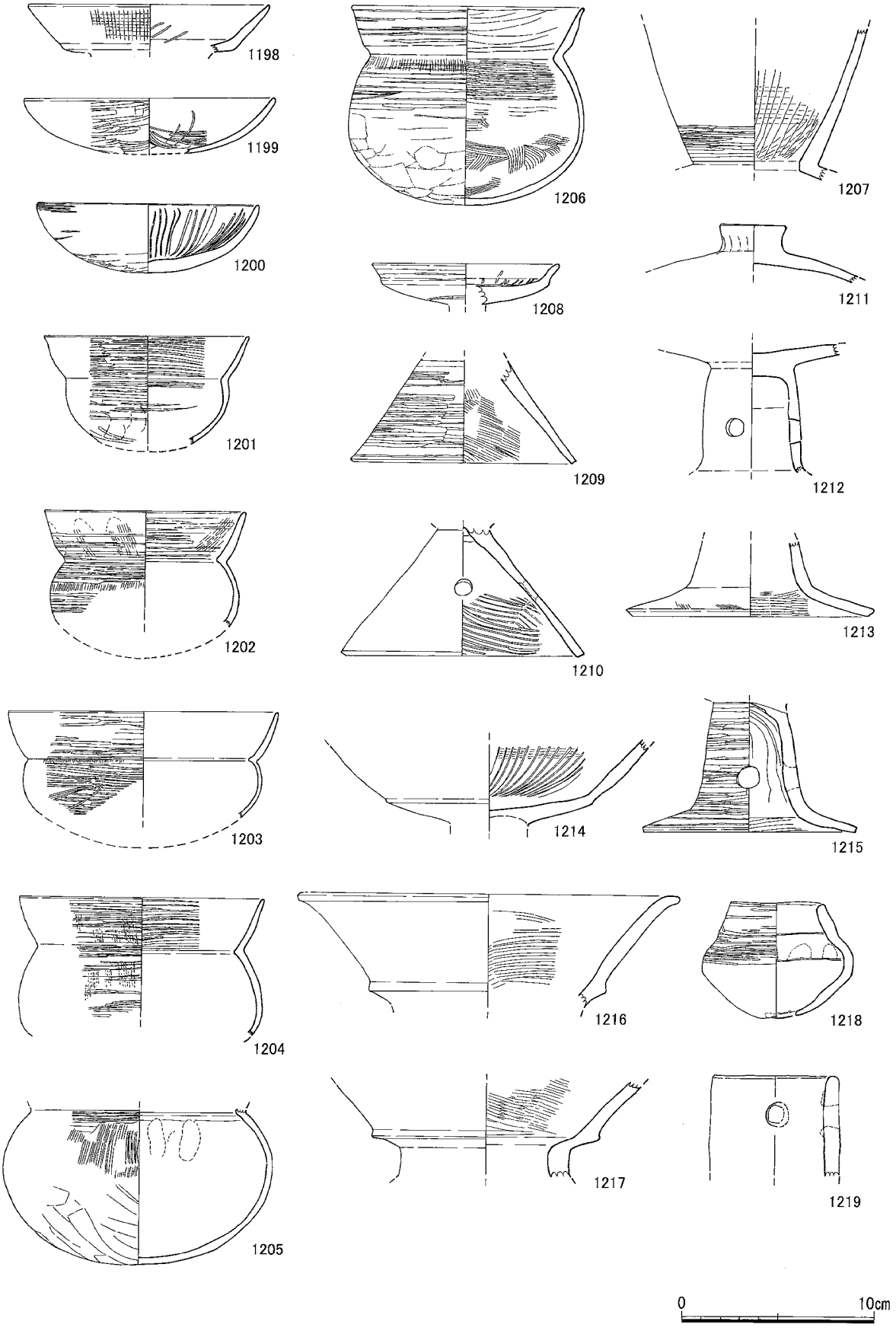


図242 SC1416出土遺物実測図1(1/3)

と異なり、非常に均質な黒褐色砂質土が厚く堆積しており、ある程度埋没後、短時間で埋没または埋め戻されたものか。床面ほぼ中央部に浅いくぼみがあるが、柱穴等の施設は確認できていない。一辺4.50～4.60mの平面規模。壁高は床面から0.50～0.54mで、本調査区では最も残りがよい。SC1790とほぼ同じ規模であろう。床面の標高は2.90～2.95m。長軸の方向はN-15～16°-W。

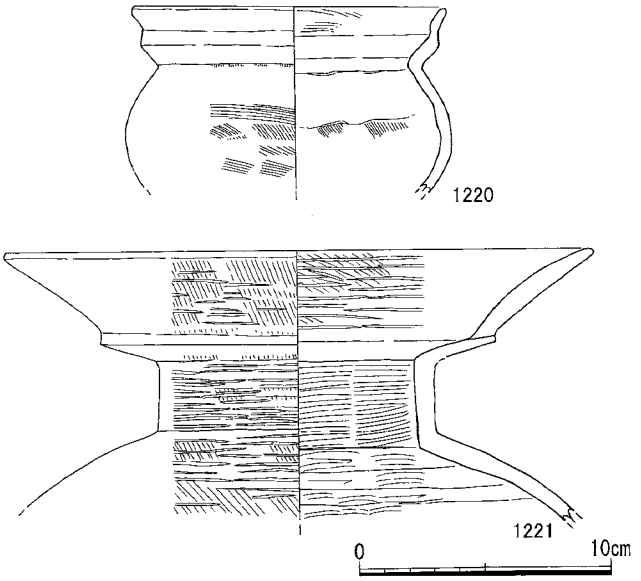


図243 SC1416出土遺物実測図2(1/3)

出土遺物(1198～1236)　1199・1200は素口縁の鉢。1199は浅い。いずれも精製品で、内外面とも丁寧なヘラミガキを施す。1200の内面には底部から口縁に向けて放射状の暗文を施文している。1201・1202・1204～1206は小型丸底壷である。口縁部はわずかに外湾し、外傾気味に立ち上がり、口縁端部を丸く収めている。内外面ともハケ目調整後、口縁部内面から体部外面体部中位あたりまで丁寧なヘラミガキを施す。底部はヘラケズリまたはカキトリの後、ヘラミガキによる。1207は中型の直口壷である。わずかに外湾する口頸部は内外面ともハケ目調整後丁寧なヘラミガキによる。口縁部内面には暗文がみられる。1208・1209・1210は小型器台の受け部及び脚部破片である。受け部端部は外方へつまみ出している。脚部内面はハケ目調整、外面はヘラミガキによる。1211は蓋である。有蓋高坏の蓋か。摘みは径3.4cmで扁平な円筒形である。1212～1215は高坏である。脚部は円筒状でいずれも孔を有する。1214は坏部内面にヘラによる暗文を施す。1216は鼓形器台の受け部又は脚部片である。山陰系か。外面はナデ仕上げ、内面はハケ目調整痕を残す。1217・1221は二重口縁壷の頸部から口縁部破片である。頸部はいずれも円筒状に伸び口縁部は大きく開く。1217の口縁部内面はハケ目調整、1221はハケ目調整後ヘラミガキを施す。1218は壷形ミニチュア土器。底部に穿孔がある。内面には指圧痕が残る。外面頸部から口縁部はやや雑なヘラミガキを施す。1219は蛸壺である。1220は二重口縁壷で山陰系か。1222～1228・1230～1236は布留系甕である。全形がわかるものはない。ほとんどが口縁部から胴部の破片である。いずれも内面成形は底部から斜上方のヘラケズリによるもので、ケズリの範囲が体部と口縁部の屈曲部までと、屈曲部から約1.0～2.0cm下部の位置までのものに分かれる。口縁部は、1228が端部を丸く収める他は、わずかに外湾しながら立ち上げ、端部を平坦にまとめた後内外につまみ出している。つまみ出しの強弱は明瞭なものと非常に弱いもの等個体差がやや大きい。外面の調整はハケ目整形し、あるいはナデ仕上げを行っている。肩部文様は櫛描の波状文のもの1228がある。1229は畿内系直口壷である。内外面ともハケ目調整で仕上げるが、肩部には先行する叩き痕が残る。

竪穴　SC1425(図245～247)　2区2～3面相当面検出。古墳時代の竪穴である。中央部から東半分が後世の遺構によって大きく削平されている。竪穴の平面形は長方形で、断面は逆台形状である。埋土は軟質の黒灰色～黒灰褐色混砂弱粘質土がほぼ均一に堆積している。平面規模は東西辺が2.97～3.10m、南北辺が2.10mである。壁高は床面から0.25～0.30mの高さであり、比較的残りは良好である。床面には柱穴等の施設は特に認められなかった。竪穴SC0335・SC0352・SC0354とほぼ同規模の竪穴であり、作業用もしくは何らかの保存・保管目的等の半地下式の竪穴と想定しておく。床面の標高は3.68m。長軸の方向はN-24°-Wである。

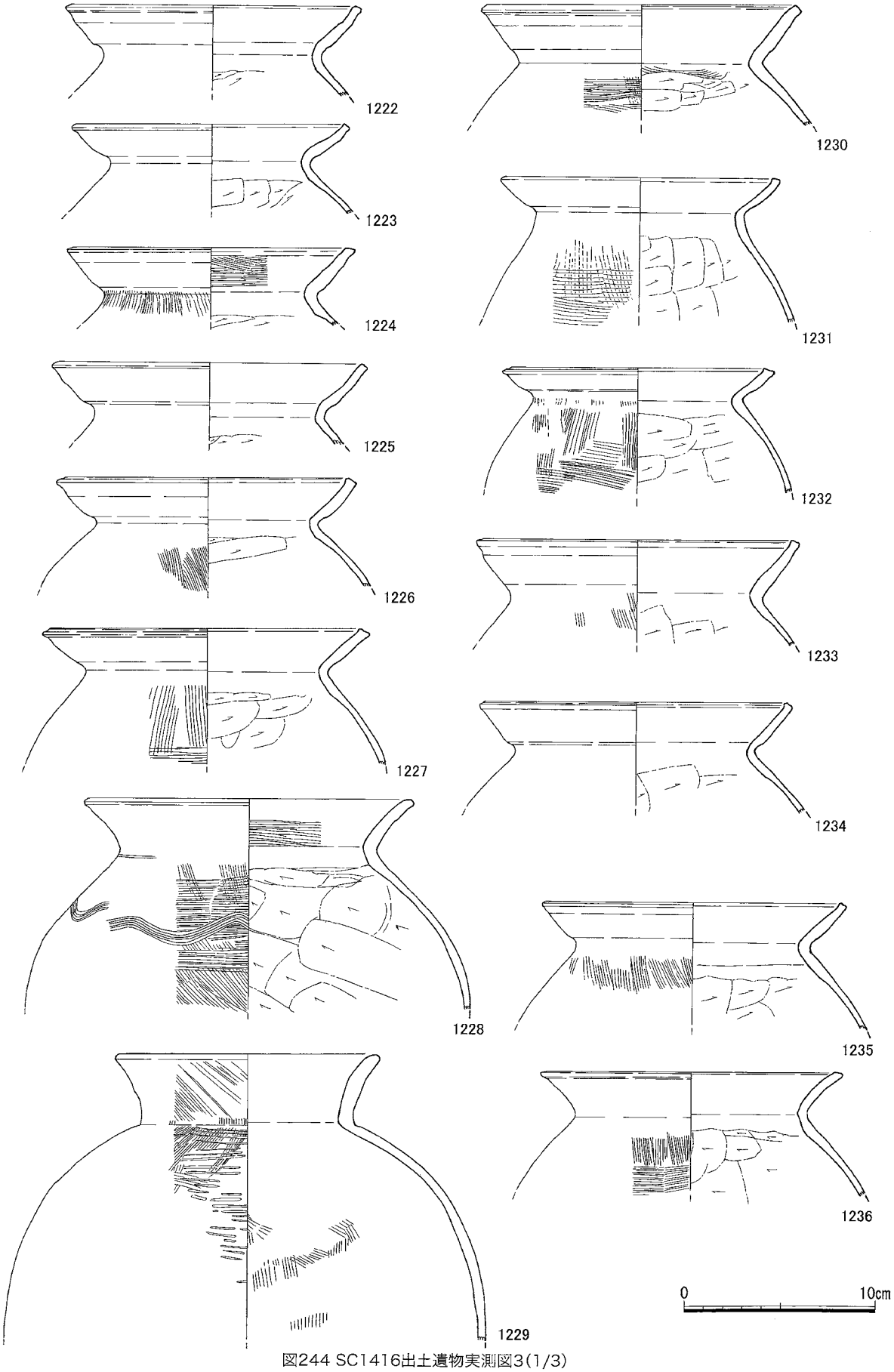
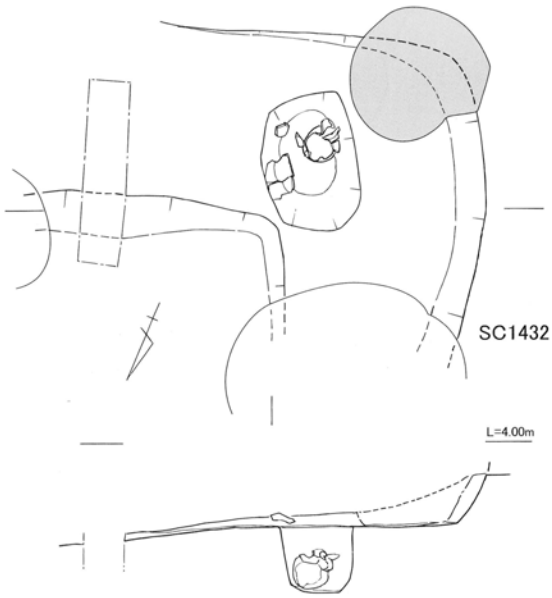
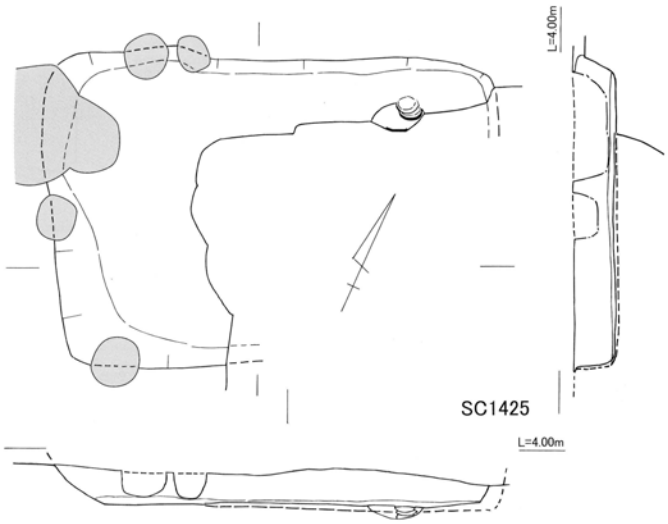
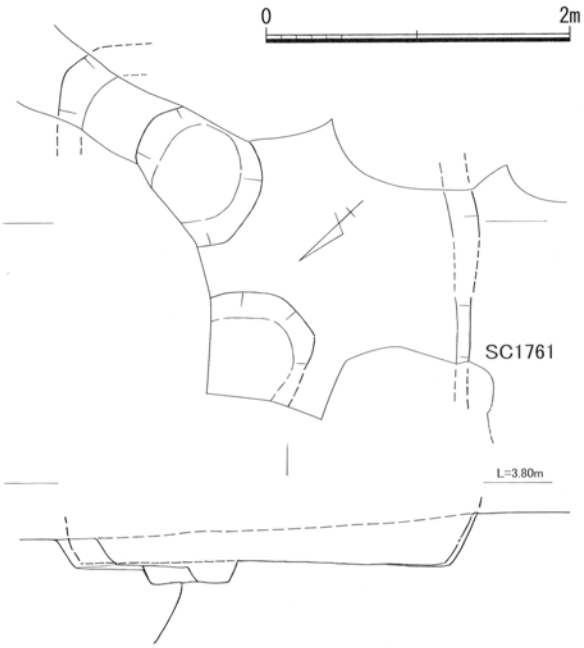
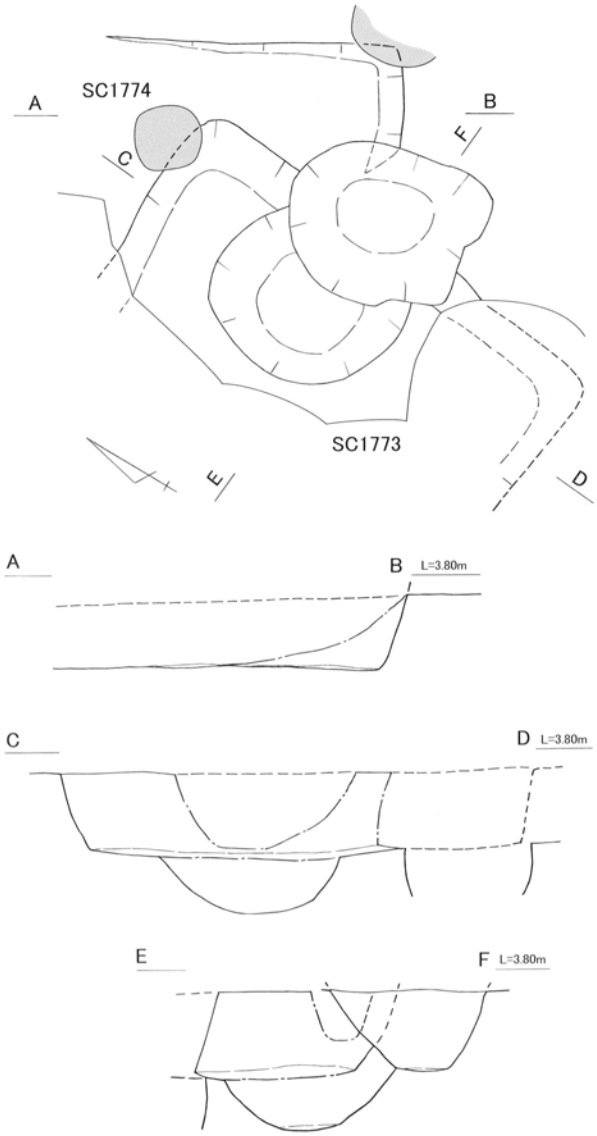


図244 SC1416出土遺物実測図3(1/3)









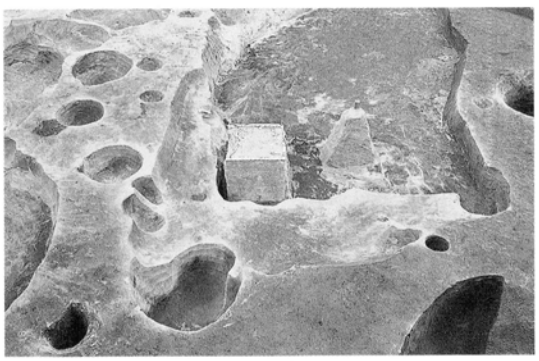


図245 SC1425完掘状況(南西から)

図246 SC1425・1432・1761・1773・1774・SX1770平面及び断面図(1/50)

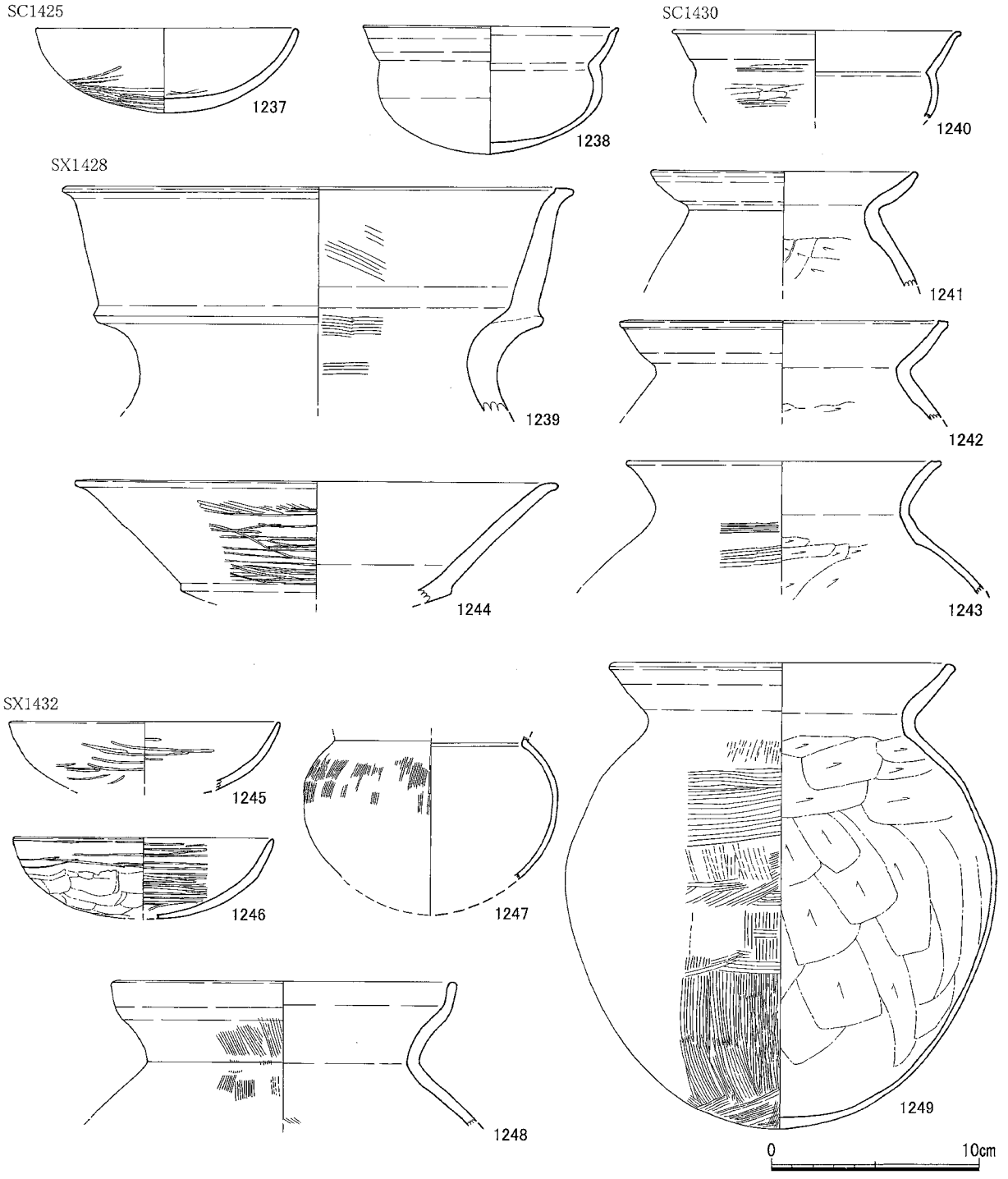


図247 SX1428・SC1425・1430・1432出土遺物実測図(1/3)

出土遺物(1237・1238)　1237は素口縁の鉢。内外面ほぼ上半部はナデ仕上げ、底部から口縁に向けて斜位の荒いヘラミガキがみられる。1238は外反口縁鉢である。内外面とも丁寧なヘラミガキを施す。これらの他、甕口縁部の小破片が出土している。

土壙　SX1428(図247)　2区2～3面相当面検出。古墳時代前期の土壙である。掘方は平面形がやや不整な円形で、断面形は逆円錐台状である。埋土は上層が黒灰～黒褐色混砂弱粘質土、下層では木炭片を若干含み黒灰褐色～黒褐色混砂弱粘質土である。掘方の規模は1.21×1.25m、深さ0.70m。床面の標高は3.11m。

出土遺物(1239)　土師器甕口縁破片の他、山陰系と思われる二重口縁壺1239が出土している。口縁部内端は内側にわずかにつまみ出されている。内画面ともハケ目調整後ナデ仕上げによる。

竪穴　SC1430(図247)　２区１面検出。古墳時代前期の竪穴である。南側～西側が後世の遺構によって削平され消滅している。掘方の平面形はやや不整な方形である。埋土は暗褐～暗灰褐色砂質土がほぼ均一に堆積しており、あまり締まっていない。床面はほぼ平坦で、壁高は床面から0.27～0.32m。竪穴SC0335・SC0352・SC0354とほぼ同じ平面規模の竪穴と思われるが、遺存状況が悪く明確ではない。床面の標高3.04m。長軸の報告はN-22～25°-W。

出土遺物(1240～1244)　二次的に混入した状況で古墳時代前期の土師器片が出土している。1240は外反口縁鉢である。口縁端部をわずかに外反させ丸く収めている。内外面とも丁寧なヘラミガキ。1241～1243は布留系甕。体部内面のヘラケズリは口縁屈曲部から約2.0cm下部の位置まで施す。1241の口縁部は断面中央部が外湾肥厚している。1244は壺又は鼓形器台の受け部か、山陰系の可能性がある。

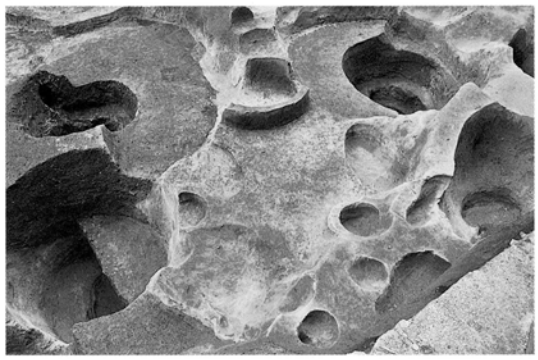


図248 SC1761(南西から)

図249 SC1773(北西から)

竪穴住居　SC1432(図246247)　２区２～３面相当面検出。SC1416の南西部に位置。古墳時代前期の竪穴住居。掘方の平面形は方形になると思われる。断面形は逆形状。掘り下げ当初はSC1416のベッド状遺構の一部と考えていたが、土層断面の観察の結果、SC1416の壁がSC1432の埋土を切りほぼ直に立ち上がることから別々の住居跡と考えるに至った。埋土は軟質で暗褐～暗灰褐色砂質土がほぼ均一に堆積している。規模は東西壁2.0m、南北壁2.1mについて確認した。後世の遺構により上部面が削平を受けているため遺存状況はあまり良くない。一辺４mほどの規模と思われる。床面はほぼ平坦である。壁高は床面から0.5～0.25mの高さで良好に残って

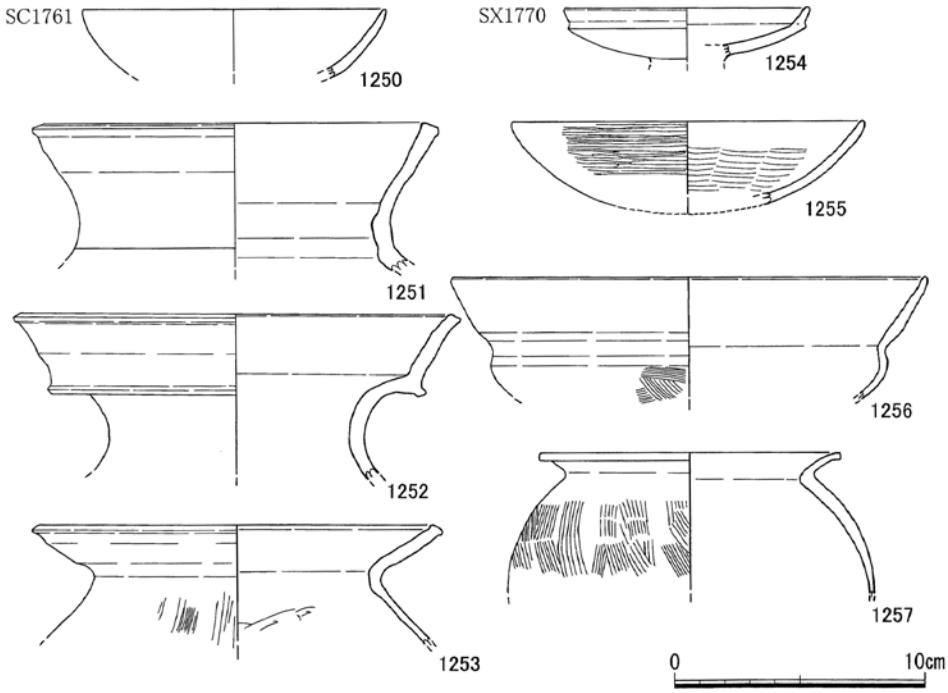


図250 SC1761・SX1770出土遺物実測図(1/3)

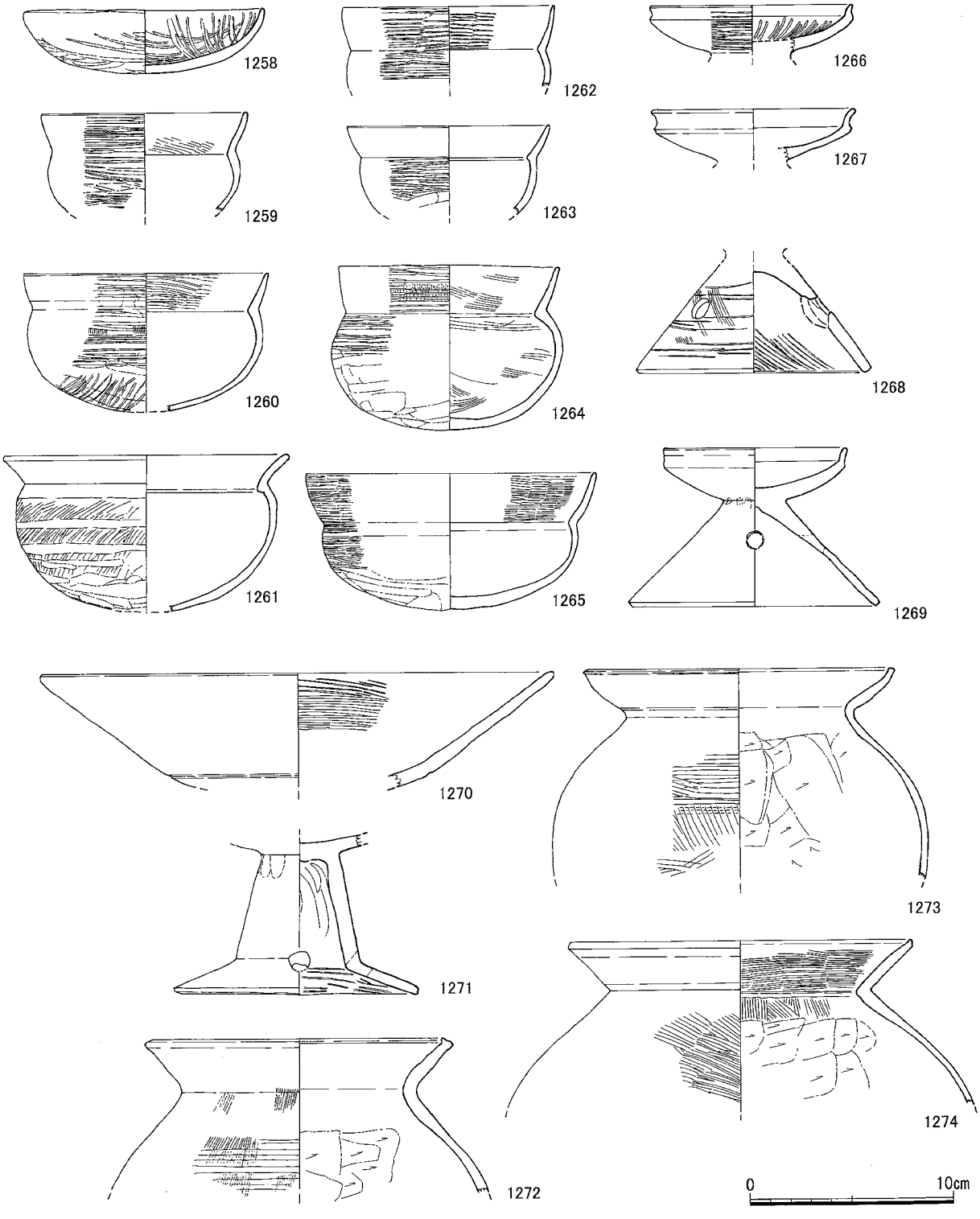


図251 SC1773出土遺物実測図(1/3)

いる。床面の標高は3.42m。長軸の方向はN-15°-Wである。

出土遺物(1245～1249)　1245・1246は素口縁鉢である。いずれも内外面を細かなヘラミガキにより仕上げている。1246の底部はヘラケズリ後、粗いミガキ。。1247は中型の丸底壷で内面はヘラケズリ後軽くナデ仕上げ。1248は二重口縁の甕。口縁部の稜は弱く、口縁部を丸く収める。在地系か。1249は布留系甕である。口縁部は外端部をわずかに外方につまみ出しているが、不明瞭。内面底部に

は指頭圧痕が残る。胴部中央よりやや上に最大径が位置。

竪穴　SC1761（図246・250・248）　３区４面検出。古墳時代前期の竪穴である。北側及び東南側が後世の遺構により大きく削平されている。掘方の平面形は方形で、形状は逆台形状である。埋土は黒灰褐色～暗灰褐色混砂弱粘質土であり、あまり締まっていない。埋土中層部にまとまって木炭小片粒が見られた。平面規模は南北辺が約2.90m、東西辺が2.70mほどの規模と思われる。壁高は床面から0.35mである。床面の標高は3.23m。長軸の方向はN-23～24°-Wである。竪穴SC0335・SC0352・SC0354・SC1452と比較するとやや大きい。用途的にはこれらの竪穴と同様のものか。

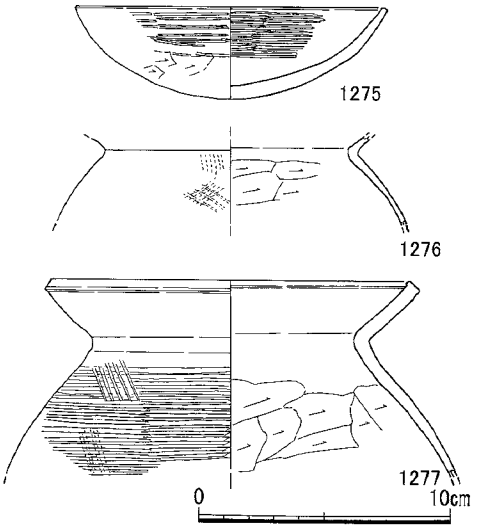


図252 SC1774出土遺物実測図(1/3)

出土遺物（1250～1253）　遺物は甕等の小破片が二次的な堆積状況で出土している。1250は素口縁鉢である。器面があれているが、ヘラミガキによる。1251は直口壷口縁である。畿内系の可能性がある。1252は二重口縁壷である。山陰系か。1253は布留系甕である。

土壙　SX1770（図161・246・250）　３区４面検出。古墳時代前期の土壙である。掘方は平面形が不整な楕円形で、形状は逆円錐台状である。埋土は暗褐色混砂弱粘質土。掘方の規模は1.30×1.08mで、深さは0.52mである。底面の標高は3.12m。

出土遺物（1254～1257）　古墳時代前期の土師器甕、鉢、二重口縁壷、高坏、器台、壷の小片が二次的な混入の状況で出土している。甕が主である。1254は小型器台である。受け部端部は技法につまみ出されている。1255は素口縁鉢である。内面はハケ目調整後、口縁部周辺は軽いナデ仕上げ。外面は細かなヘラミガキ。1256は外反口縁鉢である。1257は甕。外面は縦方向のハケ目調製。

竪穴住居　SC1773（図246・251・249）　３区４面検出。古墳時代前期の竪穴住居である。西側半分が後世の遺構により大きく削平され消滅している。掘方の平面形は方形で、断面形は逆台形状である。埋土は暗褐～褐色砂質土を主体とし、下部には木炭片を若干含む黒灰褐色混砂弱粘質土が堆積している。平面規模は東西南北辺ともに約3.1～3.2mほどの規模と思われる。壁高は床面から0.60～0.65mの高さで非常に遺存状況は良好である。床面の標高は3.10m。長軸の方向はN-3～5°-Wである。

出土遺物（1258～1274）　1258は素口縁鉢である。約1/3の回転によるヘラミガキが内外面に施されている。1259～1264は小型丸底壷である。いずれも外面に細かなヘラミガキを施すが、1261と1263はハケ目を丁寧にナデ消している。1260～1264の底部には、幅広のヘラケズリ後、ミガキ痕があり、その後細かいヘラミガキを施す。1260以外はそのままである。1261の体部にはヘラによる暗文風の廻線を４周させている。1265は外反口縁鉢である。器面調整は1260・1261とよく似る。1266～1269は小型器台の受け部と脚部である。1266の受け部内面には放射状に暗文を施文している。1268脚部の穿孔は３カ所である。1270・1271は高坏の坏部と脚部である。口縁部と体部の接合部には弱い沈線を廻らす。1272～1274は布留系甕である。内面の器面調整はいずれもヘラケズリであるが、1274は先行するハケ目調整痕を残す。口縁部の形態から見てやや古いものか。

竪穴住居　SC1774（図246・252）　３区４面検出。SC1773の北東部に位置する。後世の遺構等によって上半分以上が削平されている。

掘方の平面形は方形で、断面形は逆台形状である。埋土は軟質の暗灰褐色～灰褐色砂質土が均一に堆積している。木炭片が床面から中層部に掛けてわずかに見られる。規模は東壁1.8m、南壁0.65mに

ついて確認したが、一辺3.0～3.5mの規模と思われる。床面はほぼ平坦で、壁高は床面から0.10～0.50mを測る。床面の標高は3.15m。長軸の方向はN-22～25°-Wである。

出土遺物(1275～1277)　遺物の量はさほど多くない。埋土中層部から上層にかけて散発的に出土した。1275は素口縁鉢である。外面には細かなヘラミガキを施す。内面はハケ目調整による。1276・1277は布留系甕である。外面肩部にはハケ目調整に先行する叩き目をかすかに残している。

竪穴住居　SC1781(図253～256)　3区4面検出。古墳時代前期の竪穴住居である。南側から西側にかけて後世の遺構によって大きく削平を受けている。平面形は方形か。断面形は逆台形状である。埋土は軟質の暗灰～灰褐色混砂弱粘質土がほぼ均一に堆積している。かろうじて残っている東壁を基準にすると、竪穴の東西幅は3.04m以上となる。平面規模は一辺3.2～3.5mほどの規模が想定できる。床面はほぼ平坦で、柱穴等は確認できていない。壁高は最も残りの良いところで床面から0.40mを測る。床面の標高は3.18m。長軸の方向はN-22～25°-W。

出土遺物(1278～1284)　床面中央から北側に寄った地点で床面直上に素口縁鉢や甕が出土しているが、他は埋土から散発的に出土しているのみである。1278・1279は素口縁鉢である。内外両面ともに細かな

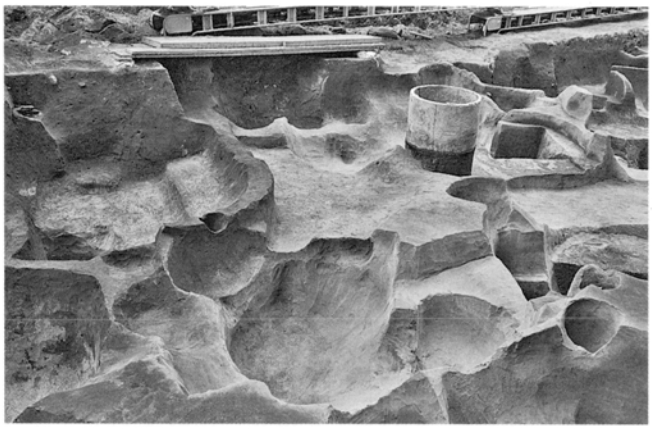


図253 SC1781・1782・1786完掘状況(西から)

図254 SC1781完掘状況(南から)

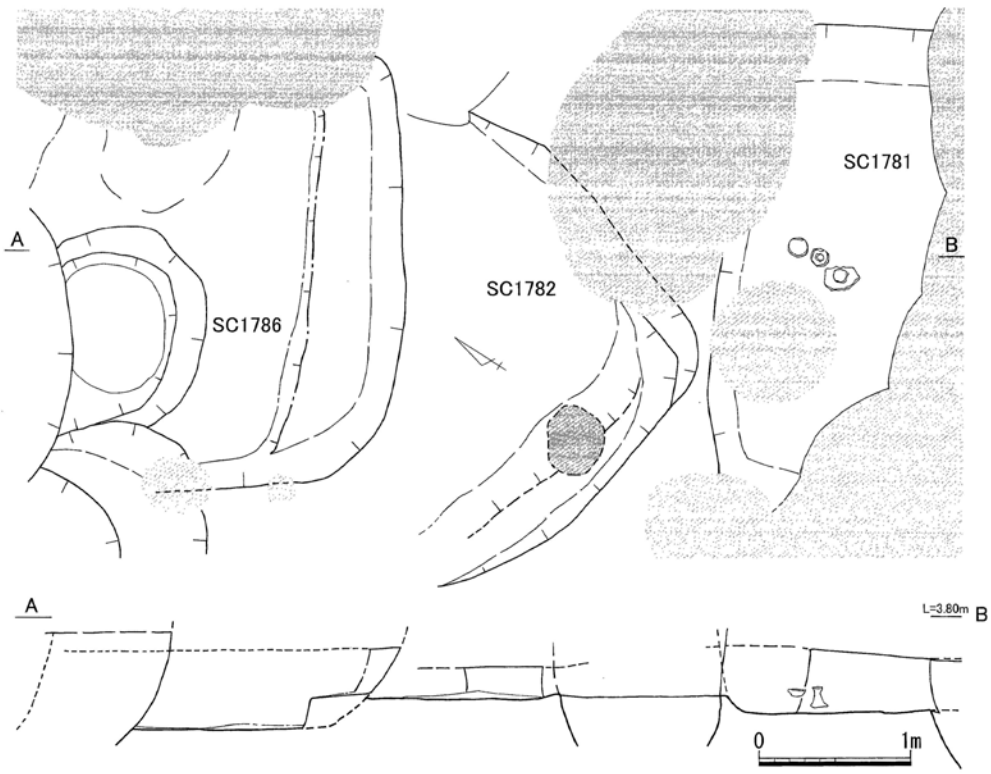


図255 SC1781・1782・1786平面及び断面図(1/50)

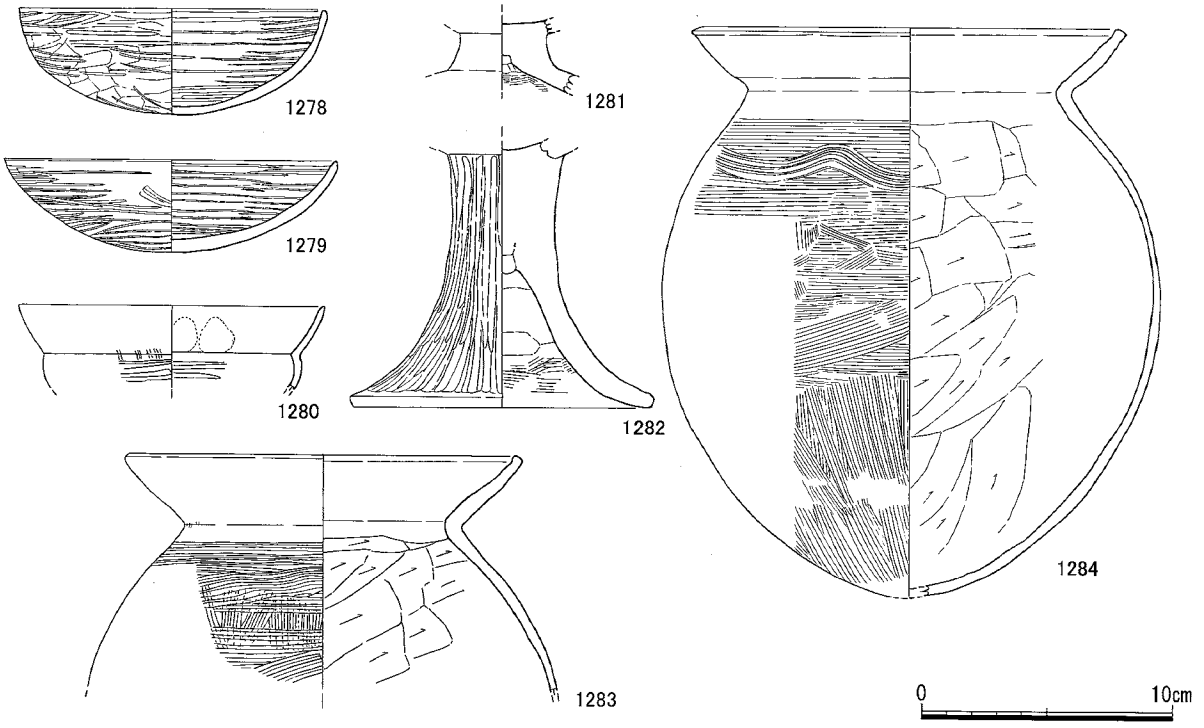


図256 SC1781出土遺物実測図(1/3)

ヘラミガキが施された精製品である。1280は外反口縁鉢か。1281は脚付鉢の脚部である。1282は高坏脚部である。内面にはハケ目、外面には縦方向の丁寧なヘラミガキが施されている。1281・1282は在地系とも思われる。1283・1284は布留系甕である。内面の器面調整は、いずれも斜位から横位のヘラケズリ、口縁部内外面はハケ目の後ナデ仕上げ、1284の肩部には4条を単位とする櫛描による波状文を廻らしている。

竪穴住居　SC1782(図255・257・253)　3区4面検出。古墳時代前期の竪穴住居である。東側から西側は後世の遺構によって大きく削平を受けている。掘方の平面形は方形になると思われる。断面は逆台形状である。埋土は軟質の暗灰褐色砂質土がほぼ均一に堆積している。床面上には木炭片をわずかに含む灰～灰褐色砂質土が薄く堆積している。南壁のほぼ中央にはわずかに赤みがかった薄い焼土層がみられた。残りの良い南壁で長さ2.5m以上ある。平面規模は一辺3.0～3.5mほどの大きさになると思われる。柱穴等は確認できていない。壁高は床面は中央部が若干くぼんでいるがほぼ平坦である。壁溝は床面から0.50～0.25mである。床面の標高は3.27m。長軸の方向はN-3～5°-Wである。

出土遺物(1285・1286)　土師器甕、鉢、壷、高坏の小片が埋土から出土している。1285・1286は小型の外反口縁鉢である。底部にはいずれも幅広のヘラケズリ後、やや粗いミガキ痕がある。体部上半は細かなヘラミガキを施している。内面はいずれもナデ仕上げ。

土壙　SX1783(図257)　3区4面検出。古墳時代前期の土壙である。掘方は平面形がやや不整な円形で、埋土は暗灰褐色～黒褐色混砂弱粘質土である。掘方中位から下部では木炭片を多く含む。遺物は中位から上層で散発的に出土。掘方の規模は0.84×0.92mで、深さ0.47mである。

出土遺物(1287～1289)　古墳時代土師器甕、鉢、高坏が出土している。いずれも小片である。1287・1288は二重口縁壷である。1287の口縁はほぼ直に立ち上がるもので、山陰系と思われる。1288は口縁部下部に断面三角の突帯を垂下させ貼付けており、畿内系の可能性が考えられる。1289は内面は斜位のヘラケズリで、外面には斜位の平行叩きを残す。庄内系甕か。

竪穴住居　SC1786(図255・253)　3区4面検出。古墳時代前期の竪穴住居である。北側半分が後世

の遺構により削平されている。掘方の平面形は隅丸の方形で、掘方断面は逆台形である。壁はほぼ直に立ち上がっている。埋土は軟質の黒灰褐色混砂弱粘質土がほぼ均一に堆積している。床面はほぼ平坦であるが、南壁に沿って幅0.51～0.70mの幅で床面よりも約0.20～0.24mほど一段高いベッド状の平坦部がみられる。南壁は長さ3.03mについて確認することができた。平面規模は一辺3.2mほどの大きさと思われる。壁高は床面から0.40～0.50mを測り、遺存状況は比較的良好。床面の標高は3.20m。長軸の方向はN-23～25°-Wである。

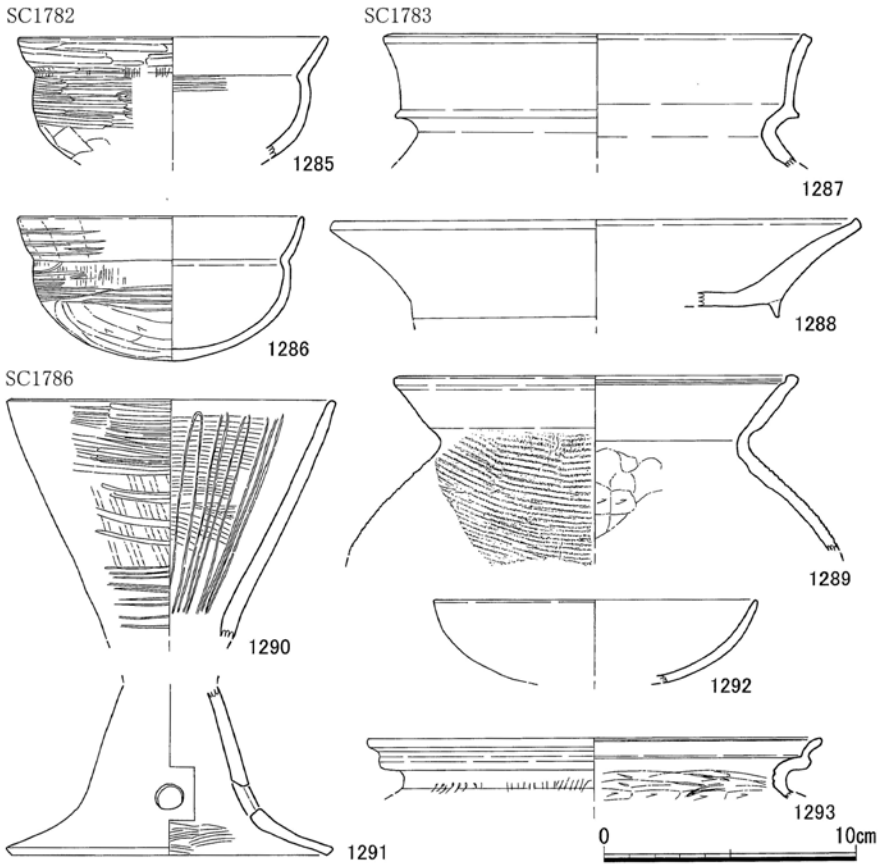


図257 SC1782・1783・1786出土遺物実測図(1/3)

出土遺物(1290～1293)　土師器甕、鉢、高坏等が出土しているがいずれも小片である。1290は中型の精製の直口壷である。内面はヨコハケ後、暗文を施文し、外面はタテハケの後、横位の細かなヘラミガキを施している。1291は高坏脚部である。1292は素口縁鉢。1295は断面「s」字状口縁を特徴とする東海系甕である。口縁部内画面ともハケ目調整後ナデ仕上げ。短い頸部内面下端にはヘラケズリ痕が残る。

溝状遺構　SD1779(図261・259・258)

3区4面検出。調査区北端部に位置している。古墳時代前期の溝で、東西にほぼ直線的に延びている。長さ約6mについてのみ確認できた。中世の溝SD1563の下部にあたり、一部重複している。竪穴住居SC1790の北壁を切っている。断面形は船底状である。埋土は暗褐色混砂弱粘質土で、木炭片、砂礫を含む。幅は1.1mを測る。底面の標高は3.38mである。主軸の方向は、N-60°-Wである。

図258 SD1779完掘状況(南から)

出土遺物(1294～1303)　古墳時代土師器甕、高坏、小型丸底壷などが出土している。出土状況からみて、下部で検出されたSC1790からの混入が多いかと思われる。1294は素口縁鉢である。内面はハケ目後やや荒いヘラミガキ、外面は幅広のヘラミガキを施しており、先行するハケ目が所々残っている。1295・1296は丸底壷である。体部内面はナデ仕上げ、口縁部内面にはハケ痕を残している。外面はハケ目調整後、横位～斜位ヘラミガキを施す。1297は小型器台。受け部端部は強く外方へ引き出し丸く収めている。脚部内面にはハケ目が、外面にはヘラミガキ痕が残る。1298は吉備系複合口縁壷である。口縁外面には3条の沈線を廻らす。1299～1301は甕。1299内面はハケ目調整後ヘラケズリ。外面は斜位方向のハケ目仕上げ。在来系か。1300・1301は布留系甕である。1302は二重口縁壷である。山陰系か。1303は短い頸部を立ち上げ、その先端部にほぼ直に口縁部を貼り付けている。口縁部は内面先端部をわずかにつまみ出す。体部内面はヘラケズリ成形である。

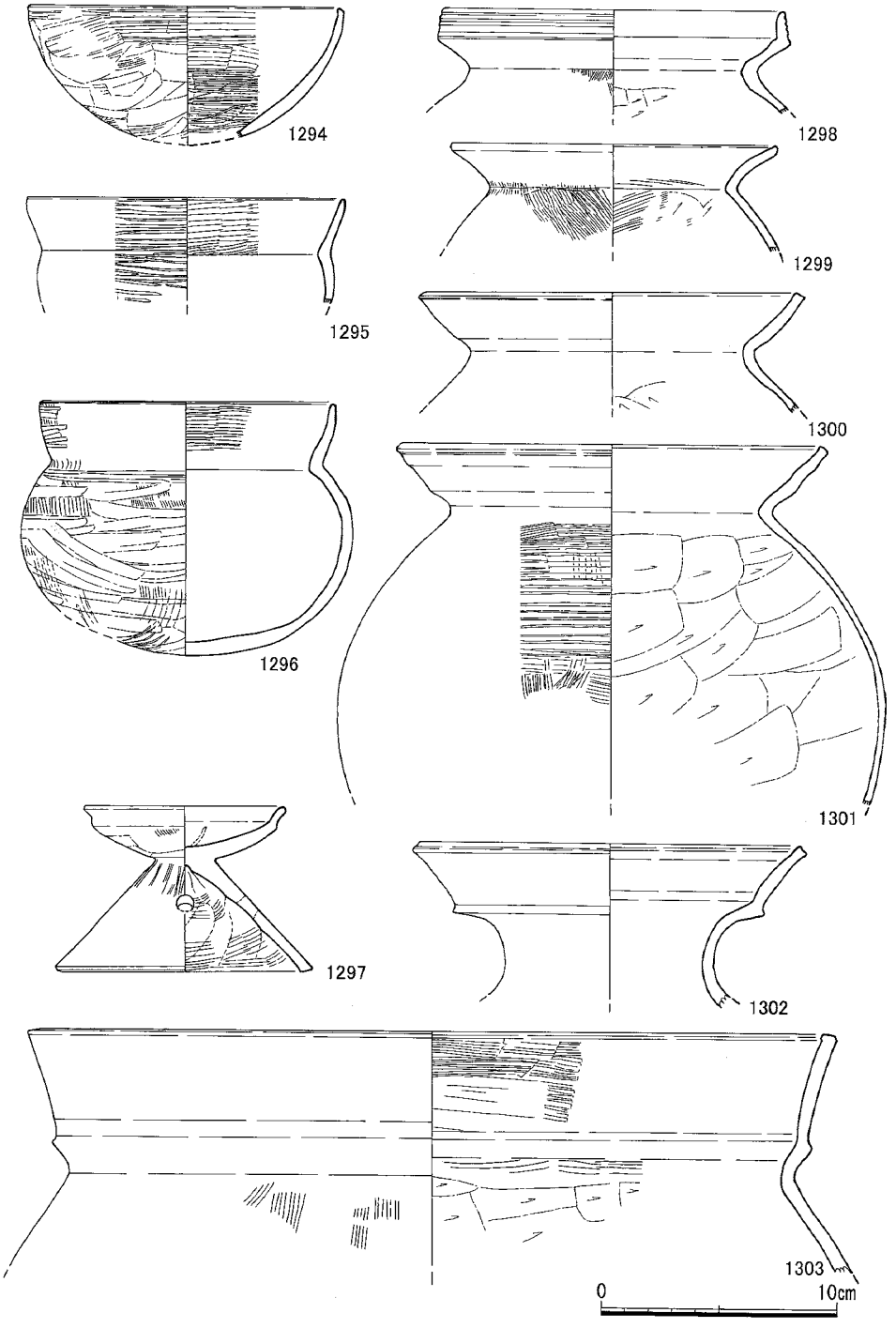


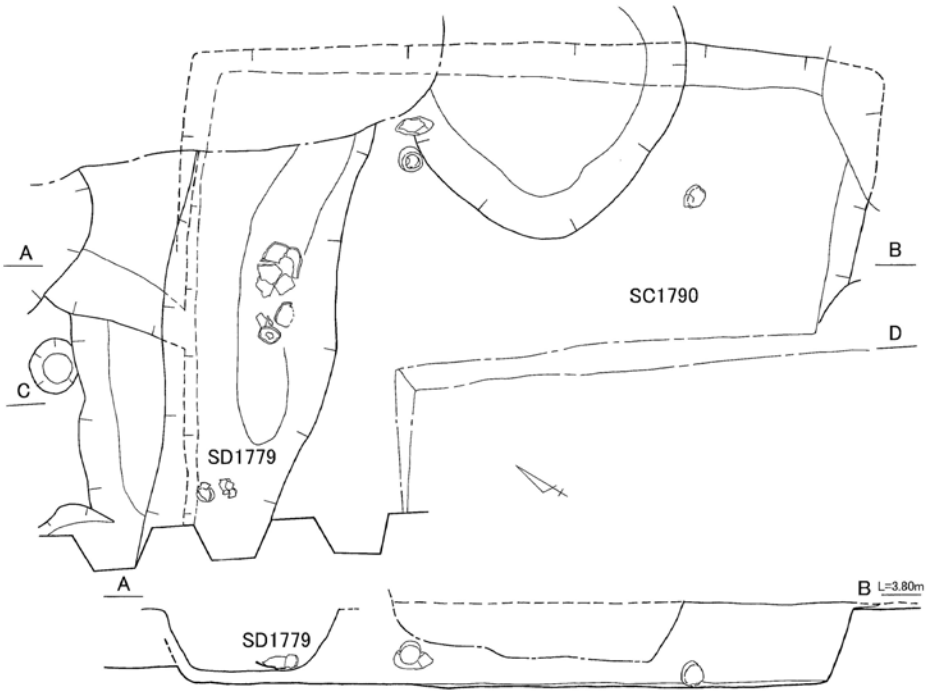
図259 SD1779出土遺物実測図(1/3)

竪穴住居　SC1790(図261・262・260)　3区4面検出。古墳時代前期の竪穴住居跡である。調査区西壁にほぼ半分がかかっており、完掘していない。北壁はSD1779によって、南壁は中世の井戸SE1455によってそれぞれ削平され、ほとんど残っていない状況である。東壁と調査区西壁の土層断面からみて、平面形は一辺が4.6～4.7mほどの方形になると思われ、今回の調査によって確かめられた当該期の竪穴住居では最大規模である。断面は逆台形状である。

壁はほぼ垂直に立ち上がっている。埋土は軟質で締まりのない褐色～灰褐色混砂弱粘質土がほぼ均一に厚く堆積している。中層には木炭片がわずかにみられたが、ある程度埋まった後、自然堆積に近い状況で徐々に埋まったと思われる。壁高は床面から0.55mを測る。床面はほぼ平坦である。遺物は非常に散発的である。床面の標高は3.15m。長軸の方向はN-31～33-W。

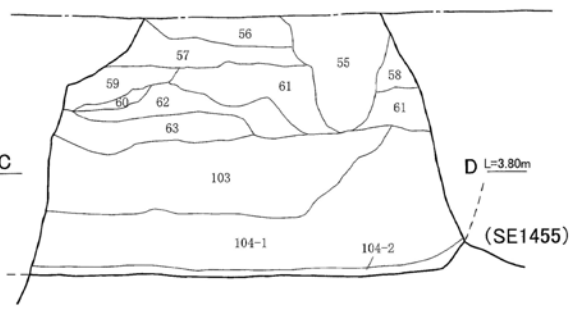
図260 SC1790完掘状況(南から)

出土遺物(1304～1316)　1304～1307は素口縁鉢である。いずれも内面外面ともに細かなヘラミガキ。外面は幅広のヘラミガキが底部を中心にみられる。1307はやや厚く在地系のものと思われる。内外面ともハケ目調整による。1308は無頸壷で内面には指圧痕が、体部上半では細かなヘラミガキ、下部では幅広のヘラミガキ。1309・1310は小型丸底壷である。1310は脚付で、体部内面には放射状暗文を施文している。1311は焼塩壷である。底部には指頭圧痕が残っている。1312・1315・1316は布留系甕である。1316の口縁はほぼ直線的に伸びるが、他はわずかに外湾する。1313は中型の直口壷である。体部過半～底部にかけては幅のあるやや荒いヘラミガキを施している。内面には粘土ヒモ接合面が残っている。1314は手焙形土器の上半部である。天井部断面は「L」字状で、口縁部前面帯部には2条の隆起線が、背部側面には沈線がみられる。



SC1790 内埋土及び調査区西壁部分土層観察所見

第 55　層 上層は黒灰褐色ー黒褐色、下層は暗褐色の混砂粘質土(小礫・近世瓦片含む)
第 56　層 暗褐色ー黒褐色砂質土混合土、土師器小片含む。
第 57　層 黒色土と黒褐色砂の混合土
第 58　層 黒褐色土と暗褐色土との混合土層
第 59　層 暗灰色砂質土と暗褐色砂の混合土層
第 60　層 暗褐色砂と褐色砂の混合層
第 61　層 暗褐色砂質土(黒褐色砂質土が混入)する。
第 62　層 暗灰褐色砂質土(木炭含む)
第 63　層 暗褐色砂層(わずかに粘質あり)
第 103　層 暗褐色(HUE10YR3/3ー3/4)砂質土土質が均質である。部分的に黒みが強い層
第 104①層 褐色ー暗褐色(HUE10YR4/4ー3/4)砂質土わずかに粘質。
第 104②層 にぶい黄褐色ー褐色(HUE10YR 4/5ー4/4)砂層 (ややきめ粗い)(103・104 層が SC1790 内埋土)



0　2m

図261 SC1790・SD1779平面及び断面図(1/50)

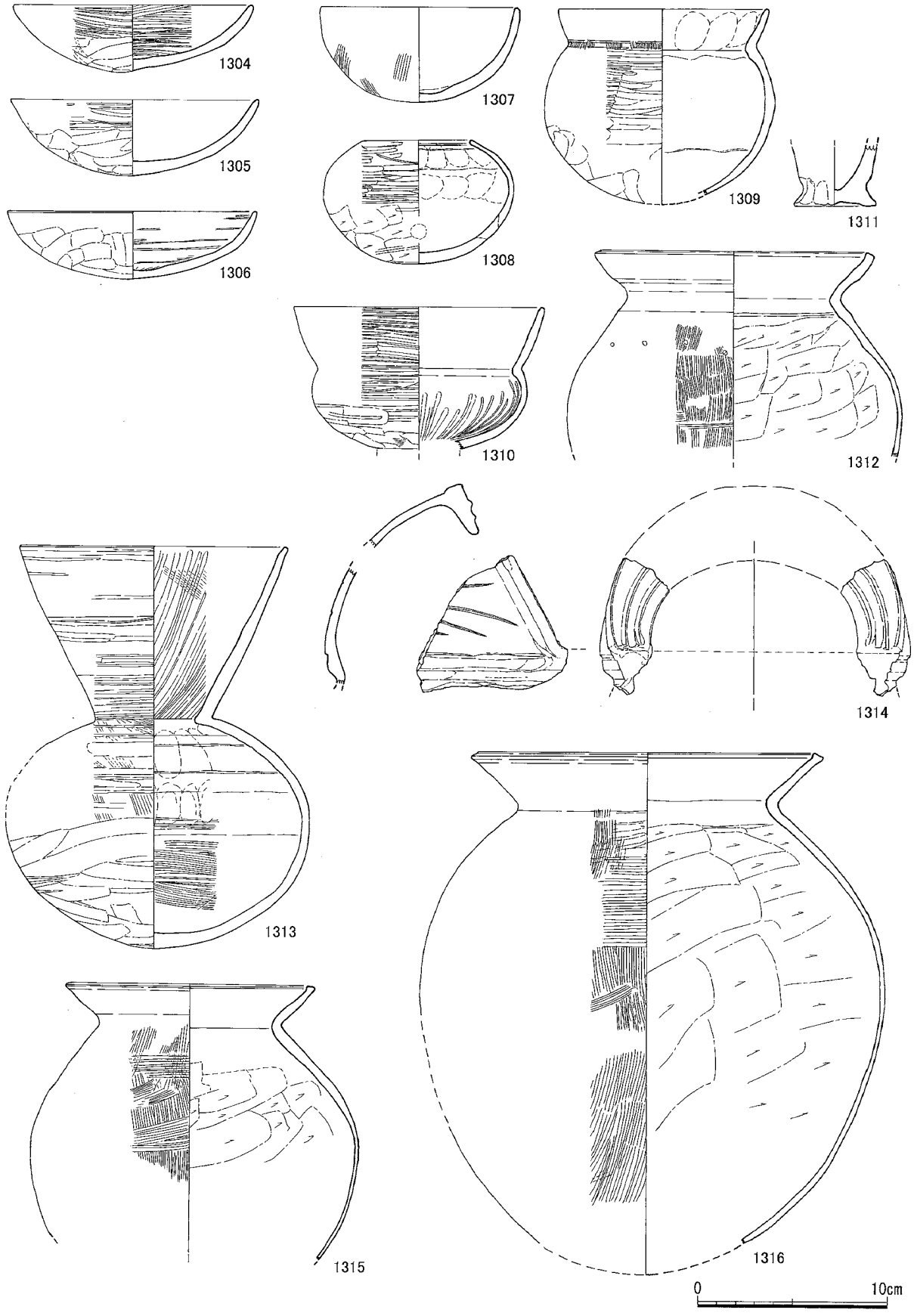


図262 SC1790出土遺物実測図(1/3)

表6　古墳時代出土遺物観察表

頁	挿図番号	遺物番号	出土遺構			器種　器形	時期	法量(cm) 口径又は長さ	底径	高台 高さ	高台 直径	胴部径	幅	器高	厚さ	胎土	焼成	色調	成形・調整の特徴 その他特記事項
142	232	1158	SC 0305	2	00337	土師器 鉢	古墳前期	10.0	－	－	－	－	－	(3.0+α)	－	精良	軟　焼き締まっていない	赤褐色	内外面とも表面を磨研　(1/8)
		1159		5	00340	土師器 鉢	古墳前期	12.9	－	－	－	－	－	3.5～3.7	－	精良	軟　焼き締まっていない	赤橙褐色	内外面とも表面を磨研　(完形)
		1160		6	00341	土師器 鉢	古墳前期	10.0	－	－	－	－	－	(3.4+α)	－		軟　焼き締まっていない	灰褐色	内外面とも表面を磨研　(1/10)
		1161		1	00336	土師器 壺	古墳前期	9.0	－	－	－	6.9	－	(3.7+α)	－	精良	軟　焼き締まっていない	赤褐色(つや有り)	内外面とも表面を磨研　口縁内面はハケ目(1/8)
		1162		10	00345	土師器 鉢	古墳前期	10.4	－	－	－	10.8	－	(4.4+α)	－	精良	良好　良く焼き締まっている	赤褐色	口縁内面ヨコハケ 床面出土
		1163		4	00339	土師器 鉢	古墳前期	10.3	－	－	－	(9.2)	－	(2.9+α)	－	精良	軟　焼き締まっていない	黄褐色	内外面とも表面を磨研　(1/8)
		1164		11	00346	土師器 鉢	古墳前期	14.5	－	－	－	12.0	－	4.5+α	－	精良	良好　良く焼き締まっている	赤褐色	口縁内面ヨコハケ 床面出土
		1165		12	00347	土師器 脚付鉢	古墳前期	12.8	－	脚高2.6	7.9～8.1	6.8～7.0	－	－	－	精良	軟　もろい	灰赤褐色	坏部磨研　脚部タテヘラミガキ 床面出土
		1166		3	00338	土師器 器台	古墳前期	10.2～10.3	－	－	－	－	－	(2.5+α)	－	精良	軟　焼き締まっていない	赤橙褐色	内外面とも表面を磨研　内面は放射状の暗文(1/10)
		1167		8	00343	土師器 甕	古墳前期	16.4	－	－	－	－	－	(3.0+α)	－	精良	硬く焼き締まっている　もろい	灰褐色	内面はヨコナデ
		1168		7	00342	土師器 甕	古墳前期	17.2	－	－	－	－	－	(5.3+α)	－	精良　石英砂含む	硬く焼き締まっている　もろい	灰褐色	胴部内面は頸部近くから斜め方向へヘラケズリ
		1169		9	00344	土師器 甕	古墳前期	16.8	－	－	－	－	－	(6.9+α)	－	精良	硬く焼き締まっている　もろい	灰褐色	口縁内外面ヨコナデ　胴部内面はヘラケズリ　胴部外面には波状文の一部がある
144	235	1170	SC 1400	6	01338	土師器 鉢	古墳前期	12.0	－	－	－	－	－	(4.1)	－	精良　0.5～1.0mmの石英砂含む	良く焼き締まっている	灰褐色	内外面ともヘラミガキ (1/4)
		1171		27	01358	土師器 鉢	古墳前期	12.8	－	－	－	－	－	3.5～4.0	－	精良　微細な砂粒、雲母片含む	良く焼き締まっている	赤褐色	外面ハケ目後ヘラミガキ　内面放射状にヘラミガキ
		1172		5	01337	土師器 壺	古墳前期	12.0	－	－	－	10.2	－	8.5	－	精良　0.5mmほどの砂粒含む	軟　もろい	灰褐白色	外面底部にハケ目痕残る　その他はヨコナデ(1/10)
		1173		14	01346	土師器 鉢	古墳前期	14.9	－	－	－	12.4	－	(5.1)	－	精良　微細な雲母、白色砂を含む	硬く焼き締まる	褐色	褐色　外面ハケ目後ヘラミガキ　内面ハケ目後ヘラミガキ (1/3)
		1174		11	01343	土師器 鉢	古墳前期	16.5	－	－	－	13.3	－	5.6	－	精良　0.5mmほどの石英砂、雲母片含む	軟　焼き締まっているが軟	赤黄褐色	内外面ともヘラ磨き
		1175		7	01339	土師器 壺	古墳前期	13.8	－	－	－	－	－	(6.9+α)	－	精良　0.5～1.0mmの白砂含む	良く焼き締まっている	褐色	外面ヘラミガキ　内面ヨコハケ やや偏平な器形となる
		1176		28	01359	土師器 壺	古墳前期	13.1	－	－	－	13.0	－	10.1	－	精良　きめ細かい	良く焼き締まる	赤褐色	外面全面ヘラミガキ(ヘラミガキは丁寧)　口縁部内外面に指圧痕残る
		1177		22	01353	土師器 器台	古墳前期	8.3	－	脚台4～4.5	9.3	－	－	6.1～6.3	－	精良　微細な雲母含む	硬く焼き締まっている	明褐色	器面はヘラミガキだったと思われる 脚には三カ所に直径1.1ほどの孔がある　表面は粗れており調整痕は不明瞭
		1178		25	01356	土師器 脚付鉢	古墳前期	11.5	脚高(3.5) 脚径(7.2)	－	－	－	－	(7.0)	－	精良　0.5mm大の白砂、微細な雲母片を含む　きめ細かい	良く焼き締まっている	赤褐色	坏部下半にはヘラミガキ痕を残す(内外面ともヘラミガキ) 脚部に孔(直径0.7～1.0)3つあり
		1179		26	01357	土師器 脚付鉢	古墳前期	12.5～12.7	脚高2.8 脚径9.3	－	－	－	－	6.35～7.1	－	精良　微細な白砂、雲母を含む	良く焼き締まっている	赤褐色	内面ヨコハケ後丁寧なヨコナデ　外面底部ヘラケズリ後ミガキ　口縁部ヨコナデ かなり焼きひずんでいる
		1180		23	01354	土師器 壺	古墳前期	19.6	－	－	－	－	－	(8.0+α)	－	きめ粗い　白砂、黒色砂、雲母微細片を多く含む	硬く焼き締まっている	明褐～明赤橙褐色	内外面とも回転ヨコナデ
		1181		13	01345	土師器 壺	古墳前期	26.1	－	－	－	－	－	(10.0+α)	－	精良　0.5～1.5mm大の砂、微細な雲母片含む	硬く焼き締まっている	褐色	内外面ともヨコハケ後ナデ 内面は黒色に彩色している(1/12)
		1182		3	01335	土師器 甕	古墳前期	17.6	－	－	－	23.5	－	(15.5+α)	－	金雲母が目立つ	良好	外面、黄褐色　内面、黒色を呈する	
		1183		29	01360	土師器 甕	古墳前期	15.4	－	－	－	23.4	－	(22.9+α)	－	石英、褐色の粒子を多く含む	良好	明黄褐色　表面に煤付着	鞍量　全周の7割残存
145	236	1184		12	01344	土師器 甕	古墳前期	15.6	－	－	－	17.7	－	(9.8+α)	－	精良　石英砂、雲母を含む	良く焼き締まっている	灰茶褐色	内面ヘラ削り　指圧痕残す　外面斜め方向のハケ目
		1185		15	01347	土師器 甕	古墳前期	13.6	－	－	－	16.0	－	(9.0+α)	－	0.5～1.0mm大の砂粒を多く含みきめ粗い	軟　もろい	灰茶褐色～黒灰色	内面斜位のヘラ削り　他ハケ目後ヨコナデ(1/12)
		1186		17	01349	土師器 甕	古墳前期	14.4	－	－	－	17.2	－	(11.5+α)	－	きめ粗く細かい砂粒、雲母含む	軟　もろい	褐～黒褐色	内面ヘラ削り　外面ヨコナデ 波状文は一条弱い 外面にはスス付着
		1187		20	01351	土師器 甕	古墳前期	17.2	－	－	－	－	－	(8.3+α)	－	精良　0.5～2.0mm大の砂粒を多く含む　雲母が目立つ	良く焼き締まる	灰褐色～黒色	内面ヘラ削り後丁寧なナデによって平滑に仕上げている
		1188		2	01334	土師器 甕	古墳前期	16.3	－	－	－	20.8	－	(13.0+α)	－			黄褐色	
		1189		16	01348	土師器 甕	古墳前期	15.8	－	－	－	(19.5)	－	(6.1+α)	－	0.5～1.0mm大の白砂、微少な雲母を含む　きめ粗い	軟　もろい	褐～黒褐色	内面ヘラ削り　外面ヨコナデ 肩部に一条の波状沈線を入れる
		1190		4	01336	土師器 甕	古墳前期	13.6	－	－	－	18.1	－	(17.5～)	－	ややきめ粗い　0.5～1mm大の白砂多く含む	軟　もろい	赤褐～褐色 内面は黒灰色	外面:目の細かいハケ目　内面:ヘラ削り (1/4)
		1191		18	01350	土師器 甕	古墳前期	13.8	－	－	－	15.2	－	11.0+α	－	石英砂、長石砂、雲母を多く含みきめ粗い	軟　もろい	明褐色～黒褐色	内面ヘラ削り　外面ハケ目 肩部に一条の浅い沈線あり
		1192		10	01342	土師器 甕	古墳前期	15.5	－	－	－	－	－	(6.3+α)	－	精良	軟　もろい	明黄褐色	内面指圧痕ヘラ削り 肩部に波状文あり
		1193		24	01355	土師器 甕	古墳前期	15.6	－	－	－	19.0	－	(10.5+α)	－	0.5～1.5mm大の砂粒を多く含む	硬く焼き締まっている	灰褐色	内面ヘラ削り　外面ヨコハケ 肩部に一条の波状文あり
		1194		9	01341	土師器 甕	古墳前期	19.8	－	－	－	25.8	－	(16+α)	－	精良	良く焼き締まっている	灰褐～黒灰褐色	外面ヘケ目　内面ヘラ削り 肩部に5条の沈線
146	237	1195		1	01333	土師器 甕	古墳前期	14.7	－	－	－	17.6	－	19.6	－	石英の粗粒を含む	良好	暗黄褐色	
		1196		8	01340	土師器 甕	古墳前期	15.0	－	－	－	17.5	－	17.3	－	精良　0.5mmほどの石英砂、雲母片を含む	良く焼き締まっている	灰茶褐色～黒褐色	
		1197		21	01352	土錘	古墳前期	7.3	孔径1.0~1.2	－	－	－	3.9	－	3.7	1～2mm大の砂粒を多く含みきめ粗い	硬く焼き締まっている	灰～暗灰色	ハケ目後ヨコナデ(　g)
148	242	1198	SC 1416	5	01385	土師器 鉢	古墳前期	12.4	－	－	－	－	－	2.9+α	－	精良　微細な砂粒(白砂、黒色砂)含む	良く焼き締まっている	明褐色	内外面ともヘラミガキ(1/5)
		1199		6	01386	土師器 鉢	古墳前期	13.0	－	－	－	－	－	3.0	－	精良	良く焼き締まっている	灰褐色	内外面ともヘラミガキ(1/8)
		1200		27	01406	土師器 鉢	古墳前期	11.4	－	－	－	－	－	3.6	－	精良　微細な砂粒、雲母含む	硬く焼き締まっている	赤褐色～暗赤褐色	全面ヘラミガキ　内面放射状の暗文(1/4)
		1201		34	01413	土師器 壺	古墳前期	10.5	－	－	－	8.4	－	7.0	－	精良　微細な雲母含む	硬く焼き締まっている	赤褐色	外面ヘラミガキ　口縁内部ハケ目
		1202		20	01399	土師器 壺	古墳前期	10.5	－	－	－	9.8	－	(6.0+α)	－	精良	良く焼き締まっている	暗褐色	外面～口縁部内面はヘラミガキ　胴部内面はヨコナデ(1/6)
		1203		7	01387	土師器 鉢	古墳前期	14.0	－	－	－	12.4	－	(6.1)	－	精良　微細な白色砂を含む	良く焼き締まっているがもろい	明褐色	内面ヨコハケ、ナデ　外面ハケ目後ヘラミガキ(1/10)
		1204		33	01412	土師器 壺	古墳前期	12.7	－	－	－	13.5	－	(7.0+α)	－	精良　微細な雲母含む	硬く焼き締まっている	暗赤褐色 外面　黒色土	胴部内面ヨコナデ他はハケ目後ヘラミガキ
		1205		28	01407	土師器 壺	古墳前期	－	－	－	－	13.9	－	(8.1+α)	－	精良　記質で、微細な雲母を多く含む	良く焼き締まっている	暗灰褐色～黒灰褐色	外面肩部ハケ目後ヘラミガキ 口縁部欠損(調整ヘラミガキ)(1/8)
		1206		9	01389	土師器 壺	古墳前期	10.0	－	－	－	12.2	－	10.3	－	精良	良く焼き締まっている	灰褐色	内面ハケ目、外面胴部上半丁寧なミガキ(1/5)
		1207		10	01390	土師器 壺	古墳前期	(12.0)	－	－	－	－	－	(7.8+α)	－	精良　微細な砂粒、雲母片をわずかに含む	硬く焼き締まっている	明赤褐色	内面ヨコハケ後ヘラミガキ　外面丁寧なヘらミガキ(1/3)
		1208		4	01384	土師器 器台	古墳前期	9.8	－	－	－	－	－	2.1～	－	精良	硬く焼き締まっている　もろい	暗灰褐	内外面ともヘラミガキ 内底には放射状に暗文を施文(1/2)
		1209		21	01400	土師器 器台	古墳前期	－	11.6	－	－	－	－	(5.4+α)	－	精良　きめ細かい	硬く焼き締まる	灰黄色	外面丁寧なヘラミガキ　内面ハケ目(1/3)　器台の可能性もあり
		1210		30	01409	土師器 器台	古墳前期	－	12.6	－	－	－	－	(6.7+α)	－	精良	硬く焼き締まっている	黒灰褐色	外面ヘラミガキ　内面ハケ目、ナデ 孔径1.1cm 二つ穿孔有り(2/3)

頁	挿図番号	遺物番号	出土遺構			器種 器形	時期	法量(cm) 口径又は長さ	底径	高台 高さ	高台 直径	脚部径	幅	器高	厚さ	胎土	焼成	色調	成形・調整の特徴 その他特記事項
148	242	1211		19	01398	土師器 蓋	古墳前期	—	つまみ高1.5径3.4	—	—	—	—	(3.0+α)	—	精良 きめ細かいい	軟質 もろい	赤褐～赤褐白色	内外面ともヘラミガキ (1/3)
		1212		17	01396	土師器 高坏	古墳前期	—	—	脚4.6	脚6.0	—	—	(6.5+α)	—	精良	硬く焼き締まる	灰橙褐色	脚～坏下部ヘラミガキ 脚部3カ所に穿孔あり(直径0.9～1.2cm) (1/3)
		1213		11	01391	土師器 高坏	古墳前期	—	12.8	—	—	—	—	(3.9+α)	—	精良	軟 もろい	明褐色	外面ヘラミガキ 内面ハケ目 (1/3)
		1214		8	01388	土師器 高坏	古墳前期	(19.0)	—	—	—	—	—	(4.3+α)	—	精良 微細な白色砂、黒色砂、雲母片含む	良く焼き締まる	明褐色	内外面ともヘラミガキ 内面には放射状に暗文あり
		1215		31	01410	土師器 高坏	古墳前期	—	11.0	—	—	—	—	(7.7+α)	—	精良	硬く焼き締まっている	明黄橙色	外面ヘラミガキ 内面ハケ目、ナデ 孔径1.2cm 二つ穿孔有り (1/2)
		1216		29	01408	土師器 壺	古墳前期	19.9	—	—	—	—	—	(5.9+α)	—	きめ粗い 1mm前後の砂粒を多く含む	硬く焼き締まっている	明褐白色	外面ヘラミガキ 内面ヨコハケ 孔径1.2cm～1.3cm 二つ穿孔有り (1/8)
		1217		15	01395	土師器 壺	古墳前期	(18.0)	—	—	—	—	—	(5.0+α)	—	精良 0.5～1mm大の砂粒を多く含む	硬く焼き締まっている	褐～赤褐色	内面ヨコハケ 外面ヘラミガキ (1/6)
		1218		18	01397	土師器 壺	古墳前期	4.8～5.0				7.7		6.1	—	きめ粗い 1～2mm大の砂含む	良く締まるがもろい	灰褐色	外面頸部～肩部ヘラミガキ 内面ヨコナデ 粘土輪積みの痕跡が内面に残る 手づくね土器(底部に穿孔有) 完形
		1219		32	01411	土師器 蛸壺	古墳前期	6.4	—	—	—	6.5～6.7	—	(5.3+α)	—	きめ粗い	良く焼き締まる	黄褐色	ナデ仕上げ 孔径0.9×1.2cm (1/6)
149	243	1220		38	01417	土師器 壺	古墳前期	12.4	頸部10.5	—	—	12.9		(7.5+α)		精良 石英細粒、雲母多く含む	良く締まる	暗褐色	内面ハケメ、ケズリ 外面ハケメ、ヨコナデ 山陰系
		1221		37	01416	土師器 壺	古墳前期	23.2	胴部10.8 高さ3.4	—	—	—	—	(10.7+α)		精良 雲母の細粒を多く含む 石英砂を含む	良く締まる	暗褐色～暗黄土色	タタキ、ヨコ、タテハケ、口縁部内外面ヘラミガキ 内面はケズリ
150	244	1222	SC 1416	14	01394	土師器 甕	古墳前期	15.4	—	—	—	—	—	(4.7+α)	—	精良 白色砂、雲母含む	良く焼き締まる	黒灰褐色	内面ヘラケズリ 口縁～外面ヨコナデ (1/5)
		1223		2	01382	土師器 甕	古墳前期	14.4	—	—	—	—	—	(4.6+α)	—	精良 0.5mmほどの白色砂、微細な雲母含む	硬く焼き締まっている	暗～黒褐色	内面横位のヘラケズリ、 外面ヨコナデ (1/4)
		1224		12	01392	土師器 甕	古墳前期	15.0	—	—	—	—	—	(4.1+α)	—	精良 1mm前後の砂粒含む	良く焼き締まる	暗褐色	内面ヘラケズリ 外面ハケ目、ヨコナデ 口縁内面上端の張り出しは弱い
		1225		13	01393	土師器 甕	古墳前期	16.3	—	—	—	—	—	(4.2+α)	—	精良 微細な白色砂、雲母含む	良く焼き締まる もろい	灰褐～黒褐色	内面横位ヘラケズリ 口縁～外面ヨコナデ (1/5)
		1226		1	01381	土師器 甕	古墳前期	15.6	—	—	—	—	—	(5.7+α)	—	精良 0.5～1.0mm大の白砂、微細な雲母含む	良く焼き締まっている	灰褐～黒褐色	内面横位のヘラケズリ (1/10)
		1227		3	01383	土師器 甕	古墳前期	17.0	—	—	—	(18.0)	—	(7.1+α)	—	精良 0.5～1.0mmの白砂含む	硬く焼き締まっているがもろい	暗灰褐色	内面ハラケズリ 口縁部ヨコナデ
		1228		36	01415	土師器 甕	古墳前期	17.2	—	—	—	23.2	—	(11.0+α)	—	精良 0.5～1.0mm大の砂粒含む	良く焼き締まるがもろい	黄橙色	外面ヨコハケ→波状文 内面ヘラケズリ 肩に波状文
		1229		35	01414	土師器 甕	古墳前期	13.8	—	—	—	25.0	—	(15.0+α)		精良	硬く焼き締まっている	明褐～暗褐色	外面にはタタキ痕残る 口縁、内面ハケ目後ヨコナデ
		1230		22	01401	土師器 甕	古墳前期	16.8	—	—	—	—	—	(6.4+α)	—	精良 0.5～2mm大の砂粒、雲母を含む	硬く焼き締まる	灰褐色	内面、ハケ目後ヘラケズリ 外面 ヨコハケ (1/5)
		1231		24	01403	土師器 甕	古墳前期	14.6	—	—	—	16.5	—	(7.5+α)	—	精良 05～2.0mmの石英砂、微細な雲母片含む	良く焼き締まっている	黒褐色	内面ヘラケズリ 肩部、ヨコハケ、タテハケ (1/8)
		1232		23	01402	土師器 甕	古墳前期	14.2	—	—	—	(16.5)	—	(6.5+α)	—	精良 0.3～1.5mm大の石英砂、長石砂、角セン石含む ややきめ粗い	良く焼き締まっている	明褐色	内面ヘラケズリ 肩部タテ、ヨコハケ (1/6)
		1233		25	01404	土師器 甕	古墳前期	16.9	—	—	—	—	—	(5.5+α)	—	精良 0.3～1.0mm大の石英砂を含む	良く焼き締まっている	内面 黄灰褐色 外面 黒灰色	内面ヘラケズリ 外面タテハケ、ヨコナデ (1/5)
		1234		26	01405	土師器 甕	古墳前期	16.5	—	—	—	—	—	(5.7+α)	—	精良 0.5mm大の砂粒を含む	良く焼き締まっている	黄灰褐色	内面ヘラケズリ 外面ヨコナデ (1/5)
		1235	南側土壙	2	01419	土師器 甕	古墳前期	16.0	—	—		—	—	(7.8+α)		精良 微細な白色砂、黒色砂を多く含む	良く焼き締まっている	淡黄灰色	内面ヘラケズリ 外面ハケ目後ヨコナデ (1/6)
		1236		1	01418	土師器 甕	古墳前期	15.8	—	—	—	—	—	(6.5+α)		精良	良く焼き締まっているがもろい	褐色～黒色	内面ヘラケズリ 外面タテハケ、ヨコハケ (口縁部平坦)(1/8)
152	247	1237	SC 1425 SX 1428	1	01421	土師器 鉢	古墳前期	12.6		—	—	—	—	4.1	—	精良 細かい白砂含む	良く焼き締まっている	黄橙褐色	内面ハケ目後ナデ 外面ミガキ (完形)
		1238		2	01422	土師器 鉢	古墳前期	12.3	—	—	—	10.8		6.2	—	精良 細かい白砂含む	良く焼き締まっている	橙褐色	外面下半は回転ヘラケズリ後ヘラミガキ (完形)
		1239		1	01423	土師器 壺 IIC～IIII期	古墳前期	高さ6.7 径24.5	—	—	—	—	—	(11.7+α)	—	精良 1～2mm大の白色砂含む	良く焼き締まっている	茶褐色	内外面ともハケ目後ナデ
		1240	SC 1430	4	01427	土師器 鉢	古墳前期	13.8	—	—	—	11.8	—	(4.2+α)		微細な雲母を含む	良く締まる	黒褐色	内外面ともヘラミガキ 1430床面からの出土
		1241		3	01426	土師器 甕	古墳前期	12.8	—	—	—	—	—	(5.5+α)		精良 白砂、雲母を含む	硬く焼き締まっている	灰褐色	内外面ともヨコナデ 内面ヘラケズリ (1/12) 1430床面からの出土
		1242		1	01424	土師器 甕	古墳前期	15.8	—	—	—	—	—	(4.8+α)		精良 白砂、雲母を含む	硬く焼き締まっている	黒灰色	内外面ともヨコナデ 内面ヘラケズリ (1/10) 1430床面からの出土
		1243		2	01425	土師器 甕	古墳前期	15.2	—	—	—	—	—	(6.3+α)		精良 白砂、雲母を含む	硬く焼き締まっている	灰褐白色	内外面ともヨコナデ 内面ヘラケズリ (1/12) 1430床面からの出土
		1244		5	01428	土師器 壺	古墳前期	23.0	13.0	—	—	—	—	(5.8+α)		精良	硬く焼き締まっている	赤褐色	内外面ともにヘラミガキ 巾0.2～0.4mm巾のヘラ先によるミガキ 1430床面からの出土
		1245	SC 1432	2	01430	土師器 鉢	古墳前期	12.8	—	—	—	—	—	(3.3+α)	—	精良	硬く焼き締まっている	赤褐色	内外面ともヘラミガキ (1/8)
		1246		3	01431	土師器 鉢	古墳前期	12.8	—	—	—	—	—	(3.9+α)	—	精良 細かい石英砂含む	硬く焼き締まっている	赤茶褐色	外面ヘラケズリ後ミガキ 内面手持回転ヘラミガキ 内面のヘラミガキ痕の幅は、0.5～2.0mm
		1247		4	01432	土師器 壺	古墳前期	(11.0～12.0)	—	—	—	12.1～12.3	—	(7.0+α)	—	精良	硬く焼き締まっている	—	外面体部下半はヘラケズリ後ミガキ、肩口はタテハケ目痕が残る 内面は丁寧なヨコナデ —
		1248		1	01429	土師器 甕	古墳前期	16.6	—	—	—	—	—	(6.9+α)	—	精良 白砂含みきめ粗い	軟 もろい		内外面ともにハケ目後ナデ (1/10)
		1249		5	01433	土師器 甕	古墳前期	16.6	—	—	—	20.6	—	22.4	—	精良 1mm前後の砂粒を比較的多く含む	軟 もろい	黄灰白褐色	肩部に目の粗いヨコハケ 体部下半はタテハケ 内面は斜～タテ方向のヘラケズリ(頸部下部まで)
153	250	1250	SC 1761	4	01782	土師器 鉢	古墳前期	12.0	—	—	—	—	—	(2.7+α)		精良 泥質きめ細かい	良く焼き締まっている	赤褐色	全面ヘラミガキ 表面が摩耗しており調整痕は不明瞭 (1/12)
		1251		2	01780	土師器 壺	古墳前期	16.0	頸部高さ4.9	—	—	—	—	(5.8+α)		精良 0.5～1mm大の白色砂、雲母を多く含む	良く焼き締まっている	灰褐～黒灰色	内外面ともヨコナデ
		1252		3	01781	土師器 壺	古墳前期	17.6	—	—	—	—	—	(6.5+α)		精良 0.5mm大の白色砂を含む	硬く焼き締まる	灰褐色	内外面ともヨコナデ
		1253		1	01779	土師器 甕	古墳前期	16.1		—	—	—	—	(4.7+α)		精良 微細な雲母含む	良く焼き締まっている	淡灰褐色	内面ヘラケズリ 口縁内～肩部ヨコナデ (1/12)
		1254	SX 1770	3	01785	土師器 器台	古墳前期	9.8	—	—	—	—	—	(2.1+α)		精良 微細な白砂含む	良く締まっている	灰褐色	内外面ともヘラミガキ 器面が荒れており調整痕不明
		1255		4	01786	土師器 鉢	古墳前期	14.0	—	—	—	—	—	(3.7)		精良 微細な白砂含む	良く締まっている	黄褐色	内面ハケ目 外面ヘラミガキ
		1256		2	01784	土師器 鉢	古墳前期	19.0	—	—	—	15.6	—	(6.5+α)		精良	良く締まる	暗褐色	底部にハケ目を残し、他はすべてヨコナデ
		1257		1	01783	土師器 甕	古墳前期	12.0	—	—	—	14.5	—	(6.6+α)		精良 微細な砂粒含む	良く締まる	暗褐色	内面はヘラケズリ後ナデ タテ方向ハケ目 (1/8)
154	251	1258	SC 1773	8	01794	土師器 鉢	古墳前期	11.8～12.2	—	—	—	—	—	3.2		精良 0.5～2.0mm大の砂粒を多く含む	良く焼き締まっている	明橙褐色	底部ヘラケズリ 内外面ヘラミガキ (中央上塡)(完形)
		1259		11	01797	土師器 壺	古墳前期	10.0	—	—	—	9.5	—	(6.0)		精良 微細な白色砂、雲母をわずかに含む	良く締まるもろい	褐～暗褐色	外面底ヘラケズリ後ヘラミガキ (1/3)
		1260		10	01796	土師器 壺	古墳前期	12.0	—	—	—	11.4	—	6.9		精良 微細な白砂をわずかに含む	良く締まるもろい	明褐色	外面底部ヘラケズリ後ミガキ、口縁内面ハケ目 (1/4)
		1261		9	01795	土師器 壺	古墳前期	14.0	—	—	—	12.8	—	7.8		精良 微細な白砂、雲母をわずかに含む	硬く焼き締まっているがもろい	明黄褐色	外面底部ヘラケズリ、ミガキ 体部ハケ目後ヘラ先で暗文風にナデ (1/3)
		1262		7	01793	土師器 壺	古墳前期	10.3	—	—	—	10.0	—	(4.5+α)		精良	良く焼き締まっている	明橙褐色	外面細かいミガキ 内面ヨコハケ
		1263		12	01798	土師器 壺	古墳前期	10.0	—	—	—	8.8	—	(4.3)		精良	良く締まる	灰褐色	外面ヘラミガキ

頁	挿図番号	遺物番号	出土遺構			器種	器形	時期	法量(cm) 口径又は長さ	底径	高台 高さ	高台 直径	胴部径	幅	器高	厚さ	胎土	焼成	色調	成形・調整の特徴 その他特記事項
154	251	1264		5	01791	土師器	壺	古墳前期	10.8	−	−	−	10.4	−	8.1		精良　微細な白色砂、雲母、黒色砂含む　ややきめ粗い	良く締まっている　もろい	赤褐〜黒褐色	底〜肩までヘラケズリ、後ミガキ　内面はハケ目後ナデ
		1265		4	01790	土師器	鉢	古墳前期	14.4	−	−	−	12.6	−	6.7		精良	良く焼き締まっている	明褐色	底部ヘラケズリ　口縁部内面 (1/5)
		1266		6	01792	土師器	器台	古墳前期	10.0	−	−	−	−	−	(2.5+α)		精良　微細な白砂含む　ややきめ粗い	良く焼き締まっている	暗褐色	内面に放射状のヘラ暗文　全面ヘラミガキ
		1267		13	01799	土師器	器台	古墳前期	10.1	−	−	−	−	−	(2.5+α)		精	硬く焼き締まっている	暗褐色	外面強いヘラミガキ　内面には放射状の暗文の痕跡有
		1268		14	01800	土師器	器台	古墳前期	−	15.4	脚部 5.8	−	−	−	(6.0+α)		精良　微細な白砂をわずかに含む	硬く焼き締まっている	赤褐色〜器褐色	外面はハケ後スリップがけし、ヘラミガキ 脚部には直径1.0〜1.1mmの孔有
		1269	SC 1773	16	01802	土師器	器台	古墳前期	−	9.0	脚 5.2	12.2	−	−	7.8		精良　微細な白色砂、雲母含む	硬く焼き締まっている	明黄橙色	全面磨研と思われるが器面が粗れており不明瞭 (2/3)
		1270		17	01803	土師器	高坏	古墳前期	−	25.2	−	−	−		(5.5+α)		精良　微細な白色砂、雲母含む	硬く焼き締まっている	暗褐〜暗赤褐色	外面細かいヘラミガキ　内面ハケ目　暗文風のタテ方向のミガキ痕残る
		1271		15	01801	土師器	高坏	古墳前期	−	12.0	脚 6.9	−	−	−	(7.9+α)		精良　0.5〜1.5mm大の砂粒、雲母をわずかに含む	良く締まっている　もろい	黄赤褐色	(表面が剥落しており調整痕は不明瞭)
		1272		2	01788	土師器	甕	古墳前期	15.1	−	−	−	(19.0)	−	(7.6+α)		きめ粗い　0.5〜1.0mm大の砂粒、雲母を多く含む(黒色斑含む)	硬く焼き締まっているがもろい	黄灰〜灰褐色	内面ヘラケズリ　外面タテハケ、ヨコハケ (1/12)
		1273		1	01787	土師器	甕	古墳前期	15.4	−	−	−	18.4	−	(11.4+α)		精良　0.5〜1.5mm大の白色砂微細な雲母含む	良く焼き締まる(もろい)	灰色〜灰褐色	内面ヘラケズリ　外面ヨコハケ (1/4)
		1274		3	01789	土師器	甕	古墳前期	17.0	−	−	−	(22+α)	−	(8.3+α)		精良	良く焼き締まる	黒褐〜黒灰褐色	表面のハケ目はかなり目が細かい
155	252	1275		2	01805	土師器	鉢	古墳前期	12.1	−	−	−	−	−	3.6		精良　1〜2mm大の砂粒含む	軟　ややもろい	明赤褐色	内外面とも細い　ヘラミガキ (1/3)
		1276	SC 1774	3	01806	土師器	甕	古墳前期	ケイ部 10.0	−	−	−	(14.0)	−	(3.4+α)		精良　0.5mm大の砂わずかに含む　泥質土	硬く焼き締まっている	暗褐色	タタキ→ハケ→ナデ(外面)内面ヘラケズリ (1/12)
		1277		1	01804	土師器	甕	古墳前期	14.8	−	−	−	(17.7)	−	(7.7+α)		精良　1〜2mm大の砂粒含む	良　良く締まっている	明褐〜黒褐色	内面ヘラケズリ　外面肩部ヨコハケ目 (1/12)
157	256	1278		3	01825	土師器	鉢	古墳前期		12.0					4.1		精良　0.5mm大の砂粒をわずかに含む	良く締まる	明赤褐色	内面1/4〜1/5回転の手持ヘラミガキ (1/2)
		1279		4	01826	土師器	鉢	古墳前期	13.0						3.8		精良　微細な白砂、雲母含む	良く締まる	明黄赤褐色	内面1/4〜回転の手持ヘラミガキ (完形)
		1280		1	01823	土師器	鉢	古墳前期	12.0				10.1		(3.2+α)		精良　微細な雲母、茶褐色砂含む	良く締まっている　もろい	外面黒色　内面明褐色	内外面ともヘラミガキ 器面が荒れており調整痕不明瞭　(1/12)
		1281	SC 1781	2	01824	土師器	高坏	古墳前期				脚径3.5〜4.0			(2.9+α)		精良　0.5〜2.0mm大の白砂含む　ややきめ粗い	硬く焼き締まっている	明黄褐色	(1/10)
		1282		6	01828	土師器	高坏	古墳前期		12.0		脚高 10.0			10.5		精良　微細な雲母、白色、黒色砂含む	良く締まる	外、黄赤褐色 内、明褐色	外面ヘラミガキ 表面は赤色顔料を塗りミガキをかけている
		1283		5	01827	土師器	甕	古墳前期	15.7				(18.6)		(9.2+α)		精良　0.5mm大の砂粒を含む きめやや粗い	良く締まっている　もろい	灰褐〜黒灰色	内面ヘラケズリ　外面タテハケ、ヨコハケ
		1284		7	01829	土師器	甕	古墳前期	17.1				19.8		22.5		精良　微細な白砂	良く締まっているがもろい	外面黒褐色 内面淡褐白色	外面ヨコハケ、タテハケ　内面ヘラケズリ 肩に波状文を施文
158	257	1285	SC 1782	2	01831	土師器	鉢	古墳前期		12.3			11.0		(4.8+α)		精良　微細な白砂をわずかに含む	良く締まっている	内面明褐色 外面黒褐色	外面ヘラミガキ(粗い) 外面黒色　(1/4)
		1286		1	01830	土師器	鉢	古墳前期		10.2			9.4		5.7		精良　微細な白砂、雲母含む黒色砂、雲母をわずかに含む　泥質土	良く締まっている	明橙褐色	内面ナデ　外面底部ヘラケズリ、ヘラミガキ (完)
		1287		2	01833	土師器	壺	古墳前期		17.0							精良　0.5〜1.0mm砂粒を含む	硬く焼き締まっている	明褐色	内外面ともヨコナデ　頸部内面ヘラケズリ (1/15)
		1288	SC 1783	3	01834	土師器	壺	古墳前期		21.0					3.8+α		精良　0.5〜1.0mm大の砂粒含む	硬く焼き締まっている	明褐色	内外面ナデ 内面には赤色顔料塗布か(器面が荒れている)(1/20)
		1289		1	01832	土師器	甕	古墳前期		15.9					(7.0+α)		精良　微細な白色砂、雲母含む	硬く焼き締まっている	灰〜暗灰色	外面タタキをそのまま残す (1/2)
		1290		4	01838	土師器	壺	古墳前期		13.0					(9.5+α)		精良　微細な砂粒、雲母を含む	良く締まる	明黄褐色	外面タテハケ後ヨコヘラミガキ　内面ヨコハケ後暗文風のミガキ
		1291	SC 1786	2	01836	土師器	高坏	古墳前期		13.0							精良	良く締まる	明褐色	内面ハケ目、外面ハケ目後ミガキ
		1292		3	01837	土師器	鉢	古墳前期		12.8					(3.5)		精良　0.5〜1.0mm大の砂粒をわずかに含む	良く締まるもろい	内面明褐色、外面灰褐色	器面が荒れており調整痕不明瞭
		1293		1	01835	土師器	甕	古墳前期		18.0					(2.5+α)		精良　0.5mm大の白砂、黒色砂、微細な雲母片含む　ややきめ粗い	良く締まる	内、淡灰褐色 外、黒灰褐色	頸部内面には意図的な沈線による文様が有る 東海系か
159	259	1294		3	01815	土師器	鉢	古墳前期	13.2	−	−	−	−	−	5.9		精良　0.5mmほどの砂粒(白色砂、黒色砂)含む(黄灰白色)	良く焼き締まるもろい	明黄橙色	外面底部〜体部はヘラケズリ　磨研　内面はスリップ、磨研 (1/3)
		1295		9	01821	土師器	壺	古墳前期	13.4	−	−	−	−	−	(4.5+α)		精良　微細な白砂、雲母含む	硬く焼き締まっている	赤褐色	内面ヨコハケ、ヨコナデ (1/5)
		1296		1	01813	土師器	壺	古墳前期	−	12.8	−	−	−	14.0	10.7		精良　微細な白色砂含む	良く焼き締まるもろい	内面黄褐色　表面　黒〜黒褐色	(1/2)
		1297		2	01814	土師器 (精製)	器台	古墳前期	8.6	脚 10.8	脚 4.8	−	−	−	6.9		精良	良く焼き締まる	明赤褐色	ハケ目の後、ヘラミガキ　台部内には放射状の暗文の痕跡有 器鑒が全体に荒れており、調整痕不明瞭　(4/5)
		1298		4	01816	土師器	壺	古墳前期	14.5	−	−	−	−	−	(4.3+α)		精良　白色砂、頁色砂を多く含む	良く焼き締まる	褐色〜黒灰褐色	(1/3)吉備系か
		1299		8	01820	土師器	甕	古墳前期	13.6	−	−	−	−	−	(4.4+α)		精良 微細な白砂、雲母を含む	硬く焼き締まっている	赤褐色	内面面ハケ目、ヨコナデ (1/10)
		1300		7	01819	土師器	甕	古墳前期	16.2	−	−	−	−	−	(5.0+α)		精良　0.5〜1.0mm大の白砂を多く含む	良く締まっている	黄褐白色	内面ヘラケズリ　口縁〜外面ヨコナデ 軽量である
		1301		10	01822	土師器	甕	古墳前期	18.2	−	−	−	−	25.0	(15.0+α)		精良　0.5〜1.0mm大の砂粒、微細な雲母含む	硬く焼き締まっている	外面黒褐色 内面灰白色	内面ヘラケズリ　外面ヨコハケ　体部下半タタキ
		1302		5	01817	土師器	壺	古墳前期	16.7	−	−	−	−	−	(6.9+α)		精良　0.5〜1.0mm大の砂、微細な雲母を多く含む	硬く焼き締まっている	黄褐色	全面ヨコナデ、ナデ
		1303		6	01818	土師器	壺	古墳前期	34.0	−	−	−	−	−	(10.0+α)		きめ粗い　0.5〜1.5mm大の砂、微細な雲母含む	硬く焼き締まっている	黄白〜黄褐白色	内面ヘラケズリ 山陰系か
161	262	1304		6	01844	土師器	鉢	古墳前期	12.5	−	−	−	−	−	3.6		精良　きめ細かいな泥質土	良く焼き締まっているがもろい	明褐色	底部はヘラケズリ、タタキ　内面は暗文風のヘラミガキ (完形)　1790−004〜006はセット
		1305		4	01842	土師器	鉢	古墳前期	13.9	−	−	−	−	−	4.1		精良　きめ細かいな泥質土	良く焼き締まっているがもろい	赤褐色	底部はヘラケズリ　体部〜口縁部はヘラミガキ 内面ナデ (完形)　1790−004〜006はセット
		1306		5	01843	土師器	鉢	古墳前期	13.0	−	−	−	−	−	3.6		精良	焼き締まっていない	明黄褐色	底部はヘラケズリ　口縁部はヨコハケ　内面は暗文風にヘラミガキ 軽い　(完形)　1790−004〜006はセット
		1307		1	01839	土師器	鉢	古墳前期	10.3	−	−	−	−	−	5.1		精良　0.5mm大の白砂、微細な石英砂含む	良く締まるがもろい	明褐色	ハケ目痕が残る 全体に厚手、器面が荒れており最終調整痕は不明　(4/5)
		1308		2	01840	土師器	壺	古墳前期	5.5〜5.7	2.5〜2.8	−	−	9.9	−	6.4〜6.5		精良　泥質だきめ細かいく、微細な白砂含む	良く締まっている	明褐〜茶褐色	外面ヘラミガキ　内面ナデ (3/4)
		1309		3	01841	土師器	壺	古墳前期	11.0	−	−	−	12.0	−	(10.3)		精良　きめが細かな泥質土 微細な白色砂、雲母含む	硬く焼き締まっている	明赤褐色	外面肩〜底部ミガキ　体部下半はヘラケズリ (ほぼ完形)
		1310	SC 1790	7	01845	土師器	脚付鉢	古墳前期	13.0	脚 4.2	−	−	11.2	−	(7.4+α)		精良　微細な白砂、雲母含む	良く締まっている	赤褐色	内面放射状に暗文　外面ヘラケズリ、ミガキ 脚部欠損　(1/4)
		1311		8	01846	土師器	焼塩壺	古墳前期	−	4.3	−	−	−	−	3.2		微細な雲母を含み、きめ粗い	二次的火を受けもろくなっている	赤褐色	体部タタキ　底部ユビナデ
		1312		13	01851	土師器	甕	古墳前期	16.6	−	−	−	17.4	−	10.7		精良　0.5mm大の砂粒を多く含む　ややきめ粗い	良く締まっているがもろい	灰〜黒灰色	肩部に刺突列点有り　全周しない(5点)　肩部には断続的なヨコハケ目が一周する
		1313		9	01847	土師器	壺	古墳前期	14.0	−	−	−	15.8	−	21.2		精良　きめ細かいな泥質土 微細な白色砂含む	硬く焼き締まっている	明赤褐色	外面ヘラミガキ　底部はヘラケズリ　頸部に暗文(ほぼ完形)
		1314		11	01849	土師器	手焙手土器	古墳前期	9.6〜10.8	13.4〜14.7	−	−	−	−	(6.2+α)		精良　0.5〜1.5mm大の砂粒を含みややきめ粗い	硬く焼き締まっている	明黄褐白色	開口部の面には二条の突線を施文
		1315		10	01848	土師器	甕	古墳前期	13.0	−	−	−	17.0	−	14.6		精良　0.5mmの砂粒含む　ややきめ粗い	良く締まっているがもろい	黒灰褐色	内面横ヘラケズリ　外面タテハケ後肩部と中位にヨコハケで一周巡らしている
		1316		12	01850	土師器	甕	古墳前期	18.4	−	−	−	24.3	−	27.4		精良　0.5〜1.0mm大の白砂を含むややきめ粗い	良く締まるもろい	淡黄白〜灰色	肩部にタタキ痕残る　内面ヘラケズリ　胴部下半軽いナデ タタキ痕は庄内式的

第Ⅲ章　結　語

1．調査の成果と課題

今回の調査で検出した遺構は多岐にわたり、遺物は量的にもきわめて多量であった。遺構数は1700余を数え、遺物はパンコンテナに1000箱近く出土している。これらは江戸時代後期～近代、中世後期～近世、古代末～中世初め（概ね11世紀後半以降）、古代後期（概ね10世紀後半以降）、古代前期（奈良時代）、古墳時代前期に分けることができる。中世前期、鎌倉時代の遺構と遺物がほとんどないことは特徴的な状況である。また、弥生時代については甕棺の破片がわずかに出土した程度であった。

明治時代の土人形土型が出土している。それらの内には「明治二十七年十月」「利」「二十五枚内」「五」とヘラ描きしたものがあるなど、明治期における博多人形の生産の一端を知る資料もある。明治10年刊行の福岡県地理全誌では土人形の生産戸数は博多21町を数え、総数25戸が挙げられており、下祇園町では中子長四郎が生産していた。今回の調査地点に隣接していることもあり注意すべき資料である。

近世の遺構には、井戸、木組・石組の枡、溝、土壙、多数の柱穴等がある。特に井戸がきわめて多く、しかも一定箇所で切り合いながら分布している。調査区北側で検出された溝SD0387や下水枡あるいは便槽とも考えられるSG0365を始めとする遺構の方向性（N-38°～36°-W）は、少なくとも江戸時代後半以降の博多南西部域の屋敷地や町割りのあり方を示していると考えられる。出土遺物は18世紀後半以降の肥前系陶磁器が圧倒的な量を占めている。

中世の遺構は井戸（桶組・方形井側桶組）、溝、土壙、建物及び建物地業跡の他、多数の柱穴等がある。古代末から中世初頭、概ね12世紀半ばから後半の時期に比定される遺構が主体を占め、しかも13世紀前半代以降の遺構がほとんどない状況は特徴的である。遺物には11世紀半ば以降の中国産白磁の出土が量的には目立つが、12世紀半ばの資料が量的には多数を占めている。博多遺跡群南縁部を画する中世の施設については、これまで3次、33次、64次、170次調査で12～16世紀代の溝が確認されている。本調査区南側で検出された大溝SD0037は遺物及び遺構の先後関係から、中世後期～末、概ね15世紀代以降～16世紀代と考えられる。３次調査と33次及び隣接地の170次で確認されたほぼ同一時期の大溝と一連のものとすると、推定幅６ｍ前後で長さ300ｍ以上の大溝が西南から北東の方向性（N-96°～120-W）を持って存在していたことになる。ここで、当該地点から南へ約200ｍほどにある推定「房州堀」との関連性が問題となるが、房州堀の掘削時期については、57次調査で16世紀代をさかのぼらない時期に比定されている。同時期に両者が存在していたと考えるのは無理があるので、前者が埋め戻された後、あまり間を置かない時期に房州堀が新たに掘削されたと推定しておき、掘削の細かな時期やその契機等については今後の周辺調査の課題としておきたい。

奈良時代においては当該地点周辺は、方一町の官衙域内に推定されており、推定が正しいとすると、その中央部分に相当する。東側に隣接する36次調査では地鎮遺構が検出されたが、SP1401からは須恵器坏が埋置された状況で出土しているなど、土師器甕と組み合って祭祀行為を示唆するものがあった。

古墳時代の遺構は調査区全体にわたって竪穴住居や作業等を目的とした小規模の竪穴、土壙、柱穴、溝等を検出した。遺構の分布密度はそう高くなく散発的である。竪穴住居は大きいもので一片4.5ｍ四方と3.0ｍ規模のものがあるが、住居跡の並び方、遺物からみて、一定の規制を受けながら建物が配置されたものの、比較的居住期間が短かったものと考えられ、古墳時代前期後半を中心とした時期に比定される。出土土師器は機内系を中心として、山陰、吉備、東海地方からもたらされたものがあり、在地のものが少ない傾向は博多遺跡群の当該期における特色と符合する傾向であり、博多遺跡群の南西域における当該期の集落構成や性格付けを考える上で参考となる調査事例かと思われる。

2．第175次調査出土の高麗青磁梅瓶について

175次調査では、良質の高麗青磁の破片が比較的多く出土している。中でも同一個体と思われる梅瓶の破片が20点出土した。この種の梅瓶はこれまで博多遺跡群において出土例がないので、ここに報告する。

図263に図示した1～7は全て2区1面SE0367掘方から出土し、7はSE0911下部出土片と接合した。小片のため図示できなかった破片は上記遺構の他、SE1475・SB0388・SX0372・SX0758・SX1488・SX1503・SP0737から出土し、1～2面検出の遺構である。復元高は、約39cm、胴部最大径22～23cm、底部径約10cmである。

胎土は淡灰色を呈しかなり硬質緻密である。釉は光沢のあるガラス質の淡青色、所謂「翡色」釉で、釉層はそれ程厚くない。内面にやや大きめの氷裂が入る。基本的には外底まで内外全面に施釉されるが、体部片の内面一部には露胎部分が認められる。畳付は釉剥ぎされ、内縁に白土らしき小さな付着物が認められ、白色耐火土を用いた可能性もあるが明確ではない。

残片の文様はフィラデルフィア美術館所蔵の「高麗青磁陽刻蓮蜀葵文梅瓶」(注1)と近似しており、掲載された写真を参考に図のような復元を試みた。ただし、明確な部位は肩部の1と2、底部の7のみである。全体に片切彫りにより輪郭を描き文様を浮かび上がらせ、その中に繊細な線彫りで葉脈等を描いている。肩部には唐草風の垂飾1を、体部には主文様である蓮華文2・5・6と黄蜀葵文4（注4ではsunset hibiscusと表記）を描く。底部には中に精緻な草花文を描いた蓮弁文帯7を巡らせる。フィラデルフィア美術館所蔵の製品に見られる水禽文の部分は出土していない。口縁部を欠くが、おそらく参考写真のような盤口形の口縁になると思われる。肩部はなだらかで、底部片の立ち上がりから、体部のS字状の曲線はうかがえず、このような型は中国からの影響が強く残っている時期の所産とされる(注2)。また、同類の破片は中国杭州の南宋皇宮とされる遺跡(注3)と韓国全羅南道康津沙堂里窯からも出土している(注4)。

以上から本資料は12世紀初め頃の所産と考えるが、出土した遺構はいずれも中世～近世にかかる時期のもので、共伴遺物を確定できない制約もあり、正確な時期については今後の課題としておく。

(注) 1.『世界美術全集 東洋編 第10巻』小学館1998
2.『高麗青磁の誕生－初期高麗青磁とその展開』大阪東洋陶磁美術館2004
3. 小林仁「中国出土高麗青磁考」『中国古陶磁研究第14編』紫禁城出版社　2008
4.『高麗王室の陶磁器』韓国国立中央博物館2009

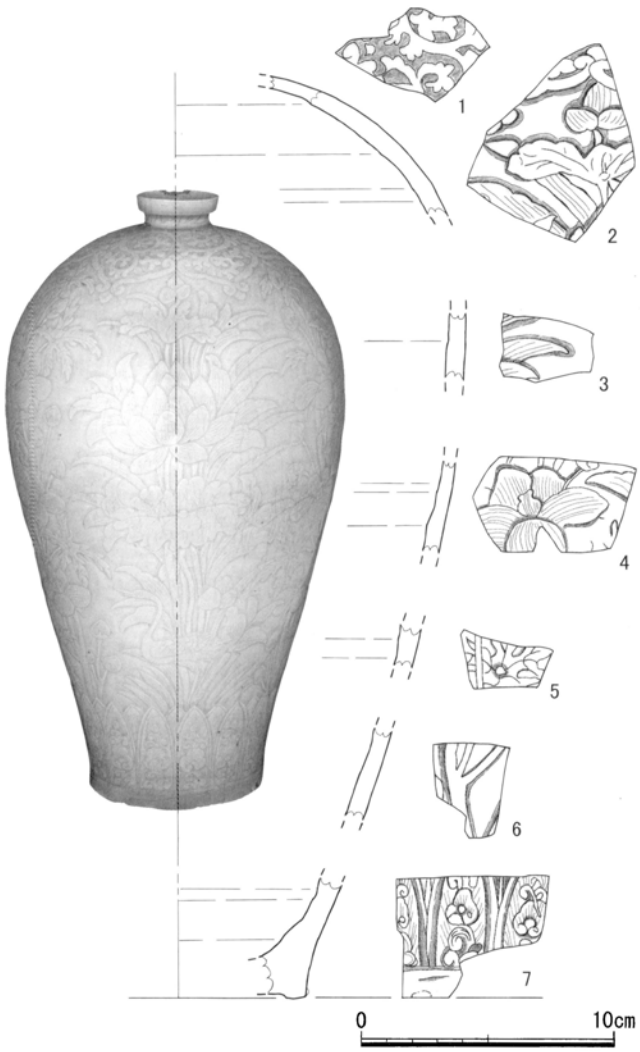


図263 高麗青磁梅瓶復元図(1/3)

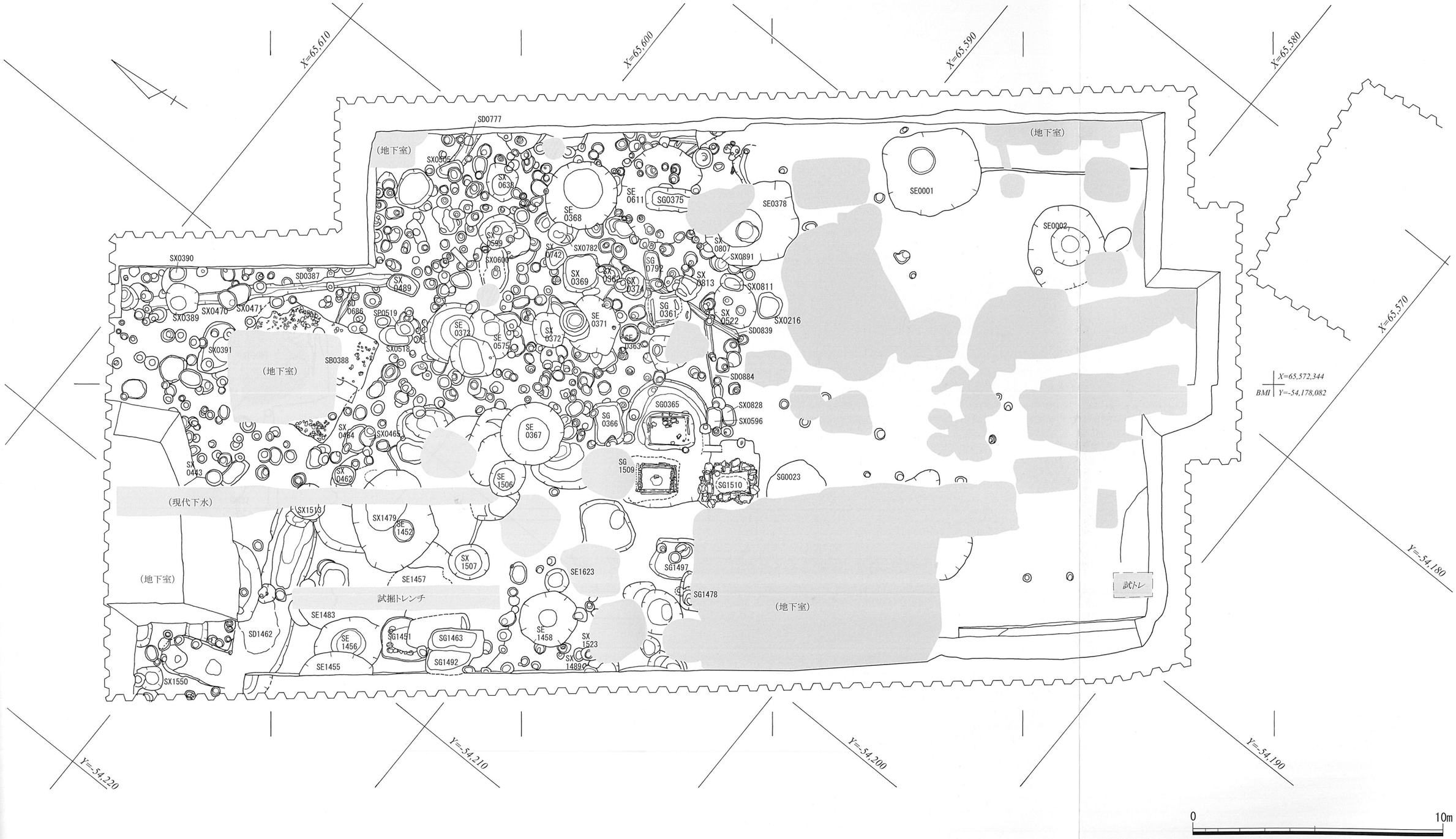


図264 第1面遺構分布図(1/150)

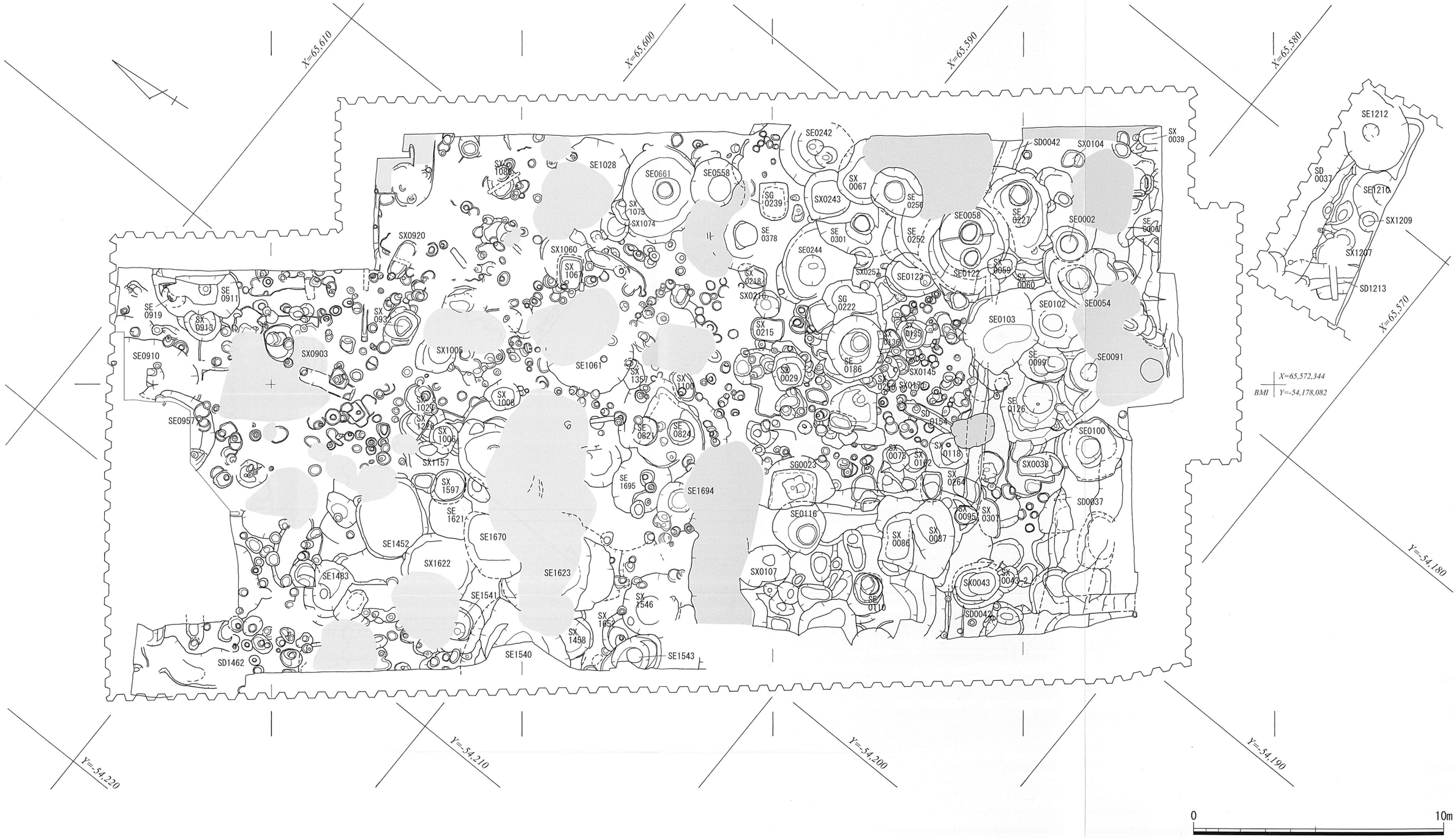


図265 第2面遺構分布図(1/150)

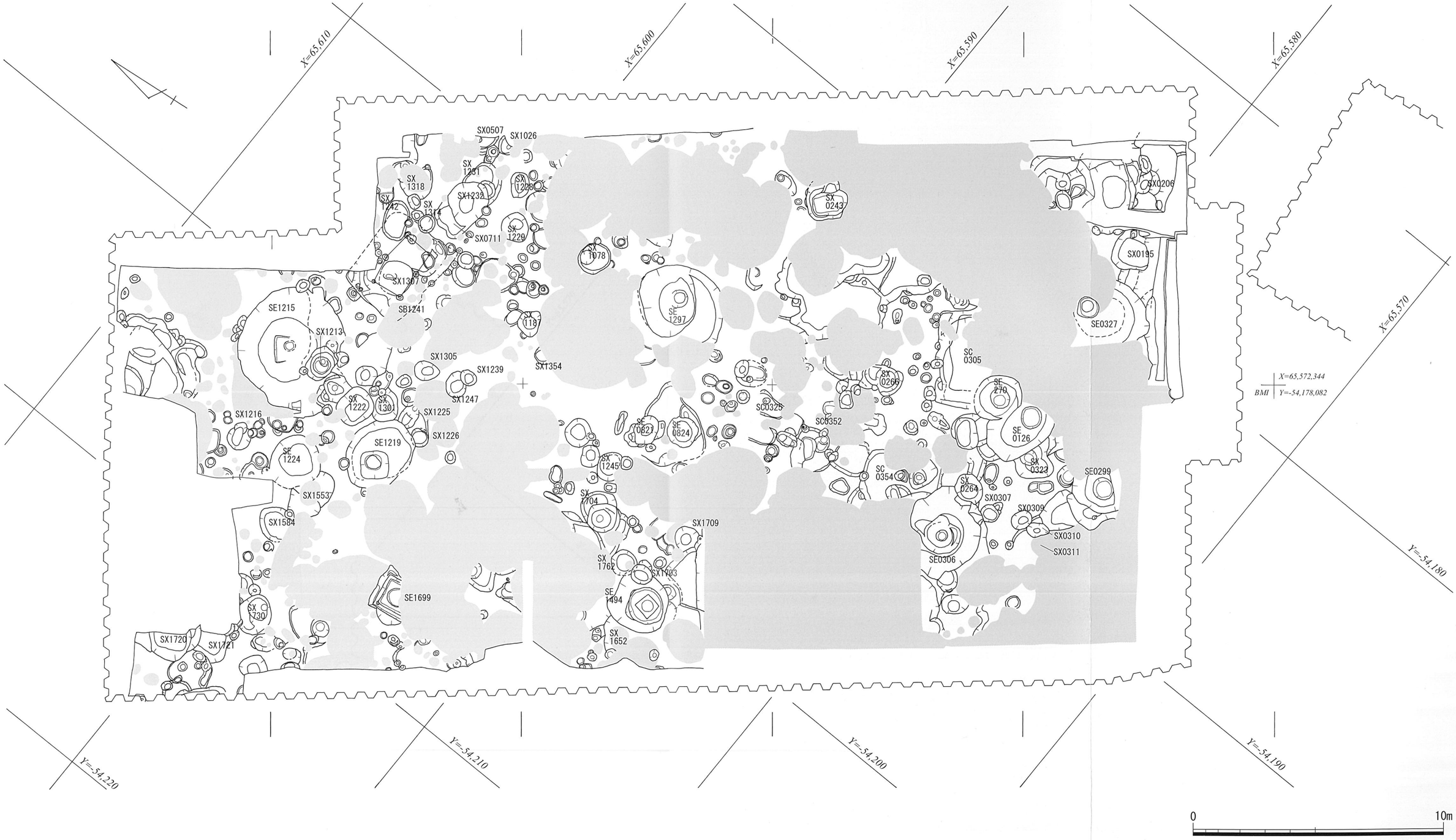


図266 第3面遺構分布図(1/150)

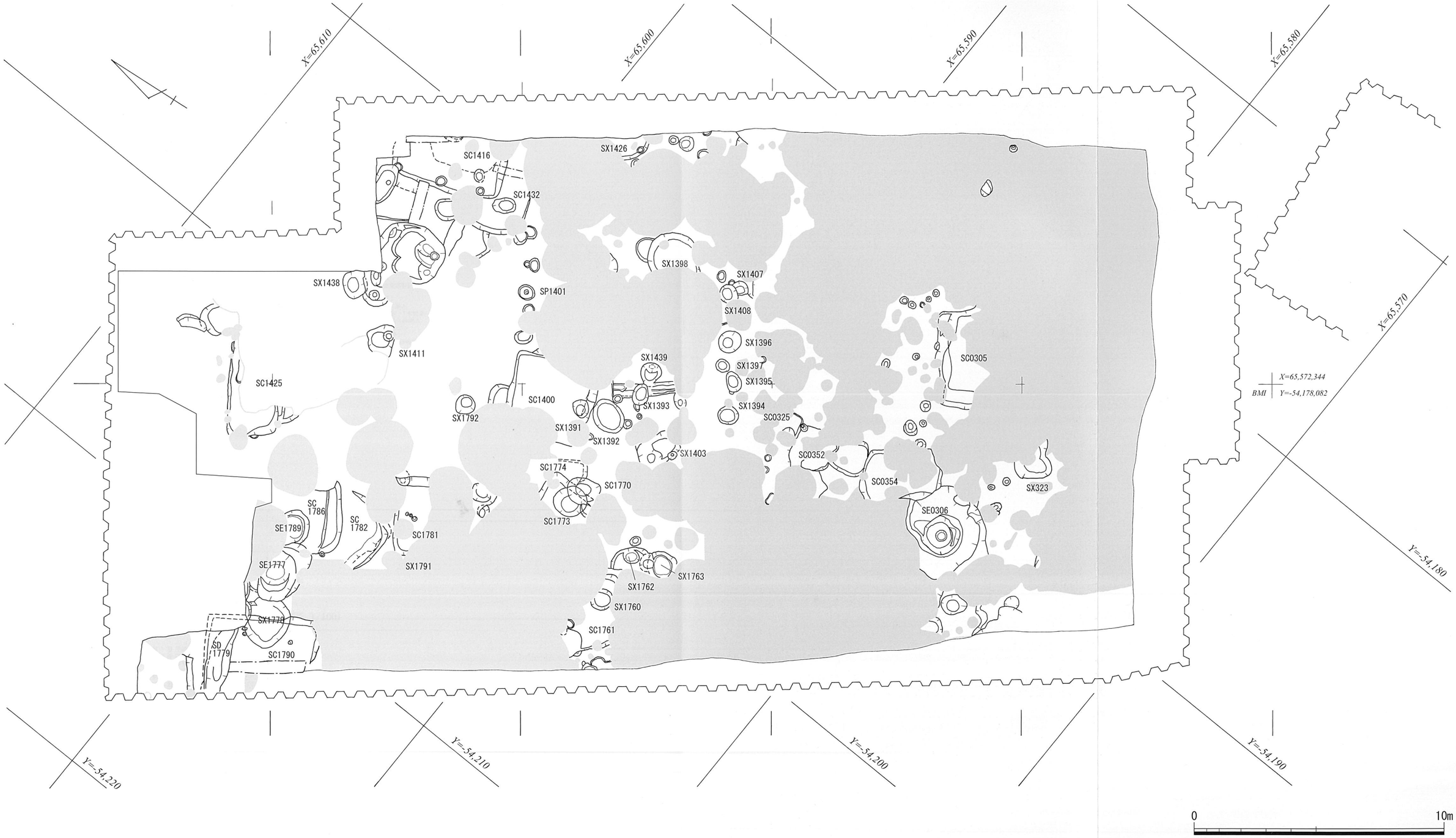
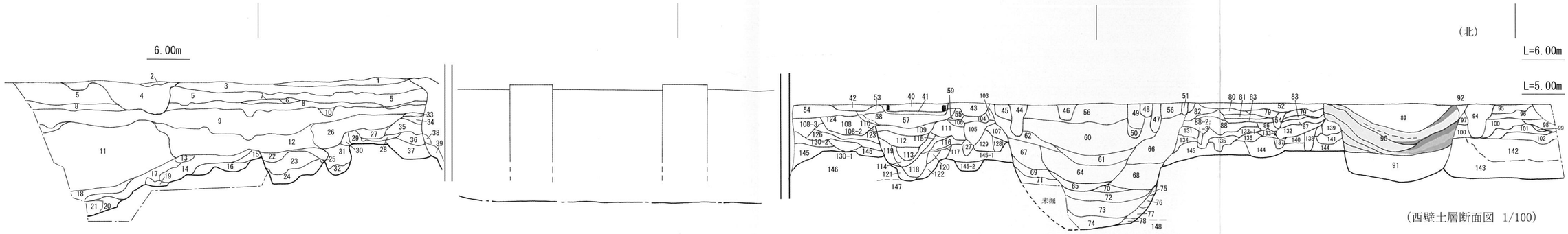


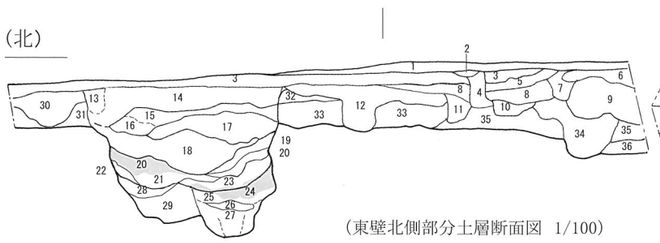
図267 第4面遺構分布図(1/150)



（西壁土層断面図　1/100）

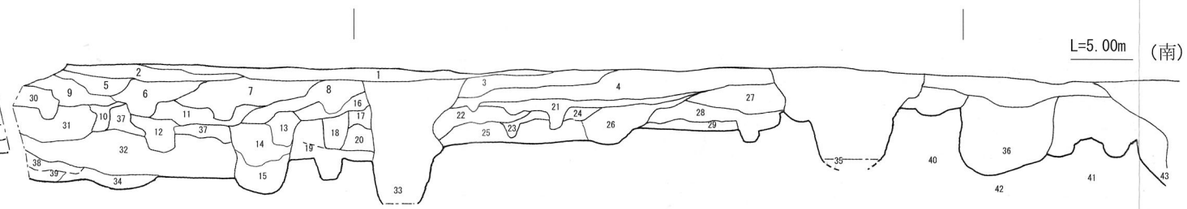
第 1 層 灰黄色～灰白色砂質土（砂～礫含みもろい）
第 2 層 黒褐色砂質土（炭を多く含む）
第 3 層 黒褐色砂質土（やや粘質有りやや明るい赤褐色土（鉄分）を 4 層境南側に含む
第 4 層 黒褐色～やや暗いオリーブ褐色砂質土（上部に近いほど暗オリーブ褐色炭・小石を少し含む
第 5 層 攪乱黒褐色砂質土（瓦・礫を含む）
第 6 層 やや明るい黒褐色砂質土（小石・炭を少し含む）
第 7 層 やや明るい黒褐色砂質土（小石を少し含む）
第 8 層 オリーブ褐色砂質土（炭・小石を少し含む磁器等遺物含む）
第 9 層 やや明るい黒褐色砂質土（炭を多く含み特に 11 層との境に多い小石、遺物を含む）
第 10 層 やや明るい黒褐色砂質土（小石・炭を少し含む遺物あり）
第 11 層 暗灰黄色砂質土（層全体がほぼ回質・均一炭を少し含む）
第 12 層 攪乱黒褐色砂質土炭化物を多く含む
第 13 層 暗褐色砂質土（黒褐色又はにぶい黄褐色のブロックを含む）
第 14 層 やや明るい暗褐色と黒褐色砂質土の混合土
第 15 層 黒褐色砂質土（暗褐色砂質土と暗褐色砂を含む）
第 16 層 黄褐色砂に黒褐色砂質土を含む
第 17 層 にぶい黄褐色砂層（小石を多く含む）
第 18 層 黒褐色混砂粘質土と黒褐色砂の混合層（石・土器・炭含む）
第 19 層 黄褐色砂層（やや明るい暗褐色砂を含む）
第 20 層 褐色砂層（粗砂を多く含む）
第 21 層 褐色粗砂層（上層は砂が多く下層にいくにつれ黒褐色粘質土ブロック含む）
第 22 層 黒褐色混砂粘質土（炭・暗褐色）砂を含む）
第 23 層 黒～黒褐色混砂粘質土（炭・暗褐色砂やにぶい黄褐）砂を含む）
第 24 層 暗褐色砂に明黄褐色砂がブロックで混じる
第 25 層 暗褐色砂に褐色砂、黒褐色砂ブロックを含む
第 26 層 黒褐色～黒色混砂粘質土（小石・暗めの淺黄砂を少し含む）
第 27 層 黒褐色砂質土（灰黄褐色土・炭・礫含む）
第 28 層 暗褐色砂質土（黒褐色砂を含む）
第 29 層 褐色～暗褐色砂質土
第 30 層 暗褐色～褐色砂質土（下層ほど褐色）
第 31 層 暗褐色～黒褐色砂層（黄褐色砂ブロック・近世瓦含む）
第 32 層 黒褐色混砂粘質土（炭・暗褐色砂を含む）
第 33 層 暗オリーブ褐色～やや明るい暗オリーブ褐色砂質土
第 34 層 黒褐～黒色砂質～砂（南側は粗砂を含む北側は淺黄～白淺黄砂を多く含む）
第 35 層 黒褐～黒色砂質～砂（南側は暗オリーブ褐色に近い　磁器他遺物を含む）
第 36 層 にぶい黄褐色砂質土に黒褐色土が波状に堆積（黒褐色砂は層厚 3 ㎜ほど　土器含む）
第 37 層 暗褐色砂質土（黒褐色土ブロック含む
第 38 層 黒褐色砂質土ブロック
第 39 層 暗褐色砂質土ブロック鉄分含む
第 40 層 混瓦礫砂層（1 ～ 3 層は現代攪乱）
第 41 層 黄褐色粘土塊、黒灰色混砂粘土層
第 42 層 暗灰色砂層（土師器破片を多く含む）
第 43 層 暗灰色砂層
第 44 層 黒灰褐色粘質土（柱穴か）
第 45 層 やや黄色みのある黒灰褐色粘質土層
第 46 層 黒灰～黒灰褐色砂質土層（近世瓦片含む）
第 47 層 暗灰～暗灰褐色混砂粘質土層（木炭片含む）
第 48 層 灰褐～暗灰褐色混砂礫粘質土層（8 層と比べ明るく黄褐色砂が目立つ）
第 49 層 暗褐～褐色混砂礫粘質土層（上層は黒み強い）
第 50 層 黒灰～暗灰褐色混砂礫粘質土層
第 51 層 暗黄褐色粘質土層（柱穴か）
第 52 層 暗灰～暗灰褐色混砂粘質土層（木炭片・礫含む）
第 53 層 黒灰～暗灰色粘質土層
第 54 層 暗灰褐～黒灰褐色混砂粘質土層
第 55 層 レンガブロックの裏込め土層（黄褐色粘土・木炭黄灰色砂質土を含む）
第 56 層 黒灰褐～暗灰褐色混砂粘質土層
第 57 層 黒褐色混砂粘質土層（上部は黒み強い黄灰色粘質土、木炭小片、礫を含む）
第 58 層 暗褐色混砂粘質土層（18 層の一部か黄灰色粘質土を含む）
第 59 層 黄灰色粘土と黒褐色土の混合土（4・14・16・18・19 層とは同じ層群）
第 60 層 井戸掘方の埋土　暗灰色～暗灰褐色混砂粘質土層に黒褐色砂質土、黄灰色粘質土、砂礫、近世瓦片、木炭を多く含む 21 ～ 39 層は井戸掘方内の埋土で細分。
第 61 層 暗褐～暗灰褐色混砂粘質土（木炭片小礫を含む）
第 62 層 暗灰～灰褐色混砂粘質土（木炭片、小礫を含む）
第 63 層 黄灰色粘土を含むブロック土層
第 64 層 暗灰～灰色砂質土（黄灰色粘質土、黒褐色砂質土が混入する）
第 65 層 暗灰色混砂粘質土（25 層の一部か）
第 66 層 暗灰～暗灰褐色混砂粘質土（上師器・白磁・木炭片を含む）
第 67 層 灰～灰褐色混砂粘質土（土師器・白磁・木炭片を含む 27 層と同一か）
第 68 層 暗灰～黒灰色砂質土（黄褐～赤褐色砂質土を含む）
第 69 層 暗灰～暗灰褐色混砂粘質土（21 ～ 29 層と比べ黒色がかっている）
第 70 層 灰～暗灰色混砂粘質土（砂を多く含む）
第 71 層 灰～暗褐色砂をベースとして暗灰色土が縞状に堆積している）
第 72 層 暗灰色砂質土
第 73 層 暗灰～暗灰褐色砂質土と黒灰色砂質土の混合土層
第 74 層 34 層と比べ、黒灰色砂質土と白色粗砂が目立つ
第 75 層 灰褐色砂層（木炭片含む）
第 76 層 黄褐～明褐色砂と暗灰色粘質土の混合土層 37 ～ 39 層は同一層群
第 77 層 37 層と比べ黒灰色粘質土が目立つ
第 78 層 黒灰～暗灰褐色砂層が主たる混合土層
第 79 層 暗褐～灰褐色砂質土の混合土層 40 ～ 46 層は整地層中のブロックの可能性がある
第 80 層 暗褐～黒灰褐色砂質土の混合土層
第 81 層 暗褐～褐色砂質土をベースとして黄灰色粘質土が混入する
第 82 層 暗褐～黒灰色混砂粘質土（部分的に砂が多い）
第 83 層 暗灰褐～黒褐色砂質土層
第 84 層 黒褐色混砂粘質土と暗灰褐色粘質土との混合土層
第 85 層 褐～暗褐色砂質土層
第 86 層 暗褐色混砂粘質土層（黒灰色砂質土と黄灰色粘質土を含む）
第 87 層 黒灰～暗灰色粘質土と黄灰～灰色砂の混合土層
第 88 層 暗灰褐～灰褐色砂質土の混合層（下部には黒褐色粘質土のブロックがある
第 89 層 暗茨～暗茶灰色砂質土をベースとして木炭片・灰・赤橙色～黄橙色の焼土・小礫を多く含む．50 ～ 52 層は井戸掘方内の埋土である水平に堆積する
第 90①層 木炭層
第 90②層 暗黄褐色砂質土（北側は木炭が主となる）
第 90③層 黒灰色粘質土（木炭片を多く含む）
第 90④層 木炭片と黄褐～黄橙色焼土の混合土層
第 90⑤層 暗灰色混砂粘質土（木炭片を多く含む）
第 90⑥層 木炭層（下部には黄白色粘土層）
第 90⑦層 木炭層（暗灰色粘質土が混在）
第 90⑧層 木炭層
第 90⑨層 暗灰褐色砂質土（木炭を多く含む）
第 90⑩層 黒灰色砂質土と暗褐色混砂粘質土の混合層
第 90⑪層 黒灰色砂質土と暗褐色混砂粘質土の混合層（51⑩より明るい）
第 90⑫層 暗褐色砂と黒灰色砂質土の混合層
第 90⑬層 褐色砂（暗褐色粘質土混入）
第 91 層 暗褐色砂と黒灰色砂質土の混土層（縞状に堆積）
第 92 層 暗灰褐色砂質土と褐色砂質土の混土層
第 93 層 暗褐色砂質土、褐色砂層、暗灰褐色砂質土の混合（木片含む）
第 94 層 柱穴又は土壙掘方、上層は黒灰褐色～黒褐色、下層に行くにつれ暗褐色、混砂粘質土、（小礫・近世瓦片含む）
第 95 層 暗褐色～黒褐色砂質土混合土、土師器小片含む
第 96 層 黒色土と黒褐色砂の混合土
第 97 層 黒褐色土と暗褐色土との混合土層
第 98 層 暗灰色砂質土と暗褐色砂の混合土層
第 99 層（59 層・群と考えてよい）暗褐色砂と褐色砂の混合層
第 100 層 暗褐色砂質土をベースとして黒褐色砂質土が混入する
第 101 層 暗灰褐色砂質土（木炭含む）
第 102 層 暗褐色砂層（わずかに粘質あり）
第 103 層 黒灰色砂混砂粘質土、黄灰色含む
第 104 層 暗褐色～褐色砂質土
第 105 層 暗灰褐色～暗褐色砂質土（木炭・土師片含む）
第 106 層 暗褐色砂と黄褐色砂の混合土
第 107 層 暗灰褐色～黒灰褐色砂質土
第 108①層 黒褐色混砂粘質土 自然堆積に近い均質の土質
第 108②層 暗褐色混砂粘質土 自然堆積に近い均質の土質
第 108③層 黒褐色混砂粘質土 自然堆積に近い均質の土質
第 109 層 黒灰褐色～黒褐色混砂粘質土
第 110 層 明確に区分できないが暗灰褐色混砂粘質土
第 111 層 暗褐色砂をベースにして木炭・褐色砂が混合
第 112①層 黒褐色混砂粘質土をベースとして黒色土が混入
第 112②層 褐色砂質土ブロック
第 113 層 黒褐色混砂粘質土
第 114 層 黒褐色砂質土と暗褐色砂質土との混合土（木炭含む）
第 115 層 暗褐色混砂粘質土と黒褐色土との混合土層
第 116 層 暗褐色砂質土と暗灰褐色砂質土との混合層
第 117 層 暗褐色砂層
第 118 層 黒灰褐色～黒褐色砂質土（上層が褐色味強い）
第 119 層 暗褐色砂層（木炭片含む）
第 120 層 暗褐色～褐色砂層
第 121 層 褐色砂層をベースとして黒灰色粘質土が混入
第 122 層 褐色砂層
第 123 層 明褐色混砂粘質土
第 124 層 褐色砂層をベースとして木炭が混入黒褐色土含む
第 125 層 褐色砂層
第 126 層 褐色～明褐色砂層
第 127 層 褐色砂と黒褐色砂質土との混合土（柱穴か）
第 128 層 暗褐色～黒褐色粘質土の混合土（柱穴）
第 129 層 褐色砂層をベースに暗褐色～黒褐色砂混入 縞状に堆積
第 130 層 褐色砂層をベースに暗灰色砂質土が混入
第 130①層 90 層と同様縞状にみえる
第 130②層 91－1 と同質であるが、縞状堆積はみられない
第 131 層 暗褐色土と黒灰褐色砂質土との混合土（よくしまっている）
第 132 層 暗褐色砂質土と黒灰褐色砂質土との混合土
第 133①層 黒灰褐色をベースとして暗褐色土が混入
第 133②層 暗褐色土のブロック
第 134 層 暗褐色砂質土（よくしまっている）
第 135①層 暗褐色粘質土（黒褐色砂を微く含む）
第 135②層 暗褐色粘質土（黒褐色ブロック含む）
第 135③層 暗褐色粘質土（黒灰褐色～黒褐色土を含む）
第 136 層 黒灰褐色～暗灰褐色砂質土
第 137 層 暗褐色～暗灰褐色砂質土（柱穴か？）
第 138 層 暗褐色砂をベースに黒褐色～黒色土が混入
第 139 層 暗褐色～黒褐色砂質土（下層は砂が多い）木炭多く含む
第 140 層 暗褐色砂質土をベースに褐色砂、黒褐色砂混入
第 141 層 140 層と同じ土色・土質であるがやや明るい
第 142 層 暗褐色砂質土（自然堆積か土質は均質）
第 143 層 褐色～暗褐色砂質土（やや粘性有り 住居跡埋土）
第 143 層 黄褐色～褐色砂層（ややきめ粗い）
第 144 層 暗褐色砂
第 145 層 褐色砂層
第 146 層 明黄褐色砂層
第 147 層 明黄褐色
第 148 層 灰白～わずかに黄褐色がかった灰白色粗砂層

（西壁土層断面図　1/100）



（東壁北側部分土層断面図　1/100）

第 1 層 黒褐色混砂粘質土
第 2 層 黒褐色砂質土（小石・炭含む）
第 3 層 黒褐色～暗オリーブ褐色砂質土（炭・遺物・礫含む）
第 3 層 黒褐色砂質土（炭・小石含む）
第 4 層 黒褐色砂質土（炭・小石含む。黄褐色土ブロック含む）
第 5 層 暗オリーブ褐色と黒褐色砂質土の混合（炭・土器・小石含む）
第 6 層 黒褐色混砂粘質土
第 7 層 暗オリーブ褐色砂質土（オリーブ褐色土・土器・小石・礫含む）
第 8 層 黒褐色砂質土（炭・礫・オリーブ褐色土含む）
第 9 層 黒褐色砂質土（炭・黒褐色砂質土含む）
第 10 層 黒褐色砂質土（炭含む）
第 11 層 黒褐色砂質土（暗黄褐色土ブロック・炭・土器含む）
第 12 層 黒褐色～暗オリーブ褐色砂質土（磁器、炭含む）
第 13 層 黒褐色砂質土とにぶい黄褐色砂質土の混合（炭含む）
第 14 層 暗オリーブ褐色砂質土（炭含む）
第 15 層 黒褐色混砂粘質土
第 16 層 暗褐色～黒褐色粘質土
第 17 層 黒褐色砂質土（炭・小石・磁器等・にぶい黄褐色土含む）
第 18 層 黒褐色砂質土（褐色粘質土小塊、炭、礫、遺物含む）
第 19 層 暗褐色～黒褐色砂質土～砂（にぶい黄褐色砂含む）
第 20 層 黒色～黒褐色混砂粘質土
第 21 層 黒褐色砂質土～砂（暗褐色砂含む）
第 22 層 黄褐色細砂層
第 23 層 褐色砂層（黒褐色砂質土　下層は黒色粘質土となる）
第 24 層 黒褐色砂質土
第 25 層 明暗褐色砂と黒褐色砂の混合土
第 26 層 灰黄褐色～黒褐色砂
第 27 層 黄褐色細砂層（黒褐色砂質土含む）
第 28 層 にぶい黄褐色砂層
第 29 層 黒褐色砂質土～砂（明褐色砂を含む）
第 30 層 黒褐色砂と褐色砂の混合
第 31 層 黒褐色砂層（褐色砂を含む）
第 32 層 黒褐色砂～砂質土（褐色砂　黒褐色砂含む）
第 33 層 やや黒い暗褐色砂～砂質土（磁器・褐色砂含む）
第 34 層 黒褐色砂質土（下層に褐色砂を含）
第 35 層 暗褐色～黒褐色砂～砂質土（褐色砂を含む）
第 36 層 黒褐色砂～砂質土（暗褐色砂を含む）

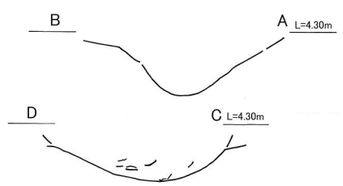


（東壁中央部分土層断面図　1/100）

第 1 層 暗褐色砂質土（黒褐色粘質土ブロック・淡黄色砂を多くを含む）
第 2 層 黒褐色砂質土と黒褐色砂質土の混合土（小礫・小石・炭含む）
第 3 層 黒褐色～黒色砂質土（炭多くを含む。焼土小塊含む）
第 4 層 黒褐色砂質土（炭ブロック・礫含む）
第 5 層 黒褐色砂質土（小石・土器含む）
第 6 層 黒褐色～暗オリーブ褐色砂質土（暗灰黄褐色粘質土ブロック・磁器・礫を含む）
第 7 層 黒褐色砂質土（炭・土器・礫・暗灰黄褐色砂質土ブロック黒褐色砂含む）
第 8 層 黒～黒褐色混砂粘質土（炭層・磁器・黄褐色粘質土含む）
第 9 層 黒褐色砂質土（小石礫炭含む）
第 10 層 黒褐色砂質土
第 11 層 黒褐色砂質土（11 層と比べやや明るい）
第 12 層 黒褐色砂～砂質土（黒褐色砂＋黄褐色砂・炭含む）
第 13 層 黒褐色砂質土（黄褐色砂含む）
第 14 層 黒～黒褐色砂質土（褐色砂・炭ブロックあり）
第 15 層 黒褐色砂質土（にぶい黄橙砂含む）
第 16 層 黒褐色砂質土（淡黄褐色粘質土含む）
第 17 層 暗褐色～黒褐色砂質土
第 18 層 黒褐色砂質土
第 19 層 黒褐色砂～砂質土
第 20 層 黒褐色砂質土（黒褐色砂・土器含む）
第 21 層 黒褐色～やや暗い褐色砂質土
第 22 層 黒褐色砂～砂質土
第 23 層 黒褐色砂質土
第 24 層 黒褐色～黒灰褐色砂～砂質土
第 25 層 黒褐色砂～砂質土（下層に黄褐色砂を含む）
第 26 層 黒褐色砂～砂質土（下層に黄褐色砂含む）
第 27 層 黒灰～黒褐色砂質土（炭を含む）
第 28 層 黒褐色～暗褐色砂質土（下層ほど暗褐色化。土器・木炭含む）
第 29 層 暗褐色砂層（黒褐色砂含む）
第 30 層 黒褐色砂質土（暗オリーブ褐色砂質土小ブロック・礫・木炭含む）
第 31 層 灰褐色～黒褐色砂～砂質土（礫含む）
第 32 層 黒褐色砂～砂質土　遺物がかなり集中。
第 33 層 黄褐色砂を含む黒褐色砂質土
第 34 層 黄褐色混粗砂土
第 35 層 黒褐色砂質土と含む明黄褐色砂～砂質土
第 36 層 黄褐色砂層
第 37 層 暗褐色砂質土
第 38 層 暗褐色砂質土
第 39 層 黒褐色砂質土
第 40 層 黒褐色砂質土（炭含む）

0　5m

図268 東・西壁土層断面図(1/100)



0 2m

(1/50)

図269 SD1462平面及び断面図(1/50)、SD0037推定平面図(1/100)

報告書抄録

ふりがな	はかた 134
書名	博　多 134
副書名	博多遺跡群第 175 次調査の報告
巻次	—
シリーズ名	福岡市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第 1065 集
編著者名	田中壽夫
編集機関	福岡市教育委員会文化財部埋蔵文化財第2課
所在地	〒810-8621　福岡県福岡市中央区天神一丁目8番1号
発行年月日	西暦 2009 年8月 31 日 (平成 21 年8月 31 日)

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
博多遺跡群	福岡市 博多区祇園 76-4	40130	0121	33° 35′ 36″	130° 24′ 50″	20070601 ～ 20080418	941㎡	ホテル建設

遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
博多遺跡群 第 175 次調査	集落跡	古墳時代前期 奈良時代 平安時代 鎌倉時代 戦国～江戸時代	竪穴住居跡 井戸 (桶組・瓦組) 建物地業跡 柱穴 溝 廃棄用土壙 排水用枡・便槽	古式土師器 (畿内系・東海系・山陰系・吉備系など) 須恵器 中国製陶磁器 (緑釉・白磁・青磁・陶器) 高麗期陶磁器 李朝期陶磁器 国産陶磁器	博多遺跡群南東部における集落構成、特に中世から江戸期に至るマチ割りの推移を知る手がかりを得られた。

博多 134

—博多遺跡群第 175 次調査の報告—

福岡市埋蔵文化財調査報告書第 1065 集

平成 21 (2009) 年 8 月 31 日

発行者　福岡市教育委員会

福岡市中央区天神一丁目 8 番 1 号

印　刷　福岡印刷株式会社

福岡市博多区東那珂一丁目 10 番 5 号

HAKATA 134

—Results of the 175th excavation of Hakata site—

Report of archaeological investigations of Fukuoka city, VOL.1065

2009

The Board of Education of Fukuoka City